

科目名	Intensive English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	<全クラス共通> ①Everyday English Grammar<Fourth Edition>、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）
参考書	なし	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	60
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2回） ②TOEIC：20％（共通目標達成で10％、発展目標達成で10％）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSL に基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC 演習（3）：U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第10回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第11回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2 時間
第12回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	
第13回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習（6）：U.13 名詞・冠詞、U.14 代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習（6）：U. R-3 動詞の形 2（時制・その他）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	英文法演習（7）：U.15 前置詞、U.20 接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC 演習（7）：U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	英文法演習（8）：U.11・12 助動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC 演習（8）：U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	英文法演習（9）：U.21 受け身（受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC 演習（9）：U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	英文法演習（10）：U.25 現在完了	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第24回	対面	TOEIC 演習（10）：U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	国兼 慶	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	<全クラス共通> ①Everyday English Grammar<Fourth Edition>、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	60
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②TOEIC：20%（共通目標達成で10%、発展目標達成で10%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSLに基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC 演習（3）：U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第10回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第11回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2時間
第12回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（T	2時間

			0EIC) の準備	
第13回	対面	中間レビュークイズ (英文法)	事前学修: 中間レビュークイズ (英文法) に向けた復習 事後学修: 小テストの準備	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC)	事前学修: 中間レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習 事後学修: 小テストの準備	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ (英文法) 見直し 英文法演習 (6): U. 13 名詞・冠詞、U. 14 代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (英文法) の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC) 見直し TOEIC 演習 (6): U. R-3 動詞の形 2 (時制・その他)	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (TOEIC) の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	英文法演習 (7): U. 15 前置詞、U. 20 接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC 演習 (7): U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	英文法演習 (8): U. 11・12 助動詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC 演習 (8): U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	英文法演習 (9): U. 21 受け身 (受動態)	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC 演習 (9): U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	英文法演習 (10): U. 25 現在完了	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第24回	対面	TOEIC 演習 (10): U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ (英文法)	事前学修: 期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC)	事前学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ (英文法) の見直し	事後学修: 期末レビュークイズ (英文法) の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容 (英文法) の総復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC) の見直し	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容 (TOEIC) の総復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ (英文法) に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ (TOEIC) に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中西 亮太	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	<全クラス共通> ①Everyday English Grammar<Fourth Edition>、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	60
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②TOEIC：20%（共通目標達成で10%、発展目標達成で10%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSLに基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC 演習（3）：U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第10回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第11回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2時間
第12回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（T	2時間

			0EIC) の準備	
第13回	対面	中間レビュークイズ (英文法)	事前学修: 中間レビュークイズ (英文法) に向けた復習 事後学修: 小テストの準備	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC)	事前学修: 中間レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習 事後学修: 小テストの準備	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ (英文法) 見直し 英文法演習 (6): U. 13 名詞・冠詞、U. 14 代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (英文法) の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC) 見直し TOEIC 演習 (6): U. R-3 動詞の形 2 (時制・その他)	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (TOEIC) の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	英文法演習 (7): U. 15 前置詞、U. 20 接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC 演習 (7): U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	英文法演習 (8): U. 11・12 助動詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC 演習 (8): U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	英文法演習 (9): U. 21 受け身 (受動態)	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC 演習 (9): U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	英文法演習 (10): U. 25 現在完了	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第24回	対面	TOEIC 演習 (10): U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ (英文法)	事前学修: 期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC)	事前学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ (英文法) の見直し	事後学修: 期末レビュークイズ (英文法) の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容 (英文法) の総復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC) の見直し	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容 (TOEIC) の総復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ (英文法) に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ (TOEIC) に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	<全クラス共通> ①Everyday English Grammar<Fourth Edition>、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	60
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②TOEIC：20%（共通目標達成で10%、発展目標達成で10%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSLに基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC 演習（3）：U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第10回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第11回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2時間
第12回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（T	2時間

			0EIC) の準備	
第13回	対面	中間レビュークイズ (英文法)	事前学修: 中間レビュークイズ (英文法) に向けた復習 事後学修: 小テストの準備	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC)	事前学修: 中間レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習 事後学修: 小テストの準備	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ (英文法) 見直し 英文法演習 (6): U. 13 名詞・冠詞、U. 14 代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (英文法) の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC) 見直し TOEIC 演習 (6): U. R-3 動詞の形 2 (時制・その他)	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (TOEIC) の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	英文法演習 (7): U. 15 前置詞、U. 20 接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC 演習 (7): U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	英文法演習 (8): U. 11・12 助動詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC 演習 (8): U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	英文法演習 (9): U. 21 受け身 (受動態)	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC 演習 (9): U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	英文法演習 (10): U. 25 現在完了	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第24回	対面	TOEIC 演習 (10): U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ (英文法)	事前学修: 期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC)	事前学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ (英文法) の見直し	事後学修: 期末レビュークイズ (英文法) の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容 (英文法) の総復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC) の見直し	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容 (TOEIC) の総復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ (英文法) に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ (TOEIC) に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伊藤 美幸	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	<全クラス共通> ①Everyday English Grammar<Fourth Edition>、水島孝司、南雲堂、2024 年 ②[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）	ISBN	①9784523179597 ②9784255157320（通年）
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	60
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2回） ②TOEIC：20%（共通目標達成で10%、発展目標達成で10%）
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSLに基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	英文法演習（1）：U.1 be 動詞、U.3 be 動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	英文法演習（2）：U.2 一般動詞、U.5 一般動詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-1 品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	英文法演習（3）：U.16 形容詞、U.17 副詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC 演習（3）：U. L-2 人が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	英文法演習（4）：U.22 不定詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第10回	対面	TOEIC 演習（4）：U. R-2 動詞の形1（能動態・受動態）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第11回	対面	英文法演習（5）：U.23 動名詞、U.24 分詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2時間
第12回	対面	TOEIC 演習（5）：U. L-3 疑問詞疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（T	2時間

			0EIC) の準備	
第13回	対面	中間レビュークイズ (英文法)	事前学修: 中間レビュークイズ (英文法) に向けた復習 事後学修: 小テストの準備	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC)	事前学修: 中間レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習 事後学修: 小テストの準備	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ (英文法) 見直し 英文法演習 (6): U. 13 名詞・冠詞、U. 14 代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (英文法) の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC) 見直し TOEIC 演習 (6): U. R-3 動詞の形 2 (時制・その他)	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (TOEIC) の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	英文法演習 (7): U. 15 前置詞、U. 20 接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC 演習 (7): U. L-4 Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	英文法演習 (8): U. 11・12 助動詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC 演習 (8): U. R-4 前置詞・接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	英文法演習 (9): U. 21 受け身 (受動態)	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC 演習 (9): U. L-5 平叙文・意外な応答	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	英文法演習 (10): U. 25 現在完了	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第24回	対面	TOEIC 演習 (10): U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ (英文法)	事前学修: 期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC)	事前学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ (英文法) の見直し	事後学修: 期末レビュークイズ (英文法) の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容 (英文法) の総復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC) の見直し	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容 (TOEIC) の総復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ (英文法) に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ (英文法) に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ (TOEIC) に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC) に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R I		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 真		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化			
授業の目的及び概要	この授業は、語彙、文法、およびリーディング力を向上させることによって TOEIC スコアアップを目指します。具体的には、授業ではまず語彙の強化と文法に関する正しい知識の修得を図り、現代社会の多様なテーマについて書かれた英語記事のリーディングを通して英文を読むことに慣れ、キーワードやキープフレーズを見つけ出したり、文法知識の定着とアウトプットの繰り返しによってより正確に読解できるようになることを目的とします。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	語彙の強化や文法を正しく理解することで、様々な分野の英文を読む能力を養成します。また基礎的な英文構造についての理解に基づいて問題演習を繰り返し、修得した語彙や文法知識を使い英文を読み解く力を養います。授業を通して、① 英語の基礎的レベルを徹底的に理解し、それらの知識（文法／語彙）を用いて基本的な英文を書けるようになる、② 多様な英文を読み、語彙の拡張と英文の構造・内容を理解できる、③TOEIC スコアを向上させる、ことを目標とします。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Good Grammar, Better Communication、Joan McConnell・山内圭、成美堂、2022 年		ISBN	9784791972494
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		60	
	その他の内容		①中間レビュークイズ：30％ ②期末レビュークイズ：30％	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修: テキスト「英文法の基礎知識」熟読	2 時間
第2回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修: テキスト「本書の使い方」熟読	2 時間
第3回	オンデマンド	英文法演習 (1)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第4回	オンデマンド	リーディング演習 (1)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第5回	オンデマンド	英文法演習 (2)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第6回	オンデマンド	リーディング演習 (2)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第7回	オンデマンド	英文法演習 (3)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第8回	オンデマンド	リーディング演習 (3)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第9回	オンデマンド	英文法演習 (4)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第10回	オンデマンド	リーディング演習 (4)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第11回	オンデマンド	英文法演習 (5)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第12回	オンデマンド	リーディング演習 (5)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第13回	オンデマンド	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修: 中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第14回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）	事前学修: 中間レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第15回	オンデマンド	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習 (6)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 中間レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習、授業内容の復習	2 時間
第16回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リーディング）見直し リーディング演習 (6)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 中間レビュークイズ（リーディング）の見直しと結果に応じた復習、授業内容の復習	2 時間
第17回	オンデマンド	英文法演習 (7)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第18回	オンデマンド	リーディング演習 (7)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習: 授業内容の復習	2 時間
第19回	オンデマンド	英文法演習 (8)	事前学修: 指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後演習：授業内容の復習	
第20回	オンデマンド	リーディング演習 (8)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第21回	オンデマンド	英文法演習 (9)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第22回	オンデマンド	リーディング演習 (9)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第23回	オンデマンド	英文法演習 (10)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第24回	オンデマンド	リーディング演習 (10)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後演習：授業内容の復習	2 時間
第25回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第26回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）	事前学修：期末レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第27回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習	2 時間
第28回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（リーディング）の見直しと結果に応じた復習	2 時間
第29回	オンデマンド	学修内容（英文法）の総復習	事後学修：学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第30回	オンデマンド	学修内容（リーディング）の総復習	事後学修：学修内容（リーディング）の総復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中西 亮太	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストがことなるため注意してください。 <クラスによって異なる> ①Let's Output in Basic English、佐藤臨太郎、金星堂、2020 年 ②English Switch、Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2016 年 <全クラス共通>	ISBN	①9784764741089 ②9784764740129 ③9784255157320

	③[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）			
参考書	なし		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2 回） ②10 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％） ③1 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％）		
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSL に基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（英文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第 1 回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第 2 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第 3 回	対面	英文法演習（1）：U. 2 [現在形・現在進行形/過去形・過去進行形]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第 4 回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-6 機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第 5 回	対面	英文法演習（2）：U. 4&5 [現在（過去）完了形・現在完了進行形]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第 6 回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-6 長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第 7 回	対面	英文法演習（3）：U. 7 [受動態]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第 8 回	対面	TOEIC 演習（3）：U. L-7 「依頼・要求」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第 9 回	対面	英文法演習（4）：U. 6 [助動詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

			事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第10回	対面	TOEIC 演習 (4) : U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第11回	対面	英文法演習 (5) : U.8 [不定詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2 時間
第12回	対面	TOEIC 演習 (5) : U. L-8 「問題点」・「提案・助言」・「申し出」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習 (6) : U.9 [動名詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習 (6) : U. R-8 E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	英文法演習 (7) : U.14&15 [関係代名詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC 演習 (7) : U. L-9 「目的」・「次の行動」・「意図」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	英文法演習 (8) : U.11 [接続詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC 演習 (8) : U. R-9 告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	英文法演習 (9) : U.10 [現在・過去分詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC 演習 (9) : U. L-10 録音メッセージ・アナウンス	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	英文法演習 (10) : U.12&13 [比較表現]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第24回	対面	TOEIC 演習 (10) : U. R-11 ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと	2 時間

2026/05/01

			結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	
第28回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伊藤 美幸	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストがことなるため注意してください。 <クラスによって異なる> ①Let's Output in Basic English、佐藤臨太郎、金星堂、2020 年 ②English Switch、Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2016 年 <全クラス共通>	ISBN	①9784764741089 ②9784764740129 ③9784255157320

	③[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）			
参考書	なし		ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2 回） ②10 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％） ③1 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％）		
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSL に基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（英文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	英文法演習（1）：U.2 [現在形・現在進行形/過去形・過去進行形]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-6 機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	英文法演習（2）：U.4&5 [現在（過去）完了形・現在完了進行形]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-6 長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	英文法演習（3）：U.7 [受動態]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC 演習（3）：U. L-7 「依頼・要求」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	英文法演習（4）：U.6 [助動詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

			事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第10回	対面	TOEIC 演習 (4) : U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第11回	対面	英文法演習 (5) : U.8 [不定詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2 時間
第12回	対面	TOEIC 演習 (5) : U. L-8 「問題点」・「提案・助言」・「申し出」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習 (6) : U.9 [動名詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習 (6) : U. R-8 E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	英文法演習 (7) : U.14&15 [関係代名詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC 演習 (7) : U. L-9 「目的」・「次の行動」・「意図」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	英文法演習 (8) : U.11 [接続詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC 演習 (8) : U. R-9 告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	英文法演習 (9) : U.10 [現在・過去分詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC 演習 (9) : U. L-10 録音メッセージ・アナウンス	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	英文法演習 (10) : U.12&13 [比較表現]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第24回	対面	TOEIC 演習 (10) : U. R-11 ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと	2 時間

2026/05/01

			結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	
第28回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 1,500 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力 育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストがことなるため注意してください。 <クラスによって異なる> ①Let's Output in Basic English、佐藤臨太郎、金星堂、2020 年 ②English Switch、Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2016 年 <全クラス共通>	ISBN	①9784764741089 ②9784764740129 ③9784255157320

	③[改訂版] TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 500、西谷敦子ほか、朝日出版社、2025 年（通年）		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2 回） ②10 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％） ③1 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSL に基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認や TOEIC 問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修の成果を測るため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（英文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	英文法演習（1）：U.2 [現在形・現在進行形/過去形・過去進行形]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC 演習（1）：U. L-6 機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	英文法演習（2）：U.4&5 [現在（過去）完了形・現在完了進行形]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC 演習（2）：U. R-6 長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	英文法演習（3）：U.7 [受動態]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC 演習（3）：U. L-7 「依頼・要求」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	英文法演習（4）：U.6 [助動詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	
第10回	対面	TOEIC 演習 (4) : U. R-5 代名詞・関係代名詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第11回	対面	英文法演習 (5) : U.8 [不定詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（英文法）の準備	2 時間
第12回	対面	TOEIC 演習 (5) : U. L-8 「問題点」・「提案・助言」・「申し出」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、中間レビュークイズ（TOEIC）の準備	2 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ（英文法）	事前学修：中間レビュークイズ（英文法）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：中間レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習 事後学修：小テストの準備	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ（英文法）見直し 英文法演習 (6) : U.9 [動名詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（英文法）の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ（TOEIC）見直し TOEIC 演習 (6) : U. R-8 E メール・手紙	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（TOEIC）の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	英文法演習 (7) : U.14&15 [関係代名詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC 演習 (7) : U. L-9 「目的」・「次の行動」・「意図」	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	英文法演習 (8) : U.11 [接続詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC 演習 (8) : U. R-9 告知・社内回覧	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	英文法演習 (9) : U.10 [現在・過去分詞]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC 演習 (9) : U. L-10 録音メッセージ・アナウンス	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	英文法演習 (10) : U.12&13 [比較表現]	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第24回	対面	TOEIC 演習 (10) : U. R-11 ダブルパッセージ	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）	事前学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと	2 時間

2026/05/01

			結果に応じた復習、春学期学修内容（英文法）の総復習	
第28回	対面	期末レビュークイズ（TOEIC）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）の見直しと結果に応じた復習、春学期学修内容（TOEIC）の総復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（TOEIC）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（TOEIC）に向けた復習	2 時間

科目名	Intensive English W/R II		開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 真		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解の基本的スキルの強化			
授業の目的及び概要	この授業は、語彙、文法、およびリーディング力を向上させることによって TOEIC スコアアップを目指します。具体的には、授業ではまず語彙の強化と文法に関する正しい知識の修得を図り、現代社会の多様なテーマについて書かれた英語記事のリーディングを通して英文を読むことに慣れ、キーワードやキープフレーズを見つけ出したり、文法知識の定着とアウトプットの繰り返しによってより正確に読解できるようになることを目的とします。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC 位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	語彙の強化や文法を正しく理解することで、様々な分野の英文を読む能力を養成します。また基礎的な英文構造についての理解に基づいて問題演習を繰り返し、修得した語彙や文法知識を使い英文を読み解く力を養います。授業を通して、①英語の基礎的レベルを徹底的に理解するだけではなく、それらの知識（文法／語彙）を用いて複雑な英文が書けるようになる、②多様な英文を読み、語彙の拡張と英文の構造・内容を理解できる、③TOEIC スコアを向上させる、ことを目標とします。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	NEW GATEWAY TO THE TOEIC® L&R TEST 新 イラスト・図解で学ぶ TOEIC® L&R テスト はじめの一步, 仲川 浩世他, 金星堂, 2021 年		ISBN	9784764741263
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		60	
	その他の内容		①中間レビュークイズ 30% ②期末レビュークイズ 30%	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修:テキスト「本書の構成・TOEIC L&R Test について」熟読	2 時間
第2回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修:テキスト「本書の構成・TOEIC L&R Test について」熟読	2 時間
第3回	オンデマンド	英文法演習 (1)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第4回	オンデマンド	リーディング演習 (1)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第5回	オンデマンド	英文法演習 (2)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第6回	オンデマンド	リーディング演習 (2)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第7回	オンデマンド	英文法演習 (3)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第8回	オンデマンド	リーディング演習 (3)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第9回	オンデマンド	英文法演習 (4)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第10回	オンデマンド	リーディング演習 (4)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第11回	オンデマンド	英文法演習 (5)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第12回	オンデマンド	リーディング演習 (5)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第13回	オンデマンド	中間レビュークイズ(英文法)	事前学修:中間レビュークイズ(英文法)に向けた復習	2 時間
第14回	オンデマンド	中間レビュークイズ(リーディング)	事前学修:中間レビュークイズ(リーディング)に向けた復習	2 時間
第15回	オンデマンド	中間レビュークイズ(英文法)見直し 英文法演習 (6)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:中間レビュークイズ(英文法)の見直しと結果に応じた復習、授業内容の復習	2 時間
第16回	オンデマンド	中間レビュークイズ(リーディング)見直し リーディング演習 (6)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:中間レビュークイズ(リーディング)の見直しと結果に応じた復習、授業内容の復習	2 時間
第17回	オンデマンド	英文法演習 (7)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第18回	オンデマンド	リーディング演習 (7)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修:授業内容の復習	2 時間
第19回	オンデ	英文法演習 (8)	事前学修:指定された範囲の予習(語彙・文法を確認	2 時間

	マンド		し、演習問題に取り組む) 事後学修：授業内容の復習	
第20回	オンデマンド	リーディング演習 (8)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第21回	オンデマンド	英文法演習 (9)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第22回	オンデマンド	リーディング演習 (9)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第23回	オンデマンド	英文法演習 (10)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第24回	オンデマンド	リーディング演習 (10)	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習	2 時間
第25回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）	事前学修：期末レビュークイズ（英文法）に向けた復習	2 時間
第26回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）	事前学修：期末レビュークイズ（リーディング）に向けた復習	2 時間
第27回	オンデマンド	期末レビュークイズ（英文法）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（英文法）の見直しと結果に応じた復習	2 時間
第28回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リーディング）の見直し	事後学修：期末レビュークイズ（リーディング）の見直しと結果に応じた復習	2 時間
第29回	オンデマンド	学修内容（英文法）の総復習	事後学修：学修内容（英文法）の総復習	2 時間
第30回	オンデマンド	学修内容（リーディング）の総復習	事後学修：学修内容（リーディング）の総復習	2 時間

科目名	Intensive English L/S I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。授業内のスピーキング活動を通じて、基本的な英語で自分の考えや情報を伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, Alastair Graham-Marr, ABAX, 2019.	ISBN	978-1-78547-078-3
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation - Introduction to the course	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	2 時間

		授業の目的、進め方、評価方法を説明し、簡単な英語活動を行う。	た、課題（通例2時間程度）を完成させること。	
第2回	対面	Unit 0: What's your major? - Looking over the course 基本的な自己紹介および専攻について英語で話す。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第3回	対面	Unit 1: I like action movies (1) - Talking about likes and dislikes 好みについて英語で表現する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第4回	対面	Unit 1: I like action movies (2) - Sentence stress 文の強弱を意識した発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第5回	対面	Unit 1: I like action movies (3) - Asking for repetition 聞き返し表現を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第6回	対面	Unit 2: How much is that? (1) - Fluency with money and prices 金額や価格を用いた基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第7回	対面	Unit 2: How much is that? (2) - Weak vowels 弱形母音を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第8回	対面	Unit 2: How much is that? (3) - Asking questions 価格や数量について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第9回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1) - Describing your family 家族について説明する基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第10回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) - Sentence stress 重要な情報を強調する話し方を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第11回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) - Repeating key information 家族についての情報を繰り返して伝える練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第12回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1) - Talking about things you did 過去の出来事を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Speaking / Listening 前半内容の定着度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 4 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第15回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) - Disappearing sounds 音の脱落を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第16回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) - Asking questions 過去の出来事について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第17回	対面	Unit 5: What do you do? (1) - Describing occupations 職業について説明する表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第18回	対面	Unit 5: What do you do? (2) - Sentence stress 仕事に関する表現で文の強弱を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

第19回	対面	Unit 5: What do you do? (3) - Using examples 例を用いて説明を補足する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of previous material 動画教材を用いて既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第21回	対面	Unit 6: I get to work at eight (1) - Describing your daily routines 日常の行動を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第22回	対面	Unit 6: I get to work at eight (2) - Weak vowels 日常表現における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第23回	対面	Unit 6: I get to work at eight (3) - Repeating key information 日常行動について重要な情報を繰り返す練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第24回	対面	Unit 7: It's in front of the lamp (1) - Describing location, objects in a room 位置関係や物の配置を説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で総復習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第26回	対面	Review Quiz 2 学期全体の理解度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第28回	対面	Course Review - Summary of key units 重要表現を整理し、理解を定着させる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第29回	対面	Course Review - Speaking practice 既習内容を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking back on the course 授業全体を振り返り、今後の学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

科目名	Intensive English L/S I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	カー・クリス	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。授業内のスピーキング活動を通じて、基本的な英語で自分の考えや情報を伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, Alastair Graham-Marr, ABAX, 2019.	ISBN	978-1-78547-078-3
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation - Introduction to the course	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	2 時間

		授業の目的、進め方、評価方法を説明し、簡単な英語活動を行う。	た、課題（通例2時間程度）を完成させること。	
第2回	対面	Unit 0: What's your major? - Looking over the course 基本的な自己紹介および専攻について英語で話す。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第3回	対面	Unit 1: I like action movies (1) - Talking about likes and dislikes 好みについて英語で表現する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第4回	対面	Unit 1: I like action movies (2) - Sentence stress 文の強弱を意識した発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第5回	対面	Unit 1: I like action movies (3) - Asking for repetition 聞き返し表現を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第6回	対面	Unit 2: How much is that? (1) - Fluency with money and prices 金額や価格を用いた基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第7回	対面	Unit 2: How much is that? (2) - Weak vowels 弱形母音を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第8回	対面	Unit 2: How much is that? (3) - Asking questions 価格や数量について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第9回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1) - Describing your family 家族について説明する基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第10回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) - Sentence stress 重要な情報を強調する話し方を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第11回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) - Repeating key information 家族についての情報を繰り返して伝える練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第12回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1) - Talking about things you did 過去の出来事を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Speaking / Listening 前半内容の定着度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 4 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第15回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) - Disappearing sounds 音の脱落を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第16回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) - Asking questions 過去の出来事について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第17回	対面	Unit 5: What do you do? (1) - Describing occupations 職業について説明する表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第18回	対面	Unit 5: What do you do? (2) - Sentence stress 仕事に関する表現で文の強弱を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

第19回	対面	Unit 5: What do you do? (3) - Using examples 例を用いて説明を補足する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of previous material 動画教材を用いて既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第21回	対面	Unit 6: I get to work at eight (1) - Describing your daily routines 日常の行動を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第22回	対面	Unit 6: I get to work at eight (2) - Weak vowels 日常表現における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第23回	対面	Unit 6: I get to work at eight (3) - Repeating key information 日常行動について重要な情報を繰り返す練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第24回	対面	Unit 7: It's in front of the lamp (1) - Describing location, objects in a room 位置関係や物の配置を説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で総復習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第26回	対面	Review Quiz 2 学期全体の理解度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第28回	対面	Course Review - Summary of key units 重要表現を整理し、理解を定着させる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第29回	対面	Course Review - Speaking practice 既習内容を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking back on the course 授業全体を振り返り、今後の学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

科目名	Intensive English L/S I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	バンティング ジャネット		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成			
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。			
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。授業内のスピーキング活動を通じて、基本的な英語で自分の考えや情報を伝えることができるようになる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, Alastair Graham-Marr, ABAX, 2019.		ISBN	978-1-78547-078-3
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation - Introduction to the course	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	2 時間

		授業の目的、進め方、評価方法を説明し、簡単な英語活動を行う。	た、課題（通例2時間程度）を完成させること。	
第2回	対面	Unit 0: What's your major? - Looking over the course 基本的な自己紹介および専攻について英語で話す。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第3回	対面	Unit 1: I like action movies (1) - Talking about likes and dislikes 好みについて英語で表現する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第4回	対面	Unit 1: I like action movies (2) - Sentence stress 文の強弱を意識した発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第5回	対面	Unit 1: I like action movies (3) - Asking for repetition 聞き返し表現を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第6回	対面	Unit 2: How much is that? (1) - Fluency with money and prices 金額や価格を用いた基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第7回	対面	Unit 2: How much is that? (2) - Weak vowels 弱形母音を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第8回	対面	Unit 2: How much is that? (3) - Asking questions 価格や数量について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第9回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1) - Describing your family 家族について説明する基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第10回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) - Sentence stress 重要な情報を強調する話し方を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第11回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) - Repeating key information 家族についての情報を繰り返して伝える練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第12回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1) - Talking about things you did 過去の出来事を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Speaking / Listening 前半内容の定着度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 4 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第15回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) - Disappearing sounds 音の脱落を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第16回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) - Asking questions 過去の出来事について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第17回	対面	Unit 5: What do you do? (1) - Describing occupations 職業について説明する表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第18回	対面	Unit 5: What do you do? (2) - Sentence stress 仕事に関する表現で文の強弱を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

第19回	対面	Unit 5: What do you do? (3) - Using examples 例を用いて説明を補足する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of previous material 動画教材を用いて既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第21回	対面	Unit 6: I get to work at eight (1) - Describing your daily routines 日常の行動を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第22回	対面	Unit 6: I get to work at eight (2) - Weak vowels 日常表現における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第23回	対面	Unit 6: I get to work at eight (3) - Repeating key information 日常行動について重要な情報を繰り返す練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第24回	対面	Unit 7: It's in front of the lamp (1) - Describing location, objects in a room 位置関係や物の配置を説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で総復習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第26回	対面	Review Quiz 2 学期全体の理解度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第28回	対面	Course Review - Summary of key units 重要表現を整理し、理解を定着させる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第29回	対面	Course Review - Speaking practice 既習内容を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking back on the course 授業全体を振り返り、今後の学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

科目名	Intensive English L/S I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。授業内のスピーキング活動を通じて、基本的な英語で自分の考えや情報を伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, Alastair Graham-Marr, ABAX, 2019.	ISBN	978-1-78547-078-3
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation - Introduction to the course	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	2 時間

		授業の目的、進め方、評価方法を説明し、簡単な英語活動を行う。	た、課題（通例2時間程度）を完成させること。	
第2回	対面	Unit 0: What's your major? - Looking over the course 基本的な自己紹介および専攻について英語で話す。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第3回	対面	Unit 1: I like action movies (1) - Talking about likes and dislikes 好みについて英語で表現する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第4回	対面	Unit 1: I like action movies (2) - Sentence stress 文の強弱を意識した発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第5回	対面	Unit 1: I like action movies (3) - Asking for repetition 聞き返し表現を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第6回	対面	Unit 2: How much is that? (1) - Fluency with money and prices 金額や価格を用いた基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第7回	対面	Unit 2: How much is that? (2) - Weak vowels 弱形母音を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第8回	対面	Unit 2: How much is that? (3) - Asking questions 価格や数量について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第9回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1) - Describing your family 家族について説明する基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第10回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) - Sentence stress 重要な情報を強調する話し方を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第11回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) - Repeating key information 家族についての情報を繰り返して伝える練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第12回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1) - Talking about things you did 過去の出来事を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Speaking / Listening 前半内容の定着度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 4 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第15回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) - Disappearing sounds 音の脱落を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第16回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) - Asking questions 過去の出来事について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第17回	対面	Unit 5: What do you do? (1) - Describing occupations 職業について説明する表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第18回	対面	Unit 5: What do you do? (2) - Sentence stress 仕事に関する表現で文の強弱を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

第19回	対面	Unit 5: What do you do? (3) - Using examples 例を用いて説明を補足する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of previous material 動画教材を用いて既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第21回	対面	Unit 6: I get to work at eight (1) - Describing your daily routines 日常の行動を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第22回	対面	Unit 6: I get to work at eight (2) - Weak vowels 日常表現における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第23回	対面	Unit 6: I get to work at eight (3) - Repeating key information 日常行動について重要な情報を繰り返す練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第24回	対面	Unit 7: It's in front of the lamp (1) - Describing location, objects in a room 位置関係や物の配置を説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で総復習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第26回	対面	Review Quiz 2 学期全体の理解度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第28回	対面	Course Review - Summary of key units 重要表現を整理し、理解を定着させる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第29回	対面	Course Review - Speaking practice 既習内容を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking back on the course 授業全体を振り返り、今後の学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

科目名	Intensive English L/S I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	アンダーソン・テリー	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。授業内のスピーキング活動を通じて、基本的な英語で自分の考えや情報を伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Communication Spotlight 3rd Edition: High Beginner, Alastair Graham-Marr, ABAX, 2019.	ISBN	978-1-78547-078-3
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation - Introduction to the course	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	2 時間

		授業の目的、進め方、評価方法を説明し、簡単な英語活動を行う。	た、課題（通例2時間程度）を完成させること。	
第2回	対面	Unit 0: What's your major? - Looking over the course 基本的な自己紹介および専攻について英語で話す。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第3回	対面	Unit 1: I like action movies (1) - Talking about likes and dislikes 好みについて英語で表現する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第4回	対面	Unit 1: I like action movies (2) - Sentence stress 文の強弱を意識した発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第5回	対面	Unit 1: I like action movies (3) - Asking for repetition 聞き返し表現を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第6回	対面	Unit 2: How much is that? (1) - Fluency with money and prices 金額や価格を用いた基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第7回	対面	Unit 2: How much is that? (2) - Weak vowels 弱形母音を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第8回	対面	Unit 2: How much is that? (3) - Asking questions 価格や数量について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第9回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (1) - Describing your family 家族について説明する基本表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第10回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (2) - Sentence stress 重要な情報を強調する話し方を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第11回	対面	Unit 3: Is that your cousin? (3) - Repeating key information 家族についての情報を繰り返して伝える練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第12回	対面	Unit 4: How was your weekend? (1) - Talking about things you did 過去の出来事を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Speaking / Listening 前半内容の定着度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 4 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第15回	対面	Unit 4: How was your weekend? (2) - Disappearing sounds 音の脱落を意識した聞き取り練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第16回	対面	Unit 4: How was your weekend? (3) - Asking questions 過去の出来事について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第17回	対面	Unit 5: What do you do? (1) - Describing occupations 職業について説明する表現を学ぶ。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第18回	対面	Unit 5: What do you do? (2) - Sentence stress 仕事に関する表現で文の強弱を練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

第19回	対面	Unit 5: What do you do? (3) - Using examples 例を用いて説明を補足する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of previous material 動画教材を用いて既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第21回	対面	Unit 6: I get to work at eight (1) - Describing your daily routines 日常の行動を英語で説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第22回	対面	Unit 6: I get to work at eight (2) - Weak vowels 日常表現における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第23回	対面	Unit 6: I get to work at eight (3) - Repeating key information 日常行動について重要な情報を繰り返す練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第24回	対面	Unit 7: It's in front of the lamp (1) - Describing location, objects in a room 位置関係や物の配置を説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で総復習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第26回	対面	Review Quiz 2 学期全体の理解度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第28回	対面	Course Review - Summary of key units 重要表現を整理し、理解を定着させる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第29回	対面	Course Review - Speaking practice 既習内容を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking back on the course 授業全体を振り返り、今後の学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例2時間程度）を完成させること。	2時間

科目名	Intensive English L/S I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。学生は、授業内のスピーキング活動および評価を通じて向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Communication Spotlight 3rd Edition: Starter, Alastair Graham-Marr, ABAX, 2019.	ISBN	978-1-78547-077-6
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	Unit 0: How do you spell that? - Looking over the course 授業の目的、進め方を確認し、教室英語に	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例 1 時間程度）を完成させること。	1 時間

		慣れる。		
第2回	オンデマンド	Unit 0: How do you spell that? - Contractions 短縮形に注意しながら基本的な教室表現を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	オンデマンド	Unit 1: Can you open the window? (1) - Linking sounds 依頼表現における音のつながりを聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	オンデマンド	Unit 1: Can you open the window? (2) - Getting someone's attention 相手の注意を引く表現を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	オンデマンド	Unit 2: I like tea (1) - Sentence stress 好みを表す文における文ストレスを意識する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	オンデマンド	Unit 2: I like tea (2) - Asking questions 質問表現を用いたやり取りを練習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	オンデマンド	Unit 3: She's studying (1) - Weak vowels 現在進行形の文における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	オンデマンド	Unit 3: She's studying (2) - Asking for repetition 聞き返し表現を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	オンデマンド	Unit 4: What's the date today? (1) - Sentence stress 日付・曜日表現における文ストレスを意識する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	オンデマンド	Unit 4: What's the date today? (2) - Asking questions 日常情報について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	オンデマンド	Unit 5: What do you mean? (1) - Weak vowels 意味確認の表現における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	オンデマンド	Unit 5: What do you mean? (2) - Asking for meaning 意味を確認するやり取りを練習する	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	オンデマンド	Review Quiz 1 - Listening / Speaking 前半内容の理解度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	オンデマンド	Review Quiz 1 Feedback / Unit 6 preview レビュー結果を確認し、次の単元への準備を行う	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	オンデマンド	Unit 6: Where's my phone? (1) - Sentence stress 場所を表す表現における文ストレスを聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	オンデマンド	Unit 6: Where's my phone? (2) - Shadowing 簡単なシャドーイング練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	オンデマンド	Unit 7: You're going to work? (1) - Weak vowels	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	1時間

		未来表現における弱形母音を聞き取る。	た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	
第18回	オンデマンド	Unit 7: You' re going to work? (2) - Asking questions 将来の予定について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	オンデマンド	Unit 8: When do you have chemistry? (1) - Weak vowels 学校時間割に関する表現を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 1-7 動画教材で既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	オンデマンド	Unit 9: I can cook! (1) - Sentence stress できることを表す文の文ストレスを意識する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	オンデマンド	Unit 9: I can cook! (2) - Asking questions 能力について質問する練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	オンデマンド	Unit 10: What time do you get up? (1) - Sentence stress 日常行動に関する文ストレスを聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	オンデマンド	Unit 10: What time do you get up? (2) - Asking for repetition 聞き返し表現を用いた練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	オンデマンド	Review Quiz 2 - Listening / Speaking 後半内容の理解度を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	オンデマンド	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	オンデマンド	Course Review - Everyday spoken interaction 基本的なやり取り表現を総復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	オンデマンド	Unit 11: How many are there? - Numbers & fluency 数に関する表現を用いた発話練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	オンデマンド	Unit 12: What did you do after school? - Past events & reflection 過去の出来事について簡単に話し、授業全体を振り返る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間

科目名	Intensive English L/S II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。授業内のスピーキング活動を通じて、基本的な英語で自分の考えや情報を伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Step Into Academic English: Listening & Speaking 1, Alastair Graham Marr, ABAX, 2024.	ISBN	978-1-78547-103-2
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation - Introduction to academic listening & speaking	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	1 時間

		授業の目的、進め方、評価方法を確認し、 学術英語の学び方を理解する。	た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	
第2回	対面	Unit 1: The World - The Land and the Sea (1) - Contractions 短縮形に注意しながら教室英語を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	対面	Unit 1: The World - The Land and the Sea (2) - Classroom English 教室内で使われる基本表現を聞き取り理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	対面	Unit 1: The World - The Land and the Sea (3) - A country (presentation) 国について簡単に説明する発表練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	対面	Unit 2: Environment - National Parks (1) - Linking sounds 音のつながりに注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	対面	Unit 2: Environment - National Parks (2) - Classroom English 環境に関する教室英語を聞き取り理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	対面	Unit 2: Environment - National Parks (3) - A national park (presentation) 国立公園について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	対面	Unit 3: Science - The Red Planet (1) - Linking sounds 音のつながりに注意しながら科学的説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	対面	Unit 3: Science - The Red Planet (2) - Teacher questions 質問表現を聞き取り、内容を理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	対面	Unit 3: Science - The Red Planet (3) - A planet (presentation) 惑星について簡単に説明する発表練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	対面	Unit 4: Society - Big Cities (1) - Weak vowels 弱形母音に注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	対面	Unit 4: Society - Big Cities (2) - Homework assignments 課題説明を聞き取り理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 4 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	対面	Unit 4: Society - Big Cities (3) - A big city (presentation) 都市について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	対面	Unit 5: History - The Ancient Olympics (1) - Weak vowels 歴史的説明における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	対面	Unit 5: History - The Ancient Olympics (2) - School health check	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間

		状況説明を聞き取り理解する。	た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	
第18回	対面	Unit 5: History - The Ancient Olympics (3) - An Olympic athlete (presentation) オリンピック選手について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	対面	Unit 6: Art - Leonardo da Vinci (1) - Sentence stress 文ストレスに注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第20回	オンデマンド	On-Demand Lesson - Review of Units 1-6 これまでの内容を復習し、聞き取りを整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	対面	Unit 6: Art - Leonardo da Vinci (2) - Asking about course content 授業内容に関する質問表現を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	対面	Unit 6: Art - Leonardo da Vinci (3) - An artist (presentation) 芸術家について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	対面	Unit 7: Education - Homework (1) - Linking sounds 音のつながりに注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	対面	Unit 7: Education - Homework (2) - Asking about homework 宿題に関する質問表現を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	対面	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	対面	Review Quiz 2 後半の学習内容について理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	オンデマンド	On-Demand Lesson - Review of Units 5-7 学習内容を振り返り、聞き取りを整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	対面	Unit 8: Business - Apple Computer - A famous company (presentation) 企業について簡単に説明する発表練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	対面	General summary - Overall review and reflection 授業全体を振り返り、リスニング力の向上を確認する。	授業全体を振り返り、今後の学修につなげる。	1時間

科目名	Intensive English L/S II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	カー・クリス	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。授業内のスピーキング活動を通じて、基本的な英語で自分の考えや情報を伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Step Into Academic English: Listening & Speaking 1, Alastair Graham Marr, ABAX, 2024.	ISBN	978-1-78547-103-2
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation - Introduction to academic listening & speaking	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	1 時間

		授業の目的、進め方、評価方法を確認し、 学術英語の学び方を理解する。	た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	
第2回	対面	Unit 1: The World - The Land and the Sea (1) - Contractions 短縮形に注意しながら教室英語を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	対面	Unit 1: The World - The Land and the Sea (2) - Classroom English 教室内で使われる基本表現を聞き取り理 解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	対面	Unit 1: The World - The Land and the Sea (3) - A country (presentation) 国について簡単に説明する発表練習を行 う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	対面	Unit 2: Environment - National Parks (1) - Linking sounds 音のつながりに注意しながら説明を聞き 取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	対面	Unit 2: Environment - National Parks (2) - Classroom English 環境に関する教室英語を聞き取り理解す る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	対面	Unit 2: Environment - National Parks (3) - A national park (presentation) 国立公園について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	対面	Unit 3: Science - The Red Planet (1) - Linking sounds 音のつながりに注意しながら科学的説明 を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	対面	Unit 3: Science - The Red Planet (2) - Teacher questions 質問表現を聞き取り、内容を理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	対面	Unit 3: Science - The Red Planet (3) - A planet (presentation) 惑星について簡単に説明する発表練習を 行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	対面	Unit 4: Society - Big Cities (1) - We ak vowels 弱形母音に注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	対面	Unit 4: Society - Big Cities (2) - Ho mework assignments 課題説明を聞き取り理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 4 conti nuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理す る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	対面	Unit 4: Society - Big Cities (3) - A big city (presentation) 都市について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	対面	Unit 5: History - The Ancient Olympic s (1) - Weak vowels 歴史的説明における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	対面	Unit 5: History - The Ancient Olympic s (2) - School health check	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復 習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	1時間

		状況説明を聞き取り理解する。	た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	
第18回	対面	Unit 5: History - The Ancient Olympics (3) - An Olympic athlete (presentation) オリンピック選手について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	対面	Unit 6: Art - Leonardo da Vinci (1) - Sentence stress 文ストレスに注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第20回	オンデマンド	On-Demand Lesson - Review of Units 1-6 これまでの内容を復習し、聞き取りを整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	対面	Unit 6: Art - Leonardo da Vinci (2) - Asking about course content 授業内容に関する質問表現を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	対面	Unit 6: Art - Leonardo da Vinci (3) - An artist (presentation) 芸術家について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	対面	Unit 7: Education - Homework (1) - Linking sounds 音のつながりに注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	対面	Unit 7: Education - Homework (2) - Asking about homework 宿題に関する質問表現を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	対面	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	対面	Review Quiz 2 後半の学習内容について理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	オンデマンド	On-Demand Lesson - Review of Units 5-7 学習内容を振り返り、聞き取りを整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	対面	Unit 8: Business - Apple Computer - A famous company (presentation) 企業について簡単に説明する発表練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	対面	General summary - Overall review and reflection 授業全体を振り返り、リスニング力の向上を確認する。	授業全体を振り返り、今後の学修につなげる。	1時間

科目名	Intensive English L/S II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	バンティング ジャネット	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運営能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。授業内のスピーキング活動を通じて、基本的な英語で自分の考えや情報を伝えることができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Step Into Academic English: Listening & Speaking 1, Alastair Graham Marr, ABAX, 2024.	ISBN	978-1-78547-103-2
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation - Introduction to academic listening & speaking	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	1 時間

		授業の目的、進め方、評価方法を確認し、 学術英語の学び方を理解する。	た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	
第2回	対面	Unit 1: The World - The Land and the Sea (1) - Contractions 短縮形に注意しながら教室英語を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	対面	Unit 1: The World - The Land and the Sea (2) - Classroom English 教室内で使われる基本表現を聞き取り理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	対面	Unit 1: The World - The Land and the Sea (3) - A country (presentation) 国について簡単に説明する発表練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	対面	Unit 2: Environment - National Parks (1) - Linking sounds 音のつながりに注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	対面	Unit 2: Environment - National Parks (2) - Classroom English 環境に関する教室英語を聞き取り理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	対面	Unit 2: Environment - National Parks (3) - A national park (presentation) 国立公園について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	対面	Unit 3: Science - The Red Planet (1) - Linking sounds 音のつながりに注意しながら科学的説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	対面	Unit 3: Science - The Red Planet (2) - Teacher questions 質問表現を聞き取り、内容を理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	対面	Unit 3: Science - The Red Planet (3) - A planet (presentation) 惑星について簡単に説明する発表練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	対面	Unit 4: Society - Big Cities (1) - Weak vowels 弱形母音に注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	対面	Unit 4: Society - Big Cities (2) - Homework assignments 課題説明を聞き取り理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 4 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	対面	Unit 4: Society - Big Cities (3) - A big city (presentation) 都市について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	対面	Unit 5: History - The Ancient Olympics (1) - Weak vowels 歴史的説明における弱形母音を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	対面	Unit 5: History - The Ancient Olympics (2) - School health check	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間

		状況説明を聞き取り理解する。	た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	
第18回	対面	Unit 5: History - The Ancient Olympics (3) - An Olympic athlete (presentation) オリンピック選手について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	対面	Unit 6: Art - Leonardo da Vinci (1) - Sentence stress 文ストレスに注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第20回	オンデマンド	On-Demand Lesson - Review of Units 1-6 これまでの内容を復習し、聞き取りを整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	対面	Unit 6: Art - Leonardo da Vinci (2) - Asking about course content 授業内容に関する質問表現を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	対面	Unit 6: Art - Leonardo da Vinci (3) - An artist (presentation) 芸術家について簡単に説明する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	対面	Unit 7: Education - Homework (1) - Linking sounds 音のつながりに注意しながら説明を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	対面	Unit 7: Education - Homework (2) - Asking about homework 宿題に関する質問表現を聞き取る。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	対面	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	対面	Review Quiz 2 後半の学習内容について理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	オンデマンド	On-Demand Lesson - Review of Units 5-7 学習内容を振り返り、聞き取りを整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	対面	Unit 8: Business - Apple Computer - A famous company (presentation) 企業について簡単に説明する発表練習を行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	対面	General summary - Overall review and reflection 授業全体を振り返り、リスニング力の向上を確認する。	授業全体を振り返り、今後の学修につなげる。	1時間

科目名	Intensive English L/S II		開講年度	2026 年度春学期
担当者	ウェザビ・マーティン		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成			
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。			
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	World Voices 1, Alexander Graham-Marr et al., ABAX, 2018.		ISBN	978-1-78547-067-7
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（%）		40	
	その他の内容		Review Quiz 1: 20% Review Quiz 2: 20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	Course Orientation - Introduction to the course	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	1 時間

		授業の目的、進め方、評価方法を確認し、リスニング学習の基本姿勢を理解する。	た、課題（通例1時間程度）を完成させること。	
第2回	オンデマンド	Unit 7: Food and drink; Describing rules	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	オンデマンド	Unit 7: Food and drink; Describing dishes of different countries	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	オンデマンド	Unit 7: Food and drink; poster presentations	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	オンデマンド	Unit 8: Travel; Talking about typical vacation activities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	オンデマンド	Unit 8: Travel; Describing places that you've been to	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	オンデマンド	Unit 8: Travel; Talking about holiday and vacation activities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	オンデマンド	Unit 8: Travel; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	オンデマンド	Unit 8: Travel; poster presentations	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	オンデマンド	Unit 9: Education; Describing academic study	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	オンデマンド	Unit 9: Talking about school subjects and academic study; Review	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	オンデマンド	Unit 9: Education; Review Quiz Feedback; Using follow-up questions.	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	オンデマンド	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	オンデマンド	Review Quiz 1 Feedback / Unit 9 continuation レビュー結果を確認し、理解を補強する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	オンデマンド	Unit 9: Education; poster presentations	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	オンデマンド	Unit 10: Health; Using medical words and words describing health	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	オンデマンド	Unit 10: Health; Using medical words and words describing health	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第18回	オンデマンド	Unit 10: Health; Discussing common health problems	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	オンデマンド	Unit 10: Health; poster presentations	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 7-10.	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復	1時間

	マンド	動画教材を用いて既習内容を整理する。	習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	
第21回	オンデマンド	Unit 11: Numbers and prices; Understanding numbers and prices	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	オンデマンド	Unit 11: Numbers and prices; Talking about numbers and currencies	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	オンデマンド	Unit 11: Numbers and prices; Making suggestions and recommendations	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	オンデマンド	Unit 11: Numbers and prices; poster presentations	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	オンデマンド	Review Quiz 2 - Listening 学期後半の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	オンデマンド	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	オンデマンド	Course Review - Everyday listening skills 日常場面における聞き取り技能を総復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	オンデマンド	Integrated listening practice ニュース、案内、インタビューなど複数場面の聞き取りを行う。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	オンデマンド	Summary / Reflection - Looking back on the course 授業全体を振り返り、今後の学習につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（通例1時間程度）を完成させること。	1時間

科目名	Advanced English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	土田 智佳子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Good Reading, Better Grammar, Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps, Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 <全クラス共通> ③ TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル 600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378 (通年)

	(通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2回） ②TOEIC：20％（共通目標達成で10％、発展目標達成で10％）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSLに基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5【文型・形容詞・副詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11【現在形・過去形・進行形と未来形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12【完了形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	文法演習（4）： Ch.4【接続詞・前置詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間

		分詞		
第11回	対面	文法演習(5): Ch.14 [態]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(文法)の準備	2時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習(3): Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-3: 疑問詞疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の準備	2時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(文法)	事前学修: 中間レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2時間
第15回	対面	文法演習(6): Ch.6 [助動詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(文法)の復習、小テストの準備	2時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習(3) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-3: 動詞の形(2)時制・その他	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の復習、小テストの準備	2時間
第17回	対面	文法演習(7): Ch.8 [不定詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習(4) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-4: Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第19回	対面	文法演習(8): Ch.7 [動名詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習(4) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-4: 前置詞・接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第21回	対面	文法演習(9): Ch.13 [関係代名詞・関係副詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習(5) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-5: 平叙文・意外な応答	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第23回	対面	文法演習(10): Ch.10 [分詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習(5): Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-5: 代名詞・関係代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第25回	対面	期末レビュークイズ(文法)	事前学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第26回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)に向けた復習	2時間
第27回	対面	期末レビュークイズ(文法)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)の復習	2時間
第28回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)の復習	2時間
第29回	オンデ	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間

2026/05/01

	マンド			
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けた復習	2時間

科目名	Advanced English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	国兼 慶	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Good Reading, Better Grammar, Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps, Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 <全クラス共通> ③ TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング: レベル 600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378 (通年)

	(通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2回） ②TOEIC：20％（共通目標達成で10％、発展目標達成で10％）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSLに基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5【文型・形容詞・副詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11【現在形・過去形・進行形と未来形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12【完了形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第9回	対面	文法演習（4）： Ch.4【接続詞・前置詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2時間

		分詞		
第11回	対面	文法演習(5): Ch.14 [態]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(文法)の準備	2時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習(3): Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-3: 疑問詞疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の準備	2時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(文法)	事前学修: 中間レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2時間
第15回	対面	文法演習(6): Ch.6 [助動詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(文法)の復習、小テストの準備	2時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習(3) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-3: 動詞の形(2)時制・その他	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の復習、小テストの準備	2時間
第17回	対面	文法演習(7): Ch.8 [不定詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習(4) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-4: Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第19回	対面	文法演習(8): Ch.7 [動名詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習(4) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-4: 前置詞・接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第21回	対面	文法演習(9): Ch.13 [関係代名詞・関係副詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習(5) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-5: 平叙文・意外な応答	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第23回	対面	文法演習(10): Ch.10 [分詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習(5): Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-5: 代名詞・関係代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第25回	対面	期末レビュークイズ(文法)	事前学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第26回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)に向けた復習	2時間
第27回	対面	期末レビュークイズ(文法)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)の復習	2時間
第28回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)の復習	2時間
第29回	オンデ	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間

2026/05/01

	マンド			
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けた復習	2時間

科目名	Advanced English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Good Reading, Better Grammar, Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps, Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 <全クラス共通> ③ TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング: レベル 600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378 (通年)

	(通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2回） ②TOEIC：20％（共通目標達成で10％、発展目標達成で10％）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSLに基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5【文型・形容詞・副詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11【現在形・過去形・進行形と未来形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12【完了形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	文法演習（4）： Ch.4【接続詞・前置詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

		分詞		
第11回	対面	文法演習(5): Ch.14 [態]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(文法)の準備	2時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習(3): Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-3: 疑問詞疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の準備	2時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(文法)	事前学修: 中間レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2時間
第15回	対面	文法演習(6): Ch.6 [助動詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(文法)の復習、小テストの準備	2時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習(3) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-3: 動詞の形(2)時制・その他	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の復習、小テストの準備	2時間
第17回	対面	文法演習(7): Ch.8 [不定詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習(4) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-4: Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第19回	対面	文法演習(8): Ch.7 [動名詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習(4) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-4: 前置詞・接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第21回	対面	文法演習(9): Ch.13 [関係代名詞・関係副詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習(5) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-5: 平叙文・意外な応答	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第23回	対面	文法演習(10): Ch.10 [分詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習(5): Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-5: 代名詞・関係代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第25回	対面	期末レビュークイズ(文法)	事前学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第26回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)に向けた復習	2時間
第27回	対面	期末レビュークイズ(文法)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)の復習	2時間
第28回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)の復習	2時間
第29回	オンデ	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間

2026/05/01

	マンド			
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けた復習	2時間

科目名	Advanced English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中西 亮太	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Good Reading, Better Grammar, Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps, Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 <全クラス共通> ③ TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング: レベル 600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378 (通年)

	(通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2回） ②TOEIC：20％（共通目標達成で10％、発展目標達成で10％）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSLに基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5【文型・形容詞・副詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11【現在形・過去形・進行形と未来形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12【完了形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	文法演習（4）： Ch.4【接続詞・前置詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

		分詞		
第11回	対面	文法演習(5): Ch.14 [態]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(文法)の準備	2時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習(3): Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-3: 疑問詞疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の準備	2時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(文法)	事前学修: 中間レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2時間
第15回	対面	文法演習(6): Ch.6 [助動詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(文法)の復習、小テストの準備	2時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習(3) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-3: 動詞の形(2)時制・その他	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の復習、小テストの準備	2時間
第17回	対面	文法演習(7): Ch.8 [不定詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習(4) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-4: Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第19回	対面	文法演習(8): Ch.7 [動名詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習(4) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-4: 前置詞・接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第21回	対面	文法演習(9): Ch.13 [関係代名詞・関係副詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習(5) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-5: 平叙文・意外な応答	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第23回	対面	文法演習(10): Ch.10 [分詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習(5): Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-5: 代名詞・関係代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第25回	対面	期末レビュークイズ(文法)	事前学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第26回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)に向けた復習	2時間
第27回	対面	期末レビュークイズ(文法)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)の復習	2時間
第28回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)の復習	2時間
第29回	オンデ	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間

2026/05/01

	マンド			
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けた復習	2時間

科目名	Advanced English W/R I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伊藤 美幸	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Good Reading, Better Grammar, Joan McConnell・山内圭、成美堂、2018 年 ② Reading Steps, Robert Hickling・臼倉美里、金星堂、2015 年 <全クラス共通> ③ TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル 600、西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年	ISBN	①9784791934188 ②9784764739925 ③9784255156378 (通年)

	(通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2回） ②TOEIC：20％（共通目標達成で10％、発展目標達成で10％）	
この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSLに基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	文法演習（1）： Ch.1&5【文型・形容詞・副詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-1：人物が写っている写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	文法演習（2）： Ch.2&11【現在形・過去形・進行形と未来形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-1：品詞	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	文法演習（3）： Ch.12【完了形】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 1 写真描写問題：概要と基本戦略 Unit L-2：人物が写っていない写真	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第9回	対面	文法演習（4）： Ch.4【接続詞・前置詞】	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習（2）： Part 5 短文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-2：動詞の形(1)能動態 vs 受動態、	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

		分詞		
第11回	対面	文法演習(5): Ch.14 [態]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(文法)の準備	2時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習(3): Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-3: 疑問詞疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の準備	2時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(文法)	事前学修: 中間レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2時間
第15回	対面	文法演習(6): Ch.6 [助動詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(文法)の復習、小テストの準備	2時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習(3) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-3: 動詞の形(2)時制・その他	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)の復習、小テストの準備	2時間
第17回	対面	文法演習(7): Ch.8 [不定詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習(4) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-4: Yes/No 疑問文・その他の疑問文	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第19回	対面	文法演習(8): Ch.7 [動名詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習(4) Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-4: 前置詞・接続詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第21回	対面	文法演習(9): Ch.13 [関係代名詞・関係副詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習(5) Part 2 応答問題: 概要と基本戦略 Unit L-5: 平叙文・意外な応答	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第23回	対面	文法演習(10): Ch.10 [分詞]	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習(5): Part 5 短文穴埋め問題: 概要と基本戦略 Unit R-5: 代名詞・関係代名詞	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2時間
第25回	対面	期末レビュークイズ(文法)	事前学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間
第26回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)に向けた復習	2時間
第27回	対面	期末レビュークイズ(文法)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)の復習	2時間
第28回	対面	期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEIC リーディング・リスニング)の復習	2時間
第29回	オンデ	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2時間

2026/05/01

	マンド			
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ(TOEICリーディング・リスニング)に向けた復習	2時間

科目名	Advanced English W/R I		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 真		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた、パラグラフリーディングを駆使した英語読解力とアウトプットを通したリスニング力の強化、語彙・表現力の増強			
授業の目的及び概要	英語のパラグラフリーディングの基本を学び、アウトプットの繰り返しによるリスニング力の強化を図ります。構造を意識して英文を読むことによって文章を逐次日本語に訳すことなく英文の一部または全体を読み取る読解力の修得を目指します。同時に、リスニング演習を通して聞き取る力を鍛え、語彙・英語表現力の向上を図ります。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、60%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Read Well, Write Better, Joan McConnell・武田修一・山内圭・成美堂、2016 年		ISBN	9784791947874
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		60	
	その他の内容		①中間レビュークイズ：30％ ②期末レビュークイズ：30％	
この科目の受講に	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。			

あたって	また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修 リーディング演習:各Unit「Reading Skills & Strategies」通読	2時間
第2回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修 リスニング演習:テキスト「本書の使い方」熟読	2時間
第3回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 1 (Poor Little Laika)	事後学修 リーディング演習:Unit 1 (Poor Little Laika) 語彙・精読復習	2時間
第4回	オンデマンド	リスニング演習:Unit 1 (Part 1:写真描写問題)	事後学修 リスニング演習:Unit 1 (Part 1:写真描写問題) 語彙・音声復習	2時間
第5回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 2 (Where Did That Idiom Come From?)	事後学修 リーディング演習:Unit 2 (Where Did That Idiom Come From?) 語彙・精読復習	2時間
第6回	オンデマンド	リスニング演習:Unit 2 (Part 1:写真描写問題)	事後学修 リスニング演習:Unit 2 (Part 1:写真描写問題) 語彙・音声復習	2時間
第7回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 3 (Heroes from the Canine Kingdom)	事後学修 リーディング演習:Unit 3 (Heroes from the Canine Kingdom) 語彙・精読復習	2時間
第8回	オンデマンド	リスニング演習:Unit 3 (Part 2:応答問題)	事後学修 リスニング演習:Unit 3 (Part 2:応答問題) 語彙・音声復習	2時間
第9回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 4 (Pack Carefully!)	事後学修 リーディング演習:Unit 4 (Pack Carefully!) 語彙・精読復習	2時間
第10回	オンデマンド	リスニング演習:リスニング演習:Unit 4 (Part 2:応答問題)	事後学修 リスニング演習:Unit 4 (Part 2:応答問題) 語彙・音声復習	2時間
第11回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 5 (The Many Lives of Yoshikok Yamaguchi)	事後学修 リーディング演習:Unit 5 (The Many Lives of Yoshikok Yamaguchi) 語彙・精読復習 中間レビュークイズ(リーディング)に向けた復習	2時間
第12回	オンデマンド	リスニング演習:Unit 5 (Part 2:応答問題)	事後学修 リスニング演習:Unit 5 (Part 2:応答問題) 語彙・音声復習 中間レビュークイズ(リスニング)に向けた復習	2時間
第13回	オンデマンド	中間レビュークイズ(リーディング)	事前学修 中間レビュークイズ(リーディング)に向けた復習	2時間
第14回	オンデマンド	中間レビュークイズ(リスニング)	事前学修 中間レビュークイズ(リスニング)に向けた復習	2時間
第15回	オンデマンド	中間レビュークイズ(リーディング)見直し リーディング演習:Unit 6 (Taxation in the 21st Century)	事後学修 中間レビュークイズ(リーディング)の復習 リーディング演習:Unit 6 (Taxation in the 21st Century) 語彙・精読復習	2時間
第16回	オンデマンド	中間レビュークイズ(リスニング)見直し リスニング演習:Unit 6 (Part 2:応答問題)	事後学修 中間レビュークイズ(リスニング)の復習 リスニング演習:Unit 6 (Part 2:応答問題) 語彙・	2時間

			音声復習	
第17回	オンデマンド	リーディング演習: Unit 7 (The Unusual Secretary... or Secretaries?)	事後学修 リーディング演習: Unit 7 (The Unusual Secretary... or Secretaries?) 語彙・精読復習	2 時間
第18回	オンデマンド	リスニング演習: Unit 7 (Part 2: 応答問題)	事後学修 リスニング演習: Unit 7 (Part 2: 応答問題) 語彙・音声復習	2 時間
第19回	オンデマンド	リーディング演習: Unit 8 (Mother Complex)	事後学修 リーディング演習: Unit 8 (Mother Complex) 語彙・精読復習	2 時間
第20回	オンデマンド	リスニング演習: Unit 8 (Part 2: 応答問題)	事後学修 リスニング演習: Unit 8 (Part 2: 応答問題) 語彙・音声復習	2 時間
第21回	オンデマンド	リーディング演習: Unit 9 (The Death of the Newspaper)	事後学修 リーディング演習: Unit 9 (The Death of the Newspaper) 語彙・精読復習	2 時間
第22回	オンデマンド	リスニング演習: Unit 9 (Part 2: 応答問題)	事後学修 リスニング演習: Unit 9 (Part 2: 応答問題) 語彙・音声復習	2 時間
第23回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リーディング) に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2 時間
第24回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リスニング) に向けたポイント解説・復習	事後学修 期末レビュークイズ (リスニング) に向けた復習	2 時間
第25回	オンデマンド	リーディング演習: Unit 10 (The Great Escape: Over, Under, or Through the Berlin Wall)	事後学修 リーディング演習: Unit 10 (The Great Escape: Over, Under, or Through the Berlin Wall) 語彙・精読復習 期末レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2 時間
第26回	オンデマンド	リスニング演習: Unit 10 (Part 3: 会話問題)	事後学修 リスニング演習: Unit 10 (Part 3: 会話問題) 語彙・音声復習	2 時間
第27回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リーディング)	事前学修 期末レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2 時間
第28回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リスニング)	事前学修 期末レビュークイズ (リスニング) に向けた復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リーディング) 見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ (リーディング) の復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リスニング) 見直しと総復習	事後学修 期末レビュークイズ (リスニング) の復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	土田 智佳子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 5. 前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Success with Reading Book 2、池田 真生子・清水 綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田 真生子・清水 綾香・Michelle Witte・Zachary Fillingham・Gregory John Bahlmann、成美堂、2020	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378 (通年)

	年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、 西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年 (通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2 回） ②10 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％） ③1 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％）	
この科目の受講に あたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSL に基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	文法演習（1）： U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 2 応答問題：概要と基本戦略 Unit L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	文法演習（2）： U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1） Part 6 長文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3 会話問題：概要と基本戦略 Unit L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

第9回	対面	文法演習 (4): U.4 the Printing Press	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習 (2): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-7: 広告・チャット	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第11回	対面	文法演習 (5): U.5 How safe is Air Travel?	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習 (3): Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-8: 言及・問題点・提案	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ (文法)	事前学修: 中間レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第15回	対面	文法演習 (6): U.6 Jazz Music	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習 (3): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-8: Eメール・手紙	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	文法演習 (7): U.7 Inflation	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習 (4): Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-9: 申し出・依頼・意図	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	文法演習 (8) U.8 The Word "Hello"	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習 (4): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-9: 告知・社内回覧	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	文法演習 (9): U.9 Trans Fats	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習 (5): Part 4 説明文問題: 概要と基本戦略 Unit L-12: グラフィック(図表)問題	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	文法演習 (10): U.10 Braille	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習 (5): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-11: ダブルパッセージ	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ (文法)	事前学修: 期末レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ (文法) 見直しと総復習	事後学修: 期末レビュークイズ (文法) の復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	2 時間

2026/05/01

		リーディング) 見直しと総復習	リーディング) の復習	
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	国兼 慶	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 5. 前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Success with Reading Book 2、池田 真生子・清水 綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田 真生子・清水 綾香・Michelle Witte・Zachary Fillingham・Gregory John Bahlmann、成美堂、2020	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378 (通年)

	年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、 西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年 (通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2 回） ②10 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％） ③1 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％）	
この科目の受講に あたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSL に基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	文法演習（1）： U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 2 応答問題：概要と基本戦略 Unit L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	文法演習（2）： U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1） Part 6 長文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3 会話問題：概要と基本戦略 Unit L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

第9回	対面	文法演習 (4) : U.4 the Printing Press	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習 (2) : Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-7: 広告・チャット	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第11回	対面	文法演習 (5) : U.5 How safe is Air Travel?	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習 (3) : Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-8: 言及・問題点・提案	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ (文法)	事前学修: 中間レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第15回	対面	文法演習 (6) : U.6 Jazz Music	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習 (3) : Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-8: Eメール・手紙	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	文法演習 (7) : U.7 Inflation	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習 (4) : Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-9: 申し出・依頼・意図	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	文法演習 (8) U.8 The Word "Hello"	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習 (4) : Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-9: 告知・社内回覧	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	文法演習 (9) : U.9 Trans Fats	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習 (5) : Part 4 説明文問題: 概要と基本戦略 Unit L-12: グラフィック(図表)問題	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	文法演習 (10) : U.10 Braille	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習 (5) : Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-11: ダブルパッセージ	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ (文法)	事前学修: 期末レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ (文法) 見直しと総復習	事後学修: 期末レビュークイズ (文法) の復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	2 時間

2026/05/01

		リーディング) 見直しと総復習	リーディング) の復習	
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 5. 前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Success with Reading Book 2、池田 真生子・清水 綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田 真生子・清水 綾香・Michelle Witte・Zachary Fillingham・Gregory John Bahlmann、成美堂、2020	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378 (通年)

	年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、 西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年 (通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2 回） ②10 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％） ③1 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％）	
この科目の受講に あたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。 また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、 英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培 います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSL に基づいた学修による語彙の増強、英 文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めること で、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	文法演習（1）： U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 2 応答問題：概要と基本戦略 Unit L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	文法演習（2）： U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1） Part 6 長文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3 会話問題：概要と基本戦略 Unit L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

第9回	対面	文法演習 (4): U.4 the Printing Press	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習 (2): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-7: 広告・チャット	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第11回	対面	文法演習 (5): U.5 How safe is Air Travel?	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習 (3): Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-8: 言及・問題点・提案	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ (文法)	事前学修: 中間レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第15回	対面	文法演習 (6): U.6 Jazz Music	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習 (3): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-8: Eメール・手紙	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	文法演習 (7): U.7 Inflation	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習 (4): Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-9: 申し出・依頼・意図	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	文法演習 (8) U.8 The Word "Hello"	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習 (4): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-9: 告知・社内回覧	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	文法演習 (9): U.9 Trans Fats	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習 (5): Part 4 説明文問題: 概要と基本戦略 Unit L-12: グラフィック(図表)問題	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	文法演習 (10): U.10 Braille	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習 (5): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-11: ダブルパッセージ	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ (文法)	事前学修: 期末レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ (文法) 見直しと総復習	事後学修: 期末レビュークイズ (文法) の復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	2 時間

2026/05/01

		リーディング) 見直しと総復習	リーディング) の復習	
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中西 亮太	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 5. 前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Success with Reading Book 2、池田 真生子・清水 綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田 真生子・清水 綾香・Michelle Witte・Zachary Fillingham・Gregory John Bahlmann、成美堂、2020	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378 (通年)

	年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、 西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年 (通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2 回） ②10 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％） ③1 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％）	
この科目の受講に あたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。 また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、 英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培 います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSL に基づいた学修による語彙の増強、英 文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めること で、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。 学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	文法演習（1）： U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 2 応答問題：概要と基本戦略 Unit L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	文法演習（2）： U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1） Part 6 長文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3 会話問題：概要と基本戦略 Unit L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

第9回	対面	文法演習 (4): U.4 the Printing Press	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習 (2): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-7: 広告・チャット	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第11回	対面	文法演習 (5): U.5 How safe is Air Travel?	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習 (3): Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-8: 言及・問題点・提案	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ (文法)	事前学修: 中間レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第15回	対面	文法演習 (6): U.6 Jazz Music	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習 (3): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-8: Eメール・手紙	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	文法演習 (7): U.7 Inflation	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習 (4): Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-9: 申し出・依頼・意図	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	文法演習 (8) U.8 The Word "Hello"	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習 (4): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-9: 告知・社内回覧	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	文法演習 (9): U.9 Trans Fats	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習 (5): Part 4 説明文問題: 概要と基本戦略 Unit L-12: グラフィック(図表)問題	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	文法演習 (10): U.10 Braille	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習 (5): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-11: ダブルパッセージ	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ (文法)	事前学修: 期末レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ (文法) 見直しと総復習	事後学修: 期末レビュークイズ (文法) の復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	2 時間

2026/05/01

		リーディング) 見直しと総復習	リーディング) の復習	
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伊藤 美幸	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた英語力としての語彙・文法・読解・聴解の基本的スキルの強化		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。①では、英語の理解に必要とされる高頻度語 3,000 語と基本的な文法項目の受容的知識の定着を図ります。授業では、教科書並びに語彙学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、単文や構造が明快な重文・複文であれば読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 5. 前学期に学修した文法・語彙を使って文章を作ることができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストについて授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では以下の 2 冊のテキストを併用します。クラスによって使用するテキストが異なるものがあるため注意してください。 <クラスによって異なる> ① Success with Reading Book 2、池田 真生子・清水 綾香・Zachary Fillingham・Owain Mckimm・Judy Majewski、成美堂、2020 年 ② Success with Reading Book 1、池田 真生子・清水 綾香・Michelle Witte・Zachary Fillingham・Gregory John Bahlmann、成美堂、2020	ISBN	①9784791972029 ②9784791972012 ③9784255156378 (通年)

	年 ＜全クラス共通＞ ③TOEIC® L&R テスト戦略的トレーニング:レベル600、 西谷敦子・伊藤恵一・夜久容子、朝日出版社、2025 年 (通年)		
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40％（20％×2 回） ②10 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％） ③1 月 TOEIC IP テスト：10％（共通目標達成で 5％、発展目標達成で 5％）	
この科目の受講に あたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。NGSL に基づいた学修による語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。学修成果の確認・評価のため、各学期に実施される TOEIC IP テストを受験します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明（文法演習については、クラスレベルによって授業計画が異なる場合があります。詳細は第1回授業にて周知いたします。）	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第2回	対面	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第3回	対面	文法演習（1）： U.1 The Pencil	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第4回	対面	TOEIC リスニング演習（1）： Part 2 応答問題：概要と基本戦略 Unit L-6：機能別疑問文	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第5回	対面	文法演習（2）： U.2 Running Marathons	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第6回	対面	TOEIC リーディング演習（1） Part 6 長文穴埋め問題：概要と基本戦略 Unit R-6：長文穴埋め問題	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第7回	対面	文法演習（3）： U.3 Superstition	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第8回	対面	TOEIC リスニング演習（2）： Part 3 会話問題：概要と基本戦略 Unit L-7：目的・懸念・次の行動	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業内容の復習、小テストの準備	2 時間

第9回	対面	文法演習 (4): U.4 the Printing Press	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第10回	対面	TOEIC リーディング演習 (2): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-7: 広告・チャット	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第11回	対面	文法演習 (5): U.5 How safe is Air Travel?	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第12回	対面	TOEIC リスニング演習 (3): Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-8: 言及・問題点・提案	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ (文法)	事前学修: 中間レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第15回	対面	文法演習 (6): U.6 Jazz Music	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第16回	対面	TOEIC リーディング演習 (3): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-8: Eメール・手紙	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の復習、小テストの準備	2 時間
第17回	対面	文法演習 (7): U.7 Inflation	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第18回	対面	TOEIC リスニング演習 (4): Part 3 会話問題: 概要と基本戦略 Unit L-9: 申し出・依頼・意図	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第19回	対面	文法演習 (8) U.8 The Word "Hello"	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第20回	対面	TOEIC リーディング演習 (4): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-9: 告知・社内回覧	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第21回	対面	文法演習 (9): U.9 Trans Fats	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第22回	対面	TOEIC リスニング演習 (5): Part 4 説明文問題: 概要と基本戦略 Unit L-12: グラフィック(図表)問題	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、小テストの準備	2 時間
第23回	対面	文法演習 (10): U.10 Braille	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・文法を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (文法) の準備	2 時間
第24回	対面	TOEIC リーディング演習 (5): Part 7 読解問題: 概要と基本戦略 Unit R-11: ダブルパッセージ	事前学修: 指定された範囲の予習 (語彙・TOEIC 学修におけるポイントを確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業内容の復習、期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ (文法)	事前学修: 期末レビュークイズ (文法) に向けた復習	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング)	事前学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・リーディング) に向けた復習	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ (文法) 見直しと総復習	事後学修: 期末レビュークイズ (文法) の復習	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	事後学修: 期末レビュークイズ (TOEIC リスニング・	2 時間

2026/05/01

		リーディング) 見直しと総復習	リーディング) の復習	
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ(文法)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(文法)に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けたポイント解説・復習	事後学修: 期末レビュークイズ(TOEIC リスニング・リーディング)に向けた復習	2 時間

科目名	Advanced English W/R II	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 真	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC スコアアップに向けた、パラグラフリーディングを駆使した英語読解力とアウトプットを通したリスニング力の強化、語彙・表現力の増強		
授業の目的及び概要	英語のパラグラフリーディングの基本を学び、アウトプットの繰り返しによるリスニング力の強化を図ります。構造を意識して英文を読むことによって文章を逐次日本語に訳すことなく英文の一部または全体を読み取る読解力の修得を目指します。同時に、リスニング演習を通して聞き取る力を鍛え、語彙・英語表現力の向上を図ります。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を問うテストにおいて、60%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストおよび課題について授業内でのフィードバックを行う。レビュークイズについても授業のなかでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	THE HIGH ROAD TO THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST 全パート横断型 TOEIC® LISTENING AND READING テスト総合対策、川幸治他、金星堂、2017 年	ISBN	9784764740457
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	
	その他の内容	①中間レビュークイズ：30% ②期末レビュークイズ：30%	

この科目の受講にあたって	グローバルな社会で活躍するためには、コミュニケーションツールとしての英語力が必要です。また、実践的な英語力を身につけるためには、常に英語に触れる環境が必要です。授業では、英語の基本的能力を身につける学修で英語力の基本を固めつつ、読解演習を通して応用力を培います。毎回の授業では多くの課題が出されます。語彙の増強、英文法の確認やリーディング問題の予習・復習など、課内だけでなく課外での学修を進めることで、自学自修の習慣を身につけてください。授業では積極的に参加し、発言してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	【事後学修】リーディング演習:テキスト「TOEIC L&R テストについて」熟読	2時間
第2回	オンデマンド	オリエンテーション:授業概要、評価方法、授業の進め方の説明	【事後学修】リーディング演習:テキスト「TOEIC L&R テストについて」熟読	2時間
第3回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 6 Part 5 (品詞①)・Part 6 (代名詞②)・Part 7 (答えを推測する問題①)	【事後学修】Unit 6 Part 5 (品詞①)・Part 6 (代名詞②)・Part 7 (答えを推測する問題①) 語彙・精読復習	2時間
第4回	オンデマンド	リスニング演習:Unit 6 Part 1 (光景:現在進行形が使われるパターン)・Part 2 (WH 疑問文⑤)・Part 3 (顧客との取引の流れをおさえる)・Part 4 (未来に起こることに注意する)	【事後学修】Unit 6 Part 1 (光景:現在進行形が使われるパターン)・Part 2 (WH 疑問文⑤)・Part 3 (顧客との取引の流れをおさえる)・Part 4 (未来に起こることに注意する) 語彙・音声復習	2時間
第5回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 1 Part 5 (時制)・Part 6 (時制①)・Part 7 (「目的」は冒頭からつかむ)	【事後学修】Unit 1 Part 5 (時制)・Part 6 (時制①)・Part 7 (「目的」は冒頭からつかむ) 語彙・精読復習	2時間
第6回	オンデマンド	リスニング演習:Unit 1 Part 1 (人物の動作:1人のパターン)・Part 2 (WH 疑問文①)・Part 3 (会話の冒頭部分は特に集中する)・Part 4 (言い換えに注意する)	【事後学修】Unit 1 Part 1 (人物の動作:1人のパターン)・Part 2 (WH 疑問文①)・Part 3 (会話の冒頭部分は特に集中する)・Part 4 (言い換えに注意する) 語彙・音声復習	2時間
第7回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 2 Part 5 (主述の一致)・Part 6 (時制②)・Part 7 (文書の目的を問う問題 ①)	【事後学修】Unit 2 Part 5 (主述の一致)・Part 6 (時制②)・Part 7 (文書の目的を問う問題①) 語彙・精読復習	2時間
第8回	オンデマンド	リスニング演習:Unit 2 Part 1 (人物の位置・場所:1人のパターン)・Part 2 (WH 疑問文②)・Part 3 (レストランで使われる表現を覚える)・Part 4 (話し手と聞き手を意識する)	【事後学修】Unit 2 Part 1 (人物の位置・場所:1人のパターン)・Part 2 (WH 疑問文②)・Part 3 (レストランで使われる表現を覚える)・Part 4 (話し手と聞き手を意識する) 語彙・音声復習	2時間
第9回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 3 Part 5 (能動態・受動態)・Part 6 (接続表現①)・Part 7 (NOT 問題①)	【事後学修】Unit 3 Part 5 (能動態・受動態)・Part 6 (接続表現①)・Part 7 (NOT 問題①) 語彙・精読復習	2時間
第10回	オンデマンド	リスニング演習:Unit 3 Part 1 (光景・受動態が使われるパターン)・Part 2 (WH 疑問文③)・Part 3 (話題を意識する)・Part 4 (ニュースは冒頭をしっかりと聞く)	【事後学修】Unit 3 Part 1 (光景・受動態が使われるパターン)・Part 2 (WH 疑問文③)・Part 3 (話題を意識する)・Part 4 (ニュースは冒頭をしっかりと聞く) 語彙・音声復習	2時間
第11回	オンデマンド	リーディング演習:Unit 4 Part 5 (動名詞・不定詞)・Part 6 (接続表現②)・Part 7 (文を挿入する問題)	【事後学修】Unit 4 Part 5 (動名詞・不定詞)・Part 6 (接続表現②)・Part 7 (文を挿入する問題) 語彙・精読復習、中間レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2時間
第12回	オンデマンド	リスニング演習:Unit 4 Part 1 (人物の動作:2人のパターン)・Part 2 (WH 疑問文④)・Part 3 (場所をイメージする)・Part 4 (図表問題は情報を関連づける)	【事後学修】Unit 4 Part 1 (人物の動作:2人のパターン)・Part 2 (WH 疑問文④)・Part 3 (場所をイメージする)・Part 4 (図表問題は情報を関連づける) 語彙・音声復習、中間レビュークイズ (リスニング) に向けた復習	2時間
第13回	オンデマンド	中間レビュークイズ (リーディング)	【事後学修】Unit 4 Part 1 (人物の動作:2人のパターン)・Part 2 (WH 疑問文④)・Part 3 (場所をイメージする)・Part 4 (図表問題は情報を関連づける) 語彙・音声復習、中間レビュークイズ (リスニング)	2時間

			に向けた復習	
第14回	オンデマンド	中間レビュークイズ (リスニング)	【事前学習】中間レビュークイズ (リスニング) に向けた復習	2 時間
第15回	オンデマンド	中間レビュークイズ (リーディング) 見直し リーディング演習: Unit 5 Part 5 (代名詞)・Part 6 (代名詞①)・Part 7 (答えを推測する問題①)	【事後学修】中間レビュークイズ (リーディング) の復習、Unit 5 Part 5 (代名詞)・Part 6 (代名詞①)・Part 7 (答えを推測する問題①) 語彙・精読復習	2 時間
第16回	オンデマンド	中間レビュークイズ (リスニング) 見直し リスニング演習: Unit 5 Part 1 (人物の位置・場所: 2人のパターン)・Part 2 (WH 疑問文⑤)・Part 3 (店内での会話のパターンを覚える)・Part 4 (ポイントをしばらく待つ)	【事後学修】中間レビュークイズ (リスニング) の復習、Unit 5 Part 1 (人物の位置・場所: 2人のパターン)・Part 2 (WH 疑問文⑤)・Part 3 (店内での会話のパターンを覚える)・Part 4 (ポイントをしばらく待つ) 語彙・音声復習	2 時間
第17回	オンデマンド	リーディング演習: Unit 9 Part 5 (比較)・Part 6 (文選択①)・Part 7 (文書の目的を問う問題②)	【事後学修】Unit 9 Part 5 (比較)・Part 6 (文選択①)・Part 7 (文書の目的を問う問題②) 語彙・精読復習	2 時間
第18回	オンデマンド	リスニング演習: Unit 9 Part 1 (光景: 位置関係の表現パターン)・Part 2 (Yes / No 疑問文③)・Part 3 (広告の予算や効果をおさえる)・Part 4 (注目を集める表現に注意する)	【事後学修】Unit 9 Part 1 (光景: 位置関係の表現パターン)・Part 2 (Yes / No 疑問文③)・Part 3 (広告の予算や効果をおさえる)・Part 4 (注目を集める表現に注意する) 語彙・音声復習	2 時間
第19回	オンデマンド	リーディング演習: Unit 10 Part 5 (前置詞)・Part 6 (文選択②)・Part 7 (意図問題②)	【事後学修】Unit 10 Part 5 (前置詞)・Part 6 (文選択②)・Part 7 (意図問題②) 語彙・精読復習	2 時間
第20回	オンデマンド	リスニング演習: Unit 10 Part 1 (「人物の動作」身に着けている表現パターン)・Part 2 (付加疑問文) Part 3 (会話の変換点をつかむ)・Part 4 (会議の目的をとらえる)	【事後学修】Unit 10 Part 1 (「人物の動作」身に着けている表現パターン)・Part 2 (付加疑問文)・Part 3 (会話の変換点をつかむ)・Part 4 (会議の目的をとらえる) 語彙・音声復習	2 時間
第21回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リーディング) に向けたポイント解説・復習	【事後学修】期末レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2 時間
第22回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リスニング) に向けたポイント解説・復習	【事後学修】期末レビュークイズ (リスニング) に向けた復習	2 時間
第23回	オンデマンド	リーディング演習: Unit 11 Part 5 (接続詞)・Part 6 (時制③)・Part 7 (NOT 問題②)	【事後学修】Unit 11 Part 5 (接続詞)・Part 6 (時制③)・Part 7 (NOT 問題②) 語彙・精読復習	2 時間
第24回	オンデマンド	リスニング演習: Unit 11 Part 1 (「人物の動作」抽象的な言い換えパターン)・Part 2 (否定疑問文)・Part 3 (「トラブル」⇒「解決」の流れをおさえる)・Part 4 (聞こえた情報をイメージに変換する)	事後学修: Unit 11 Part 1 (「人物の動作」抽象的な言い換えパターン)・Part 2 (否定疑問文)・Part 3 (「トラブル」⇒「解決」の流れをおさえる)・Part 4 (聞こえた情報をイメージに変換する) 語彙・音声復習	2 時間
第25回	オンデマンド	リーディング演習: Unit 13 Part 5 (関係代名詞)・Part 6 (接続表現③)・Part 7 (答えを推測する問題②)	事後学修: Unit 13 Part 5 (関係代名詞)・Part 6 (接続表現③)・Part 7 (答えを推測する問題②) 語彙・精読復習、期末レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2 時間
第26回	オンデマンド	リスニング演習: Unit 13 Part 1 (人物の動作: 推測するパターン)・Part 2 (提案・勧誘)・Part 3 (「意図問題」は設問を先に読む)・Part 4 (次を取るべき行動を聞き取る)	【事後学修】Unit 13 Part 1 (人物の動作: 推測するパターン)・Part 2 (提案・勧誘)・Part 3 (「意図問題」は設問を先に読む)・Part 4 (次を取るべき行動を聞き取る) 語彙・音声復習、期末レビュークイズ (リスニング) に向けた復習	2 時間
第27回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リーディング)	【事前学修】期末レビュークイズ (リーディング) に向けた復習	2 時間
第28回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リスニング)	【事前学修】期末レビュークイズ (リスニング) に向けた復習	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ (リーディング) 見直し	【事後学修】期末レビュークイズ (リーディング) の	2 時間

2026/05/01

	マンド	しと総復習	復習	
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング）見直しと総復習	【事後学修】期末レビュークイズ（リスニング）の復習	2 時間

科目名	Advanced English L/S I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	ルーデंकロー・クリス		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成			
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。			
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Interchange Level 1 Student's Book A with Digital Pack, Jack C. Richards et al., Cambridge University Press, 2017.		ISBN	978-1-0090-406-4
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 1: Where are you from? (1) Introductions and greetings; names, countries and nationalities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	対面	Unit 1: Where are you from? (2) Introducing oneself, introducing someone	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	対面	Unit 1: Where are you from? (3) Checking information; exchanging personal information.	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	対面	Unit 2: What do you do? (1) Jobs, workplaces and school; daily schedules; clock time	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	対面	Unit 2: What do you do? (2) Describing work and school	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	対面	Unit 2: What do you do? (3) Asking for and giving opinions; describing daily schedules	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	対面	Unit 3: How much are these? (1) Shopping and prices; clothing and personal items; colors and materials	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	対面	Unit 3: How much are these? (2) Talking about prices; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	対面	Unit 3: How much are these? (3) Discussing preferences; making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (1) Music, movies, and TV programs; entertainers; invitations and excuses; dates and times	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (2) Talking about likes and dislikes; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	対面	レビュークイズ1のための復習	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (3)	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	対面	レビュークイズ1	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	対面	Unit 5: What an interesting family! (1) Family members; typical families	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	対面	Unit 5: What an interesting family! (2) Talking about families and family members	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第18回	対面	Unit 5: What an interesting family! (3) Exchanging information about the present; describing family life	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	対面	Unit 6: How often do you run? (1) Sports; fitness activities, and exercise; routines	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 1-6 動画教材で既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	対面	Unit 6: How often do you run? (2) Asking about and describing routines and exercise	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	対面	Unit 6: How often do you run? (3) Talking about frequency; discussing sports and athletes; talking about abilities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	対面	Unit 7: We went dancing! (1) Free-time and weekend activities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	対面	Unit 7: We went dancing! (2) Talking about past events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (1) Stores and places in a city; neighborhoods; houses and apartments	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (2) Asking about and describing the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (3) Talking more about the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学習につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

科目名	Advanced English L/S I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	スコット・アレキサンダー		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成			
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。			
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Interchange Level 1 Student's Book A with Digital Pack, Jack C. Richards et al., Cambridge University Press, 2017.		ISBN	978-1-0090-406-4
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 1: Where are you from? (1) Introductions and greetings; names, countries and nationalities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	対面	Unit 1: Where are you from? (2) Introducing oneself, introducing someone	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	対面	Unit 1: Where are you from? (3) Checking information; exchanging personal information.	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	対面	Unit 2: What do you do? (1) Jobs, workplaces and school; daily schedules; clock time	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	対面	Unit 2: What do you do? (2) Describing work and school	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	対面	Unit 2: What do you do? (3) Asking for and giving opinions; describing daily schedules	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	対面	Unit 3: How much are these? (1) Shopping and prices; clothing and personal items; colors and materials	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	対面	Unit 3: How much are these? (2) Talking about prices; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	対面	Unit 3: How much are these? (3) Discussing preferences; making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (1) Music, movies, and TV programs; entertainers; invitations and excuses; dates and times	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (2) Talking about likes and dislikes; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	対面	レビュークイズ1のための復習	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (3)	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	対面	レビュークイズ1	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	対面	Unit 5: What an interesting family! (1) Family members; typical families	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	対面	Unit 5: What an interesting family! (2) Talking about families and family members	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第18回	対面	Unit 5: What an interesting family! (3) Exchanging information about the present; describing family life	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	対面	Unit 6: How often do you run? (1) Sports; fitness activities, and exercise; routines	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 1-6 動画教材で既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	対面	Unit 6: How often do you run? (2) Asking about and describing routines and exercise	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	対面	Unit 6: How often do you run? (3) Talking about frequency; discussing sports and athletes; talking about abilities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	対面	Unit 7: We went dancing! (1) Free-time and weekend activities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	対面	Unit 7: We went dancing! (2) Talking about past events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (1) Stores and places in a city; neighborhoods; houses and apartments	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (2) Asking about and describing the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (3) Talking more about the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学習につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

科目名	Advanced English L/S I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	カー・クリス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Interchange Level 1 Student's Book A with Digital Pack, Jack C. Richards et al., Cambridge University Press, 2017.	ISBN	978-1-0090-406-4
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 1: Where are you from? (1) Introductions and greetings; names, countries and nationalities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	対面	Unit 1: Where are you from? (2) Introducing oneself, introducing someone	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	対面	Unit 1: Where are you from? (3) Checking information; exchanging personal information.	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	対面	Unit 2: What do you do? (1) Jobs, workplaces and school; daily schedules; clock time	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	対面	Unit 2: What do you do? (2) Describing work and school	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	対面	Unit 2: What do you do? (3) Asking for and giving opinions; describing daily schedules	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	対面	Unit 3: How much are these? (1) Shopping and prices; clothing and personal items; colors and materials	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	対面	Unit 3: How much are these? (2) Talking about prices; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	対面	Unit 3: How much are these? (3) Discussing preferences; making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (1) Music, movies, and TV programs; entertainers; invitations and excuses; dates and times	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (2) Talking about likes and dislikes; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	対面	レビュークイズ1のための復習	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (3)	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	対面	レビュークイズ1	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	対面	Unit 5: What an interesting family! (1) Family members; typical families	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	対面	Unit 5: What an interesting family! (2) Talking about families and family members	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第18回	対面	Unit 5: What an interesting family! (3) Exchanging information about the present; describing family life	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	対面	Unit 6: How often do you run? (1) Sports; fitness activities, and exercise; routines	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 1-6 動画教材で既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	対面	Unit 6: How often do you run? (2) Asking about and describing routines and exercise	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	対面	Unit 6: How often do you run? (3) Talking about frequency; discussing sports and athletes; talking about abilities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	対面	Unit 7: We went dancing! (1) Free-time and weekend activities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	対面	Unit 7: We went dancing! (2) Talking about past events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (1) Stores and places in a city; neighborhoods; houses and apartments	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (2) Asking about and describing the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (3) Talking more about the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学習につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

科目名	Advanced English L/S I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	アンダーソン・テリー	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Interchange Level 1 Student's Book A with Digital Pack, Jack C. Richards et al., Cambridge University Press, 2017.	ISBN	978-1-0090-406-4
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 1: Where are you from? (1) Introductions and greetings; names, countries and nationalities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	対面	Unit 1: Where are you from? (2) Introducing oneself, introducing someone	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	対面	Unit 1: Where are you from? (3) Checking information; exchanging personal information.	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	対面	Unit 2: What do you do? (1) Jobs, workplaces and school; daily schedules; clock time	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	対面	Unit 2: What do you do? (2) Describing work and school	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	対面	Unit 2: What do you do? (3) Asking for and giving opinions; describing daily schedules	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	対面	Unit 3: How much are these? (1) Shopping and prices; clothing and personal items; colors and materials	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	対面	Unit 3: How much are these? (2) Talking about prices; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	対面	Unit 3: How much are these? (3) Discussing preferences; making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (1) Music, movies, and TV programs; entertainers; invitations and excuses; dates and times	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (2) Talking about likes and dislikes; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	対面	レビュークイズ1のための復習	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (3)	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	対面	レビュークイズ1	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	対面	Unit 5: What an interesting family! (1) Family members; typical families	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	対面	Unit 5: What an interesting family! (2) Talking about families and family members	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第18回	対面	Unit 5: What an interesting family! (3) Exchanging information about the present; describing family life	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	対面	Unit 6: How often do you run? (1) Sports; fitness activities, and exercise; routines	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 1-6 動画教材で既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	対面	Unit 6: How often do you run? (2) Asking about and describing routines and exercise	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	対面	Unit 6: How often do you run? (3) Talking about frequency; discussing sports and athletes; talking about abilities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	対面	Unit 7: We went dancing! (1) Free-time and weekend activities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	対面	Unit 7: We went dancing! (2) Talking about past events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (1) Stores and places in a city; neighborhoods; houses and apartments	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (2) Asking about and describing the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (3) Talking more about the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学習につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

科目名	Advanced English L/S I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストおよびレビュークイズは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Interchange Level 1 Student's Book A with Digital Pack, Jack C. Richards et al., Cambridge University Press, 2017.	ISBN	978-1-0090-406-4
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	コースの説明	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 1: Where are you from? (1) Introductions and greetings; names, countries and nationalities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	対面	Unit 1: Where are you from? (2) Introducing oneself, introducing someone	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	対面	Unit 1: Where are you from? (3) Checking information; exchanging personal information.	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	対面	Unit 2: What do you do? (1) Jobs, workplaces and school; daily schedules; clock time	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	対面	Unit 2: What do you do? (2) Describing work and school	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	対面	Unit 2: What do you do? (3) Asking for and giving opinions; describing daily schedules	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	対面	Unit 3: How much are these? (1) Shopping and prices; clothing and personal items; colors and materials	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	対面	Unit 3: How much are these? (2) Talking about prices; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	対面	Unit 3: How much are these? (3) Discussing preferences; making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (1) Music, movies, and TV programs; entertainers; invitations and excuses; dates and times	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (2) Talking about likes and dislikes; giving opinions	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	対面	レビュークイズ1のための復習	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	対面	Unit 4: Do you play the guitar? (3)	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	対面	レビュークイズ1	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	対面	Unit 5: What an interesting family! (1) Family members; typical families	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	対面	Unit 5: What an interesting family! (2) Talking about families and family members	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第18回	対面	Unit 5: What an interesting family! (3) Exchanging information about the present; describing family life	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	対面	Unit 6: How often do you run? (1) Sports; fitness activities, and exercise; routines	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 1-6 動画教材で既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	対面	Unit 6: How often do you run? (2) Asking about and describing routines and exercise	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	対面	Unit 6: How often do you run? (3) Talking about frequency; discussing sports and athletes; talking about abilities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	対面	Unit 7: We went dancing! (1) Free-time and weekend activities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	対面	Unit 7: We went dancing! (2) Talking about past events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (1) Stores and places in a city; neighborhoods; houses and apartments	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (2) Asking about and describing the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	対面	Unit 8: How's the neighborhood? (3) Talking more about the location of places	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学習につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

科目名	Advanced English L/S I		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ハモンズ・ジョアンナ		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成。			
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。			
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Interchange Intro Student's Book A with Digital Pack, Jack C. Richards, Cambridge University Press, 2017.		ISBN	978-1-0090-4056-3
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	コースの説明	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（2時間程度）を完成させること。	1 時間

第2回	オンデマンド	Unit 1: Where are you from? (1) Introductions and greetings; names, countries and nationalities	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第3回	オンデマンド	Unit 1: Where are you from? (2) Introducing oneself, introducing someone	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第4回	オンデマンド	Unit 1: Where are you from? (3) Checking information; exchanging personal information.	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第5回	オンデマンド	Unit 2: What do you do? (1) Jobs, workplaces and school; daily schedules; clock time	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第6回	オンデマンド	Unit 2: What do you do? (2) Describing work and school	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第7回	オンデマンド	Unit 2: What do you do? (3) Asking for and giving opinions; describing daily schedules	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第8回	オンデマンド	Unit 3: How much are these? (1) Shopping and prices; clothing and personal items; colors and materials	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第9回	オンデマンド	Unit 3: How much are these? (2) Talking about prices; giving opinions	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第10回	オンデマンド	Unit 3: How much are these? (3) Discussing preferences; making comparisons	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第11回	オンデマンド	Unit 4: Do you play the guitar? (1) Music, movies, and TV programs; entertainers; invitations and excuses; dates and times	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第12回	オンデマンド	Unit 4: Do you play the guitar? (2) Talking about likes and dislikes; giving opinions	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第13回	オンデマンド	Review Quiz 1 - Listening / Vocabulary 前半内容の理解度を確認する。	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第14回	オンデマンド	Review Quiz 1 Feedback / Unit continuation レビュー結果を確認し、学習を補強する。	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第15回	オンデマンド	Unit 4: Do you play the guitar? (3) Making invitations and excuses	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第16回	オンデマンド	Unit 5: What an interesting family! (1) Family members; typical families	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第17回	オンデマンド	Unit 5: What an interesting family? (2) Talking about families and family members	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第18回	オンデマンド	Unit 5: What an interesting family! (3) Exchanging information about the present; describing family life	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第19回	オンデマンド	Unit 6: How often do you run? (1) Sports; fitness activities, and exercise; routines	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 1-6 動画教材で既習内容を整理する。	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第21回	オンデマンド	Unit 6: How often do you run? (2) Asking about and describing routines and exercise	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第22回	オンデマンド	Unit 6: How often do you run? (3) Talking about frequency; discussing sports and athletes; talking about abilities	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第23回	オンデマンド	Unit 7: We went dancing! (1) Free-time and weekend activities	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第24回	オンデマンド	Unit 7: We went dancing! (2) Talking about past events	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第26回	オンデマンド	Review Quiz 2 - Listening / Written 学期後半の理解度を確認する。	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第27回	オンデマンド	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第28回	オンデマンド	Unit 7: We went dancing! (3) Giving opinions about past experiences; talking about vacations	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第29回	オンデマンド	Unit 8: How's the neighborhood? (1) Stores and places in a city; neighborhoods; houses and apartments	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間
第30回	オンデマンド	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学習につなげる。	教科書の内容と、授業中で取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題（1時間程度）を完成させること。	1時間

科目名	Advanced English L/S II		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	スコット・アレキサンダー		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成。			
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。			
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Interchange Intro Student’ s Book B with Digital Pack, Jack C. Richards, Cambridge University Press, 2017.		ISBN	978-1-0090-4057-0
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation 授業の目的、進め方、評価方法を確認し、 学術英語の学び方を理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 9. What does she look like? (1): Talking about appearance and dress	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第3回	対面	Unit 9. What does she look like? (2): Identifying people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第4回	対面	Unit 9. What does she look like? (3): Questions for describing people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第5回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (1): Talking about past experiences	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第6回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (2): Exchanging information about past experiences and events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第7回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (3): Present perfect yes/no statements	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第8回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (1): Asking about and describing cities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第9回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (2): Talking about travel	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第10回	対面	Unit 11 It's a really nice town. (3): Adverbs before adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第11回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (1): Talking about health problems	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第12回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (2): Asking for and giving health advice	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 12 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第15回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (3): Using modal verbs	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第16回	対面	Unit 13. What would you like? (1): Talking about food and restaurants	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第17回	対面	Unit 13. What would you like? (2): Expressing likes and dislikes	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第18回	対面	Unit 13. What would you like? (3): Modal verbs for requests	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第19回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (1): Describing countries	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 9-13 動画教材で前半内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	1 時間

			た、課題を完成させること。	
第21回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (2): Making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第22回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (3): Comparative and superlative forms of adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第23回	対面	Unit 15. What are you doing later? (1): Making invitations and excuses	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第24回	対面	Unit 15. What are you doing later? (2): Talking about plans	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第26回	対面	Review Quiz 2 - Listening 学期後半の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第28回	対面	Unit 15. What are you doing later? (3): Accepting and refusing information	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第29回	対面	Course Review - Academic listening & presentations 聞き取りと簡単な発表を総復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学術英語学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

科目名	Advanced English L/S II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ルーデंकロー・クリス	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成。		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Interchange Intro Student’ s Book B with Digital Pack, Jack C. Richards, Cambridge University Press, 2017.	ISBN	978-1-0090-4057-0
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation 授業の目的、進め方、評価方法を確認し、 学術英語の学び方を理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 9. What does she look like? (1): Talking about appearance and dress	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第3回	対面	Unit 9. What does she look like? (2): Identifying people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第4回	対面	Unit 9. What does she look like? (3): Questions for describing people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第5回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (1): Talking about past experiences	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第6回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (2): Exchanging information about past experiences and events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第7回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (3): Present perfect yes/no statements	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第8回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (1): Asking about and describing cities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第9回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (2): Talking about travel	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第10回	対面	Unit 11 It's a really nice town. (3): Adverbs before adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第11回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (1): Talking about health problems	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第12回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (2): Asking for and giving health advice	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 12 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第15回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (3): Using modal verbs	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第16回	対面	Unit 13. What would you like? (1): Talking about food and restaurants	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第17回	対面	Unit 13. What would you like? (2): Expressing likes and dislikes	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第18回	対面	Unit 13. What would you like? (3): Modal verbs for requests	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第19回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (1): Describing countries	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 9-13 動画教材で前半内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。ま	1 時間

			た、課題を完成させること。	
第21回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (2): Making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第22回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (3): Comparative and superlative forms of adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第23回	対面	Unit 15. What are you doing later? (1): Making invitations and excuses	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第24回	対面	Unit 15. What are you doing later? (2): Talking about plans	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第26回	対面	Review Quiz 2 - Listening 学期後半の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第28回	対面	Unit 15. What are you doing later? (3): Accepting and refusing information	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第29回	対面	Course Review - Academic listening & presentations 聞き取りと簡単な発表を総復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学術英語学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

科目名	Advanced English L/S II		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	カー・クリス		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成。			
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。			
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Interchange Intro Student' s Book B with Digital Pack, Jack C. Richards, Cambridge University Press, 2017.		ISBN	978-1-0090-4057-0
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		レビュークイズ1：20% レビュークイズ2：20%	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation 授業の目的、進め方、評価方法を確認し、 学術英語の学び方を理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 9. What does she look like? (1): Talking about appearance and dress	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第3回	対面	Unit 9. What does she look like? (2): Identifying people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第4回	対面	Unit 9. What does she look like? (3): Questions for describing people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第5回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (1): Talking about past experiences	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第6回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (2): Exchanging information about past experiences and events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第7回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (3): Present perfect yes/no statements	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第8回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (1): Asking about and describing cities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第9回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (2): Talking about travel	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第10回	対面	Unit 11 It's a really nice town. (3): Adverbs before adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第11回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (1): Talking about health problems	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第12回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (2): Asking for and giving health advice	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 12 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第15回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (3): Using modal verbs	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第16回	対面	Unit 13. What would you like? (1): Talking about food and restaurants	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第17回	対面	Unit 13. What would you like? (2): Expressing likes and dislikes	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第18回	対面	Unit 13. What would you like? (3): Modal verbs for requests	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第19回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (1): Describing countries	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 9-13 動画教材で前半内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

			た、課題を完成させること。	
第21回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (2): Making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第22回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (3): Comparative and superlative forms of adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第23回	対面	Unit 15. What are you doing later? (1): Making invitations and excuses	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第24回	対面	Unit 15. What are you doing later? (2): Talking about plans	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第26回	対面	Review Quiz 2 - Listening 学期後半の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第28回	対面	Unit 15. What are you doing later? (3): Accepting and refusing information	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第29回	対面	Course Review - Academic listening & presentations 聞き取りと簡単な発表を総復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学術英語学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

科目名	Advanced English L/S II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	アンダーソン・テリー	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成。		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Interchange Intro Student' s Book B with Digital Pack, Jack C. Richards, Cambridge University Press, 2017.	ISBN	978-1-0090-4057-0
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation 授業の目的、進め方、評価方法を確認し、 学術英語の学び方を理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 9. What does she look like? (1): Talking about appearance and dress	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第3回	対面	Unit 9. What does she look like? (2): Identifying people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第4回	対面	Unit 9. What does she look like? (3): Questions for describing people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第5回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (1): Talking about past experiences	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第6回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (2): Exchanging information about past experiences and events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第7回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (3): Present perfect yes/no statements	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第8回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (1): Asking about and describing cities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第9回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (2): Talking about travel	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第10回	対面	Unit 11 It's a really nice town. (3): Adverbs before adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第11回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (1): Talking about health problems	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第12回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (2): Asking for and giving health advice	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 12 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第15回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (3): Using modal verbs	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第16回	対面	Unit 13. What would you like? (1): Talking about food and restaurants	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第17回	対面	Unit 13. What would you like? (2): Expressing likes and dislikes	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第18回	対面	Unit 13. What would you like? (3): Modal verbs for requests	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第19回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (1): Describing countries	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 9-13 動画教材で前半内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

			た、課題を完成させること。	
第21回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (2): Making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第22回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (3): Comparative and superlative forms of adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第23回	対面	Unit 15. What are you doing later? (1): Making invitations and excuses	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第24回	対面	Unit 15. What are you doing later? (2): Talking about plans	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第26回	対面	Review Quiz 2 - Listening 学期後半の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第28回	対面	Unit 15. What are you doing later? (3): Accepting and refusing information	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第29回	対面	Course Review - Academic listening & presentations 聞き取りと簡単な発表を総復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学術英語学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

科目名	Advanced English L/S II		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ハモンズ・ジョアンナ		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成。			
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。			
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Interchange Intro Student' s Book B with Digital Pack, Jack C. Richards, Cambridge University Press, 2017.		ISBN	978-1-0090-4057-0
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		45	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course Orientation 授業の目的、進め方、評価方法を確認し、 学術英語の学び方を理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかり復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

第2回	対面	Unit 9. What does she look like? (1): Talking about appearance and dress	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第3回	対面	Unit 9. What does she look like? (2): Identifying people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第4回	対面	Unit 9. What does she look like? (3): Questions for describing people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第5回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (1): Talking about past experiences	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第6回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (2): Exchanging information about past experiences and events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第7回	対面	Unit 10. Have you ever been there? (3): Present perfect yes/no statements	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第8回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (1): Asking about and describing cities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第9回	対面	Unit 11. It's a really nice town. (2): Talking about travel	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第10回	対面	Unit 11 It's a really nice town. (3): Adverbs before adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第11回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (1): Talking about health problems	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第12回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (2): Asking for and giving health advice	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第13回	対面	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第14回	対面	Review Quiz 1 Feedback / Unit 12 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第15回	対面	Unit 12. It's important to get rest. (3): Using modal verbs	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第16回	対面	Unit 13. What would you like? (1): Talking about food and restaurants	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第17回	対面	Unit 13. What would you like? (2): Expressing likes and dislikes	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第18回	対面	Unit 13. What would you like? (3): Modal verbs for requests	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第19回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (1): Describing countries	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of Units 9-13 動画教材で前半内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

			た、課題を完成させること。	
第21回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (2): Making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第22回	対面	Unit 14. It's the coldest city! (3): Comparative and superlative forms of adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第23回	対面	Unit 15. What are you doing later? (1): Making invitations and excuses	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第24回	対面	Unit 15. What are you doing later? (2): Talking about plans	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第26回	対面	Review Quiz 2 - Listening 学期後半の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第27回	対面	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第28回	対面	Unit 15. What are you doing later? (3): Accepting and refusing information	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第29回	対面	Course Review - Academic listening & presentations 聞き取りと簡単な発表を総復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第30回	対面	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学術英語学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

科目名	Advanced English L/S II（再履修）	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語の聴解、会話、文法、語彙を中心に、基礎知識の強化と運用能力の養成。		
授業の目的及び概要	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。特に、「意味が分かる単語」（受容語彙、passive vocabulary）を「会話で使える単語」（産出語彙、active vocabulary）へ変更することに重点を置く。基本語彙・表現・文型などを練習し、ロールプレイなどのアクティビティなどで実際に使って、スピーキング技能をしっかりと身に付ける。また、授業内で実施するスピーキング課題や小テストを通して、自身のスピーキング力を把握し、目標を立てて継続的に向上を目指す。評価は、授業で扱った内容と直結した形で行い、学修成果が明確に可視化される設計とする。将来、国際的な環境や多様な職場において主体的に行動し、他者と協働しながら英語で実践的に意思疎通できる人材への成長を目指す。		
履修条件・留意点	授業には、英和辞典、電子辞書、または辞書機能を備えたスマートフォン等を持参すること。授業中のスマートフォン等の使用は、学修目的に限って認める。辞書検索や課題遂行など、教員の指示に基づく場合を除き、私的利用（SNS 等）は禁止とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外・留学体験、国際交流、職場など、将来の活動に備えて、スピーキング力と対話力を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Interchange Intro Student' s Book B with Digital Pack, Jack C. Richards, Cambridge University Press, 2017.	ISBN	978-1-0090-4057-0
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	レビュークイズ1：20％ レビュークイズ2：20％	
この科目の受講にあたって	この科目では、聞く・話す活動を通して、英語を実際に使う力を養います。間違いを恐れず、積極的に授業に参加してください。授業内でのペア活動や発話練習を通して、少しずつ自信をつけていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	Course Orientation 授業の目的、進め方、評価方法を確認し、 学術英語の学び方を理解する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

第2回	オンデマンド	Unit 9. What does she look like? (1): Talking about appearance and dress	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第3回	オンデマンド	Unit 9. What does she look like? (2): Identifying people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第4回	オンデマンド	Unit 9. What does she look like? (3): Questions for describing people	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第5回	オンデマンド	Unit 10. Have you ever been there? (1): Talking about past experiences	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第6回	オンデマンド	Unit 10. Have you ever been there? (2): Exchanging information about past experiences and events	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第7回	オンデマンド	Unit 10. Have you ever been there? (3): Present perfect yes/no statements	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第8回	オンデマンド	Unit 11. It's a really nice town. (1): Asking about and describing cities	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第9回	オンデマンド	Unit 11. It's a really nice town. (2): Talking about travel	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第10回	オンデマンド	Unit 11 It's a really nice town. (3): Adverbs before adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第11回	オンデマンド	Unit 12. It's important to get rest. (1): Talking about health problems	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第12回	オンデマンド	Unit 12. It's important to get rest. (2): Asking for and giving health advice	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第13回	オンデマンド	Review Quiz 1 - Listening 前半内容の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第14回	オンデマンド	Review Quiz 1 Feedback / Unit 12 continuation レビュー結果を確認し、学修内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第15回	オンデマンド	Unit 12. It's important to get rest. (3): Using modal verbs	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第16回	オンデマンド	Unit 13. What would you like? (1): Talking about food and restaurants	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第17回	オンデマンド	Unit 13. What would you like? (2): Expressing likes and dislikes	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第18回	オンデマンド	Unit 13. What would you like? (3): Modal verbs for requests	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第19回	オンデマンド	Unit 14. It's the coldest city! (1): Describing countries	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第20回	オンデマンド	Review - Review of Previous Units 動画教材で前半内容を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

			た、課題を完成させること。	
第21回	オンデマンド	Unit 14. It's the coldest city! (2): Making comparisons	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第22回	オンデマンド	Unit 14. It's the coldest city! (3): Comparative and superlative forms of adjectives	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第23回	オンデマンド	Unit 15. What are you doing later? (1): Making invitations and excuses	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第24回	オンデマンド	Unit 15. What are you doing later? (2): Talking about plans	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第25回	オンデマンド	Review - Preparation for Review Quiz 2 動画教材で後半内容を復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第26回	オンデマンド	Review Quiz 2 - Listening 学期後半の聞き取り理解を確認する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第27回	オンデマンド	Review Quiz 2 Feedback 結果をもとに学修成果を整理する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第28回	オンデマンド	Unit 15. What are you doing later? (3): Accepting and refusing information	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第29回	オンデマンド	Course Review - Academic listening & presentations 聞き取りと簡単な発表を総復習する。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間
第30回	オンデマンド	Summary / Reflection - Looking ahead 授業全体を振り返り、今後の学術英語学修につなげる。	教科書の内容と、授業中に取ったメモをしっかりと復習し、積極的に内容の練習・暗記に取り組むこと。また、課題を完成させること。	1 時間

科目名	韓国語 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	尹 恵彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	はじめての韓国語		
授業の目的及び概要	この授業では、はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とする。 この授業の目的は、韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きを習得するとともに、基本的な語彙や表現を身につけることである。 具体的には、挨拶やあいづちなどの定型表現を使いながら、簡単なやりとりができるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	初回の授業においてプレメンテストを実施し、その結果に基づいてクラスを編成する場合がある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 知識・技能の観点 韓国語の文字や発音の基礎を身につけ、基本的な語彙・文法事項・構文を用いて表現することができる。 2. 思考力・判断力・表現力等の観点 韓国語の文字を正しく書き、発音を正確かつ自然に行うことができるとともに、基礎的な構文を用いて、語彙を入れ替えながら表現を応用することができる。 3. 主体的な態度の観点 学修に主体的かつ積極的に取り組み、能動的に授業へ参加することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 全体的なフィードバック 授業中に適宜、全体に向けたフィードバックを行う。 2. 個別のフィードバック 学修管理システムを通じて、個別にフィードバックを行う		
アクティブ・ラーニング の取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	河正一（2022）『ワンステップ韓国語—文字からはじめて中級を目指すあなたへー』朝日出版 ※ 授業開始までに購入しておいてください。 その他、必要に応じて教師がテキストを準備し、適宜プリントを配布します。	ISBN	9784255556895
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	初めて学ぶ外国語なので、最初は慣れるまで時間がかかります。 ハングルは「誰もが簡単に読み書きできること」を目指して作られた文字です。 ちょっとしたコツをつかみさえすれば、短期間でマスターできます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	本科目の概要、ウォーミングアップ 文字編：第1課 韓国・朝鮮語の特徴、基本母音	【復習】授業で学んだことを確認する。	1時間
第2回	対面	文字編：第2課 基本子音（平音）、激音、濃音	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第3回	対面	文字編：第3課 複合母音	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第4回	対面	文字編：第4課 終声（パッチム）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第5回	対面	文字編：第5課 発音の変化	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第6回	対面	文字編：まとめ 日本語のハングル表記	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第7回	対面	文法編：第1課 입니다, 助詞「는/은」, 助詞「도」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第8回	対面	文法編：第1課 라고/이라고 합니다	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第9回	対面	文法編：第2課 합니다体, 助詞「를/을」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第10回	対面	文法編：第2課 助詞「에서」, 助詞「에位置」, 否定形（지 않다）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第11回	対面	文法編：第3課 指示語, 助詞「가/이」, 助詞「와/과」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第12回	対面	文法編：第3課 漢数詞, 가/이 아니다	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第13回	対面	文法編：第4課 固有数詞, 助詞「에時間」, 助詞「에方向」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第14回	対面	文法編：第4課 助詞「에서/부터～까지」, 否定形「안」, 를/을 좋아합니다	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	3時間
第15回	オンデマンド	授業の総括	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第16回	対面	文法編：第5課 해요体, 예요/이에요（가/이 아니에요）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第17回	対面	文法編：第5課（予定を述べる2） 助詞「로/으로（手段）」, 助詞「보다」, 助詞のずれ	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第18回	対面	文法編：第5課のまとめ 会話練習	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第19回	対面	文法編：第6課 過去形, 助詞「에게/에게서対象」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第20回	対面	文法編：第6課 고, 고 싶다, 요/이요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第21回	対面	文法編：第6課のまとめ 会話練習（過去の出来事を述べる）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第22回	対面	文法編：第7課 尊敬形（가/이 어떻게 되세요, 尊敬形助詞）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第23回	対面	文法編：第7課 겠, ㄹ까요/을까요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第24回	対面	文法編：第7課のまとめ	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。	2時間

		会話練習	【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	
第25回	対面	文法編：第8課 尊敬形の過去形, 助詞「밖에」, 아직 안 + 過去	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2 時間
第26回	対面	文法編：第8課（尊敬形の過去形を学ぶ） 러/으러, ㅂ게요/을게요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2 時間
第27回	対面	文法編：第8課のまとめ 会話練習	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2 時間
第28回	対面	文法編：第9課 아/어 주다/주세요/주시겠어요, 助詞「만」, 助詞「에（単位）」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2 時間
第29回	対面	文法編：第9課（理由・原因を述べる） 아서/어서, 지만, 지요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2 時間
第30回	オンデマンド	総括・まとめ	【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	1 時間

科目名	韓国語 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	はじめての韓国語		
授業の目的及び概要	この授業では、はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とする。 この授業の目的は、韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きを習得するとともに、基本的な語彙や表現を身につけることである。 具体的には、挨拶やあいづちなどの定型表現を使いながら、簡単なやりとりができるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	初回の授業においてプレメンテストを実施し、その結果に基づいてクラスを編成する場合がある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 知識・技能の観点 韓国語の文字や発音の基礎を身につけ、基本的な語彙・文法事項・構文を用いて表現することができる。 2. 思考力・判断力・表現力等の観点 韓国語の文字を正しく書き、発音を正確かつ自然に行うことができるとともに、基礎的な構文を用いて、語彙を入れ替えながら表現を応用することができる。 3. 主体的な態度の観点 学修に主体的かつ積極的に取り組み、能動的に授業へ参加することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 全体的なフィードバック 授業中に適宜、全体に向けたフィードバックを行う。 2. 個別のフィードバック 学修管理システムを通じて、個別にフィードバックを行う		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	河正一（2022）『ワンステップ韓国語—文字からはじめて中級を目指すあなたへー』朝日出版 ※ 授業開始までに購入しておいてください。 その他、必要に応じて教師がテキストを準備し、適宜プリントを配布します。	ISBN	9784255556895
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	初めて学ぶ外国語なので、最初は慣れるまで時間がかかります。 ハングルは「誰もが簡単に読み書きできること」を目指して作られた文字です。 ちょっとしたコツをつかみさえすれば、短期間でマスターできます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	本科目の概要、ウォーミングアップ 文字編：第1課 韓国・朝鮮語の特徴、基本母音	【復習】授業で学んだことを確認する。	1時間
第2回	対面	文字編：第2課 基本子音（平音）、激音、濃音	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第3回	対面	文字編：第3課 複合母音	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第4回	対面	文字編：第4課 終声（パッチム）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第5回	対面	文字編：第5課 発音の変化	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第6回	対面	文字編：まとめ 日本語のハングル表記	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第7回	対面	文法編：第1課 입니다, 助詞「는/은」, 助詞「도」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第8回	対面	文法編：第1課 라고/이라고 합니다	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第9回	対面	文法編：第2課 합니다体, 助詞「를/을」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第10回	対面	文法編：第2課 助詞「에서」, 助詞「에位置」, 否定形（지 않다）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第11回	対面	文法編：第3課 指示語, 助詞「가/이」, 助詞「와/과」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第12回	対面	文法編：第3課 漢数詞, 가/이 아니다	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第13回	対面	文法編：第4課 固有数詞, 助詞「에時間」, 助詞「에方向」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第14回	対面	文法編：第4課 助詞「에서/부터～까지」, 否定形「안」, 를/을 좋아합니다	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	3時間
第15回	オンデマンド	授業の総括	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第16回	対面	文法編：第5課 해요体, 예요/이에요（가/이 아니에요）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第17回	対面	文法編：第5課（予定を述べる2） 助詞「로/으로（手段）」, 助詞「보다」, 助詞のずれ	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第18回	対面	文法編：第5課のまとめ 会話練習	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第19回	対面	文法編：第6課 過去形, 助詞「에게/에게서対象」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第20回	対面	文法編：第6課 고, 고 싶다, 요/이요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第21回	対面	文法編：第6課のまとめ 会話練習（過去の出来事を述べる）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第22回	対面	文法編：第7課 尊敬形（가/이 어떻게 되세요, 尊敬形助詞）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第23回	対面	文法編：第7課 겠, ㄹ까요/을까요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第24回	対面	文法編：第7課のまとめ	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。	2時間

		会話練習	【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	
第25回	対面	文法編：第8課 尊敬形の過去形, 助詞「밖에」, 아직 안 + 過去	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2 時間
第26回	対面	文法編：第8課（尊敬形の過去形を学ぶ） 러/으러, ㅂ게요/을게요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2 時間
第27回	対面	文法編：第8課のまとめ 会話練習	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2 時間
第28回	対面	文法編：第9課 아/어 주다/주세요/주시겠어요, 助詞「만」, 助詞「에（単位）」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2 時間
第29回	対面	文法編：第9課（理由・原因を述べる） 아서/어서, 지만, 지요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2 時間
第30回	オンデマンド	総括・まとめ	【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	1 時間

科目名	韓国語 I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	尹 恵彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	はじめての韓国語		
授業の目的及び概要	この授業では、はじめて韓国語を学ぶ学生（再履修者）を対象とする。 この授業の目的は、韓国語の文字であるハングルの正確な読み書きを習得するとともに、基本的な語彙や表現を身につけることである。具体的には、挨拶やあいづちなどの定型表現を使いながら、簡単なやりとりができるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	韓国語 I の再履修者のみが受講できる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 知識・技能の観点 韓国語の文字や発音の基礎を身につけ、基本的な語彙・文法事項・構文を用いて表現することができる。 2. 思考力・判断力・表現力等の観点 韓国語の文字を正しく書き、発音を正確かつ自然に行うことができるとともに、基礎的な構文を用いて、語彙を入れ替えながら表現を応用することができる。 4. 主体的な態度の観点 学修に主体的かつ積極的に取り組み、能動的に授業へ参加することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学習管理システムを通じて、フィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	河正一（2022）『ワンステップ韓国語—文字からはじめて中級を目指すあなたへー』朝日出版 ※ 授業開始までに購入しておいてください。 その他、必要に応じて教師がテキストを準備し、適宜プリントを配布します。	ISBN	9784255556895
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	80	
	その他の内容	毎回の課題の提出状況および内容に基づいて評価を行う。	
この科目の受講にあたって	初めて学ぶ外国語なので、最初は慣れるまで時間がかかります。 ハングルは「誰もが簡単に読み書きできること」を目指して作られた文字です。 ちょっとしたコツをつかみさえすれば、短期間でマスターできます。 失敗を恐れずに、積極的に楽しく学びましょう。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式		学修時間
第1回	オンデマンド	本科目の概要、ウォーミングアップ 文字編：第1課 韓国・朝鮮語の特徴、基本母音	【復習】授業で学んだことを確認する。 1時間
第2回	オンデマンド	文字編：第2課 基本子音（平音）、激音、濃音	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第3回	オンデマンド	文字編：第3課 複合母音	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第4回	オンデマンド	文字編：第4課 終声（パッチム）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第5回	オンデマンド	文字編：第5課 発音の変化	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第6回	オンデマンド	文字編：まとめ 日本語のハングル表記	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第7回	オンデマンド	文法編：第1課 입니다, 助詞「는/은」, 助詞「도」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第8回	オンデマンド	文法編：第1課 라고/이라고 합니다	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第9回	オンデマンド	文法編：第2課 합니다体, 助詞「를/을」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第10回	オンデマンド	文法編：第2課 助詞「에서」, 助詞「에位置」, 否定形（지 않다）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第11回	オンデマンド	文法編：第3課 指示語, 助詞「가/이」, 助詞「와/과」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第12回	オンデマンド	文法編：第3課 漢数詞, 가/이 아니다	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第13回	オンデマンド	文法編：第4課 固有数詞, 助詞「에時間」, 助詞「에方向」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第14回	オンデマンド	文法編：第4課 助詞「에서/부터～까지」, 否定形「안」, 를/을 좋아합니다	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 3時間
第15回	オンデマンド	授業の総括	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第16回	オンデマンド	文法編：第5課 해요体, 예요/이에요（가/이 아니에요）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第17回	オンデマンド	文法編：第5課（予定を述べる2） 助詞「로/으로（手段）」, 助詞「보다」, 助詞のずれ	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第18回	オンデマンド	文法編：第5課のまとめ 会話練習	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第19回	オンデマンド	文法編：第6課 過去形, 助詞「에게/에게서対象」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第20回	オンデマンド	文法編：第6課 고, 고 싶다, 요/이요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第21回	オンデマンド	文法編：第6課のまとめ 会話練習（過去の出来事を述べる）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第22回	オンデマンド	文法編：第7課 尊敬形（가/이 어떻게 되세요, 尊敬形助詞）	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第23回	オンデマンド	文法編：第7課 겠, ㄹ까요/을까요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間
第24回	オンデマンド	文法編：第7課のまとめ 会話練習	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。 2時間

第25回	オンデマンド	文法編：第8課 尊敬形の過去形，助詞「밖에」，아직 안+過去	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第26回	オンデマンド	文法編：第8課（尊敬形の過去形を学ぶ） 러/으러, ㄹ게요/을게요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第27回	オンデマンド	文法編：第8課のまとめ 会話練習	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2時間
第28回	オンデマンド	文法編：第9課 아/어 주다/주세요/주시겠어요, 助詞「만」, 助詞「에（単位）」	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2時間
第29回	オンデマンド	文法編：第9課（理由・原因を述べる） 아서/어서, 지만, 지요	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2時間
第30回	オンデマンド	総括・まとめ	【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	1時間

科目名	韓国語Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	実用韓国語		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、テーマに沿った会話ができるようになることである。 具体的には、招待や訪問、季節、交通、旅行などのテーマに基づいた基本的な対話を通して、自分の経験や計画について話せるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	この授業では、韓国語Ⅰを修了した学生、またはハングルの読み書きができ、～体を使いこなせる学生を対象とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 知識・技能の観点 韓国語を用いて、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。 2. 思考力・判断力・表現力等の観点 基礎的な構文をもとに、語彙を置き換えながら応用的な表現を行うことができる。 3. 主体的な態度の観点 授業に主体的かつ積極的に参加し、能動的に学修に取り組むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 全体的なフィードバック 授業中に適宜、全体に向けたフィードバックを行う。 2. 個別のフィードバック 学習管理システムを通じて、個別にフィードバックを行う		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『カナタ KOREAN 初級 2』カナタ韓国語学院著、 国書刊行会 ※ 授業開始までに購入しておいてください。 その他、必要に応じて教師がテキストを準備し、適宜プリントを配布します。	ISBN	9784336056788
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	韓国語Ⅱでは、韓国語Ⅰで学んだことを使いながら、少しずつ「話す」「やりとりする」練習をしていきます。 最初はうまく話せなくても大丈夫です。大切なのは、失敗を恐れずにチャレンジすることです。 授業では、会話練習やロールプレイを通して、楽しく実用的な韓国語を身に付けていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	本科目の概要、ウォーミングアップ 第1課【교실에서】	【復習】授業で学んだことを確認する。	1時間
第2回	対面	第2課【전화연락】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第3回	対面	第3課【약속/제안】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第4回	対面	第4課【찾집】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第5回	対面	第5課【음식】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第6回	対面	第6課【전화주문】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第7回	対面	第7課【옷】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第8回	対面	第8課【위치】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第9回	対面	第9課【경험】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第10回	対面	第10課【물건소개】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第11回	対面	第11課【친구소개】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第12回	対面	第12課【계절 1】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第13回	対面	第13課【계절 2】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第14回	対面	第14課【계절 3】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	3時間
第15回	オンデマンド	第15課【계절 4】 総括・まとめ	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第16回	対面	第16課【한국어경력】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第17回	対面	第17課【부탁】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第18回	対面	第18課【은행】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第19回	対面	第19課【우체국】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第20回	対面	第20課【여행사】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第21回	対面	第21課【옷가게】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第22回	対面	第22課【서점】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第23回	対面	第23課【미용실】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第24回	対面	第24課【사과】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第25回	対面	第25課【축하】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第26回	対面	第26課【허락・금지】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第27回	対面	第27課【걱정】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。	2時間

2026/05/01

			【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	
第28回	対面	第28課【헤어짐】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2時間
第29回	対面	第29課【콘서트】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2時間
第30回	オンデマンド	第30課【방문】 総括・まとめ	【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	1時間

科目名	韓国語Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	尹 恵彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	実用韓国語		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、テーマに沿った会話ができるようになることである。 具体的には、招待や訪問、季節、交通、旅行などのテーマに基づいた基本的な対話を通して、自分の経験や計画について話せるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	この授業では、韓国語Ⅰを修了した学生、またはハングルの読み書きができ、～体を使いこなせる学生を対象とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 知識・技能の観点 韓国語を用いて、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。 2. 思考力・判断力・表現力等の観点 基礎的な構文をもとに、語彙を置き換えながら応用的な表現を行うことができる。 3. 主体的な態度の観点 授業に主体的かつ積極的に参加し、能動的に学修に取り組むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	1. 全体的なフィードバック 授業中に適宜、全体に向けたフィードバックを行う。 2. 個別のフィードバック 学習管理システムを通じて、個別にフィードバックを行う		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『カナタ KOREAN 初級 2』カナタ韓国語学院著、 国書刊行会 ※ 授業開始までに購入しておいてください。 その他、必要に応じて教師がテキストを準備し、適宜プリントを配布します。	ISBN	9784336056788
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	韓国語Ⅱでは、韓国語Ⅰで学んだことを使いながら、少しずつ「話す」「やりとりする」練習をしていきます。 最初はうまく話せなくても大丈夫です。大切なのは、失敗を恐れずにチャレンジすることです。 授業では、会話練習やロールプレイを通して、楽しく実用的な韓国語を身に付けていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	本科目の概要、ウォーミングアップ 第1課【교실에서】	【復習】授業で学んだことを確認する。	1時間
第2回	対面	第2課【전화연락】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第3回	対面	第3課【약속/제안】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第4回	対面	第4課【찾집】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第5回	対面	第5課【음식】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第6回	対面	第6課【전화주문】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第7回	対面	第7課【옷】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第8回	対面	第8課【위치】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第9回	対面	第9課【경험】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第10回	対面	第10課【물건소개】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第11回	対面	第11課【친구소개】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第12回	対面	第12課【계절 1】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第13回	対面	第13課【계절 2】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第14回	対面	第14課【계절 3】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	3時間
第15回	オンデマンド	第15課【계절 4】 総括・まとめ	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第16回	対面	第16課【한국어경력】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第17回	対面	第17課【부탁】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第18回	対面	第18課【은행】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第19回	対面	第19課【우체국】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第20回	対面	第20課【여행사】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第21回	対面	第21課【옷가게】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第22回	対面	第22課【서점】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第23回	対面	第23課【미용실】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第24回	対面	第24課【사과】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第25回	対面	第25課【축하】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第26回	対面	第26課【허락・금지】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する。	2時間
第27回	対面	第27課【걱정】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。	2時間

2026/05/01

			【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	
第28回	対面	第28課【헤어짐】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2時間
第29回	対面	第29課【콘서트】	【予習】教師が指定した内容を事前に学習する。 【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	2時間
第30回	オンデマンド	第30課【방문】 総括・まとめ	【復習】授業で学んだ内容を振り返り、確認する	1時間

科目名	中国語 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	姜 若冰	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	初級中国語（上）		
授業の目的及び概要	この授業は、中国語の基本的な知識を習得することを目的とする。 具体的には、ピンイン（拼音）という中国語の発音表記システム、初歩的な語彙、文法、簡単な日常会話を学習する。 この授業は 2 名の教員が担当し、教科書の前半部分を学習する。 発音の学習が終了してから、2 名の教員が文法理解、会話練習にそれぞれ重心を置いて授業を進める。 授業内で HSK（漢語水平考試）や中国語検定試験についても適宜指導する。		
履修条件・留意点	この科目は国際学部選択必修外国語科目である。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	中国語の発音を徹底的に理解でき、練習を繰り返し正確な発音を身につけることができる。 基礎的な文法及び語彙を習得し、簡単な会話と作文ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員が履修者全員の発音を、一人ずつ確認し、指導をする。 小テストや練習問題などの提出物も採点、添削したうえで返却し、授業にて講評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『好好!!中国語基礎 I』関光世・前田比呂子・李光曦、金星堂、2026 年	ISBN	978-4-7647-0743-6
参考書	授業中で適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	35	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	45	
	その他の内容	まとめテスト	
この科目の受講にあたって	外国語の勉強は実践が大事。自分で声を出して話すことは、上達につながる。 音声データを活用して耳を鍛え、十分な予習と復習をした上で受講すれば、確実に効果が見られる。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業計画の説明・発音 0：発音概説	第 1 課・発音 1 を予習し、附属の音声資料を利用して発音の練習をする。	2 時間
第 2 回	対面	授業計画の説明・発音 1：音節・声調・単母音	第 1 課・発音 2 を予習し、附属の音声資料を利用して発音の練習をする。	2 時間
第 3 回	対面	発音 2：子音	第 1 課を復習し、第 2 課・発音 3 を予習する。発音練習をする。	2 時間

第4回	対面	発音3：複母音・鼻母音・アール化	第1課を復習し、第2課・発音4を予習する。発音練習をする。	2時間
第5回	対面	発音4：軽声・変調・その他	第2課を復習し、発音の復習をする。発音テストに向けて準備する。	2時間
第6回	対面	発音のまとめ・発音確認テスト（10点）	発音テストを振り返り、第3課を予習する。	2時間
第7回	対面	発音の復習・第3課文法	第3課文法を復習し、会話部分を予習する。	2時間
第8回	対面	第3課会話	第3課会話を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第9回	対面	第3課文法復習・小テスト（5点）	第3課全体を復習し、会話部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第10回	対面	第3課会話復習・小テスト（2.5点）	第3課を復習し、第4課を予習する。	2時間
第11回	対面	第4課文法	第4課文法を復習し、会話部分を予習する。	2時間
第12回	対面	第4課会話	第4課会話を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第13回	対面	第4課文法復習・小テスト（5点）	第4課全体を復習し、会話部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第14回	対面	第4課会話復習・小テスト（2.5点）	第4課を復習し、第5課を予習する。	2時間
第15回	対面	第5課文法	第5課文法を復習し、会話部分を予習する。	2時間
第16回	対面	第5課会話	第5課会話を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第17回	対面	第5課文法復習・小テスト（5点）	第5課全体を復習し、会話部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第18回	対面	第5課会話復習・小テスト（2.5点）	第5課を復習し、第6課を予習する。	2時間
第19回	対面	第6課文法	第6課文法を復習し、会話部分を予習する。	2時間
第20回	対面	第6課会話	第6課会話を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第21回	対面	第6課文法復習・小テスト（5点）	第6課全体を復習し、会話部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第22回	対面	第6課会話復習・小テスト（2.5点）	第6課を復習し、第7課を予習する。	2時間
第23回	対面	第7課文法	第7課文法を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第24回	対面	会話の総復習・スピーチ原稿作成	作成したスピーチの原稿を熟読し、流暢に発表できるよう準備する。	2時間
第25回	対面	第7課文法復習・小テスト（5点）	第7課文法部分までの内容を復習し、まとめテストに向けて準備する。	2時間
第26回	対面	会話のまとめ：中国語でスピーチ（15点）	口頭発表（スピーチ）を振り返り、文法部分の総復習をする。	2時間
第27回	対面	文法の総復習	春学期の学習内容を振り返り、文法部分のまとめテストに向けて準備する。	2時間
第28回	対面	文法のまとめ：筆記テスト（30点）	文法テストを振り返り、中国語検定と HSK について予習する。	2時間
第29回	オンデマンド	中国語検定かんたんレベルチェック（準4級～）	語学検定で力試し、秋学期の学習計画を立てる。	2時間
第30回	オンデマンド	HSK レベルチェックテスト（1級～）	語学検定で力試し、秋学期の学習計画を立てる。	2時間

科目名	中国語 I	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	姜 若冰	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	初級中国語（上）		
授業の目的及び概要	この授業は、中国語の基本的な知識を習得することを目的とする。 具体的には、ピンイン（拼音）という中国語の発音表記システム、初歩的な語彙、文法、簡単な日常会話を学習する。 この授業は 2 名の教員が担当し、教科書の前半部分を学習する。 発音の学習が終了してから、2 名の教員が文法理解、会話練習にそれぞれ重心を置いて授業を進める。 授業内で HSK（漢語水平考試）や中国語検定試験についても適宜指導する。		
履修条件・留意点	この科目は国際学部選択必修外国語科目（再履修）である。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	中国語の発音を徹底的に理解でき、練習を繰り返し正確な発音を身につけることができる。 基礎的な文法及び語彙を習得し、簡単な会話と作文ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員が履修者全員の発音を、一人ずつ確認し、指導をする。 小テストや練習問題などの提出物も採点、添削したうえで返却し、講評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『好好!!中国語基礎 I』関光世・前田比呂子・李光曦、金星堂、2026 年	ISBN	978-4-7647-0743-6
参考書	授業中で適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	35	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	45	
	その他の内容	まとめテスト&スピーチ	
この科目の受講にあたって	外国語の勉強は実践が大事。自分で声を出して話すことは、上達につながる。 音声データを活用して耳を鍛え、十分な予習と復習をした上で受講すれば、確実に効果が見られる。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	授業計画の説明・発音 0：発音概説	第 1 課・発音 1 を予習し、附属の音声資料を利用して発音の練習をする。	2 時間
第 2 回	オンデマンド	授業計画の説明・発音 1：音節・声調・単母音	第 1 課・発音 2 を予習し、附属の音声資料を利用して発音の練習をする。	2 時間
第 3 回	オンデ	発音 2：子音	第 1 課を復習し、第 2 課・発音 3 を予習する。発音練	2 時間

	マンド		習をする。	
第4回	オンデマンド	発音3：複母音・鼻母音・アール化	第1課を復習し、第2課・発音4を予習する。発音練習をする。	2時間
第5回	オンデマンド	発音4：軽声・変調・その他	第2課を復習し、発音の復習をする。発音テストに向けて準備する。	2時間
第6回	オンデマンド	発音のまとめ・発音確認テスト（10点）	発音テストを振り返り、第3課を予習する。	2時間
第7回	オンデマンド	発音の復習・第3課文法	第3課文法を復習し、会話部分を予習する。	2時間
第8回	オンデマンド	第3課会話	第3課会話を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第9回	オンデマンド	第3課文法復習・小テスト（5点）	第3課全体を復習し、会話部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第10回	オンデマンド	第3課会話復習・小テスト（2.5点）	第3課を復習し、第4課を予習する。	2時間
第11回	オンデマンド	第4課文法	第4課文法を復習し、会話部分を予習する。	2時間
第12回	オンデマンド	第4課会話	第4課会話を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第13回	オンデマンド	第4課文法復習・小テスト（5点）	第4課全体を復習し、会話部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第14回	オンデマンド	第4課会話復習・小テスト（2.5点）	第4課を復習し、第5課を予習する。	2時間
第15回	オンデマンド	第5課文法	第5課文法を復習し、会話部分を予習する。	2時間
第16回	オンデマンド	第5課会話	第5課会話を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第17回	オンデマンド	第5課文法復習・小テスト（5点）	第5課全体を復習し、会話部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第18回	オンデマンド	第5課会話復習・小テスト（2.5点）	第5課を復習し、第6課を予習する。	2時間
第19回	オンデマンド	第6課文法	第6課文法を復習し、会話部分を予習する。	2時間
第20回	オンデマンド	第6課会話	第6課会話を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第21回	オンデマンド	第6課文法復習・小テスト（5点）	第6課全体を復習し、会話部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第22回	オンデマンド	第6課会話復習・小テスト（2.5点）	第6課を復習し、第7課を予習する。	2時間
第23回	オンデマンド	第7課文法	第7課文法を復習し、文法部分の小テストに向けて準備する。	2時間
第24回	オンデマンド	会話の総復習・スピーチ原稿作成	作成したスピーチの原稿を熟読し、流暢に発表できるよう準備する。	2時間
第25回	オンデマンド	第7課文法復習・小テスト（5点）	第7課文法部分までの内容を復習し、まとめテストに向けて準備する。	2時間
第26回	オンデマンド	会話のまとめ：中国語でスピーチ（15点）	口頭発表（スピーチ）を振り返り、文法部分の総復習をする。	2時間
第27回	オンデマンド	文法の総復習	春学期の学習内容を振り返り、文法部分のまとめテストに向けて準備する。	2時間
第28回	オンデマンド	文法のまとめ：筆記テスト（30点）	文法テストを振り返り、中国語検定と HSK について予習する。	2時間
第29回	オンデマンド	中国語検定かんたんレベルチェック（準4級～）	語学検定で力試し、秋学期の学習計画を立てる。	2時間

2026/05/01

第30回	オンデマンド	HSK レベルチェックテスト (1 級～)	語学検定で力試し、秋学期の学習計画を立てる。	2 時間

科目名	中国語Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	姜 若冰	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	初級中国語（下）		
授業の目的及び概要	この授業は、中国語の基本的な知識を習得することを目的とする。 ピンイン（拼音）という中国語の発音表記の読み書き練習を継続して取り入れながら、語彙、文法、日常会話を学習する。 この授業は 2 名の教員が担当し、教科書の後半部分を学習する。 2 名の教員が文法理解、会話練習にそれぞれ重心を置いて授業を進める。 授業内で HSK（漢語水平考試）や中国語検定試験についても適宜指導する。		
履修条件・留意点	この科目は国際学部選択必修外国語科目である。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	中国語の発音を徹底的に理解でき、練習を繰り返し正確な発音を身につけることができる。 基礎的な文法及び語彙を習得し、簡単な会話と作文ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員が履修者全員の発音を、一人ずつ確認し、指導をする。 小テストや練習問題などの提出物も採点、添削したうえで返却し、講評を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『好好!!中国語基礎Ⅰ』関光世・前田比呂子・李光曦、金星堂、2026 年	ISBN	978-4-7647-0743-6
参考書	授業中で適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	15	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	まとめテスト＆スピーチ	
この科目の受講にあたって	外国語の勉強は、持続すること、つまり練習を重ねていくことがポイントになる。 積極的に授業に出席し、語彙、文法を着実に覚え、練習にチャレンジし続ければ、自然と力が伸びる。 勉学や履修に関して、疑問や質問があれば、気軽に担当教員に相談してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業計画の説明・春学期内容の復習（文法）	春学期の内容を振り返り、第 8 課を予習する。	2 時間
第 2 回	対面	授業計画の説明・春学期内容の復習（会話）	春学期の内容を振り返り、第 7 課会話部分を予習する。	2 時間
第 3 回	対面	第 8 課文法	第 8 課文法を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間

第4回	対面	第7 課会話	第7 課会話を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第5回	対面	第8 課文法復習・小テスト（5 点）	第8 課文法を復習し、第9 課文法を予習する。	2 時間
第6回	対面	第7 課会話復習・小テスト（2.5 点）	第7 課会話を復習し、第8 課会話を予習する。	2 時間
第7回	対面	第9 課文法	第9 課文法を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第8回	対面	第8 課会話	第8 課会話を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第9回	対面	第9 課文法復習・小テスト（5 点）	第9 課文法を復習し、第10 課文法を予習する。	2 時間
第10回	対面	第8 課会話復習・小テスト（2.5 点）	第8 課会話を復習し、第9 課会話を予習する。	2 時間
第11回	対面	第10 課文法	第10 課文法を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第12回	対面	第9 課会話	第9 課会話を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第13回	対面	第10 課文法復習・小テスト（5 点）	第10 課文法を復習し、HSK 試験について予習する。HSK の受験を申し込む。	2 時間
第14回	対面	第9 課会話復習・小テスト（2.5 点）	第9 課会話を復習し、第10 課会話を予習する。	2 時間
第15回	対面	HSK 過去問チャレンジ（2 級～）	HSK の過去問で練習し、問題形式や解答方法に慣れる。	2 時間
第16回	対面	第10 課会話	第10 課会話を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第17回	オンデマンド	HSK レベルチェックテスト（2 級～）	HSK の過去問で練習し、問題形式や解答方法に慣れる。第11 課文法を予習する。	2 時間
第18回	対面	第10 課会話復習・小テスト（2.5 点）	第10 課会話を復習し、第11 課会話を予習する。	2 時間
第19回	対面	第11 課文法	第11 課文法を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第20回	対面	第11 課会話	第11 課会話を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第21回	対面	第11 課文法復習・小テスト（5 点）	第11 課文法を復習し、第12 課文法を予習する。	2 時間
第22回	対面	第11 課会話復習・小テスト（2.5 点）	第11 課会話を復習し、第12 課会話を予習する。	2 時間
第23回	対面	第12 課文法	第12 課文法を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第24回	対面	第12 課会話	第12 課会話を復習し、小テストに向けて準備する。	2 時間
第25回	対面	第12 課文法復習・小テスト（5 点）	第12 課までの学習内容を振り返り、文法まとめテストに向けて準備する。	2 時間
第26回	対面	文法の総復習	秋学期の学習内容を復習し、テストに向けて準備する。	2 時間
第27回	対面	文法のまとめ：筆記テスト（30 点）	文法まとめテストを振り返り、第12 課会話の小テストに向けて準備する。	2 時間
第28回	対面	第12 課会話復習・小テスト（2.5 点）	第12 課までの学習内容を振り返り、スピーチの原稿を作成する。	2 時間
第29回	オンデマンド	会話の総復習・中検かんたんレベルチェック（4 級～）	中国語検定の試験形式や解答方法に慣れる。スピーチの練習をする。	2 時間
第30回	対面	会話のまとめ：中国語でスピーチ（20 点）	一年間の学習内容を振り返り、2 年生の学習計画を立てる。	2 時間

科目名	Advanced English III	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を精確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	/ Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年			
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年		ISBN	9784023315686
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20%		
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。 必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 2 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 3 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (1) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 4 回	対面	ライティング・リーディング演習 (1) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 5 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (2) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 6 回	対面	ライティング・リーディング演習 (2) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 7 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (3) : U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 8 回	対面	ライティング・リーディング演習 (3) : U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 9 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (4) : U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

			のまとめる（復習する）	
第10回	対面	ライティング・リーディング演習(4):U. 2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第11回	対面	リスニング・スピーキング演習(5):U. 3 Going to Extremes	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の準備	2 時間
第12回	対面	ライティング・リーディング演習(5):U. 3 Going to Extremes	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の準備	6 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)	事前学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の見直し リスニング・スピーキング演習(6):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の見直し ライティング・リーディング演習(6):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第17回	対面	リスニング・スピーキング演習(7):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第18回	対面	ライティング・リーディング演習(7):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第19回	対面	リスニング・スピーキング演習(8):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第20回	対面	ライティング・リーディング演習(8):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第21回	対面	リスニング・スピーキング演習(9):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第22回	対面	ライティング・リーディング演習(9):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第23回	対面	リスニング・スピーキング演習(10):U. 6 Do You Want to Live Forever?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む)	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	
第24回	対面	ライティング・リーディング演習（10）： U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English III	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩本 朱未	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を精確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	/ Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年			
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年		ISBN	9784023315686
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20%		
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。 必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 2 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 3 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (1) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 4 回	対面	ライティング・リーディング演習 (1) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 5 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (2) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 6 回	対面	ライティング・リーディング演習 (2) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 7 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (3) : U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 8 回	対面	ライティング・リーディング演習 (3) : U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 9 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (4) : U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

			のまとめる（復習する）	
第10回	対面	ライティング・リーディング演習(4):U. 2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第11回	対面	リスニング・スピーキング演習(5):U. 3 Going to Extremes	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の準備	2 時間
第12回	対面	ライティング・リーディング演習(5):U. 3 Going to Extremes	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の準備	6 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)	事前学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の見直し リスニング・スピーキング演習(6):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の見直し ライティング・リーディング演習(6):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第17回	対面	リスニング・スピーキング演習(7):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第18回	対面	ライティング・リーディング演習(7):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第19回	対面	リスニング・スピーキング演習(8):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第20回	対面	ライティング・リーディング演習(8):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第21回	対面	リスニング・スピーキング演習(9):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第22回	対面	ライティング・リーディング演習(9):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第23回	対面	リスニング・スピーキング演習(10):U. 6 Do You Want to Live Forever?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む)	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	
第24回	対面	ライティング・リーディング演習（10）： U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English III	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中西 亮太	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を精確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	/ Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年			
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年		ISBN	9784023315686
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20%		
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。 必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 2 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 3 回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 4 回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 5 回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 6 回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 7 回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 8 回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 9 回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

			のまとめる（復習する）	
第10回	対面	ライティング・リーディング演習(4):U. 2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第11回	対面	リスニング・スピーキング演習(5):U. 3 Going to Extremes	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の準備	2 時間
第12回	対面	ライティング・リーディング演習(5):U. 3 Going to Extremes	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の準備	6 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)	事前学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の見直し リスニング・スピーキング演習(6):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の見直し ライティング・リーディング演習(6):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第17回	対面	リスニング・スピーキング演習(7):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第18回	対面	ライティング・リーディング演習(7):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第19回	対面	リスニング・スピーキング演習(8):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第20回	対面	ライティング・リーディング演習(8):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第21回	対面	リスニング・スピーキング演習(9):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第22回	対面	ライティング・リーディング演習(9):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第23回	対面	リスニング・スピーキング演習(10):U. 6 Do You Want to Live Forever?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む)	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	
第24回	対面	ライティング・リーディング演習（10）： U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English III	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を精確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	/ Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年			
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年		ISBN	9784023315686
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（20%×2 回） ②7 月 TOEIC IP テスト：20%		
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。 必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 2 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 3 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (1) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 4 回	対面	ライティング・リーディング演習 (1) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 5 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (2) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 6 回	対面	ライティング・リーディング演習 (2) : U.1 The World of Advertising	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 7 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (3) : U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 8 回	対面	ライティング・リーディング演習 (3) : U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 9 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (4) : U.2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

			のまとめる（復習する）	
第10回	対面	ライティング・リーディング演習(4):U. 2 Online Advertising: Making Our Lives Better?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第11回	対面	リスニング・スピーキング演習(5):U. 3 Going to Extremes	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の準備	2 時間
第12回	対面	ライティング・リーディング演習(5):U. 3 Going to Extremes	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の準備	6 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)	事前学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の見直し リスニング・スピーキング演習(6):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の見直し ライティング・リーディング演習(6):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第17回	対面	リスニング・スピーキング演習(7):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第18回	対面	ライティング・リーディング演習(7):U. 4 Winning at Any Cost	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第19回	対面	リスニング・スピーキング演習(8):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第20回	対面	ライティング・リーディング演習(8):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第21回	対面	リスニング・スピーキング演習(9):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第22回	対面	ライティング・リーディング演習(9):U. 5 Our Aging Population	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第23回	対面	リスニング・スピーキング演習(10):U. 6 Do You Want to Live Forever?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む)	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	
第24回	対面	ライティング・リーディング演習（10）： U.6 Do You Want to Live Forever?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English III	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を精確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Framework English A、Colin Thompson / Tim Woolstencroft、金星堂、2024 年	ISBN	9784764742000
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年	ISBN	9784023315686

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	60
	その他の内容	レビュークイズ：60%（30%×2回）
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり4技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第2回	オンデマンド	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第3回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第4回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第5回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第6回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第7回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第8回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第9回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第10回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間

			のまとめる（復習する）	
第11回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第12回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	6 時間
第13回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第14回	オンデマンド	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第15回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直し、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第16回	オンデマンド	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直し、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第17回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第18回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第19回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第20回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第21回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第22回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第23回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第24回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

第25回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2時間
第26回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2時間
第27回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第28回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第29回	オンデマンド	春学期学修内容（リスニング・スピーキング）の総復習	事後学修：春学期学修内容（リスニング・スピーキング）に復習した語彙・文法・表現の定着度を確認し、学修内容全体を見直す（復習する）	2時間
第30回	オンデマンド	春学期学修内容（ライティング・リーディング）の総復習	事後学修：春学期学修内容（ライティング・リーディング）に復習した語彙・文法・表現の定着度を確認し、学修内容全体を見直す（復習する）	2時間

科目名	Advanced English IV	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を精確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	/ Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年		
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年	ISBN	9784023315686
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（15%×2 回） ②1 月 TOEIC IP テスト：20%	
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。 必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 2 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 3 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (1) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 4 回	対面	ライティング・リーディング演習 (1) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 5 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (2) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 6 回	対面	ライティング・リーディング演習 (2) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 7 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (3) : U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 8 回	対面	ライティング・リーディング演習 (3) : U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 9 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (4) : U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

			のまとめる（復習する）	
第10回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第11回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U. 9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第12回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U. 9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第17回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第18回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第19回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第20回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第21回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第22回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第23回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U. 12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	
第24回	対面	ライティング・リーディング演習（10）： U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English IV	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩本 朱未	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を精確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	/ Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年			
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年		ISBN	9784023315686
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（15%×2 回） ②1 月 TOEIC IP テスト：20%		
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。 必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 2 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 3 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (1) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 4 回	対面	ライティング・リーディング演習 (1) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 5 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (2) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 6 回	対面	ライティング・リーディング演習 (2) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 7 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (3) : U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 8 回	対面	ライティング・リーディング演習 (3) : U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 9 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (4) : U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

			のまとめる（復習する）	
第10回	対面	ライティング・リーディング演習(4):U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第11回	対面	リスニング・スピーキング演習(5):U. 9 Animals: Our Research Partners?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の準備	2 時間
第12回	対面	ライティング・リーディング演習(5):U. 9 Animals: Our Research Partners?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)、中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の準備	6 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)	事前学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)	事前学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)に向けた復習(学修した語彙・文法・表現を見直しておく)	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の見直し リスニング・スピーキング演習(6):U. 10 Treatment of Animals	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(リスニング・スピーキング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の見直し ライティング・リーディング演習(6):U. 10 Treatment of Animals	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 中間レビュークイズ(ライティング・リーディング)の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第17回	対面	リスニング・スピーキング演習(7):U. 10 Treatment of Animals	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第18回	対面	ライティング・リーディング演習(7):U. 10 Treatment of Animals	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第19回	対面	リスニング・スピーキング演習(8):U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第20回	対面	ライティング・リーディング演習(8):U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第21回	対面	リスニング・スピーキング演習(9):U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第22回	対面	ライティング・リーディング演習(9):U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む) 事後学修: 授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる(復習する)	2 時間
第23回	対面	リスニング・スピーキング演習(10):U. 12 News: Fact or Fake?	事前学修: 指定された範囲の予習(語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む)	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	
第24回	対面	ライティング・リーディング演習（10）： U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English IV	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を精確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	/ Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年			
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年		ISBN	9784023315686
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（15%×2 回） ②1 月 TOEIC IP テスト：20%		
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。 必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 2 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 3 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (1) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 4 回	対面	ライティング・リーディング演習 (1) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 5 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (2) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 6 回	対面	ライティング・リーディング演習 (2) : U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 7 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (3) : U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 8 回	対面	ライティング・リーディング演習 (3) : U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 9 回	対面	リスニング・スピーキング演習 (4) : U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

			のまとめる（復習する）	
第10回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第11回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U. 9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第12回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U. 9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第17回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第18回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第19回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第20回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第21回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第22回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第23回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U. 12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	
第24回	対面	ライティング・リーディング演習（10）： U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English IV	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中西 亮太	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を正確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスによって使用するテキストが異なるため注意してください。 ①In Focus 1, Charles Browne / Brent Culligan / Joseph Phillips, 金星堂, 2024 年 ②In Focus INTRO, Charles Browne / Brent Culligan	ISBN	①9784764741935 ②9784764742222

	/ Joseph Phillips, 金星堂, 2025 年			
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年		ISBN	9784023315686
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	①レビュークイズ：40%（15%×2 回） ②1 月 TOEIC IP テスト：20%		
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり 4 技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明 ※クラスによって授業計画が異なります。 必ず初回授業で確認してください。	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 2 回	対面	イントロダクション：授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 3 回	対面	リスニング・スピーキング演習（1）：U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 4 回	対面	ライティング・リーディング演習（1）：U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 5 回	対面	リスニング・スピーキング演習（2）：U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 6 回	対面	ライティング・リーディング演習（2）：U. 7 Robots in the Home	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 7 回	対面	リスニング・スピーキング演習（3）：U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 8 回	対面	ライティング・リーディング演習（3）：U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第 9 回	対面	リスニング・スピーキング演習（4）：U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

			のまとめる（復習する）	
第10回	対面	ライティング・リーディング演習（4）：U. 8 I Lost My Job to a Machine	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第11回	対面	リスニング・スピーキング演習（5）：U. 9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	2 時間
第12回	対面	ライティング・リーディング演習（5）：U. 9 Animals: Our Research Partners?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	6 時間
第13回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第14回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第15回	対面	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第16回	対面	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第17回	対面	リスニング・スピーキング演習（7）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第18回	対面	ライティング・リーディング演習（7）：U. 10 Treatment of Animals	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第19回	対面	リスニング・スピーキング演習（8）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第20回	対面	ライティング・リーディング演習（8）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第21回	対面	リスニング・スピーキング演習（9）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第22回	対面	ライティング・リーディング演習（9）：U. 11 The Online (Dis)Information	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第23回	対面	リスニング・スピーキング演習（10）：U. 12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む）	2 時間

			事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の準備	
第24回	対面	ライティング・リーディング演習（10）： U.12 News: Fact or Fake?	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）、中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の準備	2 時間
第25回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第26回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第27回	対面	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第28回	対面	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直しと総復習	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第29回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習	2 時間
第30回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けたポイント解説・復習	事後学修：期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた・復習	2 時間

科目名	Advanced English IV	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなトピックについて英語で学修を進め、4 技能を統合した発展的な英語運用能力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は 1 週間に 2 回行われ、①全体的な英語力強化と②TOEIC テストでのスコアアップを目的とします。 ①では、英語の理解に必要とされる基本的な文法項目の受容的知識の定着とそれらを応用した英語での表現能力の向上を図ります。授業では、教科書等の学修教材からのインプットにより知識を蓄え、演習問題やアウトプット活動を通じて知識を定着させ、読解や聴解において重文・複文であっても意味内容を精確に読み取れる、聞き取れるようになることを目指します。 ②では、高頻度語 700 語の語彙学修と並行して TOEIC 問題演習に取り組むことで、①で身に付けた知識をテストで使える知識へと昇華していきます。また、就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育み、国際通用力を図る基準として TOEIC を位置づけ、国際社会で使える英語技能を備えた英語運用能力を身に付けます。		
履修条件・留意点	2023 年度以降に入学し、英語コミュニケーションコースに所属する学生については必修科目となります。また、アジア太平洋コースに所属する学生については必修科目ではありませんが、国際学部の学修目標である英語運用能力の向上や TOEIC スコアアップに向けて、積極的に履修しましょう。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の学修到達目標は、基礎レベルのアカデミックイングリッシュの修得に向けて、語彙・文法・長文・アウトプットに関してそれぞれ以下のように設定します。 【文法・語彙】 1. 文章中に表れる授業で扱った文法・語彙に気づき、その意味が分かる。 2. 各授業で行われる高頻度語に関する小テストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙・教科書内容に関する明示的知識を問うテストにおいて、70%以上正答することができる。 3. 授業で扱った文法・語彙に関する明示的知識を身に付け、他者に説明することができる。 4. 授業で扱った文法・語彙を使って、正しい文法・語法で文章やパッセージを作成することができる。 【長文】 1. 授業で扱った文法・語彙で構成されたまとまりのある文章を理解し、その要約をすることができる。 2. 授業で扱った文法・語彙のみで構成されたまとまりのある文章を理解し、自分の意見を交えながら他者に伝えることができる。 【アウトプット】 1. 授業で扱った語彙・文章を正確に英語らしく発音することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生からの質問への回答や解説を授業内で行うとともに、授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Framework English B, Tim Woolstencroft / Colin Thompson、金星堂、2024 年	ISBN	9784764742017
参考書	TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ、TEX 加藤、朝日新聞出版、2017 年	ISBN	9784023315686

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	60
	その他の内容	レビュークイズ：60%（30%×2回）
この科目の受講にあたって	この授業では総合的な英語運用能力の向上を目標としています。総合的、つまり4技能の向上には自ら考え、自ら行動し、自ら学修する姿勢が欠かせません。授業を通して積極的に思考・発言し、「使える英語」を身につけるための学修を進めていきましょう。 英語をベースとした総合的な学修は皆さんの英語運用能力を一段階レベルアップさせてくれるだけでなく、国際社会で求められる人材となることに大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第2回	オンデマンド	イントロダクション:授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明	事前学修：シラバスの熟読 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第3回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第4回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（1）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第5回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第6回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（2）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第7回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第8回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（3）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第9回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第10回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（4）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間

			のまとめる（復習する）	
第11回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第12回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（5）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	6 時間
第13回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第14回	オンデマンド	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2 時間
第15回	オンデマンド	中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し リスニング・スピーキング演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直し、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第16回	オンデマンド	中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し ライティング・リーディング演習（6）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直し、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第17回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第18回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（7）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第19回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第20回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（8）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第21回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第22回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（9）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第23回	オンデマンド	リスニング・スピーキング演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間
第24回	オンデマンド	ライティング・リーディング演習（10）	事前学修：指定された範囲の予習（語彙・文法・表現を確認し、演習問題に取り組む） 事後学修：授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2 時間

第25回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）	事前学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2時間
第26回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）	事前学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）に向けた復習（学修した語彙・文法・表現を見直しておく）	2時間
第27回	オンデマンド	期末レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の見直し	事後学修：中間レビュークイズ（リスニング・スピーキング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第28回	オンデマンド	期末レビュークイズ（ライティング・リーディング）の見直し	事後学修：中間レビュークイズ（ライティング・リーディング）の結果を見直す、授業で扱った語彙・文法・表現を自分なりのまとめる（復習する）	2時間
第29回	オンデマンド	春学期学修内容（リスニング・スピーキング）の総復習	事後学修：春学期学修内容（リスニング・スピーキング）に復習した語彙・文法・表現の定着度を確認し、学修内容全体を見直す（復習する）	2時間
第30回	オンデマンド	春学期学修内容（ライティング・リーディング）の総復習	事後学修：春学期学修内容（ライティング・リーディング）に復習した語彙・文法・表現の定着度を確認し、学修内容全体を見直す（復習する）	2時間

科目名	日本語 1 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	人社（ISBN:978-4893588135） ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、 それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	中間点検	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 1 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	真下 恭子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	人社（ISBN:978-4893588135） ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、 それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	中間点検	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	人社（ISBN:978-4893588135） ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、 それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	中間点検	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 1 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	福本 有希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	人社（ISBN:978-4893588135） ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、 それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	中間点検	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	チャン クォック ヒエップ	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	人社（ISBN:978-4893588135） ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、 それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	中間点検	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	井ノ口 智佳	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	人社（ISBN:978-4893588135） ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、 それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	中間点検	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	人社（ISBN:978-4893588135） ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、 それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	中間点検	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 詩琪	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 B、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	人社（ISBN:978-4893588135） ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、 それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	中間点検	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	楊 子涵	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる		
授業の目的及び概要	本科目は、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語が使用されている地域を旅行する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取るすることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	

	その他の内容	30%：期末テスト
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 1 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	川田 式子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡人社（ISBN:978-4893588135）	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第5回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 光曦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡人社（ISBN:978-4893588135）	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第5回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	大前 晶子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取るすることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡人社（ISBN:978-4893588135）	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第5回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 1 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	全 娟姝	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取るすることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡人社（ISBN:978-4893588135）	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第5回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 光曦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡人社（ISBN:978-4893588135）	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第5回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	近藤 さくら	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡人社（ISBN:978-4893588135）	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第5回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藺 豪	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡人社（ISBN:978-4893588135）	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第5回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 光曦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 C、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863923492） （1 クラスのみ）『読解をはじめのあなたへ第 3 版』凡人社（ISBN:978-4893588135）	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492 （1 クラスのみ） ISBN:978-4893588135

	※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第5回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文問題①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文問題②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合問題	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報検索	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	楊 子涵	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる		
授業の目的及び概要	本科目は、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語が使用されている地域を旅行する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・手紙、パンフレット、掲示物などの日常的な資料から、必要な情報や重要な点を探し出して理解することができる。 ・身近な話題について書かれた簡単な新聞記事や、よく編集された広告であれば、要点を読み取ることができる。 ・関心のある身近な話題については、読み返す時間があれば、事実関係の情報部分を理解できる。 ・さらに、表題や見出しを手がかりに内容を予測し、論理的結合詞や時間表現に注意を向けることで、文章や語りの流れを追うことができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	

	その他の内容	30%：期末テスト
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 1 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日常生活を営むための基本的な言語能力を持ち、語彙の幅には限りがあるものの、家族、趣味、関心事、仕事、旅行、時事問題など、身近な話題について自分の考えを述べるができる。 ・発言に繰り返しや言いよどみが生じることはあるが、比較的予測可能な状況では、頻繁に用いられる表現や型をおおむね正確に使うことができる。 ・また、身近な話題に関しては、簡単な語彙を適切に用いて表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJT ビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク出版 ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ④『文法が弱いあなたへ』凡人社出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317 ④978-4893589941
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ１回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第１回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	１時間
第２回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第３回	対面	文脈規定・言い換え類義１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	２時間
第４回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第５回	対面	文法形式の判断１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	２時間
第６回	対面	用法・文の組み立て１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第７回	対面	文章の文法１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第８回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第９回	対面	文脈規定・言い換え類義２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１０回	対面	文法形式の判断２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１１回	対面	文法形式の判断３	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１２回	対面	用法・文の組み立て２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１３回	対面	文章の文法２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１４回	対面	文章の文法３	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	２時間
第１５回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	３時間

科目名	日本語 1 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	北川 朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日常生活を営むための基本的な言語能力を持ち、語彙の幅には限りがあるものの、家族、趣味、関心事、仕事、旅行、時事問題など、身近な話題について自分の考えを述べるができる。 ・発言に繰り返しや言いよどみが生じることはあるが、比較的予測可能な状況では、頻繁に用いられる表現や型をおおむね正確に使うことができる。 ・また、身近な話題に関しては、簡単な語彙を適切に用いて表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJT ビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク出版 ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ④『文法が弱いあなたへ』凡人社出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317 ④978-4893589941
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ１回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第１回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	１時間
第２回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第３回	対面	文脈規定・言い換え類義１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	２時間
第４回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第５回	対面	文法形式の判断１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	２時間
第６回	対面	用法・文の組み立て１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第７回	対面	文章の文法１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第８回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第９回	対面	文脈規定・言い換え類義２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１０回	対面	文法形式の判断２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１１回	対面	文法形式の判断３	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１２回	対面	用法・文の組み立て２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１３回	対面	文章の文法２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１４回	対面	文章の文法３	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	２時間
第１５回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	３時間

科目名	日本語 1 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日常生活を営むための基本的な言語能力を持ち、語彙の幅には限りがあるものの、家族、趣味、関心事、仕事、旅行、時事問題など、身近な話題について自分の考えを述べるができる。 ・発言に繰り返しや言いよどみが生じることはあるが、比較的予測可能な状況では、頻繁に用いられる表現や型をおおむね正確に使うことができる。 ・また、身近な話題に関しては、簡単な語彙を適切に用いて表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJT ビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク出版 ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ④『文法が弱いあなたへ』凡人社出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317 ④978-4893589941
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類義 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	用法・文の組み立て 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文章の文法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類義 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	用法・文の組み立て 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	文章の文法 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ズオン ティ ホア	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日常生活を営むための基本的な言語能力を持ち、語彙の幅には限りがあるものの、家族、趣味、関心事、仕事、旅行、時事問題など、身近な話題について自分の考えを述べるができる。 ・発言に繰り返しや言いよどみが生じることはあるが、比較的予測可能な状況では、頻繁に用いられる表現や型をおおむね正確に使うことができる。 ・また、身近な話題に関しては、簡単な語彙を適切に用いて表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJT ビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク出版 ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ④『文法が弱いあなたへ』凡人社出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317 ④978-4893589941
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ１回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第１回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第２回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第３回	対面	文脈規定・言い換え類義 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第４回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第５回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第６回	対面	用法・文の組み立て 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第７回	対面	文章の文法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第８回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第９回	対面	文脈規定・言い換え類義 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１０回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１１回	対面	文法形式の判断 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１２回	対面	用法・文の組み立て 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１３回	対面	文章の文法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１４回	対面	文章の文法 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第１５回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日常生活を営むための基本的な言語能力を持ち、語彙の幅には限りがあるものの、家族、趣味、関心事、仕事、旅行、時事問題など、身近な話題について自分の考えを述べるができる。 ・発言に繰り返しや言いよどみが生じることはあるが、比較的予測可能な状況では、頻繁に用いられる表現や型をおおむね正確に使うことができる。 ・また、身近な話題に関しては、簡単な語彙を適切に用いて表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJT ビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク出版 ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ④『文法が弱いあなたへ』凡人社出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317 ④978-4893589941
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類義1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	文法形式の判断1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	用法・文の組み立て1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	文章の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類義2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	文法形式の判断2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	文法形式の判断3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	用法・文の組み立て2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	文章の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	文章の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 1 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	馬 花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日常生活を営むための基本的な言語能力を持ち、語彙の幅には限りがあるものの、家族、趣味、関心事、仕事、旅行、時事問題など、身近な話題について自分の考えを述べるができる。 ・発言に繰り返しや言いよどみが生じることはあるが、比較的予測可能な状況では、頻繁に用いられる表現や型をおおむね正確に使うことができる。 ・また、身近な話題に関しては、簡単な語彙を適切に用いて表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJT ビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク出版 ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ④『文法が弱いあなたへ』凡人社出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317 ④978-4893589941
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類義 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	用法・文の組み立て 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文章の文法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類義 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	用法・文の組み立て 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	文章の文法 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	王 鈺	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日常生活を営むための基本的な言語能力を持ち、語彙の幅には限りがあるものの、家族、趣味、関心事、仕事、旅行、時事問題など、身近な話題について自分の考えを述べるができる。 ・発言に繰り返しや言いよどみが生じることはあるが、比較的予測可能な状況では、頻繁に用いられる表現や型をおおむね正確に使うことができる。 ・また、身近な話題に関しては、簡単な語彙を適切に用いて表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJT ビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク出版 ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ④『文法が弱いあなたへ』凡人社出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317 ④978-4893589941
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ１回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第１回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第２回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第３回	対面	文脈規定・言い換え類義 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第４回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第５回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第６回	対面	用法・文の組み立て 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第７回	対面	文章の文法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第８回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第９回	対面	文脈規定・言い換え類義 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１０回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１１回	対面	文法形式の判断 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１２回	対面	用法・文の組み立て 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１３回	対面	文章の文法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第１４回	対面	文章の文法 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第１５回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	河崎 絵美	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 D、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日常生活を営むための基本的な言語能力を持ち、語彙の幅には限りがあるものの、家族、趣味、関心事、仕事、旅行、時事問題など、身近な話題について自分の考えを述べるができる。 ・発言に繰り返しや言いよどみが生じることはあるが、比較的予測可能な状況では、頻繁に用いられる表現や型をおおむね正確に使うことができる。 ・また、身近な話題に関しては、簡単な語彙を適切に用いて表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJT ビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク出版 ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ④『文法が弱いあなたへ』凡人社出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317 ④978-4893589941
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ１回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第１回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	１時間
第２回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第３回	対面	文脈規定・言い換え類義１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	２時間
第４回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第５回	対面	文法形式の判断１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	２時間
第６回	対面	用法・文の組み立て１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第７回	対面	文章の文法１	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第８回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第９回	対面	文脈規定・言い換え類義２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１０回	対面	文法形式の判断２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１１回	対面	文法形式の判断３	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１２回	対面	用法・文の組み立て２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１３回	対面	文章の文法２	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	２時間
第１４回	対面	文章の文法３	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	２時間
第１５回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	３時間

科目名	日本語 1 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	馬 花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる		
授業の目的及び概要	本科目は、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語が使用されている地域を旅行する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・日常生活を営むための基本的な言語能力を持ち、語彙の幅には限りがあるものの、家族、趣味、関心事、仕事、旅行、時事問題など、身近な話題について自分の考えを述べるができる。 ・発言に繰り返しや言いよどみが生じることはあるが、比較的予測可能な状況では、頻繁に用いられる表現や型をおおむね正確に使うことができる。 ・また、身近な話題に関しては、簡単な語彙を適切に用いて表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	30％：期末テスト	
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1 回）と期末テスト（1 回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施		

	日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 1 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	片岡 浩史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・標準語または馴染みのある言語変種で明瞭に話された内容であれば、仕事・学校・余暇などの身近な場面に関して話されている話題について、その要点を理解できる。 ・話が標準で、あるいは馴染みの話し方で発音も明瞭であれば、自分の周りで行われている長い議論の要点を理解できる。 ・また、発音が明瞭で比較的ゆっくり話された場合には、身近な話題に関する議論や、分かりやすい独話の要点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：『日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ④N2 クラスのうち①クラス『聴解が弱いあなたへ：初級から中級への橋渡しシリーズ 3』、日本語教育研究所編、凡人社、2002 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607 ④978-4893585219
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	オンデマンド	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	中間点検・FB	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：授業内での学修項目の復習	2 時間
第7回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	課題理解 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	殷 琦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・標準語または馴染みのある言語変種で明瞭に話された内容であれば、仕事・学校・余暇などの身近な場面に関して話されている話題について、その要点を理解できる。 ・話が標準で、あるいは馴染みの話し方で発音も明瞭であれば、自分の周りで行われている長い議論の要点を理解できる。 ・また、発音が明瞭で比較的ゆっくり話された場合には、身近な話題に関する議論や、分かりやすい独話の要点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：『日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ④N2 クラスのうち①クラス『聴解が弱いあなたへ：初級から中級への橋渡しシリーズ 3』、日本語教育研究所編、凡人社、2002 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607 ④978-4893585219
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	オンデマンド	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	中間点検・FB	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：授業内での学修項目の復習	2 時間
第7回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	課題理解 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	片岡 浩史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・標準語または馴染みのある言語変種で明瞭に話された内容であれば、仕事・学校・余暇などの身近な場面に関して話されている話題について、その要点を理解できる。 ・話が標準で、あるいは馴染みの話し方で発音も明瞭であれば、自分の周りで行われている長い議論の要点を理解できる。 ・また、発音が明瞭で比較的ゆっくり話された場合には、身近な話題に関する議論や、分かりやすい独話の要点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：『日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ④N2 クラスのうち①クラス『聴解が弱いあなたへ：初級から中級への橋渡しシリーズ 3』、日本語教育研究所編、凡人社、2002 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607 ④978-4893585219
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	オンデマンド	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	中間点検・FB	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：授業内での学修項目の復習	2 時間
第7回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	課題理解 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	馬 花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・標準語または馴染みのある言語変種で明瞭に話された内容であれば、仕事・学校・余暇などの身近な場面に関して話されている話題について、その要点を理解できる。 ・話が標準で、あるいは馴染みの話し方で発音も明瞭であれば、自分の周りで行われている長い議論の要点を理解できる。 ・また、発音が明瞭で比較的ゆっくり話された場合には、身近な話題に関する議論や、分かりやすい独話の要点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：『日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ④N2 クラスのうち①クラス『聴解が弱いあなたへ：初級から中級への橋渡しシリーズ 3』、日本語教育研究所編、凡人社、2002 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607 ④978-4893585219
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	オンデマンド	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	中間点検・FB	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：授業内での学修項目の復習	2 時間
第7回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	課題理解 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	権田 彩良	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・標準語または馴染みのある言語変種で明瞭に話された内容であれば、仕事・学校・余暇などの身近な場面に関して話されている話題について、その要点を理解できる。 ・話が標準で、あるいは馴染みの話し方で発音も明瞭であれば、自分の周りで行われている長い議論の要点を理解できる。 ・また、発音が明瞭で比較的ゆっくり話された場合には、身近な話題に関する議論や、分かりやすい独話の要点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：『日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ④N2 クラスのうち①クラス『聴解が弱いあなたへ：初級から中級への橋渡しシリーズ 3』、日本語教育研究所編、凡人社、2002 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607 ④978-4893585219
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	オンデマンド	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	中間点検・FB	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：授業内での学修項目の復習	2 時間
第7回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	課題理解 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宋 元祺	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・標準語または馴染みのある言語変種で明瞭に話された内容であれば、仕事・学校・余暇などの身近な場面に関して話されている話題について、その要点を理解できる。 ・話が標準で、あるいは馴染みの話し方で発音も明瞭であれば、自分の周りで行われている長い議論の要点を理解できる。 ・また、発音が明瞭で比較的ゆっくり話された場合には、身近な話題に関する議論や、分かりやすい独話の要点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：『日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ④N2 クラスのうち①クラス『聴解が弱いあなたへ：初級から中級への橋渡しシリーズ 3』、日本語教育研究所編、凡人社、2002 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607 ④978-4893585219
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	オンデマンド	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	中間点検・FB	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：授業内での学修項目の復習	2 時間
第7回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	課題理解 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	趙 萱	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的小さい文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的小さい場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・標準語または馴染みのある言語変種で明瞭に話された内容であれば、仕事・学校・余暇などの身近な場面に関して話されている話題について、その要点を理解できる。 ・話が標準で、あるいは馴染みの話し方で発音も明瞭であれば、自分の周りで行われている長い議論の要点を理解できる。 ・また、発音が明瞭で比較的ゆっくり話された場合には、身近な話題に関する議論や、分かりやすい独話の要点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：『日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ④N2 クラスのうち①クラス『聴解が弱いあなたへ：初級から中級への橋渡しシリーズ 3』、日本語教育研究所編、凡人社、2002 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607 ④978-4893585219
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	オンデマンド	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	中間点検・FB	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：授業内での学修項目の復習	2 時間
第7回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	課題理解 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宋 雨潤	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語で生活する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 1 A、1 B、1 C、実践日本語 A～C など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・標準語または馴染みのある言語変種で明瞭に話された内容であれば、仕事・学校・余暇などの身近な場面に関して話されている話題について、その要点を理解できる。 ・話が標準で、あるいは馴染みの話し方で発音も明瞭であれば、自分の周りで行われている長い議論の要点を理解できる。 ・また、発音が明瞭で比較的ゆっくり話された場合には、身近な話題に関する議論や、分かりやすい独話の要点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：『日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：『日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン』、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ④N2 クラスのうち①クラス『聴解が弱いあなたへ：初級から中級への橋渡しシリーズ 3』、日本語教育研究所編、凡人社、2002 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607 ④978-4893585219
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	オンデマンド	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	中間点検・FB	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：授業内での学修項目の復習	2 時間
第7回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	課題理解 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：期末テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 1 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	馬 花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる		
授業の目的及び概要	本科目は、仕事、学校、娯楽など日常生活において頻繁に出会う身近な話題について、標準的な日本語による表現であれば要点を理解し、適切に対応できる能力の育成を目的とする。また、日本語が使用されている地域を旅行する際に想定される多くの状況において、必要な情報を求め、他者の助けも借りながら対処できるようになることを目標とする。 授業では、身近で個人的に関心のある事柄について、筋の通った比較的短い文章や発話を行う力を養うとともに、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、それらに関する意見や理由を簡潔に述べるができるようにする。さらに、多少間接的な表現を用いながらも、自分の意図を相手に伝えられる表現力の習得を目指す。 そのため、読む・書く・聞く・話すの四技能を総合的に伸ばし、比較的予測可能な場面において頻繁に用いられる表現や文型、定型的な言い回しを、一定の正確さをもって運用できるよう学修を進める。これにより、継続的な日本語学修の基盤を形成し、実生活および将来的な学修・活動に活用できる日本語運用能力の向上を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・標準語または馴染みのある言語変種で明瞭に話された内容であれば、仕事・学校・余暇などの身近な場面に関して話されている話題について、その要点を理解できる。 ・話が標準で、あるいは馴染みの話し方で発音も明瞭であれば、自分の周りで行われている長い議論の要点を理解できる。 ・また、発音が明瞭で比較的ゆっくり話された場合には、身近な話題に関する議論や、分かりやすい独話の要点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	30％：期末テスト	
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1 回）と期末テスト（1 回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施		

日については授業内でアナウンスします。

【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	真下 恭子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福本 有希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	チャン クォック ヒエップ	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 詩琪	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 B、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197699） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 以上クラス】 ISBN:978-4883197699 【N1 クラス】ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検 1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊 子涵	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題に加えてやや抽象的な内容についても、比較的自然而分かりやすい表現を用い、理由や説明を添えながら自分の考えや立場をまとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	30％：期末テスト
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	大前 晶子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 クラス以上】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：期末テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ズオン ティ ホア	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 クラス以上】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：期末テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ズオン ティ ホア	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 クラス以上】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：期末テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ズオン ティ ホア	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 クラス以上】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：期末テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	全 娟姝	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 クラス以上】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前後学修（予習・復習等）	事前後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：期末テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ズオン ティ ホア	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 クラス以上】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：期末テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	近藤 さくら	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2A、2C、2D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2A、2C、2D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 クラス以上】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：期末テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	陳 宇鎔	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出合う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 C、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 以上クラス】 『BJT ビジネス日本語能力テスト実力養成問題集（聴解・聴読解）第 2 版』スリー A ネットワーク（ISBN:9784883197682） 【N1 クラス】 『日本語能力試験 N1 読解 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版（ISBN:978-4863922495） 【N2 クラス】 『日本語能力試験 N2 読解 必修パターン』ジェイ・リ	ISBN	【N1 クラス以上】 ISBN: 978-4883197682 【N1 クラス】 ISBN:978-4863922495 【N2 クラス】 ISBN:978-4863923492

	サーチ出版（ISBN:978-4863923492）		
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験	
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：期末テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊 子涵	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題に加えてやや抽象的な内容についても、比較的自然而分かりやすい表現を用い、理由や説明を添えながら自分の考えや立場をまとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・事実関係を中心とした簡潔なテキストであれば、自分の専門分野や興味の範囲内のものについて理解することができる。 ・長いテキストをざっと読んだりスキャンしたりして、課題遂行に必要な情報を見つけ出し、テキストの異なる部分や複数のテキストから情報を収集することができる。 ・また、雑誌、パンフレット、ウェブ上の分かりやすい事実中心のテキストを概観し、その内容や実用性を判断することができる。 ・自分の関心や研究領域に関連する単純な事実説明文や、身近な話題について書かれた短いテキストに示された視点や意見を理解することができる。 ・主張が明確な論説的テキストについては、主要な結論や議論の大まかな筋道を把握することができる。 さらに、数・時間・論理関係を示す結合詞や段落の役割に注目することで、テキストの論証をより深く理解することができる。テキスト全体の流れを手がかりに一部の意味を推定したり、関心分野や身近な話題であれば、未知の語や表現の意味を文脈から推測して文意を理解することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	30％：期末テスト
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 2 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJTビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検と学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類語①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類語②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断③	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド 秋学期総復習	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福本 有希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJT ビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第 2 版』スリーエーネットワーク ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検と学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類語①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類語②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断③	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド 秋学期総復習	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	真下 恭子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJTビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検と学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類語①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類語②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断③	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド 秋学期総復習	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	河崎 絵美	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJTビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検と学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類語①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類語②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断③	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド 秋学期総復習	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	北川 朋子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・ 身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・ 馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・ 母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJTビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検と学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類語①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類語②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断③	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド 秋学期総復習	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ズオン ティ ホア	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJTビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検と学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類語①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類語②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断③	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド 秋学期総復習	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・ 身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・ 馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・ 母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJTビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検と学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類語①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類語②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断③	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド 秋学期総復習	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	馬 花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 D、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・ 身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・ 馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・ 母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『BJTビジネス日本語能力テスト 聴解・聴読解 実力養成問題集第2版』スリーエーネットワーク ②『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ③『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	①978-4883197682 ②978-4863922334 ③978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検と学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類語①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類語②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断③	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド 秋学期総復習	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	馬 花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題に加えてやや抽象的な内容についても、比較的自然而分かりやすい表現を用い、理由や説明を添えながら自分の考えや立場をまとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	シラハ☑ス原案 20260224 サインイン ファイル コメント 編集 Meiryō UI 11 標準 Office をご利用いただき、ありがとうございます。プライバシー設定を一部更新して、より詳細に制御できるようにしました。組織の管理者によって、いくつかのクラウド利用サービスの使用が許可されています。これらのサービスを使用するかどうかは、ユーザーが決定します。これらのプライバシー設定を調整するには、Office on the web のプライバシー設定にアクセスしてください。これらのオプションのクラウド利用サービスは、Microsoft サービス規約に従って提供されます。詳細を表示フィードバックの送信 H3 ・ 予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・ 身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・ 馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・ 母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。 ・ 予想外の状況を含め、考えや問題の主要点のある程度の正確さで説明でき、抽象的な内容や音楽・映画などの文化的な話題についても自分の考えを述べることができる言語表現の幅を身につけている。 ・ 身近な話題や日常生活に関わる多くの話題について、比較的幅広い語彙を用いて適切に表現することができる。 ・ 馴染みのある状況ではおおむね正確にコミュニケーションを行うことができる。 ・ 母語の影響による誤りが見られることはあるが、意図している内容は明確に伝えられる。 各回の授業内容（第2稿） 各回の授業内容（第1稿）		

	Sheet2 科目概要等 A・B 科目（読解） 科目概要等 C 科目（文法） 科目概要等 D 科目（聴解） 100%		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	30％：期末テスト	
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1 回）と期末テスト（1 回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第 2 回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第 3 回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第 4 回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第 5 回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第 6 回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第 7 回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第 8 回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第 9 回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第 10 回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間

2026/05/01

	マンド			
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	片岡 浩史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。 - 標準的な話し方や馴染みのある言語変種で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージから具体的な内容まで理解できる。 ・また、身近なテーマで構成が簡潔なプレゼンテーションであれば、自分の専門分野に関する講義や話の内容を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	馬 花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。 - 標準的な話し方や馴染みのある言語変種で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージから具体的な内容まで理解できる。 ・また、身近なテーマで構成が簡潔なプレゼンテーションであれば、自分の専門分野に関する講義や話の内容を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宋 元祺	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。 - 標準的な話し方や馴染みのある言語変種で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージから具体的な内容まで理解できる。 ・また、身近なテーマで構成が簡潔なプレゼンテーションであれば、自分の専門分野に関する講義や話の内容を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 依格	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。 - 標準的な話し方や馴染みのある言語変種で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージから具体的な内容まで理解できる。 ・また、身近なテーマで構成が簡潔なプレゼンテーションであれば、自分の専門分野に関する講義や話の内容を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ストキンジェル アルノー	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。 - 標準的な話し方や馴染みのある言語変種で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージから具体的な内容まで理解できる。 ・また、身近なテーマで構成が簡潔なプレゼンテーションであれば、自分の専門分野に関する講義や話の内容を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ズオン ティ ホア	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。 - 標準的な話し方や馴染みのある言語変種で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージから具体的な内容まで理解できる。 ・また、身近なテーマで構成が簡潔なプレゼンテーションであれば、自分の専門分野に関する講義や話の内容を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	権田 彩良	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。 - 標準的な話し方や馴染みのある言語変種で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージから具体的な内容まで理解できる。 ・また、身近なテーマで構成が簡潔なプレゼンテーションであれば、自分の専門分野に関する講義や話の内容を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	趙 萱	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題について、基本的でやや直線的な表現を用いながらも、要点が分かる形で自分の経験や考えをある程度まとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）も同時に履修し、それらの履修を通じて、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの 5 技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 2 A、2 B、2 C、実践日本語 D～F など）を同時に履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。 - 標準的な話し方や馴染みのある言語変種で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージから具体的な内容まで理解できる。 ・また、身近なテーマで構成が簡潔なプレゼンテーションであれば、自分の専門分野に関する講義や話の内容を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①N1 以上クラス：プリントを配布 ②N1 クラス：日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ③N2 クラス：日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※購入する教科書は初回の授業でお伝えしますので、それまで教科書を購入しないでください。	ISBN	②978-4863922280 ③978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 2 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	馬 花力	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日常生活や身近な社会的話題に加えてやや抽象的な内容についても、比較的自然而分かりやすい表現を用い、理由や説明を添えながら自分の考えや立場をまとまりをもって伝えられる。		
授業の目的及び概要	本科目は、仕事・学校・娯楽など、日常生活で出会う身近な話題について、標準的な日本語であれば要点を理解し、状況に応じて対応できる力の育成を目的とする。また、日本語が使用される地域を旅行する際に想定される多くの場面において、必要な情報を得ながら適切に対処できる能力を養う。 さらに、身近で個人的に関心のある事柄について、短く筋の通った文章や発話を用い、経験や出来事、将来の希望や計画などを説明し、意見や理由を簡潔に述べられるようにする。語彙に制約がある場合でも、言い換えを工夫しながら自分の考えを伝え、身近な話題に関するやり取りや議論に参加できる表現力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に育成するとともに、頻繁に用いられる表現や言い回し、日本語の礼儀慣習を学修し、実生活において適切に運用できる基礎的な日本語能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・毎日や普段の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解できる。 標準的な話し方や馴染みのある言語変種で、明瞭に話されていれば、一般的なメッセージから具体的な内容まで理解できる。 ・また、身近なテーマで構成が簡潔なプレゼンテーションであれば、自分の専門分野に関する講義や話の内容を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	30％：期末テスト	
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1 回）と期末テスト（1 回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてくだ		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 3 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3B、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	真下 恭子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3B、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3B、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的话题に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊 子涵	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3B、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語3 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ズオン ティ ホア	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3B、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語3 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	チャン クオック ヒエップ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3B、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 詩琪	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3B、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド ゴールデンウィーク課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第6回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第8回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	呂 倬嶺	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	30％：期末テスト
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語3B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	川田 式子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド 追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 概要理解①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド 追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 概要理解①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	全 娟姝	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的话题に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド 追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 概要理解①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド 追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 概要理解①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語3B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド 追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 概要理解①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語3B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	近藤 さくら	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド 追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 概要理解①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語3B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	藺 豪	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3C、3D）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	20
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド 追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 概要理解①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語3B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	呂 倬嶺	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・適切な参考資料を選んで活用しながら、目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、独力で相当程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少苦勞することはあっても、理解を大きく妨げられることはない。 ・また、長く複雑なテキストについて、ざっと目を通すことで有用な情報を見定め、綿密に読む価値があるかどうかを判断することができる。 ・幅広い専門的話題に関するニュース、記事、レポートを読み、その内容や重要度を把握できる。 ・さらに、特定の立場や視点から書かれた現代的な問題に関する記事やレポートを理解し、テキストが事実提供を目的としたものか、読者を説得しようとするものかを識別することができる。 ・対照、問題と解決、原因と結果など、論述的テキストの構成上の違いを認識し、主要点に注意を向けたり文脈を手がかりにしたりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を深めることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	30％：期末テスト
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4時間

科目名	日本語 3 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3B、3D）の同時履修をすること		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・言葉を探している印象をあまり与えず、明確な描写や自分の視点の表明、論議の構成を行うことができるだけの言語表現の幅を持っている。 ・本人の専門分野および多くの一般的な話題について幅広い語彙を用いることができ、語彙の不足から言いよどむことはあるものの、表現を言い換えて対応できる。 ・多くの文脈において適切な語の結び付きで語彙を使用し、専門分野の語彙はおおむね理解・運用できる。 ・文法運用能力も比較的高く、簡単な構造に加えて一部の複雑な構造も用いることができ、多少の不正確さは見られるが、意味理解を妨げることなく表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	文の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	文の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	文の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	文の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	文の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	文章の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	文章の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	文章の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	文章の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	文章の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	文章の文法6	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	真下 恭子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3B、3D）の同時履修をすること		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・言葉を探している印象をあまり与えず、明確な描写や自分の視点の表明、論議の構成を行うことができるだけの言語表現の幅を持っている。 ・本人の専門分野および多くの一般的な話題について幅広い語彙を用いることができ、語彙の不足から言いよどむことはあるものの、表現を言い換えて対応できる。 ・多くの文脈において適切な語の結び付きで語彙を使用し、専門分野の語彙はおおむね理解・運用できる。 ・文法運用能力も比較的高く、簡単な構造に加えて一部の複雑な構造も用いることができ、多少の不正確さは見られるが、意味理解を妨げることなく表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	文の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	文の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	文の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	文の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	文の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	文章の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	文章の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	文章の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	文章の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	文章の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	文章の文法6	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊 子涵	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3B、3D）の同時履修をすること		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・言葉を探している印象をあまり与えず、明確な描写や自分の視点の表明、論議の構成を行うことができるだけの言語表現の幅を持っている。 ・本人の専門分野および多くの一般的な話題について幅広い語彙を用いることができ、語彙の不足から言いよどむことはあるものの、表現を言い換えて対応できる。 ・多くの文脈において適切な語の結び付きで語彙を使用し、専門分野の語彙はおおむね理解・運用できる。 ・文法運用能力も比較的高く、簡単な構造に加えて一部の複雑な構造も用いることができ、多少の不正確さは見られるが、意味理解を妨げることなく表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	文の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	文の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文章の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	文章の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文章の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文章の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	文章の文法6	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 3 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	井ノ口 智佳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3B、3D）の同時履修をすること		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・言葉を探している印象をあまり与えず、明確な描写や自分の視点の表明、論議の構成を行うことができるだけの言語表現の幅を持っている。 ・本人の専門分野および多くの一般的な話題について幅広い語彙を用いることができ、語彙の不足から言いよどむことはあるものの、表現を言い換えて対応できる。 ・多くの文脈において適切な語の結び付きで語彙を使用し、専門分野の語彙はおおむね理解・運用できる。 ・文法運用能力も比較的高く、簡単な構造に加えて一部の複雑な構造も用いることができ、多少の不正確さは見られるが、意味理解を妨げることなく表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	文の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	文の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	文の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	文の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	文の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	文章の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	文章の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	文章の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	文章の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	文章の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	文章の文法6	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ズオン ティ ホア	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3B、3D）の同時履修をすること		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・言葉を探している印象をあまり与えず、明確な描写や自分の視点の表明、論議の構成を行うことができるだけの言語表現の幅を持っている。 ・本人の専門分野および多くの一般的な話題について幅広い語彙を用いることができ、語彙の不足から言いよどむことはあるものの、表現を言い換えて対応できる。 ・多くの文脈において適切な語の結び付きで語彙を使用し、専門分野の語彙はおおむね理解・運用できる。 ・文法運用能力も比較的高く、簡単な構造に加えて一部の複雑な構造も用いることができ、多少の不正確さは見られるが、意味理解を妨げることなく表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	文の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	文の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	文の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	文の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	文の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	文章の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	文章の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	文章の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	文章の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	文章の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	文章の文法6	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	チャン クォック ヒエップ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3B、3D）の同時履修をすること		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・言葉を探している印象をあまり与えず、明確な描写や自分の視点の表明、論議の構成を行うことができるだけの言語表現の幅を持っている。 ・本人の専門分野および多くの一般的な話題について幅広い語彙を用いることができ、語彙の不足から言いよどむことはあるものの、表現を言い換えて対応できる。 ・多くの文脈において適切な語の結び付きで語彙を使用し、専門分野の語彙はおおむね理解・運用できる。 ・文法運用能力も比較的高く、簡単な構造に加えて一部の複雑な構造も用いることができ、多少の不正確さは見られるが、意味理解を妨げることなく表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	文の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	文の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	文の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	文の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	文の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	文章の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	文章の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	文章の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	文章の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	文章の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	文章の文法6	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語 3A、3B、3D）の同時履修をすること		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・言葉を探している印象をあまり与えず、明確な描写や自分の視点の表明、論議の構成を行うことができるだけの言語表現の幅を持っている。 ・本人の専門分野および多くの一般的な話題について幅広い語彙を用いることができ、語彙の不足から言いよどむことはあるものの、表現を言い換えて対応できる。 ・多くの文脈において適切な語の結び付きで語彙を使用し、専門分野の語彙はおおむね理解・運用できる。 ・文法運用能力も比較的高く、簡単な構造に加えて一部の複雑な構造も用いることができ、多少の不正確さは見られるが、意味理解を妨げることなく表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	20％：学期末復習テスト 10％：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	文の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	文の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	文の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	文の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	文の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	文章の文法1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	文章の文法2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	文章の文法3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	文章の文法4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	文章の文法5	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	文章の文法6	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語 3 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 依格	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・言葉を探している印象をあまり与えず、明確な描写や自分の視点の表明、論議の構成を行うことができるだけの言語表現の幅を持っている。 ・本人の専門分野および多くの一般的な話題について幅広い語彙を用いることができ、語彙の不足から言いよどむことはあるものの、表現を言い換えて対応できる。 ・多くの文脈において適切な語の結び付きで語彙を使用し、専門分野の語彙はおおむね理解・運用できる。 ・文法運用能力も比較的高く、簡単な構造に加えて一部の複雑な構造も用いることができ、多少の不正確さは見られるが、意味理解を妨げることなく表現できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	
	その他の内容	30%：期末テスト	

この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語3D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	井藁 久美子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3B、3C）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	漢字読み・表記・語形成 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文脈規定 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文脈規定 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	文脈規定 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	言い換え類語 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	言い換え類語 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	言い換え類語 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	用法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	用法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語3D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	馬 花力	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3B、3C）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	漢字読み・表記・語形成 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文脈規定 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文脈規定 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	文脈規定 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	言い換え類語 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	言い換え類語 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	言い換え類語 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	用法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	用法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語3D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	片岡 浩史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3B、3C）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	漢字読み・表記・語形成 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文脈規定 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文脈規定 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	文脈規定 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	言い換え類語 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	言い換え類語 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	言い換え類語 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	用法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	用法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語3D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 依格	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3B、3C）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	漢字読み・表記・語形成 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文脈規定 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文脈規定 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	文脈規定 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	言い換え類語 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	言い換え類語 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	言い換え類語 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	用法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	用法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語3D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	片岡 浩史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3B、3C）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	漢字読み・表記・語形成 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文脈規定 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文脈規定 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	文脈規定 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	言い換え類語 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	言い換え類語 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	言い換え類語 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	用法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	用法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語3D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ストキンジェル アルノー	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3B、3C）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	漢字読み・表記・語形成 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文脈規定 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文脈規定 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	文脈規定 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	言い換え類語 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	言い換え類語 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	言い換え類語 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	用法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	用法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語3D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	殷 琦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの5技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。		
履修条件・留意点	その他の日本語科目（日本語3A、3B、3C）も同時履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2011 年 ②ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 文法, 星野恵子(監修), ユニコム, 2010 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①9784896894790 ②9784896894769
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	30
	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】中間テストと学期末復習テストが学期中にそれぞれ1回ずつあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	漢字読み・表記・語形成 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文脈規定 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	文脈規定 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	文脈規定 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定 4	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	言い換え類語 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	言い換え類語 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	言い換え類語 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	用法 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	用法 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 3 D		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 依格		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	幅広い具体的・抽象的な話題について、主要点を明確に整理しながら比較的流暢に自分の意見や考えを述べ、相手とのやり取りにも無理なく対応できる			
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的な話題から具体的な話題まで、内容的にやや複雑なテキストの主要点を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者と緊張することなく、比較的流暢かつ自然にやり取りができる運用力を養うことを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で一定の分量をもつテキストや発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の考えや立場を論理的に説明できるようにする。発話においては、誤解を招くような誤りを避け、比較的一定の速度を保ちながら表現できる力の習得を目指すとともに、話速が速く口語的なやり取りであっても、努力を通じてグループ討議を理解し、参加できる能力を身につける。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を行い、より高度で多様な表現や語彙、文法の運用力を高める。これにより、大学での専門的な学修や、将来的な研究・就労の場面においても活用可能な日本語運用能力の基盤を形成する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。			
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。			
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	プリント配布	ISBN	—	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	20		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	30％：期末テスト		
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1 回）と期末テスト（1 回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施			

日については授業内でアナウンスします。

【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	真下 恭子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福本 有希	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	井ノ口 智佳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	チャン クォック ヒエップ	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 光曦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事件事後学修（予習・復習等）	事件事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド追加課題の解説	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	読解問題演習 長文①	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	読解問題演習 長文②	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	呂 倬嶺	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	30％：学期末復習テスト	

この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	川田 式子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる。		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第9回	対面	中間点検2・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語4 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	全 娟姝	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる。		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第9回	対面	中間点検2・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	王 鈺	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる。		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第9回	対面	中間点検2・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	藺 豪	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる。		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第9回	対面	中間点検2・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	王 曹傑	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる。		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第9回	対面	中間点検2・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	陳 宇鎔	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる。		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第6回	対面	中間点検1・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2時間
第9回	対面	中間点検2・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3時間

科目名	日本語4 B	開講年度	2026 年度春学期
担当者	呂 倬嶺	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・目的やテキストの種類に応じて読み方や読む速度を調整し、適切な参考資料を活用しながら、独力でかなりの程度までテキストを読み解くことができる。 ・広汎な語彙力を備えており、頻度の低い慣用句に多少手こずることはあっても、全体の理解は維持できる。 ・また、自分の専門分野や関連分野の複数の資料（記事、報告書、ウェブサイト、本など）を素早く読み比べ、課題に応じて必要な箇所の関連性や利用価値を把握することができる。 ・専門用語については辞書を活用することで、専門分野外の専門的な記事についても理解することができる。 ・さらに、主要な点に注意を向けたり文脈から手がかりを得たりするなど、さまざまな読解方略を用いて理解を確かめ、情報や考え、意見を読み取ることができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	30％：学期末復習テスト	

この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福本 有希	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の言いたいことを明確に述べることができ、表現上の制限を強く感じさせることはない。 ・自分の専門分野においては、主な専門用語を理解し、他の専門家との議論でも適切に用いることができる。 ・文法運用能力は高く、誤りが見られることはあるものの少数にとどまり、意味理解を妨げることはなく表現できる。 ・語彙の正確さも概して高く、多少の言い誤りがあっても円滑なコミュニケーションが可能である。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ②『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922334 ②978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	

	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	真下 恭子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の言いたいことを明確に述べることができ、表現上の制限を強く感じさせることはない。 ・自分の専門分野においては、主な専門用語を理解し、他の専門家との議論でも適切に用いることができる。 ・文法運用能力は高く、誤りが見られることはあるものの少数にとどまり、意味理解を妨げることはなく表現できる。 ・語彙の正確さも概して高く、多少の言い誤りがあっても円滑なコミュニケーションが可能である。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ②『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922334 ②978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	

	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	楊 子涵	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の言いたいことを明確に述べることができ、表現上の制限を強く感じさせることはない。 ・自分の専門分野においては、主な専門用語を理解し、他の専門家との議論でも適切に用いることができる。 ・文法運用能力は高く、誤りが見られることはあるものの少数にとどまり、意味理解を妨げることはなく表現できる。 ・語彙の正確さも概して高く、多少の言い誤りがあっても円滑なコミュニケーションが可能である。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ②『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922334 ②978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	

	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の言いたいことを明確に述べることができ、表現上の制限を強く感じさせることはない。 ・自分の専門分野においては、主な専門用語を理解し、他の専門家との議論でも適切に用いることができる。 ・文法運用能力は高く、誤りが見られることはあるものの少数にとどまり、意味理解を妨げることはなく表現できる。 ・語彙の正確さも概して高く、多少の言い誤りがあっても円滑なコミュニケーションが可能である。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ②『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922334 ②978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	

	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	赤城 永里子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の言いたいことを明確に述べることができ、表現上の制限を強く感じさせることはない。 ・自分の専門分野においては、主な専門用語を理解し、他の専門家との議論でも適切に用いることができる。 ・文法運用能力は高く、誤りが見られることはあるものの少数にとどまり、意味理解を妨げることはなく表現できる。 ・語彙の正確さも概して高く、多少の言い誤りがあっても円滑なコミュニケーションが可能である。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ②『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922334 ②978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	

	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 C	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	井ノ口 智佳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の言いたいことを明確に述べることができ、表現上の制限を強く感じさせることはない。 ・自分の専門分野においては、主な専門用語を理解し、他の専門家との議論でも適切に用いることができる。 ・文法運用能力は高く、誤りが見られることはあるものの少数にとどまり、意味理解を妨げることはなく表現できる。 ・語彙の正確さも概して高く、多少の言い誤りがあっても円滑なコミュニケーションが可能である。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『日本語能力試験 N1 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ②『日本語能力試験 N2 文法 必修パターン』ジェイ・リサーチ出版 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922334 ②978-4863923317
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	

	その他の内容	20%：学期末復習テスト 10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	文法形式の判断	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	漢字読み・表記・語形成	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	文脈規定・言い換え類義	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	用法・文の組み立て	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	文法形式の判断 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	文法形式の判断 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	文章の文法	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 4 C		開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 依格		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G2		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる			
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・自分の言いたいことを明確に述べることができ、表現上の制限を強く感じさせることはない。 ・自分の専門分野においては、主な専門用語を理解し、他の専門家との議論でも適切に用いることができる。 ・文法運用能力は高く、誤りが見られることはあるものの少数にとどまり、意味理解を妨げることはなく表現できる。 ・語彙の正確さも概して高く、多少の言い誤りがあっても円滑なコミュニケーションが可能である。			
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。			
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	プリント配布	ISBN	—	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	20		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	30％：学期末復習テスト		
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1 回）と期末テスト（1 回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。			

【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	片岡 浩史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点	なし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の専門分野に関わる技術的な議論を含め、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば、抽象的な話題であっても内容が複雑な話の要点を理解できる。 ・また、話の方向性が明示されている場合には、長い話や議論の流れを把握し、論旨に対する賛否の理由を理解できる。 ・さらに、講義や講演において主要な内容と付随的な話題を区別し、話し手の視点と事実とを識別できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ②日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922280 ②978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト	

	10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	片岡 浩史	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点	なし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の専門分野に関わる技術的な議論を含め、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば、抽象的な話題であっても内容が複雑な話の要点を理解できる。 ・また、話の方向性が明示されている場合には、長い話や議論の流れを把握し、論旨に対する賛否の理由を理解できる。 ・さらに、講義や講演において主要な内容と付随的な話題を区別し、話し手の視点と事実とを識別できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ②日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922280 ②978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト	

	10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	馬 花力	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点	なし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の専門分野に関わる技術的な議論を含め、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば、抽象的な話題であっても内容が複雑な話の要点を理解できる。 ・また、話の方向性が明示されている場合には、長い話や議論の流れを把握し、論旨に対する賛否の理由を理解できる。 ・さらに、講義や講演において主要な内容と付随的な話題を区別し、話し手の視点と事実とを識別できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ②日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922280 ②978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト	

	10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宋 元祺	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点	なし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の専門分野に関わる技術的な議論を含め、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば、抽象的な話題であっても内容が複雑な話の要点を理解できる。 ・また、話の方向性が明示されている場合には、長い話や議論の流れを把握し、論旨に対する賛否の理由を理解できる。 ・さらに、講義や講演において主要な内容と付随的な話題を区別し、話し手の視点と事実とを識別できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ②日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922280 ②978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト	

	10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	井藁 久美子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点	なし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の専門分野に関わる技術的な議論を含め、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば、抽象的な話題であっても内容が複雑な話の要点を理解できる。 ・また、話の方向性が明示されている場合には、長い話や議論の流れを把握し、論旨に対する賛否の理由を理解できる。 ・さらに、講義や講演において主要な内容と付随的な話題を区別し、話し手の視点と事実とを識別できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ②日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922280 ②978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト	

	10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語4 D	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宋 雨潤	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点	なし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の専門分野に関わる技術的な議論を含め、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば、抽象的な話題であっても内容が複雑な話の要点を理解できる。 ・また、話の方向性が明示されている場合には、長い話や議論の流れを把握し、論旨に対する賛否の理由を理解できる。 ・さらに、講義や講演において主要な内容と付随的な話題を区別し、話し手の視点と事実とを識別できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①日本語能力試験 N1 聴解 必修パターン、氏原 庸子・岡本 牧子、J リサーチ出版、2015 年 ②日本語能力試験 N2 聴解 必修パターン、氏原 庸子・清島 千春・佐伯 玲子、J リサーチ出版、2017 年 ※どの教科書を使用するかについては初回の授業内で指示します。必ず指定された図書を購入してください。	ISBN	①978-4863922280 ②978-4863923607
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	20％：学期末復習テスト	

	10%：JLPT 受験
この科目の受講にあたって	【試験】学期中に中間テストと学期末復習テストがあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス	事前学修：次回授業内容についての宿題	1.5 時間
第2回	対面	聴解の基礎 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解の基礎 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第4回	対面	課題理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	課題理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第6回	対面	課題理解 3	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	2 時間
第7回	対面	中間テスト・FB	事後学修：中間テストのやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	ポイント理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	ポイント理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	概要理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	概要理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	統合理解 1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	オンデマンド	統合理解 2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テスト	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 4 D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 依格	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	専門分野を含む多様で複雑な話題についても、論点や構成を意識しながら流暢かつ自然に自己の立場を述べ、相互行為の中で柔軟に言語を運用できる		
授業の目的及び概要	本科目は、自身の専門分野に関わる技術的な議論を含め、抽象的かつ具体的な話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる日本語能力の育成を目的とする。また、母語話者とも過度な緊張なく、流暢で自然なやり取りができる運用力を身につけることを目標とする。 さらに、幅広い話題について、明確で詳細な文章や発話を行い、複数の選択肢の長所・短所を示しながら、自身の視点や考えを的確に説明できるようにする。語彙に不足がある場合でも言い換えを用いて補い、不自然さが目立たない形で表現できる力を養うとともに、場面や聞き手に応じて内容や構成、話し方を調整し、円滑に発言を継続できる能力の習得を目指す。 そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に伸ばす学修活動を通じて、高度で柔軟な表現力と対話能力を育成し、専門的な学修や討議の場面においても主体的に日本語を運用できる基盤の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の専門分野に関わる技術的な議論を含め、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば、抽象的な話題であっても内容が複雑な話の要点を理解できる。 ・また、話の方向性が明示されている場合には、長い話や議論の流れを把握し、論旨に対する賛否の理由を理解できる。 ・さらに、講義や講演において主要な内容と付随的な話題を区別し、話し手の視点と事実とを識別できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	30％：学期末復習テスト	
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてくだ		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	国際学入門	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際学部での多分野からなる複合的な学びに必要な国際学の基本的な視点を身につける。		
授業の目的及び概要	国際学入門は、国際学部での多分野からなる複合的な学びに必要な国際学についての基本的な視点を身につけることを目的とします。国際学部生は、異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけ、幅広い教養と専門性を備えることで、国際社会で活躍できる人材を目指します。国際学入門では、「異文化理解」を中心として、「国際学」「国際社会」、「国際人口移動」、「多文化共生社会」、「国際共修」をテーマとして設定し、これらのテーマについて、具体的事例から学修します。これらの学修を通じて、2 年次を選択するコース（英語コミュニケーション、国際文化、国際社会）を構成する学びの分野と視点を獲得だけでなく、国際学についての基本的な考え方並びに、国際学に必要な異文化理解力、国際理解力を育みます。		
履修条件・留意点	国際学部の学びの基本的な視点を修得する国際学入門は必修科目であり、1 年次に全員が履修する科目です。国際学入門は、2 年生から始まる 3 つのコース、①英語コミュニケーションコース、②国際文化コース、③国際社会コース、の基本となる科目であり、コミュニケーション、国際社会、国際文化、国際政治、国際経済、グローバルビジネスを修得する上で必要となる、異文化理解力・国際理解力を身につける重要な科目です。今後、グローバル・イシュー及び各国・地域の諸課題を把握し、課題解決に向けて取り組む力を身につけるために、毎授業で実施される授業内容並びにグループワーク等に積極的に参加し、各回の学修定着を図る確認テスト、授業外課題に取り組んでください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際学入門は、国際学部での多分野からなる複合的な学びに必要な国際学についての基本的な視点を身につけることを目的とします。 ・国際学とは何か、文化とは何かについて、理解することができる。 ・文化的背景の異なる国や地域についての基本的な知識を修得し、人々の価値観や慣習の違いを理解することができる。 ・各国・地域の文化・社会の違いを理解することで、自己をとらえなおすことができる。 ・異なる背景を持つ学生同士のグループワーク等を通じて、協働する姿勢、多文化社会を志向する姿勢を身につけることができる。 ・英語コミュニケーション、国際文化、国際社会の 3 つのコースからみる世界の「見方」と「方法」の基本を理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・オンラインのテスト機能を用いて実施される各回授業外確認テストの結果を受けて、授業内でフィードバックを実施します。 ・授業でのディスカッションや質疑応答について、次回以降の授業でコメントします。 ・前回授業の内容について受講者からの質疑応答を、毎授業行います。 ・必要に応じて、授業中に追加資料の配布や文献紹介を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。	ISBN	使用しません。
参考書	①異文化理解入門，原沢 伊都夫，岩波書店，2013 年 ②大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い，高城 玲，丸善出版，2017 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この科目を修得するコツは、①毎回の授業内容をよく聞きレジュメを完成させること、②復習をした上で毎回確認テストを提出すること、③定期試験に向けて毎回の確認テスト・レジュメを復習することの3点です。特に確認テストは各回授業の重要な内容を問う問題となっているのでしっかり学修しましょう。確認テスト並びにレジュメをしっかり復習することで高得点を獲得することが可能です。またこの授業ではペアワーク、グループワークを通じて、リアルな異文化の体験とコミュニケーションの実践活動を行います。積極的に参加してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：国際学とは何か ①国際学部で国際学を学ぶ意義 ②国際学とは ③食物を国際学する	① 第1回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第2回	対面	国際文化とは何か ①文化とは何か ②国際文化とは何か ③見える文化と見えない文化 ④トータルカルチャーとサブカルチャー	① 第2回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第3回	対面	国際文化とは何か ①5つの文化的特徴 ②文化の個人的・文化的・普遍的側面 ③インターナショナルミドルカルチャー	① 第3回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第4回	対面	異文化理解とは何か ①世界の価値観の違い ②世界の宗教 ③固定観念と差別	① 第4回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第5回	対面	異文化理解とは何か ①人種とエスニシティ ②個人主義と集団主義 ③性善説と性悪説	① 第5回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第6回	対面	第1回授業から第5回授業までのまとめ ①国際学とは何か ②国際文化とは何か ③異文化理解とは何か	① 第1回～第5回授業の復習並びに確認テストの回答（3時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	5時間
第7回	対面	第7回授業 国際社会とは何か ①国際社会学的分析とは何か ②国際社会の基本的視座 ③国際社会における個人と社会	① 第7回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第8回	対面	国際社会とは何か ①家族と国際社会 ②ジェンダーと国際社会 ③性的役割分業と国際社会	① 第8回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第9回	対面	国際社会とは何か ①労働と国際社会 ②グローバル資本主義 ③ビジネスと国際社会	① 第9回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間

第10回	対面	国際社会と人の移動 ①国際人口移動の基本的視座 ②国際人口移動の背景 ③国際人口移動とメディア	① 第10回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第11回	対面	国際社会と人の移動 ①日系アメリカ人の歩み ②アイデンティティと人の移動 ③人の移動と文化の雑種化	① 第11回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第12回	対面	多文化社会とは何か ①多文化社会の基本的視座 ②日本における多文化社会の課題	① 第12回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第13回	対面	国際共修とは何か ①地域における国際化の課題 ②異なる背景を持つ学生同士によるグループワーク	① 第13回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第14回	対面	第7回授業から第13回授業までのまとめ ①国際社会とは何か ②国際人口移動とは何か ③多文化社会とは何か ④国際共修とは何か	① 第7回～第13回授業の復習並びに確認テストの回答（3時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	5時間
第15回	オンデマンド	第1回から第14回までの総括	① 第15回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② 定期試験に向けた学修	2時間

科目名	国際学入門	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際学部での多分野からなる複合的な学びに必要な国際学の基本的な視点を身につける。		
授業の目的及び概要	国際学入門は、国際学部での多分野からなる複合的な学びに必要な国際学についての基本的な視点を身につけることを目的とします。国際学部生は、異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけ、幅広い教養と専門性を備えることで、国際社会で活躍できる人材を目指します。国際学入門では、「異文化理解」を中心として、「国際学」「国際社会」、「国際人口移動」、「多文化共生社会」、「国際共修」をテーマとして設定し、これらのテーマについて、具体的事例から学修します。これらの学修を通じて、2 年次に選択するコース（英語コミュニケーション、国際文化、国際社会）を構成する学びの分野と視点を獲得だけでなく、国際学についての基本的な考え方並びに、国際学に必要な異文化理解力、国際理解力を育みます。		
履修条件・留意点	国際学部の学びの基本的な視点を修得する国際学入門は必修科目であり、1 年次に全員が履修する科目です。国際学入門は、2 年生から始まる 3 つのコース、①英語コミュニケーションコース、②国際文化コース、③国際社会コース、の基本となる科目であり、コミュニケーション、国際社会、国際文化、国際政治、国際経済、グローバルビジネスを修得する上で必要となる、異文化理解力・国際理解力を身につける重要な科目です。今後、グローバル・イシュー及び各国・地域の諸課題を把握し、課題解決に向けて取り組む力を身につけるために、毎授業で実施される授業内容並びにグループワーク等に積極的に参加し、各回の学修定着を図る確認テスト、授業外課題に取り組んでください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際学入門は、国際学部での多分野からなる複合的な学びに必要な国際学についての基本的な視点を身につけることを目的とします。 ・国際学とは何か、文化とは何かについて、理解することができる。 ・文化的背景の異なる国や地域についての基本的な知識を修得し、人々の価値観や慣習の違いを理解することができる。 ・各国・地域の文化・社会の違いを理解することで、自己をとらえなおすことができる。 ・異なる背景を持つ学生同士のグループワーク等を通じて、協働する姿勢、多文化社会を志向する姿勢を身につけることができる。 ・英語コミュニケーション、国際文化、国際社会の 3 つのコースからみる世界の「見方」と「方法」の基本を理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・オンラインのテスト機能を用いて実施される各回授業外確認テストの結果を受けて、授業内でフィードバックを実施します。 ・授業でのディスカッションや質疑応答について、次回以降の授業でコメントします。 ・前回授業の内容について受講者からの質疑応答を、毎授業行います。 ・必要に応じて、授業中に追加資料の配布や文献紹介を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。	ISBN	使用しません。
参考書	①異文化理解入門，原沢 伊都夫，岩波書店，2013 年 ②大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い，高城 玲，丸善出版，2017 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この科目を修得するコツは、①毎回の授業内容をよく聞きレジュメを完成させること、②復習をした上で毎回確認テストを提出すること、③定期試験に向けて毎回の確認テスト・レジュメを復習することの3点です。特に確認テストは各回授業の重要な内容を問う問題となっているのでしっかり学修しましょう。確認テスト並びにレジュメをしっかり復習することで高得点を獲得することが可能です。またこの授業ではペアワーク、グループワークを通じて、リアルな異文化の体験とコミュニケーションの実践活動を行います。積極的に参加してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：国際学とは何か ①国際学部で国際学を学ぶ意義 ②国際学とは ③食物を国際学する	① 第1回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第2回	対面	国際文化とは何か ①文化とは何か ②国際文化とは何か ③見える文化と見えない文化 ④トータルカルチャーとサブカルチャー	① 第2回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第3回	対面	国際文化とは何か ①5つの文化的特徴 ②文化の個人的・文化的・普遍的側面 ③インターナショナルミドルカルチャー	① 第3回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第4回	対面	異文化理解とは何か ①世界の価値観の違い ②世界の宗教 ③固定観念と差別	① 第4回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第5回	対面	異文化理解とは何か ①人種とエスニシティ ②個人主義と集団主義 ③性善説と性悪説	① 第5回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第6回	対面	第1回授業から第5回授業までのまとめ ①国際学とは何か ②国際文化とは何か ③異文化理解とは何か	① 第1回～第5回授業の復習並びに確認テストの回答（3時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	5時間
第7回	対面	第7回授業 国際社会とは何か ①国際社会学的分析とは何か ②国際社会の基本的視座 ③国際社会における個人と社会	① 第7回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第8回	対面	国際社会とは何か ①家族と国際社会 ②ジェンダーと国際社会 ③性的役割分業と国際社会	① 第8回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第9回	対面	国際社会とは何か ①労働と国際社会 ②グローバル資本主義 ③ビジネスと国際社会	① 第9回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間

第10回	対面	国際社会と人の移動 ①国際人口移動の基本的視座 ②国際人口移動の背景 ③国際人口移動とメディア	① 第10回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第11回	対面	国際社会と人の移動 ①日系アメリカ人の歩み ②アイデンティティと人の移動 ③人の移動と文化の雑種化	① 第11回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第12回	対面	多文化社会とは何か ①多文化社会の基本的視座 ②日本における多文化社会の課題	① 第12回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第13回	対面	国際共修とは何か ①地域における国際化の課題 ②異なる背景を持つ学生同士によるグループワーク	① 第13回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第14回	対面	第7回授業から第13回授業までのまとめ ①国際社会とは何か ②国際人口移動とは何か ③多文化社会とは何か ④国際共修とは何か	① 第7回～第13回授業の復習並びに確認テストの回答（3時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	5時間
第15回	オンデマンド	第1回から第14回までの総括	① 第15回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② 定期試験に向けた学修	2時間

科目名	国際学入門	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際学部での多分野からなる複合的な学びに必要な国際学の基本的な視点を身につける。		
授業の目的及び概要	この科目は国際学入門の再履修科目です。国際学入門は、国際学部での多分野からなる複合的な学びに必要な国際学についての基本的な視点を身に付けることを目的とします。国際学部生は、異文化理解と多文化共生を育み、豊かな国際感覚と優れたコミュニケーション能力を身につけ、幅広い教養と専門性を備えることで、国際社会で活躍できる人材を目指します。国際学入門では、「異文化理解」を中心として、「国際学」「国際社会」「国際人口移動」「多文化共生社会」「国際共修」をテーマとして設定し、これらのテーマについて、具体的事例から学修します。これらの学修を通じて、2 年次に選択するコース（英語コミュニケーション、国際文化、国際社会）を構成する学びの分野と視点を得るだけでなく、国際学についての基本的な考え方並びに、国際学に必要な異文化理解力、国際理解力を育みます。		
履修条件・留意点	国際学部の学びの基本的な視点を修得する国際学入門は必修科目であり、1 年次に全員が履修する科目です。この科目は再履修科目となります。国際学入門は、2 年生から始まる 3 つのコース、①英語コミュニケーションコース、②国際文化コース、③国際社会コース、の基本となる科目であり、コミュニケーション、国際社会、国際文化、国際政治、国際経済、グローバルビジネスを修得する上で必要となる、異文化理解力・国際理解力を身に付ける重要な科目です。今後、グローバル・イシュー及び各国・地域の諸課題を把握し、課題解決に向けて取り組む力を身につけるために、毎授業で実施される授業内容並びにグループワーク等に積極的に参加し、各回の学修定着を図る確認テスト、授業外課題に取り組んでください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際学入門は、国際学部での多分野からなる複合的な学びに必要な国際学についての基本的な視点を身に付けることを目的とします。 ・国際学とは何か、文化とは何かについて、理解することができる。 ・文化的背景の異なる国や地域についての基本的な知識を修得し、人々の価値観や慣習の違いを理解することができる。 ・各国・地域の文化・社会の違いを理解することで、自己をとらえなおすことができる。 ・異なる背景を持つ学生同士のグループワーク等を通じて、協働する姿勢、多文化社会を志向する姿勢を身につけることができる。 ・英語コミュニケーション、国際文化、国際社会の 3 つのコースからみる世界の「見方」と「方法」の基本を理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・オンラインのテスト機能を用いて実施される各回授業外確認テストの結果を受けて、授業内でフィードバックを実施します。 ・前回オンデマンド授業の内容について受講者からの質疑応答を、毎授業行います。 ・必要に応じて、追加資料の配布や文献紹介を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。	ISBN	使用しません。
参考書	①異文化理解入門，原沢 伊都夫，岩波書店，2013 年 ②大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い，高城 玲，丸善出版，2017 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この科目を修得するコツは、①毎回のオンデマンド授業をよく聞きレジュメを完成させること、②復習をした上で毎回確認テストを提出すること、③定期試験に向けて毎回の確認テスト・レジュメを復習することの3点です。特に確認テストは各回授業の重要な内容を問う問題となっているのでしっかり学修しましょう。確認テスト並びにレジュメをしっかり復習することで高得点を獲得することが可能です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	イントロダクション：国際学とは何か ①国際学部で国際学を学ぶ意義 ②国際学とは ③食物を国際学する	① 第1回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第2回	オンデマンド	国際文化とは何か ①文化とは何か ②国際文化とは何か ③見える文化と見えない文化 ④トータルカルチャーとサブカルチャー	① 第2回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第3回	オンデマンド	国際文化とは何か ①5つの文化的特徴 ②文化の個人的・文化的・普遍的側面 ③インターナショナルミドルカルチャー	① 第3回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第4回	オンデマンド	異文化理解とは何か ①世界の価値観の違い ②世界の宗教 ③固定観念と差別	① 第4回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第5回	オンデマンド	異文化理解とは何か ①人種とエスニシティ ②個人主義と集団主義 ③性善説と性悪説	① 第5回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第6回	オンデマンド	第1回授業から第5回授業までのまとめ ①国際学とは何か ②国際文化とは何か ③異文化理解とは何か	① 第1回～第5回授業の復習並びに確認テストの回答（3時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	5時間
第7回	オンデマンド	第7回授業 国際社会とは何か ①国際社会学的分析とは何か ②国際社会の基本的視座 ③国際社会における個人と社会	① 第7回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第8回	オンデマンド	国際社会とは何か ①家族と国際社会 ②ジェンダーと国際社会 ③性的役割分業と国際社会	① 第8回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第9回	オンデマンド	国際社会とは何か ①労働と国際社会 ②グローバル資本主義 ③ビジネスと国際社会	① 第9回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習（2時間）	4時間
第10回	オンデ	国際社会と人の移動	① 第10回授業の復習並びに確認テストの回答（2	4時間

	マンド	①国際人口移動の基本的視座 ②国際人口移動の背景 ③国際人口移動とメディア	時間) ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習 (2 時間)	
第 1 1 回	オンデマンド	国際社会と人の移動 ①日系アメリカ人の歩み ②アイデンティティと人の移動 ③人の移動と文化の雑種化	① 第 11 回授業の復習並びに確認テストの回答 (2 時間) ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習 (2 時間)	4 時間
第 1 2 回	オンデマンド	多文化社会とは何か ①多文化社会の基本的視座 ②日本における多文化社会の課題	① 第 12 回授業の復習並びに確認テストの回答 (2 時間) ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習 (2 時間)	4 時間
第 1 3 回	オンデマンド	国際共修とは何か ①地域における国際化の課題 ②異なる背景を持つ学生同士によるグループワーク	① 第 13 回授業の復習並びに確認テストの回答 (2 時間) ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習 (2 時間)	4 時間
第 1 4 回	オンデマンド	第 7 回授業から第 13 回授業までのまとめ ①国際社会とは何か ②国際人口移動とは何か ③多文化社会とは何か ④国際共修とは何か	① 第 7 回ー第 13 回授業の復習並びに確認テストの回答 (3 時間) ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習 (2 時間)	5 時間
第 1 5 回	オンデマンド	第 1 回から第 14 回までの総括	① 第 15 回授業の復習並びに確認テストの回答 (2 時間) ② 定期試験に向けた学修	2 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	オンデマンド講義（ELSIの基礎知識） ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくが良い。 課題を仕上げて提出	○事前学修 ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくことよい。 ○事後学修 ・すべての問題に正答できるようにする。わからないところがあれば、担当教員に teams などを用いて質問する。	4時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習課題 2) 情報モラル&情報セキュリティ課題の提出 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	オンデマンド講義（ELSIの基礎知識） ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくが良い。 課題を仕上げて提出	○事前学修 ・テキストの第10~13講を事前に確認しておくことよい。 ○事後学修 ・すべての問題に正答できるようにする。わからないところがあれば、担当教員に teams などを用いて質問する。	4時間
第15回	オンデマンド	1) 総合演習課題 2) 情報モラル&情報セキュリティ課題の提出 3) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・ Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・ microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	対面	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	対面	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	対面	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	対面	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	対面	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	対面	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	オンデマンド	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	オンデマンド	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	オンデマンド	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	オンデマンド	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	オンデマンド	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	オンデマンド	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	オンデマンド	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学 4 年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2) インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3) 情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4) キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5) プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6) ワードプロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7) 表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講 基礎と実践」 岩田順敬、宮崎裕 学術図書出版 2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組み、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。4年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	1) ガイダンス 2) 本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1) : Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス (Microsoft/Office365) 等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください (パスワードは半角英数字記号を利用します)。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第2回	オンデマンド	1) 学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2) : 学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365 (Outlook、OneDrive 等)、情報検索と図書館蔵書検索 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第3回	オンデマンド	1) 学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3) : 2) Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第1～3 回講義 (学内システムの設定など) では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定したタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第4回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第5回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第6回	オンデマンド	Word を使った文書の作成 (全 3 回) 3 回目 教科書 第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第7回	オンデマンド	Excel を使った表計算 (全 3 回) 1 回目 教科書 第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくことと良い。	4 時間
第8回	オンデマンド	Excel を使った表計算 (全 3 回) 2 回目 教科書 第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくことと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第5講の操作を復習しておくが良い。	
第9回	オンデマンド	Excelを使った表計算（全3回） 3回目 教科書 第6講	○事前学修 ・テキストの第6講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第6講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第10回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 1回目 教科書 第7講	○事前学修 ・テキストの第7講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第7講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第11回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 2回目 教科書 第8講	○事前学修 ・テキストの第8講を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第8講の操作を復習しておくが良い。	4時間
第12回	オンデマンド	PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成（全3回） 3回目 教科書 第9講	○事前学修 ・テキストの第9を事前に確認しておくが良い。 ○事後学修 ・テキストの第9の操作を復習しておくが良い。	4時間
第13回	オンデマンド	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4時間
第14回	オンデマンド	1) 設定テーマについてレポート提出 2) タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4時間
第15回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AIの活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI利活用の現場、データ・AIの活用領域・データ・AIを扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宮崎 裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AIの活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI利活用の現場、データ・AIの活用領域・データ・AIを扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	対面	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	対面	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	対面	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	対面	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第13回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第14回	オンデマンド	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AI を適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1) 社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2) データを読み、説明し、扱うことができる。 3) データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4) 企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版 AI データサイエンスリテラシー入門, 吉岡剛志, 技術評論社, 2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	—	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	最終課題
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、 「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」 に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・ガイダンス 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（※以降、ELSI&S: Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる） ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-1 社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第2回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 1-2 社会で活用されているデータ①、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-1 Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第3回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ②、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-2 社会で活用されているデータ、第2章 データリテラシー 2-2 時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第4回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-3 データ・AI の活用領域、第2章 データリテラシー 2-3 平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第5回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術①、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-4 標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第6回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術②、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-4 データ・AI 利活用のための技術、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第7回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場①、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-5 大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第8回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場②、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 社会におけるデータ・AI 利活用 1-5 データ・AI 利活用の現場、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第9回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第1章 1-6 データ・AI 利活用の最新動向、第2章 データリテラシー 2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第10回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1①、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応:社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-7 度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第11回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第3章 データ・AI 利活用における留意事項 3-1、	4 時間

		事項 3-1②、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AIの活用領域	第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-1、第2章 データリテラシー 2-8 散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第12回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応(追加資料含む): 社会で起きている変化、データ・AI利活用の現場、データ・AIの活用領域・データ・AIを扱う上での留意事項	○事前学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第3章 データ・AI利活用における留意事項 3-2 データを守る上での留意事項、第2章 データリテラシー 2-9 定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間
第13回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第14回	オンデマンド	総合演習(最終課題)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させてください。	4時間
第15回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	○事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 ○事後学修 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4時間

科目名	ビジネスアプリケーション	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスシーンにおけるオフィスソフトを用いた実践的な ICT 活用能力の涵養		
授業の目的及び概要	この授業では、ビジネスアプリケーションに関する基礎的な知識とスキルを土台に、より実践的な活用能力の修得を目指す。そのために、オフィスソフトを用いて情報を収集し、適切に可視化するための方法を学修する。さらに、加工した情報を用いて検証や分析等を行い、ドキュメントにまとめ上げる能力を身につける。授業において、実践的な課題に取り組むことによって、情報化社会で必要とされる ICT（情報通信技術）活用能力を身につける。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いた実践的な課題に取り組むことによって、情報化社会で必要とされる ICT（情報通信技術）活用能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題について、随時、授業授業支援システム（Learning Portal）で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021 スキルアップ問題集 ビジネス実践編 Office 2021／Microsoft 365 対応（FOM 出版）、富士通エフ・オー・エム、FOM 出版、2023.	ISBN	978-4-86775-080-3
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いた実践的な課題を通して、就業力育成のための ICT の活用能力を養成しよう。 この授業のテキストは Windows 版 Microsoft Office の利用を想定して書かれているため、授業時間外に演習する場合は WindowsPC（学内 PC 自習室や図書館も可）を利用すること。 ※Mac 版は操作手順や結果が異なるため対応外。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業のガイダンス プロジェクト発足を通知する ・プロジェクト体系図の作成 ・プロジェクト発足を通知するレポート	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間

		の作成		
第2回	対面	会議の開催を連絡する ・ 拡販会議の開催を連絡するレポートの作成 ・ 会議配布資料の作成	【予習】テキストの「会議の開催を連絡する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第3回	対面	行動指針を全従業員に告知する ・ 行動指針を通知するレポートの作成 ・ 行動指針を掲げたポスターの作成	【予習】テキストの「行動指針を全従業員に告知する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第4回	対面	セミナー開催をお客様に案内する ・ セミナー一覧表の作成 ・ セミナー開催の案内状の作成	【予習】テキストの「セミナー開催をお客様に案内する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第5回	対面	セミナー申込者に受講票を送付する ・ 申し込み者一覧表の作成 ・ 受講票の作成（差し込み印刷） ・ 宛名ラベル印刷	【予習】テキストの「セミナー申込者に受講票を送付する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第6回	対面	Web サイトへのアクセス数を集計・分析する ・ アクセス数の集計 ・ アクセス数の分析	【予習】テキストの「Web サイトへのアクセス数を集計・分析する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第7回	対面	社内研修結果を管理する ・ 全従業員の成績の集計 ・ 従業員別の個別分析	【予習】テキストの「社内研修結果を管理する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第8回	対面	イベント売上実績を集計・分析する ・ 店舗別・商品カテゴリ別の売上集計表の作成 ・ 目標達成率の算出 ・ 商品カテゴリ別の売上構成比の比較	【予習】テキストの「イベント売上実績を集計・分析する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第9回	対面	セミナー開催状況を管理する ・ マスタ表の作成 ・ 開催セミナー一覧表の作成	【予習】テキストの「セミナー開催状況を管理する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第10回	対面	売上見込み・売上実績を集計する ・ 売上見込みの提出を依頼するレポートの作成 ・ 売上見込みの集計	【予習】テキストの「売上見込み・売上実績を集計する」の部分を読んでおくこと。 【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第11回	対面	ポスターの作成	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第12回	対面	カタログ冊子の作成	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第13回	対面	プレゼンテーションの作成（1）	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第14回	対面	プレゼンテーションの作成（2）	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	【総まとめ】 イベント売上実績を集計・分析する ・ 店舗別の売上実績と売上目標の比較 セミナー開催状況を管理する ・ セミナー別の集計 売上見込み・売上実績を集計する ・ 売上実績の集計	【復習】今回の内容を読んで復習すること。課題を提出すること。	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	土田 智佳子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報(登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など)を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書(広告や Eメールなど)の形式に慣れ、て約 50%程度の要点(文章の趣旨や主要情報)を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘・Graham Skeritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017		ISBN

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間

第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1~Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		る短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報(登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など)を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書(広告や Eメールなど)の形式に慣れ、て約 50%程度の要点(文章の趣旨や主要情報)を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017		ISBN <

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間

第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1~Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		る短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報(登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など)を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書(広告や Eメールなど)の形式に慣れ、て約 50%程度の要点(文章の趣旨や主要情報)を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017		ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 9784791973132 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 9784342552625
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	0		
	その他の内容	小テストレポート課題等の内訳：小テスト 20%、レビュークイズ 20% 総括テスト(7月 TOEIC IP)：40%		
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約4時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間

第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1~Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		る短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報 (登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など) を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書 (広告や E メールなど) の形式に慣れ、て約 50%程度の要点 (文章の趣旨や主要情報) を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4 共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 9784791973132 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 9784342552625
	参考書		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	小テストレポート課題等の内訳：小テスト 20%、レビュークイズ 20% 総括テスト(7月 TOEIC IP)：40%	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間

第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1~Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		る短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7)Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報(登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など)を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書(広告や E メールなど)の形式に慣れ、て約 50%程度の要点(文章の趣旨や主要情報)を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4 共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 9784791973132 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 9784342552625
	参考書		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	小テストレポート課題等の内訳：小テスト 20%、レビュークイズ 20% 総括テスト(7月 TOEIC IP)：40%	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 ＊本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間

第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1~Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		る短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報 (登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など) を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書 (広告や E メールなど) の形式に慣れ、て約 50%程度の要点 (文章の趣旨や主要情報) を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ-Pre-Intermediate- 著者 吉塚 弘・Graham Skerritt 出版社：成美堂 出版年：2025 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 / 4th Edition GOAL500 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017		ISBN <

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間

第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1~Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		る短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	土田 智佳子	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報(登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など)を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書(広告や Eメールなど)の形式に慣れ、て約 50%程度の要点(文章の趣旨や主要情報)を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4 共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚 弘/Graham Skerritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂 出版年：2022 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
	参考書		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	小テストレポート課題等の内訳：小テスト 20%、レビュークイズ 20% 総括テスト(7月 TOEIC IP)：40%	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約4時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入	事後学修：	4時間

		TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1～Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報 (登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など) を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書 (広告や E メールなど) の形式に慣れ、て約 50%程度の要点 (文章の趣旨や主要情報) を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4 共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚 弘/Graham Skeritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂 出版年：2022 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	小テストレポート課題等の内訳：小テスト 20%、レビュークイズ 20% 総括テスト(7月 TOEIC IP)：40%	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入	事後学修：	4時間

		TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1～Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選ぶようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報(登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など)を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書(広告や Eメールなど)の形式に慣れ、て約 50%程度の要点(文章の趣旨や主要情報)を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4 共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚 弘/Graham Skeritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂 出版年：2022 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	小テストレポート課題等の内訳：小テスト 20%、レビュークイズ 20% 総括テスト(7月 TOEIC IP)：40%	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入	事後学修：	4時間

		TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1～Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレACEMENTテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレACEMENTテストの目安 クラス 1：英語プレACEMENTテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレACEMENTテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレACEMENTテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレACEMENTテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレACEMENTテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレACEMENTテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報(登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など)を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書(広告や Eメールなど)の形式に慣れ、て約 50%程度の要点(文章の趣旨や主要情報)を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4 共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚 弘/Graham Skeritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂 出版年：2022 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	小テストレポート課題等の内訳：小テスト 20%、レビュークイズ 20% 総括テスト(7月 TOEIC IP)：40%	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入	事後学修：	4時間

		TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1～Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選べるようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレACEMENTテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレACEMENTテストの目安 クラス 1：英語プレACEMENTテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレACEMENTテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレACEMENTテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレACEMENTテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレACEMENTテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレACEMENTテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報 (登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など) を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書 (広告や E メールなど) の形式に慣れ、て約 50%程度の要点 (文章の趣旨や主要情報) を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚 弘/Graham Skeritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂 出版年：2022 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	小テストレポート課題等の内訳：小テスト 20%、レビュークイズ 20% 総括テスト(7月 TOEIC IP)：40%	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間

		要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。		
第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入 TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1～Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選ぶようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7（長文読解問題）の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2時間程度）	4時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4時間程度）	4時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4時間程度）	4時間

科目名	Exam Prep. II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® Listening & Reading (L&R) テストスコアを 400 点台へ向上させることを目的としています。授業では、TOEIC の頻出語彙の習得や重要文法事項の復習を通じて基礎力を固め、実際の TOEIC で出題される英文読解やリスニング練習を通じて実践的なスキルを向上させます。さらに、毎回の小テストや TOEIC 形式の問題演習、模擬試験を実施し、学習内容の定着状況を定期的に確認します。これにより、受講学生は自身の理解度を把握し、弱点を早期に補強することが可能です。TOEIC のスコアアップには継続的な努力が必要となるため、授業内で TOEIC 勉強法についても指導し、自律的な学習と継続的なスコア向上を支援します。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 入学時の英語プレースメントテストまたは過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。クラス選択について不明な点がある場合は、演習担当教員に相談してください。 <留学生> TOEIC スコアアップを目指す留学生の履修を推奨しています。クラス①は Advanced クラス(上級レベル)です。下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本科目の履修を希望する学生は、下記のスコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択し履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコア/英語プレースメントテストの目安 クラス 1：英語プレースメントテスト 40 点以上 クラス 2：英語プレースメントテスト 35-39 点 クラス 3：英語プレースメントテスト 30-34 点 クラス 4：英語プレースメントテスト 30 点未満 クラス①(月 3)：留学生 Advanced クラス(TOEIC500 点以上又は英語プレースメントテスト 40 点以上) クラス②(木 4)：留学生中級クラス(TOEIC500 点未満、英語プレースメントテスト 40 点未満)		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 400 点を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト(TOEIC 頻出単語)において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション (Part 1-4) 全体を通じて、約 50%程度の主要な情報(登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など)を理解することができる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書(広告や Eメールなど)の形式に慣れ、て約 50%程度の要点(文章の趣旨や主要情報)を理解することができる。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		

実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本科目は習熟度別にクラス編成を行います。 クラスによりテキストが異なるので注意してください。 水1（クラス1～4 共通）2冊 1. 書名：TOEIC L&R 200%活用模試、著者：アルク、出版社：アルク 出版年：2022（通年使用） 2. 書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 著者：ETS 出版社：IIBC 出版年：2019（通年使用） 月3（留学生クラス上級）1冊 TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 著者：吉塚 弘/Graham Skeritt/Michael Schauerte 出版社：成美堂 出版年：2022 木4（留学生クラス中級）1冊 SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 著者：スタッフオード マーク 出版社：桐原書店 出版年：2017	ISBN	・TOEIC L&R 200%活用模試 9784757439795 ・TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック 9784906033560 ・TOEIC L&R TEST への総合アプローチ -Intermediate- 9784791972531 ・SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 / 4th Edition GOAL600 9784342552632
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	小テストレポート課題等の内訳：小テスト 20%、レビュークイズ 20% 総括テスト(7月 TOEIC IP)：40%	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・授業概要説明 *本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに使用するテキストや学修範囲が異なります。 そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。 本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要となります。 本科目の目的・到達目標・評価方法・授業の進め方を説明します。TOEIC テストの概要や自学修の進め方を紹介し、受講生が全体像を把握できるようにします。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4時間程度）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション・Part 1 導入	事後学修：	4時間

		TOEIC L&R テストの全体構成 (Part 1～Part 7) や出題形式を概説します。Listening Part 1 (写真描写問題) の特性を理解し、写真中の人物や物体の基本的記述を学びます。	語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	
第3回	対面	Listening (Part 1)・Reading(Part 5 文法語彙問題) Listening Part 1 で求められる語彙・表現を強化し、素早く状況を把握する練習を行います。Reading Part 5 で扱われる基本的な文法・語彙問題を通じて、短い文中での適切な語句選択や品詞判別に慣れます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第4回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 (応答問題) のパターンを理解し、質問→答えを素早く結びつける練習を行います。Reading Part 5 で継続して基本文法項目 (動詞時制、前置詞、接続詞など) を確認し、解答速度と正確性を向上させます。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第5回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 でより多様な質問形式や語彙に触れ、聞き取り範囲を拡大します。Reading Part 5 を繰り返し練習することで、英文処理スピードを向上させ、比較的難易度の高い語彙・文法問題にも対応できる力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第6回	対面	Listening (Part 2)・Reading(Part 5 文法・語彙問題) Listening Part 2 の定着度を図り、正答率の向上を目指します。Reading Part 5 で引き続き文法・語彙力を鍛え、苦手分野の克服に集中します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第7回	対面	中間テスト・これまでの復習 中間テストを実施し、Listening Part および Reading Part での理解度を測定します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第8回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 (会話問題) の形式や特徴を理解し、会話の主題や意図を素早く把握する練習を行います。Reading Part 6 (長文補文問題) で、文脈に適した語句や文を補完する力を養います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第9回	対面	Listening (Part 3)・Reading(Part 6) Listening Part 3 でより複雑な会話を扱い、情報整理能力を高めます。Reading Part 6 を反復練習し、文章全体の流れを捉えて適切な選択肢を選ぶようにします。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第10回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 (説明文問題) でスピーチやアナウンスを理解し、主要な情報や要点を的確に抽出する練習を行います。Reading Part 7 (長文読解問題) の基本となる短いパッセージで要点把握や情報検索	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間

		のスキルを学びます。		
第11回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 を継続強化し、長めの話し言葉にも対応できる集中力・理解力を身につけます。Reading Part 7 で複数の設問に対応しながら、情報を効率よく読み解く訓練を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Listening (Part 4)・Reading(Part 7) Listening Part 4 で高度な内容に慣れ、要点と詳細を区別して理解する力を養います。Reading Part 7 でより難易度の高い文書に取り組み、長文読解力・情報処理力を強化します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	期末テスト・これまでの復習 期末テストを実施し、Listening Part および Reading Part の総合力を測定します。テスト後に復習を行い自身の課題を整理します。	事後学修： 期末テストの復習・これまでの総復習（4 時間程度）	4 時間
第14回	対面	総復習・まとめ 全パートを総合的に振り返り、TOEIC 本番に向けた学習計画やテスト対策のポイントを再確認します。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンド授業（総復習・まとめ・フィードバック） オンデマンド形式で追加の復習動画や解説を提供し、各自で弱点補強や復習を行います。	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. III	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60% 程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60% 程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R (TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果)：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4時間）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1 導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 導入、文法：品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第13回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 1 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. III	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生 + TOEFL クラス）・クラス②（留学生クラス + 一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス + 一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス + 一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生 + 留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60% 程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60% 程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4時間）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1 導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 導入、文法：品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第13回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 1 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. III	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生＋TOEFL クラス）・クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60% 程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60% 程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4時間）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1 導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 導入、文法：品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第13回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 1 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. III	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生+TOEFL クラス）・クラス②（留学生クラス+一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス+一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス+一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生+留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60% 程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60% 程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R (TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果)：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4時間）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1 導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 導入、文法：品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第13回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 1 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. III	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 450 (クラスにより 600) 以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス① (留学生 + TOEFL クラス)・クラス② (留学生クラス + 一般学生クラス) は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス② (留学生クラス + 一般学生クラス) は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス② (留学生クラス + 一般学生クラス) を履修しましょう。また、水 2 クラス① (TOEFL、一般学生 + 留学生クラス、交換留学を希望する学生) は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 450 (クラスにより 600) 以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト (TOEIC 頻出単語) において、毎回 80 % 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60 % 程度の主要な情報 (登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など) を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60 % 程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 (通年使用)、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R (TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果)：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、教員の指示がない限り、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST1 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する（4時間）	4時間
第2回	対面	TOEIC イントロダクション Part 1 導入	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の形	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 導入、文法：品詞の見分け問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞の形	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：本動詞の問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 導入、文法：代名詞の格	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、TOEIC Part 4 導入、Part 5/6 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 7 学習法実践	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4 時間
第13回	対面	リスニング力全般強化、リーディング速読力強化	事後学修： ・TEST 1 リスニングセクション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディング速読力強化、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 1 リーディングセクションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 1 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	世界史概論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中尾 恭三	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代世界形成の歴史		
授業の目的及び概要	現代社会の諸問題の形成に関わる歴史の大きな変化、とりわけ地域間・事件間の相関関係の変化に主眼を置き、異なる地域においての文化や文明の成長、とくにその相互間の交流によってそれぞれ変化していく歴史を大局的に捉え、歴史時期において国際社会に大きな影響を与えた代表的な事件の発生原因とその結果を中心に学修する。とくに、以下の2点に対し重点的に考察し説明する。それは、地球上には多様多様な文明や文化が存在し、それぞれ独自の発展変化を歩んできたこと、異なった文化背景をもつ民族間・人種間の絶え間ない移動・交易・交流によって地域、そして世界を形成されていたこと、である。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①シルクロードで代表される歴史上の東西交易、南米からの銀の流れによって地球規模の交流開始などといった歴史の大きな流れをつかむことができる。 ②時代のターニングポイントに重点を置き、時代変化を分析する方法を学ぶことができる。 ③現代社会の諸課題について考えるに際して、歴史的視点をを用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義後、テーマにそった確認小テストを実施するとともに、ラーニング・ポータルのディスカッションやアンケートの機能を使って、学生の反応や質問を収集する。その後、学生の小テスト解答、質問、感想などを紹介しつつ、コメントと課題の解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『明解歴史総合図説シンフォニア』（五訂版）、帝国書院編集部、帝国書院、2026 年	ISBN	9784807167838
参考書	①『もういちど読む山川世界現代史』、木谷勤、山川出版社、2015 年 ②『世界史年表・地図（2025 年版）』、亀井高孝ほか、吉川弘文館、2025 年 ③『世界史用語集』、全国歴史教育研究協議会、山川出版社、2023 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	15	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	①パソコンを必携すること ②教員の説明を聞いて、自ら思考をすること ＊歴史学は年表片手で丸暗記の学問ではない。歴史学は史料のもとで人類の歩みを分析・検討し、流動する現実と未来を見極めようとしている。諸君は授業に積極的に出席し、各々の時代		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：世界史概論って何を学修するのか、地域世界	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。	1時間
第2回	対面	近代以前の世界：銀の時代の到来、16、17世界の地域世界間の交流	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第3回	対面	近代世界システム（1）：欧州の工業化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第4回	対面	近代世界システム（2）：アジアの植民地化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第5回	対面	近代世界システム（3）：アジア間貿易の展開	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第6回	対面	帝国主義の時代（1）：第一次世界大戦の原因	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第7回	対面	帝国主義の時代（2）：ヴェルサイユ体制と民族解放闘争 中間テスト	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第8回	対面	国際秩序の変化（1）：世界恐慌と全体主義の台頭	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第9回	対面	国際秩序の変化（2）：太平洋戦争とアジア諸国の抵抗	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第10回	対面	戦後国際秩序の変化（1）：第二次世界大戦後の国際秩序	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第11回	対面	戦後国際秩序の変化（2）：植民地の独立と新たな課題	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第12回	対面	現代世界の様態（1）：現代世界の多極構造	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4時間
第13回	対面	現代世界の様態（2）：東アジアの奇跡	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5時間
第14回	対面	現代世界の様態（3）：グローバル化する現代社会	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5時間
第15回	オンデマンド	まとめ・期末試験復習	これまでの配布資料を整理したうえ、復習を行う。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。 ＊履修者の理解度を把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む授業計画の調整することはありうる。	5時間

科目名	世界史概論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伍 躍	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代世界形成の歴史		
授業の目的及び概要	現代社会の諸問題の形成に関わる歴史の大きな変化、とりわけ地域間・事件間の相関関係の変化に主眼を置き、異なる地域においての文化や文明の成長、とくにその相互間の交流によってそれぞれ変化していく歴史を大局的に捉え、歴史時期において国際社会に大きな影響を与えた代表的な事件の発生原因とその結果を中心に学修する。とくに、以下の2点に対し重点的に考察し説明する。それは、地球上には多様多様な文明や文化が存在し、それぞれ独自の発展変化を歩んできたこと、異なった文化背景をもつ民族間・人種間の絶え間ない移動・交易・交流によって地域、そして世界を形成されていたこと、である。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①シルクロードで代表される歴史上の東西交易、南米からの銀の流れによって地球規模の交流開始などといった歴史の大きな流れをつかむことができる。 ②時代のターニングポイントに重点を置き、時代変化を分析する方法を学ぶことができる。 ③現代社会の諸課題について考えるに際して、歴史的視点をを用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義後、テーマにそった確認小テストを実施するとともに、ラーニング・ポータルのディスカッションやアンケートの機能を使って、学生の反応や質問を収集する。その後、学生の小テスト解答、質問、感想などを紹介しつつ、コメントと課題の解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『明解歴史総合図説シンフォニア』（五訂版）、帝国書院編集部、帝国書院、2026 年	ISBN	9784807167838
参考書	①『もういちど読む山川世界現代史』、木谷勤、山川出版社、2015 年 ②『世界史年表・地図（2025 年版）』、亀井高孝ほか、吉川弘文館、2025 年 ③『世界史用語集』、全国歴史教育研究協議会、山川出版社、2023 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	15	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	①パソコンを必携すること ②教員の説明を聞いて、自ら思考をすること ＊歴史学は年表片手で丸暗記の学問ではない。歴史学は史料のもとで人類の歩みを分析・検討し、流動する現実と未来を見極めようとしている。諸君は授業に積極的に出席し、各々の時代		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：世界史概論って何を学修するのか、地域世界	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。	1 時間
第2回	対面	近代以前の世界：銀の時代の到来、16、17世界の地域世界間の交流	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第3回	対面	近代世界システム（1）：欧州の工業化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第4回	対面	近代世界システム（2）：アジアの植民地化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第5回	対面	近代世界システム（3）：アジア間貿易の展開	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第6回	対面	帝国主義の時代（1）：第一次世界大戦の原因	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第7回	対面	帝国主義の時代（2）：ヴェルサイユ体制と民族解放闘争 中間テスト	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第8回	対面	国際秩序の変化（1）：世界恐慌と全体主義の台頭	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第9回	対面	国際秩序の変化（2）：太平洋戦争とアジア諸国の抵抗	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第10回	対面	戦後国際秩序の変化（1）：第二次世界大戦後の国際秩序	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第11回	対面	戦後国際秩序の変化（2）：植民地の独立と新たな課題	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第12回	対面	現代世界の様態（1）：現代世界の多極構造	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第13回	対面	現代世界の様態（2）：東アジアの奇跡	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第14回	対面	現代世界の様態（3）：グローバル化する現代社会	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第15回	オンデマンド	まとめ・期末試験復習	これまでの配布資料を整理したうえ、復習を行う。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。 ＊履修者の理解度を把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む授業計画の調整することはありうる。	5 時間

科目名	世界史概論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中尾 恭三	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代世界形成の歴史		
授業の目的及び概要	現代社会の諸問題の形成に関わる歴史の大きな変化、とりわけ地域間・事件間の相関関係の変化に主眼を置き、異なる地域においての文化や文明の成長、とくにその相互間の交流によってそれぞれ変化していく歴史を大局的に捉え、歴史時期において国際社会に大きな影響を与えた代表的な事件の発生原因とその結果を中心に学修する。とくに、以下の2点に対し重点的に考察し説明する。それは、地球上には多様多様な文明や文化が存在し、それぞれ独自の発展変化を歩んできたこと、異なった文化背景をもつ民族間・人種間の絶え間ない移動・交易・交流によって地域、そして世界を形成されていたこと、である。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①シルクロードで代表される歴史上の東西交易、南米からの銀の流れによって地球規模の交流開始などといった歴史の大きな流れをつかむことができる。 ②時代のターニングポイントに重点を置き、時代変化を分析する方法を学ぶことができる。 ③現代社会の諸課題について考えるに際して、歴史的視点をを用いることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義後、テーマにそった確認小テストを実施するとともに、ラーニング・ポータルのディスカッションやアンケートの機能を使って、学生の反応や質問を収集する。その後、学生の 小テスト解答、質問、感想などを紹介しつつ、コメントと課題の解説を行う。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『明解歴史総合図説シンフォニア』（五訂版）、帝国書院編集部、帝国書院、2026 年	ISBN	9784807167838
参考書	①『もういちど読む山川世界現代史』、木谷勤、山川出版社、2015 年 ②『世界史年表・地図（2025 年版）』、亀井高孝ほか、吉川弘文館、2025 年 ③『世界史用語集』、全国歴史教育研究協議会、山川出版社、2023 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	45	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	15	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	①パソコンを必携すること ②教員の説明を聞いて、自ら思考をすること ＊歴史学は年表片手で丸暗記の学問ではない。歴史学は史料のもとで人類の歩みを分析・検討し、流動する現実と未来を見極めようとしている。諸君は授業に積極的に出席し、各々の時代		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：世界史概論って何を学修するのか、地域世界	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。	1 時間
第2回	対面	近代以前の世界：銀の時代の到来、16、17世界の地域世界間の交流	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第3回	対面	近代世界システム（1）：欧州の工業化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第4回	対面	近代世界システム（2）：アジアの植民地化	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第5回	対面	近代世界システム（3）：アジア間貿易の展開	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第6回	対面	帝国主義の時代（1）：第一次世界大戦の原因	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第7回	対面	帝国主義の時代（2）：ヴェルサイユ体制と民族解放闘争 中間テスト	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第8回	対面	国際秩序の変化（1）：世界恐慌と全体主義の台頭	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第9回	対面	国際秩序の変化（2）：太平洋戦争とアジア諸国の抵抗	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第10回	対面	戦後国際秩序の変化（1）：第二次世界大戦後の国際秩序	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第11回	対面	戦後国際秩序の変化（2）：植民地の独立と新たな課題	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第12回	対面	現代世界の様態（1）：現代世界の多極構造	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	4 時間
第13回	対面	現代世界の様態（2）：東アジアの奇跡	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第14回	対面	現代世界の様態（3）：グローバル化する現代社会	テキストの指定部分と配布資料を読んで、講義内容を整理する。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。	5 時間
第15回	オンデマンド	まとめ・期末試験復習	これまでの配布資料を整理したうえ、復習を行う。歴史上の事件や人物を含む固有名詞については参考書②と③を活用して調べよう。 ＊履修者の理解度を把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む授業計画の調整することはない。	5 時間

科目名	日本史概論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	北山 航	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本史の諸問題		
授業の目的及び概要	日本をとりまく世界の動き、特に東アジア世界との相関関係を意識しながら、古代・中世・近世・近代および現代の歴史な変遷を大局的に捉え、現在の社会問題と繋がる論点やその背景を理解することを目標とします。具体的には、東アジア世界の影響を受けつつ展開する前近代の政治・文化や、国際社会へ参入していく近代日本の姿などを念頭に入れ、各時代ごとに重要と思われるトピックを取り上げ、それに関する問い・疑問について考えていく形で講義を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①政治史・社会史を主線に、国際社会の変化をも留意しつつ、日本史の流れを構造的に把握することができる。 ②時代ごとのターニングポイントに重点を置き、それに関する問いを考察することができる。 ③現代社会の諸課題について、歴史的視点から考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業後に提出されたコメントや質問を翌週の授業で取り上げ、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。レジュメを配付します。	ISBN	なし
参考書	①『もういちど読みなおす山川新日本史』上、大津透ほか、山川出版社、2022 年 ②『もういちど読みなおす山川新日本史』下、大津透ほか、山川出版社、2022 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション（授業の内容・進め方の説明）	授業後に、授業で配付したレジュメを読んで、ノートを整理して下さい。	1 時間
第 2 回	対面	奈良時代の東アジアと日本	参考書の奈良時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間

第3回	対面	平安時代の貴族と文化・政治	参考書の平安時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第4回	対面	源平の内乱と鎌倉幕府の成立	参考書の鎌倉時代に関する記述を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第5回	対面	室町時代の政治と芸能	参考書の室町時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第6回	対面	戦国大名の戦いと外交	参考書の戦国時代に関する記述を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第7回	対面	江戸幕府の成り立ちと「鎖国」	参考書の江戸時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第8回	対面	江戸時代の生活と都市	参考書の江戸時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第9回	対面	幕末の開国と日本社会の変容	参考書の江戸時代後期に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第10回	対面	明治維新と日本の「近代化」	参考書の明治時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第11回	対面	日清・日露戦争	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第12回	対面	大正時代の政治・文化	参考書の大正時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第13回	対面	日中戦争から太平洋戦争へ	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第14回	対面	戦後の東アジアと日本	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第15回	オンデマンド	本授業のまとめ *学生の理解度などを把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む上記の授業計画を調整する可能性がある。	授業後に、授業で配付したレジュメや参考文献を読んで復習して下さい。	5 時間

科目名	日本史概論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	北山 航	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本史の諸問題		
授業の目的及び概要	日本をとりまく世界の動き、特に東アジア世界との相関関係を意識しながら、古代・中世・近世・近代および現代の歴史な変遷を大局的に捉え、現在の社会問題と繋がる論点やその背景を理解することを目標とします。具体的には、東アジア世界の影響を受けつつ展開する前近代の政治・文化や、国際社会へ参入していく近代日本の姿などを念頭に入れ、各時代ごとに重要と思われるトピックを取り上げ、それに関する問い・疑問について考えていく形で講義を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①政治史・社会史を主線に、国際社会の変化をも留意しつつ、日本史の流れを構造的に把握することができる。 ②時代ごとのターニングポイントに重点を置き、それに関する問いを考察することができる。 ③現代社会の諸課題について、歴史的視点から考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業後に提出されたコメントや質問を翌週の授業で取り上げ、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。レジュメを配付します。	ISBN	なし
参考書	①『もういちど読みなおす山川新日本史』上、大津透ほか、山川出版社、2022 年 ②『もういちど読みなおす山川新日本史』下、大津透ほか、山川出版社、2022 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション（授業の内容・進め方の説明）	授業後に、授業で配付したレジュメを読んで、ノートを整理して下さい。	1 時間
第 2 回	対面	奈良時代の東アジアと日本	参考書の奈良時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間

第3回	対面	平安時代の貴族と文化・政治	参考書の平安時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第4回	対面	源平の内乱と鎌倉幕府の成立	参考書の鎌倉時代に関する記述を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第5回	対面	室町時代の政治と芸能	参考書の室町時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第6回	対面	戦国大名の戦いと外交	参考書の戦国時代に関する記述を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第7回	対面	江戸幕府の成り立ちと「鎖国」	参考書の江戸時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第8回	対面	江戸時代の生活と都市	参考書の江戸時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第9回	対面	幕末の開国と日本社会の変容	参考書の江戸時代後期に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第10回	対面	明治維新と日本の「近代化」	参考書の明治時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第11回	対面	日清・日露戦争	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第12回	対面	大正時代の政治・文化	参考書の大正時代に関する記述と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第13回	対面	日中戦争から太平洋戦争へ	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第14回	対面	戦後の東アジアと日本	参考書の該当箇所と配布資料を読んで、授業内容の予習・復習を行う。	4 時間
第15回	オンデマンド	本授業のまとめ *学生の理解度などを把握しながら、オンデマンド授業の実施時期を含む上記の授業計画を調整する可能性がある。	授業後に、授業で配付したレジュメや参考文献を読んで復習して下さい。	5 時間

科目名	ジェンダー論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	保井 啓志	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	ジェンダー研究入門		
授業の目的及び概要	男／女の二分法はつねに「あたりまえ」や「自然」と考えられてきました。しかしそのような考え方は社会によってつくられ、私たちの日常生活や思考をも形作っています。就職活動のエントリーシートの「性別」欄から日常的に使う言葉まで、性（ジェンダー・セクシュアリティ）に関する規範は影響を与えています。その帰結としてさまざまな性差別が生じています。性に関するさまざまな不平等や差別に抗い、フェミニズムやジェンダー研究と呼ばれる学術研究は私たちの社会を大きく変えてきました。 この授業では女性の歴史的な位置付けや社会の捉え方の変遷を扱います。歴史や社会運動を振り返るだけでなく、ポップカルチャー（ディズニーやジブリなど）や経済・法学的な観点から、ジェンダー研究に関する知識や考え方を習得します。		
履修条件・留意点	本授業では、授業中に課題を設定しています。それらの課題は授業参加（50％）として評価されます。また最終的な評価は期末試験（50％）で行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義を通じて、以下のことを到達目標とします。 ①ジェンダー研究における基本概念を理解すること。 ②性が社会的に構築されていること、またその政治性を理解すること。 ③既存の社会規範を性の観点から批判的に考え直すこと。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業後にラーニングポータルを通してコメントを書いてもらいます。コメントの一部を翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	基本的に講義をもとにしますが、双方向的なコミュニケーションや学生の積極的な参加を促します。講師が一人で説明するのではなく、質問や授業中課題、リアクションペーパーなどでのディスカッションを重視します。とりわけ、日常生活の経験をもとに、ジェンダーとセクシュアリティに関するテーマや問題を考え、議論します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	【第1回 イン트로ダクション】 授業についての概要と基本的な概念を紹介します。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第2回	対面	【第2回 フェミニズムの歴史①】 ジェンダー研究の成立に大きな影響を与えてきたフェミニズムの歴史を概観します。①では、人権宣言から第一波フェミニズムの歴史を取り扱います。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第3回	対面	【第3回 フェミニズムの歴史②】 ジェンダー研究の成立に大きな影響を与えてきたフェミニズムの歴史を概観します。②では、第二波フェミニズムの歴史とジェンダー研究の登場を取り扱います。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第4回	対面	【第4回 フェミニズムの歴史③】 ジェンダー研究の成立に大きな影響を与えてきたフェミニズムの歴史を概観します。③では、第三波フェミニズムと複数のフェミニズムズの登場を取り扱います。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第5回	対面	【第5回 視聴覚教材『Suffragette』】 第一波フェミニズムの時代の参政権運動を取り扱った作品、Suffragetteを鑑賞し、知識を深めます。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第6回	対面	【第6回 近代社会と家父長制①】 私たちが済む社会の在り方と、ジェンダーがいかに交差するのか、それを語るうえで欠かせない「家庭」について、取り扱います。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第7回	対面	【第7回 近代社会と家父長制②】 私たちが済む社会の在り方と、ジェンダーがいかに交差するのか、それを語るうえで欠かせない「家庭」について、取り扱います。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第8回	対面	【第8回 近代社会と家父長制③】 私たちが済む社会の在り方と、ジェンダーがいかに交差するのか、それを語るうえで欠かせない「家庭」について、取り扱います。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第9回	対面	【第9回 宗教とジェンダー】 宗教はジェンダー規範に大きな影響を与え続けています。その両者の関係を取り扱います。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第10回	対面	【第10回 女性性／男性性】 ジェンダー研究の中で行われてきた「らしさ」をめぐる議論について概観します。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第11回	対面	【第11回 作品・表現とジェンダー】 文学や映像その他の表現において、女性・男性がどのように描かれているかは重要な問題です。この両者の関係性を概観します。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第12回	対面	【第12回 セクシュアリティ：性暴力と性産業】 セクシュアリティの議論において主要なトピックである性暴力や性産業、セックスワークについて、性的合意や労働、資本主義との関係性を学びます。	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第13回	対面	【第13回 同性愛・性的マイノリティ】 同性愛や性的マイノリティの問題はジェ	〔予習〕 シラバスを事前に読み、調べて予習する。 〔復習〕 ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間

		ンダー研究の中でも重要なトピックとして扱われてきた。ゲイ解放運動やレズビアン・フェミニズムなどを中心にその歴史の変遷を学ぶ。		
第14回	対面	【第十四回 同性愛・性的マイノリティ】 同性愛や性的マイノリティの問題はジェンダー研究の中でも重要なトピックとして扱われてきた。ゲイ解放運動やレズビアン・フェミニズムなどを中心にその歴史の変遷を学ぶ。	[予習] シラバスを事前に読み、調べて予習する。 [復習] ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	【第十五回 振り返りとまとめ】 これまでの授業の内容を振り返る。	[予習] シラバスを事前に読み、調べて予習する。 [復習] ガイダンス資料を読み直し、復習する。	4 時間

科目名	World Englishes for Current Affairs I < Current World Events I >	開講年度	2026 年度春学期
担当者	木村 彩音	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きているホットなニュースを英語で学ぶことで語彙力や文法力を向上させ、アカデミックイングリッシュを理解し、発信する力を身に付けるとともに、英語報道の切り口から国際感覚を身に付ける。		
授業の目的及び概要	この科目は、主にマスメディアによって発信されている英語ニュースをリアルタイムで学ぶことで、正確な英語の読解力や聴解力を身につけます。メディアで使われる語彙や言い回し、語法などを学ぶことで、アカデミックイングリッシュスキルの向上を目指します。また、卒業論文執筆の際に英語の論文や記事を先行研究として購読するために必要な基礎的素養も身につけていきます。授業では、様々な分野のニュースを購読・視聴することで、専門知識や論理的思考力の高度化を図るとともに、幅広い視野を育みます。リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解、発信、議論する力を身につけ、英語の総合的運用能力を高めながら、グローバルな視点を滋養し、世界で起こる事象について考察していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	アカデミックイングリッシュスキルの向上並びに国際社会への理解を深めるため、この科目の目標は語彙・長文・アウトプット・内容理解に関してそれぞれ以下の通り設定しています。 【語彙】 1. 授業で扱った語彙や表現の意味を理解し、正しく発音することができる。 【長文】 1. 辞書を使えば、英語ニュースの記事を読むことができる。 【アウトプット】 1. CD や教員の発話を参考に、英語ニュースを正しく、英語らしく読むことができる。 2. 興味のあるニュースについて調査を行い、英語でスライドにまとめプレゼンテーションを行うことができる。 3. 興味のあるニュースについて、自身の考えを英語でレポートにまとめることができる。 4. 英語による報道内容の概要／趣旨を掴み、英語で他者に説明することができる。 【内容理解】 1. 国際社会の問題について自らの意見を述べるすることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。 学生によるプレゼンテーションは、採点した上で、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	CBS NewsBreak 7 / CBS ニュースブレイク 7、熊井 信弘・Paul Daniels・Stephen Timson、成美堂、2025	ISBN	9784791973095
参考書	なし	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	40	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界では今何が起きて、どのようなことが注目されているでしょうか。皆さんが興味のあるニュースは何ですか。 この授業では、様々なニュースに触れ、考えていきます。ご自身の興味・関心のある分野についての知識を深め、これからの学修につなげてください。 メディアで使われるアカデミックイングリッシュを学ぶことは、皆さんの英語を1段階レベルアップさせてくれるだけでなく、英語の資格試験にも大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	1 時間
第2回	対面	Unit 2: Will Artificial Intelligence Take Your Job?	【予習】 Unit 2 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 2 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第3回	対面	Unit 3: 3D Chalk Art on Fourth of July Celebration	【予習】 Unit 3 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 3 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第4回	対面	Unit 4: Youth Orchestra Works to Narrow Racial Gap	【予習】 Unit 4 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 4 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第5回	対面	Unit 5: Can Robots and Humans Coexist?	【予習】 Unit 5 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 5 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第6回	対面	Unit 6: Teens Help Seniors Learn How to Use Technology	【予習】 Unit 6 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 6 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第7回	対面	中間発表会の実施及び講評	【予習】 中間発表会に向けた準備 【復習】 中間発表の振り返り（ミニレポートの作成）	4 時間
第8回	対面	Unit 7: Japanese Employees Take Part in Smile Classes	【予習】 Unit 7 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】	4 時間

			Unit 7 の語彙・表現の復習 小テストの準備	
第9回	対面	Unit 9: The Impact of ChatGPT on Education and Beyond	【予習】 Unit 9 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 9 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第10回	対面	Unit 10: Customers are Fed up with "Tipflation"	【予習】 Unit 1 の語彙や0 表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 10 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第11回	対面	Unit 11: Santa Claus in Atlanta Speaks Spanish, Sign Language, and English	【予習】 Unit 11 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 11 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第12回	対面	Unit 13: Sneaker Culture Comes to Congress	【予習】 Unit 13 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 13 の語彙・表現の復習 小テストの準備	6 時間
第13回	対面	期末発表会①の実施及び講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 期末発表の振り返り（期末レポートの作成）	4 時間
第14回	対面	期末発表会②及び最終レポートの講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 最終レポートの訂正	4 時間
第15回	オンデマンド	授業内容の振り返り及び最終レポート作成について	最終レポートの作成に向けて調査したことをまとめておく	6 時間

科目名	World Englishes for Current Affairs I < Current World Events I >	開講年度	2026 年度春学期
担当者	国兼 慶	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きているホットなニュースを英語で学ぶことで語彙力や文法力を向上させ、アカデミックイングリッシュを理解し、発信する力を身に付けるとともに、英語報道の切り口から国際感覚を身に付ける。		
授業の目的及び概要	この科目は、主にマスメディアによって発信されている英語ニュースをリアルタイムで学ぶことで、正確な英語の読解力や聴解力を身につけます。メディアで使われる語彙や言い回し、語法などを学ぶことで、アカデミックイングリッシュスキルの向上を目指します。また、卒業論文執筆の際に英語の論文や記事を先行研究として購読するために必要な基礎的素養も身につけていきます。授業では、様々な分野のニュースを購読・視聴することで、専門知識や論理的思考力の高度化を図るとともに、幅広い視野を育みます。リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解、発信、議論する力を身につけ、英語の総合的運用能力を高めながら、グローバルな視点を滋養し、世界で起こる事象について考察していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	アカデミックイングリッシュスキルの向上並びに国際社会への理解を深めるため、この科目の目標は語彙・長文・アウトプット・内容理解に関してそれぞれ以下の通り設定しています。 【語彙】 1. 授業で扱った語彙や表現の意味を理解し、正しく発音することができる。 【長文】 1. 辞書を使えば、英語ニュースの記事を読むことができる。 【アウトプット】 1. CD や教員の発話を参考に、英語ニュースを正しく、英語らしく読むことができる。 2. 興味のあるニュースについて調査を行い、英語でスライドにまとめプレゼンテーションを行うことができる。 3. 興味のあるニュースについて、自身の考えを英語でレポートにまとめることができる。 4. 英語による報道内容の概要／趣旨を掴み、英語で他者に説明することができる。 【内容理解】 1. 国際社会の問題について自らの意見を述べるることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。 学生によるプレゼンテーションは、採点した上で、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	CBS NewsBreak 7 / CBS ニュースブレイク 7、熊井 信弘・Paul Daniels・Stephen Timson、成美堂、2025	ISBN	9784791973095
参考書	なし	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	40	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界では今何が起きて、どのようなことが注目されているでしょうか。皆さんが興味のあるニュースは何ですか。 この授業では、様々なニュースに触れ、考えていきます。ご自身の興味・関心のある分野についての知識を深め、これからの学修につなげてください。 メディアで使われるアカデミックイングリッシュを学ぶことは、皆さんの英語を1段階レベルアップさせてくれるだけでなく、英語の資格試験にも大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	1 時間
第2回	対面	Unit 2: Will Artificial Intelligence Take Your Job?	【予習】 Unit 2 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 2 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第3回	対面	Unit 3: 3D Chalk Art on Fourth of July Celebration	【予習】 Unit 3 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 3 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第4回	対面	Unit 4: Youth Orchestra Works to Narrow Racial Gap	【予習】 Unit 4 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 4 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第5回	対面	Unit 5: Can Robots and Humans Coexist?	【予習】 Unit 5 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 5 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第6回	対面	Unit 6: Teens Help Seniors Learn How to Use Technology	【予習】 Unit 6 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 6 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第7回	対面	中間発表会の実施及び講評	【予習】 中間発表会に向けた準備 【復習】 中間発表の振り返り（ミニレポートの作成）	4 時間
第8回	対面	Unit 7: Japanese Employees Take Part in Smile Classes	【予習】 Unit 7 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】	4 時間

			Unit 7 の語彙・表現の復習 小テストの準備	
第9回	対面	Unit 9: The Impact of ChatGPT on Education and Beyond	【予習】 Unit 9 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 9 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第10回	対面	Unit 10: Customers are Fed up with "Tipflation"	【予習】 Unit 1 の語彙や0 表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 10 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第11回	対面	Unit 11: Santa Claus in Atlanta Speaks Spanish, Sign Language, and English	【予習】 Unit 11 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 11 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第12回	対面	Unit 13: Sneaker Culture Comes to Congress	【予習】 Unit 13 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 13 の語彙・表現の復習 小テストの準備	6 時間
第13回	対面	期末発表会①の実施及び講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 期末発表の振り返り（期末レポートの作成）	4 時間
第14回	対面	期末発表会②及び最終レポートの講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 最終レポートの訂正	4 時間
第15回	オンデマンド	授業内容の振り返り及び最終レポート作成について	最終レポートの作成に向けて調査したことをまとめておく	6 時間

科目名	コミュニケーション論		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宋 南先		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	コミュニケーションの仕組みと生態をつかむ			
授業の目的及び概要	この授業では、自己が他者を理解し、他者に自己を理解させようとする行為としてのコミュニケーションが持つ仕組みとその諸相について学修する。コミュニケーションという行為が目指す理解とは、自己や他者に対する「あるがまま」の理解ではなく、意図された特定の理解である。意図された理解は、コミュニケーション参与者間の関係のあり方によって多様な特徴を示す。 この授業は、意図された伝達行為が持つ諸特徴を理解を目的とする。また、より適切なコミュニケーション参与者になるための素養を高めることもその目的とする。就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を養う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	グローバル化と情報化が同時に進む現代社会においては、コミュニケーションの形態も急速に多様化していきます。このトレンドに対応するために以下の素養を培います。 1. ヒトのコミュニケーションの基本的な仕組みを理解する。 2. コミュニケーションの生物学的、認知的基盤を理解する。 3. 個対個、個対集団、集団間、個対不特定多数、不特定多数間、といった多様なコミュニケーション形態の特徴を把握する。 4. 言語、身体表現、映像、記号等のコミュニケーション手段についての理解を得る。 5. 説得、情報のゆがみ、デマ、広告、都市伝説等の考察を通して、実践的対応力を身につける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業ごとに、授業の概要と、意見をコメントシートに書いてもらい、次回の授業の冒頭で内容を紹介し、教員がコメントを述べます。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし		ISBN	なし
参考書	辻大介、是永論、関谷直也『コミュニケーション論をつかむ』（有斐閣、2012 年）		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		80	
	その他（％）		0	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	授業の目的及び概要、授業の方法、授業計画をよく読んでおいてください。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	情報伝達、意図の理解、関係形成・維持という三つの観点からコミュニケーションを定義、考察します。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第2回	対面	言語相対性仮説と言語普遍論を紹介し、言語とヒトの思考の関係について考えます。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第3回	対面	ヒトがコミュニケーションにおいて、フレーム、スキーマと呼ばれる、構造化された認知能力をいかに駆使しているのかを考察します。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第4回	対面	言語コミュニケーションがヒトの身体を中心とする空間概念の隠喩的拡張によって支えられていることを論じて、コミュニケーションの認知的基盤について考察します。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第5回	対面	発話行為や言外の意味について概説し、情報がいかに語や文を超えたレベルで構造化されるのかを論じます。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第6回	対面	刺激と反応、分節性という視点から、動物間の伝達とヒトのコミュニケーションの違いについて考えます。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第7回	対面	ヒトの表情やジェスチャーがコミュニケーションにいかに使われるのかを概観し、非言語コミュニケーションの普遍性と文化差について論じます。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第8回	対面	具体的な談話やテキストを分析し、談話の理解がどのような原則とルールによって成り立つのかを考察します。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第9回	対面	近代史における消費社会形成過程をたどり、大量生産と大衆消費を支える広告の役割を考察します。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第10回	対面	広告のサンプルを読み解きながら、広告が持つ情報伝達機能と説得的伝達機能について考えます。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第11回	対面	流言、都市伝説、ゴシップ、デマ等が流布・普及するプロセスを分析し、情報が歪められていくパターンを論じます。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第12回	対面	国家的暴力や戦争、人々の消費行動、選挙行動等にメディアが果たしてきた歴史を概観し、その影響力について考えます。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第13回	対面	巧みに構造化されたコミュニケーション、説得的コミュニケーションの流れを考察します。また、それが言語トラップにいか利用されているのかも論じます。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第14回	対面	地球上のほとんどの文化に存在する共通項(エティック)と、ある特定の文化にのみ存在する特有の性質(イーミック)という区別を応用し、異文化間のコミュニケーションの在り方を考えます。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。(2時間程度)	2時間
第15回	オンデマンド	授業全体のまとめを行います。(オンデマンド授業)	LMS上に掲載した動画を視聴して学修してください。オンデマンド授業です。(2時間程度)	2時間

科目名	異文化コミュニケーション		開講年度	2026 年度春学期
担当者	岡村 徹		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	文化についての理解を深め、異文化コミュニケーションにおける様々な問題について考察する。			
授業の目的及び概要	この授業は、今日のグローバル社会において、異文化に対する感受性と他者への共感性を高め、バランスの取れた異文化コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。授業では、異文化コミュニケーションに関する諸問題を多面的に認識し、解決のための方法について考える。これらの学修を通して、異文化に対する適応、非言語メッセージの諸相、異文化間交渉における紛争解決及び共生、コミュニケーション能力、異文化コミュニケーションにおける言語技能の役割について理解を深める。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・「文化」という概念について批判的、多面的に考察できる。 ・コミュニケーションを通して自己と他者の言語行動の違いについて観察、考察、分析できる。 ・異文化コミュニケーションにおいて生じうる問題について考察することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業を受けて気づいたこと、学んだこと、疑問等ミニッツペーパーまたはラーニングポータルのアンケートで提出し、翌週の授業で講評や回答をします。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	授業では一定のテキストは使用せずに、随時、配布資料を活用します。	ISBN	なし	
参考書	①『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子ほか著、三修社、2001 ②『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション－誤解・失敗・すれ違い』久米昭元・長谷川典子著、有斐閣、2007 ③『よくわかる異文化コミュニケーション』池田 理知子編著、ミネルヴァネルヴァ書房、2010 ④『言語の社会心理学 - 伝えたいことは伝わるのか』岡本真一郎著、中央公論新社、2013	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	20		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	40		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	私たちは日常生活において「文化」という概念を何気なく使っていますが、果たして「文化」とは何を意味しているのでしょうか？わかっているようでわからない概念である「文化」について深く考えてみるのが、異文化コミュニケーションを学ぶための第一歩です。異文化コミュニケーションは外国で外国人とコミュニケーションをとる場面だけでなく、私たちのより身近な場面でも見出すこともできます。私たちの周りの多様性を理解し、自身も他者を尊重でき			

るよう、授業を通してともに学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要、評価方法の説明 文化とは？文化が異なるとは？コミュニケーションとは？の3つの問いについて考えます。	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえ自身の日常生活や経験を振り返り、文化とコミュニケーションについて考える課題が課されます。（120分） 次回の授業の予習として、男性文化と女性文化の違いについての配布資料を読む課題が課されます。（120分）	4時間
第2回	対面	異文化間コミュニケーションとしての男女の会話について考えます。（1）	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえ自身の身近なところ例えば、どんなことに相当するのかを考える課題が課されます。（120分） 次回の授業の予習として、上記の諸問題についてさらに配布資料を読む課題が課されます。（120分）	4時間
第3回	対面	異文化間コミュニケーションとしての男女の会話について考えます。（2）	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえ私たちの身近なところで起きている言語現象について考える課題が課されます。（120分） 次回の授業の予習として、カタカナ表記語についての配布資料を読む課題が課されます。（120分）	4時間
第4回	対面	カタカナ外来語を通して見た高齢者文化と若者文化の違いについて考えます。（1）	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえカタカナ表記語についてより発展的な課題が課されます。（120分） 次回の授業の予習として、カタカナ表記語についての配布資料を読む課題が課されます。（120分）	4時間
第5回	対面	カタカナ外来語を通して見た高齢者文化と若者文化の違いについて考えます。（2）	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえカタカナ表記語についての応用課題が課されます。（120分） 次回の授業の予習として、社会階層と言語についての配布資料を読む課題が課されます。（120分）	4時間
第6回	対面	英米の社会階層区分を通して見た英語の世界について考えます。（1）	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、それを踏まえ言語と社会階層との関係性に関する課題が課されます。（120分） 次回の授業の予習として、言語と社会階層の関係性についてより発展的な配布資料を読む課題が課されます。（120分）	4時間
第7回	対面	英米の社会階層区分を通して見た英語の世界について考えます。（2）	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、上記の諸問題に関する応用課題が課されます。（120分） 次回の授業の予習として、地域方言とアイデンティティの関係性についての配布資料を読む課題が課されます。（120分）	4時間
第8回	対面	地域方言を通して見た土地文化とアイデンティティの関係性について考えます。（1）	授業後は配布資料をもとに講義内容について復習し、地域方言とアイデンティティの関係性についての課題が課されます。（120分） 上記の諸問題について考える応用課題が課されます。（120分）	4時間
第9回	対面	地域方言を通して見た土地文化とアイデンティティについて考えます。（2）	授業中に行った学習を引き続き行い、その内容をまとめる課題が課されます。（120分） 次回の言語と民族の諸問題について考える課題が課されます。（120分）	6時間
第10回	対面	ことばを通して見た民族的な差異とアイデンティティについて考えます。（1）	授業で学んだことをふりかえり、まとめてみる（240分）	4時間

第11回	対面	ことばを通して見た民族的な差異とアイデンティティについて考えます。(2)	さらに引き続き調査をし、その結果をまとめる課題が課されます。(240分)	4時間
第12回	対面	特定の社会集団に見られる隠語と連帯感について考えます。(1)	授業で学んだことを復習する(180分)	4時間
第13回	対面	特定の社会集団に見られる隠語と連帯感について考えます。(2)	授業で学んだことを復習する。(180分)	4時間
第14回	対面	特定の社会集団に見られる隠語と連帯感について考えます。(3)	授業で学んだことを復習する。(180分)	4時間
第15回	オンデマンド	総括	定期試験に向けた学修	4時間

科目名	ことばと社会	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宋 南先	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語現象を通して社会と文化の多様なあり方を理解する。		
授業の目的及び概要	この授業は、ことばが社会・文化にとってどのような意味をもっているのかについての考察を深めることを目的とする。授業では、日本語や英語、その他の言語を比較し、言語の文法体系は、それを使用する人々が相互に合意した共通の考え方（価値観）の表れであるということを認識する。その上で、何気なく使っている文法体系には、それぞれの言語圏における人間同士、あるいは人間と自然等との関係における一定の思考様式が深く作用しているということを理解する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	グローバル化する世界とは、単一の価値が共有される世界であると同時に、様々な文化が接触し、融合する一方で、互いにぶつかり合い、激しく対立する世界でもある。そこでは、「多文化共生」という考え方は、単に耳触りのよいスローガンや「与えられた現実」ではなく、国益優先と民族対立という厳しい現実から常に挑戦を受ける「政治的立場」であり「志向」であり続ける。この授業では、多文化共生志向を育む個人にとって必要と考えられる以下の素養を身につける。 1. 言語の構造と特徴を理解する基礎的な知識と方法を学ぶ。 2. 人間の言語活動が社会において果たす様々な機能についての理解を得る。 3. 文化の諸特徴を理解するためのキーワードと主要概念を学ぶ。 4. 言語が持つ社会的機能をよく理解し、能動的な言語使用者としての能力を高める。 3. 文化のあり方と特徴を言語現象を通して理解する方法論を身につける。 4. 文化の多様性と等価性に対する理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各授業において、授業の概要と意見をコメントシートに書いて提出してもらいます。コメントシートの内容については次回授業の冒頭で紹介し、教員が意見を述べます。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	岩田裕子、重光床由加、村田泰美著、「概説社会言語学 — An Introduction to Sociolinguistics」（ひつじ書房、2013）	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	80	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	授業の目的、到達目標、授業計画を読んで、よく確認しておいてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	社会言語学の知見を概説し、言語と文化の関係を検証する。 文化を特定の集団内の態度、価値観、信条、規範、行動に関わるダイナミックなシステムとして理解する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第2回	対面	言語学における音声学、音韻論、形態論を概括し言語の構造を考察する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第3回	対面	言語学における統語論、意味論を概括し言語の構造を理解する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第4回	対面	ヒトの進化と言語獲得過程を概説し、言語使用の生物学的基盤を考察する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第5回	対面	ヒトの生得的言語能力と、言語の多様性を論じながら、言語使用の文化的基盤を考察する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第6回	対面	「円滑な人間関係を維持するための社会言語行動」としての丁寧表現（ポライトネス）の普遍的側面を概説する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第7回	対面	場面、状況による丁寧表現の差異、言語間の変異を検証することによって、ポライトネス行動の言語固有性を考察する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第8回	対面	社会言語学の立場から、言語がどのようにして生まれ、伝播し、変化していくのかを、日本語および他言語の例を挙げて解説する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第9回	対面	社会階級差に起因する言語変異について、アメリカ英語やイギリス社会での事例をもとに考察する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第10回	対面	日本語および英語における性差を見ながら、言語の階層化・階級化のパターンとジェンダーとの関係を理解する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第11回	対面	ヨーロッパの近代国家形成過程における言語の標準化と日本の言語標準化過程を比較検証することによって、方言、国家語、標準語、民族主義の相関を考える。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第12回	対面	個人における多言語使用、社会的な多言語使用の事例を概観しながら、多言語社会において言語選択がいかなる動機で行われるかを考察する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第13回	対面	言語の標準化は少数者の言語の周辺化を伴う。近代国家における言語の標準化がもたらした新たな国民国家文化、国民教育の形成という肯定面と、言語差別という否定面を考察する。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第14回	対面	異文化コミュニケーションにおける様々な文化衝突の事例を扱い、その実相を考察し、克服の可能性を考える。。	LMS上に掲載した資料を読んで復習してください。 (2時間程度)	2時間
第15回	オンデマンド	講義のまとめを行う。オンデマンド授業です。	LMS上に掲載した動画を視聴して学修してください。 (2時間程度)	2時間

科目名	異文化理解	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	陸 麗君	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	異なる文化をもつ社会や人の価値観・行動様式を理解し、国際社会において求められる異文化理解力を涵養する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「国際学基礎 A」の「社会/文化から見る世界」で学修した社会/文化領域の基本的知識を使って、文化的背景の異なる国や地域、人々の価値観や習慣の違いの理解を深めることが目的です。具体的な事例を挙げながら、自国文化との違いを認識し、異なる文化を受容する力を身に付けます。またグローバル化の進む現代社会において、将来のキャリアにおいて求められる国際理解力の基礎となる考え方を培います。		
履修条件・留意点	・「国際学基礎 A」の「社会/文化から見る世界」の上位科目であり、専門基礎科目です。 ・異文化理解の基本的知識と考え方を深める科目であり、またグローバル化が進む現代社会において身に付けるべき基礎知識と考え方を修得する科目であることから履修を推奨します。 ・受講者の皆さんの理解度に応じて、授業内容を適宜調整する場合があります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 文化的背景の異なる国や地域に関する基礎的知識を修得し、それぞれの社会における人々の価値観や習慣の相違を理解できる。 ・ 自文化の特性を相対化して捉えつつ、異なる文化や価値観を尊重し、受容する態度を身につけることができる。 ・ 多民族・多言語・多文化化が進む現代日本社会を踏まえ、ホスト社会とマイノリティおよびディアスポラとの関係性について理解できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポート課題、コメントシート、講義内容についてのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂版 異文化理解入門，原沢伊都夫，研究社，2025 年	ISBN	9784327377526
参考書	教養としての「異文化理解」，岡田昭人，日本実業出版社，2025 年 そのほか、必要に応じて、授業中に追加資料の配布や文献紹介を行います。	ISBN	9784534061799
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 本授業では、異文化に関する基本的な概念を理解し、グローバル化が進展する現代社会において、文化的背景の異なる国や地域、ならびに人々の価値観や習慣の多様性について学びます。 ・ 異文化理解を深めるためには、授業で扱う内容に対する事前・事後学修が不可欠です。 ・ 授業内で提示される課題に主体的に取り組むとともに、授業中の討論や意見交換を通して、		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：テキスト「第1章 異文化を理解する」の資料を予習しておくこと。	4時間
第2回	対面	テキスト 第1章 異文化を理解する	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：テキスト「第2章 文化とは（その1 文化の氷山モデル、常識/非常識）」の資料を予習しておくこと。	4時間
第3回	対面	テキスト 第2章 文化とは（その1 文化の氷山モデル、常識/非常識）	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：テキスト「第3章 文化とは②（6つの文化的特徴、個人的側面/普遍的側面）」の資料を予習しておくこと。	4時間
第4回	対面	・テキスト 第3章 文化とは②（6つの文化的特徴、個人的側面/普遍的側面） ・異文化理解の基礎について考える	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：テキスト「第4章 異文化適応」の資料を予習しておくこと。	4時間
第5回	対面	テキスト 第4章 異文化適応	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：テキスト「第6章 違いに気づく」の資料を予習しておくこと。	4時間
第6回	対面	テキスト 第6章 違いに気づく	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：テキスト「第7章 異文化の認識」の資料を予習しておくこと。	4時間
第7回	対面	・テキスト 第7章 異文化の認識 ・異文化理解を阻害する要因について考える	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：第2回から第7回の「異文化の理解、多様化の潮流、文化とは何か、異文化適応、違いに気づく、異文化の認識などに関する総括」の資料を予習しておくこと。	4時間
第8回	対面	異文化の理解、多様化の潮流、文化とは何か、異文化適応、違いに気づく、異文化の認識などに関する総括	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：テキスト「第10章 異文化トレーニング」に関する資料を予習しておくこと。	4時間

第9回	対面	テキスト 第10章 異文化トレーニング	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：テキスト「第13章 非言語コミュニケーション」の資料を予習しておくこと。	4時間
第10回	対面	テキスト 第13章 非言語コミュニケーション	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：「言語コミュニケーションによる異文化理解」の資料を予習しておくこと。	4時間
第11回	対面	言語コミュニケーションによる異文化理解	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：テキスト「第11章 異文化受容」の資料を予習しておくこと。	4時間
第12回	対面	テキスト 第11章 異文化受容	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ「異文化の認識：ドキュメンタリー映画の視聴」の資料を予習しておくこと。	4時間
第13回	対面	異文化の認識：ドキュメンタリー映画の視聴	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：「第15章（異文化理解と）多文化共生社会の実現に向けて」の資料を予習しておくこと。	4時間
第14回	対面	テキスト 第15章（異文化理解と）多文化共生社会の実現に向けて	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 次週のテーマ：本授業全体の総括。これまでの授業資料を整理し、復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	本授業全体の総括	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。 定期試験に向けて学修すること。	4時間

科目名	国際社会学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	陸 麗君	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	社会学の視点から、グローバル社会の現状と課題を理解する。		
授業の目的及び概要	本科目は、国際社会学の視点から、国境を越えて展開するグローバル社会の現状および課題を理解することを目的とします。まず、社会学の分析枠組み（方法論）や、国際社会学の理解に資する社会学の主要な下位分野について学修します。次に、国境を越える人の移動を中心とした具体的事例を取り上げ、その要因や現状、課題ならびに対応策について、国際社会学的視点から考察します。 本授業を通じて、受講者が将来関わる国際社会の現状と直面する課題を把握し、それらの改善可能性について国際社会学的に考察する力を身に付けることを目指します。 なお、受講者の理解度に応じて、授業内容を適宜調整する場合があります。		
履修条件・留意点	・本授業は、「国際学入門（2026 年度生）」、「国際学基礎 A（2025 年度生以前）」を履修した学生を主な対象とする上位科目（専門基礎科目）です。 ・国際社会学の基本的知識と考え方を深め、グローバル化が進む現代社会において求められる基礎的な知識と視点の修得を目的としています。 ・国際社会の変化や、日本における外国人問題に関心をもつ学生の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・社会学における基本的な研究方法および分析の枠組みを理解できる。 ・具体的な社会現象を題材に、社会学的観点から分析し、その内容を説明できる。 ・現代のグローバル社会における国境を越える人の移動とその影響について、国際社会学の知見に基づいて考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業のディスカッションや質疑応答について、次回以降の授業でコメントします。 ・前回授業の内容について受講者の理解を確認する質疑応答を、授業で行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	国際社会学「改訂版」、宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂、有斐閣、2023 年 そのほか必要に応じて授業中に追加資料を配布します。	ISBN	9784641174825
参考書	① 国際社会学超入門、樽本英樹、有斐閣、2023 年 ② 大学 4 年間の社会学が 10 時間でざっと学べる、出口剛司、KADOKAWA、2022 年 そのほか、必要に応じて、授業中に追加資料の配布や文献紹介を行います。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	大学での学修は、授業を受け身で聴くだけでは十分とは言えません。受講者一人ひとりが関心をもったテーマについて主体的に情報を収集し、考察を深めていくことが重要です。本科目で扱う内容については、必要に応じて授業中に追加資料の配布や文献の紹介を行います。テキストの理解にとどまらず、国際社会や地域社会の具体的事例と結び付けて考えてください。また、関連する書籍や資料に積極的に目を通し、より専門的な知識へと学修を広げていくことを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 シラバスの内容について概要を理解し、テキストの各章を概観することで本科目の全体像を適宜把握してください。 次週のテーマ「社会、そして社会学的分析とは何か」の資料を予習してください。	4時間
第2回	対面	社会、そして社会学的分析とは何か	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「社会集団と組織」の資料を予習してください。	4時間
第3回	対面	社会集団と組織	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「都市と地域社会」の資料を予習してください。	4時間
第4回	対面	都市と地域社会	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「社会学と社会調査」の資料を予習してください。	4時間
第5回	対面	社会学と社会調査	授業後に、第1回から第5回までの授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「これまでの授業のまとめ」に備えてください。	4時間
第6回	対面	これまでの授業のまとめ	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ テキスト「序章 国際社会学に向けて—現代社会へのトランスナショナルな接近」を予習してください。	4時間
第7回	対面	テキスト 序章 国際社会学に向けて—現代社会へのトランスナショナルな接近	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第1章 国民国家とシティズンシップの変容」を予習してください。	4時間
第8回	対面	テキスト 第1章 国民国家とシティズンシップの変容	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第2章 トランスナショナルな移民ネットワーク」を予習してください。	4時間
第9回	対面	テキスト 第2章 トランスナショナルな移民ネットワーク	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第3章 労働市場と外国人労働者の受け入れ」を予習してください。	4時間
第10回	対面	テキスト 第3章 労働市場と外国人労働者の受け入れ	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第4章 階層構造のなかの移民、マイノリティ」を予習してください。	4時間

第11回	対面	テキスト 第4章 階層構造のなかの移民, マイノリティ	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第6章 グローバル化のなかの福祉社会」を予習してください。	4時間
第12回	対面	テキスト 第6章 グローバル化のなかの福祉社会	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第7章 移民/外国人のこどもたちと多文化の教育」を予習してください。	4時間
第13回	対面	テキスト 第7章 移民/外国人のこどもたちと多文化の教育	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「華僑華人の事例からみる移民と地域社会」（配布資料）の資料を予習してください。	4時間
第14回	対面	華僑華人の事例からみる移民と地域社会	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「授業全体のまとめ」の資料を予習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体のまとめ	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。定期試験に向けて学修すること。	4時間

科目名	国際社会学	開講年度	2026 年度春学期
担当者	陸 麗君	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	社会学の視点から、グローバル社会の現状と課題を理解する。		
授業の目的及び概要	本科目は、国際社会学の視点から、国境を越えて展開するグローバル社会の現状および課題を理解することを目的とします。まず、社会学の分析枠組み（方法論）や、国際社会学の理解に資する社会学の主要な下位分野について学修します。次に、国境を越える人の移動を中心とした具体的事例を取り上げ、その要因や現状、課題ならびに対応策について、国際社会学的視点から考察します。 本授業を通じて、受講者が将来関わる国際社会の現状と直面する課題を把握し、それらの改善可能性について国際社会学的に考察する力を身に付けることを目指します。 なお、受講者の理解度に応じて、授業内容を適宜調整する場合があります。		
履修条件・留意点	・本授業は、「国際学入門（2026 年度生）」、「国際学基礎 A（2025 年度生以前）」を履修した学生を主な対象とする上位科目（専門基礎科目）です。 ・国際社会学の基本的知識と考え方を深め、グローバル化が進む現代社会において求められる基礎的な知識と視点の修得を目的としています。 ・国際社会の変化や、日本における外国人問題に関心をもつ学生の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・社会学における基本的な研究方法および分析の枠組みを理解できる。 ・具体的な社会現象を題材に、社会学的観点から分析し、その内容を説明できる。 ・現代のグローバル社会における国境を越える人の移動とその影響について、国際社会学の知見に基づいて考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業のディスカッションや質疑応答について、次回以降の授業でコメントします。 ・前回授業の内容について受講者の理解を確認する質疑応答を、授業で行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	国際社会学「改訂版」、宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂、有斐閣、2023 年 そのほか必要に応じて授業中に追加資料を配布します。	ISBN	9784641174825
参考書	① 国際社会学超入門、樽本英樹、有斐閣、2023 年 ② 大学 4 年間の社会学が 10 時間でざっと学べる、出口剛司、KADOKAWA、2022 年 そのほか、必要に応じて、授業中に追加資料の配布や文献紹介を行います。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	大学での学修は、授業を受け身で聴くだけでは十分とは言えません。受講者一人ひとりが関心をもったテーマについて主体的に情報を収集し、考察を深めていくことが重要です。本科目で扱う内容については、必要に応じて授業中に追加資料の配布や文献の紹介を行います。テキストの理解にとどまらず、国際社会や地域社会の具体的事例と結び付けて考えてください。また、関連する書籍や資料に積極的に目を通し、より専門的な知識へと学修を広げていくことを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 シラバスの内容について概要を理解し、テキストの各章を概観することで本科目の全体像を適宜把握してください。 次週のテーマ「社会、そして社会学的分析とは何か」の資料を予習してください。	4時間
第2回	対面	社会、そして社会学的分析とは何か	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「社会集団と組織」の資料を予習してください。	4時間
第3回	対面	社会集団と組織	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「都市と地域社会」の資料を予習してください。	4時間
第4回	対面	都市と地域社会	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「社会学と社会調査」の資料を予習してください。	4時間
第5回	対面	社会学と社会調査	授業後に、第1回から第5回までの授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「これまでの授業のまとめ」に備えてください。	4時間
第6回	対面	これまでの授業のまとめ	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ テキスト「序章 国際社会学に向けて—現代社会へのトランスナショナルな接近」を予習してください。	4時間
第7回	対面	テキスト 序章 国際社会学に向けて—現代社会へのトランスナショナルな接近	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第1章 国民国家とシティズンシップの変容」を予習してください。	4時間
第8回	対面	テキスト 第1章 国民国家とシティズンシップの変容	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第2章 トランスナショナルな移民ネットワーク」を予習してください。	4時間
第9回	対面	テキスト 第2章 トランスナショナルな移民ネットワーク	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第3章 労働市場と外国人労働者の受け入れ」を予習してください。	4時間
第10回	対面	テキスト 第3章 労働市場と外国人労働者の受け入れ	授業後に、授業の資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第4章 階層構造のなかの移民、マイノリティ」を予習してください。	4時間

第11回	対面	テキスト 第4章 階層構造のなかの移民, マイノリティ	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第6章 グローバル化のなかの福祉社会」を予習してください。	4時間
第12回	対面	テキスト 第6章 グローバル化のなかの福祉社会	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ：テキスト「第7章 移民/外国人のこどもたちと多文化の教育」を予習してください。	4時間
第13回	対面	テキスト 第7章 移民/外国人のこどもたちと多文化の教育	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「華僑華人の事例からみる移民と地域社会」（配布資料）の資料を予習してください。	4時間
第14回	対面	華僑華人の事例からみる移民と地域社会	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習してください。 次週のテーマ「授業全体のまとめ」の資料を予習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体のまとめ	授業後に、授業資料（レジュメなど）と授業中に取ったメモを読み返して整理し、復習すること。また、気になったトピックについて、図書館の参考書やインターネット等を活用し、更に積極的に調べること。定期試験に向けて学修すること。	4時間

科目名	世界の宗教	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 真	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、多様な文化の背景にある宗教に焦点をあてる。		
授業の目的及び概要	宗教の基本的な構造を理解し、日常にある文化／慣習を取り上げながら、世界の宗教文化に触れることのできる寛容な姿勢と、それを客観的に理解／分析することのできる力を身に着けることを目指します。講義では、宗教の「教義」「行為様式（儀礼）」「社会規範」について、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教、神道を学修します。また、ジェンダー問題、イスラエル問題、ウクライナ侵攻、自死・自殺、結婚などの背景にある、宗教的動向／思想を解説します。異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協力し、社会の一員として活躍できる能力と生涯にわたる就業力を身に着けることに寄与するものと位置付けます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①基本的な宗教の特徴について、理解・説明することができる。 ②身のまわりにある宗教文化の特徴について、理解・説明することができる。 ③世界の宗教文化を通じて、宗教を客観的に理解・分析することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フロアから寄せられた質問にその場で答えます。また講評についても授業時に対応します。		
アクティブ・ラーニング の取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にありません。	ISBN	特にありません。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「礼をする」「相槌を打つ」など、一見すると合理的ではないことが、日本では習慣的におこなわれています。また世界をみわたすと、合理的とはいえない慣習がある他、理解しがたいモニュメントや集団行動が見られます。 人間社会の営みの理由や根拠をどこまでも問うていくと、宗教に行きつくことがあります。一方、宗教について多くの人はあまり知識を持っていません。この講義では、そんな宗教に目を向けます。 講義では、宗教の「教義」「行為様式（儀礼）」「社会規範」について、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教、仏教、神道を紹介します。また、ジェンダー問題、イスラエル問題、ウクライナ侵攻、自死・自殺、結婚などの背景にある、宗教的動向／思想を解説します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション:宗教と文化のかかわり	・宗教と文化は強い結びつきがあります。 ・身のまわりにどんな「宗教」があるか、考えてみましょう。	4時間
第2回	対面	一神教について	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・一神教に該当する宗教はどれか、調べておきましょう。	4時間
第3回	対面	一神教について:ユダヤ教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・ユダヤ教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4時間
第4回	対面	一神教について:キリスト教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・キリスト教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4時間
第5回	対面	一神教について:もう一つのキリスト教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・ウクライナの宗教、ギリシャ正教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4時間
第6回	対面	一神教について:イスラム教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・イスラム教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4時間
第7回	対面	一神教について:イスラエル、パレスチナの問題	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・イスラエル、パレスチナのどういった点が問題なのか、調べておきましょう。	4時間
第8回	対面	一神教について:キリスト教と妊娠中絶について	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・人工妊娠中絶と宗教の関係について、考えてみましょう。	4時間
第9回	対面	一神教について:イスラム教圏と民主化運動	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・中東のイスラム教徒が大きく変わろうとしています。背景にある価値観について、調べておきましょう。	4時間
第10回	対面	多神教について:ヒンドゥー教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・ヒンドゥー教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4時間
第11回	対面	多神教について:神道	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・神道とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4時間
第12回	対面	多神教について:相撲はスポーツか	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・相撲の特徴について、調べておきましょう。	4時間
第13回	対面	無神論:仏教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・仏教とはどのような宗教か、調べておきましょう。	4時間
第14回	対面	重なり合う「信仰」:グローバル下の宗教	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・信仰の重層化が広がっています(キリスト教でありながらお遍路に参加する/仏教徒でありながらサンティアゴ巡礼に参拝する/正月は神社、葬儀は仏式でおこなう、など)。 ・こうした「信仰をまたぐ」ケースについて、他にどのような事例がありそうか、調べておきましょう。	4時間
第15回	オンデマンド	授業の総括	・前回講義の内容を復習しておきましょう。 ・この講義ではこれまでの講義について、質問や疑問にお答えします。質問できるように準備してきましょう。	4時間

科目名	観光概論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山本 訓弘	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	本講義では、観光を題材に、大学で必要な学修習慣（時間厳守・要点整理・短文記述）と観光の基礎を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は、観光の基礎（観光とは何か／観光資源／交通／担い手／観光ビジネス／マーケティング／インバウンドと受入）を学びながら、大学で学ぶための基本動作（時間厳守、指示理解、提出、根拠を示して短く書く力）を身につけることを目的とする。 留学生を含む多様な受講者を想定し、講義（短時間）＋演習（小テスト・短文課題）＋グループワークを中心に進める。		
履修条件・留意点	（1）授業を受ける姿勢（学習環境を守る） 本授業は全員が集中できる学習環境を重視する。私語、スマホ操作、授業中の出入り、授業中の出席端末操作など授業進行を妨げる行為が繰り返される場合は注意し、参加点等の評価に反映する。 （2）出席・遅刻・途中退出 遅刻は累積で扱い、3 回の遅刻を 1 回の欠席として換算する。途中退出は原則禁止（体調不良・緊急時を除く）。やむを得ず退出する場合は必ず教員に申し出ること。授業中に教室前方で出席カードを読み取らせる等の行為は禁止し、遅刻時の取り扱いは教員の指示に従うこと。出席はカード読み取りのみで確定せず、授業参加の実態も含めて判断する。※公欠等は大学の規程に従う。 （3）生成 AI の扱い 生成 AI は「構成整理・言い換え・推敲・翻訳補助」目的で使用可。ただし本文の丸ごと生成、体験／事実の捏造は不可（学修成果として認めない）。指示がある場合は AI 利用ログ（簡易）を提出する。授業内の時間限定課題は原則として生成 AI を使用しない。 Class rules (simple English): Do not disturb the class (talking, phone use, moving around, scanning cards during the lecture). 3 late arrivals = 1 absence. No leaving during class (except emergency/health reasons; tell the instructor). Attendance is based on actual participation, not only scanning your card.		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 観光を「資源・需要・受入・担い手（政策）」の観点で整理し、短文で説明できる。 2. 日本の基礎的な地理（主要地域・主要都市・代表的観光地・移動の感覚）を説明できる。 3. 日本のインバウンド推移とアジア各国との比較を踏まえ、日本の受入課題を関係者別に整理できる。 4. 指示を読み、要点をまとめ、根拠を添えて提出する学修習慣を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・小テストは解説を授業内または LMS で共有する。 ・短文課題・中間課題は、評価観点（ルーブリック）に基づき講評し改善点を示す。 ・優秀例・改善例（匿名）を授業内で共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、町の観光協会の役割を担う一般社団法人吉野ビジターズビューローにて、観光振興コンサルティングや調査を行う業務に 6 年間従事してきた。また、ビデオゲーム開発職に 18 年従事し、プロジェクトマネジメントを行う経験も有する。観光振興の実践的な知識に加え、情報管理など、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	なし。資料を Learning Portal で配布します。	ISBN	なし。

参考書	①観光ビジネス，東京法令出版，ISBN：978-4-8090-8109-5 ②観光ビジネス，実教出版，ISBN：978-4-407-20569-5 ※いずれも参考図書（購入必須ではありません）。授業では必要箇所を資料として配布します。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	20	
	その他の内容	中間課題（ミニ企画）・グループ活動の提出物・授業への取り組み等	
この科目の受講にあたって	観光は、交通、地域経済、住民生活、国際交流、政策と深く結びついた分野である。一方、大学の授業では「時間を守る」「指示を読む」「根拠を示して短く書く」「提出する」という基本ができないと、内容以前に評価されない。 本授業では観光の基礎を学びながら、学修習慣を身につける。生成 AI も使うが、“丸投げ”では力が付かない。授業内で AI を使っても自分の言葉に戻す方法を練習する。毎回の小テストと短文提出を確実に積み上げること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 ガイダンス：大学の学び方／時間厳守／提出の作法授業の進め方、評価、提出方法（LMS）、グループワークのやり方を説明 受講姿勢（授業妨害の禁止）、遅刻・途中退出ルール（3回遅刻＝1欠席、途中退出原則禁止等）を共有 冒頭小テストの運用説明（以後毎回実施） 短文提出（100～150字）：授業のルールを自分の言葉で要約	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようにメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読し、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	1 時間
第2回	対面	第2回 観光の基礎の基礎：観光とは何か／観光の4視点観光の基本用語（観光者・目的・行動） 観光を「資源・需要・受入・担い手（政策）」の4視点で整理 ミニ演習：大阪や京都など身近な例を4視点に当てはめる 短文：4視点で1つの観光地を説明（結論→理由）	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようにメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読し、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	2 時間
第3回	対面	第3回 日本の地理×観光入門：地図の読み方／移動の感覚日本の主要地域・主要都市・代表的観光地（位置関係） 観光ルートで移動の感覚（例：大阪→京都→奈良等） 地理ドリル（授業内）	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようにメモしておく。 事後学習（復習）：	2 時間

		短文：行きたい場所と理由（具体例を1つ入れる）	授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読し、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	
第4回	対面	第4回 生成AI活用の実技：良い例／悪い例で「AI っぽさ」を潰す悪い例の診断（抽象語・一般論・不自然な事実・具体性不足） 良い例の分解（具体・自分の視点・根拠・地理感） 実技：AI は「文章を直す道具」として使い、自分の言葉に戻す AI 利用ログ（簡易：何に使った／どこを直した）の練習 OK/NG 小テスト（丸写し不可・捏造不可 など）	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようにメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読し、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	2 時間
第5回	対面	第5回 観光資源：自然・文化・食・イベント（資源→体験）観光資源の種類と「資源→体験→満足」の考え方 大阪周辺の資源を例に、体験化（何が楽しいのか）を言語化 短文：資源を1つ選び、なぜ観光になるかを説明	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようにメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読し、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	3 時間
第6回	対面	第6回 観光と交通：移動が観光を形づくる（時間距離・回遊）交通が観光行動に与える影響（アクセス／回遊／滞在） 鉄道・バス・航空の特徴、時間距離の考え方 演習：指定の起点から「半日ルート」を組む（時間で組む） 短文：ルートの意図（なぜこの順番か）を説明	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようにメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読し、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	3 時間
第7回	対面	第7回 観光の担い手：自治体・観光協会・DMO・民間（役割分担）観光の担い手が何をしているか（企画／調整／発信／受入整備） 「政策」と「現場運営」の違い 演習：ある課題を「誰が何をすべきか」に分解 短文：役割分担を一文で説明（結論→理由）	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようにメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読し、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	6 時間
第8回	対面	第8回 観光ビジネスの基本：体験と消費（需要と供給）＋中間確認観光客の行動と消費の流れ（宿泊・飲食・交通・体験）	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分	3 時間

		観光が地域にもたらすもの（超基本） 中間確認（授業内確認テスト）：第1～7回の要点（用語＋短文）	からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読みし、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	
第9回	対面	第9回 インバウンドと受入：日本の推移／アジア比較／現場課題日本のインバウンド推移（増減の流れと要因の整理） アジア各国との比較（訪問目的・観光地の混雑・受入の特徴） 受入の論点：混雑・住民負担・マナー・多文化対応（対立構造） 演習：観光客／住民／事業者別に課題と対策を短文化	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。わからない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読みし、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	3 時間
第10回	対面	第10回 観光マーケティング基礎：ターゲット（国・地域差）と価値提案ターゲット（誰に）／価値（何を）／伝え方（どうやって） 国・地域差を踏まえた「求める体験の違い」を整理 4P の入口（最小限） 短文：指定ターゲット向けの施策を1つ提案	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。わからない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読みし、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	6 時間
第11回	対面	第11回 中間課題：ミニ企画の作成（ドラフト提出）中間課題の要件提示（テンプレートで作る） 目的／ターゲット（国内 or インバウンド）／行程（アクセス）／体験（資源）／受入配慮 授業内でドラフト作成→提出（救済ルート） 必要に応じて AI 利用ログ（推敲・言い換え用途）	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。わからない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読みし、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	6 時間
第12回	対面	第12回 グループディスカッション①： 集客（マーケティング施策）を考えるお題の読み取り→課題の構造化（原因・論点・優先順位） ターゲット別に施策を提案 チーム提案をまとめて提出（LMS または紙） 役割分担（司会・記録・発表）を明確化	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。わからない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読みし、次の授業内容とのつながりを意識して復習する。	6 時間

第13回	対面	第13回 GD①の講評・改善：良い提案の型／文章の直し方講評：良い点（具体・一貫・実現性）／改善点（抽象・飛躍・根拠不足） 改善演習：提案を「短く・具体的に・根拠付き」に修正 中間課題の改善ポイントも共有 提出物：改善版（短文／提案の修正版）	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようにメモしておく。 事後学習（復習）： 授業で扱った内容を要点（キーワード）で整理し、短文（結論→理由→具体例）で説明できるようにまとめ直す。授業内の小テストや課題は解き直し、誤りの原因と正しい考え方を確認する。必要に応じて資料を再読し、次回の授業内容とのつながりを意識して復習する。	6 時間
第14回	対面	第14回 これまでのまとめ（復習・再確認） これまでの授業内容を全体的に振り返り、試験範囲の重要ポイントを整理する。観光の基礎（観光の4視点、地理と移動の感覚、観光資源、担い手、観光ビジネス、マーケティング、インバウンド推移とアジア比較、受入課題）を中心に、用語と考え方を再確認する。最後に理解度を確認するためのミニテストを実施する。	事前学習（予習）： 授業前に LMS に掲載する資料（スライド、配布文書、用語リスト等）に目を通し、重要語句を確認する。分からない語句は辞書等で調べ、授業で質問できるようにメモしておく。 事後学習（復習）：ミニテストの確認	6 時間
第15回	オンデマンド	第15回（オンデマンド）総復習：定期試験対策（要点整理＋確認問題）重要語句の整理（観光4視点、地理、担い手、交通、インバウンド比較） 確認問題（短答＋短文） 弱点チェックと再学習の指示	事前学習（予習）：これまでの全範囲の復習 事後学習（復習）：定期試験準備	6 時間

科目名	地域研究概論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	池上 寛	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界各国・地域の特徴を知る		
授業の目的及び概要	現在、国際連合（国連）に加盟しているのは、196 カ国です。ただし、加盟していない国もありますので、世界には 200 以上の国があります。それぞれの国、あるいは地域には文化、社会、経済などがあり、その中で人々は日々の暮らしをしています。地域研究とは、その国・地域に住んでいる人々の文化、社会などを含めた考え方や生き方をできるだけありのまま把握して理解しようとする研究分野です。 この講義ではその地域研究のことを知るために、世界の特徴を明らかにするとともに、についてその特徴を知る機会とします。		
履修条件・留意点			
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・世界には多様な社会、文化などがあり、それぞれに特徴があることを知る ・世界にある様々な特徴を知り、皆さんの出身国はどうかを考える機会とする ・様々な特徴をありのままに把握し、理解する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートに書いてもらい、次回の講義時などを通じて適宜フィードバックをします。 また、講義中に質疑応答の時間を設けます。		
アクティブ・ラーニング の取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない	ISBN	なし
参考書	必要に応じて、講義内で紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	受講者の数などによっては、学生間のグループワークやディスカッションを通じて、その地域などの特徴を明らかにします。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション：授業の概要や目的、成績評価などについて説明する。	予習：事前にシラバスを読んで授業に出席すること 復習：配布資料を読み、今後の講義内容を確認しつつ、次回の課題の準備をしてください。	4 時間
第 2 回	対面	地域と人々	予習：ラーニングポイントにのっている配布資料フ	4 時間

			ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	
第3回	対面	地域と歴史	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第4回	対面	地域と国家	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第5回	対面	地域と宗教	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第6回	対面	地域と食生活	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第7回	対面	地域と災害	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第8回	対面	地域と観光	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第9回	対面	前半の振り返り 中間試験	事前学修：第2回から第8回までの復習 復習：中間テストを振り返り、間違ったところの復習をすること	4 時間
第10回	対面	事例研究（1）韓国	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第11回	対面	事例研究（2）中華圏	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第12回	対面	事例研究（3）英語圏	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第13回	対面	事例研究（4）日本	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第14回	対面	事例研究（5）アジア太平洋地域	予習：ラーニングポイントにおいている配布資料ファイルをダウンロードした上で、事前に読んでおくこと。 復習：配布資料やノートを使って、復習をすること	4 時間
第15回	オンデマンド	科目の復習と定期試験について	授業やラーニングポータルで配布された資料の復習 定期試験の準備	4 時間

科目名	国際政治学Ⅰ		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	井上 健太郎		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際政治史の基礎を学ぶ			
授業の目的及び概要	本講義では、「複数の国家（主権国家）で構成される体系（システム）の歴史の変遷について探求する学問」を国際政治史と呼ぶ。本講義では、国際政治学の基本概念とともに、16・17 世から現代に至る国際政治史の流れを学ぶことで、国際政治学の基礎を身に付ける。			
履修条件・留意点	特になし。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	（1）国際政治学の基本概念や専門用語（例：「主権」「国際社会」など）を理解することができる。 （2）近現代の国際政治の歴史的展開を理解することができる。 （3）国際政治学の基本概念や専門用語を正しく使用して、近現代の国際政治の歴史的展開を自らの言葉で説明することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	（1）各授業で配布するコメントシートを次回授業の冒頭で紹介し、質問への回答や補足説明を行う。 （2）レポート試験については、授業支援システム（Learning Portal）に講評を掲載する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	国際政治史〔新版〕―主権国家体系のあゆみ、小川浩之・板橋拓己・青野利彦，有斐閣，2024 年		ISBN	9784641151260
参考書	①国際政治学をつかむ〔第3版〕，村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将，有斐閣，2023 年 ②ハンドブック ヨーロッパ外交史―ウェストファリアからブレグジットまで，岩間陽子・君塚直隆・細谷雄一編，ミネルヴァ書房，2022 年 ③その他，授業中に適宜提示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		45	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		55	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	【授業の内容について】 ①授業前にテキストの指定の箇所を熟読し，必ず予習を行ってください。授業は基本的にテキストの内容に沿って行われます。 ②授業後は，授業中に配布した資料・スライドとテキストを再度読み返し，十分な復習を行ってください。 ③授業では教員の一方的な説明のみではなく，受講生と教員の対話を通じて知識を深めていきます。			

	【受講上のルールについて】 ①スマホ・タブレット等は、授業に関係のある事柄に関してのみ使用を認めます。 ②本講義は基本的に対面で行われる（第 15 回目のみオンデマンド）ため、オンラインでの出席は認めません。 ③授業には時間通りに来て、すべての回に参加してください。出席に関する不正が発覚した場合は、単位を付与しません。 ④授業中の私語、授業と関係のない私的行為は禁止です。 ⑤出席をとるための学生証を忘れた場合、授業開始前に教員に直接申し出るか、授業日中（その日のうち）に教員のメール（knt-inoue@s.keiho-u.ac.jp）にその旨連絡してください。 ⑥病気等によりやむを得ず欠席する場合は、授業前に教員のメール（knt-inoue@s.keiho-u.ac.jp）に連絡してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス：授業全体の説明／「国際政治史」とはなにか 〈キーワード：主権国家，国際社会，国民国家〉	【予習】シラバスとテキストの第 0 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 0 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 2 回	対面	黎明期の国際政治史：主権国家体制の成立 〈キーワード：主権国家体系，三十年戦争，勢力均衡（バランス・オブ・パワー）〉	【予習】テキストの第 1 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 1 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 3 回	対面	19 世紀の国際政治史①：勢力均衡とナショナリズム 〈キーワード：ウィーン体制，会議外交，ナショナリズム〉	【予習】テキストの第 2 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 2 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 4 回	対面	19 世紀の国際政治史②：帝国主義と第一次世界大戦 〈キーワード：帝国，植民地分割，三国同盟と三国協商〉	【予習】テキストの第 3 章と第 4 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 3 章と第 4 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 5 回	対面	戦間期の国際政治史①：第一次世界大戦後の国際政治 〈キーワード：ヴェルサイユ体制，国際連盟，国際協調〉	【予習】テキストの第 5 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 5 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 6 回	対面	戦間期の国際政治史②：ファシズムと第二次世界大戦 〈キーワード：世界恐慌，ファシズムとナチズム，第二次世界大戦〉	【予習】テキストの第 6 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 6 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 7 回	対面	冷戦期の国際政治史①：東西冷戦の始まり 〈キーワード：冷戦，ドイツ分断，朝鮮戦争，NATO〉	【予習】テキストの第 7 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 7 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 8 回	対面	冷戦期の国際政治史②：グローバル化する冷戦 〈キーワード：脱植民地化，スエズ危機，キューバ危機〉	【予習】テキストの第 8 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 8 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 9 回	対面	冷戦期の国際政治史③：冷戦体制の変容 〈キーワード：核軍拡，ベトナム戦争，緊張緩和（デタント）〉	【予習】テキストの第 9 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 9 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 10 回	対面	冷戦期の国際政治史④：冷戦の終結 〈キーワード：新冷戦，東欧平和革命，ソ連解体〉	【予習】テキストの第 10 章と第 11 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 10 章と第 11 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 11 回	対面	現代の国際政治史①：ヨーロッパ統合 〈キーワード：独仏和解，EU，ユーロ〉	【予習】テキストの第 12 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 12 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間
第 12 回	対面	現代の国際政治史②：冷戦後の地域紛争・民族紛争 〈キーワード：ユーゴ紛争，ルワンダ問題，	【予習】テキストの第 13 章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第 13 章を読み返し，講義内容を確認する。	4 時間

		コソヴォ紛争)		
第13回	対面	現代の国際政治史③：新興国の台頭 〈キーワード：一帯一路，インド，プーチン〉	【予習】テキストの第14章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第14章を読み返し，講義内容を確認する。	4時間
第14回	対面	現代の国際政治史④：覇権国家から離脱するアメリカ 〈キーワード：9.11同時多発テロ，イラク戦争，オバマ外交〉	【予習】テキストの第15章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの第15章を読み返し，講義内容を確認する。	4時間
第15回	オンデマンド	総括：これまでの授業の振り返りを行い，レポート試験に向けた注意事項・ポイント等を説明する。	【予習】テキストの補章を事前に読んでおく。 【復習】配布資料とテキストの補章を読み返し，講義内容を確認する。	4時間

科目名	国際政治学Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 雪斌	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	経済、ヒトと文化の側面から国際政治を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業の目的は国際政治学における経済、貿易、ヒトや文化といった「ソフト」な部分について学ぶことです。そして、この授業はグローバリゼーションの光の部分（豊かになった、便利になった）だけでなく、影の部分（越境する国際問題、多様化する対立と摩擦）にもスポットを当てます。 国家にとって、安全と平和はいつの時代でも至上命題です。そのため、軍事安全保障は国際政治、そして国際政治学の最重要課題であり続けてきました。一方、グローバル化が進むなか、国際政治における経済、貿易、ヒトや文化といった「ソフト」な部分の重要性が急激に増えています。この授業では、国際政治経済だけでなく、人間の安全保障、ソフト・パワーといったテーマについても学ぶことで、経済、貿易関係の深化と、ヒトや文化の越境への理解を深めます。なお、本講義は国際政治学を理解するために、アジア太平洋地域の事例や時事問題を多く扱う予定です。 受講者の皆さんの授業への理解度に合わせて、内容を調整する可能性があります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際政治学における経済、貿易、ヒトや文化といった「ソフト」な部分に関する基本的な知識を身につけること ・国際政治学や国際政治経済論の基本的な分析手法を理解すること ・国際社会における非伝統的な課題の存在を認識し、自分の意見を持つこと ・アジア太平洋地域に起きている時事問題に対して基本的な理解を得ること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って皆さんから質問を集め、次週以降質問への回答やコメントをします ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設けます ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介します		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	国際政治学，中西寛、石田淳、田所昌幸，有斐閣，2013 年	ISBN	978-4641053786
参考書	野林健、大芝亮、納家政嗣、山田敦、長尾悟『国際政治経済学・入門 第3版』（有斐閣、2007） その他の参考書と参考文献は適宜授業中に紹介します。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）	0	

	その他の内容
この科目の受講にあたって	国際政治学Ⅰと合わせて履修することをお勧めします（必須ではありません）。この講義の内容には「正解」がありません。さまざまな情報を客観的に分析し、自分の考えとは異なる意見にも耳を傾ける姿勢を高く評価されます。授業で学んだことと関連のあるニュース記事を見かけたら、ぜひそのニュースの要点と自分の意見をノートに書いてみてください。就職活動のときに必ず役に立ちます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明します。	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握してください。テキストを購入し、その内容を把握してください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第2回	対面	国際政治、国際政治学のソフトなものとは何か、なぜそれらが重要なのか	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	政治学の論理と経済学の論理	事前事後学修 【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第4回	対面	第二次世界大戦までの国際政治経済	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第5回	対面	冷戦期の国際政治経済：協力と協調のルール作り	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	グローバリゼーションと貿易摩擦、保護主義	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第7回	対面	リージョナル・レベルとナショナル・レベルの国際秩序	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第8回	対面	経済安全保障	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習	4時間

			を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	
第9回	対面	グローバリゼーションと安全保障の変容	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第10回	対面	エコノミック・ステーツクラフト（経済的手段による国益の追求）	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第11回	対面	国境を超える人の移動	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第12回	対面	人間の安全保障	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第13回	対面	地球環境問題	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第14回	対面	ソフト・パワーをめぐる新たな競争	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。15 回目の授業に向けて、質問をまとめて教員に伝えてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業のまとめ、振り返り、質疑応答	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間

科目名	国際社会と法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	菅原 絵美	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際社会のニュースを法の視点から考える		
授業の目的及び概要	グローバル化する社会で起こる諸現象を法（ルール）の観点から考察する基礎的な知識を学ぶ授業である。第 1 に法学の基礎知識（法の機能や種類、優劣関係等）を、第 2 に国内法及び国際法の基礎知識（条約の成立過程、裁判制度等）を、第 3 に国内法秩序と国際法秩序の相互関係を学修する。これら基礎知識を土台に、グローバルな課題（国籍、犯罪人の引渡し、テロ対策、感染症対策、金融危機等）を取り上げ、国内法と国際法のダイナミックな相互作用について検討を深める。将来のキャリアとして国際社会で活躍するために必要不可欠な「気づき」を得る力を養成することを目指す。		
履修条件・留意点	特になし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	国際法を学ぶうえでの基本知識（法、国家、国際社会、国際法の規則等）を持っている。 「法」の視点から国際社会の多様性を具体的な事例から説明することができる（ルールを適用する際に生じる問題・課題から国際社会の多様性（価値観の相違など）を説明することができる）。 教員が授業で説明した国際法のルールを使って事例を説明することができる。 国際的な事例・問題を通じて、自分・自国とは異なる他者・他国の意見・主張を受け止めることができる。そのうえで、事例・問題について議論することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業では授業内容に関する問いを課し、授業中および授業終了時にリフレクションペーパーを提出してもらう。リフレクションペーパーは次回授業でフィードバックするとともに、授業の振り返りに活用し、授業の双方向性を確保する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし	ISBN	なし
参考書	①はてなの国際法, 岩本誠吾・戸田五郎, 晃洋書房, 2022 年 ②18 歳から考える国際法, 佐藤哲夫・渡辺豊・中西優美子編, 法律文化社, 2025 年 ③18 歳から考える人権（第二版）, 穴戸常寿編, 法律文化社, 2020 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	特になし	
この科目の受講にあたって	国際社会は歴史、文化、制度などが非常に多様である約200の国・地域によって構成されている（ちなみに日本にとっては196の国家が地球上には存在している）。一方で、この国際社		

	会を規律するのは普遍的な法（ルール）である。普遍的なルールと多様な国・地域との間で生じるダイナミックな動きに、今後の専門学修および海外体験・留学につながっていく「気づき」を得てほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法など、授業の概要を説明する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第2回	対面	法とは何か① 日本の道路交通法を題材にルールの意味、読み方、解釈の仕方について考える。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第3回	対面	法とは何か② ケーキの分け方および借地借家法を題材に当事者の利益や紛争解決について考える。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第4回	対面	国家における法（国内法） 国家とは何か、その国家のなかではたらく法についての基礎知識を学ぶ。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第5回	対面	国際法の基礎知識①：武力行使禁止原則と武力紛争のルール 国際社会における法の役割・必要性や国際法（条約・慣習国際法）について具体的な事例を示しながら考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第6回	対面	国際法の基礎知識②：国際的な人権保障 国際社会における法の役割・必要性や国際法（条約・慣習国際法）について具体的な事例を示しながら考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第7回	対面	国際法秩序と国内法秩序の相互関係 環境問題（気候変動）に関する国際法（パリ協定）を題材に、国際社会のルールが国内社会のルールとなっていく過程を考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第8回	対面	国際社会における紛争解決 国家間で問題が生じた場合はどのように解決するのか、平和的な紛争解決について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第9回	対面	事例の考察① 国際社会における人の越境移動（無国籍者、難民、移住労働者など）における法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第10回	対面	事例の考察② 国際社会における感染症（新型コロナウイルス感染症など）対策における法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第11回	対面	事例の考察③ 国境を越える犯罪行為（犯罪人引渡、越境組織犯罪、テロ対策など）に対する法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第12回	対面	事例の考察④ 世界経済における貿易の自由化における法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第13回	対面	事例の考察⑤ 国際社会における安全保障（軍事同盟、AI兵器の規制など）および人間の安全保障における法について考察する。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間

第14回	対面	授業のまとめ 授業全体の総括を行う。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの振り返り 定期試験にむけてこれまでの授業のポイントを振り返り、質疑応答を行う。	ラーニングポータルに掲載した授業のレジメを読み予習する。復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間

科目名	国際経済基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前鶴 政和	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際経済に関する経済学の基礎		
授業の目的及び概要	この授業は、経済学の基礎を学んだ上で、世界各国の経済が貿易や投資を通じて相互に影響し合っていることを理解することを目的とします。 この授業を受講することにより、各国の経済諸事象を相互に関連づけて理解する経済学の基本的知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①需要・供給・余剰などのミクロ経済学の基本的な用語を説明できる。 ②ミクロ経済学の基本的な知識を用いて、貿易による利益や関税などの効果を説明できる。 ③GDP などのマクロ経済学の基本的な用語を説明できる。 ④外国為替市場と外国為替レート、国際収支などについて説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。配布資料を用いて講義を行います。	ISBN	なし
参考書	①コンパクト 経済学 〔第 3 版〕, 井堀利宏, 新世社, 2024 年 ②はじめまして、経済学, 宿輪純一, ウェッジ, 2024 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行ってください。経済や社会の状況に関心を持ち、積極的に新聞・雑誌を読んだりテレビ・インターネットのニュースを見聞きしたりするように心がけてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の進め方、成績評価等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンスの配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンスの配布資料の内容を読み直し、復習しておいてください。	2 時間

第2回	対面	「経済学の考え方」について説明します。	【予習】「経済学の考え方」に関する配布資料及び参考書① (pp. 2-9) を事前に読んでおいてください。 【復習】「経済学の考え方」に関する配布資料及び参考書① (pp. 2-9) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第3回	対面	「消費と貯蓄(1)」について学修します。	【予習】「消費と貯蓄(1)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 22-25) を事前に読んでおいてください。 【復習】「消費と貯蓄(1)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 22-25) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第4回	対面	「企業と生産活動(1)」について説明します。	【予習】「企業と生産活動(1)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 42-43) を事前に読んでおいてください。 【復習】「企業と生産活動(1)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 42-43) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第5回	対面	「完全競争」について説明します。	【予習】「完全競争」に関する配布資料及び参考書① (pp. 60-63) を事前に読んでおいてください。 【復習】「完全競争」に関する配布資料及び参考書① (pp. 60-63) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第6回	対面	「消費と貯蓄(2)」について学修します。	【予習】「消費と貯蓄(2)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 22-25) を事前に読んでおいてください。 【復習】「消費と貯蓄(2)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 22-25) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第7回	対面	「企業と生産活動(2)」について説明します。	【予習】「企業と生産活動(2)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 42-43) を事前に読んでおいてください。 【復習】「企業と生産活動(2)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 42-43) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第8回	対面	「GDP の概念」について説明します。	【予習】「GDP の概念」に関する配布資料および参考書① (pp. 132-135) を事前に読んでおいてください。 【復習】「GDP の概念」に関する配布資料および参考書① (pp. 132-135) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第9回	対面	「GDP の決定」について説明します。	【予習】「GDP の決定」に関する配布資料および参考書① (pp. 136-137) を事前に読んでおいてください。 【復習】「GDP の決定」に関する配布資料および参考書① (pp. 136-137) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第10回	対面	「政府の役割」について説明します。	【予習】「政府の役割」に関する配布資料及び参考書① (pp. 98-105) を事前に読んでおいてください。 【復習】「政府の役割」に関する配布資料及び参考書① (pp. 98-105) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第11回	対面	「貿易」について説明します。	【予習】「貿易」に関する配布資料および参考書① (p. 178-183) を事前に読んでおいてください。 【復習】「貿易」に関する配布資料および参考書① (p. 178-183) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第12回	対面	「国際収支と為替レート」について説明します。	【予習】「国際収支と為替レート」に関する配布資料および参考書① (pp. 184-185) を事前に読んでおいてください。 【復習】「国際収支と為替レート」に関する配布資料および参考書① (pp. 184-185) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第13回	対面	「資本移動」について説明します。	【予習】「資本移動」に関する配布資料および参考書	4 時間

			①（pp. 186-191）を事前に読んでおいてください。 【復習】「資本移動」に関する配布資料および参考書①（pp. 186-191）を読み直し、復習しておいてください。	
第14回	対面	「日本経済の国際化と円高／円安」について説明します。	【予習】「日本経済の国際化と円高／円安」に関する配布資料および参考書①（pp. 192-193）を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本経済の国際化と円高／円安」に関する配布資料および参考書①（pp. 192-193）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6 時間

科目名	国際経済基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	金子 治平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界経済に関して現在話題になっている経済諸事象を取り上げながら、経済学の考え方を説明します。		
授業の目的及び概要	この授業は、経済学の基礎を学んだ上で、世界各国の経済が貿易や投資を通じて相互に影響し合っていることを理解することを目的とします。 この授業を受講することにより、各国の経済諸事象を相互に関連づけて理解する経済学の基本的知識を身につけることができます。		
履修条件・留意点	この授業は、オンデマンド授業で、毎週水曜日午前 9 時に配信を行います。 水曜日午前 9 時から翌週水曜日午前 8 時 59 分までの 1 週間の間に ・ 配布資料を読んで、概略を理解する（10 分～1 時間） ・ 配信した動画を視聴して、講義資料を何回も読み直して復習を行う（最低でも 30 分）（※1） ・ その回の講義内容に対するアンケート（※2）に回答する（約 5 分） ・ その前の回の講義内容に対する小テスト（※3）を受験する（約 15 分） 必要があります。 つまり、しっかりと時間をかけて勉強することが大切です。 なお、授業計画は各回の小テストの結果によって、若干の修正を行う可能性があります。 ※ 1 各回の講義資料は、日本語で A4 判 6～10 ページあります。読むのに、日本語の文章がすらすら読める人でも 30 分、日本語に習熟していない人だと 2 時間以上かかると思います。 ※ 2 アンケートへの回答の有無で、出欠データとします。アンケートには、理解できたこと、疑問に思ったこと、授業に対する要望を、具体的に記述する必要があります。つまり、「わかった」「わからなかった」などの回答は、出席ではなく欠席になります。 ※ 3 小テストの成績が、成績評価 100 点満点中、60 点分になります。つまり、小テストでいい成績を取ることが、合格するための条件になります。 上記に書いたように、合格するためには、毎週 2 時間以上の勉強時間が必要です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①需要・供給・余剰などのミクロ経済学の基本的な用語を説明できる。 ②ミクロ経済学の基本的な知識を用いて、貿易による利益や関税などの効果を説明できる。 ③GDP などのマクロ経済学の基本的な用語を説明できる。 ④外国為替市場と外国為替レート、国際収支などについて説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	teams 上で質問を受け付けて、 ・ 受講生全員に関係する質問等であれば、追加資料によって補足説明を行います。 ・ 個人的な質問等であれば、2～3 日以内に teams あるいはメールで回答します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 資料は、授業支援システム「Learning Portal」にアップロードします。	ISBN	なし
参考書	① 宮崎勇・田谷禎三（2020）『世界経済図説 第四版』（岩波新書）岩波書店 ② 西川潤（2014）『新・世界経済入門』（岩波新書）岩波書店	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	経済や社会の状況に関心を持ち、積極的に新聞・雑誌を読んだりテレビ・ラジオのニュースを見聞したりするように心がけてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	・シラバスに記載してある授業の概要，授業を受ける際の留意点，学習目標，成績評価などについて説明します 上記の説明の中には，遠隔需要の実施方法，出欠管理の方法，質疑応答の方法を含みます。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理して，アンケートに回答してください。	2 時間
第2回	オンデマンド	需要曲線と消費者余剰 需要曲線と消費者余剰を学ぶとともに，なぜ世界の穀物価格の変動が大きいのかを学びます。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して，アンケートに回答してください ・第1回の講義内容について的小テストを受験してください	4 時間
第3回	オンデマンド	供給曲線と生産者余剰，および貿易がないときの数量と価格の決定 需要曲線と供給曲線から，貿易が行われないときに，生産（消費）数量や価格がどのように決定されるのかを学びます。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して，アンケートに回答してください ・第2回の講義内容について的小テストを受験してください	4 時間
第4回	オンデマンド	自由貿易の利益（1） 国内の状況だけで決定される価格よりも低い価格で輸入可能ときに価格・数量・余剰がどのように変化するか，また，輸入関税をかけたときに価格・数量・余剰がどのように変化するかを学びます。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して，アンケートに回答してください ・第3回の講義内容について的小テストを受験してください	4 時間
第5回	オンデマンド	自由貿易の利益（2） 政府が輸入量を制限する場合に，価格・数量・余剰がどのように変化するかを学びます。 前回までの講義と併せて，自由に貿易を行う場合には，政府が関与する場合よりも，社会全体としては利益があることを示します。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して，アンケートに回答してください ・第4回の講義内容について的小テストを受験してください	4 時間
第6回	オンデマンド	自由貿易の利益（3） 前回までとは異なった視点からの自由貿易の利益として，リカードの比較優位の原則を学びます。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して，アンケートに回答してください ・第5回の講義内容について的小テストを受験してください	4 時間
第7回	オンデマンド	国民経済計算 GDP(国内総生産)は何を表している数値なのかを学びます。	・事後学習として，講義資料を何回も読み直して，理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して，アンケートに回答してください ・第6回の講義内容について的小テストを受験してください	4 時間

			ください	
第8回	オンデマンド	実質化と物価指数 名目 GDP と実質 GDP の違い, 及び物価指数について学びます。	・事後学習として, 講義資料を何回も読み直して, 理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して, アンケートに回答してください ・第7回の講義内容についての小テストを受験してください	4 時間
第9回	オンデマンド	労働市場と失業率 失業率はどのようにして決定されるのかを学びます。	・事後学習として, 講義資料を何回も読み直して, 理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して, アンケートに回答してください ・第8回の講義内容についての小テストを受験してください	4 時間
第10回	オンデマンド	金融市場と利子率 投資の対価としての利子率はどのように決定されるのかを学びます。	・事後学習として, 講義資料を何回も読み直して, 理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して, アンケートに回答してください ・第9回の講義内容についての小テストを受験してください	4 時間
第11回	オンデマンド	外国為替市場と外国為替レート 外国為替市場と外国為替レート, および, 外国為替レートと貿易や投資などとの関連を学びます。	・事後学習として, 講義資料を何回も読み直して, 理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して, アンケートに回答してください ・第10回の講義内容についての小テストを受験してください	4 時間
第12回	オンデマンド	国際収支(1) 世界各国間の経済の収支を表す国際収支統計とは何かを学びます。	・事後学習として, 講義資料を何回も読み直して, 理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して, アンケートに回答してください ・第11回の講義内容についての小テストを受験してください	4 時間
第13回	オンデマンド	国際収支(2) 国際収支と, 貿易や投資との関連を学びます。	・事後学習として, 講義資料を何回も読み直して, 理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して, アンケートに回答してください ・第12回の講義内容についての小テストを受験してください	4 時間
第14回	オンデマンド	世界の貿易構造 グローバル・サプライ・チェーンと地政学リスク	・事後学習として, 講義資料を何回も読み直して, 理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して, アンケートに回答してください ・第13回の講義内容についての小テストを受験してください	4 時間
第15回	オンデマンド	全体の振り返り 第1～14回の講義を振り返って, 全体のまとめを行います。	・事後学習として, 講義資料を何回も読み直して, 理解してください ・理解した点や疑問点などを整理して, アンケートに回答してください ・第14回と第15回の講義内容についての小テストを受験してください	6 時間

科目名	国際経済概論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金子 治平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	経済学の基礎理論を背景として、経済に関する統計資料と関連させながら各国の経済状況やその推移を説明します。		
授業の目的及び概要	この授業は、世界各国とくにアジア太平洋地域の状況やその推移を統計資料から読み解く力を習得すること、および、経済学の基本的な考え方を理解することを目的とします。 この授業を受講することにより、新聞やテレビ・ラジオで話題となっている各国の経済諸事象を相互に関連づけて理解する基本的知識を身につけます。		
履修条件・留意点	この授業は対面授業です。 下記の事後学習を行う必要があります。 ・授業後に、講義資料を何回も読み直して復習を行う（最低でも 30 分）(※1) ・その回の講義内容に対するアンケート(※2)に回答する（約 5 分） ・その前の回の講義内容に対する小テスト(※3)を受験する（約 15 分） 履修条件・留意点 ※ 1 各回の講義資料は、日本語で A4 判 4~8 ページあります。日本語の文章がすらすら読める人でも 30 分、日本語に習熟していない人だと 2 時間以上かかると思います。 ※ 2 アンケートは、「Learning Portal」のテストの最後に記入することになります。アンケートへの回答は「わかった」「わからなかった」などではなく、その回の授業に対応した具体的なものを記述する必要があります。 ※ 3 アンケートを含むテストの成績が、成績評価 100 点満点中 60 点分になります。15 回の授業なので、1 回あたりのテストによる加点は約 4 点分になります。つまり、毎回のテストでいい成績を取ることが、合格するための条件になります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際機関が公開している統計資料の代表的な項目を理解し、説明することができる。 ・統計資料をもとに、世界各国の状況を理解し、説明することができる。 ・上記の知見を使用して、新聞などのニュースで取り上げられることがらの内容を理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	teams 上で質問を受け付けて、 ・受講生全員に関係する質問等であれば、翌週(あるいは翌々週)の授業で説明します。 ・受講生全員には関係しない質問等であれば、2~3 日以内に teams あるいはメールで回答します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。 資料は、授業支援システム「Learning Portal」にアップロードするとともに、授業時に配布します。	ISBN	なし
参考書	①『世界経済図説 第四版』(岩波新書)、宮崎勇・田谷禎三、岩波書店、2020 年 ②『新・世界経済入門』(岩波新書)、西川潤、岩波書店、2014 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	経済や社会の状況に関心を持ち、積極的に新聞・雑誌を読んだりテレビ・ラジオのニュースを見聞したりするように心がけてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション シラバスに記載してある授業の目的、概要、授業を受ける際の留意点、学習目標、成績評価などについて説明します。	- 事前学習として、授業支援システム「Learning Portal」にアップロードした資料に目を通しておい - てください。 - 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストに、理解した点や疑問点などを回答してください。	4 時間
第2回	対面	世界各国の人口の推移（1） 国連の人口に関する統計をもとに、とくにアジア太平洋地域の諸国について、人口や年齢階級別人口の推移を説明します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第1回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第2回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第3回	対面	世界各国の人口の推移（2） 生産年齢人口、合計特殊出生率、平均寿命について説明するとともに、これらの世界各国における推移を説明します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第2回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第3回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第4回	対面	世界各国の GDP の推移（1） 国内総生産（GDP）、市場価格表示の国民所得、要素費用表示の国民所得、国民可処分所得が、それぞれ何を示しているかを説明します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第3回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第4回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第5回	対面	世界各国の GDP の推移（2） 国内総生産の支出側の項目について説明し、東アジア・東南アジアのいくつかの国の統計資料を提示します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第4回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第5回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第6回	対面	世界各国の GDP の推移（3） 名目 GDP と実質 GDP の違いを説明するとともに、前回の講義資料で取り上げた統計をもとに各国の特徴を説明します。	- 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 - 理解した点や疑問点などを整理してください。 「Learning Portal」のテストで、第5回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第6回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第7回	対面	世界各国の GDP の推移（4）と国際収支（1） 東アジア・東南アジアのいくつかの国を	事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。	4 時間

		取り上げて、経済成長率とその内訳を寄与度で示す方法を説明します。 国際収支の基礎について説明します。	・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第6回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第7回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	
第8回	対面	世界各国の国際収支（2） 国際収支統計の各項目について、具体例をあげながら詳しく説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第7回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第8回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第9回	対面	世界各国の国際収支（3） 国際収支統計に関するこれまでの説明を振り返るとともに、日本と中国の国際収支の推移をグラフで示し、日本と中国の経済成長の特徴を説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第8回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第9回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第10回	対面	世界各国の国際収支（4） ベトナムの国際収支の推移をグラフで示し、ベトナムの経済成長の特徴を説明します。 また、国際収支の発展段階説について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第9回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第10回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第11回	対面	国際金融（1） 通貨の安定が必要なる理由や、ブレトン・ウッズ体制以降の国際金融システムの歴史について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第10回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第11回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第12回	対面	国際金融（2） 為替レートの変化が経済に及ぼす影響、実質為替レート指数と実質実効為替レート指数について説明するとともに、統計資料を用いてその推移が意味することを説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第11回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第12回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第13回	対面	世界のエネルギー事情（1） 統計資料を用いながら、エネルギーの種類、一次エネルギーと二次エネルギーの違い、地域別・種類別エネルギー消費量の特徴、それぞれの一次エネルギーの特徴について説明します。 定期試験対策についても説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第12回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第13回の講義内容に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	4 時間
第14回	対面	世界のエネルギー事情（2） 世界各国の一次エネルギーの埋蔵量や、一次エネルギーの貿易の特徴について説明します。	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第13回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第14回の講義内容	4 時間

			に対して理解した点や疑問点などへの回答も含まれます。	
第15回	オンデマンド	全体の振り返り 第1～14回の講義を振り返って、全体のまとめを行います。	これまでの講義資料を読み直すとともに、毎回のテストを使ってよく復習してください。	4時間

科目名	国際経営基礎		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福田 真也		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際学部においてベースとなる経営学全般について、基礎から専門科目にステップアップするための基本的な内容について学修します。			
授業の目的及び概要	本講義では、経営学全般に関する基礎知識を修得します。 アジア太平洋地域における企業活動の事例を通して、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任・経営理念・企業戦略、競争戦略と事業システム・組織構造・組織文化等について学修します。			
履修条件・留意点	この授業科目は、専門基礎科目です。 国際的な視点で経営学を学修したい学生の履修を推奨します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 経営学全般に関する基礎知識を修得する。 ・ 組織論、戦略論、ガバナンス、リーダーシップ、モチベーションなど、経営学という学問の中で関心のある領域を見つける。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定のテキストは使用しません。 本講義は、配布資料をもとに講義を行います。	ISBN	.	
参考書	①経営学入門，藤田誠，中央経済社，2015 年 ②テキスト経営学(第 3 版)，井原久光，ミネルヴァ書房，2008 年	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	60		
	その他（％）	0		
	その他の内容	0		
この科目の受講にあたって	経営学の基礎理論を学修する中で、適宜、企業活動の事例を交えながら、関連する調査研究業務の経験を織り混ぜながら実践的な内容を提供します。 日頃から、インターネットやテレビ、新聞等を通じて、国際的な観点から経営事情に関する出来事について把握できるように心掛けてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	「ガイダンス」 本講義の目的・目標、授業の進め方、成績評価などについて、授業計画をもとに説明します。	(事前学修) 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 (事後学修)	4 時間

		「経営学とはどのような学問か」 経営の枠組みをはじめ、経営学の発展経緯、経営学の特徴を通じて、経営学を学修する意義について学修します。 「コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任(1)」 コーポレート・ガバナンスの基本的概念と企業倫理、企業の社会的責任（CSR）について理解するため、①コーポレート・ガバナンスと株式会社の機関設計、②コーポレート・ガバナンスの論点、③利害関係者の多様性とコーポレート・ガバナンスについて学修します。	テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第2回	対面	「コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任(2)」 ④企業倫理、⑤企業の社会的責任（CSR）について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	「経営理念、目的と戦略(1)」 経営理念、ビジョン等の概念、企業・組織の目的（目標）、戦略の基本概念について理解するため、①経営理念・ビジョン、②コーポレート・ステートメント、③企業・組織の目的、④経営理念、目的と経営戦略の関連について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	「経営理念、目的と戦略(2)」 ⑤ドメインと経営戦略の概念、⑥CSR、企業倫理と経営戦略、⑦戦略計画から創発的戦略へについて学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	「企業戦略(1)」 企業戦略（全社戦略）の基本概念、対象である事業、戦略の方法について理解するため、①成長ベクトル、②多角化、③事業とは何かについて学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	「企業戦略(2)」 ④ライフ・サイクルとポートフォリオ・プランニング、⑤ポジショニングと経営資源・組織能力について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	「第1回～第6回の学修内容の再確認」 第1回～第6回までの学修内容を再確認するとともに、実社会に実在する企業の取り組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、第1回～第6回までの学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	「競争戦略と事業システム(1)」 事業戦略（競争戦略）の前提の考え方、基本的類型、事業システムの概念について理解するため、①経験効果・経験曲線、②ポーターのファイブ・フォーシーズ・モデル、③競争戦略の類型について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	「競争戦略と事業システム(2)」	(事前学修)	4 時間

		④事業システム、⑤経営戦略に関する概念について学修します。	テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第10回	対面	「組織構造(1)」 組織構造の諸概念と部門化に関する基本的類型、組織間関係としてのネットワーク組織について理解するため、①戦略と組織、②組織構造の基本要因、③官僚制、④部門化の基本形について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	「組織構造(2)」 ⑤カンパニー制と持株会社、⑥マトリックス組織とプロジェクト組織、⑦業務プロセスと部門の統合、⑧組織間関係とネットワーク組織について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	「組織文化(1)」 組織文化の概念と組織変革の基本的考え方について理解するため、①組織文化の概念、②思考様式、行動様式と組織文化、③強い組織文化と下位文化について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	「組織文化(2)」 ④組織文化の機能と逆機能、⑤経営戦略、組織構造と組織文化、⑥組織文化の変革、⑦機能主義と解釈主義について学修します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第14回	対面	「第8回～第13回の学修内容の再確認」 第8回～第13回までの学修内容を再確認します。これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、第8回～第13回までの学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、本講義の学修内容について復習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	国際ビジネス概論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高砂 謙二	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際ビジネスにおける全般的な知識の修得		
授業の目的及び概要	この授業は、国際ビジネスの知識を修得することを目標としています。具体的には、国際経営の分野である多国籍企業の歴史、企業の国際化の理論、M&A（合併と買収）戦略、国際戦略的提携、企業経営の職能からの国際化理論（国際経営戦略、マーケティング戦略、組織戦略、人的資源戦略等）といった中心的な課題について考察し、多国籍企業の経営行動の理解を深めます。また、各国固有の文化や慣習、政治体制といった進出先の経営環境等についても具体事例から解説します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 国際経営の概念を説明できる。 ・ 多国籍企業の経営と組織を説明できる。 ・ 国際経営の背後にある経営学の基本理論を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行うこととする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	①はじめての国際経営, 中川功一他, 有斐閣, 2015 年	ISBN	①9784641150171
参考書	なし	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この授業ではノートを必携し、必要に応じてメモを取るようにして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、常日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めること。事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み	4 時間

		講義の概要と今後の授業の進め方について説明を行います。	込むとともに、国際ビジネス概論を受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	
第2回	対面	国際経営とは何かについて解説します。 ①国際経営の難しさ ②海外進出の理由 ③国際経営の理論と現実	【予習】事前学修として、教科書（4頁-16頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第3回	対面	海外直接投資の理論について解説します。 ①日本企業の海外直接投資 ②海外直接投資の理論（OLIパラダイム）	【予習】事前学修として、教科書（18頁-34頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第4回	対面	多国籍企業による国際競争の歴史について解説します。 ①第二次世界大戦前 ②第二次世界大戦後 ③現代のトレンド	【予習】事前学修として、教科書（38頁-56頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第5回	対面	多国籍企業の組織デザインについて解説します。 ①国際経営のフェーズ ②グリッド組織（グローバル・マトリックス方式） ③ヘテラーキーと地域統括組織	【予習】事前学修として、教科書（60頁-75頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第6回	対面	トランスナショナル経営について解説します。 ①I-Rフレームワーク ②国際経営の4つのタイプ（グローバル経営、マルチナショナル経営、インターナショナル経営、トランスナショナル経営） ③4つの国際経営と組織	【予習】事前学修として、教科書（78頁-91頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第7回	対面	海外子会社の経営について解説します。 ①海外子会社の経営課題 ②海外子会社の役割 ③海外子会社の成長	【予習】事前学修として、教科書（94頁-107頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第8回	対面	国際マーケティング（1）について解説します。 ①マーケティングの基本 ②国内マーケティングとの違い	【予習】事前学修として、教科書（114頁-122頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第9回	対面	国際マーケティング（2）について解説します。 ①国際マーケティングのプロセス（市場機会の発見、マーケティング戦略、マーケティングミックス、制御）	【予習】事前学修として、教科書（122頁-128頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第10回	対面	ものづくりの国際拠点展開について解説します。 ①海外生産拠点の設立・運営（フィージビリティ・スタディ） ②国際生産ネットワーク（集中型・分散型）	【予習】事前学修として、教科書（132頁-146頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第11回	対面	研究開発の国際化について解説します。 ①HBE型とHBA型 ②海外研究開発拠点のマネジメント	【予習】事前学修として、教科書（150頁-165頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間

			い。	
第12回	対面	国際的な人的資源管理について解説します。 ①EPRG プロファイル ②海外駐在員のマネジメント ③現地従業員のマネジメント	【予習】事前学修として、教科書（170 頁-185 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	国際パートナーシップについて解説します。 ①直接投資モデル ②国際パートナーシップ・モデル ③国際企業分類	【予習】事前学修として、教科書（188 頁-199 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第14回	対面	日本企業のさらなる国際化について解説します。 ①日本企業の国際化（現状・問題） ②オープン・イノベーション ③多国籍企業の CSR	【予習】事前学修として、教科書（204 頁-211 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間

科目名	日本語 5 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	馬 花力	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる		
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を使い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・長く複雑なテキストであっても、読み返すことや参照ツールを用いることができれば、自分の専門分野に直接関係しない内容であっても、詳細まで理解することができる。 ・文学的テキスト、新聞や雑誌記事、学術的・専門的な刊行物など、社会的・専門的・学問的分野で遭遇する多様なテキストを、要点だけでなく細部に至るまで把握することができる。 ・また、明示的に述べられている意見だけでなく、含意された意見や立場も理解することができる。 ・さらに、文脈的・文法的・語彙的な手がかりを用いて、書き手の態度や意図を推測し、展開の方向性や次に来る内容を的確に予測することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	
	その他の内容	学期末復習テスト：20%	

	JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 5 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる		
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を使い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・長く複雑なテキストであっても、読み返すことや参照ツールを用いることができれば、自分の専門分野に直接関係しない内容であっても、詳細まで理解することができる。 ・文学的テキスト、新聞や雑誌記事、学術的・専門的な刊行物など、社会的・専門的・学問的分野で遭遇する多様なテキストを、要点だけでなく細部に至るまで把握することができる。 ・また、明示的に述べられている意見だけでなく、含意された意見や立場も理解することができる。 ・さらに、文脈的・文法的・語彙的な手がかりを用いて、書き手の態度や意図を推測し、展開の方向性や次に来る内容を的確に予測することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	学期末復習テスト：20%	

	JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 5 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	片岡 浩史	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる		
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・長く複雑なテキストであっても、読み返すことや参照ツールを用いることができれば、自分の専門分野に直接関係しない内容であっても、詳細まで理解することができる。 ・文学的テキスト、新聞や雑誌記事、学術的・専門的な刊行物など、社会的・専門的・学問的分野で遭遇する多様なテキストを、要点だけでなく細部に至るまで把握することができる。 ・また、明示的に述べられている意見だけでなく、含意された意見や立場も理解することができる。 ・さらに、文脈的・文法的・語彙的な手がかりを用いて、書き手の態度や意図を推測し、展開の方向性や次に来る内容を的確に予測することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	学期末復習テスト：20%	

	JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 5 A		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ストキンジェル アルノー		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G3		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる			
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・長く複雑なテキストであっても、読み返すことや参照ツールを用いることができれば、自分の専門分野に直接関係しない内容であっても、詳細まで理解することができる。 ・文学的テキスト、新聞や雑誌記事、学術的・専門的な刊行物など、社会的・専門的・学問的分野で遭遇する多様なテキストを、要点だけでなく細部に至るまで把握することができる。 ・また、明示的に述べられている意見だけでなく、含意された意見や立場も理解することができる。 ・さらに、文脈的・文法的・語彙的な手がかりを用いて、書き手の態度や意図を推測し、展開の方向性や次に来る内容を的確に予測することができる。			
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。			
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	プリント配布	ISBN	—	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	20		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	30％：期末テスト		
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1 回）と期末テスト（1 回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてくだ			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 5 B		開講年度	2026 年度春学期
担当者	李 光曦		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる			
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。			
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。			
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	20		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	学期末復習テスト：20% JLPT 受験：10%		
この科目の受講に	【試験】中間点検（1 回）と学期末復習テスト（1 回）が学期中にあります。			

あたって	【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 5 B		開講年度	2026 年度春学期
担当者	王 鈺		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる			
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。			
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。			
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	20		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	学期末復習テスト：20％ JLPT 受験：10％		
この科目の受講に	【試験】中間点検（1 回）と学期末復習テスト（1 回）が学期中にあります。			

あたって	【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 5 B		開講年度	2026 年度春学期
担当者	陳 宇鎔		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる			
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。			
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。			
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	20		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	学期末復習テスト：20％ JLPT 受験：10％		
この科目の受講に	【試験】中間点検（1 回）と学期末復習テスト（1 回）が学期中にあります。			

あたって	【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 5 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ストキンジェル アルノー		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G3		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる			
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・言葉を探している印象をあまり与えず、明確な描写や自分の視点の表明、論議の構成を行うことができるだけの言語表現の幅を持っている。 ・本人の専門分野および多くの一般的な話題について幅広い語彙を用いることができ、語彙の不足から言いよどむことはあるものの、表現を言い換えて対応できる。 ・多くの文脈において適切な語の結び付きで語彙を使用し、専門分野の語彙はおおむね理解・運用できる。 ・文法運用能力も比較的高く、簡単な構造に加えて一部の複雑な構造も用いることができ、多少の不正確さは見られるが、意味理解を妨げることなく表現できる。			
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。			
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	プリント配布	ISBN	—	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	20		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	30％：期末テスト		
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1 回）と期末テスト（1 回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてくだ			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 6 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 光曦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる		
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を使い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・長く複雑なテキストであっても、読み返すことや参照ツールを用いることができれば、自分の専門分野に直接関係しない内容であっても、詳細まで理解することができる。 ・文学的テキスト、新聞や雑誌記事、学術的・専門的な刊行物など、社会的・専門的・学問的分野で遭遇する多様なテキストを、要点だけでなく細部に至るまで把握することができる。 ・また、明示的に述べられている意見だけでなく、含意された意見や立場も理解することができる。 ・さらに、文脈的・文法的・語彙的な手がかりを用いて、書き手の態度や意図を推測し、展開の方向性や次に来る内容を的確に予測することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	学期末復習テスト：20%	

	JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 6 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 光曦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる		
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を使い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・長く複雑なテキストであっても、読み返すことや参照ツールを用いることができれば、自分の専門分野に直接関係しない内容であっても、詳細まで理解することができる。 ・文学的テキスト、新聞や雑誌記事、学術的・専門的な刊行物など、社会的・専門的・学問的分野で遭遇する多様なテキストを、要点だけでなく細部に至るまで把握することができる。 ・また、明示的に述べられている意見だけでなく、含意された意見や立場も理解することができる。 ・さらに、文脈的・文法的・語彙的な手がかりを用いて、書き手の態度や意図を推測し、展開の方向性や次に来る内容を的確に予測することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』（ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』（ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	30	
	その他の内容	学期末復習テスト：20%	

	JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 6 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伍 躍	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる		
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・長く複雑なテキストであっても、読み返すことや参照ツールを用いることができれば、自分の専門分野に直接関係しない内容であっても、詳細まで理解することができる。 ・文学的テキスト、新聞や雑誌記事、学術的・専門的な刊行物など、社会的・専門的・学問的分野で遭遇する多様なテキストを、要点だけでなく細部に至るまで把握することができる。 ・また、明示的に述べられている意見だけでなく、含意された意見や立場も理解することができる。 ・さらに、文脈的・文法的・語彙的な手がかりを用いて、書き手の態度や意図を推測し、展開の方向性や次に来る内容を的確に予測することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894806) 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 (ISBN:978-4896894776)	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	学期末復習テスト：20%	

	JLPT 受験：10%
この科目の受講にあたって	【試験】中間点検（1回）と学期末復習テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	読解問題演習 長文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	読解問題演習 短文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	読解問題演習 中文	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	読解問題演習 長文1	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	読解問題演習 長文2	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	読解問題演習 統合	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	読解問題演習 情報	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 6 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ストキンジェル アルノー	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる		
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・長く複雑なテキストであっても、読み返すことや参照ツールを用いることができれば、自分の専門分野に直接関係しない内容であっても、詳細まで理解することができる。 ・文学的テキスト、新聞や雑誌記事、学術的・専門的な刊行物など、社会的・専門的・学問的分野で遭遇する多様なテキストを、要点だけでなく細部に至るまで把握することができる。 ・また、明示的に述べられている意見だけでなく、含意された意見や立場も理解することができる。 ・さらに、文脈的・文法的・語彙的な手がかりを用いて、書き手の態度や意図を推測し、展開の方向性や次に来る内容を的確に予測することができる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	プリント配布	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	30％：学期末復習テスト	
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1 回）と期末テスト（1 回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてくだ		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	日本語 6 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	李 光曦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる		
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に用い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	学期末復習テスト：20％ JLPT 受験：10％	
この科目の受講に	【試験】中間点検（1 回）と学期末復習テスト（1 回）が学期中にあります。		

あたって	【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 6 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	王 曹傑		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる			
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。			
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。			
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	20		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	学期末復習テスト：20％ JLPT 受験：10％		
この科目の受講に	【試験】中間点検（1 回）と学期末復習テスト（1 回）が学期中にあります。			

あたって	【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 6 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高月 喜美	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる		
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を用い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。		
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：12 月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。		
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	【N1 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N1 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894806） 【N2 クラス】 『ドリル&ドリル日本語能力試験 N2 聴解/読解』 （ISBN:978-4896894776）	ISBN	【N1 クラス】 ISBN:978-4896894806 【N2 クラス】 ISBN:978-4896894776
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	学期末復習テスト：20％ JLPT 受験：10％	
この科目の受講に	【試験】中間点検（1 回）と学期末復習テスト（1 回）が学期中にあります。		

あたって	【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れたりしないようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第3回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：追加課題のプリント	2 時間
第4回	オンデマンド	オンデマンド	事後学修：追加課題のプリント 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第5回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間点検の準備	2 時間
第6回	対面	中間点検・FB	事後学修：中間点検のやり直し 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第7回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第8回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第9回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第10回	対面	聴解問題演習 課題理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第11回	対面	聴解問題演習 概要理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第12回	対面	聴解問題演習 統合理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第13回	対面	聴解問題演習 ポイント理解	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：次回授業内容についての宿題	2 時間
第14回	対面	聴解問題 即時応答	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：学期末復習テストの準備	2 時間
第15回	対面	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	3 時間

科目名	日本語 6 B		開講年度	2026 年度春学期
担当者	ストキンジェル アルノー		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G3		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	抽象的・専門的な話題を含む幅広い内容について、含意やニュアンスを理解した上で、目的や聞き手に応じて正確かつ効果的に、流暢で構成の整った表現ができる			
授業の目的及び概要	本科目は、多様で高度な内容を含む比較的長いテキストを理解し、明示されていない含意についても把握できる日本語能力の育成を目的とする。また、言葉を探している印象を与えることなく、流暢かつ自然に自己表現ができる高度な運用力の習得を目標とする。 さらに、社会的・学問的・職業的な場面において、状況に応じて柔軟かつ効果的に日本語を使い、複雑な話題についても明確で論理的な構成をもつテキストを作成できるようにする。その際、語彙や接続表現、結束表現を適切に使い、全体として一貫性のある表現ができる力を養う。そのため、授業では、読む・書く・聞く・話すの4技能を総合的に高度化させる学修活動を行い、精緻で説得力のある日本語表現を実践的に運用できる能力の形成を図る。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ライブや放送などの形態、身近な話題に限らず個人間、社会、学問、職業の場面で通常扱われる話題について、標準語または馴染みのある言語変種で話されれば理解できる。 ・極端な騒音や談話構成の不明確さなどがなければ、話の内容を把握できる。 また、目標言語話者同士の活発な会話についていくことができ、内容的・言語的に複雑な講義や講演、専門的なプレゼンテーションの要点を理解できる。 ・さらに、自身の関心分野や専門領域の話題であれば、話し手の視点を理解できる。			
資格・検定試験への対応	日本語能力試験（JLPT）各レベル：7月の試験での合格を目指します。※詳しい目標レベルについては、各授業内で案内します。			
フィードバックの方法	小テスト、宿題については誤答などをフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	プリント配布		ISBN	—
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		20	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		30％：学期末復習テスト	
この科目の受講にあたって	【試験】中間テスト（1回）と期末テスト（1回）が学期中にあります。 【小テスト】授業の進度に応じて学習範囲の復習のための小テストを実施します。範囲と実施日については授業内でアナウンスします。 【宿題】毎回の授業で宿題が出ます。提出が遅れたり、提出を忘れてたりしないようにしてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	クラスガイダンス：授業の進め方、成績付与の方法等の説明	事前学修：次回授業内容についての宿題	1 時間
第2回	オンデマンド	JLPT 問題演習 1	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第3回	オンデマンド	JLPT 問題演習 2	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第4回	オンデマンド	JLPT 問題演習 3	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第5回	オンデマンド	JLPT 問題演習 4	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第6回	オンデマンド	JLPT 問題演習 5	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第7回	オンデマンド	学期前半の振り返り	事後学修：授業内での学修項目の復習 事前学修：中間テストの準備	4 時間
第8回	オンデマンド	中間テスト	事前学修：次回小テストの準備	1 時間
第9回	オンデマンド	JLPT 問題演習 6	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第10回	オンデマンド	JLPT 問題演習 7	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第11回	オンデマンド	JLPT 問題演習 8	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第12回	オンデマンド	JLPT 問題演習 9	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第13回	オンデマンド	JLPT 問題演習 10	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：次回小テストの準備	2 時間
第14回	オンデマンド	春学期の総まとめ	事後学修：授業内容の復習と宿題 事前学修：学期末服種テストの準備	4 時間
第15回	オンデマンド	学期末復習テストと総括	事後学修：学期末復習テストのやり直し	4 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生+TOEFL クラス）・クラス②・クラス③（留学生クラス+一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス+一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス+一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生+留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60%程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60%程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年）ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年）ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する	4時間
第2回	対面	TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第13回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセクション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセクションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500 (クラスにより 600) 以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE (Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス① (留学生 + TOEFL クラス)・クラス②・クラス③ (留学生クラス + 一般学生クラス) は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC® L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス② (留学生クラス + 一般学生クラス) は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス② (留学生クラス + 一般学生クラス) を履修しましょう。また、水 2 クラス① (TOEFL、一般学生 + 留学生クラス、交換留学を希望する学生) は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500 (クラスにより 600) 以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト (TOEIC 頻出単語) において、毎回 80 % 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60 % 程度の主要な情報 (登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など) を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60 % 程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 (通年使用)、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年）ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年）ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する	4時間
第2回	対面	TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第13回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセクション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセクションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500 (クラスにより 600) 以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE (Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス① (留学生 + TOEFL クラス)・クラス②・クラス③ (留学生クラス + 一般学生クラス) は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC® L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス② (留学生クラス + 一般学生クラス) は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス② (留学生クラス + 一般学生クラス) を履修しましょう。また、水 2 クラス① (TOEFL、一般学生 + 留学生クラス、交換留学を希望する学生) は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500 (クラスにより 600) 以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト (TOEIC 頻出単語) において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60% 程度の主要な情報 (登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など) を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60% 程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問 (通年使用)、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試4回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試3回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年：2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】 TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試3回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト至高の模試600問（通年） ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年） ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する	4時間
第2回	対面	TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第13回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセクション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセクションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ウェザビ・マーティン	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生+TOEFL クラス）・クラス②・クラス③（留学生クラス+一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス+一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス+一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生+留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60% 程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60% 程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年）ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年）ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する	4時間
第2回	対面	TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセクション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第13回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセクション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセクションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. IV	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	TOEIC 或いは TOEFL 学習素材を活用して英語力を強化し、コミュニケーションに必要な英語運用力の土台を作る。		
授業の目的及び概要	本講義は、英語の 4 技能を総合的に強化し、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE(Structure and Written Expression)/Reading において B1 以上を目標とする。 ・ TOEIC 或いは TOEFL テスト形式の問題を解き、対策を学んで、スコアアップを図る。 ・ TOEIC 或いは TOEFL スコアアップに必須となる自己学習法を修得する。 ・ 頻出語彙の強化のため毎回語彙テストを実施し語彙の用法や音声まで修得する。 ・ 本学担当教員の授業計画のもと、水 2 のクラス 2・3、水 2 のクラス①（留学生+TOEFL クラス）・クラス②・クラス③（留学生クラス+一般学生クラス）は、株式会社アルクの英語講師が授業を実施する。		
履修条件・留意点	この授業科目は、TOEIC®L&R、TOEFL® ITP に対応した科目であり、英語力の向上を目指す学生を対象とします。国際学部生はこれまでの TOEIC スコアを基に事前にクラス分けを実施し事前登録します。また経済・経営・法学部生も履修が可能です。1 年次の必修英語で中級クラスは水 2 クラス 1、初級クラスは水 2 クラス 2、基礎クラスは水 2 クラス 3 を推奨します。また、水 2 クラス②（留学生クラス+一般学生クラス）は、留学生及び一部クラス分けにより事前登録した学生のクラスです。経済・経営・法・国際学部の留学生の方で英語を学修したい方は、積極的に水 2 クラス②（留学生クラス+一般学生クラス）を履修しましょう。また、水 2 クラス①（TOEFL、一般学生+留学生クラス、交換留学を希望する学生）は Advanced クラスとして、TOEFL を学修します。交換留学を目指す学生の方、並びに今後、TOEFL 学修をしたい方、英語力が高い留学生の方は積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取組を通して、TOEIC L&R で 500（クラスにより 600）以上、TOEFL クラスについては、Listening/SWE/Reading において B1 以上を達成する。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC・TOEFL に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクションで、約 60% 程度の主要な情報（登場人物の行動、場面の設定、話題の概要など）を理解することができる。 ③TOEIC・TOEFL に対応したリーディング力の向上 TOEIC・TOEFL で出題される文章の形式に慣れて約 60% 程度の要点を理解することができる。 ④自立的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を着実にこなし、主体的かつ計画的に学修に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の確認テストについてフィードバックをおこなう。課題、発表、総括テストについて、各自へのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	当該科目は習熟度別クラスであり、テキストについては第一回目の授業並びに教科書販売リストにおいて、各クラス別に指示する。 水 2 クラス 1・2・3 書名：TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年使用）、著者名：ヒロ前田、出版社：ALC、出版年：2017	ISBN	完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版 ISBN 9784757426221 完全攻略！完全攻略

	書名：TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年使用）、著者：ETS、出版社：IIBC、出版年：2019 水2 クラス①（TOEFL、一般学生＋留学生クラス、交換留学を希望する学生） 書名：完全攻略！TOEFL ITP テスト模試 4 回分 改訂版（通年使用）、著者名：ワーデン，ポール他、出版社：ALC、出版年：2022 書名：完全攻略！完全攻略 TOEFL ITP(R)テストリーディング（通年使用）、著者名：田中真紀子、出版社：ALC、出版年：2016 水2 クラス②（留学生クラス＋一般学生クラス） 書名：【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分（通年使用）、著者名：テッド 寺倉他、出版社：ALC、出版年： 2019			TOEFL ITP(R)テストリーディング ISBN 9784757426702 【別冊模試・音声 DL 付】TOEIC(R) L&R テスト「直前」模試 3 回分 ISBN 9784757433540 TOEIC(R) L&R テスト 至高の模試 600 問（通年）ISBN 9784757428997 TOEIC® Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック（通年）ISBN 9784906033560
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	60		
	その他の内容	レビュークイズ：20％ TOEIC®L & R（TOEFL クラスは TOEIC 或いは TOEFL 試験結果）：40％		
この科目の受講にあたって	授業中は、携帯電話、スマートフォン及び通信機能を持つ機器のアプリ使用は、一切禁止する（カバンの中にしまった状態）。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要、計画、成績評価についての説明。テキストの内容、学習方法の説明、また一部使用テキストが習熟度により違うため指定教材を説明する。	事後学修： ・至高の模試 TEST2 を初回授業内で説明する3回チャレンジ法の受験1回目のやり方で、時間制限内で受験する	4時間
第2回	対面	TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：品詞の見分け復習	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習	4時間
第3回	対面	語彙テスト①、TOEIC Part 1 自己学習法実践、文法：名詞、代名詞問題	事後学修： ・語彙のテスト指定範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 1 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第4回	対面	語彙テスト②、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：動詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第5回	対面	語彙テスト③、TOEIC Part 2 自己学習法実践、文法：形容詞、副詞問題	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙復習、Part 2 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	4時間
第6回	対面	語彙テスト④、TOEIC Part 3 自己学習法実践、文法：前置詞、接続詞	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業	4時間

			でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、文法テキスト復習	
第7回	対面	語彙テスト⑤、TOEIC Part 3 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 3 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第8回	対面	語彙テスト⑥、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 5 文法問題強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 5 復習	4 時間
第9回	対面	語彙テスト⑦、TOEIC Part 4 自己学習法実践、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第10回	対面	語彙テスト⑧、リスニング全般強化、Part 6/7 読解力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセッション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 6/7 復習	4 時間
第11回	対面	語彙テスト⑨、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、リスニングセッション 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第12回	対面	語彙テスト⑩、リスニング力全般強化、Part 7 速読力強化	事後学修： ・語彙のテスト範囲学習、至高の模試テキストの授業でカバーした範囲の語彙学習、Part 4 指定の箇所を自己学習法で練習、Part 7 復習	4 時間
第13回	対面	リスニングのまとめ	事後学修： ・TEST 2 リスニングセッション の総復習	4 時間
第14回	対面	リーディングのまとめ、レビュークイズ	事後学修： ・TEST 2 リーディングセッションの総復習	4 時間
第15回	オンデマンド	学習の総まとめ	事後学修： ・至高の模試 TEST 2 の3回チャレンジ法の受験3回目のやり方で、制限時間内で受験する、間違えた問題を復習する	4 時間

科目名	Exam Prep. V	開講年度	2026 年度春学期
担当者	三戸 康世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 550 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス 1：TOEIC 500 点以上 クラス 2：TOEIC 400 点以上 クラス 3：TOEIC 350 点以上 クラス 4：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 550 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70% 程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メール、簡易な報告書など）の形式に慣れ、比較的短めの文書（シングルパッセージ）の趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 60% 程度の詳細情報（依頼内容、背景にある状況、重要なキーワードや条件）を的確に読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラス 1～4 共通 TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ – Intermediate – 吉塚 弘 / Graham Skerrett / Michael Schauerte 共著 出版社：成美堂 出版年：2022 年	ISBN	9784791972531

参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	Listening Part 2 疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）	4 時間

			と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	
第 10 回	対面	Reading Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第 11 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 12 回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 13 回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ・トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 14 回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第 15 回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (4 時間程度)	4 時間

科目名	Exam Prep. V	開講年度	2026 年度春学期
担当者	国兼 慶	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 550 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス 1：TOEIC 500 点以上 クラス 2：TOEIC 400 点以上 クラス 3：TOEIC 350 点以上 クラス 4：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 550 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70% 程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メール、簡易な報告書など）の形式に慣れ、比較的短めの文書（シングルパッセージ）の趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 60% 程度の詳細情報（依頼内容、背景にある状況、重要なキーワードや条件）を的確に読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス 1～4 共通 TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ – Intermediate – 吉塚 弘 / Graham Skerriott / Michael Schauerte 共著 出版社：成美堂 出版年：2022 年	ISBN	9784791972531
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	Listening Part 2 疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間

第10回	対面	Reading Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第11回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ・トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第14回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. V	開講年度	2026 年度春学期
担当者	三戸 康世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 550 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス 1：TOEIC 500 点以上 クラス 2：TOEIC 400 点以上 クラス 3：TOEIC 350 点以上 クラス 4：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 550 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70% 程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メール、簡易な報告書など）の形式に慣れ、比較的短めの文書（シングルパッセージ）の趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 60% 程度の詳細情報（依頼内容、背景にある状況、重要なキーワードや条件）を的確に読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラス 1～4 共通 TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ – Intermediate – 吉塚 弘 / Graham Skerrett / Michael Schauerte 共著 出版社：成美堂 出版年：2022 年	ISBN	9784791972531

参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	Listening Part 2 疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）	4 時間

			と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	
第 10 回	対面	Reading Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第 11 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 12 回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 13 回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ・トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 14 回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第 15 回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (4 時間程度)	4 時間

科目名	Exam Prep. V	開講年度	2026 年度春学期
担当者	国兼 慶	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 550 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス 1：TOEIC 500 点以上 クラス 2：TOEIC 400 点以上 クラス 3：TOEIC 350 点以上 クラス 4：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 550 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70% 程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告や E メール、簡易な報告書など）の形式に慣れ、比較的短めの文書（シングルパッセージ）の趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 60% 程度の詳細情報（依頼内容、背景にある状況、重要なキーワードや条件）を的確に読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス 1～4 共通 TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ – Intermediate – 吉塚 弘 / Graham Skeritt / Michael Schauerte 共著 出版社：成美堂 出版年：2022 年	ISBN	9784791972531
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	Listening Part 2 疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間

2026/05/01

第10回	対面	Reading Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第11回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ・トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第14回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. VI	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	三戸 康世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 600 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	<国際学部生>受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス 1：TOEIC 500 点以上 クラス 2：TOEIC 400 点以上 クラス 3：TOEIC 350 点以上 クラス 4：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 600 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告、Eメール、ビジネス通知、簡易なレポートなど）の形式に慣れ、比較的長めのシングルパッセージや短めのダブルパッセージにおいて、趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（細かな条件、登場人物や組織の役割、示唆される背景事情）を正しく読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラス 1～4 共通 TOEIC® L&R TEST 600 点への徹底演習 COMPREHENSIVE PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST Jonathan Lynch / 委文 光太郎 共著 出版社：成美堂 出版年：2025 年	ISBN	9784791973149

参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	Listening Part 2 疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）	4 時間

			と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	
第 1 0 回	対面	Reading Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第 1 1 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 1 2 回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 1 3 回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ・トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 1 4 回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (4 時間程度)	4 時間

科目名	Exam Prep. VI	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	国兼 慶	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 600 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	<国際学部生> 受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス 1：TOEIC 500 点以上 クラス 2：TOEIC 400 点以上 クラス 3：TOEIC 350 点以上 クラス 4：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 600 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80% 以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70% 程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告、E メール、ビジネス通知、簡易なレポートなど）の形式に慣れ、比較的長めのシングルパッセージや短めのダブルパッセージにおいて、趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 70% 程度の詳細情報（細かな条件、登場人物や組織の役割、示唆される背景事情）を正しく読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス 1～4 共通 TOEIC® L&R TEST 600 点への徹底演習 COMPREHENSIVE PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST Jonathan Lynch / 委文 光太郎 共著 出版社：成美堂 出版年：2025 年	ISBN	9784791973149
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	Listening Part 2 疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間

2026/05/01

第10回	対面	Reading Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第11回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ・トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第14回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	Exam Prep. VI	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	三戸 康世	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 600 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	<国際学部生>受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス 1：TOEIC 500 点以上 クラス 2：TOEIC 400 点以上 クラス 3：TOEIC 350 点以上 クラス 4：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 600 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告、Eメール、ビジネス通知、簡易なレポートなど）の形式に慣れ、比較的長めのシングルパッセージや短めのダブルパッセージにおいて、趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（細かな条件、登場人物や組織の役割、示唆される背景事情）を正しく読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラス 1～4 共通 TOEIC® L&R TEST 600 点への徹底演習 COMPREHENSIVE PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST Jonathan Lynch / 委文 光太郎 共著 出版社：成美堂 出版年：2025 年	ISBN	9784791973149

参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40	
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	Listening Part 2 疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度）	4 時間

			と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	
第 10 回	対面	Reading Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第 11 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 12 回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 13 回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ・トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (2 時間程度) と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習 (2 時間程度)	4 時間
第 14 回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習 (4 時間程度)	4 時間
第 15 回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習 (4 時間程度)	4 時間

科目名	Exam Prep. VI	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	国兼 慶	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語運用能力の基礎を固め、TOEIC®L&R のスコアの向上を目指す。		
授業の目的及び概要	本科目は、英語 4 技能を総合的に強化し、TOEIC® L&R テストで 600 点以上のスコア取得を目標とします。授業では、スコア向上に不可欠な語彙や文法事項を着実に定着させるとともに、読解力・聴解力を重点的に強化します。さらに、ライティングやスピーキングなどのアウトプット練習を通して、実践的な英語運用能力を養います。		
履修条件・留意点	<国際学部生>受講生の過去の TOEIC L&R スコアを基にクラス分けを行い、事前登録を行います。習熟度別クラスとなっているため、事前登録がなく本項目の履修を希望する学生は下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 <経済・経営・法学部生> 各クラス数名程度の枠内で履修登録が可能です。本項目の履修希望する学生は、下記の TOEIC スコアの目安を参考に、自身の英語レベルに合ったクラスを選択して履修してください。 ◆クラス分け：TOEIC スコアの目安 クラス 1：TOEIC 500 点以上 クラス 2：TOEIC 400 点以上 クラス 3：TOEIC 350 点以上 クラス 4：TOEIC 350 点未満		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①～④への取り組みを通じて、TOEIC L&R スコア 600 点以上を目指す。 ①語彙力と文法力の強化 小テスト（TOEIC 頻出単語）において、毎回 80%以上の正答率を達成する。 ②TOEIC に対応したリスニング力の向上 TOEIC リスニングセクション（Part 1-4）を通じて、話題の概要や主要なポイントを確実に捉えた上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（登場人物同士の関係性、会話の背景、解決策や提案事項など）を的確に理解し、複雑なやり取りやスピーチからも大意を逃さず把握できる。 ③TOEIC に対応したリーディング力の向上 TOEIC で出題されるビジネス文書（広告、Eメール、ビジネス通知、簡易なレポートなど）の形式に慣れ、比較的長めのシングルパッセージや短めのダブルパッセージにおいて、趣旨や要点を把握した上で、そのうち約 70%程度の詳細情報（細かな条件、登場人物や組織の役割、示唆される背景事情）を正しく読み取れるようにします。 ④自律的な学修 必ず目標スコアを達成するという強い目的意識を持ち、課題を確実にこなし、主体的かつ計画的に学習に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラス 1～4 共通 TOEIC® L&R TEST 600 点への徹底演習 COMPREHENSIVE PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST Jonathan Lynch / 委文 光太郎 共著 出版社：成美堂 出版年：2025 年	ISBN	9784791973149
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	統括テスト(各学期に実施される TOEIC IP)：40
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、TOEIC スコアの向上および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業概要・課題説明 目標スコア到達に必要な TOEIC 学習法ガイダンス 本科目は習熟度別クラスで構成され、クラスごとに学修範囲が異なります。そのため、具体的な授業計画や学修方法については、初回授業で各クラスに応じて説明します。本シラバスに記載した内容は、あくまで全クラスに共通するおおよその概要です。	事後学修： ・語彙、文法、読解、リスニングの予習（4 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	Listening Part 2 疑問詞を使った疑問文	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 3 回	対面	Listening Part 3 日常場面での会話	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 4 回	対面	Listening Part 4 アナウンス・ツアー	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 5 回	対面	Listening Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第 6 回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 7 回	対面	Reading Part 5 文法語彙語法問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 8 回	対面	Reading Part 5 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第 9 回	対面	Reading Part 6 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間

2026/05/01

第10回	対面	Reading Part 7 広告・社内文書	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第11回	対面	TOEIC Mini Quiz Feedback of the Quiz	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） 次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第12回	対面	Reading Part 7 手紙・メール・チャット問題	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第13回	対面	Reading Part 7 ダブルパッセージ・トリプルパッセージ対策	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（2 時間程度） と次回授業の語彙、文法、読解、リスニングの予習（2 時間程度）	4 時間
第14回	対面	Reading Section 総合演習	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの総復習（4 時間程度）	4 時間
第15回	オンデマンド	TOEIC Mini Test Review	事後学修： 語彙、文法、読解、リスニングの復習（4 時間程度）	4 時間

科目名	World Englishes for Current Affairs II < Current World Events II >	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岡村 徹	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きているホットなニュースを英語で学ぶことで語彙力や文法力を向上させ、アカデミックイングリッシュを理解し、発信する力を身に付けるとともに、英語報道の切り口から国際感覚を身に付ける。		
授業の目的及び概要	この科目は、主にマスメディアによって発信されている英語ニュースをリアルタイムで学ぶことで、正確な英語の読解力や聴解力を身につけます。メディアで使われる語彙や言い回し、語法などを学ぶことで、アカデミックイングリッシュスキルの向上を目指します。また、卒業論文執筆の際に英語の論文や記事を先行研究として購読するために必要な基礎的素養も身につけていきます。授業では、様々な分野のニュースを購読・視聴することで、専門知識や論理的思考力の高度化を図るとともに、幅広い視野を育みます。リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解、発信、議論する力を身につけ、英語の総合的運用能力を高めながら、グローバルな視点を滋養し、世界で起こる事象について考察していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	アカデミックイングリッシュスキルの向上並びに国際社会への理解を深めるため、この科目の目標は語彙・長文・アウトプット・内容理解に関してそれぞれ以下の通り設定しています。 【語彙】 1. 授業で扱った語彙や表現の意味を理解し、正しく発音することができる。 【長文】 1. 辞書を使えば、英語ニュースの記事を読むことができる。 【アウトプット】 1. CD や教員の発話を参考に、英語ニュースを正しく、英語らしく読むことができる。 2. 興味のあるニュースについて調査を行い、英語でスライドにまとめプレゼンテーションを行うことができる。 3. 興味のあるニュースについて、自身の考えを英語でレポートにまとめることができる。 4. 英語による報道内容の概要／趣旨を掴み、英語で他者に説明することができる。 【内容理解】 1. 国際社会の問題について自らの意見を述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。 学生によるプレゼンテーションは、採点した上で、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Reuters Global News Feed、小林敏彦・Bill Benfield、成美堂、2025	ISBN	9784791973118
参考書	なし	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	40	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界では今何が起きて、どのようなことが注目されているでしょうか。皆さんが興味のあるニュースは何ですか。 この授業では、様々なニュースに触れ、考えていきます。ご自身の興味・関心のある分野についての知識を深め、これからの学修につなげてください。 メディアで使われるアカデミックイングリッシュを学ぶことは、皆さんの英語を1段階レベルアップさせてくれるだけでなく、英語の資格試験にも大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【予習】 シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	1時間
第2回	対面	Unit 1: Female Rickshaw Pullers Wow Tourists in Japan	【予習】 Unit 1の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 1の語彙・表現の復習 小テストの準備	4時間
第3回	対面	Unit 2: Tokyo's Trash-Picking Samurais Keep Streets Clean	【予習】 Unit 2の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 2の語彙・表現の復習 小テストの準備	4時間
第4回	対面	Unit 3: Japan Says "Overtourism" Is Spoiling Mt. Fuji	【予習】 Unit 3の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 3の語彙・表現の復習 小テストの準備	4時間
第5回	対面	Unit 4: China Issues Rules to Curb Gaming Spend	【予習】 Unit 4の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 4の語彙・表現の復習 小テストの準備	4時間
第6回	対面	Unit 5: McDonald's Gets a Taste for China Growth	【予習】 Unit 5の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 5の語彙・表現の復習 小テストの準備	4時間
第7回	対面	中間発表会の実施及び講評	【予習】 中間発表会に向けた準備 【復習】 中間発表の振り返り（ミニレポートの作成）	4時間

第8回	対面	Unit 7: Customers Nap While Standing at a Tokyo "Sleep Cafe"	【予習】 Unit 7 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 7 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第9回	対面	Unit 8: AI-Powered Facial Recognition System Reads Vital Signs	【予習】 Unit 8 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 8 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第10回	対面	Unit 9: Inside Gym Classes in the Metaverse	【予習】 Unit 9 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 9 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第11回	対面	Unit 12: World's First Liquid Hydrogen-Powered Plane Unveiled	【予習】 Unit 12 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 12 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第12回	対面	Unit 14: Trafficked Wildlife Find Safe Haven at US Zoos	【予習】 Unit 14 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 14 の語彙・表現の復習 小テストの準備	6 時間
第13回	対面	期末発表会①の実施及び講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 期末発表の振り返り（期末レポートの作成）	4 時間
第14回	対面	期末発表会②及び最終レポートの講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 最終レポートの訂正	4 時間
第15回	オンデマンド	授業内容の振り返り及び最終レポート作成について	最終レポートの作成に向けて調査したことをまとめておく	6 時間

科目名	World Englishes for Current Affairs II < Current World Events II >	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木村 彩音	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きているホットなニュースを英語で学ぶことで語彙力や文法力を向上させ、アカデミックイングリッシュを理解し、発信する力を身に付けるとともに、英語報道の切り口から国際感覚を身に付ける。		
授業の目的及び概要	この科目は、主にマスメディアによって発信されている英語ニュースをリアルタイムで学ぶことで、正確な英語の読解力や聴解力を身につけます。メディアで使われる語彙や言い回し、語法などを学ぶことで、アカデミックイングリッシュスキルの向上を目指します。また、卒業論文執筆の際に英語の論文や記事を先行研究として購読するために必要な基礎的素養も身につけていきます。授業では、様々な分野のニュースを購読・視聴することで、専門知識や論理的思考力の高度化を図るとともに、幅広い視野を育みます。リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを通して理解、発信、議論する力を身につけ、英語の総合的運用能力を高めながら、グローバルな視点を滋養し、世界で起こる事象について考察していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	アカデミックイングリッシュスキルの向上並びに国際社会への理解を深めるため、この科目の目標は語彙・長文・アウトプット・内容理解に関してそれぞれ以下の通り設定しています。 【語彙】 1. 授業で扱った語彙や表現の意味を理解し、正しく発音することができる。 【長文】 1. 辞書を使えば、英語ニュースの記事を読むことができる。 【アウトプット】 1. CD や教員の発話を参考に、英語ニュースを正しく、英語らしく読むことができる。 2. 興味のあるニュースについて調査を行い、英語でスライドにまとめプレゼンテーションを行うことができる。 3. 興味のあるニュースについて、自身の考えを英語でレポートにまとめることができる。 4. 英語による報道内容の概要／趣旨を掴み、英語で他者に説明することができる。 【内容理解】 1. 国際社会の問題について自らの意見を述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。 学生により提出されるレポートは添削した上で返却します。 学生によるプレゼンテーションは、採点した上で、教員から講評を受けます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Reuters Global News Feed、小林敏彦・Bill Benfield、成美堂、2025	ISBN	9784791973118
参考書	なし	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	40	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	世界では今何が起きて、どのようなことが注目されているでしょうか。皆さんが興味のあるニュースは何ですか。 この授業では、様々なニュースに触れ、考えていきます。ご自身の興味・関心のある分野についての知識を深め、これからの学修につなげてください。 メディアで使われるアカデミックイングリッシュを学ぶことは、皆さんの英語を1段階レベルアップさせてくれるだけでなく、英語の資格試験にも大いに役立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【予習】 シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	1 時間
第2回	対面	Unit 1: Female Rickshaw Pullers Wow Tourists in Japan	【予習】 Unit 1 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 1 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第3回	対面	Unit 2: Tokyo's Trash-Picking Samurais Keep Streets Clean	【予習】 Unit 2 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 2 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第4回	対面	Unit 3: Japan Says "Overtourism" Is Spoiling Mt. Fuji	【予習】 Unit 3 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 3 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第5回	対面	Unit 4: China Issues Rules to Curb Gaming Spend	【予習】 Unit 4 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 4 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第6回	対面	Unit 5: McDonald's Gets a Taste for China Growth	【予習】 Unit 5 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 5 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第7回	対面	中間発表会の実施及び講評	【予習】 中間発表会に向けた準備 【復習】 中間発表の振り返り（ミニレポートの作成）	4 時間

第8回	対面	Unit 7: Customers Nap While Standing at a Tokyo "Sleep Cafe"	【予習】 Unit 7 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 7 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第9回	対面	Unit 8: AI-Powered Facial Recognition System Reads Vital Signs	【予習】 Unit 8 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 8 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第10回	対面	Unit 9: Inside Gym Classes in the Metaverse	【予習】 Unit 9 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 9 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第11回	対面	Unit 12: World's First Liquid Hydrogen-Powered Plane Unveiled	【予習】 Unit 12 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 12 の語彙・表現の復習 小テストの準備	4 時間
第12回	対面	Unit 14: Trafficked Wildlife Find Safe Haven at US Zoos	【予習】 Unit 14 の語彙や表現について分からないものをまとめておく 【復習】 Unit 14 の語彙・表現の復習 小テストの準備	6 時間
第13回	対面	期末発表会①の実施及び講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 期末発表の振り返り（期末レポートの作成）	4 時間
第14回	対面	期末発表会②及び最終レポートの講評	【予習】 期末発表会に向けた準備 【復習】 最終レポートの訂正	4 時間
第15回	オンデマンド	授業内容の振り返り及び最終レポート作成について	最終レポートの作成に向けて調査したことをまとめておく	6 時間

科目名	Readings for International Studies I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	木村 彩音		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際学に関する学術的な文献を読み解き、アカデミックイングリッシュを身に付ける			
授業の目的及び概要	国際学に関する諸領域の基礎資料となる国連決議、経済白書、学術論文等を英語で正確に読み解いていきます。英語で書かれた様々な学術的文書を扱うことで、アカデミックイングリッシュ力を向上させ、自身の専門領域に関する知識の深化に向けて、幅広い参考資料を利用できるようになることを目的とします。授業では文献講読に加え、英語で書かれた学術文書の探し方や基本的な論理の組み立てられ方についても学ぶとともに、ジェネラルイングリッシュと比較しながらどのような語彙や言い回しが使われているのかについても考え、アカデミックイングリッシュ独特の表現方法を身に付けていきます。			
履修条件・留意点	本クラスは TOEIC スコア 500 以下の人を対象としています。500 点以上の場合は同科目の上のクラス（玉水先生）を履修してください。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・学術的文書で使われる基本的な語彙や言い回しを理解することができる ・自身の関心があるトピックに関する英語で書かれた学術的文書を探することができる ・辞書などを用いれば、英語で書かれた学術的文書を読み解くことができる ・英語で書かれた学術的文書の内容を要約することができる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回、授業後に Reflection Sheet を記入し提出。翌週の授業冒頭で共有し、質問への回答や補足説明を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	国際情勢を考える 国連ニュースで読む世界 From the UN News Centre, 武藤克彦他, 三修社、2015 年		ISBN	978-4-384-33450-0
参考書	資料は適宜、配布します。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		90	
この科目の受講にあたって	その他の内容		授業専用ノートの提出（10%×4 回） 中間レビュークイズ・期末レビュークイズ（25%×2 回）	
	この授業では専用ノートを一冊用意し、毎回新しい用語を自分の語彙リストに書き込むこと、また毎回授業のメモをノートに書く事が求められます。授業内では英語による積極的な参加が求められます。しっかりとした準備が必要となりますが、間違いを恐れず、ディスカッションに活発に参加してください。 授業中スマートフォンの使用は禁止です。許可なく使用していると、クラスから退席することになります。 盗用・剽窃、また、オンライン/自動翻訳の使用は固く禁止されています。			

また受講者の構成などによって授業計画は授業を進める中で変更される事があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション	○事前学修 ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の1-9頁を読んでおく。 ○事後学修 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 ・第1回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第2回	対面	Unit 1 Peace and Security 一平和・安全保障一 Part A: 国連ニュースを読む Security Council, senior UN officials say conflict parties must respect, protect civilians 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の11-12頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の10-13頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第2回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第3回	対面	Unit 1 Peace and Security 一平和・安全保障一 Part B: The Japan Times を読む New map shines light on Tokyo air raid horrors: Scholars record wartime history politicians would rather forget 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の14-15頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の14-17頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第3回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第4回	対面	Unit 2 Economic Development 一経済開発一 Part A: 国連ニュースを読む Illicit financial outflows from Africa crippling continent's development - UN 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の19-20頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の18-21頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第4回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第5回	対面	Unit 2 Economic Development 一経済開発一 Part B: The Japan Times を読む Britain to target multinationals evading tax	○事前学修 ・教科書の22-23頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。	4時間

		ax 語彙テスト ●第1回授業専用ノートの提出 (第2回～第4回授業)	・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の22-25頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第5回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第6回	対面	Unit 3 Humanitarian Aid 一人道支援— Part A: 国連ニュースを読む Philippines: UN humanitarian chief urges donors to increase aid for typhoon recovery 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の27-28頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の26-29頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第6回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第7回	対面	中間レビュークイズ	○事前学修 ・中間レビュークイズに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・中間レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4時間
第8回	対面	Unit 3 Humanitarian Aid 一人道支援— Part B: The Japan Times を読む North aid contingent on abductees ●第2回授業専用ノートの提出 (第5回～第7回授業)	○事前学修 ・教科書の30-31頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の30-33頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第8回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第9回	対面	Unit 4 Environment 一環境— Part A: 国連ニュースを読む Former New York Mayor Bloomberg named Ban's envoy for cities and climate change 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の35頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の34-37頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第9回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第10回	対面	Unit 4 Environment 一環境— Part B: The Japan Times を読む emissions but hoards credits Tokyo cuts CO2	○事前学修 ・教科書の38-39頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。	4時間

		語彙テスト	・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の 38-41 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第 1 1 回	対面	Unit 5 Human Rights 一人権ー Part A: 国連ニュースを読む report e licits concern from senior UN Officia ls DPR Korea human rights ●第 3 回授業専用ノートの提出 (第 8 回～第 10 回授業)	○事前学修 ・教科書の 43-44 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の 42-45 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第 1 2 回	対面	Unit 5 Human Rights 一人権ー Part B: The Japan Times を読む educa tion Malala's fight for girls' educat ion 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の 46-47 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の 46-49 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第 1 3 回	対面	「国連ニュース」を読む	○事前学修 ・UN News (https://www.un.org/en/) を閲覧しておく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ○事後学修 ・興味のある国連ニュースを選び、読んで内容を理解する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第 1 4 回	対面	期末レビュークイズ ●第 4 回授業専用ノートの提出 (第 11 回～第 13 回授業)	○事前学修 ・期末レビュークイズに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・期末レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	総復習	授業のまとめ ○事前学修 ・第 2 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第 2 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。	4 時間

2026/05/01

			○事後学修 ・ 第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・ 授業で得た知識を確認する。	

科目名	Readings for International Studies I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	玉水 玲央		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際学に関する学術的な文献を読み解き、アカデミックイングリッシュを身に付ける			
授業の目的及び概要	国際学に関する諸領域の基礎資料となる国連決議、経済白書、学術論文等を英語で正確に読み解いていきます。英語で書かれた様々な学術的文書を扱うことで、アカデミックイングリッシュ力を向上させ、自身の専門領域に関する知識の深化に向けて、幅広い参考資料を利用できるようになることを目的とします。授業では文献講読に加え、英語で書かれた学術文書の探し方や基本的な論理の組み立てられ方についても学びとともに、ジェネラルイングリッシュと比較しながらどのような語彙や言い回しが使われているのかについても考え、アカデミックイングリッシュ独特の表現方法を身に付けていきます。			
履修条件・留意点	毎回、まとまった分量の英文を読み込むことが求められるほか、授業での使用言語は主に英語です（適宜日本語も用います）。 そのため履修には TOEIC スコア 500 点以上の英語力があることが望ましいです。スコアが 500 点に満たない場合は、木村彩音先生の同名クラスを履修してください。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・学術的文書で使われる基本的な語彙や言い回しを理解することができる ・自身の関心があるトピックに関する英語で書かれた学術的文書を探ることができる ・辞書などを用いれば、英語で書かれた学術的文書を読み解くことができる ・英語で書かれた学術的文書の内容を要約することができる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回、授業後に Reflection Sheet を記入し提出。翌週の授業冒頭で共有し、質問への回答や補足説明を行う。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Jeffry A. Frieden, David A. Lake, & Kenneth A. Schultz, World Politics: Interests, Interactions, Institutions (5th edition). (New York, NY: W. W. Norton & Co Inc, 2021). 以下、筆者のイニシャルを取り” FLS” と表現する。		ISBN	978-0393872231
参考書	資料は適宜、配布します。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		90	
	その他の内容		授業専用ノートの提出（10%×4 回） 中間レビュークイズ・期末レビュークイズ（25%×2 回）	
この科目の受講にあたって	授業内ではテキストを使用し、英語で書かれた学術的文書を読んでいます。難しい語彙が多く出てくるため、専用ノートを一冊用意し、毎回新しい用語を自分の語彙リストに書き込むこ			

	と、また毎回授業のメモをノートに書く事が求められます。授業内では英語による積極的な参加が求められます。しっかりとした準備が必要となりますが、間違いを恐れず、ディスカッションに活発に参加してください。 授業中スマートフォンの使用は禁止です。許可なく使用していると、クラスから退席することになります。 盗用・剽窃、また、オンライン/自動翻訳の使用は固く禁止されています。 また受講者の構成などによって授業計画は授業を進める中で変更される事があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Introduction to the course 科目の紹介	【予習】 ・シラバスを読んでおくこと。 ・FLS "Introduction" を読んでおく。 【復習】 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第2回	対面	現代世界の成り立ち（1）	【予習】 ・FLS, Chapter 1, pp. 1-23 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第3回	対面	現代世界の成り立ち（2）	【予習】 ・FLS, Chapter 1, pp. 23-39 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第4回	対面	利益、相互作用、制度（1） ●第1回授業専用ノートの提出 第1～3回目の授業までに学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。 また、次の質問について自身の考えを加えておくこと。 To what extent is world politics anarchical?	【予習】 ・FLS, Chapter 2, pp. 42-65 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第5回	対面	利益、相互作用、制度（2）	【予習】 ・FLS, Chapter 2, pp. 65-83 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。	4 時間

			・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第6回	対面	なぜ戦争は起きるのか？（１）－戦争と外交交渉－	【予習】 ・FLS, Chapter 3, pp. 92-107 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第7回	対面	Mid-semester review and quiz 第1回～6回：授業のまとめと振り返り。 ●第2回授業専用ノートの提出 第4～6回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。 また、次の質問について自身の考えを加えておくこと。 Why are wars avoidable? Explain based on the bargaining theory.	【予習】 ・第1回 - 第6回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・Chapter 1, Chapter 2, Chapter 3 (p.107 まで) を復習し、授業で得た知識を確認する。 【復習】 ・第7回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を復習する。 ・授業で得た知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	なぜ戦争は起こるのか（２）－戦争と情報の非対称性－	【予習】 ・FLS, Chapter 3, pp. 107-120 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第9回	対面	なぜ戦争は起こるのか（３）－戦争とコミットメント問題－	【予習】 ・FLS, Chapter 3, pp. 120-132 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第10回	対面	なぜ戦争は起こるのか（４）－戦争と財の分割不可能性－	【予習】 ・FLS, Chapter 3, pp. 132-160 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業に授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第11回	対面	国内政治と戦争（１）－戦争と政治リーダーの人気－	【予習】 ・FLS, Chapter 4, pp. 144-162 を読んでおく。	4 時間

		●第3回授業専用ノートの提出 第7-10回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノート提出しなければなりません。 また、次の質問について自身の考えを加えておくこと。 Explain why wars occur by explicitly drawing the diagram of the bargaining theory.	・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第12回	対面	国内政治と戦争(2)ー戦争と国内政治アクターの利益拡大ー ●第4回授業専用ノートの提出 第11回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノート提出しなければなりません。 また、次の質問について自身の考えを加えておくこと。 Why do political leaders who face domestic unpopularity sometimes want to initiate wars?	【予習】 ・FLS, Chapter 4, pp. 162-175 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第13回	対面	国内政治と戦争(3)ーデモクラティック・ピースー	【予習】 ・FLS, Chapter 4, pp. 175-191 を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・読んだ部分を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・今回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第14回	オンデマンド	授業内容の総復習	【予習】 ・第6回～第13回までに出てきた理論と概念(とくに交渉理論)を復習しておく。 【復習】 ・第5回～第13回までに出てきた内容を今回の授業に合わせて復習しておく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第15回	対面	Review for the End-of-Semester quiz 第8回 - 第13回までの授業のまとめと振り返り。	授業のまとめ 【予習】 ・第8回から第13回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第8回から第13回までの語彙リストを復習する。 【復習】 ・第15回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。	4 時間

科目名	Readings for International Studies II		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木村 彩音		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際学に関する学術的な文献を読み解き、アカデミックイングリッシュを身に付ける			
授業の目的及び概要	この授業は春学期に引き続き、国際学に関する諸領域の基礎資料となる国連決議、経済白書、学術論文等を英語で正確に読み解いていきます。英語で書かれた様々な学術的文書を扱うことで、アカデミックイングリッシュ力を向上させ、自身の専門領域に関する知識の深化に向けて、幅広い参考資料を利用できるようになることを目的とします。授業では文献講読に加え、英語で書かれた学術文書の探し方や基本的な論理の組み立てられ方についても学ぶとともに、ジェネラルイングリッシュと比較しながらどのような語彙や言い回しが使われているのかについても考え、アカデミックイングリッシュ独特の表現方法を身に付けていきます。 ※「Readings for International Studies I」を履修していることが望ましい。			
履修条件・留意点	本クラスは TOEIC スコア 500 以下の人を対象としています。500 点以上の場合は同科目の上のクラス（玉水先生）を履修してください。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・学術的文書で使われる基本的な語彙や言い回しを理解することができる ・自身の関心があるトピックに関する英語で書かれた学術的文書を探ることができる ・辞書などを用いれば、英語で書かれた学術的文書を読み解くことができる ・英語で書かれた学術的文書の内容を要約することができる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回、授業後に Reflection Sheet を記入し提出。翌週の授業冒頭で共有し、質問への回答や補足説明を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	国際情勢を考える 国連ニュースで読む世界 From the UN News Centre, 武藤克彦他 三修社, 2015 年		ISBN	978-4-384-33450-0
参考書	資料は適宜、配布します。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		90	
この科目の受講にあたって	その他の内容		授業専用ノートの提出（10%×4 回） 中間レビュークイズ・期末レビュークイズ（25%×2 回）	
	この授業では専用ノートを一冊用意し、毎回新しい用語を自分の語彙リストに書き込むこと、また毎回授業のメモをノートに書く事が求められます。授業内では英語による積極的な参加が求められます。しっかりとした準備が必要となりますが、間違いを恐れず、ディスカッションに活発に参加してください。 授業中スマートフォンの使用は禁止です。許可なく使用していると、クラスから退席することになります。			

盗用・剽窃、また、オンライン/自動翻訳の使用は固く禁止されています。
受講生の構成などによって、授業計画は授業を進める中で変更される事があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション	○事前学修 ・シラバスを読んでおくこと。 ・教科書の1-9頁を読んでおく。 ○事後学修 ・シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 ・第1回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第2回	対面	Unit 6 UN Affairs, Secretary-General 一国連活動・国連事務総長— Part A: 国連ニュースを読む Launching scientific advisory board, Ban urges bridging gap between science, policy 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の51-52頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の50-53頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第2回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第3回	対面	Unit 6 UN Affairs, Secretary-General 一国連活動・国連事務総長— Part B: The Japan Timesを読む Tepc o tech chief disputes Abe's 'under co ntrol' assertion 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の54-55頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の54-57頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第3回授業の自分のメモを完成させて復習 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第4回	対面	Unit 7 Women, Children, Population — 女性・子ども・人口— Part A: 国連ニュースを読む Ban pled ges UN commitment to advancing gender equality, women's empowerment 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の59-60頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の58-61頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第4回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4時間
第5回	対面	Unit 7 Women, Children, Population — 女性・子ども・人口— Part B: The Japan Times Eat Hiring mo	○事前学修 ・教科書の62-63頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き	4時間

		re women seen as answer to economic m alaise: 'Womenomics' pushed as fix fo r population woes 語彙テスト ●第1回授業専用ノートの提出 (第2回～第4回授業)	込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の62-65頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第5回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第6回	対面	Unit 8 Law, Crime Prevention ー法律・ 犯罪防止ー Part A: 国連ニュースを読む New UN ca mpaign spotlights links between organ ized crime and counterfeit goods 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の67-68頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の66-69頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第6回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第7回	対面	中間レビュークイズ	○事前学修 ・中間レビュークイズに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・中間レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第8回	対面	Unit 8 Law, Crime Prevention ー法律・ 犯罪防止ー Part B: The Japan Times を読む Afgha n opium output soars to record: UNODC ●第2回授業専用ノートの提出 (第5回～第7回授業)	○事前学修 ・教科書の70-71頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の70-73頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第8回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第9回	対面	Unit 9 Health ー健康・医療ー Part A: 国連ニュースを読む On World Diabetes Day, Ban urges greater acces s to healthy foods, physical activity 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の75頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の74-77頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第9回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第10回	対面	Unit 9 Health ー健康・医療ー Part B: The Japan Times を読む yoga shown to slow cell aging Veggie-heav	○事前学修 ・教科書の78-79頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き	4 時間

		y diet and 語彙テスト	込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の 78-81 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第 1 1 回	対面	Unit 10 Culture, Education 一文化・教育一 Part A: 国連ニュースを読む On International Day, UN urges support for 'Mother Languages', linguistic diversity 語彙テスト ●第 3 回授業専用ノートの提出 (第 8 回～第 10 回授業)	○事前学修 ・教科書の 83-84 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の 82-85 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第 1 2 回	対面	Unit 10 Culture, Education 一文化・教育一 Part B: The Japan Times を読む English-language education proposal has French up in arms 語彙テスト	○事前学修 ・教科書の 86-87 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・語彙テストに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・教科書の 86-89 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第 1 3 回	対面	「国連ニュース」を読む	○事前学修 ・UN News (https://www.un.org/en/) を閲覧しておく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ○事後学修 ・興味のある国連ニュースを選び、読んで内容を理解する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第 1 4 回	対面	期末レビュークイズ ●第 4 回授業専用ノートの提出 (第 11 回～第 13 回授業)	○事前学修 ・期末レビュークイズに向けた学修を行う。 ○事後学修 ・期末レビュークイズで分からなかったことを授業専用ノートにまとめておく。	4 時間
第 1 5 回	オンデマンド	総復習	○事前学修 ・第 2 回から第 14 回まで授業の自分のメモを復習する。	4 時間

2026/05/01

			・ 第 2 回から第 14 回までの語彙リストを復習する。 ○事後学修 ・ 第 15 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・ 授業で得た知識を確認する。	

科目名	Readings for International Studies II		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	玉水 玲央		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際学に関する学術的な文献を読み解き、アカデミックイングリッシュを身に付ける			
授業の目的及び概要	この授業は春学期に引き続き、国際学に関する諸領域の基礎資料となる国連決議、経済白書、学術論文等を英語で正確に読み解いていきます。英語で書かれた様々な学術的文書を扱うことで、アカデミックイングリッシュ力を向上させ、自身の専門領域に関する知識の深化に向けて、幅広い参考資料を利用できるようになることを目的とします。授業では文献講読に加え、英語で書かれた学術文書の探し方や基本的な論理の組み立てられ方についても学ぶとともに、ジェネラルイングリッシュと比較しながらどのような語彙や言い回しが使われているのかについても考え、アカデミックイングリッシュ独特の表現方法を身に付けていきます。 ※「Readings for International Studies I」を履修していることが望ましい。			
履修条件・留意点	毎回、まとまった分量の英文を読み込むことが求められるほか、授業での使用言語は主に英語です（適宜日本語も用います）。そのため履修には TOEIC スコア 500 程度の英語力があることが望ましいです。 ※TOEIC スコアが 500 点に満たない受講者は木村先生による Readings for International Studies II ①を履修すること。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・学術的文書で使われる基本的な語彙や言い回しを理解することができる ・自身の関心があるトピックに関する英語で書かれた学術的文書を探ることができる ・辞書などを用いれば、英語で書かれた学術的文書を読み解くことができる ・英語で書かれた学術的文書の内容を要約することができる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回、授業後に Reflection Sheet を記入し提出。翌週の授業冒頭で共有し、質問への回答や補足説明を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Jeffry Frieden, David Lake, and Kenneth Schultz, World Politics 5th edition, (W.W. Norton, 2021).		ISBN	978-0393872231
参考書	資料は適宜、配布します。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		90	
	その他の内容		授業専用ノートの提出（10％×4 回） 中間レビュークイズ・期末レビュークイズ（25％×2 回）	
この科目の受講にあたって	授業内ではテキストを使用し、英語で書かれた学術的文書を読んでいきます。難しい語彙が多く出てくるため、専用ノートを一冊用意し、毎回新しい用語を自分の語彙リストに書き込むこと、また毎回授業のメモをノートに書く事が求められます。授業内では英語による積極的な参			

	加が求められます。しっかりとした準備が必要となりますが、間違いを恐れず、ディスカッションに活発に参加してください。 授業中スマートフォンの使用は禁止です。許可なく使用していると、クラスから退席することになります。 盗用・剽窃、また、オンライン/自動翻訳の使用は固く禁止されています。 受講生の構成などによって、授業計画は授業を進める中で変更される事があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	国際制度と戦争（1）	【予習】 - 教科書の 189-204 頁を読んでおく。 【復習】 - シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認しておくこと。 - 教科書の 189-204 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 - 第1回授業の自分のメモを完成させて復習する。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 - 授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第2回	対面	国際制度と戦争（2）	【予習】 - 教科書の 205-233 頁を読んでおく。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 - 教科書の 205-233 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 - 第2回授業の自分のメモを完成させて復習する。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 - 授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第3回	対面	非国家主体による暴力：内戦とテロリズム（1）	【予習】 - 教科書の 239-268 頁を読んでおく。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 - 教科書の 239-268 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 - 第3回授業の自分のメモを完成させて復習する。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 - 授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第4回	対面	非国家主体による暴力：内戦とテロリズム（2）	【予習】 - 教科書の 268-291 頁を読んでおく。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 - 教科書の 78-81 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 - 第4回授業の自分のメモを完成させて復習する。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 - 授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間

第5回	対面	国際貿易（１） ●第１回授業専用ノートの提出 第１～４回目の授業までに学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。 また次の質問に対する自信の考えを記すこと。 Why do states form military alliances despite their potential costs?	【予習】 - 教科書の 297-311 頁を読んでおく。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 - 教科書の 297-311 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 - 第５回授業の自分のメモを完成させて復習する。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 - 授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第6回	対面	国際貿易（２）	【予習】 - 教科書の 324-330 頁を読んでおく。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 - 教科書の 324-330 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 - 第６回授業の自分のメモを完成させて復習する。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 - 授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第7回	対面	Mid-semester review and quiz 第１回 - 第６回：授業のまとめと振り返り。 ●第２回授業専用ノートの提出 第５・６回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。 また次の質問に関する自身の考えも述べること。 In a country where there is more capital but fewer unskilled laborers, who will win by trade liberalization?	【予習】 - 第１回 - 第６回授業の自分のメモを完成させて復習する。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストを完成させて復習する。 【復習】 - 第８回授業の自分のメモを完成させて復習する。 - 授業専用ノートに新しい用語を復習する。 - 授業で得た知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	グローバル政治経済（２）	【予習】 - 教科書の 90-93 頁を読んでおく。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 - 教科書の 90-93 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 - 第８回授業の自分のメモを完成させて復習する。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 - 授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第9回	対面	国際法と規範（１）	【予習】 - 教科書の 465-475 頁を読んでおく。 - 授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 - 教科書の 465-475 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 - 第９回授業の自分のメモを完成させて復習する。	4 時間

			・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	
第10回	対面	国際法と規範（2）	【予習】 ・教科書の 475-495 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 475-495 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 10 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第11回	対面	人権（1） ●第3回授業専用ノートの提出 第 8～11 回目の授業で学んだことや質問を書いた自分のノートを提出しなければなりません。 また、次の質問に関する自身の答えを述べる。 How do transnational advocacy networks influence state behaviors?	【予習】 ・教科書の 501-520 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 501-520 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 11 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第12回	対面	人権（2）	【予習】 ・教科書の 520-537 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 520-537 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 12 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第13回	対面	グローバルな貧困と富(1)	【予習】 ・教科書の 427-245 頁を読んでおく。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 【復習】 ・教科書の 427-245 頁を復習し、授業で得た知識を確認する。 ・第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストに書き込む。 ・授業専用ノートに次の授業で聞きたい質問を書き留めておく。	4 時間
第14回	対面	End-semester review and quiz 第 8 回 - 第 13 回: 授業のまとめと振り返り。 ●第4回授業専用ノートの提出 第 12・13 回目の授業で学んだことや質問	【予習】 ・第 8 回 - 第 13 回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を語彙リストを完成させて復習する。	4 時間

		を書いた自分のノートを提出しなければなりません。 また次の質問に対する自身の考えを述べること。 Why do states sign human rights agreements?	【復習】 ・第14回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業専用ノートに新しい用語を復習する。	
第15回	オンデマンド	Review for the End-semester quiz 第8回 - 第13回: 授業のまとめと振り返り。	授業のまとめ 【予習】 ・第8回から第13回まで授業の自分のメモを復習する。 ・第8回から第13回までの語彙リストを復習する。 【復習】 ・第15回授業の自分のメモを完成させて復習する。 ・授業で得た知識を確認する。	4時間

科目名	Business Communication I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	オコン・オーリック	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	就職面接を想定した実践的ビジネス英語と職業的態度の習得		
授業の目的及び概要	本授業は、就職後の職場を想定し、新入社員として求められる英語による実践的なコミュニケーション能力と職業的行動を育成することを目的とします。後期では、業務上の報告・連絡・相談、依頼や確認、問題発生時の対応など、職場で実際に直面する場面を主な学習対象とします。特に、日本の職場に特徴的な先輩・後輩関係や上下関係を踏まえ、相手や状況に応じた言葉遣い、態度、距離感を意識したコミュニケーションを重視します。本授業は、英語を流暢に話すことを目的とするものではなく、英語による指示ややり取りを理解し、職場の一員として適切に対応しようとする基礎力と判断力を養うことを目的とします。また、本授業は引き続きビジネス環境を模した授業運営を行い、出席、時間厳守、言葉遣い、態度、指示遵守といった行動面を重視します。これらは職場において不可欠な要素であり、学生は「学生」ではなく「新入社員」として行動することが求められます。本授業を通じて、学生は英語表現や知識に加え、職場における人間関係への理解、適切な対応力、自己調整力、責任ある行動姿勢を身につけ、将来の職業生活において実践的に活用できる就業力の向上を目指します。		
履修条件・留意点	本授業は、ビジネス英語科目群の中でも、就職後の職場を想定し、新入社員として求められる実践的コミュニケーション能力と職業的行動の育成を目的とする科目です。特定の履修条件や選抜は設けていませんが、授業は英語による基本的な指示ややり取りを理解できることを前提として進みます。そのため、英語の基礎的な語彙・文構造について一定の理解があることが望まれます。また、本授業は演習・参加型の要素を含み、職場での対応を想定した活動を行うため、出席および授業への継続的かつ主体的な参加が前提となります。本授業の履修にあたっては、学習内容を授業外で準備・復習し、授業内での実践や振り返りを通じて、自身の対応や行動を改善しようとする姿勢が求められます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業を通じて、学生は以下の知識・技能・態度を身につけることを目標とします。 1. 学生は、新入社員として職場で想定される基本的な場面（報告・連絡・相談、依頼、確認、問題発生時の対応）を理解し、状況に応じた内容を英語で伝えることができる。 2. 学生は、英語による業務上の指示ややり取りを理解し、相手や立場（先輩・上司・同僚）を意識した語調・態度・表現で対応することができる。 3. 学生は、職場における先輩・後輩関係や上下関係がコミュニケーションに与える影響を理解し、適切な距離感と行動を意識して対応することができる。 4. 学生は、職場場면을想定した活動やフィードバックを通じて、自身の対応や行動を振り返り、改善点を見出し次の行動に反映させることができる。 5. 学生は、新入社員として求められる立場を意識し、責任ある態度で授業に参加し、職場を想定した基本的な職業行動を実践することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックは、毎回の授業および各課題（試験、レポート、提出物等）に対して実施します。授業内では、口頭による個別フィードバックやクラス全体への講評を通じて、理解度や対応の改善点を示します。 課題や提出物については、コメントや必要に応じた添削を行った上で返却します。また、試験や評価に関する解説、補足説明については、授業時間内の説明に加え、Learning Portal を利用して提示する場合があります。 これらのフィードバックを通じて、学生が自身の学習内容や行動を振り返り、次の学習や実践に活かせるよう支援します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			

テキスト	本授業で使用するテキストは、Learning Portal を通じて無料で提供されます。教材の大部分は担当教員が作成したオリジナル資料であり、ビジネス英語の基礎や実践的な表現を学ぶための内容を含みます。その他、補助的なオンラインリソースや指定された PDF 資料も使用します。具体的な教材名や参考資料については、授業内で案内します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	80	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	全授業の 70%以上に出席する必要があります。たとえば、15 回の授業の場合は、11 回以上の出席が求められます。欠席は 4 回まで許容されますが、5 回以上欠席すると自動的に落第となります。 届出を行った欠席であっても、欠席は欠席として扱われますので注意してください。クラブ活動や体調不良などの理由で欠席する場合も同様です。授業には時間通りに出席し、責任を持って参加してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	講師は生徒一人ひとりの一般的な英語力を確認します。 このクラスは、以下の流れに沿って進めます： あいさつ出席確認とペア練習 - 出席確認の間、ペアになって練習を行います。スピーキング・リスニングテスト - 技能向上を目的としたテストを実施します。宿題の進捗確認 - 宿題に関する質問に回答します。質問内容は通常、最低 1 時間分の宿題の進捗や未完了の部分についてです。Q&A セッション - 宿題や英語一般に関する質問を受け付けます。必要に応じて授業の最後まで続く可能性もあります。ペアアクティビティ - さまざまなアクティビティを通じてペア練習を行います。 選択肢 選択肢 1 - 1 人が生徒役となり、もう 1 人が回答を確認します。選択肢 2 - 両方の生徒がハンドアウトを見ながら進めても構いません。選択肢 3 - 会話練習を行います。プレゼンテーション - 練習したものを発表します。	授業での説明を踏まえ、各自で年度内の英語関連試験計画を立てる。次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば解決しておく。与えられた課題に取り組む。 宿題について： 毎回の授業後は、宿題に最低 1.5 時間取り組んでください。学習スピードが早い場合は 60 分で十分ですが、遅い場合は 90 分以上を目安としましょう。学習スピードには個人差がありますが、追いつく努力を怠らないようにしましょう。	2 時間
第 2 回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ： 必要に応じてグ	授業内容の復習： 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に	2 時間

		ループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	質問できるよう準備する。課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	
第3回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第4回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第5回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第6回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第7回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。	1 時間

		レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	
第8回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第9回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第10回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第11回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間

		い。		
第12回	対面	復習と振り返り 授業内容の確認: これまでの授業で学んだ内容を振り返り、重要なポイントを整理する。理解度チェック: 授業中に扱った課題や演習問題を見直し、理解が不十分な箇所を特定して補強する。質疑応答: 学習内容に関する質問を解決し、不明点をクリアにする。実践練習: 習得した知識やスキルを活用し、ロールプレイやプレゼンテーション練習を行う。課題提出と準備: 次回授業に向けた課題を確認し、計画的に取り組む。	・授業内容の復習: 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習: 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備: 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み: 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第13回	対面	筆記試験とスピーキングテスト 筆記試験: 語彙、文法、構文に関する問題を中心に、理解度を測定する。時間配分と試験形式については、事前に説明を行う。 スピーキングテスト: 指定されたテーマについて短いスピーチを行う。ペアまたはグループでのロールプレイも含まれる場合がある。発音、流暢さ、表現力に重点を置いた評価を行う。	・授業内容の復習: 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習: 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備: 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み: 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第14回	対面	筆記試験とスピーキングテスト 筆記試験: 語彙、文法、構文に関する問題を中心に、理解度を測定する。時間配分と試験形式については、事前に説明を行う。 スピーキングテスト: 指定されたテーマについて短いスピーチを行う。ペアまたはグループでのロールプレイも含まれる場合がある。発音、流暢さ、表現力に重点を置いた評価を行う。	・授業内容の復習: 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習: 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備: 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み: 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第15回	オンデマンド	復習と振り返り 授業内容の確認: これまでの授業で学んだ内容を振り返り、重要なポイントを整理する。理解度チェック: 授業中に扱った課題や演習問題を見直し、理解が不十分な箇所を特定して補強する。質疑応答: 学習内容に関する質問を解決し、不明点をクリアにする。実践練習: 習得した知識やスキルを活用し、ロールプレイやプレゼンテーション練習を行う。課題提出と準備: 次回授業に向けた課題を確認し、計画的に取り組む。	1. 授業内容の整理: 今学期のすべての授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを参考に要点をまとめて整理する。 2. 強化ポイントの確認: 今学期の内容を復習し、自分が強化すべき項目を特定し、今後の課題や学習計画を立てる。 3. 課題の見直し: 返却された課題を再確認し、改善点や取り組むべき項目を明確にする。	1 時間

科目名	Business Communication I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	Studying the Business Communication 1 course will help you acquire Business Skills for your professional life.		
授業の目的及び概要	The purpose of this class: Students will: - develop English language skills that will enable students to communicate in the business field. - improve their practical English language skills that are directly related to their work. - learn expressions/vocabulary in business situations, e.g. basic conversations in business (self-introductions/greetings). - learn about communication with outside parties (appointments, phone calls, etc.). - learn about cultural aspects such as the customs of other countries, with the aim of acquiring the ability to communicate smoothly with business partners.		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	The goals of this course are to improve the following points below. 1. Business English vocabulary 2. TOEIC score 3. Understanding international business situations 4. Giving presentations in English 5. Working as a team and communicating in English		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Feedback will be given during class and after tests.		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Communication Spotlight Business 2 Alistair Graham-Marr & Bradford Lee ABAX ELT PUBLISHERS 2021	ISBN	978-1-78547-066-0
参考書	None	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	15	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	15	
	その他（％）		
この科目の受講にあたって	その他の内容		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Orientation	Before the Lesson: Buy the textbook After the Lesson: Review material in the Orientation (An introduction to the course, textbook, expectations, and each other).	2 時間
第2回	対面	Unit 1 Pleased to meet you	Before the Lesson: Read all pages of the Unit 1. Complete the assigned exercises After the Lesson: Review all pages covered in Unit 1.	2 時間
第3回	対面	Unit 2 Who do you work for? (Describing companies)	Before the Lesson: Read all pages of the Unit 2. Complete the assigned exercises After the Lesson: Review all pages covered in Unit 2.	2 時間
第4回	対面	Unit 3 What do you do? (Describing occupations)	Before the Lesson: Read all pages of the Unit 3. Complete the assigned exercises After the Lesson: Review all pages covered in Unit 3.	2 時間
第5回	対面	Presentation Preparation (Groups & Company Profiles)	Before the Lesson: Choose group members After the Lesson: Choose a company	2 時間
第6回	対面	Review	Review Units 1 - 3	2 時間
第7回	オンデマンド	Review / Review Quiz 1	Review Quiz on Units 1-3	1 時間
第8回	対面	Unit 4 Can I leave a message?	Before the Lesson: Read all pages of the Unit 4. Complete the assigned exercises After the Lesson: Review all pages covered in Unit 4.	2 時間
第9回	対面	Unit 5 Describing time and schedules	Before the Lesson: Read all pages of the Unit 5. Complete the assigned exercises After the Lesson: Review all pages covered in Unit 5.	2 時間
第10回	対面	Unit 6 What do you call that thing?	Before the Lesson: Read all pages of the Unit 6. Complete the assigned exercises After the Lesson: Review all pages covered in Unit 6.	2 時間
第11回	対面	Presentation Preparation	Before the Lesson: Hand in your script and slides for final check. After the Lesson: Make changes to your script and slides after final feedback.	2 時間
第12回	オンデマンド	Review	Review of Units 4 - 6	2 時間
第13回	対面	Review Quiz 2	Review Quiz of Units 4 - 6	2 時間
第14回	対面	Presentations	Presentations	2 時間
第15回	対面	Presentations	Presentations	1 時間

科目名	Business Communication II	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	オコン・オーリック	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	新入社員としての職場適応と対人関係を扱うビジネス英語コミュニケーション		
授業の目的及び概要	本授業は、ビジネスの場で使える実践的な英語コミュニケーション能力の向上を目的とします。自己紹介、ビジネス会食、挨拶、アポイントメント、電話対応など、職場でよく使われる表現や語彙を学びます。また、異文化理解を深め、国際的なビジネスパートナーとの円滑なコミュニケーションができるようになることを目指します。ロールプレイやディスカッションを通じて、実際に使える英語を身につけます。ある程度の英語学習経験があることが望ましいですが、幅広いレベルの学生が参加できる内容となっています。		
履修条件・留意点	授業に出席することには、主に以下の2つの目的があります： 1. 先生や他の生徒に対して、宿題や英語一般に関する質問を尋ねるため。 2. 宿題をする中で得られた知識を実際に使うため。 生徒の授業における目標は、学習すること、また他の人達とお互いに学習の手助けをし合うことです。教師の役割は、生徒の学習を支援することにあります。 注意点： 学習する意欲がなければ、教師は強制的に学習させることはできません。また、学習意欲のある人の妨げになる行動は控えてください。積極的に学習に取り組む姿勢を持ちましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ビジネス英語の基礎となる英語を学び、英語力 TOEIC400 点相当以上を目指す。 このクラスは、英語 4 技能の中でも特にスピーキングに特化した技能を育てることを目標としている。さらに、獲得した知識や技能を活用し、国内外において価値観や意見の異なるさまざまな人と議論し、学びを深め、協働して社会に貢献できる能力の育成を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックは、毎回の授業および各課題（試験、レポート、提出物等）に対して実施します。授業内では、口頭による個別フィードバックやクラス全体への講評を通じて、理解度や対応の改善点を示します。 課題や提出物については、コメントや必要に応じた添削を行った上で返却します。また、試験や評価に関する解説、補足説明については、授業時間内の説明に加え、Learning Portal を利用して提示する場合があります。 これらのフィードバックを通じて、学生が自身の学習内容や行動を振り返り、次の学習や実践に活かせるよう支援します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／反転授業／ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	本授業で使用するテキストは、Learning Portal を通じて無料で提供されます。教材の大部分は担当教員が作成したオリジナル資料であり、ビジネス英語の基礎や実践的な表現を学ぶための内容を含みます。その他、補助的なオンラインリソースや指定された PDF 資料も使用します。具体的な教材名や参考資料については、授業内で案内します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	80	
	成果発表（口頭・実技）	10	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	全授業の 70%以上に出席する必要があります。たとえば、15 回の授業の場合は、11 回以上の出席が求められます。欠席は 4 回まで許容されますが、5 回以上欠席すると自動的に落第となります。 届出を行った欠席であっても、欠席は欠席として扱われますので注意してください。クラブ活動や体調不良などの理由で欠席する場合も同様です。授業には時間通りに出席し、責任を持って参加してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第 1 回	対面	講師は生徒一人ひとりの一般的な英語力を確認します。 このクラスは、以下の流れに沿って進めます： あいさつ出席確認とペア練習 - 出席確認の間、ペアになって練習を行います。スピーキング・リスニングテスト - 技能向上を目的としたテストを実施します。宿題の進捗確認 - 宿題に関する質問に回答します。質問内容は通常、最低 1 時間分の宿題の進捗や未完了の部分についてです。Q&A セッション - 宿題や英語一般に関する質問を受け付けます。必要に応じて授業の最後まで続く可能性もあります。ペアアクティビティ - さまざまなアクティビティを通じてペア練習を行います。 選択肢 選択肢 1 - 1 人が生徒役となり、もう 1 人が回答を確認します。選択肢 2 - 両方の生徒がハンドアウトを見ながら進めても構いません。選択肢 3 - 会話練習を行います。プレゼンテーション - 練習したものを発表します。	授業での説明を踏まえ、各自で年度内の英語関連試験計画を立てる。次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば解決しておく。与えられた課題に取り組む。 宿題について： 毎回の授業後は、宿題に最低 1.5 時間取り組んでください。学習スピードが速い場合は 60 分で十分ですが、遅い場合は 90 分以上を目安としましょう。学習スピードには個人差がありますが、追いつく努力を怠らないようにしましょう。	2 時間
第 2 回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ： 必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習： 実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	授業内容の復習： 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第 3 回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ： 必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取	・授業内容の復習： 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。	2 時間

		り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	
第4回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第5回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第6回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第7回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備：予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み：与えられた課題を丁寧に仕上げる。	1 時間
第8回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ：学生の理解度	・授業内容の復習：今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習：次回授業のテキスト範囲を予習	2 時間

		やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	
第9回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習： 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第10回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習： 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第11回	対面	授業中の活動は、生徒の英語力や進度に応じて異なります。 レベル別アクティビティ： 学生の理解度やスキルに合わせた練習や課題を用意します。柔軟なアプローチ：必要に応じてグループワーク、ペアワーク、個別指導を取り入れます。応用練習：実際のビジネスシーンを想定したロールプレイやディスカッションを行います。活動は、生徒のスキル向上を目的に調整されるため、積極的に参加し、フィードバックを活用してください。	・授業内容の復習： 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第12回	対面	復習と振り返り 授業内容の確認： これまでの授業で学んだ内容を振り返り、重要なポイントを整理する。理解度チェック： 授業中に扱った課題や演習問題を見直し、理解が不十分な箇所を特定して補強する。質疑応答： 学習内容に関する質問を解決し、不明点をクリアにする。実践練習： 習得した知識やスキルを活用し、ロールプレイやプレゼンテーション練習を行う。課題提出と準備： 次回授業に向けた課題を確認し、計画的に取り組む。	・授業内容の復習： 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習： 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備： 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み： 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間

第13回	対面	筆記試験とスピーキングテスト 筆記試験:語彙、文法、構文に関する問題を中心に、理解度を測定する。時間配分と試験形式については、事前に説明を行う。 スピーキングテスト:指定されたテーマについて短いスピーチを行う。ペアまたはグループでのロールプレイも含まれる場合がある。発音、流暢さ、表現力に重点を置いた評価を行う。	・授業内容の復習: 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習: 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備: 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み: 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第14回	対面	筆記試験とスピーキングテスト 筆記試験:語彙、文法、構文に関する問題を中心に、理解度を測定する。時間配分と試験形式については、事前に説明を行う。 スピーキングテスト:指定されたテーマについて短いスピーチを行う。ペアまたはグループでのロールプレイも含まれる場合がある。発音、流暢さ、表現力に重点を置いた評価を行う。	・授業内容の復習: 今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを整理し、要点をまとめる。 ・次回授業の予習: 次回授業のテキスト範囲を予習し、疑問点があれば事前に解決しておく。 ・質問準備: 予習の過程で理解しにくかった箇所をマークし、授業中に質問できるよう準備する。 ・課題への取り組み: 与えられた課題を丁寧に仕上げる。	2 時間
第15回	オンデマンド	復習と振り返り 授業内容の確認: これまでの授業で学んだ内容を振り返り、重要なポイントを整理する。理解度チェック: 授業中に扱った課題や演習問題を見直し、理解が不十分な箇所を特定して補強する。質疑応答: 学習内容に関する質問を解決し、不明点をクリアにする。実践練習: 習得した知識やスキルを活用し、ロールプレイやプレゼンテーション練習を行う。課題提出と準備: 次回授業に向けた課題を確認し、計画的に取り組む。	1. 授業内容の整理: 今学期のすべての授業内容を振り返り、授業中に取ったノートを参考に要点をまとめて整理する。 2. 強化ポイントの確認: 今学期の内容を復習し、自分が強化すべき項目を特定し、今後の課題や学習計画を立てる。 3. 課題の見直し: 返却された課題を再確認し、改善点や取り組むべき項目を明確にする。	1 時間

科目名	Business Communication II		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ハモンズ・ジョアンナ		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	Studying the Business Communication 2 course will help you acquire Business Skills for your professional life.			
授業の目的及び概要	The purpose of this class is to develop English language skills that will enable students to communicate in the business field. By becoming familiar with business English, students will improve their practical English language skills that are directly related to their work. Specifically, students will learn expressions and vocabulary used in business situations, such as basic conversations as a business person (self-introductions, greetings) and communication with outside parties (appointments, phone calls, etc.). Students will also learn about cultural aspects such as the customs of other countries, with the aim of acquiring the ability to communicate smoothly with business partners.			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	The goals of this course are to improve the following points below. 1. Business English vocabulary 2. TOEIC score 3. Understanding international business situations 4. Giving presentations in English 5. Working as a team and communicating in English			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	Feedback will be given during the class and after tests.			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	Business Communication 2 Alistair Graham-Marr & Bradford Lee ABAX ELT PUBLISHERS		ISBN	978-1-78547-066-0
参考書	None		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		15	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		15	
	その他の内容		Mid Term Quiz - Conducted in Class Final Quiz -Conducted in Class	
この科目の受講にあたって	Let's enjoy learning English together in a way that will help us to have bright futures in international business!			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Orientation	Getting to know you	2 時間
第2回	対面	Unit 7 How much is that in Korean Won?	Talking about money	2 時間
第3回	対面	Unit 8 You need to download a form	Giving instructions	2 時間
第4回	対面	Unit 9 Do you like Indonesian food?	Describing food	2 時間
第5回	対面	Presentation Preparation	Decide on groups and topics for presentation.	2 時間
第6回	オンデマンド	Review Units 7 - 9	Review	2 時間
第7回	対面	Review Quiz 1	Review of Units 7 - 9	2 時間
第8回	対面	Unit 10 Do you have the sales figures?	Working with large numbers	2 時間
第9回	対面	Unit 11 Make sure you keep all receipts.	Giving advice / Business Trips	2 時間
第10回	対面	Unit 12 When's the trade for?	Describing future plans	2 時間
第11回	対面	Presentation Preparation	Presentation scripts and slides	2 時間
第12回	対面	Review	Review of Units 10 -12	2 時間
第13回	対面	Review Quiz 2	Review Quiz on Units 10 -12	2 時間
第14回	対面	Presentations	Presentations	2 時間
第15回	対面	Presentations	Presentations	1 時間

科目名	English for Tourism	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	青柳 達也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	観光の実場面で、日本と世界を英語で案内できる力を育てる。		
授業の目的及び概要	本授業は、観光の実場面で必要となる英語コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的とします。日本および世界の観光地を題材に、案内・提案・予約・文化説明・トラブル対応といった多様な観光場面に対応できる表現や語彙を学びます。授業では、読解・リスニングなどの基礎技能に加え、ロールプレイやペアワークなどの実践的な活動を通して、状況に応じた英語の運用力を高めます。また、観光に関する文化的背景やマナーにも触れ、異文化理解の視点を養いながら、観光客のニーズに適切に応えるためのコミュニケーション力を総合的に育成します		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	観光客のニーズを英語で把握し、複数の選択肢を比較して最適な提案ができる。 日本および世界の観光地について、文化的背景・魅力・注意点を英語で簡潔に説明できる。 パンフレット、広告、案内文などの観光関連英文を読み、主要情報を正確に取り出して口頭で要約できる。 予約、案内、問い合わせ、クレーム対応など、観光の基本場面で必要な表現を適切な英語で運用できる。 トラブル（遅延・紛失・天候変更・宗教・食物制限など）に対して、相手に配慮した英語で対応できる。 ロールプレイやペアワークを通じて、相互に質問し、確認し、やり取りを継続するコミュニケーション能力を発揮できる。 観光場面に関わる語彙・表現を理解し、実践的なタスクで活用できる。 異文化理解の視点を持ち、文化的配慮やマナーを含めた説明が英語で行える。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期的に課題を出して、提出されたものを修正し、学生に返却する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	English for Tourism 101 一から学ぶ観光英語の基礎～日本から世界へ～，津田 晶子，南雲堂，2014 年	ISBN	ISBN 9784523177609
参考書	Enjoy Your Trip! 旅英語の心得，竹内 真澄他，南雲堂，2015 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は、観光の実際の場面で役立つ英語力を、活動を通して身につけていく授業です。「相手の話を聞く」「必要な情報を伝える」「状況に合わせて表現を選ぶ」といった、実践的なコミュ		

	ニケーションを大切にします。授業ではロールプレイやペアワークを多く取り入れますが、うまく話そうとする必要はありません。間違いを恐れず、まずは声に出してみることが何よりの上達につながります。観光場面には、多様な背景を持つ人々との出会いがあります。文化の違いを尊重し、相手に寄り添う姿勢をもって取り組んでください。英語が得意な人も苦手な人も、それぞれのペースで参加できるよう授業を進めていきます。授業中のアクティビティに積極的に参加し、自分なりに工夫しながら取り組むことで、観光英語を「使える力」として確実に身につけていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション授業の目的と進め方の説明、観光英語の基礎的特徴の理解	事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第2回	対面	Unit 1: Hokkaido 旅行商品の比較と、顧客ニーズに基づくツアー提案	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第3回	対面	Unit 2: Kyoto 寺社の見どころと文化的マナーを英語で説明する	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第4回	対面	Unit 3: Yufuin 旅館チェックイン、温泉利用案内、基本的なトラブル対応	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第5回	対面	Unit 4: Okinawa ビーチアクティビティ案内、天候による代替提案、安全上の配慮	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間

第6回	対面	Unit 5: Singapore 多文化社会における食・礼拝への配慮とトランジット案内	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第7回	対面	Unit 6: Bali 体験アクティビティの予約説明、必要装備・保険・寺院儀礼の案内	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第8回	対面	Unit 7: Sydney 都市観光の特徴を整理し、Sydney と Tokyo の比較を用いた案内	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第9回	対面	Unit 8: Hawaii オーバーツーリズムと環境配慮を踏まえた提案と説明	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第10回	対面	Unit 9: London 公共交通案内、主要スポットへのアクセス、展示の要約説明	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第11回	対面	Unit 10: France カフェ表現、丁寧表現、名画説明の基礎	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリ	4 時間

			ントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	
第12回	対面	Unit 11: Museums in Europe ミニ展示ツアーの構成・案内、鑑賞マナーの説明	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第13回	対面	Units 12-14: New York / Boston / Canada 北米の観光と安全をテーマにした横断的演習（チケット購入・歴史ツアー・自然観光）	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第14回	対面	Unit 15: Rio de Janeiro 祭り・文化・治安をバランスよく説明する総合演習	事後学修： 授業で扱った語彙・表現を 5～10 個選び、短い英文で練習する。 ロールプレイやペアワークでうまく言えなかった点を振り返り、改善案を英文で整理する。 事前学修： 次回扱うユニットの “Words & Phrases” 語彙プリントを実施する。 教科書の該当ユニットの見出しや写真、冒頭の文章を軽く読み、テーマを把握する。	4 時間
第15回	オンデマンド	第1回～第15回の授業の総復習を行う。	授業内容を復習し、定期試験に向けて理解を深める。	4 時間

科目名	翻訳実践	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岡村 徹	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	翻訳に不可欠な基本的英語力を養う。		
授業の目的及び概要	この授業は、翻訳の基礎概念を修得すると同時に、英語の読解力及び、日本語における表現力を高めることを目標とする。翻訳の基本として、正確な原文理解が必須となるが、実際には、原文を解釈する力だけでなく、高度な日本語運用能力と翻訳的思考が必要とされる。授業では、様々な英語を、それぞれの場面や状況に相応しい日本語に翻訳する能力を身につけることを目指す。また、具体的な翻訳作業の分析を通して、日本語と英語の根本的な発想・認識パターンの違いについて理解する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	特に書き言葉において、発信するのに必要な基本的言語能力を踏まえた上で、日英/英日翻訳の手順としての基本的英文を組み合わせることで応用し、より自然な日本語/英語表現で発信できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題を添削して、返却する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	認知言語学的発想！英日翻訳の技術，鍋島弘治朗，マイケル・ブルックス，くろしお出版，2020 年	ISBN	9784874248324
参考書	英語の論理・日本語の論理，安藤貞雄，大修館書店，1986 年	ISBN	4469240931
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）		
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	皆さんが知りたいこと、興味のあること、それを毎日コツコツと英文で読みましょう！		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	翻訳者になるために	・テキスト pp. 7-16 に目を通しておく。 ・与えられた課題に取り組む。	4 時間
第 2 回	対面	優れた翻訳とは	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 26-32 を予習し、問題を解いておく。	4 時間

第3回	対面	代名詞について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 37-42 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第4回	対面	数量詞について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 51-56 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第5回	対面	比較級と最上級について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 65-70 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第6回	対面	無生物主語 I について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 78-84 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第7回	対面	無生物主語 II について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 89-92 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第8回	対面	名詞句について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 100-102 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第9回	対面	順行訳について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 115-118 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第10回	対面	話法について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 126-128 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第11回	対面	レトリックについて考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 136-142 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第12回	対面	イディオムについて考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 154-158 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第13回	対面	肯定表現と否定表現について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 167-170 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第14回	対面	「は」「が」構文について考えます。	・今回の授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・次回テキスト pp. 178-181 を予習し、問題を解いておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	オンデマンドで、「翻訳の深さ：もっと勉強したい人のために」について授業します。	・今学期の全ての授業内容を振り返り、授業中に取ったノート内容を参考に纏めて整理する。 ・今学期の全ての授業内容を振り返り、自分が強化すべき項目を確認して今後の課題とする。 ・返却された今学期全ての課題を見直し、今後取り組むべき課題を認識する。	4 時間

科目名	通訳実践	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	三戸 康世	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	基礎的な通訳技術の習得・英語スピーキング力の向上		
授業の目的及び概要	本科目は、ビジネス通訳者や観光案内士（通訳ガイド）等を希望進路とする学生に限らず、海外営業職などの高度な英語力を必要とする職種を目指す学生も積極的に対象とする。授業では、通訳者が実際に行う訓練方法（シャドーイング、サイトトランスレーション、パラフレージング、ノートテキングなど）を取り入れ、ビジネスや観光業の現場で求められる逐次通訳の基礎スキルを習得することを目的とする。また、AI による瞬時の通訳・翻訳が普及する現代において、通訳者が担うべき役割や、AI では代替できない人間特有の文脈理解力や感情に寄り添った表現の重要性についても考察する。		
履修条件・留意点	本科目の受講生は、自身の希望進路の実現及び設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 通訳の基礎的な訓練を通じて、ビジネスや観光業の現場で求められる英語運用力の習得を目指す。 2. 日常会話やビジネスの現場において、適切な語彙表現を用いて迅速に英語⇄日本語を切り替える反応力を高める。 3. グローバルかつプロフェッショナルな視点を持ち、相手の母語に関わらず円滑なコミュニケーションを行うために必要な通訳者の役割、スキル、素養について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の小テストの結果及び課題の提出状況について各自へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①Interpreting Skills for the World Beyond Borders/授業で学ぶ〈通訳〉入門 ポーダレスな世界を目指して、水野真木子、松柏社、2022 年	ISBN	①9784881987797
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目の受講生は、希望進路の実現および自身が設定する目標の達成に向けて、毎週約 4 時間程度の自学修（授業内容の復習、小テスト、課題への取り組みおよび予習）を行うことが求められます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション・通訳の基礎概念 通訳者の役割と求められるスキルセットを概観する。通訳と翻訳の違いや、逐次通訳の基本プロセスを理解する。	授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第2回	対面	発声・発音トレーニングとスピーキング基礎 英語スピーキング力向上のため、発声や発音、イントネーション調整の基本練習を行う。スクリプトを用い、明瞭で自然な英語音声を目指す。通訳準備に不可欠なリスニング強化も並行して行う。	テキスト Unit 1 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第3回	対面	リスニング強化とシャドーイング訓練 ネイティブスピーカーの音声素材を用い、シャドーイングの基本練習を行う。素早く正確に音声を捉え、再現する力を養う。	テキスト Unit 2 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第4回	対面	サイトトランスレーション（視訳）の導入 視覚的に提示された英文本を即座に口頭で訳すサイトトランスレーションを実践する。文法的構造の素早い理解と自然な表現力を鍛える。	テキスト Unit 3 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第5回	対面	パラフレーズング訓練 与えられた英文を、文意を変えずに別の表現で言い換える訓練を行う。直訳を避け、意味を的確かつ流暢に伝えるスキルを磨く。	テキスト Unit 4 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第6回	対面	ノートテキング基礎 通訳者にとって重要なノートテキングの基本手法（記号、略語、レイアウト）を学ぶ。聴取情報を整理・構造化する練習を行う。	テキスト Unit 5 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第7回	対面	ビジネス現場想定による逐次通訳演習（基礎編） ビジネス会議や商談を想定した短い英語スピーチ素材を用いて逐次通訳を実践する。ノートを用いつつ、時間差で英語から日本語へ自然な流れで伝達する訓練を行う。発話速度や用語選択の最適化も図る。	テキスト Unit 6 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第8回	対面	観光ガイドを想定した通訳演習 観光ガイドを想定し、観光地での説明を日本語（英語）で行う実践練習を行う。状況に応じた丁寧さや親しみやすさの表現力も強化する。	テキスト Unit 7 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第9回	対面	長めのスピーチ素材を用いたノートテキング強化 これまで学んだノートテキング技法を長めの英語スピーチ素材に適用する。情報量が増えた環境で要点整理と再構築力を鍛える。正確性と流暢性のバランスを模索し、定着を図る。	テキスト Unit 8 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間
第10回	対面	パラフレーズングとトーンコントロールの応用 異なるトーン（カジュアル、フォーマル、ビジネス的）で提示される英文を活用し、状況に応じた日英間パラフレーズを実行	テキスト Unit 9 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4時間程度	4時間

		する。話し手の意図や雰囲気適切な日本語表現に転換する訓練を積む。		
第11回	対面	AI 通訳ツールの特性理解と比較演習 一般的な AI 通訳・翻訳ツールを用い、同様の素材でツール出力との比較を行う。AI では難しいニュアンスや文脈理解を人間通訳者がどのように補完できるか考察する。	テキスト Unit 10 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4 時間程度	4 時間
第12回	対面	専門用語・業界用語への対応とグロッサリー作成 ビジネスや観光など特定領域の専門用語集（グロッサリー）を作成する演習を行う。事前準備によって通訳精度を高める方法を学び、業界固有の表現への対応力を強化する。	テキスト Unit 11 授業内容の復習と自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4 時間程度	4 時間
第13回	対面	総合演習（ビジネス＋観光場面の逐次通訳） これまで学んだスキルを総合的に発揮し、長めかつ複合的な内容の英語スピーチを逐次通訳する。ノートテキング、パラフレーズ、トーン調整など、統合的な能力を検証する。自己評価とフィードバックを通じ、最終成果物へ向けて改善点を洗い出す。	テキスト Unit 1～11 の総復習及び自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4 時間程度	4 時間
第14回	対面	期末試験 筆記試験及び口頭での実技試験（逐次通訳）	テキスト Unit 1～11 の総復習及び自主トレーニング（語彙及び表現力の強化・発音・音読・シャドーイング等の訓練）4 時間程度	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめとフィードバック これまでの授業内容を振り返り、受講生へのフィードバックを行う。	通訳実践のふりかえり（自身の課題と今後の目標）・これまでの総復習 4 時間程度	4 時間

科目名	コミュニケーション技法Ⅰ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	奥中 淳未		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	的確にかつ効果的に自分の考えを伝えることができるようになろう			
授業の目的及び概要	本授業では、ビジネスや社会生活等、様々な場面に応じた日本語によるコミュニケーションを円滑に行うための技法を修得することを目的に、正確な語彙や、慣用句等を正しく使用する表現力を養成します。コミュニケーションは情報のやりとりを行ったり、人間関係を維持・構築する相互交流です。本科科目では、主に情報のやりとりに着目し、自分の意見を適切に他者に伝えることができる能力とともに、相手を説得し、理解してもらえるように伝える能力を養成する。授業では、同じ伝達内容が、場面や立場によりいかに変化するか、どのように変化させる必要があるのか等を、具体的な事例や、ロールプレイを用いた能動的な手法により身につけます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本科目では、以下の4点を到達目標とします。 1. 情報を与える相手（の理解度）に配慮して話すことができる 2. 相手に伝わるように、話のまとまりを意識することの大切さに気付く 3. 自分の意見を説得力を持って明確に伝えることができる 4. プレゼンテーションの技術が、書くことにも応用できることを理解する			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業を受けて気づいたこと、学んだこと、疑問等ミニッツペーパーに提出し、翌週の授業で講評や回答します。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	教材は、教員が作成した PPT を中心に進め、受講生にはハンドアウトを配布します。ハンドアウトは教科書の代わりになりますので、必ずファイルなどを準備して、資料を紛失しないようにしてください。（ラーニングポータルにもアップします。）	ISBN	なし	
参考書	授業中に参考になる資料（論文等）を適時配布します。 ①『学生のためのプレゼンテーション・トレーニング：伝える力を高める 14 ユニット』、プレゼンテーション研究会、実教出版、2015 年	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	30		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	30		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	自分の考えを的確にかつ効果的に伝える技術は、プレゼンテーションや就職活動等の面接で非常に役に立つ技術です。ぜひ身につけてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要説明、成績評価の説明 初対面の会話で自分をアピールする	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120分）	4時間
第2回	対面	初対面の会話からコミュニケーションを深める	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120分）	4時間
第3回	対面	自分の言いたい事を明確に伝える 相手の関心を引き、納得させることができる	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120分）	4時間
第4回	対面	言葉以外の方法で自分の伝えたいことを相手に訴える コミュニケーション時における自分の印象を変える	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120分）	4時間
第5回	対面	自由な発想でアイデアを生み出す 状況に応じて様々な発想方法を使いこなす	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120分）	4時間
第6回	対面	プレゼンテーションの骨組みを理解し、構成する 説得力のあるプレゼンテーションについて学ぶ	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120分）	4時間
第7回	対面	自分の主張の正当性を裏付ける 主張の根拠を強化し、説得力のあるプレゼンテーションについて学ぶ	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120分）	4時間
第8回	対面	文章をプレゼンテーションの発展形として捉えることができる プレゼンテーションの準備（PPT・原稿作成）をする	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：引き続きプレゼンテーションの準備をする。（120分）	4時間
第9回	対面	中間試験：今まで習った技法を使い、自分の専門分野に関連した内容をプレゼンテーションする 他者のプレゼンテーションを聞いて評価する ※中間試験としてプレゼンテーション（口頭発表）を実施します	事後学修：自分のプレゼンテーションに関して自己評価する。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120分）	4時間
第10回	対面	賛否が分かれる問題について自分の意見をまとめる 自分の意見を効果的に主張する	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。（120分）	4時間
第11回	対面	話のあらすじを面白く展開する 話のあらすじに臨場感を持たせる	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。（120分） 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自	4時間

			分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。(120分)	
第12回	対面	抽象的な事物を具体的に説明する 論理的に物事を説明する	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。(120分) 事前学習：次回授業に向けて課す質問について、①自分の日常の言語使用を振り返る、②本などで調べて答える。(120分)	4時間
第13回	対面	特定の問題について、集団の中でそれぞれの立場から意見を交換して、解決策を導き出したり、新たな提案をおこなったりする	事後学修：授業後に課す質問について、①授業での話をまとめる、②本などで調べて答える。(120分) 事前学習：第14・15回授業での発表に向けて準備する。(120分)	4時間
第14回	対面	日本語コミュニケーションⅠで学んだ知識を使って、論理的に話す課題をして短いプレゼンテーション（口頭発表）する	事前学習：口頭発表に向けての準備をする。(120分) 事後学修：レポート作成に向けて、これまでの授業の内容を振り返る。(120分)	4時間
第15回	オンデマンド	レポート作成に向け、これまでの授業内容を振り返る。	学期末レポートに取り組む(240分)	4時間

科目名	アカデミックライティング	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	荻田 朋子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	論文やレポート作成に必要なロジカルシンキングの技法を修得しよう。		
授業の目的及び概要	この授業は論文やレポートの作成に必要な学術的文章の特性を理解し、アカデミックな論述能力を向上させることを目標とする。まず、論文やレポートを書くということは、物事を合理的に考え、それを説得力ある言葉で表現することであることを理解する。そのうえで、ロジカルシンキングの技法について、練習問題に取り組みながら理解を深め、文章作成に活用できるようにする。毎回の授業後振り返りシートを提出し、授業で学修した技法の理解を深める。また、各自が作成した文章に対する自己点検や受講生相互の意見交換、教員の講評などを通して、推敲能力を向上させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 学術的文章の特性を理解し、文章作成に活用することができる。 (2) 情報収集と読解の技法を身につけ、文章作成に活用することができる。 (3) 物事を論理的かつ合理的に考える技法を身につけ、文章作成に活用することができる。 (4) 作成した文章を複数回推敲し、文章作成の改善につなげることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	振り返りシート、練習問題などの課題に対して、授業時に教員が紹介や解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	酒井浩二『伝わる！ロジカル文章術 レポートの質を極める How to write a report effectively 』ナカニシヤ出版 2021 年	ISBN	978 - 4 - 7795 - 1566 - 8
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	大学生になって、これまで何らかのレポートを書いた経験があると思います。これまで書いたレポートをもとに、より本格的なレポートや論文にするには、何が必要か考えていきましょう。不十分な点に気づくことから、まず始めましょう。この授業を通じて、レポートや論文に必要な技法を身につけ、何が重要か意識しながら文章を作成できるようになりましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス：テキスト第 1 章 授業の目的、進め方の説明	事前学習：テキスト第 1 章を予習する。できればテキストを購入する。	4 時間

		受講生の構成や人数により、授業内容や進め方については、変更を行うことがある。	事後学修：第1回の振り返りシートを提出する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。テキストをまだ購入していない人は次回までに購入する。	
第2回	対面	情報収集：テキスト第2章 レポートの作成にとって、どのような情報が必要かを考えて選ぶ。	事前学修：テキスト第2章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第2回の振り返りシートを提出する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4時間
第3回	対面	読解内容の思考：テキスト第3章 情報収集した文献の要点を必要に応じて読解してまとめる方法として、要約、レジメのまとめ方、クリティカルシンキングの技法を身につける。	事前学修：テキスト第3章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第3回の振り返りシートを提出する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4時間
第4回	対面	多角的思考：テキスト第4章 多様な観点からテーマについて考え、その中から焦点を絞ってレポート題目を設定できるようにする。多様な観点を見いだす方法としてマインドマップ、多様な観点から多角的に思考する型として「10個の質問＆回答」「疑問の連鎖」について学ぶ。	事前学修：テキスト第4章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第4回の振り返りシートを提出する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。第1章から第4章までの復習を行い、小テスト1の準備をする。	4時間
第5回	対面	第1章から第4章までの復習：テキスト第1章～第4章 第1章から第4章までの復習を行う。小テスト1を実施する。	事前学修：テキスト第1章から第4章までの授業内容を復習し、小テスト1の準備をする。 事後学修：第5回の振り返りシートを提出する。テキスト第1章から第4章まで、小テスト1でできなかったところを復習する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4時間
第6回	対面	演繹法と帰納法：テキスト第5章 ロジカルシンキングの基幹となる技法である演繹法と帰納法を理解して、今後活用できるようにする。	事前学修：テキスト第5章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第6回の振り返りシートを提出する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4時間
第7回	対面	ロジックツリー：テキスト第6章 論じたい内容の全体構造を把握するため、3種類のロジックツリー（構造把握ツリー、原因分析ツリー、課題解決ツリー）と、作成するうえでのMECE（ミッシェー）について理解し、今後活用できるようにする。	事前学修：テキスト第6章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第7回の振り返りシートを提出する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4時間
第8回	対面	マトリクス図表：テキスト第7章 物事を2つの観点で思考し図表で表現するため、代表的なマトリクス図表（テーブル型のマトリクス、ポジショニング型のマトリクス、SHOT スウオットのマトリクス、緊急度・重要度マトリクス）を理解して、今後活用できるようにする。	事前学修：テキスト第7章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第8回の振り返りシートを提出する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4時間
第9回	対面	プロセス図：テキスト第8章 個人、組織、社会にまつわる情報、物流、お金など、時間軸に沿って変化する変化過程の要点を過不足なく捉えることのできるプロセス図とフローチャートを理解し、今後活用できるようにする。	事前学修：テキスト第8章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第9回の振り返りシートを提出する。次の授業内容に向けて、教員が課した課題をする。第5章から第8章の復習を行い、小テスト2の準備をする。	4時間
第10回	対面	テキスト第5章から第8章の復習：テキスト第5章～第8章までの復習を行う、小テスト2を実施する。	事前学修：テキスト第5章から第8章を復習する。小テスト2の準備をする。 事後学修：第10回の振り返りシートを提出する。テキスト第5章から第8章まで、小テスト2でできなかったところを復習する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4時間
第11回	対面	レポート課題の理解：テキスト第9章 レポート課題の要綱、レポートの構成、レポートの評価観点について理解する。	事前学修：テキスト第9章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第11回の振り返りシートを提出する。次	4時間

			回の授業に向けて、教員が課した課題をする。	
第12回	対面	レポートテーマに関する読解内容の思考：テキスト第10章 レポート要綱に沿ったレポート作成の準備をする。テキスト第I部の技法を使って、情報、文献を収集し、その要点をまとめたり、批判的に読解したりする。	事前学修：テキスト第10章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第12回の振り返りシートを提出する。次の授業に向けて、教員が課した課題をする。	4時間
第13回	対面	レポート題目に関する多角的思考：テキスト第11章 第12回に設定したレポートの仮題目について、第4章および第10章で学修した内容を使って、レポート題目を決定する。 レポート題目に関する論理構造の表現：テキスト第12章 第I部で学修した4つのロジカルシンキング法を使って、決定した題目での筆者の主張について論理構造を表現する。	事前学修：テキスト第11章・第12章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第13回の振り返りシートを提出する。次の授業に向けて、レポートの作成を進める。	4時間
第14回	対面	レポートの作成と推敲：テキスト第13章 レポートの共有と発表：テキスト第14章 レポート評価結果の活用：テキスト第15章 テキスト第13章から第15章に関しては、受講生の数、進行状況によって、取捨選択する。	事前学修：テキスト第13章・第14章・第15章および授業内容に関して、教員が課した課題をする。 事後学修：第14回の振り返りシートを提出する。レポートを推敲する。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ：テキスト第16章 秋学期の授業内容を振り返る。 振り返りシートに取り組み、秋学期の授業で知ったこと、取り組んだこと、考えたことを通じてどのようなこ修得修得したか確認する。	事前学修：作成中のレポートを複数回推敲しながら改善する。 事後学修：振り返りシートを提出する。レポートの最終確認を行い、期限を守って提出する。	4時間

科目名	テクニカルライティング	開講年度	2026 年度春学期
担当者	奥中 淳未	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	社会人として必要になるビジネス文書の技法と日本語表現を修得しよう。		
授業の目的及び概要	この授業では、仕事を円滑に進めるために必要なビジネス文書の特徴や種類、基本的な書き方など、ビジネス文書に関する一般的な知識について学修する。学修を通じて、論理的に物事を考え文章を構成するという、社会で必要とされる能力を身につけることを目標とする。また、グループワークを通じて、協働する方法や姿勢を身につけると同時に、グローバルビジネスの場で起こりうる、非日本語母語話者との日本語に関連するトラブル等のケーススタディーを通し、異文化コミュニケーションや異文化理解の能力を育成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 社会に出てから必要な文書（ビジネス文書）の特徴を理解し、文書の作成に活用することができる。 (2) インターネットの特徴を理解し、ビジネスメールの作成に活用することができる。 (3) 社会に出てから求められる語彙力、表現力を修得し、文書の作成に活用できる。 (4) 根拠のある資料と論理的な分析と適切な文章表現を使って、提案書や企画書を作成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題については、授業時に学生間で合評したり教員から講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	富士通エフ・オー・エム（2010）『よくわかる自信がつくビジネス文書』富士通オフィス機器	ISBN	978-4893118738
参考書	必要に応じて授業時に紹介します。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	社会に出ると、いろいろな機会に様々な文書を書くことが求められます。仕事を始めてから困らないように、社会人として必要になる文書について学修します。文書作成の心構えや基本、思考法などは、レポートや論文の作成に通じるものがあります。この授業での学修を通して、学生時代の文章作成での経験が社会に出て生かされるということが実感できるように、卒業論文やレポートの作成にも挑戦しましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス；テキスト 本書をご利用いた	事前学修：シラバスを確認し、できればテキストを購	4 時間

		だく前に 授業の目的、進め方等の説明を行う。 受講生の構成、人数により、授業内容や進め方は変更することがあります。	入する。 事後学修：第1回の振り返りシートに取り組む。テキストを購入していない人は、次回までにテキストを購入する。	
第2回	対面	ビジネス文書の基本：テキスト第1章 社会に出てから必要とされる文書の種類について学修する。	事前学修：テキスト第1章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第3回	対面	ビジネス文書作成のポイント：テキスト第1章 STEP3 ビジネス文書作成のポイント ビジネス文書の作成手順、書き方の基本、読みやすい文書を作成するポイントについて、学修する。	事前学修：テキスト第1章 STEP3 を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第4回	対面	ビジネス文書の最終チェック：テキスト第1章 STEP4 作成後の最終チェック 校正の重要性や主なチェックポイントについて学修する。	事前学修：テキスト第1章 STEP4 を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第5回	対面	通知書・依頼書：テキスト第2章 用件を明確に伝える通知書・依頼書を作ろう 通知書・依頼書の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどについて学修する。	事前学修：テキスト第2章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第6回	対面	議事録：テキスト第3章 社内会議の議事録を作ろう 議事録の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどを学修する。	事前学修：テキスト第3章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第7回	対面	報告書：テキスト第4章 仕事の状況を正確に伝える報告書を作ろう 報告書の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどを学修する。	事前学修：テキスト第4章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第8回	対面	企画書・提案書：テキスト第5章 提案書・企画書の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどを学修する。	事前学修：テキスト第5章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第9回	対面	案内状・通知状：テキスト第6章 社外に情報を発信する案内状・通知状を作ろう。 案内状・通知状の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどを学修する。	事前学修：テキスト第6章を予習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第10回	対面	お礼状・お詫び状：テキスト第8章 お詫び状の目的や役割、構成する要素、書き方のポイントなどについて、実例をもとに学修する。 小テスト1 テキスト付録1 言葉の常識・非常識から出題する。	事前学修：テキスト第8章を予習する。小テスト1に向けて、付録1を復習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第11回	対面	ビジネスメール：テキスト第9章 メールでビジネス文書を作ろう。 ビジネスメールを構成する要素、書き方のポイント、ルールとマナーなど、ビジネスメールの書き方について学修する。 小テスト2 テキスト付録1 言葉の常識・非常識から出題する。	事前学修：テキスト第9章を予習する。小テスト2に向けて、付録1を復習する。 事後学修：振り返りシートを提出する。次回に授業に向けて、予習プリントに取り組む。	4時間
第12回	対面	定期試験レポートの準備(1)：定期試験レポート作成に向けて、テキスト第5章を参考にして、各自提案書・企画書の題材を探す。	事前学修：テキスト第5章を復習しておく。次回授業に向けて、教員が課した課題に取り組む。 事後学修：振り返りシートを提出する。定期試験レポートに向けて題材を確定する。	4時間
第13回	対面	定期試験レポートの準備(2)：定期試験レ	事前学修：テキスト第5章の復習をする。次回授業に	4時間

		ポート作成に向けて、テキスト第5章を参考にして、各自提案書・企画書の構成を考える。	向けて、教員が課した課題に取り組む。 事後学修：振り返りシートを提出する。作成した構成にもとづき、資料を集める。	
第14回	対面	定期試験レポートの準備(3)：定期試験レポート作成に向けて、テキスト第5章を参考にして、提案書・企画書を構成にもとづき作成する。 受講生間で、作成した文章をもとに、意見交換する。	事前学修：定期試験レポートとして、提案書・企画書の準備を進める。次回授業に向けて、教員が課した課題を提出する。 事後学修：振り返りシートを提出する。定期試験レポートの推敲をする。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ：秋学期の授業内容を振り返る。 「学修の到達目標」をもとに、秋学期の授業で知ったこと、取り組んだこと、考えたことを確認する。	事前学修：定期試験レポートとして、提案書・企画書の作成を進める。 事後学修：定期試験レポートを複数回推敲しながら、完成させ、期限を守って提出する。	4時間

科目名	プレゼンテーション実践	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石川 靖之	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	プレゼンテーション能力の養成		
授業の目的及び概要	就職後はプレゼンテーションする機会が増えます。この授業では、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）の使い方に加え、プレゼンテーションのコツを学び、実際にプレゼンテーション資料を作成することで、他者と差別化された効果的なプレゼンテーションができるようになることを目標とします。		
履修条件・留意点	PowerPoint を使って自分プレゼンテーションを作成していただきますので、各自の PC を持参してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	相手の記憶に残る効果的なプレゼンテーションができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義授業の翌週は前回の復習を行います。また、実践課題はラーニングポータルにアップしていただき、後日受講者にコメント等でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、リクルートで採用広告制作を 5 年、制作会社でイベントや各種広告・販促物・音楽の企画制作等で 15 年の勤務経験を経た後、自らの会社を起業。大手企業から行政、中小企業まで幅広いクライアントを対象に広告・マーケティング分野で 30 年以上の実務経験を有しており、現在も現役プランナーとして活動している。本科目では、これらの実務経験を活かして、具体的な事例を挙げながら、メディアと広告の関連性や機能、課題、今後の可能性について解説する。		
テキスト	指定のテキストはありません。ラーニングポータルにアップする講義資料（パワーポイント等）を用いて行います。	ISBN	なし
参考書	①一生使える 見やすい資料のデザイン入門, 森重湧太, インプレス	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	「約束を守る」こと。これが社会人になってまず問われる能力です。授業を通して約束を守る習慣を身につけながら、いかに自ら積極的に行動できるかがポイントです。課題が多い授業のため、全授業の出席はもとより、受講者自身の積極的な参加と継続的な向上心が必要。単位取得のみの目的ではついてこれません。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	●ガイダンス 教員自己紹介。授業の進め方・注意点について説明	事前：本授業で達成したい目標を決めておくこと（1.5時間程度） 事後：自分プレゼン内容を考えておくこと（1.5時間程度）	3時間
第2回	対面	●プレゼンとは？ プレゼンとはいかに他者と違って、相手にとってプラスになることを伝えるか。 受講生全員に、自分プレゼンしていただきます。	事前：当日の授業で達成したい目標と自分プレゼン内容を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2時間程度）	3時間
第3回	対面	●プレゼンテーションのコツ 人前で話すことが苦にならなくなる10個のポイントをお教えします。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。（3時間程度）	4時間
第4回	対面	●自分キャッチフレーズ制作 自分の強みを中心に自分キャッチフレーズを制作し、ラーニングポータルに提出していただきます。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度）。 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。発表課題作成（3時間程度）	4時間
第5回	対面	●自分キャッチフレーズプレゼン 提出された自分キャッチフレーズのプレゼンをしてもらいます。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：授業で解説した内容を復習すること（2時間程度）	3時間
第6回	対面	●採用されるプレゼン資料の作り方 実際に採用されるプレゼン資料を作成するための5つのポイントをお教えします	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと（2時間程度）	3時間
第7回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術① 全体の構成を考える	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（3時間程度）	4時間
第8回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術② スライドマスター／使用フォント	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（3時間程度）	4時間
第9回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術③ 見やすいレイアウト	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、不明点をなくしておくこと。授業中にできなかった課題は次週までの宿題（3時間程度）	4時間
第10回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術④ 画像の使い方／表紙を作る	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（3時間程度）	4時間
第11回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術⑤ グラフを作る	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（4時間程度）	5時間
第12回	対面	●効果的なパワーポイントでのスライド作成技術⑥ 図形とアニメーション	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：「Learning Portal」に掲載した授業資料に目を通し、授業で実施した方法を実際に操作できるようにしておくこと（4時間程度）	5時間
第13回	対面	●自分プレゼンテーション（前半）	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度）	6時間

		提出されたパワーポイントについての発表・解説。 ※受講人数によりますが、前後半で全員発表を予定	と（1時間程度） 事後：課題作成（5時間程度）	
第14回	対面	●自分プレゼンテーション（後半） 提出されたパワーポイントについての発表・解説。 ※受講人数によりますが、前後半で全員発表を予定	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：解説を聞いて感じたことで、自分のプレゼンテーションの改善を考える（2時間程度）	3時間
第15回	オンデマンド	●総括 オンデマンド動画で、これまで授業で学んできたことのおさらいをします。	事前：当日の授業で達成したい目標を決めておくこと（1時間程度） 事後：授業全体で学んだことを復習すること（4時間程度）	5時間

科目名	比較文化論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	比較文化の視点を養う		
授業の目的及び概要	この授業では、日本文化と異文化の中から具体的な題材を取り上げ、それらの比較を通して、文化が個別性格と普遍的性格を持つことを理解し、個別文化の価値を認識する力を養うことを目指します。従来の専門分野にとらわれず、比較という手法を用いながら、学際的・総合的な文化研究を目指していく考え方を身に付けます。就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育みます。コースの前半（第1～8回）は、職場等での異文化コミュニケーションを背景とした文化比較とその対応策を学修し、後半（第9～14回）は、前半に紹介した事象の背景にある〈文化〉と〈歴史〉をより深く考えます。		
履修条件・留意点	当該科目は「異文化理解」の発展科目であり、英語コミュニケーションにおける「社会/文化」領域の発展科目です。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 文化の個別的側面の特性について理解できる。 2. 文化の違いをなるべく客観的に分析できる。 3. 社会規範を決定する歴史と文化の役割を理解できる。 4. 異なる文化の共通点・相違点を理解し、具体例を挙げることができる。 5. 特に、日本の文化と他の文化の類似点・相違点を把握し、説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。小テストは、採点した上で返却します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『異文化理解力——相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』エリン・メイヤー著、英治出版、2015 ※ 授業の予習・復習、およびレポート作成の時に使用します。	ISBN	9784862762085
参考書	"The Culture Map: Decoding How People Think, Lead, and Get Things Done Across Cultures", Erin Mayer, Public Affairs, 2015 ※ これは教科書の英語版（原文）です。	ISBN	9781610392761
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	国際学部の皆さんにとっては「異文化理解」は大変重要な課題です。日々の積極的な交流や、海外体験を通じて、国際感覚を身に付けることも重要ですが、それに加えて本科目に紹介される理論と具体例の学修によって、異文化理解が更に深まることが期待されます。授業中の積極的な参加（ノート手ーキング、グループワーク、質疑応答など）および予習・復習によって、		

紹介されるアイデアや具体例をよく学修しましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	日本・外国における「コミュニケーション」について （ハイ・コンテキスト文化 vs. ロー・コンテキスト文化）	復習（レジュメ、テキストの第1章、47-84頁）と予習（テキスト第2章、85-118頁）を行うこと。	4時間
第2回	対面	日本・外国における「評価」について （直接的ネガティブ・フィードバック vs. 間接的なネガティブ・フィードバック）	復習（レジュメ、テキストの第2章、85-118頁）と予習（テキスト第3章、119-146頁）を行うこと。	4時間
第3回	対面	日本・外国における「説得」について （原理優先 vs. 応用優先、包括的思考 vs. 特定の思考）	復習（レジュメ、テキストの第3章、119-146頁）と予習（テキスト第4章、147-180頁）を行うこと。	4時間
第4回	対面	日本・外国における「指導」について （平等主義 vs. 階層主義）	復習（レジュメ、テキストの第4章、147-180頁）と予習（テキスト第5章、181-202頁）を行うこと。	4時間
第5回	対面	日本・外国における「決定」について （合意志向 vs. トップダウン式）	復習（レジュメ、テキストの第5章、181-202頁）と予習（テキスト第6章、203-240頁）を行うこと。	4時間
第6回	対面	日本・外国における「信用」について （タスクベース vs. 関係ベース）	復習（レジュメ、テキストの第6章、203-240頁）と予習（テキスト第7章、241-268頁）を行うこと。	4時間
第7回	対面	日本・外国における「意見の違い」について （対立型 vs. 対立回避型）	復習（レジュメ、テキストの第7章、241-268頁）と予習（テキスト第8章、269-294頁）を行うこと。	4時間
第8回	対面	日本・外国における「予定」について （直線的な時間 vs. 柔軟な時間）	復習（レジュメ、テキストの第8章、269-294頁）と予習（第9回のレジュメ）を行うこと。	4時間
第9回	対面	トピック（1）演劇 日本の伝統芸能について（能・歌舞伎・文楽を中心に）	第9回レジュメ・資料の復習、第10回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4時間
第10回	対面	トピック（1）演劇 イギリスや西洋の演劇について（シェークスピアを中心に）・古典演劇の特徴の比較	第10回レジュメ・資料の復習、第11回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4時間
第11回	対面	トピック（2）絵本 日本の絵本について（草双紙を中心に）	第11回レジュメ・資料の復習、第12回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4時間
第12回	対面	トピック（2）絵本 イギリスや西洋の絵本について（19世紀の児童文学を中心に）・児童文学の特徴の比較	第12回レジュメ・資料の復習、第13回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4時間
第13回	対面	トピック（3）宗教と思想 日本の宗教と思想について（神道・仏教・儒教の思想家を中心に）	第13回レジュメ・資料の復習、第14回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4時間
第14回	対面	トピック（3）宗教と思想 イギリスの宗教と思想について（宗教改革・啓蒙時代を中心に）・宗教と思想の比較	第14回レジュメ・資料の復習、第15回レジュメの予習（全てラーニング・ポータルに掲載）を行うこと。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ（レポート試験の執筆へ向けて）	第15回レジュメ・資料の復習を行うこと。	4時間

科目名	多文化共生社会論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎 寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	多文化共生社会の基本的概念および現状を理解する。		
授業の目的及び概要	この授業では、①多文化共生論の基本的概念を正しく理解し、説明できるようになる、②事例を通じて、多文化共生社会の現状を理解する、③自らが多文化共生社会に置かれたときに、適切に振舞えるようになるための考え方を身につけることを目指す。事例として、日本社会に存在する外国人労働者、アイヌ民族、在日コリアン等の文化的マイノリティの状況とともに、世界に視野を広げ、先住民族、宗教的マイノリティ、移住労働者等の問題を取り上げ、これらの問題を解決する方法について検討する。		
履修条件・留意点	【2023 年以降入学生】当該科目は、「国際学基礎 A」の「社会 /文化から見る世界」、専門基礎科目「国際社会学」の上位科目であり、専門発展科目です。これまで学修した異文化理解、国際社会学の基本的知識を前提として多文化共生論の基本的概念を修得する科目であることから、2023 年度以降に入学した方で英語コミュニケーションコースを選択した方の履修を推奨します。また、アジア太平洋コースを選択予定の方も、グローバル化が進む現代社会において身に付けるべき多文化共生論に関する知識と考え方を修得する科目であることから履修を推奨しましょう。 【2022 年以前入学生】当該科目は、法政治文化領域の「異文化理解 I」「異文化理解 II」「異文化適応論」の上位科目であり、専門発展科目「国際理解科目群」です。多文化共生の基本的知識を習得する科目であることから積極的に履修ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 多文化共生社会の基本的概念を理解することができる。 ② 日本並びに海外における多文化共生の現状を具体的な事例から理解することができる。 ③ 自らが多文化共生社会に置かれたときに、適切に振舞えるようになるための考え方を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	原則として授業中の質問等については授業内にフィードバックする。また、毎週ラーニングポータル上で質問・コメントを提出してもらい、明確な質問に対してはコメント機能でフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①「共生」の内実：批判的社会言語学からの問いかけ（新装版）、植田晃次・山下仁編著、三元社、2011 年。 ②批判的想像力のために：グローバル化時代の日本、モーリス＝スズキ、テッサ、平凡社、2013 年。 ③日本型多文化教育とは何か：「日本人性」を問い直す学びのデザイン、松尾知明、明石書店、2023 年。 ④「移民時代」の多文化共生論：想像力・創造力を育む 14 のレッスン、松尾知明、明石書店、2020 年。 その他、適宜授業中に紹介する。 ※授業で扱う「読み物」はすべてラーニングポータルにアップロードするので、各自それをダウンロードして読むこと。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	「多文化」は日本社会においても日常的な現象です。この科目の特に後半においては、多文化共生を目指す具体的な取り組み事例を見ていきますので、「机の上のお勉強」に終わらずに、身近に起きていること、自分に関係していることとしてとらえるようにしてください。その姿勢から、素朴な疑問が生まれてくるはず。この科目ではそうした素朴な疑問を重視し、毎回授業後の1週間の間に質問・コメントをラーニングポータル上で提出してもらいます。疑問と好奇心を持って取り組みれば、必要な知識と理解は自ずと後からついてきます。毎回の予習の読み物をラーニングポータルに掲載するので、事前に読んでから授業に臨むようにしましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション： 多文化共生社会論の履修にあたって、基本的な用語および考え方、世界的な潮流、学修する意義を理解する。	配布資料の予習および復習（3時間程度）	3時間
第2回	対面	多文化共生とは何か①：「文化」とは何か	配布資料の予習および復習（3~4時間程度）： 松尾「4章 文化とは何か」『多文化共生のためのテキストブック』（2011年、明石書店）。	3.5時間
第3回	対面	多文化共生とは何か②：「多文化」と「共生」	配布資料の予習および復習（3~4時間程度）： 松尾「第2章 激しく変化する現代社会：多文化をめぐる見方・考え方」『「移民時代」の多文化共生論』（2020年、明石書店）。 松尾「第1章 多文化主義をめぐる争点：多文化教育を支える理念とは」『日本型多文化教育とは何か』（2023年、明石書店）。	3.5時間
第4回	対面	多文化共生を批判的に読み解く視点	配布資料の予習および復習（3~4時間程度）： モーリス＝スズキ「現代日本における移民と市民権—「コスメティック・マルチカルチャリズム」を克服するために」『批判的想像力のために：グローバル化時代の日本』（2013年、平凡社）。 ハタノ「第3章 在日ブラジル人を取り巻く「多文化共生」の諸問題」植田・山下編『新装版「共生」の内実：批判的社会言語学からの問いかけ』（2011年、三元社）。	3.5時間
第5回	対面	2~4回目振り返りおよび確認テスト①	2~4回で学習した資料の復習（3~4時間程度）	3.5時間
第6回	対面	日本社会の多文化状況：概論	過去10年にわたる日本の「在留外国人数」および出入国状況（推移）について自分で調べる。（3時間程度）	3時間
第7回	対面	日本の多文化の歴史的背景	配布資料の予習および復習（3~4時間程度）： 宮島「第1章「移民国家」日本へ——なぜ、いかにして、を考える」『「移民国家」としての日本：共生への展望』（2022年、岩波新書）。	3.5時間
第8回	対面	日本の「移民」政策：「外国人管理」か「統合」か	配布資料の予習および復習（3~4時間程度）： 松尾「第8章 移民時代の到来：入管法の改正」『「移民時代」の多文化共生論』（2020年、明石書店）。 さらなる学習： 加藤丈太郎「序章 出入国在留管理庁の解体と移民庁の創設」、加藤編著『入管の解体と移民庁の創設：出入国在留管理から多文化共生への転換』（2023年、	3.5時間

			明石書店)。	
第9回	対面	振り返りおよび中間テスト	6~8回で学習した資料の復習(3時間程度)	3時間
第10回	対面	多文化共生に向けた取り組み①:地域・自治体での実践	配布資料の予習および復習(3~4時間程度): 原めぐみ「第3章 紐帯はどのようにして育まれたか:大阪市中央区での多文化家族支援の実践から」高谷ほか編著『多文化共生の実験室:大阪から考える』(2022年、青弓社)。	3.5時間
第11回	対面	多文化共生に向けた取り組み②:「外国人労働者」にまつわる課題と実践	配布資料の予習および復習(3~4時間程度): 大久保・梅村「第7章 地方部の製造業と外国人労働者」徳田ほか編著『地方発 多文化共生のしくみづくり』(2023年、晃洋書房)。	3.5時間
第12回	対面	多文化共生に向けた取り組み③:コロナ禍における実践	配布資料の予習および復習(3~4時間程度): 徳永智子「第5章 コロナ禍を生きる外国につながる若者とのアクションリサーチ:YPARの試み」徳永ほか編著『外国につながる若者をつくる多文化共生の未来:協働によるエンパワメントとアドボカシー』(2023年、明石書店)。	3.5時間
第13回	対面	諸外国における多文化共生①:米国	配布資料の予習および復習(3~4時間程度): 南川文里「第8章 多様性時代における「多からなる一」」『アメリカ多文化社会論(新版):「多からなる一」の系譜と現在』(2022年、法律文化社)。	3.5時間
第14回	対面	諸外国における多文化共生②:オーストラリア、ドイツ、カナダ	配布資料の予習および復習(3~4時間程度):次のいずれかを読む: 梅村麦生「第18章 ドイツの「移民政策」:歴史的経緯と転換の過程から」徳田ほか編著『地方発 多文化共生のしくみづくり』(2023年、晃洋書房)。 古地 順一郎「第19章 移民を地方へ:カナダの「移民政策」の動向」徳田ほか編著『地方発 多文化共生のしくみづくり』(2023年、晃洋書房)。	3.5時間
第15回	オンデマンド	確認テスト②、および授業総括	第1回~第14回授業配布資料の復習(3~4時間程度)	3.5時間

科目名	多文化共生社会論		開講年度	2026 年度春学期
担当者	木村 彩音		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	多文化主義に関する基本的な考え方を身につけ、主要なトピックを取り巻く情勢を理解し異文化と接することを多角的に議論することを目指す。			
授業の目的及び概要	この授業では、①多文化共生論の基本的概念を正しく理解し、説明できるようになる、②事例を通じて、多文化共生社会の現状を理解する、③自らが多文化共生社会に置かれたときに、適切に振舞えるようになるための考え方を身につけることを目指す。事例として、日本および世界で最も成功した多文化主義社会とされるオーストラリアを取り上げ、移民、難民、先住民、そしてマジョリティなどそれぞれの角度から多文化主義とは何かを考えることを目指す。			
履修条件・留意点	本科目は、「国際社会学」の上位科目であり、専門発展科目です。これまで学修した社会・文化並びに越境に関する基本的知識を用いて多文化共生について学修するため「国際社会学」を履修していることが望ましいです。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	多文化主義の基本的な諸概念を理解することができる。 多文化主義に関する主要な議論を理解し、異文化と接することを多角的な視点から捉える姿勢を身につけることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	毎回授業の終わりにコメント記入フォームを配布。次回の授業で復習、フィードバックに利用する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	使用しない。		ISBN	使用しない。
参考書	①オーストラリア多文化社会論：移民・難民・先住民との共生をめざして、関根政美、塩原良和、栗田梨津子、藤田智子編著、法律文化社、2020 年。 ②オーストラリア先住民と日本：先住民学・交流・表象、山内由理子編、御茶の水書房、2014 年。 ③「移民時代」の多文化共生論：想像力・創造力を育む 14 のレッスン、明石書店、2020 年。 他適宜授業中に紹介します。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	まず「文化」とは何でしょうか。具体的な例として慣習や言語、生活様式などを挙げることはできますが、それをたくさん集めれば「文化」という総体になるのでしょうか。また「多文化」はどうでしょうか。様々な国や地域出身の人々が集まると「多文化」状況であるといえるのでしょうか。そうしたなかで異文化と出会い、理解するとはどういうことなのでしょう。この授業では、よく耳にするけれど改めて考えると捉えどころのない文化、そして異文化、多文化			

主義について改めて考え直していきます。唯一の正解はどこにもありませんが、一緒に悩んでみましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション:授業の基本的な構成と枠組みの解説	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第2回	対面	「文化」とは何か	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第3回	対面	「多文化主義」と「多文化共生」:日本とオーストラリアの対比①	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第4回	対面	「多文化主義」と「多文化共生」:日本とオーストラリアの対比②	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第5回	対面	これまでのまとめと小テスト	これまでの復習	4時間
第6回	対面	人種、エスニシティ、民族①	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第7回	対面	人種、エスニシティ、民族②	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第8回	対面	移民を取り巻く状況	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第9回	対面	これまでのまとめと小テスト	これまでの復習	4時間
第10回	対面	先住民とは誰のこと?:日本とオーストラリアの先住民①	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第11回	対面	先住民とは誰のこと?:日本とオーストラリアの先住民②	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第12回	対面	海を渡る日本人移民	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第13回	対面	これまでのまとめと小テスト	これまでの復習	4時間
第14回	対面	フィールドワークに入る-異文化との出会いとは自分との出会い?	配布資料の復習およびノート整理	4時間
第15回	オンデマンド	授業総括	これまでの復習	4時間

科目名	Japanese Culture		開講年度	2026 年度春学期
担当者	ミルズ・ジョナサン		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	日本文化についての知識の修得			
授業の目的及び概要	この授業は英語のみで行われる。授業では、日本文化についての知識を修得することを目的とする。具体的には、授業を通して、現代の日本文化の基盤ともいえる、近世期の文化の理解を深めることを中心的な目標として設定したうえで説明・解説を行い、近世期を中心とする日本文化の特徴を英語で理解し、他者に発信する能力を修得する。さらに、世界から見た日本の文化の特徴を認識したうえ、それを認識するだけではなく、英語で伝えることができる英語力をも培うことを授業の目標とする。就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育む。			
履修条件・留意点	当該科目は「異文化理解」の発展科目であり、英語コミュニケーションにおける「社会/文化」領域の発展科目です。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 日本の文化について、英語で説明できる。 2. 現代・近代・前近代を問わず、日本文化の重要な側面を認識し、それを説明できる。 3. 過去の文化が現代の日本文化に及ぼした影響を理解できる。 4. 日本文化が日本の「ソフト・パワー」に及ぼす影響を理解できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	特定しません。		ISBN	なし
参考書	① 『大江戸見聞録』, 江戸文化歴史検定協会・編, 小学館, 2006 ② "Japan: History and Culture from Classical to Cool", Nancy J. Stalker, University of California Press, 2018		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		40	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	国際学部の皆さんにとっては「異文化理解」は大変重要な課題です。日々の積極的な交流や、海外体験を通じて、国際感覚を身に付けることも重要ですが、それに加えて本科目に紹介される理論と具体例の学修によって、異文化理解が更に深まることが期待されます。授業中の積極的な参加（ノート手ーキング、グループワーク、質疑応答など）および予習・復習によって、紹介されるアイデアや具体例をよく学修しましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	"Course Introduction: Kamigata and Edo" 近世期について考えるきっかけとして、近世の「上方」と「江戸」、それぞれの文化的・社会的・経済的な特徴について検討する。	授業後に、配った第1回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第2回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第2回	対面	"People (1): The Townspeople" 身分社会のなかで、個人の将来はある程度、生まれた時点で定まっていた。しかし、当時の町人は一生懸命文化や学問に励んだ。非常に洗練された町人文化が生み出された背景として、町人文化の特徴について学ぶ。	授業後に、配った第2回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第3回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第3回	対面	"People (2): The Warrior Class" 武士は近世社会の支配階級ではあったが、それでも大名レベルの裕福な武士と、下級武士との間の差が激しかった。戦争がない平和な時代に自己の「存在理由」をどう考えたかということも含め、武家の暮らしの特徴について学ぶ。	授業後に、配った第3回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第4回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第4回	対面	People (3): The Shogun and the Daimyo Lords 徳川将軍は、事実上、国家の統治者であった。しかし、将軍の生活に焦点を合わせると、外国の統治者層の豪華な暮らしに比べて、将軍の日常は質素で、儉約的であった。このような点を踏まえ、将軍や大名の暮らしの特徴について学ぶ。	授業後に、配った第4回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第5回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第5回	対面	"People (4): Women in Premodern Japan" 近世では、儒教の影響が強くなり、女性の権利と自由が束縛され、個性を見せる機会も非常に限られていた。「武家の女性」、「町人の女性」、「遊女」等のいくつかの生き方のパターンに焦点を合わせ、現代の社会への影響についても検討する。	授業後に、配った第5回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第6回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第6回	対面	"People (5): Children in Premodern Japan" 義務教育がなかった時代とはいえ、「寺子屋」という教育機関が普及して、多くの庶民の子どもは読み書きができるようになった。その実態について学ぶ。また、江戸の子ども遊びや玩具についても検討する。	授業後に、配った第6回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第7回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第7回	対面	"Creativity (1): Ukiyoe Prints and Kuzosashi Picturebooks" フランスの印象派に大きな影響を及ぼした「浮世絵」、及び正月に刊行された「草双紙」（絵を主体とする読み物）の紹介を通して、近世人の創造性について学ぶ。	授業後に、配った第7回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第8回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第8回	対面	"Creativity (2): The Kabuki Theatre" 歌舞伎は、単なる「劇」にとどまらず、老若男女を問わず皆の共通文化であり、現代のテレビのような存在であった。歌舞伎の人気俳優、有名な作品、興行等について学ぶ。	授業後に、配った第8回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかり読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第9回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第9回	対面	"Creativity (3): The Joruri Puppet Theatre"	授業後に、配った第9回のレジュメと、自分が授業で	4 時間

		eatre” 浄瑠璃（現代の文楽）は特に近世中期に盛んであり、歌舞伎よりも人気が高い時代（「浄瑠璃の黄金時代」）もあった。時代が下ると人形や三味線の技術も発達し、現代の文楽として観客を魅了し続ける。このような歴史を踏まえ、浄瑠璃の発達と完成について学ぶ。	取ったメモをしっかりと読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第10回授業資料を事前に読んでおくこと。	
第10回	対面	”Creativity (4): Dutch Studies in Japan” 蘭学は、ヨーロッパの科学・技術の学問で、徳川吉宗がこれを奨励した。緒方洪庵が大坂に開いた「適塾」は代表的な蘭学塾で、福沢諭吉等、多くの明治時代の思想家や政治家がここで学んだ。優秀な人材を世に出した理由について検討する。	授業後に、配った第10回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかりと読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第11回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第11回	対面	”Creativity (5): The Tokaido and its Culture” 東海道は、京都より太平洋に沿って東方に至る街道です。江戸時代における東海道の社会的・文化的な重要性と、東海道のロマンが生み出した浮世絵・出版物などについて学びます。	授業後に、配った第11回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかりと読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第12回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第12回	対面	”Heroes (1): The Scholar Sugawara no Michizane” 浄瑠璃の黄金時代の〈三大名作〉の一つ『菅原伝授手習鑑』に登場する菅原道真は、平安時代の政治家・文人・学者として名高いが、死後は「天神」として神格化した。「寺小屋」の神様として、庶民に親しまれた菅原道真の人物像について学ぶ。	授業後に、配った第12回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかりと読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第13回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第13回	対面	”Heroes (2): The Tragic Warrior Minamoto no Yoshitsune and Shizuka Gozen” 〈三大名作〉の一つ『義経千本桜』に登場する源義経は、日本の代表的なフォーク・ヒーローで、その伝説は『義経記』に記される。恋人の静御前も、能や浄瑠璃によく登場する白拍子である。義経に関する多くの浮世絵、草双紙、演劇作品等を通して、源義経と静御前の人物像について学ぶ。	授業後に、配った第13回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかりと読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第14回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第14回	対面	”Heroes (3): Oishi Kuranosuke, Leader of the Ako Ronin” 元禄期に起こった「赤穂浪士事件」は、ようやく平和になった徳川時代の日本人に大きな衝撃を与え、当時の知識人は賛否両論であった。事件を描いた浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』等を通して、大石内蔵助と赤穂浪士の人物像について学ぶ。	授業後に、配った第14回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかりと読み、復習をすること。また、Learning Portal に掲載する第15回授業資料を事前に読んでおくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	授業後に、配った第15回のレジュメと、自分が授業で取ったメモをしっかりと読み、復習をすること。	4 時間

科目名	Cultural Studies	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎 寛	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	How do we shape our life through cultural practices?		
授業の目的及び概要	This course will be conducted in English. The course explores intercultural issues and cultural theories that allow us to understand what we (usually) unconsciously do in everyday, cultural practices and framework, including popular music. At the same time, this course introduces such concepts as “hybridity”, “cultural industry”, “postcoloniality” and “westernisation/modernisation” which enable the students to grasp the cultural interactions and acculturations occurring across “national” border. In particular, the impact of American culture during the post-war period and the acculturation of American values in the context of Japan will be investigated in the last three classes of the course.		
履修条件・留意点	Since this course is conducted in English, students are required to have an appropriate level of English proficiency. For example, a level equivalent at least to 550 points on the TOEIC L&R (B1 level on CEFR scale) is required. For more information on English proficiency standards, please refer to the following website: https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages/table-1-cefr-3.3-common-reference-levels-global-scale Note: There is a possibility of holding a fieldwork in one of the classes if all the enrolled students wish to do so. Note also that in case we do conduct fieldwork, there needs to be some preparation time in the class prior to it.		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	Upon the successful completion of the course, students should be able to: (1) examine everyday cultural practices within broader cultural and historical contexts by using approaches drawn from multiple academic disciplines. (2) demonstrate self-reflexive awareness of Japanese culture and evaluate its position within East Asia. (3) recognize potential challenges in intercultural interactions and propose strategies to address them.		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	The instructor will respond to and give some advice on any questions and comments raised during the class. Feedback to presentation: You will get feedback, including questions and comments, immediately after your presentation in class. Feedback to final essay: The mark and comments on your final essay will be posted on “Report” section of Learning Portal webs.		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。教材はこちらで用意します。	ISBN	特になし。
参考書	①Introducing Cultural Studies, Longhurst, Brian et al, London: Routledge, 2017. ②Cultural Studies: A Critical Introduction, During, Simon, New York: Routledge, 2005. ③The Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness, Gilroy, Paul, Harvard University Press, 1993.	ISBN	0

	④Sound Effects: Youth, Leisure and the Politics of Rock 'n' Roll, Frith, Simon, New York: Pantheon, 1981. ⑤A Vocabulary of Culture and Society, Williams, Raymond , Routledge (Routledge revivals), on “Culture” , 1976=2011.		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	Presentation（プレゼンテーション）	
この科目の受講にあたって	The most challenging aspect of this class for the students will be to engage with critical thinking in English. To successfully to do so will require that they work in groups outside of class to analyse the readings in preparation of class discussion.		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Introduction: Outline of the course explained. Self-introductions.	Please review the materials (outline paper and PPT file) posted on Learning Portal. If possible, also read the following reading material for preparing the next class: Page 4-7, "1.1 What is Culture?" in 'Chapter 1 Culture and Cultural Studies', in Longhurst (2017), Introducing Cultural Studies, London: Routledge.	4 時間
第2回	対面	What is "culture"?: Different definitions of culture: its transition in multiple contexts	Please read the following materials beforehand. Page 4-7, "1.1 What is Culture?" in 'Chapter 1 Culture and Cultural Studies' in Brian Longhurst et al. (2017), Introducing Cultural Studies, London: Routledge. Raymond Williams (1976), Keywords: A Vocabulary of Culture and Society, Oxford Univ Press.	4 時間
第3回	対面	Introduction to Cultural Studies Why and how of the discipline / culture as the production of meaning	Please read the following material beforehand. 'Chapter 1: Culture and Cultural Studies' in Brian Longhurst et al. (2017), Introducing Cultural Studies, London: Routledge, pp3-11.	4 時間
第4回	対面	Case 1: cultural analysis Situating music piece(s) in historical, economic, political and social context	Seek and find a newspaper article on the issue of 'music and immigrants' or 'music and cultural diversity'.	4 時間
第5回	対面	Case 2: more in-depth cultural analysis: Critical analysis of music in relation to the concept of "power", and in the context of music industry (from Fordism to Post-Fordism)	Please read the following material beforehand. 'Chapter 4: Identities' of Keith Negus, Popular Music in Theory: An Introduction. Cambridge: Polity Press, 1996. Instruction on the specific sections or pages on the chapter will be given in the class. (この章のどの部分を読むべきかの具体的な指示は授業中に行う。)	4 時間

第6回	対面	Cultures and hybridity in Theory: Theories: Paul Gilroy and George Lipsitz	Please read the following material beforehand. 'Chapter1 Culture and Cultural Studies' in Brian Longhurst et al. (2017), <i>Introducing Cultural Studies</i> , London: Routledge, pp-11-17.	4 時間
第7回	対面	Case1: analysis of cultural hybridity: Diaspora and hybridity Presentation Day 1	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal. Be prepared to the presentation.	4 時間
第8回	対面	Case2: more in-depth analysis of cultural hybridity in the political-historical nexus: "Black" music and Enka Presentation Day 2	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal. Be prepared to the presentation.	4 時間
第9回	対面	Colonialism and Culture: Problem of cultural representation	Please read the following material beforehand. '6.6 Discourses of Orientalism' in 'Chapter 6: Topographies of culture: geography, meaning and power' in Brian Longhurst et al. (2017), <i>Introducing Cultural Studies</i> , London: Routledge, pp.206-211.	4 時間
第10回	対面	Case Study of colonialism and culture: Okinawan Music	Please read the following material beforehand: James E. Robertson, "Uchina Pop: Place and Identity in Contemporary Okinawan Popular Music" in Laura Hein & Mark Selden eds., <i>Islands of Discontent: Okinawan Responses to Japanese and American Power</i> , Oxford: Rowman & Littlefield Publishers.	4 時間
第11回	対面	Western impact on Japan Critical perspective on the beginning of "modern" Japan	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal.	4 時間
第12回	対面	Case1: From the end of Edo shogunate to the beginning of Meiji Production of "Japanese-ness" and its "value" through cultural practices	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal.	4 時間
第13回	対面	Case2: critical analysis of post-war Japanese society The impact of "America" on the Japanese lifestyle and political view	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal. Shunya, Yoshimi (2008), 'What Does "American" Mean in Postwar Japan?', <i>Nanzan Review of American Studies</i> (Vol. 30: 83-7).	4 時間
第14回	対面	Consumer Society in Japan and Beyond (cont. from the last class) Cultural consumption and 'comfortable' servitude	Please read and take notes on the reading material posted on Learning Portal. Mōri, Yoshitaka (2011), 'The Pitfall Facing the Cool Japan Project: The Transnational Development of the Anime Industry under the Condition of Post-Fordism', <i>International Journal of Japanese Sociology</i> , Number 20.	4 時間
第15回	オンライン デマンド	Wrapping up ...and submission of final project (essay)	Make sure you finish writing your final essay. If you have any question on the essay, do ask me through Learning Portal or email.	4 時間

科目名	Multicultural Society	開講年度	2026 年度春学期
担当者	青柳 達也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語による多文化主義、異文化理解入門		
授業の目的及び概要	多文化主義をめぐる各国、各トピックの事例をもとに、多文化主義に関する基本的な考え方を身につけ、異文化と接すること、多様な人々が共存することとはどういうことかを考察、議論し、自身の考えを深めることを目的とする。授業では国家単位での多文化主義に加え、集団や個人の単位での異なる文化との接触やその際に生じる様々な事象を議論の題材として扱う。		
履修条件・留意点	講義は基本的に英語でおこないます（日本語は補助的に用います）。テキストも全て英語で書かれています。必須ではありませんが、履修にあたって一定程度の英語力（TOEIC500 点以上が目安）があることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多文化主義やそれに関する主要なトピックの基本的な内容を理解すること。 異文化理解に関する様々な課題について理解すること。 学習した内容を英語で説明すること。 学習した内容について、自身の考えを英語で述べ、また相手の意見に対して質問、コメントができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業の終わりにコメント記入フォームを配布。次回の授業で復習、フィードバックに利用する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Global Perspectives in the English-speaking World: Past and Present グローバル・マインドへの道：英語圏の歴史と文化、JA Kusaka、Jesse Elam、Dax Thomas 著、松柏社、2022 年。	ISBN	978-4-88198-776-6
参考書	Multiculturalism: A Very Short Introduction、Ali Rattansi 著、Oxford University Press、2011 年。 その他適宜授業中に提示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	35	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	英語で多文化主義、異文化理解を学ぶことは、決して楽なことではありませんが、国際社会に出るうえで必ず武器となります。英語で学び考える力を一緒に育てていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション、自己紹介など。	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単	3 時間

		Chapter 1 Colonialism: The English Language	語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	
第2回	対面	Chapter 2 Postcolonialism: Reclaiming Cultural Identity	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第3回	対面	Chapter 3 Neocolonialism: The North-South Divide	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第4回	対面	Chapter 4 The UK: Immigration and Nationalism	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第5回	対面	Chapter 5 Ireland: Religion and Repression	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第6回	対面	Chapter 6 Nigeria: Ethnic Conflict and Cultural Expression	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第7回	対面	Chapter 7 South Africa: Racism and Mythology	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第8回	対面	これまでの振り返りと確認テスト	これまで学習した単語を確認のうえ、各 Chapter の Reading Part を再読しておくこと。 Part C・D の Quiz の内容も再度おさらいしておくこと。	3 時間
第9回	対面	Chapter 8 New Zealand: Tradition and Cultural Resurgence	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第10回	対面	Chapter 9 Australia: Heritage and Acculturation	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第11回	対面	Chapter 10 Singapore: Language and Cultural Hybridity	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第12回	対面	Chapter 11 India: Education and Emigration	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	3 時間
第13回	対面	これまでの振り返りと確認テスト	これまで学習した単語を確認のうえ、各 Chapter の Reading Part を再読しておくこと。 Part C・D の Quiz の内容も再度おさらいしておくこと。	3 時間
第14回	対面	多文化共生・異文化理解に関する映画鑑賞	映画の背景知識に関する教材を事前に読んでおくこと。	2 時間
第15回	オンデマンド	授業内容のまとめ(確認小テスト対策の復習用)	各確認テストの前にオンデマンド教材を視聴し復習しておくこと。	3 時間

科目名	Multicultural Society	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木村 彩音	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語による多文化主義、異文化理解入門		
授業の目的及び概要	多文化主義をめぐる各国、各トピックの事例をもとに、多文化主義に関する基本的な考え方を身につけ、異文化と接すること、多様な人々が共存することとはどういうことかを考察、議論し、自身の考えを深めることを目的とする。授業では国家単位での多文化主義に加え、集団や個人の単位での異なる文化との接触やその際に生じる様々な事象を議論の題材として扱う。		
履修条件・留意点	講義は基本的に英語でおこないます（日本語は補助的に用います）。テキストも全て英語で書かれています。必須ではありませんが、履修にあたって一定程度の英語力（TOEIC500 点以上が目安）があることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	多文化主義やそれに関する主要なトピックの基本的な内容を理解すること。 異文化理解に関する様々な課題について理解すること。 学習した内容を英語で説明すること。 学習した内容について、自身の考えを英語で述べ、また相手の意見に対して質問、コメントができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回授業の終わりにコメント記入フォームを配布。次回の授業で復習、フィードバックに利用する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Global Perspectives in the English-speaking World: Past and Present グローバル・マインドへの道：英語圏の歴史と文化、JA Kusaka、Jesse Elam、Dax Thomas 著、松柏社、2022 年。	ISBN	978-4-88198-776-6
参考書	Multiculturalism: A Very Short Introduction、Ali Rattansi 著、Oxford University Press、2011 年。 その他適宜授業中に提示します。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	35	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	英語で多文化主義、異文化理解を学ぶことは、決して楽なことではありませんが、国際社会に出るうえで必ず武器となります。英語で学び考える力を一緒に育てていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション、自己紹介など。	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単	4 時間

		Chapter 1 Colonialism: The English Language	語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	
第2回	対面	Chapter 2 Postcolonialism: Reclaiming Cultural Identity	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第3回	対面	Chapter 3 Neocolonialism: The North-South Divide	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第4回	対面	Chapter 4 The UK: Immigration and Nationalism	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第5回	対面	Chapter 5 Ireland: Religion and Repression	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第6回	対面	Chapter 6 Nigeria: Ethnic Conflict and Cultural Expression	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第7回	対面	Chapter 7 South Africa: Racism and Mythology	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第8回	対面	これまでの振り返りと確認テスト	これまで学習した単語を確認のうえ、各 Chapter の Reading Part を再読しておくこと。 Part C・D の Quiz の内容も再度おさらいしておくこと。	4 時間
第9回	対面	Chapter 8 New Zealand: Tradition and Cultural Resurgence	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第10回	対面	Chapter 9 Australia: Heritage and Acculturation	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第11回	対面	Chapter 10 Singapore: Language and Cultural Hybridity	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第12回	対面	Chapter 11 India: Education and Emigration	予習として該当箇所の Reading Part を読み、新出単語を調べておくこと。 次回の単語小テストに向けて復習をしておくこと。	4 時間
第13回	対面	これまでの振り返りと確認テスト	これまで学習した単語を確認のうえ、各 Chapter の Reading Part を再読しておくこと。 Part C・D の Quiz の内容も再度おさらいしておくこと。	4 時間
第14回	対面	多文化共生・異文化理解に関する映画鑑賞	映画の背景知識に関する教材を事前に読んでおくこと。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業内容のまとめ(確認小テスト対策の復習用)	各確認テストの前にオンデマンド教材を視聴し復習しておくこと。	4 時間

科目名	International Migration	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎 寛	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会における国際移民の潮流と課題を理論と事例から理解する。		
授業の目的及び概要	この授業は英語で行われます。この授業では、グローバル化に伴う人口移動の動向、移民と国民国家の問題、シティズンシップや文化、政治経済をめぐる移民の新潮流を理解することを目的とします。移民社会化の流れを、エスニシティの多様性、人種差別、多文化主義から読み解き、議論します。また、世界の移民社会について学修することで、グローバル社会で活躍するために必要な国際理解力、異文化理解力、国際感覚、英語運用能力を養います。就業力育成の観点から論理的思考力や幅広い視野を育みます。		
履修条件・留意点	この科目は、社会・文化領域の専門発展科目であり、「国際社会学」「多文化共生社会論」「Multicultural Society」の上位科目であり、授業はすべて英語で実施されます。履修者の英語運用能力に合わせ、授業計画に沿って実施します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①国際移民の動向を英語で理解することができる。 ②国際移民が社会にもたらす具体的変化を理解することができる。 ③国際移民に関する理論・政策・文化について修得し、自分の考えを英語をツールとして伝えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	確認テスト及びグループワーク（プレゼンテーション）について講評と解説をおこなう。またレビュークイズについて採点及びコメントを記載した後、返却する。必要に応じてメールやラーニングポータルを通じてフィードバックすることもある。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①”The Age of Migration: International Population Movements in the Modern World (6th Edition)” Hein de Haas, Stephen Castles 他, Red Globe Press, 2019	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国境を越える国際移民は、決して新しい現象ではありません。人類は貧困、紛争、環境悪化のために新たなチャンスを求めて過去 2、3 世紀の間、移動してきました。国際移民として活躍する研究者、技術者、労働者が世界中に拡散する一方、国家と国際移民、マジョリティと移民との間で今なお紛争や問題が生じています。この授業では、英語で国際移民の潮流を理解し、国際移民がおかれている社会環境の課題と可能性について議論します。専門的な内容を理解するためには、そのための事前事後学修が必要です。授業内で出された課題を学修し、授業内では、		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業概要の説明。国際移民のイントロダクション。 第1回目テーマ「国際移民とは何か」 1. 国際移民とは何か。 2. 人が国境を越える要因は何か。 3. 或いは国境を越える要因は必要か。	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. 国際移民とは何か。 2. 人が国境を越える要因は何か。 3. 或いは国境を越える要因は必要か。 の復習（2時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. グローバリゼーション：グローバル化と国際化の違い 2. 移民：グローバル移民か国際移民か 3. 地域別にみる国際移民の動態 の予習（2時間程度）	4時間
第2回	対面	第2回目テーマ「グローバル移民の挑戦」 1. グローバリゼーション：グローバル化と国際化の違い 2. 移民：グローバル移民か国際移民か 3. 地域別にみる国際移民の動態	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. グローバリゼーション：グローバル化と国際化の違い 2. 移民：グローバル移民か国際移民か 3. 地域別にみる国際移民の動態 の復習（2時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. プッシュ・プル理論、そして新たな潮流 2. 送出国、受入国、そして第三の潮流（ディアスポラ） 3. ディアスポラとは何か の予習（2時間程度）	4時間
第3回	対面	第3回目テーマ「現代の移民」 1. プッシュ・プル理論、そして新たな潮流 2. 送出国、受入国、そして第三の潮流（ディアスポラ） 3. ディアスポラとは何か	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. プッシュ・プル理論、そして新たな潮流 2. 送出国、受入国、そして第三の潮流（ディアスポラ） 3. ディアスポラとは何か の復習（2時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. 移民のグローバル化/加速化 2. 移民の多様化 2. 1 ジェンダー 2. 2 エスニシティ 2. 2 政治 の予習（2時間程度）	4時間
第4回	対面	第4回目テーマ「現代の移民：その一般的傾向」 1. 移民のグローバル化/加速化 2. 移民の多様化 2. 1 ジェンダー 2. 2 エスニシティ 2. 2 政治	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. 移民のグローバル化/加速化 2. 移民の多様化 2. 1 ジェンダー 2. 2 エスニシティ 2. 2 政治 の復習（2時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. 国際移民の規制問題：規制される移民 2. エスニシティの多様性：移民国への影響と課題 の予習（2時間程度）	4時間
第5回	対面	第5回目テーマ「エスニシティの多様性、人種差別、そして多文化主義」 1. 国際移民の規制問題：規制される移民 2. エスニシティの多様性：移民国への影響と課題	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. 国際移民の規制問題：規制される移民 2. エスニシティの多様性：移民国への影響と課題 の復習（2時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. 事例を通してみる人種差別とマイノリティ：アメ	4時間

			リカの場合 2. 事例を通してみる人種差別とマイノリティ：日本の場合 の予習（2時間程度）	
第6回	対面	第6回目テーマ「エスニシティの多様性、人種差別、そして多文化主義」 1. 事例を通してみる人種差別とマイノリティ：アメリカの場合 2. 事例を通してみる人種差別とマイノリティ：日本の場合	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. 事例を通してみる人種差別とマイノリティ：アメリカの場合 2. 事例を通してみる人種差別とマイノリティ：日本の場合 の復習（2時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. 人種差別とマイノリティ 2. 人種という暴力 3. マイノリティとシティズンシップ：国籍取得の諸課題 の予習（2時間程度）	4時間
第7回	対面	第7回目テーマ「エスニシティの多様性、人種差別、そして多文化主義」 1. 人種差別とマイノリティ 2. 人種という暴力 3. マイノリティとシティズンシップ：国籍取得の諸課題	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. 人種差別とマイノリティ 2. 人種という暴力 3. マイノリティとシティズンシップ：国籍取得の諸課題 の復習（2時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. 多文化主義とは何か 2. 自由主義と多文化主義 3. 多文化主義の事例：その特性と課題 の予習（2時間程度）	4時間
第8回	対面	確認テストの実施（第1～第7回） 第8回目テーマ「エスニシティの多様性、人種差別、そして多文化主義」 1. 多文化主義とは何か 2. 自由主義と多文化主義 3. 多文化主義の事例：その特性と課題	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. 多文化主義とは何か 2. 自由主義と多文化主義 3. 多文化主義の事例：その特性と課題 の復習（2時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 「国際移民の潮流、エスニシティ、多文化主義について復習とディスカッション」 の復習と準備（2時間程度）	4時間
第9回	対面	第9回目テーマ「国際移民の潮流、エスニシティ、多文化主義について復習とディスカッション」	事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. 国民と国家 2. トランスナショナリズム理論 3. シティズンシップ理論 の予習（4時間程度）	4時間
第10回	対面	第10回目テーマ「移民理論」 1. 国民と国家 2. トランスナショナリズム理論 3. シティズンシップ理論	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. 国民と国家 2. トランスナショナリズム理論 3. シティズンシップ理論 の復習（2時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. グローバルな移民の流れ 2. 西欧主要国内の移民マイノリティの人口：1950～1970 3. 2000年以降の動態 の予習（2時間程度）	4時間
第11回	対面	第11回目テーマ「1945年以降のヨーロッパへの移民」 1. グローバルな移民の流れ 2. 西欧主要国内の移民マイノリティの人口：1950～1970	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. グローバルな移民の流れ 2. 西欧主要国内の移民マイノリティの人口：1950～1970 3. 2000年以降の動態	4時間

		3. 2000 年以降の動態	の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. グローバルな移民の流れ 2. 現代のエスニシティとマイノリティ：アメリカの場合 3. 現代のエスニシティとマイノリティ：カナダの場合 の予習（2 時間程度）	
第 12 回	対面	第 12 回目テーマ「南北アメリカへの移民」 1. グローバルな移民の流れ 2. 現代のエスニシティとマイノリティ：アメリカの場合 3. 現代のエスニシティとマイノリティ：カナダの場合	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. グローバルな移民の流れ 2. 現代のエスニシティとマイノリティ：アメリカの場合 3. 現代のエスニシティとマイノリティ：カナダの場合 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. グローバルな移民の流れ 2. アジアから西洋への移民の特徴 3. アジア内部での労働移民とその課題 の予習（2 時間程度）	4 時間
第 13 回	対面	第 13 回目テーマ「アジア太平洋地域への移民」 1. グローバルな移民の流れ 2. アジアから西洋への移民の特徴 3. アジア内部での労働移民とその課題	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. グローバルな移民の流れ 2. アジアから西洋への移民の特徴 3. アジア内部での労働移民とその課題 の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 1. マイノリティと受入社会 2. 新たなエスニック・マイノリティの形成 3. 日本におけるエスニック・マイノリティのコミュニティ の予習（2 時間程度）	4 時間
第 14 回	対面	第 14 回目テーマ「新たなエスニック・マイノリティが織りなす社会」 1. マイノリティと受入社会 2. 新たなエスニック・マイノリティの形成 3. 日本におけるエスニック・マイノリティのコミュニティ	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 1. マイノリティと受入社会 2. 新たなエスニック・マイノリティの形成 3. 日本におけるエスニック・マイノリティのコミュニティ の復習（2 時間程度） 事後学修：次回扱うテーマの配布資料 「国際移民の潮流、理論、エスニシティ、地域について復習とディスカッション」 の復習と準備（2 時間程度）	4 時間
第 15 回	オンデマンド	第 15 回目テーマ「国際移民の潮流、理論、エスニシティ、地域について復習とディスカッション」の総括	事後課題：授業内で指定したテーマの配布資料 「国際移民の潮流、理論、エスニシティ、地域について復習とディスカッション」 の復習 Final Essay の提出	4 時間

科目名	言語文化論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岡村 徹	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語と文化の関わりについての基礎知識を得て、社会の中での相対的な自己の在り方を考える。		
授業の目的及び概要	本講義においては、多角的な視点から言語と文化の関わりについて検討し、個別の言語や文化を相対的に位置付けることを目的とする。結果として、「〇〇人としての自分」という表象を乗り越え、自己の概念を再構築することによって、さまざまな言語・文化の人々と円滑にコミュニケーションを取れるようになることが期待される。		
履修条件・留意点	授業を通じ、グループワークやペアワークなどを実施するため、口頭でのコミュニケーション能力が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文化の定義、および言語と文化の関係を明示的に説明することができる。 ・多様なバックグラウンドを持つ他者および文化事象を一貫した姿勢で理解する力を身につけ、円滑にコミュニケーションを行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内でリフレクションペーパー、課題に対するフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし ※授業内で適宜プリント等の配布を行う。	ISBN	なし
参考書	①異文化コミュニケーションのための基礎知識、伊藤 明美、大学教育出版，2020 年 ②記号論講義 一日常生活批判のためのレッスン，石田英敬，筑摩書房，2020 年 ③構築主義とは何か，上野千鶴子，勁草書房，2001 年 ④「対話」の文化～言語・宗教・文明～，服部 英二・鶴見 和子，藤原書店，2006 年 ⑤翻訳語成立事情，柳父 章，岩波書店，1982 年 ⑥日本人論再考，船曳 建夫，講談社，1990 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	この授業は、異文化間交流の実践を目的とし、講義に加え、グループワーク・ペアワーク、ディスカッションなどを多く実施します。そのため、積極的な態度や発言が求められます。さまざまなルーツを持つ学生たちとの交流を通じ、身近な「言語」と「文化」を遠くから眺めることによって新しい視点を獲得しましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントラダクション	事前学修(2時間):「ことば」「文化」に関する経験を整理しておく。また、関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第2回	対面	人類の知的財産としての言語文化(1)	事前学修(2時間):「文化」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第3回	対面	人類の知的財産としての言語文化(2)	事前学修(2時間):「文化」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第4回	対面	人類の知的財産としての言語文化(3)	事前学修(2時間):「危機言語」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第5回	対面	人類の知的財産としての言語文化(4)	事前学修(2時間):「危機言語」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第6回	対面	人類の知的財産としての言語文化(5)	事前学修(2時間):「危機言語」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第7回	対面	人類の知的財産としての言語文化(6)	事前学修(2時間):「危機言語」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第8回	対面	英語の多様化・国際化と英語の再文化化(1)	事前学修(2時間):「英語の多様性」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第9回	対面	英語の多様化・国際化と英語の再文化化(2)	事前学修(2時間):「英語の多様性」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第10回	対面	英語の多様化・国際化と英語の再文化化(3)	事前学修(2時間):「英語の多様性」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間
第11回	対面	英語の多様化・国際化と英語の再文化化(4)	事前学修(2時間):「英語の多様性」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2時間):他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4時間

第12回	対面	英語の多様化・国際化と英語の再文化化 (5)	事前学修(2 時間)：「英語の多様性」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第13回	対面	英語の多様化・国際化と英語の再文化化 (6)	事前学修(2 時間)：「英語の多様性」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第14回	対面	英語の多様化・国際化と英語の再文化化 (7)	事前学修(2 時間)：「英語の多様性」に関連する新聞記事や書籍などを探し、実際に読んでみる(参考図書の一部を読むことも可)。 事後学修(2 時間)：他の受講生とのグループワークの内容を整理し、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	事前学修(2 時間)：これまでの授業の内容を復習し、自己を相対化するのに役立つ概念をまとめておく。 事後学修(2 時間)：レポート課題に取り組めるよう、授業スライドや資料の復習をする。	4 時間

科目名	観光資源論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山本 訓弘	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	観光資源を「分類して理解する」「体験として説明する」「地域で活かす」ための基礎を学び、観光資源について正しくレポートを書く力を身につける。		
授業の目的及び概要	本授業は、観光資源を自然・文化・食・産業・イベント等の観点から整理し、観光資源が観光体験として価値を生む仕組み（資源→体験→価値）を学ぶ。 あわせて、日本の地理や地域特性、交通・政策・ビジネスの基礎を踏まえ、地域の観光資源を説明・評価し、簡単な改善案まで考えられる力を養う。 本授業はオンデマンド形式で実施し、各回の動画視聴と確認課題（チェックイン課題）、中間確認テスト、期末テスト、最終課題（テンプレート記述）により学修を進める。 留学生を含む受講者が多いことを踏まえ、重要語句は整理して提示し、短い文章で説明する練習を重視する。		
履修条件・留意点	(1) オンデマンド受講の基本 各回の教材（動画・資料）を視聴し、指定期限までに「チェックイン課題」を提出する。提出は学修の証跡となるため、期限管理を徹底する（期限後の取り扱いは授業内指示に従う）。受講上の連絡・課題提示・提出は LMS で行う。 (2) 学習環境（受講姿勢） 本授業は受講者数が多いため、指示やルールを明確にし、公平に運用する。提出物は「学修成果」として扱い、他者の成果の流用や不正が疑われる場合は学修成果として認めない。 (3) 留学生への配慮（言語面） 重要語句は毎回整理して提示し、必要に応じて簡単な言い換えを行う。日本語理解に不安がある場合、辞書・翻訳補助の利用は可とする。 (4) 生成 AI の扱い（重要） 生成 AI は「構成整理・言い換え・推敲・翻訳補助」目的で使用可。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 観光資源を分類し、資源の特徴を説明できる。 2. 観光資源を「体験」として言語化し、観光客にとっての価値を短文で説明できる。 3. 日本の地理・地域特性を踏まえ、地域の観光資源を具体的に挙げて整理できる。 4. 観光資源に関する課題（受入・アクセス・混雑等）を整理し、簡単な改善案を提案できる。 5. 指示を読み、期限内に提出し、根拠を添えて説明する学修習慣を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間確認テスト・期末テストは、解説または要点を LMS で提示する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、町の観光協会の役割を担う一般社団法人吉野ビジターズビューローにて、観光振興コンサルティングや調査を行う業務に 6 年間従事してきた。また、ビデオゲーム開発職に 18 年従事し、プロジェクトマネジメントを行う経験も有する。観光振興の実践的な知識に加え、情報管理など、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	なし。レジュメ（PDF）を Learning Portal で配布します。	ISBN	なし
参考書	授業内で適宜指示する（指定購入は不要）。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	

	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	20
	その他の内容	講義への参画態度
この科目の受講にあたって	事前学習（予習）：授業前に LMS 掲載の資料・用語を確認し、分からない語句を調べてメモする。 事後学習（復習）：授業内容を要点（キーワード）で整理し、短文で説明できるようにまとめ直す。課題やテストの誤答は原因を確認し、資料を再確認する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	第1回 オリエンテーション（授業の進め方／評価／提出／生成 AI 方針）授業の受け方、提出方法、評価方法、学修の進め方を確認する。 生成 AI の扱い（可／不可、捏造禁止、学修成果としての基準）を共有する。 【課題】受講ルールの要点	復習：授業内容の振り返りを行う	1 時間
第2回	オンデマンド	第2回 観光・体験型観光とは（観光の要素／体験の考え方）観光の基本概念、観光を構成する要素 体験型観光：資源→体験→価値の考え方（チェックイン課題）短文で「体験」を説明	事前学習（予習）：LMS に掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）：視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	2.5 時間
第3回	オンデマンド	第3回 観光資源の分類と見方（自然資源／温泉・療養）観光資源の分類（自然・文化・食・産業・イベント等） 自然資源（景観・四季・災害） 温泉・療養／ヘルスツーリズムの基礎（チェックイン課題）分類＋短文	事前学習（予習）： LMS に掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）： 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	2.5 時間
第4回	オンデマンド	第4回 レポートの書き方①：観光資源を「論理的に」説明する型レポートの基本（結論→理由→具体→まとめ） 「具体」とは何か（固有名詞・場所・行動・導線・季節など） 悪い例／良い例（短文）で改善練習（チェックイン課題）テンプレに沿って 100～150 字	事前学習（予習）： LMS に掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）： 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	3 時間
第5回	オンデマンド	第5回 レポートの書き方②：生成 AI がダメな理由／正しい使い方なぞ丸投げがダメか（学修成果にならない／不自然・捏造／評価が下がる） OK：言い換え・推敲・構成整理・翻訳補助 NG：本文丸ごと生成・体験捏造 「AI っぽさ」の特徴（抽象語、一般論、地理感の欠如） （チェックイン課題）自分の短文を“人の文章”に直す（必要に応じ AI 利用ログ）	事前学習（予習）： LMS に掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）： 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	3 時間
第6回	オンデマンド	第6回 日本の地理と観光（地域差・気候・移動の感覚）日本の地理・気候の基礎、地域差と観光資源	事前学習（予習）： LMS に掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からな	3 時間

		移動時間の感覚（都市間・県内移動） レポートで必要な「場所の書き方」（県／市／エリア） （チェックイン課題）地理要素を入れた短文	い語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）： 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	
第7回	オンデマンド	第7回 都市の観光資源（大阪を例に：都市構造・歴史・資源）都市の資源（歴史・食・エンタメ・回遊） 大阪の観光資源を体験として説明する （チェックイン課題）大阪の資源を1つ、体験+根拠で短文	事前学習（予習）： LMSに掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）： 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	3 時間
第8回	オンデマンド	第8回 近畿の観光資源①（京都・奈良・滋賀）文化資源中心に比較（資源タイプ／受入／季節性） （チェックイン課題）3地域の違いを分類で整理	事前学習（予習）： LMSに掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）： 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	3 時間
第9回	オンデマンド	第9回 近畿の観光資源②（和歌山・兵庫）+中間範囲の整理自然・温泉・港湾・都市など多様性を比較 中間テスト範囲の要点整理 （チェックイン課題）中間対策キーワード提出	事前学習（予習）： LMSに掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）： 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	4 時間
第10回	オンデマンド	第10回 中間確認テスト（LMS上）+要点の講評第1～9回の理解確認（自動採点） 誤答が多いポイントの解説 （チェックイン課題）弱点メモ（短文）	事前学習（予習）： LMSに掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）： 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	6 時間
第11回	オンデマンド	第11回 マイクロツーリズム／ヘルスツーリズム（資源の条件）近場で資源を見つける視点（観察の方法） ヘルスツーリズムの再整理（資源の条件・受入） （チェックイン課題）身近な資源を1つ挙げ、条件を満たす理由	事前学習（予習）： LMSに掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）： 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	6 時間
第12回	オンデマンド	第12回 交通と観光（アクセス・回遊・時間距離）アクセスと回遊、時間距離 交通の違いが体験を変える （チェックイン課題）アクセス課題と改善案	事前学習（予習）： LMSに掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句（キーワード）を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習（復習）：	6 時間

			視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題（チェックイン課題）を受講・提出すること。	
第13回	オンデマンド	第13回 観光政策／自治体・観光協会・DMO(担い手) 観光の担い手と役割分担(誰が何をするか) (チェックイン課題) 課題を1つ選び、担い手別に整理	事前学習(予習): LMSに掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句(キーワード)を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習(復習): 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題(チェックイン課題)を受講・提出すること。	6時間
第14回	オンデマンド	第14回 観光ビジネスとマーケティング (観光商品・集客の基本) 観光ビジネスの全体像(宿泊・交通・飲食・体験) ターゲットと価値、集客の基本 (チェックイン課題) ターゲット+価値を短文で	事前学習(予習): LMSに掲載する動画・資料を事前に確認し、授業で出てくる重要語句(キーワード)を把握する。分からない語句は辞書等で調べ、質問したい点をメモしておく。 事後学習(復習): 視聴後に、内容の要点をキーワードで整理し、簡単にまとめ直す。あわせて、出席確認の課題(チェックイン課題)を受講・提出すること。	6時間
第15回	オンデマンド	第15回 まとめ/期末テスト(LMS上) ／最終課題の提出確認全体の要点整理 最終課題(観光資源レポート)の提出要領再確認	事前学習(予習): これまでの講義を整理しておく 事後学習(復習): 視聴後に、レポート作成を行う。	6時間

科目名	国際観光論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎 友里	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際観光の歴史について概観し、旅行者・観光事業者・地域の取り組みを概観する。		
授業の目的及び概要	21 世紀は人々の移動が地球規模で行われる。観光が世界経済の大きな柱となってきた為、「国際観光の時代」といわれている。超高齢化社会を迎える日本において「観光」は注目を集める成長産業である。特に 2013 年以降、インバウンド観光客の増加は驚異的とも言える。本授業は、国際観光の歴史的変遷を把握し、特に、今後日本経済の牽引役への成長期待も大きいインバウンドと地域観光について学ぶ。また、様々な実例を通して、観光現象に接近する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 授業内容を理解し、論理的に説明できる。 2. 持続可能な観光や、地域を再生させている地域の観光形態を理解する。 3. 今後の日本における観光政策として、どのような視点が重要を考えられる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	質問への回答や補足説明をします。 優秀なコメントは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『観光という虚像：アイデンティティをめぐる地方自治体の自問自答』、宮崎友里、晃洋書房、2025 年。 ②『「らしさ」をみつける観光学：「余白」から観光を再考する』、川崎友加・岩崎早穂編、ナカニシヤ出版、2026 年 4 月出版。	ISBN	①9784771039339 ②9784779519420
参考書	講義内で、各トピックに応じた参考書を紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	担当教員が作成した国際観光論についての理解を深めるための様々な資料やパワーポイント資料を提示します。社会のグローバル化の波を受ける国際観光の状況に興味と関心を抱き、積極的に国際観光を学んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	イントロダクション：講義方式、成績評価などについて説明する。	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること	4 時間

			と。	
第2回	オンデマンド	世界における観光の歴史	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第3回	オンデマンド	観光産業を支えるホテル産業の歴史（1）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第4回	オンデマンド	観光産業を支えるホテル産業の歴史（2）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第5回	オンデマンド	観光産業を支える旅行代理店業の歴史（1）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第6回	オンデマンド	観光産業を支える旅行代理店業の歴史（2）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第7回	オンデマンド	旅行者と観光事業者と地域（1）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第8回	オンデマンド	旅行者と観光事業者と地域（2）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第9回	オンデマンド	旅行者と観光事業者と地域（3）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第10回	オンデマンド	観光と地域像（1）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第11回	オンデマンド	観光と地域像（2）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第12回	オンデマンド	観光と地域像（3）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4 時間
第13回	オンデ	観光と地域像（4）	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を	4 時間

	マンド		各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	
第14回	オンデマンド	地域観光から国際観光へ	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4時間
第15回	オンデマンド	総括	事前学習：観光に関連する新聞記事やニュース等を各自で収集し、確認しておくこと。 事後学習：授業内容と、事前学習の内容がどのように繋がっているのかを考え、説明できるようになること。	4時間

科目名	ホスピタリティ論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石井 里奈	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	ホスピタリティを理解し、日常的に実践する力を身につける。		
授業の目的及び概要	ホスピタリティは、当初はホテル、旅行、飲食店などの観光業界で実践されてきた理念でしたが、徐々に、サービス業を中心にあらゆる業界で取り入れられてきています。ホスピタリティが目指すのは、良好な人間関係の構築と維持です。そして、心から相手のことを考えて行動することがホスピタリティの実践です。この授業ではホスピタリティを理解し、どのような考え方でどのような言動を身につけるべきか、事例をもとに考察し、グループワークやプレゼンテーションを行います。また、日常生活に取り入れられるマナーを実践します。就職活動において評価され、社会人となってからも職場や顧客からも信頼され、良好な人間関係が構築できることを目指します。ホスピタリティの概念がどのような場面で実践されているかについても、現役のゲストスピーカーの講義で学ぶ機会を得ます。		
履修条件・留意点	授業は講義形式だけではなく毎回グループワークがあります。学年などシャッフルし、指定されたグループで発表、プレゼンテーションも行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ホスピタリティの重要性を理解し、1 人ひとりの個性や価値観の違いを受けとめて、敬い、ホスピタリティを実践する力を身につけます。 他者との良好な人間関係を築くことができるコミュニケーションスキルを身につけ、今後の就職活動や社会活動にも活かせることを目指します。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業毎に「本日の気づき」を LearningPortal から提出します。このシートには毎回の授業についての自身の気づきや学び、質問等を書きます。次回授業の冒頭で質問への回答や補足説明をします。また良い気づきについても紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	指定しません。配布資料や PPT を用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	授業時に適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業ではホスピタリティを理論（ロジック）で理解するにとどまらず、実践（アクション）につなげていきます。 グループワークでは他者を受容し、積極的に自分の考えや経験を共有してください。またロールプレイングやプレゼンテーションにも前向きに取り組むことを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・オリエンテーション 授業の概要や受講のルール、到達目標についてガイダンスを行います。	【予習】シラバスを事前に読んでおくこと。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、授業への取り組み姿勢や目標を検討する。	1 時間
第2回	対面	・ホスピタリティとは ホスピタリティの概念・定義を理解します。	【予習】ホスピタリティの言葉の意味、同じ語源の言葉を調べる。 【復習】配布資料に基づき復習をする。	4 時間
第3回	対面	・自己理解と他者理解 アセスメントを使って、自分の考え方のクセや他者との関わりについて考えます。 また、理想的な人との関わり方や自身の課題について理解します。	【予習】現状の自分のストロングポイント、ウィークポイントについて考えておく。 【復習】授業の内容をもとに振り返りを行う。	4 時間
第4回	対面	・ホスピタリティを実践する基本行動① 日常で実践できる行動を考え、その必要性を学びます。 就職活動に役立つ、マナーや接遇についても実践練習します。	【予習】日常実践しているホスピタリティを考える。 【復習】学んだことを実践する。配布資料を基に復習をする。	4 時間
第5回	オンデマンド	・ホスピタリティを実践する基本行動② 必要となる様々な行動、気遣いについて考えます。 就職活動でも大切なマナーや言葉遣いをオンデマンドで繰り返し学び、実践に繋がります。	【予習】アルバイトなどで自分が実践しているサービスや気遣いをまとめる。 【復習】配布資料を基に振り返りを行い、改善点を考える。	4 時間
第6回	対面	・ホスピタリティの歴史とおもてなしの心 海外のホスピタリティや日本のおもてなしについて学びます。	【予習】日本のおもてなしで印象に残った経験などを考える。 【復習】資料や紹介された参考図書をもとに学びを深める。	4 時間
第7回	対面	・ホスピタリティとCS（顧客満足） ロイヤルティやクレームについて具体的に事例研究をします。	【予習】自分が経験したクレーム（アルバイトや顧客として）について原因を考えておく。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第8回	対面	・ホスピタリティ産業事例研究① 具体的な業界の特徴を理解します。	【予習】興味のあるホスピタリティ業界を調べてみる。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第9回	対面	・ホスピタリティ産業事例研究② 具体的な業界の特徴を理解します。	【予習】周囲の社会人にホスピタリティについてインタビューを実施してみる。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第10回	対面	・ゲストスピーカーからの学び ホスピタリティ産業で、現役で活躍するゲストスピーカーを招き、その実際についてのお話を聞きます。 また、グループで検討した質問をインタビューします。	【予習】事前に質問事項を検討する。 【復習】今回の授業の学びを振り返り、新たに興味をもったことについて調べる。	4 時間
第11回	対面	・ユニバーサルサービスの基本 ユニバーサルサービスについて理解し、実践するために必要なことを考えます。	【予習】ユニバーサルサービスの具体例について調べる。 【復習】授業内容を復習し、日常で実践できることを考える。	4 時間
第12回	対面	・チーム力で働く力 求められるチームワーク、社会人基礎力としても重要なチームで成しえるホスピタリティを理解します。	【予習】チームで成しえた経験を振り返り、考える。 【復習】チームワークに必要な資質や自身の役割を再考する。	5.5 時間
第13回	対面	・ホスピタリティ産業・事例調査プレゼンテーション① グループでホスピタリティ産業について、またホスピタリティサービスの事例についてを調査し、発表します。	【予習】役割分担や進行方法を決め、プレゼンテーション資料を完成させる。プレゼンテーションの練習を行う。 【復習】プレゼンテーションの内容を見直し、まとめる。	5.5 時間

第14回	対面	・ホスピタリティ産業・事例調査プレゼンテーション② グループでホスピタリティ産業について、またホスピタリティサービスの事例についてを調査し、発表します。	【予習】役割分担や進行方法を決め、プレゼンテーション資料を完成させる。プレゼンテーションの練習を行う。 【復習】プレゼンテーションの内容を見直し、まとめる。	4時間
第15回	対面	・これまでのまとめ 授業の総復習とポイントをまとめ、定期試験の準備も行います。	【予習・復習】これまでの授業を振り返り、ポイントをまとめておく。	4時間

科目名	ホスピタリティ論		開講年度	2026 年度春学期
担当者	石井 里奈		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	ホスピタリティを理解し、日常的に実践する力を身につける。			
授業の目的及び概要	ホスピタリティは、当初はホテル、旅行、飲食店などの観光業界で実践されてきた理念でしたが、徐々に、サービス業を中心にあらゆる業界で取り入れられてきています。ホスピタリティが目指すのは、良好な人間関係の構築と維持です。そして、心から相手のことを考えて行動することがホスピタリティの実践です。この授業ではホスピタリティを理解し、どのような考え方でどのような言動を身につけるべきか、事例をもとに考察し、グループワークやプレゼンテーションを行います。また、日常生活に取り入れられるマナーを実践します。就職活動において評価され、社会人となってからも職場や顧客からも信頼され、良好な人間関係が構築できることを目指します。ホスピタリティの概念がどのような場面で実践されているかについても、現役のゲストスピーカーの講義で学ぶ機会を得ます。			
履修条件・留意点	授業は講義形式だけではなく毎回グループワークがあります。学年などシャッフルし、指定されたグループで発表、プレゼンテーションも行います。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	ホスピタリティの重要性を理解し、1 人ひとりの個性や価値観の違いを受けとめて、敬い、ホスピタリティを実践する力を身につけます。 他者との良好な人間関係を築くことができるコミュニケーションスキルを身につけ、今後の就職活動や社会活動にも活かせることを目指します。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業毎に「本日の気づき」を LearningPortal から提出します。このシートには毎回の授業についての自身の気づきや学び、質問等を書きます。次回授業の冒頭で質問への回答や補足説明をします。また良い気づきについても紹介します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。			
テキスト	指定しません。配布資料や PPT を用いて授業を行います。	ISBN	なし	
参考書	授業時に適宜紹介します。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	20		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	40		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業ではホスピタリティを理論（ロジック）で理解するにとどまらず、実践（アクション）につなげていきます。 グループワークでは他者を受容し、積極的に自分の考えや経験を共有してください。またロールプレイングやプレゼンテーションにも前向きに取り組むことを期待します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	・オリエンテーション 授業の概要や受講のルール、到達目標についてガイダンスを行います。	【予習】シラバスを事前に読んでおくこと。 【復習】シラバスとガイダンス資料を読み直し、授業への取り組み姿勢や目標を検討する。	1 時間
第2回	対面	・ホスピタリティとは ホスピタリティの概念・定義を理解します。	【予習】ホスピタリティの言葉の意味、同じ語源の言葉を調べる。 【復習】配布資料に基づき復習をする。	4 時間
第3回	対面	・自己理解と他者理解 アセスメントを使って、自分の考え方のクセや他者との関わりについて考えます。 また、理想的な人との関わり方や自身の課題について理解します。	【予習】現状の自分のストロングポイント、ウィークポイントについて考えておく。 【復習】授業の内容をもとに振り返りを行う。	4 時間
第4回	対面	・ホスピタリティを実践する基本行動① 日常で実践できる行動を考え、その必要性を学びます。 就職活動に役立つ、マナーや接遇についても実践練習します。	【予習】日常実践しているホスピタリティを考える。 【復習】学んだことを実践する。配布資料を基に復習をする。	4 時間
第5回	オンデマンド	・ホスピタリティを実践する基本行動② 必要となる様々な行動、気遣いについて考えます。 就職活動でも大切なマナーや言葉遣いをオンデマンドで繰り返し学び、実践に繋がります。	【予習】アルバイトなどで自分が実践しているサービスや気遣いをまとめる。 【復習】配布資料を基に振り返りを行い、改善点を考える。	4 時間
第6回	対面	・ホスピタリティの歴史とおもてなしの心 海外のホスピタリティや日本のおもてなしについて学びます。	【予習】日本のおもてなしで印象に残った経験などを考える。 【復習】資料や紹介された参考図書をもとに学びを深める。	4 時間
第7回	対面	・ホスピタリティとCS（顧客満足） ロイヤルティやクレームについて具体的に事例研究をします。	【予習】自分が経験したクレーム（アルバイトや顧客として）について原因を考えておく。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第8回	対面	・ホスピタリティ産業事例研究① 具体的な業界の特徴を理解します。	【予習】興味のあるホスピタリティ業界を調べてみる。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第9回	対面	・ホスピタリティ産業事例研究② 具体的な業界の特徴を理解します。	【予習】周囲の社会人にホスピタリティについてインタビューを実施してみる。 【復習】配布資料や参考文献を基に復習をする。	4 時間
第10回	対面	・ゲストスピーカーからの学び ホスピタリティ産業で、現役で活躍するゲストスピーカーを招き、その実際についてのお話を聞きます。 また、グループで検討した質問をインタビューします。	【予習】事前に質問事項を検討する。 【復習】今回の授業の学びを振り返り、新たに興味をもったことについて調べる。	4 時間
第11回	対面	・ユニバーサルサービスの基本 ユニバーサルサービスについて理解し、実践するために必要なことを考えます。	【予習】ユニバーサルサービスの具体例について調べる。 【復習】授業内容を復習し、日常で実践できることを考える。	4 時間
第12回	対面	・チーム力で働く力 求められるチームワーク、社会人基礎力としても重要なチームで成しえるホスピタリティを理解します。	【予習】チームで成しえた経験を振り返り、考える。 【復習】チームワークに必要な資質や自身の役割を再考する。	5.5 時間
第13回	対面	・ホスピタリティ産業・事例調査プレゼンテーション① グループでホスピタリティ産業について、またホスピタリティサービスの事例についてを調査し、発表します。	【予習】役割分担や進行方法を決め、プレゼンテーション資料を完成させる。プレゼンテーションの練習を行う。 【復習】プレゼンテーションの内容を見直し、まとめる。	5.5 時間

第14回	対面	・ホスピタリティ産業・事例調査プレゼンテーション② グループでホスピタリティ産業について、またホスピタリティサービスの事例についてを調査し、発表します。	【予習】役割分担や進行方法を決め、プレゼンテーション資料を完成させる。プレゼンテーションの練習を行う。 【復習】プレゼンテーションの内容を見直し、まとめる。	4時間
第15回	対面	・これまでのまとめ 授業の総復習とポイントをまとめ、定期試験の準備も行います。	【予習・復習】これまでの授業を振り返り、ポイントをまとめておく。	4時間

科目名	航空実務	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中川 正秋	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化が進む航空業界のマーケット戦略と、その仕事の種類、実務内容を理解する		
授業の目的及び概要	この授業では、航空産業に関する基本的な知識を修得し、航空会社や空港における実務について理解することを目的とする。具体的には航空会社（キャビンアテンダント、グラウンドスタッフ、予約・発券、経営管理、マーケティング）及び空港関係（空港入管・税関・検疫、ケータリング等）における様々な実務内容について理解する。また担当教員の長年培った航空会社での実務経験を紹介し、航空会社の実務について理解を深める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 航空輸送の発展と歴史、航空自由化後の航空会社の政策・戦略を理解する。 (2) 航空業界の様々な仕事について学び、それぞれの実務内容を理解する。 (3) 基本的な航空用語が理解できる。 (4) 航空業界の様々な仕事の実務を理解し、将来の進路選択に役立てる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	(1) プレゼンやレポートに対し、適宜、改善点を指導する。 (2) 授業毎の質問は授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト：不要 担当教員が独自作成レジメを授業毎にラーニングポータルの教材に添付しますのでプリントアウトをして授業で使用すること。また参考資料（航空会社、IATA、JATA 等の報告書、インターネット記事等）も適宜配布する。	ISBN	なし
参考書	参考書：以下参照 ①「航空産業入門」（株）ANA 総研編集，東洋新報社，2008 年 ②「エアライン/エアポート・ビジネス入門」高橋望・横見宗樹，株式会社法律文化社，2011 年 ③「エアライン オペレーション入門」（株）ANA 総合研究所，株式会社ぎょうせい，2015 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	近年の航空業界はグローバル化の発展と共に、世界の政治、経済の影響を受けやすいので、日頃から航空業界の動向に興味を持ち、主要新聞、航空業界のインターネット記事を注意深く読むことで理解を深めるようにする。 航空業界の様々な仕事の実務を理解することで、航空業界に興味を持ち、将来、多くの学生が航空業界に就かれることを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 講義目的、全講義内容、評価基準、授業に際しての注意事項について説明	【予習】航空業界の最近の話題になっているニュースをインターネットで調べてくる。 【復習】次回以降の授業に向けた事前準備を行う。	4時間
第2回	対面	世界の航空の歴史－世界の航空産業の歴史、航空機の飛行方法と技術革新による進化	【予習】世界の航空機の歴史について、書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】世界の航空の歴史と航空機の進化を振り返り、航空業界の発展を復習する。	4時間
第3回	対面	グローバルアライアンスとローコストキャリア（LCC）の台頭	【予習】ワンワールドとスターアライアンスに加入しているのはどのような航空会社か。またどのようなLCCがあるのかを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】グローバルアライアンスに加入することによる航空会社と消費者のメリット。大手航空会社（FSC）に対抗するLCCの戦略を復習する。	4時間
第4回	対面	航空会社の予約・発券業務（1）都市・空港の3レター、航空会社2レターコード、国際線航空時刻表の見方、乗り継ぎ所要時間（MCT）等	【予習】日本・世界にある有名な空港と航空会社名を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】航空会社の予約・発券業務の基礎知識を復習する。	4時間
第5回	対面	航空会社の予約・発券業務（2）世界の航空会社予約システム、予約記録の作り方、国際線航空チケットの見方と発券、国際線航空運賃の仕組み、航空運賃の種類と計算の仕方、空港税及び燃油サーチャージ	【予習】JAL・ANAの国内線時刻表を見て、見方に慣れておく。 【復習】航空会社の予約の仕方、国際航空運賃の仕組みについて復習する。	4時間
第6回	対面	空港－ハブ&スポークとハブ空港の役割、空港組織（入管、税関、検疫、機内食ケータリング会社等）	【予習】アジアのハブ空港はどこか、空港で働く組織は何かを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】ハブ空港の役割と空港組織について復習する。	4時間
第7回	対面	グランドスタッフ（1）空港旅客サービスの業務 チェックイン～出発まで、クラス別地上サービス、特殊サービス、空港ラウンジ グランドスタッフ（2）手荷物損失、クレーム処理、イレギュラー時の対応、ランプ作業	【予習】グランドスタッフの業務内容について書籍や文献・インターネット等で調べてくる。関西空港でグランドスタッフの業務を行っているのは何社あるのか会社名をインターネット等で調べてくる。 【復習】グランドスタッフの業務内容について復習する。グランドスタッフの業務とランプ作業の内容について復習する。	4時間
第8回	対面	キャビンアテンダント（1）客室乗務員の業務内容、訓練の内容および採用	【予習】キャビンアテンダントの業務内容について書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】キャビンアテンダントの業務内容について復習する。	4時間
第9回	対面	キャビンアテンダント（2）客室サービス、機内食の歴史、国際線機内食、クラス別機内食、機内食の種類、スペシャルミール等	【予習】どのような国内線・国際線機内食、クラス別機内食、機内食の種類、スペシャルミールがあるのか書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】キャビンアテンダントのサービスと様々な機内食について復習する。	4時間
第10回	対面	9回までのまとめと中間テスト	【復習】中間テストを行いますので9回までの復習をすること。	4時間
第11回	対面	航空会社の戦略（1）航空会社のCSの重要性和ブランド戦略	【予習】世界で有名な航空会社（LCCを含む）のブランド要素となる会社ロゴを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。	4時間

			【復習】航空会社がサービス、売上げを拡大するための、ブランド戦略、ネットワーク戦略、CRS 戦略を復習する。	
第12回	対面	航空会社の戦略（2）ネットワーク戦略、CRS 戦略とインターネットの拡大 （3）マイレージとデータベースマーケティング、FFP の仕組み	【予習】JAL・ANA のマイレージプログラムの特典を各社の HP で調べてくる。 【復習】マイレージプログラムの歴史と仕組みについて復習する。	4 時間
第13回	対面	① 民間航空機の進化と国際政治—航空機の技術革新、航空機製造と国際政治 ② 航空業界の未来像— ①グローバル時代の航空事業の多様化と未来像	【予習】世界で運航されている様々な民間航空機を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】最新鋭の航空機販売と国際政治の関係について復習する。	4 時間
第14回	対面	航空業界の未来像—② 近隣アジアの緊密化、未来への望ましい方向性、航空業界とツーリズム（観光産業）の共存	【予習】アフターコロナの航空業界・旅行業界はどのように変わるのかを書籍や文献・インターネット等で調べて推測してくる。 【復習】コロナまでの航空業界を理解し、アフターコロナはどのように変わるのかを資料・データを基に予測したことを復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	航空実務の総括—1 回～15 回の授業内容の復習と質疑応答 期末試験の対策の説明	【予習】この授業の中での疑問点等、質問できるように準備してくる。 【復習】航空実務の総括の内容を復習する。	4 時間

科目名	エアラインビジネス <航空経済論>	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中川 正秋	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル競争における世界の航空政策・航空各社の戦略		
授業の目的及び概要	この授業では、航空産業に関する基本的な知識修得を目的とする。航空業界は世界のグローバル化にともない著しく発展してきた。規制緩和後の航空自由化により、ローコストキャリア（LCC）の台頭が始まり、大手航空会社のグローバルアライアンス化が加速した民間航空の歴史に沿った授業をする。具体的には、航空事業と航空政策、空港、国際航空貨物、航空会社の経営と戦略について幅広く理解を深める。また担当教員の長年培った航空会社での実務経験を紹介し、Update のマーケット動向や航空会社戦略についても考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1) 航空輸送の発展と歴史を理解し、未来像についても説明することができる。 (2) 航空事業と航空政策についての基礎知識を習得する。 (3) グローバル競争における世界の航空会社の動向・戦略について理解する。 (4) JAL・ANA とローコストキャリア（LCC）の経営・戦略の違いについて理解する。 (5) 航空企業研究の深堀りを行い、将来の進路選択に役立てる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	(1) プレゼンやレポートに対し、適宜、改善点を指導する。 (2) 授業毎の質問は授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	テキスト：不要 担当教員が独自作成レジメを授業毎にラーニングポータルの教材に添付しますのでプリントアウトをして授業で使用する。また参考資料（航空会社、IATA、JATA 等の報告書、インターネット記事等）も適宜配布する。	ISBN	なし
参考書	参考書：以下参照 ①「航空産業入門」（株）ANA 総研編集，東洋新報社，2008 年 ②「エアライン/エアポート・ビジネス入門」高橋望・横見宗樹，株式会社法律文化社，2011 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	近年の航空業界はグローバル化の発展と共に、世界の政治、経済の影響を受けやすいので、日頃から航空業界の動向に興味を持ち、主要新聞、航空業界のインターネット記事を注意深く読むことで理解を深めるようにする。 世界の航空会社の動向・現状を理解することで航空業界に興味を持ち、将来、多くの学生が航空業界に就かれることを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 講義目的、全講義内容、評価基準、授業に際しての注意事項について説明	【予習】航空業界の最近の話題になっているニュースをインターネット等で調べてくる。 【復習】次回以降の授業に向けた事前準備を行う。	2.5 時間
第2回	対面	航空の歴史—ライト兄弟によって始めて動力飛行機が飛んだ1903年から日本の航空自由化までの歴史	【予習】ライト兄弟から始まり、航空自由化までの航空の歴史について、書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】航空の歴史を振り返り、世界の航空会社の発展を復習する。	4 時間
第3回	対面	航空事業と航空政策（1）国家戦略とナショナルフラッグ・キャリア、ICAO、IATA	【予習】世界で有名なナショナルフラッグ・キャリアを最低5社、書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】国家戦略としてのナショナルフラッグ・キャリアについて復習する。	4 時間
第4回	対面	航空事業と航空政策（2）自由化の流れ、規制緩和とオープン政策	【予習】航空自由化による航空会社と消費者のメリットは何かを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】規制緩和をすることによってグローバル航空マーケットはどのように発展したかを復習する。	4 時間
第5回	対面	アライアンス— グローバルアライアンスの誕生、発展、戦略	【予習】ワンワールドとスターアライアンスの加入航空会社を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】グローバルアライアンスに加入することによる航空会社と消費者のメリットを復習する。	4 時間
第6回	対面	ローコストキャリアの台頭— LCCの歴史と特徴	【予習】日本のローコストキャリア（LCC）と世界の有名なローコストキャリア5社を書籍や文献・インターネット等で調べて書き出してくる。 【復習】LCC のと既存大手航空会社（FSC）とのビジネスモデルの違いを復習する。	4 時間
第7回	対面	空港—日本の空港の現状と課題、ハブ&スポーク、アジアのハブ空港戦争	【予習】日本の空港名、世界の空港名を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】アジアのハブ空港と空港民営化による収益拡大について復習する。	4 時間
第8回	対面	7回までの授業のまとめと中間試験	【復習】中間試験を行いますので7回までの授業の復習をすること。	4 時間
第9回	対面	国際航空貨物—貨物輸送の特色、マーケット概況、AWBの説明	【予習】国際航空貨物について書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】世界経済のグローバル化、ボーダレス化の進展で需要拡大となる国際航空貨物マーケットについて復習する。	4 時間
第10回	対面	航空安全と地球環境 (1) 航空保安対策、航空機の安全性を高めるシステム (2) 地球温暖化と航空会社の環境対策、今後の環境経営	【予習】航空機の安全性を高めるシステムは何か、地球温暖化で航空会社が実施していることは何かを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】テロから守る航空保安対策、航空機を安全に運航するための、最新安全運航システムと航空会社の実施している温暖化対策について復習する。	4 時間
第11回	対面	航空会社の経営（1）航空運送業の特徴、航空旅行需要の特性、航空機の生産性、航空運送の費用	【予習】新型コロナの影響で世界の航空会社が経営危機となっているが、具体例を書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】航空機のオペレーションコスト、生産性を復	4 時間

			習する。	
第12回	対面	航空会社の経営(2)CSの重要性、プライシングとレバニユー・マネージメント	【予習】自身が大阪ー札幌に旅行する場合、サービス・飛行時間を考慮し、いくらが適切な料金かをJAL・ANAのHPで調べてくる。 【復習】国際線運賃・国内線運賃の制度とプライシングの多様化、収益を上げるためのレバニユー・マネジメントについて復習する。	4時間
第13回	対面	航空会社の戦略(1)ブランド戦略、ネットワーク戦略、CRS戦略とインターネットの拡大	【予習】世界で有名な航空会社(LCCを含む)のブランド要素となる会社ロゴを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】航空会社がサービス、売上げを拡大するための、ブランド戦略、ネットワーク戦略、CRS戦略を復習する。	4時間
第14回	対面	航空会社の戦略(2)マイレージプログラム(FFP)の歴史、仕組みと特典、データベースマーケティング 航空業界の未来像ー航空機の進化、グローバル時代の航空事業の多様化、航空・観光業界の共存と未来像	【予習】JAL・ANAのマイレージプログラムの特典を各社のHPで調べてくる。アフターコロナの航空業界・旅行業界はどのように変わるのかを書籍や文献・インターネット等で調べてくる。 【復習】マイレージプログラムの歴史と仕組みについて復習する。コロナまでの航空業界を理解し、アフターコロナはどのように変わるのかを資料データを基に予測したことを復習する。	4時間
第15回	オンデマンド	航空経済論の総括ー1回～15回の授業内容の復習と質疑応答 期末試験の対策について説明	【予習】この授業の中での疑問点等、質問できるように準備してくる。 【復習】航空経済論の総括の内容を復習する。	4時間

科目名	Tourism and World Heritages	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ハモンズ・ジョアンナ	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	We will deepen our awareness of the relationship between tourism and the heritage that humanity should share, and consider.		
授業の目的及び概要	この授業は英語のみで行われる。具体的には、世界遺産という制度の創設と理念を理解し、国内外で登録された世界遺産がいかに基準を満たし、登録されることとなったか、その経緯について学修する。また、それぞれの遺産が持つ固有の価値及び観光化されることによるメリット・デメリット等を明らかにし、未来に向けて価値を損なわない持続可能な観光資源としてのあり方について、様々な事例を取り上げて考察。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	英語を通して： 世界遺産と観光について、多様な側面を理解し、自らがそれらの課題克服と持続可能な発展に向けて、国際社会の一員として如何に関わる事ができるかを考察する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	Assignments will be explained and reviewed during class.		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	None	ISBN	None
参考書	None	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	25	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	25	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	25	
	その他の内容	Final Quiz -Conducted in Class	
この科目の受講にあたって	授業は全て英語で行われ、学生も授業内は英語のみを使用する。授業で与えられたテーマについてプレゼンテーションを行うには、十分な準備（調査、論点整理能力、予想される反対意見への対応等）が必要となる。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Course guidance Role Plays Airport 1 & 2	Review Course Guidance and Role Plays Airport 1 & 2 Research Tourism	4 時間
第2回	対面	Tourism Role Plays Airport 3 & 4	Review Tourism and Role Plays Airport 3 & 4 Research UNESCO	4 時間
第3回	対面	UNESCO Role Plays Hotel 1 & 2	Review UNESCO and Role Plays Hotel 1 & 2 Research UNESCO Advisory Bodies	4 時間

第4回	対面	UNESCO Advisory Bodies Role Plays Hotel 3 & 4	Review UNESCO Advisory Bodies and Role Plays Hotel 3 & 4 Research List of World Heritage in Danger	4 時間
第5回	対面	List of World Heritage in Danger Role Plays Restaurant 1 & 2	Review List of World Heritage in Danger and Role Plays Restaurant 1 & 2 Prepare Review of Tourism and UNESCO	4 時間
第6回	対面	Review Tourism and UNESCO Prepare Review of Advisory Bodies and World Heritage in Danger	Review Advisory Bodies and World Heritage in Danger	4 時間
第7回	対面	On Demand Review of Advisory Bodies and World Heritage in Danger	Prepare for Review Quiz 1	4 時間
第8回	対面	Review Quiz 1	Research SDGs	4 時間
第9回	対面	SDGs Role Plays Restaurant 3 & 4	Review SDGs and Role Plays Restaurant 3 & 4 Research World Heritage and Indigenous Peoples	4 時間
第10回	対面	World Heritage and Indigenous Peoples Role Plays Transportation	Presentation Preparation	4 時間
第11回	対面	Presentation Preparation	Prepare for presentation	4 時間
第12回	対面	Presentations	Prepare for Review Quiz 2 Prepare for Presentations	4 時間
第13回	オンデマンド	Presentations	Prepare for Review Quiz 2	4 時間
第14回	対面	Review Quiz 2	Review.	4 時間
第15回	対面	Feedback on Review Quiz.	Summary of the course	4 時間

科目名	現代日本事情		開講年度	2026 年度春学期
担当者	玉水 玲央		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	日本国の多角的考察			
授業の目的及び概要	本授業は、現代日本が抱える諸課題について他国との比較を通じて考察することを目的とする。各授業回においては、歴史・政治・司法制度、各種の社会・文化問題（教育、格差、移民、宗教等）など多様なトピックを取り扱うこととする。 また、大学での国際的な環境を有効に活用し、多様な国籍の受講生との積極的な議論および視点の共有を通じて、日本の特徴を掴むことを求める。			
履修条件・留意点	日ごろから日本に限らず、さまざまな国の社会問題にアンテナを張り、日本と比較する姿勢を持っておくこと。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	本授業が受講生に求める到達点は以下の 3 点である。 1. 日本について多面的な知識を習得し、日本という国がどのような特徴・課題を有するのかを、自らの言葉で表すことができる。 2. 日本が抱える問題点を他国との比較から理解し、日本が「なぜ」そのような問題に直面しているのか、そして「どのように」解決していくべきなのかを、自らの言葉で表すことができる。 3. 日本が海外の人々からどのように理解され、どう説明されているのかを理解し、自らの言葉で再説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	・毎回の授業においてコメントシートを配布するので、質問や意見等を自由に記入してもらい、翌授業回に講師からのコメントを付して返却する。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定なし（授業毎に教員作成のスライドを用いる）	ISBN	指定なし	
参考書	授業内にて適宜紹介する。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	50		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	・シラバスを十分に熟読し、理解した上で授業に参加してください。 ・成績配分に鑑み、各授業回のコメントが最終成績に極めて重要であることを理解し、毎回授業に出席してください。 ・レポートの書き方について覚束ない場合は、独自に学修しておいてください。 ・また、定期試験レポートについては剽窃行為防止のため、様々な要件を設けるので遵守してください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ・教員と受講生の自己紹介 ・授業概要の説明と問題意識のすり合わせ ・成績評価の方法と注意事項の説明	事前学習 シラバスを熟読する 事後学習 シラバスと配付資料を読み返し、履修継続の有無を決める	2 時間
第2回	対面	近現代日本を振り返る1（開国から第二次世界大戦まで）	事前学習 同時期のアジア諸国を3か国着目し、どのような歴史を辿っていたのかを自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第3回	対面	近現代日本を振り返る2（戦後日本から現代まで）	事前学習 同時期のアジア諸国を3か国着目し、どのような歴史を辿っていたのかを自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第4回	対面	日本の政治制度（国会・内閣・官僚制）	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、どのような政治制度（国会・内閣・官僚制）となっているのかを自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第5回	対面	日本の民主主義（選挙制度・政党政治・派閥政治）	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、選挙制度・政党政治・派閥政治を辿っていたのかを自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第6回	対面	憲法とそれに関わる論争	事前学習 同時期のアジア諸国を3か国着目し、憲法を有しているのかを自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第7回	対面	日本経済の奇跡と停滞	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、過去10年でどのような経済状況を辿ってきたのかを自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第8回	対面	人口問題と少子高齢化	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、これら国々が抱えている人口問題を自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第9回	対面	労働と企業	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、これら国々の労働環境と労使関係について自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第10回	対面	ジェンダーと家族	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、これら国々の女性の社会進出状況と家族問題（家庭内暴力、虐待、介護負担、待機児童）の状況を自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第11回	対面	日本外交と日米同盟	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、これら国々がどのような外交・安全保障上の問題に直面してい	4 時間

			るのかを自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	
第12回	対面	安全保障と東アジア地域の安定化	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、これら国々がどのような安全保障政策を採っているのかを自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第13回	対面	日本文化のグローバル化	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、これら国々の文化が他国にどの程度受容されているのかを自身で調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第14回	対面	日本社会の課題（移民・地方格差）	事前学習 アジア諸国を3か国着目し、これら国々の移民受け入れ状況について調べる。 事後学習 事前学習で調べた国々と日本がどのような違い・共通性があるかを次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業の総括と定期試験レポートの説明（オンデマンド）	事前学習 これまでの配布資料を読み込む。 事後学習 期末レポートの作成に向けて準備を開始する。	5 時間

科目名	現代中華圏事情 <現代中国事情>	開講年度	2026 年度春学期
担当者	池上 寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	中国を様々な視点から考える		
授業の目的及び概要	この授業では、中国の清朝末期から現在の中国（中華人民共和国）の歴史を振り返るとともに、政治および経済などの面から学習する。中華人民共和国は 1949 年に設立された比較的新しい国である。また、中この国は中国共産党の指導の下で運営されている。現在では世界第 2 位の経済大国となり、今後もその地位は維持、あるいはさらに強くなっていくと考えられる。 この講義では中国がどのような国であるかを知ってもらう機会とする。あわせて、日本、アメリカ、台湾との関係についても取り上げる。 なお、授業への理解度に合わせて、適宜内容を調整する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 中国の近代史、中華人民共和国の歴史など基本的なこと知る ・ 中国の近年の経済状況とどのような経済発展があったのかを知る ・ 日本、アメリカ、台湾との関係がどのようなものであるかを理解し、分析すること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ コメントカードに講義に対する質問を募集し、次週以降にフィードバックする		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない ジェトロ・アジア経済研究所編刊『アジア動向年報』（各年版）は以下のサイトに創刊（1970 年）以来の全文が公開されている。中国の部分をダウンロードし、チェックしてもらいたい。 https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Doko.html	ISBN	なし
参考書	講義の際に、さらに学修が進められるように関連書籍を適宜紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	可能であれば、中国の近現代（日清戦争（1894 年）から現在）について大まかな動きを予め学習すること		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業の概要や目的、成績評価などについて説明する。 清代末期の中国と外国との関係について	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第2回	対面	辛亥革命から日中戦争、第2次国共合作まで	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、世界史の教科書で辛亥革命から日中戦争、第2次国共合作の部分を読んでおくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第3回	対面	中華人民共和国の成立	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、世界史の教科書で日中戦争後から「中華人民共和国の成立」までの部分を読んでおくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第4回	対面	1960 年までの経済を振り返る（大躍進の失敗）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、「大躍進政策」を調べてくること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第5回	対面	文化大革命とその影響	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。あらかじめ「文化大革命」について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第6回	対面	中国の政治機構	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。可能であれば、『アジア動向年報』の中国の統治機構図を見ておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第7回	対面	国際連合常任理事国の地位と中国	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。また、国際連合の発足過程、アルバニア決議について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第8回	対面	前半の振り返りと中間テスト	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。中間テストのために、第1回から第7回の配布資料などを再度確認しておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第9回	対面	改革開放と鄧小平の南巡講話	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。鄧小平について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第10回	対面	中国の WTO 加盟と貿易の発展	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。WTO について調べるとともに、2000 年以降の中	4 時間

			国の貿易統計について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	
第11回	対面	一帯一路と AIIB	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。一帯一路と AIIB について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第12回	対面	日中関係：国交回復と政冷経熱	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。世界史の教科書で「日中国交正常化」の部分を読んでおくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第13回	対面	米中関係：協調から対立へ	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。トランプ政権の米中貿易摩擦について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第14回	対面	中台関係：ひとつの中国について	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。また、1990 年代からの中台関係について調べておくこと。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義のまとめと定期試験について	【予習】事前にこれまでに配布された配布資料を見て復習する形で予習をしておくこと。疑問があれば、メールで先に問い合わせること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間

科目名	現代アメリカ事情	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	玉水 玲央	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代アメリカ合衆国についての多角的考察		
授業の目的及び概要	本授業は、アメリカ合衆国について様々な側面から理解することを目的とするものである。そのため各授業回において、歴史、政治・司法制度、各種の社会・文化問題（教育、医療、福祉、宗教等）、外交・防衛問題といった様々なトピックを取り扱う。		
履修条件・留意点	・特に履修条件を設定することはしないが、米国と比較する視点を持つ意味で前期の「現代日本事情」を履修しておくことが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業が受講生に求める到達点は以下の3点である。 1. アメリカ合衆国に関する知識を多面的に習得し、同国がどのような特徴を持ち、どのような課題を抱えているのかを自らの言葉で表すことができる。 2. 1を踏まえて、アメリカと自国（母国）がどのように違うのかを把握し、アメリカまたは自国（母国）が何を学ぶべきかを言葉に表すことができる。 3. 2を踏まえて、アメリカと自国（母国）がどのように似ているのかを把握し、アメリカまたは自国（母国）が何を学ぶべきかを言葉に表すことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎回の授業においてコメントシートを配布するので、質問や意見等を自由に記入してもらい、翌授業回に講師からのコメントを付して返却する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし	ISBN	指定なし
参考書	授業内にて適宜紹介する	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・本授業の成績配分を十分に理解すること。つまり、各授業回のコメントが極めて重要であることを理解し、毎回出席すること。 ・本授業は米国を概説することを主眼としているが、他国（たとえば自身の出身国）と比較することで初めて深く知ることができる。そのため、米国の事情を把握することだけに満足せず、常に他国と比較し、差異と（実は意外と多い）類似性を掴むことを心掛けること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ・教員と受講生の自己紹介 ・授業概要の説明と目的意識のすり合わせ	事前学習 シラバスを熟読する 事後学習 シラバスと配付資料を読み返し履修するかを決める	5 時間

		せ ・成績評価の方法と注意事項の説明 ・アメリカを数字と地理から理解する		
第2回	対面	アメリカ合衆国の独立と建国の経緯	事前学習 アメリカの成立経緯を書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの成立経緯と自身の出身国の成立経緯を比較し、違いと類似点を次の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第3回	対面	憲法と連邦制度の特徴	事前学習 アメリカ合衆国憲法と連邦制度を書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカ合衆国憲法と自身の出身国の憲法を比較し、違いと類似点を次の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第4回	対面	大統領制度および大統領選挙の特徴と課題	事前学習 アメリカ大統領選を書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの大統領制度と自身の出身国の行政府（議院内閣制、大統領制 or 権威主義体制？）を比較し、違いと類似点を次の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第5回	対面	司法制度の特徴と課題	事前学習 アメリカの司法制度を書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの司法制度と自身の出身国の司法制度を比較し、違いと類似点を次の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第6回	対面	社会問題1（銃犯罪と銃規制問題）	事前学習 アメリカの銃犯罪事情と銃規制に関する議論を書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの銃規制事情と自身の出身国の銃規制事情を比較し、違いと類似点を次の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第7回	対面	社会問題2（宗教と中絶）	事前学習 アメリカの中絶問題を書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの中絶問題と自身の出身国における中絶の扱われ方を比較し、違いと類似点を次の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第8回	対面	社会問題3（人種問題） 中間レポートの問題発表（期間は1週間）	事前学習 アメリカの人種問題を書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの人種問題と自身の出身国における人種問題を比較し、違いと類似点を次の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第9回	対面	社会問題4（性的マイノリティ） 中間レポートの提出締め切り	事前学習 アメリカにおける性的マイノリティに関する議論を書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカにおける性的マイノリティに対する社会の反応と自身の出身国における性的マイノリティに対する社会の反応を比較し、違いと類似点を次の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第10回	対面	社会問題5（不法移民）	事前学習 アメリカの不法移民問題を書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの不法移民問題と自身の出身国における不法移民問題を比較し、違いと類似点を次の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第11回	対面	社会問題6（経済格差）	事前学習 アメリカ国内に存在する経済格差について書籍やインターネットで把握しておくこと。	4 時間

			事後学習 アメリカ国内の経済格差と自身の出身国内の経済格差率を比較し、違いと類似点を次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	
第12回	対面	社会問題7（違法薬物と大麻の解禁問題）	事前学習 アメリカの違法薬物問題についてを書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの違法薬物問題と自身の出身国の薬物問題を比較し、違いと類似点を次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第13回	対面	アメリカの国際関係1 一米・中東関係一	事前学習 アメリカと中東諸国との関係に関する書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの成立経緯と自身の出身国の成立経緯を比較し、違いと類似点を次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第14回	対面	アメリカの国際関係一 米中関係と日米同盟一	事前学習 米中関係および日米同盟について書籍やインターネットで把握しておくこと。 事後学習 アメリカの成立経緯と自身の出身国の成立経緯を比較し、違いと類似点を次回の授業時に配布するコメントシートにかき込む準備をする。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業の総括と定期試験レポートについての解説	事前学習 授業で配布したレジュメを読み込み、授業内で質問する点をリスト化する。 事後学習 定期試験レポートの作成に向けて準備を開始する。	5 時間

科目名	現代韓国事情	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代韓国について多角的に考察する。		
授業の目的及び概要	この授業では、韓国に関係する身近な話題や、最近の社会問題をテーマにして、その背景にある社会の様子を学びます。 前半では、現代韓国の地理、社会、経済、文化について、全体の流れを分かりやすく学びます。 後半では、韓国社会の具体的な問題や出来事を取り上げ、その理由や考えるポイントについて一緒に考えます。 韓国社会を学ぶことで、私たちが生きている社会や国を、いろいろな見方から考えられるようになることを目指します。また、社会がかかえている問題や変化について、広い視野で考える力を身につけます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 現代韓国の地理、社会、経済、文化について、全体の流れを理解できる。 2. 韓国社会の社会問題について考え、自分の身の回りの社会や状況にも目を向けながら、自分の考えを言葉で説明できる。 3. 自分が育った国や地域と比べながら、自分の社会をあらためて考え、さまざまな背景を持つクラスメイトとの対話を通じて、社会の違いを理解し、相手を理解しようとする姿勢を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の中で、発表や提出物の一部を紹介し、フィードバックをします。必要な場合は、コメントを書いて返します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	授業中に適宜紹介する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	●対面授業を 14 回実施します（第 15 回の授業はオンデマンドで実施します）。 【成績評価の方法・基準の詳細】 ●「授業への積極的な参加度・取り組み（40%）」：毎回の授業に、積極的に参加してください。授業ではワークシート、グループワーク、クイズ、コメントシートの作成、発表やディスカッションなどを行います。 これらの活動への参加や提出物をもとに、毎回 40 点満点で採点します。その平均点を 15 回分算出します。 学生証を通して出席が記録されていても、授業中の活動への参加や提出が確認できない場合		

	は、「授業への参加度・取り組み」として評価することができません。（※ 欠席したり、提出物がない場合は、その回の点数は 0 点となるため、ご注意ください。やむを得ない事情で欠席する場合は、公欠申請を行ってください。） ●「授業期間中のレポート（30%）」は、「韓国紹介のオリジナル Wikipedia (My Own Original Wikipedia Page Introducing Korea)」という課題です。詳細は授業内で説明します。 ●「レポート試験（30%）」の詳細は授業内で説明します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション ・【活動】教員と受講生の自己紹介（私のタグは？：#キーワードで自己紹介） ・授業概要の説明と目的意識のすり合わせ ・成績評価の方法と注意事項、学習方法の説明 ・【活動】韓国といえば？ ・Q&A	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習。ファイリング。	1 時間
第 2 回	対面	韓国の歴史と領土をどう考えるか：時間と空間の見方	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第 3 回	対面	韓国の人口と産業はどのように変わってきたのか：人口のかたちと仕事の変化	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第 4 回	対面	韓国の政治はどのように変わってきたのか：分断の歴史と政治のしくみ	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第 5 回	対面	韓国の新聞・ニュースに見る社会的イシュー：労働時間（皆さんも、最近気になったニュースがあれば紹介してください。） 【活動：授業期間中のレポート】「韓国紹介のオリジナル Wikipedia (My Own Original Wikipedia Page Introducing Korea)」に関する案内、下書き作成	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	5 時間
第 6 回	対面	韓国語の文字・ハングルはどのように生まれ、広まったのか：ハングルの特徴と歴史的・思想的背景	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第 7 回	対面	【活動：授業期間中のレポート】 「韓国紹介のオリジナル Wikipedia (My Own Original Wikipedia Page Introducing Korea)」発表	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	5 時間
第 8 回	対面	韓国社会において宗教はどのような役割を果たしてきたのか：宗教構成の特徴と民間信仰、現代的課題	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間

第9回	対面	韓国の外交は日本とどのような関係を築いてきたのか：日韓関係の歴史と最近の動き、課題	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第10回	対面	ドラマ・映画に見る社会的イシュー：学校暴力 (皆さんも、好きなドラマや映画があれば紹介してください。)	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第11回	対面	韓国の住まいはどのように変わってきたのか：韓屋からアパート、「半地下」まで	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第12回	対面	韓国の服装はどのように変わってきたのか：昔の服から今のファッションへ	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第13回	対面	韓国の食文化はどのように変わってきたのか：伝統的な食事から外食・現代の食生活まで	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第14回	対面	K コンテンツはどのように変化し、産業として発展してきたのか	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義のまとめとレポート試験について	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】これまで集めてきた配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	5 時間

科目名	現代東南アジア事情	開講年度	2026 年度春学期
担当者	今井 健一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	現代における東南アジアの経済と社会について理解する。		
授業の目的及び概要	本授業では、現代における東南アジアの経済と社会に焦点を当てる。本授業の前半では、東南アジア諸国の現在に至るまでの経済発展の過程について学んでいく。まず第一に、1980 年代から 1990 年代までのキャッチアップ型工業化の時代を振り返る。そして第二に、2000 年代以降から現在に至るポスト・キャッチアップの時代における東南アジア経済の大きな変化と課題について学んでいく。本授業の後半では、東南アジア諸国における経済活動が国境を越えて行われていることを踏まえ、当該地域の現代における様々な経済的・社会的現象について考察する。具体的には、経済的变化がもたらす格差、都市化、環境破壊、少子高齢化といった社会的変化がもたらす課題について学んでいく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	受講生は、現代東南アジアの基礎的な知識、地域の特性、現代的なトピック、日本との関係等の学修を通し、当該地域を総合的に理解することを目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容を理解できているかを確認するため、そして授業内容の理解を深めるため、以下のことを行なう。（１）授業で出題する質問や課題について、“自ら能動的に調べ・考える。” （２）これらの質問や課題の回答については、授業において解説・質疑応答・ディスカッションを行う。また、（３）中間試験については、採点した上で講評・解答解説・質疑応答を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。但し、授業用資料を必要に応じて Learning Portal にアップする。	ISBN	0
参考書	現代アジア経済論，遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太，有斐閣，2018 年	ISBN	9784641184428
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	本授業を通して、東南アジアの経済と社会のダイナミズムを感じてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の目的及び概要、学修の到達目標、授業計画等についてのガイダンス参考書に	【予習】シラバスを事前に読んでおくこと。 【復習】講義の重要ポイントを確認する。	2 時間

		ついて「まずは、東南アジアの基礎知識について学ぼう！」		
第2回	対面	「アジア経済はどう論じられてきたかー東南アジアを中心にー」	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4 時間
第3回	対面	「アジアにおける域内貿易と経済統合の進展ー東南アジアを中心にー」	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4 時間
第4回	対面	「経済大国・中国の登場」	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4 時間
第5回	対面	「アジアのグローバルな分業ネットワークと地場企業の発展ー東南アジアを中心に」(1 回目)	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4 時間
第6回	対面	「アジアのグローバルな分業ネットワークと地場企業の発展ー東南アジアを中心に」(2 回目)	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】第7回授業で実施される中間試験に備えて、第1回～第6回授業の講義内容(課題も含む)を復習する。	5 時間
第7回	対面	① 「環境技術分野のアジア市場と日本の国際競争力」 ② 中間試験の実施	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4 時間
第8回	対面	① 中間試験の講評・解答説明・質疑応答 ② 「東南アジアにおける相互依存関係の深まりと加速するヒトの流れ」(1 回目)	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4 時間
第9回	対面	「東南アジアにおける相互依存関係の深まりと加速するヒトの流れ」(2 回目)	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4 時間
第10回	対面	「東南アジアの都市化とその課題」	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4.5 時間
第11回	対面	「東南アジアのインフォーマル経済とその課題」	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4 時間
第12回	対面	「アジアの人口高齢化ー東アジアと東南アジアの比較ー」	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	3 時間

第13回	対面	「貧困から格差へ」	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	4 時間
第14回	対面	「東南アジアにおける経済発展と環境問題」	【予習】LP にアップする授業用資料を事前に読んでおくこと。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認すると共に、講義で出題された課題がある場合は、答えを次の授業までに考えておくこと。	3 時間
第15回	オンデマンド	授業の総括：定期筆記試験に備えて、第1回～第14回授業（課題内容も含む）を振り返り、重要項目についての理解度を確認する。	【予習】事前に配布した資料に目を通し、第1回～第14回授業の重点ポイントを再度確認する。理解が不十分である項目や質問事項についてはリストアップし、第15回オンデマンド授業前に Learning Portal より提出のこと。	5 時間

科目名	アジア太平洋地域研究 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	今井 健一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本の開発協力：アジア太平洋地域を中心に		
授業の目的及び概要	本授業では、戦後から現在に至るまでアジア太平洋地域諸国の経済社会発展に大きな貢献をしてきた日本の開発協力について学んでいく。開発協力とは、途上国における人づくり、インフラ整備、自然災害、環境問題、平和構築など多分野にわたる開発問題に対して行われる支援であるが、その中心となるのが ODA（Official Development Assistance：政府開発援助）である。ODA の具体的な支援方法としては、円借款、技術協力、無償資金協力などがある。本授業では、太平洋の小さな島嶼国も含むアジア太平洋地域に焦点を当て、1）日本の ODA の時代背景とその特色について、そして、2）ODA がどのように途上国の経済発展、持続可能な発展に貢献してきたか、について学んでいく。以上の内容に加えて、日本の ODA に関わる国際機関、自治体、企業、NGO/NPO の役割、そして途上国から高く評価されている日本の若者が参加する「青年海外協力隊」の活動についても触れていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本の開発協力がどのような分野（例えば、人づくり）において行われているかを説明することができる。 2. 日本の開発協力がアジア太平洋地域の途上国における経済発展そして持続可能な発展にどのように貢献してきたか、その時代背景と共に説明することができる。 3. 支援する側の国にとっての開発協力の意義（何故、開発協力を行なうのか）について、日本あるいは自国を事例に説明し、議論することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生自らが、授業内容が理解できているかを確認するため、そして授業内容の理解を深めるため、以下の(1)~(3)を実施する。 (1) 授業で出題する質問や課題について、“自ら能動的に調べ、考え、その結果の概要を書く。” (2) 左記の質問や課題の回答については、授業において解説・質疑応答・ディスカッションを行い、さらに理解を深める。 (3) 中間試験については、採点した上で講評・解答解説・質疑応答を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし。	ISBN	なし。
参考書	① シリーズ「日本の開発協力史を問いなおす」<1> 日本型開発協力の形成，下村恭民，東京大学出版会，2020 年 ② シリーズ「日本の開発協力史を問いなおす」<2> 最大ドナー日本の登場とその後，下村恭民，東京大学出版会，2022 年 ③ ODA の国際政治経済学：戦後日本外交と対外援助 1952-2022，保城 広至，千倉書房，2024 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	20	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（％）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	本授業では、特にアジア太平洋地域に焦点を当てますが、おそらく、アジア太平洋地域と聞いて、太平洋の小さな島嶼国を思い浮かべる人はあまりいないのではないのでしょうか？ SDGs（持続可能な開発目標）における 17 の目標に共通する概念として、「誰一人取り残さない」（No one left behind）があります。この概念に従えば、開発協力においても、これらの小さな島嶼国の存在を見過ごしてはいけないということです。この点を踏まえ、本授業では、これらの国々についてもスポットを当てていきたいと思います。このような些細に見えるような存在を忘れずに、広い視野から開発協力について一緒に考えていきましょう！	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	・授業の目的及び概要、学修の到達目標、授業計画等についてのガイダンス ・初回授業「開発協力とは：開発協力の意義 ～何故、開発協力を行なうのか？～」	【予習】シラバスおよびテキスト序章を事前に読んでおくこと。	2 時間
第 2 回	対面	第 1 回～第 7 回：第二次世界大戦後から冷戦期における日本の開発協力 「被援助国から援助国へ（1）：賠償協定調印とコロンボ・プラン加盟」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第 3 回	対面	「被援助国から援助国へ（2）：高度経済成長と OECD 加盟」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第 4 回	対面	「援助大国への道（1）：国際協力の急速な拡大」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第 5 回	対面	「援助大国への道（2）：東南アジアの反日と開発協力政策の変容」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第 6 回	対面	① 「援助大国への道（3）：日米経済摩擦と開発協力政策の変容」 ② 中間試験についての説明	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】中間試験に備えて第 2 回～第 6 回授業内容を振り返る。	5 時間
第 7 回	対面	① 中間試験の実施 ② 「21 世紀的なドナー国を求めて」	【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第 8 回	対面	第 8 回～第 14 回：冷戦後の日本の開発協力 ① 中間試験結果について：解答説明と講評 ② 「トップドナー日本の国際貢献（1）：国際平和協力と平和構築」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第 9 回	対面	「トップドナー日本の国際貢献（2）：貧困への取り組み」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第 10 回	対面	「トップドナー日本の国際貢献（3）：アフリカ支援への取り組み」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第 11 回	対面	「トップドナー日本の国際貢献（4）：地球環境問題への取り組み」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第 12 回	対面	「市民参加の潮流」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間

第13回	対面	「巨大ドナー中国」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】 講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第14回	対面	「援助協調の時代」と「人間の安全保障」	【予習】 Learning Portal に掲載される授業用資料を事前に読む。 【復習】 講義で学んだ重要ポイントを確認する。	4 時間
第15回	オンデマンド	定期筆記試験に備えて、中間試験後の第7回～第14回授業（課題内容も含む）を振り返り、重要項目についての理解度を確認する。	【予習】 事前に配布した資料に目を通し、第7回～第14回授業の重点ポイントを再度確認する。理解が不十分である項目や質問についてはリストアップし、第15回オンデマンド授業前に Learning Portal より提出する。	5 時間

科目名	アジア太平洋地域研究 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア太平洋地域の国際関係を学ぶ		
授業の目的及び概要	本講義は戦後アジア太平洋地域の政治、外交、安全保障上の対立と競争、そして協力関係について体系的に学修し、政治的な概念としてのアジア太平洋地域が形成されてきた背景と、近年アジア太平洋を取って代わる地域概念（インド太平洋など）が現れた要因について学びます。 21 世紀のアジア太平洋地域は国際関係における中心的な存在になりつつあります。この政治的に作られた地域には軍事、経済の大国による競争だけでなく、多様な文化、宗教を持つ国々による協力も同時に存在します。これからのアジア太平洋地域における安定と共存を模索するために、これまでの地域の歴史と現状について一緒に学びましょう。		
履修条件・留意点	・国際関係論、政治地理学などの国際関係・国際政治系の授業と合わせて履修することをお勧めします（必須ではありません） ・国際関係・国際政治系の大学院を目指す方には強くお勧めします ・この講義の内容には「正解」がありません。さまざまな情報を客観的に分析し、自分の考えと異なる意見にも耳を傾ける姿勢を高く評価されます ・授業で学んだことと関連のあるニュース記事を見かけたら、ぜひそのニュースの要点と自分の意見をノートに書いてみてください。就職活動のときに必ず役に立ちます		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	受講者が授業終了時に以下の知識を身につけていることを目標とします ・冷戦期とポスト冷戦期におけるアジア太平洋地域諸国・地域間の対立、競争の歴史を理解できる ・アジア太平洋地域における主な対立イシューと協力枠組みについて説明できる ・グローバリゼーションと米中競争を背景とするアジア太平洋地域の秩序変容について説明できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って皆さんから質問を集め、次週以降質問への回答やコメントをします ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設けます ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介します		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定がありません。レジュメやパワーポイント資料を利用して授業を行います。適宜参考文献を紹介します。	ISBN	なし
参考書	①現代東アジアの政治と社会、家近亮子、放送大学教育振興会、2020 年 ②重層的な地域としてのアジア対立と共存の構図、大庭三枝、有斐閣、2014 年 ③戦後日本のアジア外交、宮城大蔵、ミネルヴァ書房、2015 年 ④はじめての東南アジア政治、増原綾子他、有斐閣、2018 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	【授業の内容について】 ・各授業回で配布する資料・スライドをもとに予習と復習を十分に行ってください ・授業では教員の一方的な説明のみではなく、受講生同士でのディスカッションを通じて、知識を深めていきたいと思ひます	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明します	【予習】シラバスを事前に読んでください。 【復習】シラバスと第1回のガイダンス資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第2回	対面	アジア太平洋地域の概要：地理的概念と政治的概念としてのアジア太平洋	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	対面	第2次世界大戦以前のアジア太平洋地域：反植民地支配と近代国家への道	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	アジア太平洋の戦争	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	世界大戦への道と戦後東アジア秩序の模索	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	冷戦期の東アジア：中国の内戦と朝鮮戦争	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	冷戦期の東南アジア：各国の脱植民地化	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第8回	対面	第三世界の脱植民地化とベトナム戦争	【予習】配布資料を事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第9回	対面	米ソ対立と米中接近、冷戦下の地域協力	【予習】配布資料を事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第10回	対面	冷戦終結への道：中国の改革開放に伴う対外政策の転換	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第11回	対面	地域協力の萌芽：日本の対アジア外交	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでください。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第12回	対面	ポスト冷戦期のアジア太平洋地域：地域協力の加速と新たな摩擦	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでください。	4時間

			【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください。	
第13回	対面	大国化する中国のアジア外交	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第14回	対面	米中競争時代のアジア太平洋地域	【予習】配布資料やテキストを事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業の総括・復習	【予習】これまでの授業回の配布資料を再度読んでおいてください。 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください。	4 時間

科目名	アジア太平洋地域研究C		開講年度	2026 年度春学期
担当者	池上 寛		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	アジア太平洋地域における経済、社会および経済統合を知る			
授業の目的及び概要	この授業ではアジア太平洋地域における経済や社会について焦点を当て、その概況や特徴を明らかにします。また、この地域では様々な経済統合が進められています。この地域における経済統合の動きや各国・地域で締結されている主な経済協定を取り上げて、どのような経済協力が進んでいるかを考えることとします。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ アジア太平洋地域における経済概況や特徴を理解する。 ・ 経済協定を締結する背景、その特徴、効果や課題を知り、なぜアジア太平洋地域では積極的に経済協定を締結されているかを理解する。 ・ アジア太平洋地域で締結されている主要な経済協定を知り、基本的内容を理解する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	コメントシートに疑問を書いてもらい、翌週以降の授業でフィードバックを行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。		ISBN	なし
参考書	授業内で適宜指示する。		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		20	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この科目はアジア太平洋地域の経済や社会、経済協力、経済統合について取り上げます。日本をはじめ、アジア太平洋地域には多くの国・地域が属していますが、その経済、人口などその規模は大小さまざまです。この科目では前半では主要なアジア各国・地域の経済および社会指標などに焦点を当て、経済や社会を知ってもらう機会とします。また、後半ではアジア太平洋地域で進んでいる経済協力や経済統合について考えます。 「経済」をキーワードにアジア太平洋地域を知る機会にしてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 各回の講義内容 アジア太平洋地域の範囲とは	（事前学修）アジア太平洋地域について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジュメを使って復習をする。	4 時間

第2回	対面	アジア太平洋地域の経済社会概況（1）	（事前学修）アジア太平洋地域の人口、国土など各国地域の概況を国際機関統計などを使って調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第3回	対面	アジア太平洋地域の経済社会概況（2）	（事前学修）アジア太平洋地域の経済概況について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第4回	対面	アジア太平洋地域の経済社会概況（3）	（事前学修）アジア太平洋地域の過去の GDP の成長率、GDP 額を調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第5回	対面	アジア太平洋地域の経済社会概況（4）	（事前学修）アジア太平洋地域の各国・地域の貿易について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第6回	対面	関税について	（事前学修）なぜ貿易において税金をかけるのかを調べておくこと。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第7回	対面	経済統合とは何か	（事前学修）アジア太平洋地域で締結されている経済協力協定や経済統合について調べておくこと。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第8回	対面	前半部分のまとめ、中間テスト	（事前学修）前半部分のレジユメを使って中間テストに備えること。 （事後学修）出た問題について、復習すること。	4 時間
第9回	対面	ASEAN について	（事前学修）ASEAN のウェブサイトなどから、ASEAN の歴史、ASEAN 加盟国で行われている経済協力について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第10回	対面	APEC について	（事前学修）APEC と加盟国拡大の歴史について、ウェブサイトから調べておく。また、APEC で決まったことについて調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第11回	対面	TPP12 について	（事前学修）TPP 加盟国と加盟申請中の国・地域、TPP ができた過程、TPP の内容とメリットについて調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第12回	対面	RCEP について	（事前学修）RCEP の概要、参加国について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第13回	対面	中国が主導する経済協力について	（事前学修）中国が主導して実施している経済協力について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第14回	対面	日本における個別経済協力協定について	（事前学修）日本が締結している経済協力協定について調べておく。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習をする。	4 時間
第15回	オンデマンド	本講義のまとめ、定期試験について	（事前学修）これまでの講義内容を振り返る。 （事後学修）授業で配布したレジユメを使って復習	4 時間

2026/05/01

		し、定期試験に備える。	

科目名	アジア太平洋地域研究D	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前鶴 政和	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジアの環境問題と持続可能な発展に向けて		
授業の目的及び概要	世界各地で、集中豪雨、強い台風などの異常気象が観測されるなど、気候変動の影響が現れている。また、大気汚染は、健康に影響を与えるだけでなく、生態系や建造物などにも影響を及ぼし、気候変動とともに地球規模の問題である。経済成長が加速するアジアでは、人々が現在の先進国のような大量消費・大量生産型の生活スタイルで消費水準を高めていくと、気候変動も大気汚染も悪化の一途をたどると考えられている。アジアで急増する温室効果ガスの排出量を削減し、大気汚染を改善するためには、アジア諸国を含めた地球全体で協力して対策を進めることが、必要とされている。本授業の目的は、このようなアジアの経済成長がもたらした環境問題について理解し、持続可能な発展について検討することである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①アジアの経済発展がもたらした気候変動などの環境問題について、説明することができる。 ②アジアにおける環境問題と関連する天然資源・エネルギーや農業の問題について、説明することができる。 ③アジアにおける持続可能な発展に向けた取組について、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。配布資料を用いて講義を行います。	ISBN	なし
参考書	①グローバル化のなかのアジアー持続可能な共同体の構築に向けて一、豊金香男・高柳彰夫・矢野久美子（編），明石書店，2025 年 ②実証から学ぶ開発経済学，高橋和志・樋口裕城・牧野百恵（編），2025 年 ③現代アジアをつかむー社会・経済・政治・文化 35 のイシューー，佐藤史郎・石坂 晋哉（編），2022 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行ってください。また、環境問題や持続可能な発展に関する新聞記事等についても日頃から目を通しておいってください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方、成績評価等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンスの配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンスの配布資料の内容を読み直し、復習しておいてください。	2時間
第2回	対面	「グローバル化とアジア」について説明します。	【予習】「グローバル化とアジア」に関する配布資料及び参考書①（pp. 9-21）を事前に読んでおいてください。 【復習】「グローバル化とアジア」に関する配布資料及び参考書①（pp. 9-21）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第3回	対面	「アジアの経済成長プロセス」について学修します。	【予習】「アジアの経済成長プロセス」に関する配布資料及び参考書③（pp. 151-164）を事前に読んでおいてください。 【復習】「アジアの経済成長プロセス」に関する配布資料及び参考書③（pp. 151-164）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第4回	対面	引き続き、「アジアの経済成長プロセス」について学修します。	【予習】「アジアの経済成長プロセス」に関する配布資料及び参考書③（pp. 151-164）を事前に読んでおいてください。 【復習】「アジアの経済成長プロセス」に関する配布資料及び参考書③（pp. 151-164）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第5回	対面	「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」について説明します。	【予習】「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」に関する配布資料及び参考書③（pp. 199-213）を事前に読んでおいてください。 【復習】「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」に関する配布資料及び参考書③（pp. 199-213）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第6回	対面	引き続き、「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」について説明します。	【予習】「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」に関する配布資料及び参考書③（pp. 199-213）を事前に読んでおいてください。 【復習】「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」に関する配布資料及び参考書③（pp. 199-213）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第7回	対面	「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」について説明します。	【予習】「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 214-226）を事前に読んでおいてください。 【復習】「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 214-226）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第8回	対面	引き続き、「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」について説明します。	【予習】「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 214-226）を事前に読んでおいてください。 【復習】「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 214-226）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第9回	対面	「グローバル化するアジアの環境問題」について説明します。	【予習】「グローバル化するアジアの環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 227-238）を事前に読んでおいてください。 【復習】「グローバル化するアジアの環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 227-238）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第10回	対面	「アジアの経済成長と持続可能な発展」について説明します。	【予習】「アジアの経済成長と持続可能な発展」に関する配布資料および参考書①（pp. 45-51）を事前に読んでおいてください。	4時間

			【復習】「アジアの経済成長と持続可能な発展」に関する配布資料および参考書①（pp. 45-51）を読み直し、復習しておいてください。	
第11回	対面	「ローカルかつグローバルなアジアの環境危機」について説明します。	【予習】「ローカルかつグローバルなアジアの環境危機」に関する配布資料および参考書①（pp. 51-56）を事前に読んでおいてください。 【復習】「ローカルかつグローバルなアジアの環境危機」に関する配布資料および参考書①（pp. 51-56）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第12回	対面	「気候変動—アジアの持続可能性への重大危機」について説明します。	【予習】「気候変動—アジアの持続可能性への重大危機」に関する配布資料および参考書①（pp. 56-63）を事前に読んでおいてください。 【復習】「気候変動—アジアの持続可能性への重大危機」に関する配布資料および参考書①（pp. 56-63）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第13回	対面	「気候変動とこれからの開発」について説明します。	【予習】「気候変動とこれからの開発」に関する配布資料および参考書②（pp. 245-253）を事前に読んでおいてください。 【復習】「気候変動とこれからの開発」に関する配布資料および参考書②（pp. 245-253）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第14回	対面	引き続き、「気候変動とこれからの開発」について説明します。	【予習】「気候変動とこれからの開発」に関する配布資料および参考書②（pp. 245-253）を事前に読んでおいてください。 【復習】「気候変動とこれからの開発」に関する配布資料および参考書②（pp. 245-253）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6 時間

科目名	アジア太平洋地域研究D		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前鶴 政和		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	アジアの環境問題と持続可能な発展に向けて			
授業の目的及び概要	世界各地で、集中豪雨、強い台風などの異常気象が観測されるなど、気候変動の影響が現れている。また、大気汚染は、健康に影響を与えるだけでなく、生態系や建造物などにも影響を及ぼし、気候変動とともに地球規模の問題である。経済成長が加速するアジアでは、人々が現在の先進国のような大量消費・大量生産型の生活スタイルで消費水準を高めていくと、気候変動も大気汚染も悪化の一途をたどると考えられている。アジアで急増する温室効果ガスの排出量を削減し、大気汚染を改善するためには、アジア諸国を含めた地球全体で協力して対策を進めることが、必要とされている。本授業の目的は、このようなアジアの経済成長がもたらした環境問題について理解し、持続可能な発展について検討することである。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①アジアの経済発展がもたらした気候変動などの環境問題について、説明することができる。 ②アジアにおける環境問題と関連する天然資源・エネルギーや農業の問題について、説明することができる。 ③アジアにおける持続可能な発展に向けた取組について、説明することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。配布資料を用いて講義を行います。	ISBN	なし	
参考書	①グローバル化のなかのアジアー持続可能な共同体の構築に向けて一、豊金香男・高柳彰夫・矢野久美子（編），明石書店，2025 年 ②実証から学ぶ開発経済学，高橋和志・樋口裕城・牧野百恵（編），2025 年 ③現代アジアをつかむー社会・経済・政治・文化 35 のイシューー，佐藤史郎・石坂 晋哉（編），2022 年	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行ってください。また、環境問題や持続可能な発展に関する新聞記事等についても日頃から目を通しておいってください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方、成績評価等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンスの配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンスの配布資料の内容を読み直し、復習しておいてください。	2時間
第2回	対面	「グローバル化とアジア」について説明します。	【予習】「グローバル化とアジア」に関する配布資料及び参考書①（pp. 9-21）を事前に読んでおいてください。 【復習】「グローバル化とアジア」に関する配布資料及び参考書①（pp. 9-21）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第3回	対面	「アジアの経済成長プロセス」について学修します。	【予習】「アジアの経済成長プロセス」に関する配布資料及び参考書③（pp. 151-164）を事前に読んでおいてください。 【復習】「アジアの経済成長プロセス」に関する配布資料及び参考書③（pp. 151-164）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第4回	対面	引き続き、「アジアの経済成長プロセス」について学修します。	【予習】「アジアの経済成長プロセス」に関する配布資料及び参考書③（pp. 151-164）を事前に読んでおいてください。 【復習】「アジアの経済成長プロセス」に関する配布資料及び参考書③（pp. 151-164）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第5回	対面	「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」について説明します。	【予習】「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」に関する配布資料及び参考書③（pp. 199-213）を事前に読んでおいてください。 【復習】「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」に関する配布資料及び参考書③（pp. 199-213）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第6回	対面	引き続き、「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」について説明します。	【予習】「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」に関する配布資料及び参考書③（pp. 199-213）を事前に読んでおいてください。 【復習】「アジア経済の中の天然資源とエネルギー」に関する配布資料及び参考書③（pp. 199-213）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第7回	対面	「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」について説明します。	【予習】「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 214-226）を事前に読んでおいてください。 【復習】「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 214-226）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第8回	対面	引き続き、「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」について説明します。	【予習】「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 214-226）を事前に読んでおいてください。 【復習】「モンスーンアジアにおける農業と環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 214-226）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第9回	対面	「グローバル化するアジアの環境問題」について説明します。	【予習】「グローバル化するアジアの環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 227-238）を事前に読んでおいてください。 【復習】「グローバル化するアジアの環境問題」に関する配布資料および参考書①（pp. 227-238）を読み直し、復習しておいてください。	4時間
第10回	対面	「アジアの経済成長と持続可能な発展」について説明します。	【予習】「アジアの経済成長と持続可能な発展」に関する配布資料および参考書①（pp. 45-51）を事前に読んでおいてください。	4時間

			【復習】「アジアの経済成長と持続可能な発展」に関する配布資料および参考書①（pp. 45-51）を読み直し、復習しておいてください。	
第11回	対面	「ローカルかつグローバルなアジアの環境危機」について説明します。	【予習】「ローカルかつグローバルなアジアの環境危機」に関する配布資料および参考書①（pp. 51-56）を事前に読んでおいてください。 【復習】「ローカルかつグローバルなアジアの環境危機」に関する配布資料および参考書①（pp. 51-56）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第12回	対面	「気候変動—アジアの持続可能性への重大危機」について説明します。	【予習】「気候変動—アジアの持続可能性への重大危機」に関する配布資料および参考書①（pp. 56-63）を事前に読んでおいてください。 【復習】「気候変動—アジアの持続可能性への重大危機」に関する配布資料および参考書①（pp. 56-63）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第13回	対面	「気候変動とこれからの開発」について説明します。	【予習】「気候変動とこれからの開発」に関する配布資料および参考書②（pp. 245-253）を事前に読んでおいてください。 【復習】「気候変動とこれからの開発」に関する配布資料および参考書②（pp. 245-253）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第14回	対面	引き続き、「気候変動とこれからの開発」について説明します。	【予習】「気候変動とこれからの開発」に関する配布資料および参考書②（pp. 245-253）を事前に読んでおいてください。 【復習】「気候変動とこれからの開発」に関する配布資料および参考書②（pp. 245-253）を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6 時間

科目名	SDGs 特別講義 A		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	今井 健一		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	気候変動および生物多様性を国際関係、経済、ビジネスから考える。			
授業の目的及び概要	持続可能な開発目標（SDGs）が解消を目指すグローバル課題を、国際関係、国際経済、国際ビジネスが共通の対象とする「経済」「社会」「環境」という切り口から整理し分野横断的な視点から学ぶとともに、国内・地域およびグローバルといった多層的な視点から理解を深める。加えて、ゲストスピーカーの講演を通じて、多様なアクター（国家、国際機関、市民社会、企業センター等）が SDGs の達成にむけてどのように取組んでいるのかについて具体的に学ぶ。			
履修条件・留意点	SDGs 特別講義は、本講義「SDGs 特別講義 A」（環境）の他に、「SDGs 特別講義 B」・「SDGs 特別講義 C」（社会・経済）と 3 つの授業があり、3 つの授業を通じて、17 の目標が示すグローバル課題を学んでいく講義です。卒業要件上、SDGs 特別講義は選択必修であり、3 つの授業うち 1 つ以上の授業を履修してください。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①気候変動問題、生物多様性問題とは何かを説明できる。 ②気候変動および生物多様性について、国際経済および国際関係の視点から何がポイントになるのかを理解し説明することができる。 ③気候変動および生物多様性の課題に対して、行政、企業、市民社会がどのように取組んでいるのかについての知識を修得し、その概要を説明することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返りを行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定しない。		ISBN	なし。
参考書	指定しない。（適宜授業のなかで指示する。）		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）		0	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	本講義「SDGs 特別講義 A」は、地球規模の環境問題、特に気候変動問題と生物多様性減少問題にスポットを当てます。授業をとおして、これらの問題の概要が理解出来たら、是非、特に関心をもった具体的なテーマを自分自身で見つけて下さい。このような具体的テーマを通してより理解が深まるはずです。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業目的・進め方（今井）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間

		SDGs とは何か、気候変動問題および生物多様性問題とは何かなど、本講義を通じて登場するキーワードを理解する。		
第2回	対面	国際経済から気候変動問題①：北極圏で何が起きているか（今井） 北極圏における温暖化の現状と将来予測、そしてその自然と世界経済への影響について学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第3回	対面	国際経済から気候変動問題②：グリーンテクノロジーは地球を救えるか（今井） 再生可能エネルギーなど気候変動緩和関連技術（グリーンテクノロジー）の国際移転・伝播がもたらす気候変動緩和への効果や課題について学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第4回	対面	講演①（今井） 企業/自治体/市民社会からのゲストスピーカーによる講義（気候変動の取組みを中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第5回	対面	国際経済から生物多様性減少の問題①：生物多様性の経済的価値と非経済的価値（今井） まず、生物多様性とは何かについて理解した後、生物多様性が人間に提供してくれている多様なサービス機能とその価値について学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第6回	対面	国際経済から生物多様性減少の問題②：遺伝資源の市場価値（今井） 遺伝資源が有する経済的価値（例えば、農業分野や医療分野での利用価値が高いと見込まれる新たな遺伝子の価値）とそれを巡る国際市場・国家間競争について学ぶ。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第7回	対面	講演②（今井） 企業/自治体/市民社会からのゲストスピーカーによる講義（生物多様性の取組みを中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第8回	対面	国際関係から国際環境法の構造（稲垣） 成立までの歴史的経緯、国際環境法の基本原則、国際環境法の特徴	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第9回	対面	国際関係から気候変動（稲垣） 気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第10回	対面	講演③（今井） 金融機関からのゲストスピーカーによる講義（投融資の視点（特に「公正な移行」（Just Transition）から）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第11回	対面	国際関係から生物多様性（稲垣） 生物多様性条約、カルタヘナ議定書、名古屋・クアラルンプール補足議定書、名古屋議定書	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第12回	対面	国際関係から海洋生物資源の持続可能な利用（稲垣） 国連海洋法条約、国連公海漁業実施協定、IUU 漁業問題、BBNJ 協定	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第13回	対面	講演④（今井） 市民社会からのゲストスピーカーによる講義（気候変動/生物多様性の視点から）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4 時間
第14回	対面	これまでの授業のまとめ（今井）。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレ	4 時間

		ゲストスピーカーの講演についてのフィードバック(グループディスカッション)。	ジユメを読んで予習を行う。	
第15回	オンデマンド	授業のふりかえりと学期末試験に備えて重点項目等の理解を再確認(稲垣)。各教員が15分程度の解説動画を作成する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジユメを読んで予習を行う。	4時間

科目名	SDGs 特別講義B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	菅原 絵美		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	サステナビリティの社会課題（貧困、健康、教育、ジェンダー等）を国際関係、経済、ビジネスから考える。			
授業の目的及び概要	持続可能な開発目標（SDGs）が解消を目指すグローバル課題を、国際関係、国際経済、国際ビジネスが共通の対象とする「経済」「社会」「環境」という切り口から整理し分野横断的な視点から学ぶとともに、国内・地域およびグローバルといった多層的な視点から理解を深める。加えて、ゲストスピーカーの講演を通じて、多様なアクター（国家、国際機関、市民社会、企業センター等）が SDGs の達成にむけてどのように取り組んでいるのかについて具体的に学ぶ。			
履修条件・留意点	とくになし			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. SDGs において取り上げられている社会課題について説明することができる。 2. SDGs の社会課題について、国際経済および国際関係の視点から何がポイントになるのかを理解し説明することができる。 3. SDGs の社会課題に対して、行政、企業、市民社会がどのように取り組んでいるのかについての知識を修得する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返りを行う。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定しない。	ISBN	なし。	
参考書	指定しない。（適宜授業のなかで指示する。）	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容	0		
この科目の受講にあたって	SDGs 特別講義は、本講義「SDGs 特別講義 B」（社会・開発）の他に、「SDGs 特別講義 A」・「SDGs 特別講義 C」（環境と平和・経済）と 3 つの授業があり、3 つの授業を通じて、17 の目標が示すグローバル課題を学んでいく講義です。卒業要件上、SDGs 特別講義は選択必修であり、3 つの授業うち 1 つ以上の授業を履修してください。 現在の日本の状況とは異なった社会・経済のなかで、SDGs の目標が相互に関連していることを理解するように想像力を働かせてください。（金子） SDGs における社会課題を人権の視点から考えていきます。政府（自治体含む）、国際機関、企業、NGO などがどのように課題に向き合っているのかを学び、自分はどのように向き合っていくのかと考えて深めていってもらえると嬉しいです。（菅原）			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	イントロダクション（菅原） 授業目的・進め方 SDGs とは何か、SDGs において取り上げられている社会課題（貧困、健康、教育、ジェンダー等）とは何かなど、本講義を通じて登場するキーワードを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第2回	対面	貧困と飢餓（菅原） 難民問題を切り口に、食料・水への権利と国際的な人権保障を考える。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第3回	対面	健康と教育（菅原） 児童労働の撲滅と企業・市民社会・コミュニティの役割を考える	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第4回	対面	講演①（菅原） 企業・NGO・国際機関・政府機関等からのゲストスピーカーによる講義（児童労働の視点から）	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第5回	対面	ジェンダー平等（菅原） 日本におけるジェンダー平等実現と政府・企業・市民社会の役割と課題を考える。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第6回	対面	働きがいと経済成長（菅原） ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の実現とILOの役割を考える	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第7回	対面	講演②（菅原） 企業・NGO・国際機関・政府機関等からのゲストスピーカーによる講義（ディーセントワークの実現の取り組みを中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第8回	対面	貧困と人的資本としての労働力（金子） 貧困を解決するための生産性の向上のための、人的資本の蓄積について考える	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第9回	対面	農村・都市の労働力と賃金（金子） 農村の過剰人口や都市のスラムの状況と、農村・都市の賃金について考える	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第10回	対面	講演③（金子） 企業・NGO・国際機関・政府機関等からのゲストスピーカーによる講義（経済発展と労働力のテーマを中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第11回	対面	健康と貧困（金子） 平均寿命、開発途上国の乳幼児死亡率、及びそれらを左右する要因について考える	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第12回	対面	貧困対策のターゲットング（金子） 貧困層を対象とする政策を行うときのターゲットングを考える	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第13回	対面	講演④（金子） 企業・NGO・国際機関・政府機関等からのゲストスピーカーによる講義（途上国（特に農村の状況）の状況と課題を中心に）	事前学修としてラーニングポータルにアップした資料を読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第14回	対面	授業のまとめ（菅原） これまでの授業のまとめ	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間
第15回	オンデマンド	振り返り（オンデマンド）（金子） これまでの授業の振り返りを、確認テストの解説を含めて行う。各教員が15分程度の解説動画を作成する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4 時間

科目名	SDG s 特別講義C		開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田 真也		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	サステナビリティの経済と平和・公正に関わる課題を国際関係、経済、ビジネスから考える。			
授業の目的及び概要	持続可能な開発目標（SDGs）が解消を目指すグローバル課題を、国際関係、国際経済、国際ビジネスが共通の対象とする「経済」「社会」「環境」という切り口から整理し分野横断的な視点から学ぶとともに、国内・地域およびグローバルといった多層的な視点から理解を深める。加えて、ゲストスピーカーの講演を通じて、多様なアクター（国家、国際機関、市民社会、企業センター等）が SDGs の達成にむけてどのように取り組んでいるのかについて具体的に学ぶ。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. SDGs において取り上げられている経済と平和・公正について説明することができる。 2. SDGs の経済と平和・公正について、経済・ビジネスおよび国際関係の視点から何がポイントになるのかを理解し説明することができる。 3. SDGs の経済と平和・公正に関して、行政、企業、市民社会がどのように取り組んでいるのかについての知識を修得する。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返りを行う。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。			
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定しない。	ISBN	なし。	
参考書	指定しない。（適宜授業の中で指示する。）	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容	0		
この科目の受講にあたって	SDGs 特別講義は、本講義「SDGs 特別講義 C」（経済と平和・公正）の他に、「SDGs 特別講義 A」・「SDGs 特別講義 B」（環境と社会・開発）と 3 つの授業があり、3 つの授業を通じて、17 の目標が示すグローバル課題を学んでいく講義です。卒業要件上、SDGs 特別講義は選択必修であり、3 つの授業うち 1 つ以上の授業を履修してください。 SDGs は、これからの未来を担う皆さんにとって、持続可能な未来を築いていく上でとても重要な概念です。本授業では、脱炭素化の実現に向けた事例やまちづくりの観点から SDGs を学びます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション（福田・島本）	（事前学修）テキストの該当部分を一読し、関心事項	4 時間

		授業目的・進め方 SDGs とは何か、SDGs が取り上げる経済・平和に関わる課題とは何かなど、本講義を通じて登場するキーワードを理解する。	や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第2回	対面	住み続けられるまちづくり(交通機関の充実)(福田) 充実した交通ネットワークの構築は、住み続けられるまちづくりを实践する上で欠かせないポイントである。各地の事例を交えながら、その実情と今後の方向性について考察する。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	産業と技術革新の基盤づくり(福田) 物流業界が直面する SDGs 関連の課題をはじめ、グリーン物流・スマート物流の推進、物流効率の最適化などの取組みを通じて、物流業界が産業全体の発展と持続可能な社会の実現に対してどのような影響を与えているのかについて学ぶ。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	講演①(福田) 企業または自治体による講義(物流の効率化に関する取組みの視点から)	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	企業経営とSDGs(福田) 企業がSDGsに取り組む理由について、業務や就労環境の体質改善、新規事業・新商品の開発、新たな顧客の発掘などの観点から考察する。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	企業経営とSDGs(福田) 企業経営とSDGsの関係について中長期的な視点で考察する。具体的には、ムーンプッシュの立案、サーキュラーエコノミー、バリューチェーンなどの観点から考察する。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	講演②(福田) 企業または自治体による講義(企業経営とSDGsの視点から)	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	平和とは(島本) SDGs ゴール 16 における「平和」の解説として、ヨハン・ガルトウングの学説等を紹介した上で、国際社会における平和の維持・平和構築について、国際機構がどのような役割を果たしてきたのか説明する。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	国際紛争とテロの予防(島本) SDGs ゴール 16 はテロの予防を掲げている。しかし、国際紛争においては相手アクターをテロリストとラベリングし、国際的評判を貶める戦略的狙いも存在する。「テロ」「テロリスト」とは何なのか、イスラエル/パレスチナ紛争を事例として考察する。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第10回	対面	講演③(島本) 国際機関の方による講義(平和構築の視点から)	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	法の支配と民主主義(島本) 法の支配、民主主義がサステナビリティの	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。	4 時間

		実現にどのように重要なのかを確認する。特に、子ども・女性をめぐる、意思決定における彼女らの参加を考える。将来世代の権利について考えるアクティブラーニングを行うことも予定しているため、積極的な授業参加を歓迎する。	(事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第12回	対面	マイノリティと参加 (島本) 国際法における「マイノリティ」の用語の定義をはじめ、「民族的、宗教的、言語的マイノリティ」や「先住民族」の歴史的経緯について概観する。また、マイノリティの人々の意思決定参加が行われるにはどうすべきかを、昨今の「ダイバーシティ」の観点を批判的に分析しつつ、検討したい。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	講演④ (島本) ダイバーシティ推進に関する講義 (人権 NG0 もしくは企業の観点から)	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第14回	対面	授業のまとめ (福田・島本) これまでの授業のまとめ	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	振り返り (オンデマンド) (福田・島本) これまでの授業の振り返りを、確認テストの解説を含めて行う。各教員が 15 分程度の解説動画を作成する。	(事前学修) テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	比較政治学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山口 治男	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	政治体制の違いはどこから生まれ、何を生み出すのか		
授業の目的及び概要	近年の国際ニュースを見ていると、「なぜそんなことになってしまうのか？」という疑問が多く湧いてくると思います。そこには政治や経済、宗教、地理など様々な要因がありますが、この講義では具体的な国々の政治体制の共通点や差異を知っていくことで、その問いに対しての考察を深めていきます。 政治体制について理解する上では、経済や文化についての理解も不可欠です。またそれらを理解していくことは、国境を超えてつながっていくこれからの世界に出ていく上で必須でもあります。全ての国や政治体制を取り上げることは不可能ですが、この講義では日本などとのつながりの深いアジアの国々を事例としながら、具体的な文脈からそこに迫っていきます。 激動する現代の国際社会で今まさに起きている現実の問題を通じて、比較政治学と一緒に学んでいきましょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 様々な国の政治体制を経済や文化と共に学ぶことで基礎的な知識を獲得する。 ・ 具体的な歴史や現状の事実に基づき、それらについて考察する視点を持てるようにする。 ・ そのほかの国や地域で起こっている事例に対しても応用できる力を身につけていく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付ける。それぞれの質問やコメントペーパー、レポート課題に対しては個別に回答や添削を行うが、必要な情報に関しては全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ この講義では様々な国や地域を扱っていく予定です。情報量は多くなるかと思いますが、講義内容を全て覚えるようなことは想定していません。一回一回の講義を集中して受講し、それらを理解し、自分の頭で考え、言葉にする力を身につけていってください。 ・ 復習は主にショートレポートの作成を通じて行なってもらいます。講義を普通に受けていれば分かる程度の内容について、キーワードを中心に整理・考察してもらいます。 ・ 現実の世界を理解することが目的ですので、日頃ニュースを見ておくことと講義の理解が深まり、実学にもつながります。		

・扱う国や地域は、学生の理解度や関心に応じて変更することがありますので、分からない点はもちろん、分かったこと、興味を持ったことなど、積極的な発言を歓迎します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	比較政治学とは何か	授業後に、この講義で学ぶ比較政治学の概要についてレジュメやノートを用いて確認し、取り上げる国々について予習すること	4時間
第2回	対面	政治と地理	この講義で扱う地理的な要素が何であることを確認し、それぞれの重要性について説明できるようにしておくこと	4時間
第3回	対面	政治と歴史	各国の固有の文脈の多様性を踏まえた上で、「共通の歴史」が果たす役割について整理し、具体的な事例に適用できるようにしていくこと	4時間
第4回	対面	インドネシア	冷戦についての基礎的な知識を整理し、国内政治に与える影響について論述できるようにすること	4時間
第5回	対面	マレーシア	民族政治の概要について整理し、その現状と課題について考察できるようにすること	4時間
第6回	対面	ベトナム	冷戦とベトナム戦争についての基礎的な知識を十分に整理した上で、改めて現在の発展について考察できるようにすること	4時間
第7回	対面	カンボジア	ベトナム戦争との関係性について整理した上で、なぜその後の発展に違いが生じているのかを政治体制と国際関係から理解できるようにすること	4時間
第8回	対面	タイ	他の国々との歴史的な差異を踏まえつつ、政治体制と教育の関係について整理し、その功罪について考察できるようにすること	4時間
第9回	対面	ミャンマー	軍と政治との関わりについてタイトの比較から考察し、また、民族主義と軍、政治が交差する現実について整理できるようにすること	4時間
第10回	対面	フィリピン	言語教育が果たす役割について確認した上で、フィリピン特有の発展について多角的に考察できるようにすること	4時間
第11回	対面	ラオス	地理的・歴史的な要素と国際関係が政治体制と発展にどのように働きかけるのかをこれまでの国々との比較から理解し、新たな発展の萌芽について自身の考察を加えられるようにすること	4時間
第12回	対面	シンガポール	民族政治と都市国家の関係について復習した上で、フィリピンやラオスとも異なる政治・経済的発展の文脈について整理できるようにする	4時間
第13回	対面	ブルネイ	地理と経済、宗教と政治の関わりについてそれぞれ復習した上で、世界のその他の地域も含めた政教分離の現状と今後について考察できるようにする	4時間
第14回	対面	改めて、政治を比較することの意義とは何か	講義全体を通して重要だった共通点についてよく復習した上で、自身の選んだ国や地域における政治体制の分析に適用できるようにしていく	4時間
第15回	オンデマンド	講義のポイントとレポートについての確認	多様な国家の政治体制に通底するポイントや特色についてまとめた上で、自身でレポートとしてまとめられるようにする。 なお、レポートに不慣れな学生が非常に多いことも踏まえ、オンデマンドで複数回確認できるようにしておく。	4時間

科目名	国際関係論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	玉水 玲央	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	理論的な分析視点から国際関係を学ぶ		
授業の目的及び概要	本授業は昨今の国際関係を理論的視座から分析することを目的とする。 今日の国際情勢は混迷を極めている。戦争、パンデミック、ジェノサイド、経済危機、人道危機など、人類が取り組まなければならない越境的諸課題は山積している。そして、これは決して他人事ではなく、自らの社会生活をも脅かす可能性がある。しかし、現代世界が直面している問題群は、実は今に始まったことではなく、遠い昔から様々な場所で発生してきた問題でもある。人類はその問題に共通する原因や規則性を見出すために英知（すなわち、理論）を結集し、国際関係論という学問分野を確立させた。理論を用いることで、私たちは断片的な情報からであっても、国際的な問題を引き起こしてきた原因を推理、検証することができるのである。本授業では、最新の理論に基づいた国際関係論の知見を概観し、過去・現在の国際問題（ロシア・ウクライナ戦争、中東危機、アジア通貨危機、地球温暖化等）に触れながら、理論の有効性と将来を受講生とともに議論、考察していく。		
履修条件・留意点	・履修条件は設定しないが、高校世界史レベルの背景知識を有していることが望ましい。 ・本授業では、昨今の国際関係論の潮流を反映し、個別具体的な問題に対して解を与える中範囲の理論に基づく授業を展開する。伝統的な一般理論（リアリズム等）は大きくは取り上げないので、各自で補修しておくことが望ましい。 ・本授業では、統計的なデータを資料として用いる場面がある。授業では丁寧に説明していくが、あらかじめ数値情報には慣れておくこと。 ・国際関係系の大学院進学希望者の受講も大いに歓迎する。 ・教員への相談希望者は別途メールすること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際関係論に関する重要な概念および理論を理解し、説明すること。 ・現実に行き起きている国際問題を反理論的な問い（パズル）として提示し、さらには理論を応用しながら説明できること。 ・国際問題を解決するために、理論に基づいたうえで、有効な政策提案をできるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って受講生から質問を集め、次週以降質問への回答やコメントを行う。 ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設ける。 ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業では各回で教員作成のスライドを用いるが、予習用に下記のテキストを指定する。 ・多湖淳、『国際関係論』（勁草書房、2024年） ただし、授業は教科書の内容に必ずしも沿うわけではないので注意すること。	ISBN	978-4326303397
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	40
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	【授業の内容について】 ・各授業回で配布する資料・スライドをもとに予習と復習を十分に行うこと。 ・国際関係という性質上、紹介する文献は英語によって執筆されているものが多くなることに留意すること。 ・授業では教員の一方的な説明のみではなく、受講生からの質疑や受講生同士でのディスカッションを通じた双方向の授業を行う予定。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明する。	【予習】シラバスを事前に読んでおくこと。 【復習】シラバスと第1回のガイダンス資料を読み直し、講義の予定を確認しておくこと。	2時間
第2回	対面	近現代国際関係の歴史（ウェストファリア体制から第二次世界大戦後の世界まで）	【予習】配布資料やテキスト（第3章、第4章）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第3回	対面	理論とは何か？	【予習】配布資料やテキスト（序章、1章）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第4回	対面	戦争はなぜ起きるのか？—交渉理論と情報の非対称性—	【予習】配布資料やテキスト（第8章を中心に）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第5回	対面	戦争はなぜ起きるのか？—交渉理論とコミットメント問題—	【予習】配布資料やテキスト（第8章を中心に）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第6回	対面	戦争はなぜ起きるのか—交渉理論と財の分割不可能性—	【予習】配布資料やテキスト（第8章を中心に）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第7回	対面	教場中間試験（30分） （中間試験実施後）国際危機シミュレーション—戦争を回避せよ— ・ある仮想的な国際状況を見せた後、いくつかのグループに分かれて、グループ間で戦争回避のための交渉を行う。 ・その後、なぜある選択（攻撃 or 要求受け入れ）を行ったのかを議論する。	【予習】配布資料やテキスト（第8章を中心に）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第8回	対面	国際制度	【予習】配布資料やテキスト（第10章を中心に）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第9回	対面	国際法と規範	【予習】配布資料やテキスト（第12章を中心に）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第10回	対面	人権と非国家主体の役割	【予習】配布資料やテキスト（第12章を中心に）を事前に読む。	4時間

			【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認する。	
第11回	対面	国の中の戦争（内戦）とテロリズム	【予習】配布資料やテキスト（第9章を中心に）を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください。	4時間
第12回	対面	国際貿易と国際金融	【予習】配布資料やテキスト（第5，6章を中心に）を事前に読んでおいてください。 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認してください。	4時間
第13回	対面	地球規模課題1－貧困問題と移民－	【予習】配布資料やテキスト（第7章を中心に）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認する。	4時間
第14回	対面	地球規模課題2－環境問題－	【予習】配布資料やテキスト（第11章を中心に）を事前に読む。 【復習】配布資料を読み直し，講義で得た知識を確認する。	4時間
第15回	オンデマンド	授業の総括・復習	【予習】これまでの授業回の配布資料を再度読んでおくこと。 【復習】これまでの授業回の配布資料を読み直し，講義で得た知識を自身の言葉で表現できるようにしておくこと。	4時間

科目名	対外政策論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	だが、何のために、どのように国家の対外政策を決めて実施しているのか		
授業の目的及び概要	この授業では、国家の対外政策が形成、実施される仕組みについて理解することを目的とします。 国際政治学では、国家が最も基本的な行為主体として捉えられており、観察と分析の対象となっています。さらに、国家は合理的に国益を追求し、他国と協力したり対立したりするものだと考えられていますが、現実世界では国家という行為主体は存在しません。国家の対外政策を決定、実施しているのは常に人間であり、人間により構成される組織です。人間である以上、合理的行動するときもあればそうでないときもあります。そして、人間と人間で構成される組織の活動には違いもあれば、共通点も多いのです。この授業は国家という単位を意識しつつ、人間と人間で構成される組織にも注目し、対外政策が形成、実施されるメカニズムについて皆さんと議論を進めていきます。授業の後半では、アジア太平洋地域の秩序を左右するアメリカ、日本、中国の対外政策を事例に取り上げて分析を行います。なお、授業中にアジア太平洋地域の時事問題をも紹介する予定です。 受講者の皆さんの授業への理解度に合わせて、内容を調整する可能性があります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・対外政策（とりわけ事例として挙げるアメリカ、日本、中国）の政策実施主体に関する基本的な知識を身につけること ・戦後アメリカ、日本、中国の対外政策の特徴に関する基本的な知識を身につけること ・対外政策論の基本的な分析手法を理解すること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って皆さんから質問を集め、次週以降質問への回答やコメントをします ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設けます ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介します		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①国際政治学、中西寛、石田淳、田所昌幸、有斐閣、2013 年	ISBN	①978-464105378
参考書	加茂具樹編著『中国対外行動の源泉』（慶應義塾大学出版会、2017） グレアム・アリソン『決定の本質 キューバ・ミサイル危機の分析 第2版』（日経 BP 社、2016） 信田智人『冷戦後の日本外交—安全保障政策の国内政治過程』（ミネルヴァ書房、2006） 信田智人編著『アメリカの外交政策—歴史・アクター・メカニズム』（ミネルヴァ書房、2010） その他の参考書や参考資料は授業中に適宜紹介します。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際関係論と合わせて履修することをお勧めします（必須ではありません）。 この講義の内容には「正解」がありません。さまざまな情報を客観的に分析し、自分の考えと異なる意見にも耳を傾ける姿勢を高く評価されます。 授業で学んだことと関連のあるニュース記事を見かけたら、ぜひそのニュースの要点と自分の意見をノートに書いてみてください。就職活動のときに必ず役に立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明します。	【予習】事前にシラバスの内容から概要を理解し、指定したテキストを読んでください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第2回	対面	対外政策とは何か、対外政策と国内政策とはどう違うのか、なぜ対外政策を学ぶのが重要なのかについて説明します。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第3回	対面	対外政策論の分析手法について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第4回	対面	キューバ・ミサイル危機を事例に、対外政策決定について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第5回	対面	対外政策の決定と実施について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第6回	対面	対外政策決定に関連する映画を見ます（映画を見ながらメモを取ってください）。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間
第7回	対面	・対外政策論の視点から、先週見た映画の内容についてディスカッションを行います。 ・映画と国際関係、外交の関係	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4時間

			習を行ってください。	
第8回	対面	対外政策における国内政治と国際政治の相互作用について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第9回	対面	戦後アメリカの対外政策①（アメリカ外交の歴史と、アメリカ外交を左右する重要な概念）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第10回	対面	戦後アメリカの対外政策②（冷戦後のアメリカ外交と、アメリカ外交を立案、実施するアクター）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第11回	対面	戦後日本の対外政策①（戦後日本外交を左右する重要な概念と戦後日本外交の歴史）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第12回	対面	戦後日本の対外政策②（冷戦後の日本外交のダイナミクス）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第13回	対面	戦後中国の対外政策①（建国後の中国外交の歴史）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第14回	対面	戦後中国の対外政策②（大国化する中国外交のダイナミズム）について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。15 回目の授業に向けて、質問をまとめて教員に伝えてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業の総括と質疑応答	【予習】配布資料を使い、事前予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間

科目名	政治地理学	開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 雪斌	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	地政学の観点から国際政治と地理の接点を探る		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、地理と空間の観点から国際政治を理解する方法を学ぶことです。皆さんはきっとどこかで地政学という単語を耳にしたことがあるのではないのでしょうか。普段深く考えずに使っている「地政学」には実はさまざまな立場からの解釈と分析が存在します。極端に単純化すると、地政学とは地理と空間の観点から権力の行使や利益の分配を説明する学問です。平面的な国際政治を立体的に捉えることにより、地政学が紛争や対立を説明する単純明快な答えを提供してくれるときもあれば、政策や戦略の妥当性を恣意的に説明するための道具にもされます。 この授業は皆さんに地政学の歴史、理論や方法について学び、そして議論をする場を提供します。具体的には、授業の前半は担当者がテキストや参考書の内容を基に講義を行います。後半では、受講者の皆さんがグローバルな問題を地政学の分析視点から分析し、発表とディスカッションを行います。事例の選び方や発表の順番などについては授業中に皆さんと相談して決めます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・地政学の歴史や学派に関する基本的な知識を身につけること ・地政学の基本的な分析手法を理解すること ・地政学の分析方法を用いて、グローバルな問題を分析し、自分の意見を持つこと		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・コメントカードを使って皆さんから質問を集め、次週以降質問への回答やコメントをします ・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設けます ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介します		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『地政学原論』、庄司潤一郎、石津朋之編著、日経 BP、2020	ISBN	978-4532176822
参考書	『境界から世界を見るーボーダースタディーズ入門』、アレクサンダー・C・ディーナー、ジョシュア・ヘーガン、岩波書店、2017 『現代地政学ーグローバル時代の新しいアプローチ』、コーリン・フリント、原書房、2014 『地政学ー地理と戦略ー』、コリン・S・グレイ、ジェフリー・スローン編著、五月書房、2021 その他の参考文献は適宜授業中に紹介します。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	

	その他 (%)	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この講義の内容には「正解」がありません。さまざまな情報を客観的に分析し、自分の考えと異なる意見にも耳を傾ける姿勢を高く評価されます。 授業で学んだことと関連のあるニュース記事を見かけたら、ぜひそのニュースの要点と自分の意見をノートに書いてみてください。就職活動のときに必ず役に立ちます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業の目的、概要や成績評価などについて説明します。	【予習】事前にシラバスの内容から概要を理解し、指定したテキストを読んでおいてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第2回	対面	地政学、政治地理学と国際政治学の関係について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第3回	対面	地政学を理解するための枠組みについて学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第4回	対面	場所と政治、地政的コードについて学びます	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第5回	対面	地政学の古典的なアプローチ①ランドパワーについて学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第6回	対面	地政学の古典的なアプローチ②シーパワーについて学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第7回	対面	地政学の古典的なアプローチ③エアパワーについて学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	4 時間
第8回	対面	地政学の視点から見るキューバミサイル危機	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。	4 時間

			指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	
第9回	対面	地政学から見る国境	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。 指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第10回	対面	地政学的な観点からの事例分析(アジア太平洋における米中の競争)について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。 指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第11回	対面	地政学的な観点からの事例分析(アジア太平洋におけるパワーシフトと日本の対応)について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。 指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第12回	対面	地政学的な観点からの事例分析(開かれたインド太平洋構想)について学びます。	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。 指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第13回	対面	受講者による発表とディスカッション①	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。 指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。	4 時間
第14回	対面	受講者による発表とディスカッション②	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポイント、あるいは質問をノートにまとめてください。 指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。 発表とディスカッションのための準備を行ってください。 15 回目の授業に向けて、質問をまとめて教員に伝えてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業の総括、質問応答	【予習】配布資料を使い、予習をしてください。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を行ってください。自分が興味関心を持っているポ	4 時間

2026/05/01

			イント、あるいは質問をノートにまとめてください。 指定された場合はテキストの内容を読んで、予習、復習を行ってください。	

科目名	国際協力法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	菅原 絵美	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際法の基礎知識を身につけ、日本・世界のニュースを読み解こう。		
授業の目的及び概要	この授業は、国際法の基礎知識を学ぶ授業である「国際社会と法」を受けた国際法の総論科目である。国際法の基礎となる、国家とは、陸・海・空・宇宙等、国際組織、国際犯罪、国際経済、国際環境、武力紛争等のルールに関する知識を学修する。そのうえで、基本知識の活用として、具体的な国・地域における具体例を取り上げる。このように問題解決を第一とした、実践的かつ柔軟な法の解釈、適用、救済について考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 国際法の基礎知識を身につける。 2. 国際法の基礎知識をつかって、国際法の視点から事例を説明することができる。 3. 国際法やその制度を複合的に活用した課題解決の可能性と限界を考察・分析することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業では授業内容に関する問いを課し、授業終了時にリフレクションペーパーを提出する。リフレクションペーパーは次回授業時の振り返りに活用し、授業の双方向性を確保する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ビジュアルテキスト国際法（第 4 版），加藤信行・植木俊哉・真山全・森川幸一・酒井啓亘・立松美也子編著，有斐閣，2025 年	ISBN	9784641046924
参考書	国際条約集，植木俊哉・中谷和弘（編集代表），有斐閣，2024 年	ISBN	9784641001619
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学基礎 B および国際社会と法の授業内容のうち、とりわけ、国際社会の仕組みや国際法を扱った箇所を復習しておいてください。 学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、参加型の講義を目指します。そのため、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションおよび国際法の基礎知識（1）	最近のニュースのなか国際法が登場したものをひとつ選び、概要を説明できるようにしておく。また復習	4 時間

		授業及び成績評価に関するガイダンスを行った後、国際法とは何か、国際法の国際社会における意味について時事問題を取り上げながら議論する。	として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	
第2回	対面	国際法の基礎知識（2） 国際法の誕生・発展と特徴、国際法の存在形式（条約・国際慣習法）を学ぶ。	テキスト第1・2章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。 上記範囲に加えてテキスト第1章を読むことを推奨する。	4時間
第3回	対面	国家とは？ 「国」とは何か、国家・政府の誕生と内戦について学ぶ。	テキスト第3章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第4回	対面	国と国のつき合いに関する国際社会のルールを考える 条約法、外交・領事関係法を学ぶ	テキスト第4章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第5回	対面	国際社会の空間秩序（1） 陸・空、そして宇宙等に関する国際法を学ぶ。	テキスト第5章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第6回	対面	国際社会の空間秩序（2） 海洋法の構造（海上管轄権含む）に関するルール及び諸問題について学ぶ。	テキスト第6章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第7回	対面	国際組織と国際法 国際社会における国家ではない主体としての国際組織の誕生と役割、今日的課題に対する役割と課題を学ぶ。	テキスト第7章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第8回	対面	国際犯罪と国際法 国際犯罪の構成要件、国際司法共助と犯罪人引渡、テロの規制、国際刑事裁判所を学ぶ。	テキスト第9章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第9回	対面	経済に関する国際法 第二次世界大戦後の世界経済秩序、世界貿易機構（WTO）、地域経済統合を学ぶ。	テキスト第10章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第10回	対面	国際環境法 地球規模の環境問題に関する国際法の特徴、および各環境分野の条約と制度（特に、気候変動および生物多様性など）を学ぶ。	テキスト第11章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第11回	対面	国際紛争の平和的解決 国際裁判（国際司法裁判所等）および国際裁判以外での紛争解決の法・制度と特徴を学ぶ。	テキスト第12章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第12回	対面	安全保障と国際法 戦争・武力行使の違法化とその例外、集団安全保障等を考える。	テキスト第13章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第13回	対面	武力紛争と国際法 武力紛争法の基本原則、犠牲者の保護と戦闘員、戦闘方法の規制について考える。	テキスト第14章を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第14回	対面	事例検討：グローバル課題と国際法 今日的なグローバル課題で、国際法の複数分野にわたる時事問題を取り上げ、関連する国際法規を用いて解決策を検討する。	テキストや事前配布資料を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	4時間
第15回	オンデマンド	授業のまとめ（オンデマンド）	テキストや事前配布資料を読み予習を行う。また復習として授業のまとめでの出題にオンラインで回答する。	6時間

科目名	現代の紛争と安全保障 <安全保障と国際法>	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	玉水 玲央	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際社会における安全保障を理論的側面から考える。		
授業の目的及び概要	現代の国際社会では、武力を用いた紛争（いわゆる武力紛争）が今だ頻発しており、その結果、核拡散、難民、貧困、人道危機などさまざまな社会的問題が生産され続けている。本授業では、武力紛争および武力紛争に関連した諸課題がなぜ起こるのかを考える。もちろん、その考え方は多様であるが、本授業は理論を重視する。理論とは、さまざまな事象の原因を特定化する言説である。理論を用いることで「なぜ、戦争が生じるのか」、「近い将来、戦争が起きえるのか」等といったテーマを高い精度で議論することができる。 本授業では、まず、武力紛争として最も典型的な形態である国家と国家の戦争（国家間戦争）の原因について最新の理論を用いて解説する。さらに、国家間戦争への理解をさらに深めるための要素である抑止、同盟、核兵器の理論を学ぶ。次に、昨今、顕著になっている国の中の戦争（内戦）についても理論的視座から解説する。内戦は戦闘員間の戦闘そのもののみならず非武装の市民をも巻き込むので、テロリズム、虐殺、集団強姦といった人道危機が生じやすい。こうした人道危機の発生を予測する理論も授業では解説していく。 最後に、本授業では学生間の積極的な議論およびアイデアの出し合いを最重視する。そのため、授業では参加者間でグループを作り、授業期間を通じてグループで定めたりサーチ・クエスチョンに答えるための研究を行ってもらう（グループ・ワーク）。授業の最後に、各グループがプレゼンテーションを行い、その研究成果を共有することで参加者間の相互学習を目指す。		
履修条件・留意点	・必須ではないが、前期開講の「国際関係論」を履修しておくことが望ましい。 ・必須ではないが、授業では数量データを示すことがあるので、そうした形態の情報には慣れておくこと。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・戦争、および戦争に関連する諸現象の原因と影響について理論を用いて理解、解説できるようになること。 ・授業内で紹介した理論を自らデータを探して、検証できるようになること。 ・理論に基づき将来の紛争発生をある程度予測したり、それに基づく政策提言をできるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間、期末試験実施後には、コメントを添えて答案を返却する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。授業内スライドを用いる。	ISBN	なし
参考書	・多湖淳、『戦争とは何か——国際政治学の挑戦』（中公新書、2020年）	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	20	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	20	

	その他 (%)	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・グループ・ワークでは参加者の協力が必須であり、協力の放棄は他のチームメイトにも悪影響を及ぼす。そのため、グループ内で割り当てられた役割を放棄せず、完遂する責任感を持つこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の概要紹介	【予習】 21世紀の武力紛争について、書籍やインターネットなどで調べておく。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第2回	対面	国家間戦争の原因ー情報の非対称性ー ・なぜ被害が甚大だと分かっているにもかかわらず国家は戦争するのか？	【予習】 特になし。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第3回	対面	国家間戦争の原因（2）ーコミットメント問題ー ・国家は相手国の戦力を把握していたら戦争を起こさないのか？	【予習】 情報の非対称性による説明の問題点を考察すること。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第4回	対面	国家間戦争の原因（3）ー財の分割不可能性ー ・交渉している内容が交渉不可能になるのはなぜか？	【予習】 コミットメント問題による説明の問題点を考察すること。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第5回	対面	抑止 ・自国の意思を伝えるのが難しい状況で、相手の攻撃を押しとどめるにはどうしたらよいのか？	【予習】 「抑止」と呼ばれる行動にはどのようなものがあるか、新聞報道を調べて確認する。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第6回	対面	軍事同盟 ・なぜ国家は守られるのかも分からない同盟を他国と結ぶのか？	【予習】 具体的な軍事同盟の一つ見つけて、その歴史的経緯について調査すること。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第7回	対面	核兵器 ・なぜ国家は核兵器を持つのか？核兵器を持つことは世界を平和にするのか？	【予習】 日本の核保有をめぐる議論の歴史について、事前に調査すること。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第8回	対面	・中間試験（20分） ・グループワークーリサーチ・クエスチョンの作成ー ・割り当てられたグループの参加者と議論し、グループが取り組むべきリサーチ・クエスチョンを考案する。 ・40分程度議論を行った後に、各グループが短いプレゼンテーションを行い、クエスチョンを共有。 ・プレゼンテーション後は教員から講評を行う。	【予習】 各自、クエスチョン案を持参し、なぜそのクエスチョンが重要であるのかを説明できるようにしておくこと。 【復習】 チームメイトとリサーチ・クエスチョンに対する暫定的な答え（仮説）を議論すること。	4時間
第9回	対面	国内政治と戦争 ・なぜ支持率の低い指導者は戦争を行うのか？ ・なぜ民主主義国同士は戦争をしないのか？	【予習】 民主主義体制の国家同士では戦争が発生しないという言説の妥当性について自身で考察すること。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認すること。	4時間
第10回	対面	内戦 ・内戦を引き起こす原因は何か？ ・なぜ、反政府軍は圧倒的に有利な政府に挑めるのか？	【予習】 内戦の事例の一つを選び、その歴史的経緯を調べておくこと。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認しておくこと。	4時間
第11回	対面	テロリズム	【予習】 テロリズムの事例の一つを取り上げ、自身で	4時間

		・テロ活動の目的とは何か？ ・テロ攻撃は抑止できるのか？	詳細を確認しておくこと。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認すること。	
第12回	対面	内戦に伴う諸問題ー難民、虐殺、集団強姦ー ・内戦は何を生むのか？それを防ぐ手立てはあるのか？	【予習】 ルワンダ内戦（1990-1993）中・後に市民に何が起きたかを書籍、インターネットで調査しておくこと。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第13回	対面	日本の安全保障 ・日本は日米同盟を基軸としていくべきなのか？	【予習】 日本を取り巻く安全保障問題について書籍、インターネットで調査、整理しておくこと。 【復習】 授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認しておくこと。	4 時間
第14回	対面	グループ研究発表会 ・各グループが提示したリサーチ・クエスションに対する暫定的な答え（仮説）を発表。 ・各グループの仮説が実証されたか（つまり、真実であるか）を発表する。なお、仮説は実証されなかった（真実ではないことが分かった）としても問題はない。	【予習】 チーム・メイトと協力し、発表の準備しておくこと。 【復習】 教員のフィードバックを参考に、卒論のテーマにどうつなげられるのかを考えること。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業のまとめ（オンデマンド）	【予習】 これまでの授業で配布したレジュメを読み返し、講義で得た知識を確認しておくこと。 【復習】 知識の定着に努めるとともに、定期試験の準備をしておくこと。	6 時間

科目名	国際人権法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	島本 奈央	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	わたしたちの生活での「なぜ」を国際人権法から考える		
授業の目的及び概要	「人権」と聞くと、何を思い浮かべますか。この問いに容易に答えられる人は少ないでしょう。本授業では、日本における人権侵害（特にマイノリティに対する）について、国際人権の視点を用いて紐解いていきます。本講義の序盤では、国際人権法にかかわる基礎知識や、国際人権法と日本など、国際人権法の概観について説明します。本講義の後半は各論として、先住民族（アイヌの人々、琉球・沖縄の人々）、移民・難民、子ども、女性、障害者などを中心に国際人権のレンズを通して検証していきます。 私たちが普段仕方ないと諦めていることが、実は国際的なルールに反しているかもしれません。本授業では、人権条約等の国際人権法の観点から、日本における人権問題を理解することを目的とします。そのために、授業では積極的なディスカッションの推奨や関心のあるテーマを選んでグループ発表を行うことを予定しています。 本授業を通して、みなさんが疑問に思う人権状況に対して一歩踏み出すことを期待します。		
履修条件・留意点	受講に際し特別な配慮が必要な場合には、事前に担当教員まで相談してください。 本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）に起因して合理的配慮を要する場合は、本学障がい学生支援 (https://www.keiho-u.ac.jp/life/support/barrierfree.html) を参照し、ご相談ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業では、国際人権法の課題解決に向けて構築されてきた規範および制度を学び、国際社会でのキャリア形成に必要な柔軟な問題解決型の思考を修得することを目標とする。国際的な協力枠組を必要とする分野で、どのような国際人権法規範が形成され、どのような制度が確立されてきたのかを学び、これらを複合的に活用し課題を解決するための可能性と限界を理解する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	第 4 回の授業から、関心のあるテーマの章を選んだ受講生達が、その章についての要約を授業開始 10 分程度行う。その報告に対して、あらかじめディスカッサントを決めて、質問を準備しておいてもらう（10 分程度）。その後、不足点・追加点などを含めた講義を行う（60 分程度）。最後の 10 分程度で毎週リアクションペーパーを書いてもらい、次の週に質問に回答する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	国際人権法の考え方、川島聡・菅原絵美・山崎公士、法律文化社、2021 年	ISBN	9784589041449
参考書	①国際条約集、植木俊哉・中谷和弘（編集代表）、有斐閣、2025 年。 ②申恵丰、『国際人権入門——現場から考える』岩波新書、2020 年。 ③小坂田裕子『先住民族と国際法—剥奪の歴史から権利の承認へ—』信山社、2017 年。 ④キム・ジヘ『差別はたいてい悪意のない人がする：見えない排除に気づくための 10 章』大月書店、2021 年。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際社会は歴史、文化、制度などが非常に多様である約200の国・地域によって構成されている（ちなみに日本にとっては196の国家が地球上には存在している）。一方で、この国際社会を規律するのは普遍的な法（ルール）である。普遍的なルールと多様な国・地域との間で生じるダイナミックな動きに、今後の専門学修および海外体験・留学につながっていく「気づき」を得てほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション シラバス・授業計画・大学生活での時間管理等の説明。アイスブレイクとして、「人権」「マイノリティ」に抱いているイメージについてグループディスカッションを行う。 さらに、本講義では、関心のある章を受講生が選択し、グループ発表についての取り決めも行う。	テキストのプロローグを読み予習する。また授業後はテキスト該当部分およびレジュメを読み復習する。	4時間
第2回	対面	国際人権法の基礎知識(テキスト1・2章) 国際人権法の基本的な考え方について解説する。「人権」という言葉を今一度問い直す。	（事前学習）学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第3回	対面	国際人権と差別禁止（テキスト3章） まず、差別が起きるメカニズムについて法学に加え社会的な観点からも概観する。参考文献キム・ジヘ『差別はたいがい悪意のない人がする：見えない排除に気づくための10章』を用いて、マジョリティの特権やマイクロ・アグレッションについてアクティブ・ラーニングを導入し、自身の潜在的な差別意識にアプローチする。	（事前学習）学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第4回	対面	国際人権法と日本（テキスト11章） 国際人権法は第二次世界大戦後、発展を続けてきたが、一方で日本では国際人権基準と異なる司法判断や政府の解釈が起きている。日本が国際人権法をどのように国内法に受容しているのか俯瞰する。	（事前学修）学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第5回	対面	女性の人権（テキスト4・8章：女性差別撤廃条約） この回からまず、受講生にテキストの該当部分を要約し発表（15分程度）してもらうところから、授業を始める。次に、ディスカッションの学生に質問してもらう。その後、不足点や追加点などを交えながら講義を行う。	（事前学修）該当箇所の要約を該当班が行う。他の学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第6回	対面	マイノリティと差別（テキスト5章：人種差別撤廃条約） 国籍による差別やヘイトスピーチについても概観する。	（事前学修）該当箇所の要約を該当班が行う。他の学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポ	4時間

			イントになる点について復習して下さい。	
第7回	対面	子どもと人権（テキスト6章：子どもの権利条約）	（事前学修）該当箇所の要約を該当班が行う。他の学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	障害ってなんだろう（テキスト7章：障害者の権利条約） 日本は2014年に「障害者の権利に関する条約」に批准し、国内法整備の一環として2016年「障害者差別解消法」が施行された。当該法律の中では、「合理的配慮」が明記されている。この概念が障害者権利条約を通してどのように発展してきたのだろうか。	（事前学修）該当箇所の要約を該当班が行う。他の学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	難民条約と拷問等禁止条約（テキスト9章） 難民とは誰を指すのか。なぜ難民は保護される必要があるのか。	（事前学修）該当箇所の要約を該当班が行う。他の学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第10回	対面	難民条約と労働者権利条約（テキスト10章）	（事前学修）該当箇所の要約を該当班が行う。他の学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	先住民族と国際法（テキスト12章） 2007年に国連で採択された国連先住民族権利宣言までの先住民族の国際的な権利発展とともに、日本国内の先住民族、アイヌの人々や沖縄の人々の人権と彼ら/彼女らの権利回復運動について説明する。	（事前学修）該当箇所の要約を該当班が行う。他の学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	個人通報について（テキスト13章） 個人通報制度の概観について説明を行う。 個人通報制度は日本では未だ導入されていないが、その意義と個人通報事例についても取り上げる。	（事前学修）該当箇所の要約を該当班が行う。他の学生の方は、テキストの該当部分を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修）テキストの該当部分を一読し、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	日本と世界の人権課題を考える	今までの授業で取り上げられなかった点について解説を行う。	4 時間
第14回	オンデマンド	今までの授業のまとめ/振り返り	期末試験の勉強のポイントについてオンデマンド配信を行うので、復習を進めましょう。	4 時間
第15回	対面	多文化共生社会とその課題 日本は多文化共生社会を政策として掲げているが、どのような社会を真に目指すべきなのか。そこに、マイノリティの声は届いているのだろうか。テキストを読み終えた後、国際人権法を「共生」という視点から考えてみよう。	テキストエピローグを読み予習を行う。 学生の方は、テキストを読み直し、関心事項や質問事項を整理するなどして下さい。	4 時間

科目名	比較税制論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伍 躍	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	租税の基礎知識を修得しより公平かつ最適な税制を考えよう		
授業の目的及び概要	税制とは、国家が政治・経済・外交・教育等の様々な活動を行うために必要な財力を調達し、管理・使用するための財政制度の一環として存在する必要不可欠な制度である。各国の歴史文化や政治経済の発展が異なることにより、税制も様々な形態がある。 この授業では、税に関する基本的な考え方や知識を学修し、日本と諸外国の税制や租税政策の比較を通じて、日本の税制への理解を深めることを目的とする。具体的には、税に関する公平・中立・簡素といった基本原則のほか、日本を含むアジア主要国及び OECD 加盟諸国の税制と租税政策を横断的に比較することを通じて、日本及び諸外国における既存の税制（特に、個人所得税や消費税等）の問題点を把握し、各国の社会状況に応じた適切な税制について検討する能力を養う。また、多角的な観察力を修得し、アジア主要国の社会を理解する能力を修得することも目的の1つとする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	当該演習では、以下の目標の達成を目指します。 ①税に関する公平、中立、簡素といった基本原則をはじめとする税制に関する考え方を把握することができる。 ②日本を含むアジア主要国及び OECD 加盟国の税制と租税政策を横断的に比較することを通じて、その問題点を把握し、税制の整備と改革に重点を置きながら、税制の概要を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①学生が提出した小テストやリアクションペーパーを添削してフィードバックをする。 ②毎回、授業中にて代表的な小テストやリアクションペーパーについて講評することをもって学生にフィードバックをする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは不使用。必要な資料は事前にラーニングポータルにて配布します。	ISBN	なし
参考書	参考書： ①『日本の税金 第3版』、三木義一、岩波新書 1359 ②『図説 日本の税制』、河本光博、財経詳報社、令和5年度版、2024 年 ③『アジア税の基礎知識』、伏見俊行、税務研究会出版局、2016 年 ④『私たちはなぜ税金を納めるのか -租税の経済思想史』、諸富徹、新潮社、2013 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	10	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	

	その他 (%)	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	①日々の生活において自ら納めた税金を意識してほしい。 ②日々の生活において税金で賄ったことを意識してほしい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の趣旨を説明する	復習：授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①序章の「民主主義と税」を読んでおくこと（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	租税の意義と機能	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「税制の概要」の3「税制の役割」を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	租税原則と租税理論	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「税制の概要」の7「租税原則」を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	租税体系	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「租税の歴史」、とくに各国憲法における租税に関する条項を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	租税体制（その2、租税法に関する2つの基本原則）	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「税制の概要」の5「租税負担率」を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	租税体制（その3、租税公平主義と税務調査、租税の負担率）	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「わが国の租税制度の変遷と今後の課題」の8「シャウプ勧告による税制」以後の部分を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	日本の租税構造の特徴と変化 中間テスト	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第1章第1～2節を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	個人所得税（1）	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第1章第3～4節を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	個人所得税（2）	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第1章第5節、参考書②の「租税制度の国際比較」の5「所得税制度」を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	消費税の基本事項・日本の消費税制（1）	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第3章第1節を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	日本の消費税制（2）	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第1章第2～3節を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	資産税制	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。	4時間

			予習：参考書参考書②の「租税制度の国際比較状」の9「付加価値税」を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	
第13回	対面	国際課税と付帯税	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書①の第2章第1～3節を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	税務行政	復習：前回授業の配布資料を読んで復習しておくこと（2時間程度）。 予習：参考書②の「わが国の税制の現状」の7「その他の国税」の（3）を読んで予習しておくこと（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括を行い、期末試験の復習内容を指示する。	復習：これまで配布した資料を読んで復習して定期試験に向けて準備すること（4時間程度）。 ＊以上の授業計画は受講生の理解度を配慮し必要に応じて、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。	4時間

科目名	NPO・NGO論		開講年度	2026 年度春学期
担当者	金森 康		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界や日本の NPO の動向、企業の社会責任（CSR）の事例などを通じて、関連分野の最新動向を学ぶ			
授業の目的及び概要	State（国家や地方政府）、Market（市場）、Third Sector（NPO/NGO）、Communityという社会経済システムの4領域の相互関係をふまえて、NPO や社会的起業家の現状理解、地域政策における位置づけ、地域開発における役割について考えていく。 ・事例の解説を中心に行う。 ・講義ビデオを適宜使用し、最新の動向の紹介を中心に講義を行う。 ・ケーススタディを通じて NPO・NGO の基礎を理解する。 ・民間企業、公務員、起業などの職業選択において、また、社会貢献やボランティアを行う場合にも、本講義は基礎的な内容となっているので、先進国における自己成長のための基礎知識を理解する。			
履修条件・留意点	・定期試験は実施しません。講義中の小テスト・レポート・質疑応答等で総合的に評価します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・NPO（Not-for-Profit Organization）や社会起業家が果たす社会的役割について理解する。 ・最新事例のケーススタディを通じて、NPO の最新動向をつかむ ・ケーススタディを通じて、社会課題の深刻度の認識と先進各国の解決策を理解することで、様々な社会課題・経済課題・政策課題に対する理解力を学修する			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の内容、という様に、ひとつの講義テーマが終了する毎に小テストと解説・振り返り行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。 講師作成講義資料にて行う。		ISBN	テキスト無し
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		10	
	中間試験		20	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	サークルやゼミで学外活動、特に社会貢献・地域貢献系を希望する方に受講していただきたいと思います。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	世界の NPO の現状を解説し、日本の現状を理解する。	授業計画 1 では、講義全体を通じたキーワードを説明するので、キーワードの意味や重要度を復習する。	4 時間
第2回	対面	社会システム論、ウェルフェアミックス、政策評価、協働	授業計画 2 では、理論的背景を説明するので、NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し、復習する。	4 時間
第3回	対面	社会政策論、地域政策論、地域経営、地域マーケティング	授業計画 3 では、理論的背景を説明するので、NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し、復習する。	4 時間
第4回	対面	社会保障、政策評価、PPP (Public Private Partnership)、地方分権	授業計画 4 では、理論的背景を説明するので、NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し、復習する。	4 時間
第5回	対面	社会保障、政策評価、PPP (Public Private Partnership)、地方分権	授業計画 5 では、理論的背景を説明するので、NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し、復習する。 授業計画 4-5 で解説する英国の若者失業者対策の仕組みは特に重要なので、制度の主旨と運営面での効率性を理解すること。	4 時間
第6回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 6 では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4 時間
第7回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 7 では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。	2 時間
第8回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 8 では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4 時間
第9回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 9 では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。	4 時間
第10回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 10 では、ビデオ教材を使用して、先進事例のケーススタディを行うので、参考モデルとなる要素について整理し、復習する。 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4 時間
第11回	対面	企業の社会的責任 (CSR)、社会的マーケティング、社会的責任投資 (SRI)	授業計画 11 では、企業の社会的責任 (CSR) に関する理論的背景を説明するので、キーワードを整理し、復習する。	4 時間
第12回	対面	企業の社会的責任 (CSR)、社会的マーケティング、社会的責任投資 (SRI)	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前	4 時間

			後することがある。	
第13回	対面	企業の社会的責任（CSR）、社会的マーケティング、社会的責任投資（SRI）	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している。 これまでの講義内容を復習したうえで、講義を受講すること。 なお、講義の進捗によっては、レポート課題実施が前後することがある。	4 時間
第14回	対面	テストまたはグループワーク	これまでの講義内容にもとづき、総括的な講義中テストを実施する。 これまでの講義内容の復習をおこない、受講すること。	5 時間
第15回	オンデマンド	総括テスト解説 講義の総括	これまでの講義内容について復習を行い、疑問点や質問事項をまとめたうえで受講すること。	5 時間

科目名	地方自治と国際協力	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	菅原 絵美	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	多文化共生社会の実現 地球市民の課題－高齢化とケアエコノミー、ファストファッション、気候変動を地方自治を通じて考える		
授業の目的及び概要	我が国は、移民受け入れの体制を確立せずに 322 万人(2023 年 6 月)もの外国人を受け入れており総務省も地方自治体に対し、外国籍住民との多文化共生指針の策定を要請している。 1 在日コリアンの人権保障運動や 1982 年難民条約批准という歴史に触れつつ、外国籍の子どもの日本語と母語の保障、多文化共生のための行政施策など近年の課題を検討する。 2 自治体版 ODA として、ごみの分別、上下水道の技術、交通や環境分野の都市間の協力が国境を超えて行われており、新たな国際協力として意義を学ぶ。 3 高齢化、ファストファッション、気候変動を地球市民の立場から考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協力し、社会の一員として活躍できる能力を身につける。 日本人学生と留学生が授業を通じて交流し、フレンドリーな関係を築く。 多文化共生や自治体 ODA について理解を深め、外国籍住民との共生社会に貢献する意識を持つ。 特に留学生が日本の国際貢献に関心を持ち、日系企業への就職の動機付けとする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストやレポート課題についてラーニングポータル上で実施し、講評する。 留学生を最初に出会う異文化の他者として捉え、交流やグループワークによる相互理解により、多文化共生を体験する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①戦後補償から考える日本とアジア（日本史リブレット）内海 愛子 山川出版 2002 年 ②友達を助けるための国際人権法入門 申 恵丰(著/文)桂川 潤(イラスト) 影書房 2020 年 ③ハイト・スピーチとは何か 師岡康子 岩波新書 2013 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部菅原がコーディネーターをし、西脇邦雄氏（元大阪府議会議員）と金谷一郎氏（元大阪市の区長経験者）のゲスト講義によるオムニバス授業で、西脇氏および金谷氏はそれぞれの		

	現場での活動を伝える実践的な授業。 日本もかつては移民国家だった。沖縄だけで16万人の人々がブラジルやペルーに移住し、日系人社会を築いてきた。 過去の歴史に学ぶとともに、地方自治体の取り組む多文化共生施策や自治体 ODA と言われる国際協力の取り組みにも関心を持ってほしい。 多文化共生の考え方を身につけてくことは、国際水準の人権感覚を養うことでもある。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション（菅原絵美） ・授業の概要説明、成績評価の方法 ・地方自治とは、国際協力とは、そして自治体（コミュニティ）による国際協力とは	予習 2 時間 総務省地域の国際化の推進を読む https://www.soumu.go.jp/kokusai/ 復習 2 時間 授業のレジュメを振り返る	4 時間
第2回	対面	国家、国民、民族とは（菅原絵美） ・国民、民族、エスニシティという概念をどう捉えるのか。 ・日本人意識の形成と周縁化された人々、民族は作られる ・在日コリアンの人権保障の歴史から外国籍住民の人権課題を考える	予習 2 時間 フィンランド教育 PISA 調査の振り返り。フランス革命、近代国家の成立について調べる。 復習 2 時間 在日コリアンの存在と何が問題となってきたのか授業の復習を行う。	4 時間
第3回	対面	「多文化共生1 マイクロアグレッション」（金谷一郎） ・日常生活に埋め込まれた自分自身のマイクロアグレッション【小さな（マイクロ）攻撃性（アグレッション）】を発見し、その言葉や行動における人種や文化背景、性別、障害、価値観など、自分と異なる人に対する無意識の偏見や無理解、差別心が含まれていることを実例を用いて体験する。 ・各自の発見や気づき共有し、各自の意識の違いも含め議論し合うことで、多文化共生の重要性を再確認する。	予習 2 時間 マイクロアグレッションの意味と事例について予習する。 復習 2 時間 授業を振り返り、自身の体験から気づきや克服の方策を考える。	4 時間
第4回	対面	「多文化共生2 出会いと気づき」（金谷一郎） ・2022 年 2 月に実施された私立中学校の入試問題で出題された日本の外国人問題の歴史や多文化共生の課題を自分自身で実際に解き、最先端の小学校教育の現状と課題を再認識し、各自の発見や気づきを共有する。 ・各自の発見や気づき共有することで、自分が受けてきた教育との違いを再認識し、現代社会の課題・問題点を議論することで、多文化共生の重要性を再認識し、解決策について議論・考察する。	予習 2 時間 ヘイトスピーチについて調べ、東京川崎大阪の事例について調べる。 復習 2 時間 小中学校での多文化共生教育の事例の資料を読み、これまでの教育で不足してた点を考える。	4 時間
第5回	対面	「多文化共生3 コミュニティの活性化」（金谷一郎） ・学生自身（特に留学生）のコミュニティについて ・相談相手や困った時の支援などについて、自分自身の体験を共有することで、コミュニティの活性化特に留学生が関わるコミュニティの活性化について議論する。 母語・母国文化の重要性はもちろん、日本人・行政の認識の不十分性などを共有化して、解決策について議論し考察する。	予習 2 時間 自身の住んでいる地域のコミュニティとしてどのような活動があるか調べる。 復習 2 時間 留学生の体験から困りごとの解決や支援について、また、留学生がいることが地域の活性化につながるか、行政の視点も踏まえて考える。	4 時間

第6回	対面	「多文化共生 4 生野区における多文化共生のまちづくり」(金谷一郎) ・大阪市生野区における最先端の多文化共生社会の実現に向けた取り組みを紹介し、 在日韓国・朝鮮人問題はもとより、多くの国から来ている外国人(海外にルーツのある日本人を含む)問題に対する多くの課題を、 講師が研究した事例(「大阪市生野区における多文化共生のまちづくり拠点に関わる検討」コミュニティ政策19 P137-161: コミュニティ政策学会編 2021 年 10 月発行)を紹介して 具体的な事例について、解決策を議論し考察する。	予習 2 時間 外国籍住民が多く暮らす大阪市生野区コリアタウンについて調べる。 復習 2 時間 講師の論文を読み多文化共生のまちづくりの課題を考える。	4 時間
第7回	対面	「多文化共生 5 教育行政の課題」(金谷一郎) ・講師が在職していた大阪市の教育現場での多文化共生の取り組みの経過と現状を紹介する。 ・地域や各種支援団体と連携した取り組みを紹介することで、国・自治体の多文化共生施策の限界と可能性を議論し、解決策について考察する。	予習 2 時間 文科省や大阪府の web サイトから、外国籍の子どもの教育課題について調べる。 復習 2 時間 国、自治体の多文化共生施策の課題と限界について検討された内容を振り返る。	4 時間
第8回	対面	外国ルーツの子どもの教育(菅原絵美) ゲストスピーカー: 西脇邦雄氏 外国ルーツの子どもの置かれている現状、問題点が取り上げられたのは最近のことである。 移民の受け入れを認めていない日本では、日本語の教育を政府の責任で行う仕組みがありません。 多様化、多国籍になる子どもたちと、学習言語と生活言語の問題、高校進学の問題など、多くの外国人を受け入れる日本の課題を考えていきます。	予習 2 時間 日本における外国ルーツの子どもの実態を文部科学省 web など調べる。 復習 2 時間 生活言語と学習言語の違いを理解し、母語の喪失や考える力と言語の関係を復習する。	4 時間
第9回	対面	人口の高齢化と介護保険制度(菅原絵美) ゲストスピーカー: 西脇邦雄氏 人口のピラミッドが日本、韓国、そして中国でも崩れていっています。 ベトナムも若い人の出生率が減ってきました。 高齢化といわれる現実はどういう問題が起きるのでしょうか。 日本の介護保険の現状と課題を考えます。	予習 2 時間 人口減少社会や介護保険について厚生労働省 HP から調べる。 復習 2 時間 新型コロナウイルス感染で課題となったケアエコノミーの考え方について調べ理解を深める。	4 時間
第10回	対面	生活インフラの輸出 安全な水とトイレを世界中に(菅原絵美) ゲストスピーカー: 西脇邦雄氏 北九州市の先進的な取り組みを学ぶとともに、日本の ODA 政府開発援助を学びます。 そして中心的役割を担っている JICA についても理解しましょう。 国連の定めた SDGs には安全な水とトイレを世界中にという目標があります。 水道、そしてあまり知られていない下水道	予習 2 時間 北九州市の HP から自治体 ODA の取り組みを調べる。 復習 2 時間 北九州市のベトナム、ハイフォン市における水道事業、インドネシア、スラバヤ市におけるゴミの分別リサイクル事業について配布資料からその仕組みを理解する。	4 時間

		の歴史や仕組みを学びます。		
第11回	対面	ゴミは宝 ゴミ発電やゴミゼロの町に学ぶ（菅原絵美） ゲストスピーカー：西脇邦雄氏 世界でも有数のゴミを燃やして処分している国が日本です。 しかし戦後は焼却施設も間に合わず、地面を掘ってゴミで埋めるやり方でした。 焼却施設をたくさん作りましたが、東京では人口が増えすぎた 1960～70 年台、ゴミ戦争が起こりました。 しかし、今ではゴミゼロの街が出てきました。また、ゴミは宝、発電や資源が出てきます。 みなさんの地域ではゴミをどのように扱っていますか。	予習 2 時間 東京のゴミ戦争、大阪市舞洲ゴミ焼却施設や上勝町のゼロウエスト宣言を web で調べ、自身の住む自治体のごみ処理の仕組みについて調べる。 復習 2 時間 日本のゴミ処理も埋め立てから焼却、そして分別リサイクル、さらには減量化へと進展してきた。配布資料からその仕組みを理解する。	4 時間
第12回	対面	ファストファッションを考える（菅原絵美） ゲストスピーカー：西脇邦雄氏 SHEIN のビデオを見て、作っている工場の問題、安く作るために働く人の権利が犠牲になっていないかを考えましょう。 またガーナにたどりつく大量の古着、海に流れ込む繊維やプラスチックゴミの問題を考えます。	予習 2 時間 身近で愛用しているファストファッションの何が問題になっているか調べる。 復習 2 時間 大量消費社会でないファッション業界のあり方、エシカル消費について調べる。	4 時間
第13回	対面	メガイイベントとサステナビリティ（菅原絵美） 2020 東京オリンピックパラリンピック、2024 大阪・関西万博を通じて、自治体によるメガイイベントとサステナビリティの関係を考えます。	予習 2 時間 大阪・関西万博におけるサステナビリティの取り組み（https://www.expo2025.or.jp/overview/sustainability/）について予習する。 復習 2 時間 授業で配布したレジュメ等を復習しておく。	4 時間
第14回	対面	国連による課題解決と地方自治（菅原絵美） 国連持続可能な開発目標の実現と自治体、国連グローバル・コンパクトと地方自治（川崎市およびメルボルン市の取り組み）を考えます。	予習 2 時間 国連グローバル・コンパクト（https://www.ungcjin.org/index.html）、川崎市の取り組み（https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000071862.html）について予習しておく。 復習 2 時間 授業で配布したレジュメ等を復習しておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業の振り返り（菅原絵美）	これまで授業で配布されたレジュメ・資料を基に復習をする。	4 時間

科目名	国際関係特別講義 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	本授業は、各分野のゲストスピーカーを招き、オムニバス形式で構成する特別講義である。		
授業の目的及び概要	本講義は、「人の移動」を出発点に据え、アジア地域における多様性と多文化共生を理解したうえで、グローバルな視点からアジア共同体の可能性を考察することを目的とする。具体的には、まず、多文化共生における「人の移動」がアジア共同体にどのような影響を及ぼし、それが日本とどのように関わっているかを理論的に検討する。次に、アジアにおける多様性について、近隣地域の事例を手掛かりに議論を深める。また、学際的視点から持続可能な多文化共生のあり方を探り、アジアにおける持続可能な多文化共生モデルを構想する。最後に、グローバルな視点から諸外国の学者の知見を取り入れ、多角的な領域からアジア共同体の過去・現在・未来を検討する。		
履修条件・留意点	・各回、コメントシート等を用いて授業に関する感想を提出することにより評価を行うため、やむを得ない理由（公欠等）がある場合を除き、原則として全授業に出席する必要がある。 ・ゲストスピーカーの都合により、講師の変更または講義の順番が変更となる場合がある。その場合は、事前に告知する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 知識・技能の観点 本授業を通じて、アジア地域における「人の移動」を軸に、多様性と多文化共生について学び、理解することができる。 2. 思考力・判断力・表現力等の観点 学際的・グローバルな視点を踏まえ、アジアの過去・現在・未来を批判的かつ創造的に構想し、自らの考えを論理的に表現することができる。 3. 主体的な態度の観点 学修に積極的に取り組み、能動的に授業へ参加することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	ラーニングポータルを通じて、フィードバックを行う		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち池上教授は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	プリント配布	ISBN	N. A.
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0.59999999999999998	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0.4000000000000000002	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		

この科目の受講にあたって	・本授業は、一般社団法人ユーラシア財団の「from Asia 助成事業」として開講される。国内外から多様な講師を招き、全 15 回の各回完結型（オムニバス形式）で実施する。授業は原則として日本語で行うが、日本語以外の言語が使用される場合には、日本語による通訳を付す。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【講師：佐藤 洋治】 オリエンテーション、イントロダクション 多文化社会の文脈において「アジア共同体」とは	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	1 時間
第2回	対面	【講師：張 雪斌】 政治が促す文化交流 ～各国政府による文化外交～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第3回	対面	【講師：小林ハッサル 柔子】 移住・労働・ディアスポラから見るアジアの共同体と多様性	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第4回	対面	【講師：徐 潤雅】 アジア地域における多様性 ～人の移動と多様性は東アジアの社会をどう変えてきたか（韓国）～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第5回	対面	【講師：池上 寛】 アジア地域における多様性 ～人の移動と多様性は東アジアの社会をどう変えてきたか（台湾）～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第6回	対面	【講師：藤田 早苗】 アジア地域における多様性 ～人の移動と多様性は東アジアの社会をどう変えてきたか（日本）～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第7回	対面	【講師：バク ジュナ】 持続可能な多文化共生 ～多文化社会と多文化イデオロギー～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第8回	対面	【講師：木村 彩音】 持続可能な多文化共生 ～多文化共生と先住民社会～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第9回	対面	【講師：李 銀珠 Tasha】 持続可能な多文化共生 ～シティズンシップとメディア教育～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第10回	対面	【講師：Justine Nolan】 グローバルな視点からのアジア共同体 ～トランスナショナルな現代奴隷対策と移住労働者保護～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第11回	対面	【講師：Song Changzoo】 グローバルな視点からのアジア共同体 ～移民とアイデンティティ～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第12回	対面	【講師：Jocelin Lingxia Zhou】 グローバルな視点からのアジア共同体 ～移民と言語政策～	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第13回	対面	【講師：Kreitman Paul】 グローバルな視点からのアジア共同体 ～歴史的背景から捉える人の移動と交流	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間

2026/05/01

		～	と。	
第14回	対面	【講師：鄭 俊坤】 新たな共同体に向けて	事前学修：事前に授業内容を確認し、それに関連する書籍等を調べ、読むこと。 事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	2 時間
第15回	オンデマンド	【講師（コディネート）尹 恵彦】 まとめ・総括	事後学修：授業中の内容を整理・要約し、復習すること。	1 時間

科目名	国際経済学Ⅰ ＜国際経済学概論＞		開講年度	2026 年度春学期
担当者	前鶴 政和		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際貿易の基礎理論と貿易政策の効果			
授業の目的及び概要	この講義では、国際貿易の基礎理論と貿易政策の効果等について学修します。国際貿易に焦点を当てて、まず、国際貿易の拡大とその背景や相互依存関係等について説明します。また、比較優位、保護主義、貿易政策の効果や国際貿易ルール等について説明した上で、現在の国際経済情勢について学修します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①国際貿易に関する基本的な知識について説明することができる。 ②貿易政策の効果や国際貿易ルール等について説明することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。配布資料を用いて講義を行います。		ISBN	なし
参考書	①現実からまなぶ国際経済学、伊藤萬里・田中鮎夢、有斐閣、2023 年 ②国際経済論、奥和義・内藤友紀、ミネルヴァ書房、2023 年		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		50	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行ってください。予習・復習のために参考書①を購入することを推奨します。この授業を履修する前に、国際経済基礎を履修することを推奨します。また、世界経済情勢に関する新聞記事やテレビ・インターネットのニュースについても日頃から見るようにしておいてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方、成績評価等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンスの配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンスの配布資料の内容を読み直し、復習しておいてください。	2 時間
第2回	対面	「国際貿易の拡大とその背景」について説明します。	【予習】「国際貿易の拡大とその背景」に関する配布資料及び参考書①（pp. 20-28）を事前に読んでおいて	4 時間

			ください。 【復習】「国際貿易の拡大とその背景」に関する配布資料及び参考書① (pp. 20-28) を読み直し、復習しておいてください。	
第3回	対面	「相互依存関係の強まり」について学修します。	【予習】「相互依存関係の強まり」に関する配布資料及び参考書① (pp. 29-34) を事前に読んでおいてください。 【復習】「相互依存関係の強まり」に関する配布資料及び参考書① (pp. 29-34) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第4回	対面	「生産要素の移動と国際経済取引の新しい形態」について説明します。	【予習】「生産要素の移動と国際経済取引の新しい形態」に関する配布資料及び参考書① (pp. 34-49) を事前に読んでおいてください。 【復習】「生産要素の移動と国際経済取引の新しい形態」に関する配布資料及び参考書① (pp. 34-49) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第5回	対面	「保護主義の歴史」について説明します。	【予習】「保護主義の歴史」に関する配布資料および参考書① (pp. 54-57) を事前に読んでおいてください。 【復習】「保護主義の歴史」に関する配布資料および参考書① (pp. 54-57) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第6回	対面	「保護主義が台頭する背景」について説明します。	【予習】「保護主義が台頭する背景」に関する配布資料および参考書① (pp. 58-63) を事前に読んでおいてください。 【復習】「保護主義が台頭する背景」に関する配布資料および参考書① (pp. 58-63) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第7回	対面	「保護主義の政治経済学」について説明します。	【予習】「保護主義の政治経済学」に関する配布資料及び参考書① (pp. 63-71) を事前に読んでおいてください。 【復習】「保護主義の政治経済学」に関する配布資料及び参考書① (pp. 63-71) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第8回	対面	「保護主義の新しい展開」について説明します。	【予習】「保護主義の新しい展開」に関する配布資料および参考書① (pp. 71-81) を事前に読んでおいてください。 【復習】「保護主義の新しい展開」に関する配布資料および参考書① (pp. 71-81) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第9回	対面	「比較優位」について説明します。	【予習】「比較優位」に関する配布資料および参考書① (pp. 116-119) を事前に読んでおいてください。 【復習】「比較優位」に関する配布資料および参考書① (pp. 116-119) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第10回	対面	「貿易の部分均衡分析 (1)」について説明します。	【予習】「貿易の部分均衡分析 (1)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 210-214) を事前に読んでおいてください。 【復習】「貿易の部分均衡分析 (1)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 210-214) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第11回	対面	「貿易の部分均衡分析 (2)」について説明します。	【予習】「貿易の部分均衡分析 (2)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 210-214) を事前に読んでおいてください。 【復習】「貿易の部分均衡分析 (2)」に関する配布資料及び参考書① (pp. 210-214) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間

第12回	対面	「輸入に対する政策の効果」について説明します。	【予習】「輸入に対する政策の効果」に関する配布資料及び参考書① (pp. 214-221) を事前に読んでおいてください。 【復習】「輸入に対する政策の効果」に関する配布資料及び参考書① (pp. 214-221) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第13回	対面	「国際貿易ルール」について説明します。	【予習】「国際貿易ルール」に関する配布資料および参考書① (pp. 258-268) を事前に読んでおいてください。 【復習】「国際貿易ルール」に関する配布資料および参考書① (pp. 258-268) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第14回	対面	「地域貿易協定」について説明します。	【予習】「地域貿易協定」に関する配布資料および参考書① (pp. 268-275) を事前に読んでおいてください。 【復習】「地域貿易協定」に関する配布資料および参考書① (pp. 268-275) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6 時間

科目名	国際経済学Ⅱ ＜国際金融概論＞		開講年度	2026 年度春学期
担当者	高砂 謙二		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際金融における全般的な知識の修得			
授業の目的及び概要	この授業では、国際金融論の基礎知識を身につけることを目標とします。グローバル化が進む現代の経済情勢において、金融に関わるグローバル化の現象について理解することは、重要な意味を持ちます。特にリーマンショックや欧州債務危機等について理解するためには国際金融論の知識が必要です。具体的には、国際収支と基礎理論、国際通貨、為替制度、国際金融市場とデリバティブ等について学修します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 国際金融の全体構造を説明できる。 ・ 国際金融市場の役割を説明できる。 ・ 国際通貨制度変遷を説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。			
テキスト	①身近に感じる国際金融, 飯島寛之他, 有斐閣, 2020 年	ISBN	①9784641150447	
参考書	なし	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	60		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この授業ではノートを必携し、必要に応じてメモを取るようして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、常日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めること。事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	講義の概要と今後の授業の進め方について説明を行います。	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み込むとともに、国際経済学Ⅱ <国際金融概論>を受	4 時間

			講ずるにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	
第2回	対面	外国為替市場と外国為替相場（1）について解説します。 ①外国為替市場と外国為替 ②外国為替相場の影響	【予習】事前学修として、教科書（8頁-24頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第3回	対面	外国為替市場と外国為替相場（2）について解説します。 ①インフレ率と外国為替相場（購買力平価説） ②金利と外国為替相場（金利平価説）	【予習】事前学修として、教科書（24頁-34頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第4回	対面	国際収支と対外資産負債残高（1）について解説します。 ①国際収支統計の枠組み ②経常収支分析の枠組み	【予習】事前学修として、教科書（36頁-53頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第5回	対面	国際収支と対外資産負債残高（2）について解説します。 ①国際投資と国際資本移動 ②通貨・金融危機と国際収支、対外資産負債残高	【予習】事前学修として、教科書（53頁-62頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第6回	対面	国際金融市場（1）について解説します。 ①国際金融市場の定義 ②国際金融市場の参加者と目的 ③デリバティブ市場	【予習】事前学修として、教科書（66頁-81頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第7回	対面	国際金融市場（2）について解説します。 ①ユーロ市場とオフショア市場 ②国際金融市場と投機 ③タックスヘイブン	【予習】事前学修として、教科書（81頁-93頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第8回	対面	為替相場制度と経済政策（1）について解説します。 ①為替相場制度 ②外国為替介入	【予習】事前学修として、教科書（96頁-110頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第9回	対面	為替相場制度と経済政策（2）について解説します。 ①為替相場制度とマクロ経済政策 ②資本規制と為替相場制度	【予習】事前学修として、教科書（110頁-122頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第10回	対面	国際通貨制度の歴史（1）について解説します。 ①国際通貨、基軸通貨、時代区分 ②金本位制 ③再建金本位制	【予習】事前学修として、教科書（110頁-139頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第11回	対面	国際通貨制度の歴史（2）について解説します。 ①通貨ブロック ②ブレトンウッズ体制	【予習】事前学修として、教科書（140頁-148頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第12回	対面	金融危機への対応（1）について解説します。	【予習】事前学修として、教科書（152頁-162頁）を読み事前に予習して下さい。	4時間

		①通貨危機と金融危機	【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	
第13回	対面	金融危機への対応（2）について解説します。 ①金融危機への対応 ②国際金融機関の役割	【予習】事前学修として、教科書（162頁-177頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第14回	対面	新しい国際通貨体制の模索について解説します。 ①ドル体制 ②新興国の台頭 ③人民元とユーロ	【予習】事前学修として、教科書（182頁-207頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間

科目名	国際経済学Ⅱ ＜国際金融概論＞		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高砂 謙二		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際金融における全般的な知識の修得			
授業の目的及び概要	この授業では、国際金融論の基礎知識を身につけることを目標とします。グローバル化が進む現代の経済情勢において、金融に関わるグローバル化の現象について理解することは、重要な意味を持ちます。特にリーマンショックや欧州債務危機等について理解するためには国際金融論の知識が必要です。具体的には、国際収支と基礎理論、国際通貨、為替制度、国際金融市場とデリバティブ等について学修します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 国際金融の全体構造を説明できる。 ・ 国際金融市場の役割を説明できる。 ・ 国際通貨制度変遷を説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。			
テキスト	①身近に感じる国際金融, 飯島寛之他, 有斐閣, 2020 年	ISBN	①9784641150447	
参考書	なし	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	60		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	この授業ではノートを必携し、必要に応じてメモを取るようして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、常日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めること。事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	講義の概要と今後の授業の進め方について説明を行います。	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み込むとともに、国際経済学Ⅱ <国際金融概論>を受	4 時間

			講ずるにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	
第2回	対面	外国為替市場と外国為替相場（1）について解説します。 ①外国為替市場と外国為替 ②外国為替相場の影響	【予習】事前学修として、教科書（8頁-24頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第3回	対面	外国為替市場と外国為替相場（2）について解説します。 ①インフレ率と外国為替相場（購買力平価説） ②金利と外国為替相場（金利平価説）	【予習】事前学修として、教科書（24頁-34頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第4回	対面	国際収支と対外資産負債残高（1）について解説します。 ①国際収支統計の枠組み ②経常収支分析の枠組み	【予習】事前学修として、教科書（36頁-53頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第5回	対面	国際収支と対外資産負債残高（2）について解説します。 ①国際投資と国際資本移動 ②通貨・金融危機と国際収支、対外資産負債残高	【予習】事前学修として、教科書（53頁-62頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第6回	対面	国際金融市場（1）について解説します。 ①国際金融市場の定義 ②国際金融市場の参加者と目的 ③デリバティブ市場	【予習】事前学修として、教科書（66頁-81頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第7回	対面	国際金融市場（2）について解説します。 ①ユーロ市場とオフショア市場 ②国際金融市場と投機 ③タックスヘイブン	【予習】事前学修として、教科書（81頁-93頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第8回	対面	為替相場制度と経済政策（1）について解説します。 ①為替相場制度 ②外国為替介入	【予習】事前学修として、教科書（96頁-110頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第9回	対面	為替相場制度と経済政策（2）について解説します。 ①為替相場制度とマクロ経済政策 ②資本規制と為替相場制度	【予習】事前学修として、教科書（110頁-122頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第10回	対面	国際通貨制度の歴史（1）について解説します。 ①国際通貨、基軸通貨、時代区分 ②金本位制 ③再建金本位制	【予習】事前学修として、教科書（110頁-139頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第11回	対面	国際通貨制度の歴史（2）について解説します。 ①通貨ブロック ②ブレトンウッズ体制	【予習】事前学修として、教科書（140頁-148頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第12回	対面	金融危機への対応（1）について解説します。	【予習】事前学修として、教科書（152頁-162頁）を読み事前に予習して下さい。	4時間

		①通貨危機と金融危機	【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	
第13回	対面	金融危機への対応（2）について解説します。 ①金融危機への対応 ②国際金融機関の役割	【予習】事前学修として、教科書（162頁-177頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第14回	対面	新しい国際通貨体制の模索について解説します。 ①ドル体制 ②新興国の台頭 ③人民元とユーロ	【予習】事前学修として、教科書（182頁-207頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間

科目名	環境経済論		開講年度	2026 年度春学期
担当者	前鶴 政和		配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	環境経済学の基礎			
授業の目的及び概要	この授業は、大気汚染や地球温暖化など、日本や世界が直面する環境問題の原因について、経済学的アプローチから理解し、解決策を考えることを目的とします。この授業では、様々な環境問題を対象とし、環境問題の原因や解決策について、環境経済学の基礎理論を用いて説明します。また、企業に就職する際に必要となる、企業の環境配慮経営についても説明します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①環境経済学の基本的な用語について説明できる。 ②環境問題とは何か、そして環境問題はどのようにして生じるのかについて、経済学の視点から説明できる。 ③将来の環境問題解決のために経済活動の中でどのような環境保護の取組が必要かを説明できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題については、授業中に講評、解説を行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	テキストは指定しません。配布資料を用いて講義を行います。	ISBN	なし	
参考書	①環境経済学の第一歩，大沼あゆみ・柘植隆宏，有斐閣，2021 年 ②入門環境経済学〔新版〕，有村俊秀・日引聡，中央公論社，2023 年 ③環境経済学をつかむ〔第 5 版〕，栗山浩一・馬奈木俊介，有斐閣，2024 年	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容	0		
この科目の受講にあたって	環境経済学は、経済学の応用分野の 1 つです。よって、この授業で環境経済学を学ぶにあたっては、経済学の入門レベルの知識が役立ちますが、経済学を学んだことがない人でも理解できるよう、できるだけわかりやすく説明していきます。授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行い、環境問題に関する新聞記事についても日頃から目を通しておいください。予習・復習のために参考書①を購入することを推奨します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	授業の進め方、成績評価等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスとガイダンスの配布資料を事前に読んでおいてください。 【復習】シラバスとガイダンスの配布資料の内容を読み直し、復習しておいてください。	2 時間
第2回	対面	「経済と環境」について説明します。	【予習】「経済と環境」に関する配布資料及び参考書① (pp. 1-9) を事前に読んでおいてください。 【復習】「経済と環境」に関する配布資料及び参考書① (pp. 1-9) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第3回	対面	「環境経済学の視点と分析方法」について学修します。	【予習】「環境経済学の視点と分析方法」に関する配布資料及び参考書① (pp. 9-18) を事前に読んでおいてください。 【復習】「環境経済学の視点と分析方法」に関する配布資料及び参考書① (pp. 9-18) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第4回	対面	引き続き、「環境経済学の視点と分析方法」について学修します。	【予習】「環境経済学の視点と分析方法」に関する配布資料及び参考書① (pp. 9-18) を事前に読んでおいてください。 【復習】「環境経済学の視点と分析方法」に関する配布資料及び参考書① (pp. 9-18) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第5回	対面	「外部効果とは何か」及び「なぜ市場に任せると失敗するのか？」について説明します。	【予習】「外部効果とは何か」及び「なぜ市場に任せると失敗するのか？」に関する配布資料及び参考書① (pp. 23-28) を事前に読んでおいてください。 【復習】「外部効果とは何か」及び「なぜ市場に任せると失敗するのか？」に関する配布資料及び参考書① (pp. 23-28) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第6回	対面	「社会的最適を実現する方法」について説明します。	【予習】「社会的最適を実現する方法」に関する配布資料および参考書① (pp. 28-35) を事前に読んでおいてください。 【復習】「社会的最適を実現する方法」に関する配布資料および参考書① (pp. 28-35) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第7回	対面	「大気汚染の現状」について説明します。	【予習】「大気汚染の現状」に関する配布資料及び参考書① (pp. 38-41) を事前に読んでおいてください。 【復習】「大気汚染の現状」に関する配布資料及び参考書① (pp. 38-41) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第8回	対面	「日本の大気汚染政策の歴史」について説明します。	【予習】「日本の大気汚染政策の歴史」に関する配布資料および参考書② (pp. 152-157) を事前に読んでおいてください。 【復習】「日本の大気汚染政策の歴史」に関する配布資料および参考書② (pp. 152-157) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第9回	対面	「汚染の経済分析」について説明します。	【予習】「汚染の経済分析」に関する配布資料および参考書① (pp. 41-55) を事前に読んでおいてください。 【復習】「汚染の経済分析」に関する配布資料および参考書① (pp. 41-55) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第10回	対面	「地球温暖化の現状と歩み」について説明します。	【予習】「地球温暖化の現状と歩み」に関する配布資料及び参考書① (pp. 64-68) を事前に読んでおいてください。 【復習】「地球温暖化の現状と歩み」に関する配布資料及び参考書① (pp. 64-68) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第11回	対面	「地球温暖化に関する制度と政策」について説明します。	【予習】「地球温暖化に関する制度と政策」に関する配布資料および参考書① (pp. 72-78) を事前に読んで	4 時間

			おいてください。 【復習】「地球温暖化に関する制度と政策」に関する配布資料および参考書① (pp. 72-78) を読み直し、復習しておいてください。	
第12回	対面	「排出量取引の経済分析」について説明します。	【予習】「排出量取引の経済分析」に関する配布資料および参考書① (pp. 68-71) を事前に読んでおいてください。 【復習】「排出量取引の経済分析」に関する配布資料および参考書① (pp. 68-71) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第13回	対面	「企業の環境配慮経営」について説明します。	【予習】「企業の環境配慮経営」に関する配布資料および参考書① (pp. 190-195) を事前に読んでおいてください。 【復習】「企業の環境配慮経営」に関する配布資料および参考書① (pp. 190-195) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第14回	対面	「環境配慮型製品の需要と供給」について説明します。	【予習】「環境配慮型製品の需要と供給」に関する配布資料および参考書① (pp. 196-205) を事前に読んでおいてください。 【復習】「環境配慮型製品の需要と供給」に関する配布資料および参考書① (pp. 196-205) を読み直し、復習しておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	6 時間

科目名	開発経済論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	金子 治平	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	開発途上国における貧困と関連する経済・社会上の問題を明らかにして、どのような手段を講じれば経済発展が実現するのかを考える		
授業の目的及び概要	この授業は、開発途上国における貧困をもたらしている社会・経済的な問題を理解し、その解決策を検討するための基礎知識を身につけることを目的とします。 各回の講義は各授業回の授業計画に沿って進めますが、受講者が持つ事前の知識や理解度に応じて適宜変更することもあります。		
履修条件・留意点	この授業は対面授業です。 下記の事後学習を行う必要があります。 ・授業後に、講義資料を何回も読み直して復習を行う（最低でも 30 分）(※1) ・その回の講義内容に対するアンケート(※2)に回答する（約 5 分） ・その前の回の講義内容に対する小テスト(※3)を受験する（約 15 分） ※ 1 各回の講義資料は、日本語で A4 判 4~8 ページあります。日本語の文章がすらすら読める人でも 30 分、日本語に習熟していない人だと 2 時間以上かかると思います。 ※ 2 アンケートは、「Learning Portal」のテストの最後に記入することになります。アンケートへの回答は「わかった」「わからなかった」などではなく、その回の授業に対応した具体的なものを記述する必要があります。 ※ 3 アンケートを含むテストの成績が、成績評価 100 点満点中 60 点分になります。15 回の授業なので、1 回あたりのテストによる加点は約 4 点分になります。つまり、毎回のテストでいい成績を取ることが、合格するための条件になります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・開発途上国における GDP などのマクロ経済的な指標の特徴を説明することができる。 ・開発途上国における資本、労働、技術それぞれの側面での現状と課題を、ミクロ・マクロの両面から理解し、説明することができる。 ・上記の知見を使用して、開発途上国の貧困を削減する方策を検討することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	teams 上で質問を受け付けて、 ・受講生全員に関係する質問等であれば、翌週(あるいは翌々週)の授業で説明します。 ・受講生全員には関係しない質問等であれば、2~3 日以内に teams あるいはメールで回答します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。 資料は、授業支援システム「Learning Portal」にアップロードするとともに、授業時に配布します。	ISBN	なし
参考書	①『ストーリーで学ぶ開発経済学』、黒崎卓、有斐閣、2016 年 ②『なぜ貧しい国はなくなるのか』、大塚啓二郎、日本経済新聞出版、2020 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	開発途上国で暮らす人々の生活について、想像力を働かせてください。 また、新聞・雑誌、テレビ・ラジオなどのメディアから、開発途上国に関する情報を積極的に入手して欲しいと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション シラバスに記載してある授業の目的、概要、授業を受ける際の留意点、学習目標、成績評価などについて説明します。	・事前学習として、授業支援システム「Learning Portal」にアップロードした資料に目を通してください。 ・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストに、理解した点や疑問点などを回答してください。	4時間
第2回	対面	開発途上国の現状 ・「貧困」とは ・相対的貧困率と絶対的貧困率 ・国レベルの、高所得国、上位中所得国、下位中所得国、低所得国の区分 ・開発途上国の産業構成	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第1回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第2回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます。	4時間
第3回	対面	稲作の作業 ・現代日本の農業と途上国の農業（稲作を例として） ・主体を示す基本的な用語と、農地制度 ・開発途上国の農業の問題	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第2回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第3回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます。	4時間
第4回	対面	開発途上国の農業（1） ・開発途上国で農業の機械化が進展しない理由 ・インターリンク ・定額小作と刈分小作（分益小作） ・リスク・シェアリングとリスク分散 ・緑の革命	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第3回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第4回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます。	4時間
第5回	対面	開発途上国の農業（2） ・技術進歩による増収と定額小作・刈分小作 ・信用制約とマイクロ・クレジット ・グラミン銀行	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第4回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第5回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます。	4時間
第6回	対面	開発途上国（主に農村）の教育 ・所得の源泉である労働生産性を左右する4つの資本 ・人的資本と教育	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。 ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第5回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第6回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含みます。	4時間
第7回	対面	労働移動 ・貧困脱却の経路としての労働移動	・事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください。	4時間

		・ 経済発展の初期状態の農村の賃金が低い理由 ・ 都市と農村の労働移動に関する経済学のモデル ・ デリーのサイクル・リキシャ引きの実態 ・ 国の間の労働移動	・ 理解した点や疑問点などを整理してください。 ・ 「Learning Portal」のテストで、第6回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第7回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含まれます。	
第8回	対面	前半のまとめ 第1～7回の講義で理解が不十分だと考えられる点について補充説明を行うとともに、これまでの講義を振り返ります。	・ 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・ 理解した点や疑問点などを整理してください。 ・ 「Learning Portal」のテストで、第7回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第8回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含まれます。	4 時間
第9回	対面	経済成長と工業化 ・ 経済成長とは何か ・ 開発途上国の成長戦略 ・ GDPは何によって決まるのか ・ 数値での生産性格差の確認 ・ アジア諸国の経済発展の過程	・ 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・ 理解した点や疑問点などを整理してください。 ・ 「Learning Portal」のテストで、第1～8回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第9回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含まれます。	4 時間
第10回	対面	先進国からの技術の移転と普及（1） ・ 研究開発投資と、技術の分類 ・ 技術の学習・伝播 ・ 直接投資とスピルオーバー	・ 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・ 理解した点や疑問点などを整理してください。 ・ 「Learning Portal」のテストで、第9回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第10回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含まれます。	4 時間
第11回	対面	先進国からの技術の移転と普及（2） ・ 開発途上国での「平家型」産業集積 ・ 開発途上国での「ピラミッド型」産業集積	・ 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・ 理解した点や疑問点などを整理してください。 ・ 「Learning Portal」のテストで、第10回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第11回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含まれます。	4 時間
第12回	対面	開発途上国と金融 ・ 金融の機能と、開発途上国の金融 ・ 輸入代替工業化戦略と金融 ・ 構造調整政策と金融のグローバル化 定期試験についての説明。	・ 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・ 理解した点や疑問点などを整理してください。 ・ 「Learning Portal」のテストで、第11回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第12回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含まれます。	4 時間
第13回	対面	世界と日本の開発援助 ・ 無償資金協力 ・ 技術協力 ・ 円借款	・ 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・ 理解した点や疑問点などを整理してください。 ・ 「Learning Portal」のテストで、第12回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第13回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含まれます。	4 時間
第14回	対面	経済発展と環境 ・ 開発途上国のエネルギー利用 ・ 大気汚染 ・ 環境クズネッツ曲線 ・ 地球温暖化対策	・ 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理解してください ・ 理解した点や疑問点などを整理してください。 ・ 「Learning Portal」のテストで、第13回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。このテストの中には、第14回の講義内容に対する理解した点や疑問点なども含まれます。	4 時間
第15回	オンデ	全体の振り返り	・ 事後学習として、講義資料を何回も読み直して、理	4 時間

	マンド	第 9～14 回の講義で理解が不十分だと考えられる点について補充説明を行うとともに、全体の講義を振り返ります。	解してください ・理解した点や疑問点などを整理してください。 ・「Learning Portal」のテストで、第 2～14 回の講義内容についての理解度をチェックする問題を受験してください。	

科目名	Contemporary Economic Issues	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	今井 健一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語で日本国内外における経済の動向とその背景について学ぶ。		
授業の目的及び概要	本授業では、英語で日本国内外における経済の動向とその背景について学ぶ。具体的には、“物価”、“雇用”、“消費・貯蓄”、“投資”、“金融機関”、そして“外国為替”などを含む日常の暮らしの中で見聞きする基礎的な経済用語の意味を英語で理解していく。このように基礎的な経済用語を英語で修得していくと同時に、それらに関連して日本国内外で起きている身近な経済現象とその背景について英語で学んでいく。授業では、日本を事例とした国内において起きている様々な経済現象のみでなく、視野をアジアあるいは世界に広げて、地域・世界における経済の動向についても学んでいく。		
履修条件・留意点	(履修条件): 本科目は、英語力が TOEIC 600 点以上、あるいはこれに相当する英語力 (例えば、400 単語程度の経済関連の英語ネットニュース内容を読み理解でき、そのサマリーを 3 行程度の英語で簡潔に書くことが出来る) を有することを履修条件とします。本条件を満たしているか、いないかがわからない場合は、第 1 回目の授業において担当教員に相談して下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針 (DP) との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業の学修の主な目標は以下の通りである。 1. 基本的な経済用語の意味を理解し、その意味を簡潔に英語で説明することが出来る。 2. 経済に関連した英語による図表を正確に理解し、かつ作成することが出来る。 3. 日々の暮らしの中で見聞きする日本における経済の動向とその背景を理解し、その概要について英語で説明できる。 4. 日本の事例を応用して、自国における経済の動向とその背景を調査・分析し、その結果をレポートとしてまとめ (英語で 400 単語程度)、かつ英語で説明できる。 5. 自身が関心のあるアジア地域あるいは世界における経済の動向とその背景を調査・分析し、その結果をレポートとしてまとめ (英語で 800 字程度)、かつ英語で説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で出題される課題テーマについて、調査、分析、調査・分析結果の英語サマリー作成、そして英語プレゼンテーション (Q&A、ディスカッションを含む) を行う。このようなプロセスを通して、英語力を高めていく。そして、授業で学んだ経済テーマについての理解を深めていくと共に、他の学生によるプレゼンテーションを聞くことでテーマについての視野を広げていく。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。 必要に応じ、授業用資料を配布する。	ISBN	なし。
参考書	①Studying the Japanese and World Economies (英語で学ぶやさしい経済), 栗原 裕 他, 朝日出版社, 2006 年 ②The Japanese Economy, second edition, Takatoshi Ito・Takeo Hoshi, The MIT Press, 2020 ③THE Asian Economy, Kenta Goto, Tamaki Endo, and Asei Ito, Routledge, 2021	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表 (口頭・実技)	0	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目は英語で日本国内外の経済の動きを学びます。このように英語で特定の分野を学ぶことを一般的に「Content-based English」と呼びます。皆さん、本科目で「日本と世界の経済を学び、そして英語力も高める」一石二鳥の実現にチャレンジしましょう！	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	①授業の目的及び概要、学修の到達目標、テキスト、授業計画等について、ガイダンスを行う。 ②授業開始に先立っての簡単なアンケート調査および英語力テスト（読解と英作文）の実施。	【予習】シラバスと授業用資料：“Studying the Japanese and World Economies”の「はじめに」と「Contents」（目次）を事前に読んでおくこと。	2時間
第2回	対面	授業前半（第2回～第8回）では、身近な経済について英語で学んでいきます。 Inflation（物価が上がる、下がる—インフレーションとは？）	【予習】授業用資料の Chapter 2 を事前に読んでおくこと。	4時間
第3回	対面	Unemployment（仕事を得る、仕事を失う—失業とは？）	【予習】授業用資料の Chapter 3 を事前に読んでおくこと。	4時間
第4回	対面	Consumption and Saving（お金を使う、お金を貯める—消費と貯蓄について学ぶ）	【予習】授業用資料の Chapter 4 を事前に読んでおくこと。	4時間
第5回	対面	Investment（企業がお金を使う—投資とは？）	【予習】授業用資料の Chapter 5 を事前に読んでおくこと。	4時間
第6回	対面	Monetary Policy and Fiscal Policy（景気を良くしたい—金融政策と財政政策について学ぶ） ＊プレゼンテーション I について：説明、発表テーマの選択	【予習】授業用資料の Chapter 10 を事前に読んでおくこと。	4時間
第7回	対面	プレゼンテーション I（セッション 1）の実施	【予習】プレゼンテーション用パワーポイント資料の作成と発表準備	6時間
第8回	対面	プレゼンテーション I（セッション 2）の実施	【予習】プレゼンテーション用パワーポイント資料の作成と発表準備	6時間
第9回	対面	授業後半（第9～第14回）では、グローバルな経済問題について英語で学んでいきます。 Inequality（国内外における格差の問題）	【予習】授業用資料を事前に読んでおくこと。	4時間
第10回	対面	Population and urbanization（世界の人口と都市化について）	【予習】授業用資料を事前に読んでおくこと。	4時間
第11回	対面	Climate change（Part I）（気候変動問題と経済の関係について）	【予習】授業用資料を事前に読んでおくこと。	4時間
第12回	対面	Climate change（Part II）（気候変動と食料危機について） ＊プレゼンテーション II について：説明とテーマの選択	【予習】授業用配布資料を事前に読んでおくこと。	4時間
第13回	対面	プレゼンテーション II（セッション 1）の実施	【予習】プレゼンテーション用のパワーポイント資料作成と発表の準備	4時間
第14回	対面	プレゼンテーション II（セッション 2）の実施	【予習】プレゼンテーション用のパワーポイント資料作成と発表の準備	4時間
第15回	オンデマンド	① 第1回～第14回授業の内容を振り返り、何を学んできたかの確認を行なう。 ② レポート試験（定期試験）についての説明	【予習】事前に配布される“レポート試験”説明資料を読んでおくこと。	4時間

科目名	国際経営論Ⅰ ＜経営管理論＞		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福田 真也		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	実在する企業活動の事例を取り上げながら、経営管理について学修します。 経営学領域の専門科目にステップアップするための内容を学修します。			
授業の目的及び概要	本講義では、各地域に実在する企業活動を事例に取り上げながら、「古典的管理論」と「近代管理論」について学修します。経営管理論の全体像を明らかにした上で、モチベーションやリーダーシップについても学修します。 本講義を受講することによって、企業や行政、NGOなどでマネジメント能力を発揮しながら、グローバルの視野を持って地域や企業の発展に貢献しうる基礎知識を修得することを目的とします。			
履修条件・留意点	この授業科目は、専門発展科目です。 国際ビジネスの視点で経営管理について学修したい学生の履修を推奨します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	国際的なビジネスを担う人材に必要な素養を身につけるとともに、実際に実社会で行われている事象について、経営学的な観点から分析することができるようになることを目標とします。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定のテキストは使用しません。 本講義は、配布資料をもとに講義を行います。	ISBN	.	
参考書	①経営管理論，上野恭裕・馬場大治編著，中央経済社，2016 年 ②マネジメント 基本と原則，P・ドラッカー著・上田惇生訳，ダイヤモンド社，2001 年	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	60		
	その他（％）	0		
	その他の内容	0		
この科目の受講にあたって	本講義は、国際ビジネス科目群に位置付けられており、アジア太平洋地域における企業活動を事例に、実学としての経営学を学修することを目指しています。 調査研究の実務経験を織り混ぜながら、具体的な組織マネジメントについて実践的に学修します。 日頃から、インターネットやテレビ、新聞等を通じて、国際的な観点から経営事情に関する出来事について把握できるように心掛けてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	「ガイダンス」 本講義の目的・目標、授業の進め方、成績評価などについて、授業計画をもとに説明します。 「経営管理論とはどのような学問か(1)」 ①現代社会における基本問題、②管理とは何かについて学修します。	(事前学修) 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 また、ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第2回	対面	「経営管理論とはどのような学問か(2)」 ③経営管理の担い手、④経営管理論の歴史について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	「企業とはどのような存在か(1)」 ①企業と会社、②株式会社の特徴について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	「企業とはどのような存在か(2)」 ③株式会社におけるトップ・マネジメントの構造、④株式会社の実際について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	「マネジメントの誕生(1)」 ①科学的管理法について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	「マネジメントの誕生(2)」 ②人間関係論、③マネジメントへの役立ちについて学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	「第1回～第6回の学修内容の再確認」 第1回～第6回までの学修内容を再確認するとともに、実社会に実在する企業の取り組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) 第1回～第6回までの配布資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	「組織マネジメントの展開(1)」 ①個人と組織、②組織の存続条件について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

第9回	対面	「組織マネジメントの展開(2)」 ③意思決定のマネジメント、④組織マネジメントの価値について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第10回	対面	「モチベーション論(1)」 ①モチベーションとは、②実体理論 一人は何によって意欲が生まれるのか、について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第11回	対面	「モチベーション論(2)」 ③プロセス理論、④モチベーションを生み出すマネジメントについて学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第12回	対面	「リーダーシップ論(1)」 ①リーダーシップの基礎、②リーダーシップのコンティンジェンシー理論について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第13回	対面	「リーダーシップ論(2)」 ③トップとミドルのリーダーシップ、④リーダーシップ研究の新展開について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第14回	対面	「第8回～第13回の学修内容の再確認」 第8回～第13回までの学修内容を再確認するとともに、これまでの講義内容を確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) 第8回～第13回までの配布資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	(事前学修) すべての回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間

科目名	国際経営論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福田 真也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア太平洋地域における企業活動を事例に取り上げながら、現代社会における経営組織について学修します。 経営学領域の専門科目へステップアップするための内容を学修します。		
授業の目的及び概要	アジア太平洋地域における企業活動を事例に取り上げながら、「組織内部・外部のマネジメント」について言及し、経営組織の理論の全体像を明らかにします。 本講義を受講することによって、企業や行政、NGO などでマネジメント能力を発揮しながら、グローバルの視野を持って地域や企業の発展に貢献しうる基礎知識を修得することを目的とします。		
履修条件・留意点	この授業科目は、専門発展科目です。 国際的な視点で経営組織について学修したい学生の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	経営内部・外部のマネジメント等について、基本的な知識を身につけることができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストは使用しません。 本講義は、配布資料をもとに講義を行います。	ISBN	.
参考書	①経営管理論, 上野恭裕・馬場大治編著, 中央経済社, 2016 年 ②マネジメント 基本と原則, P・ドラッカー著, 上田 惇生訳, ダイヤモンド社, 2001 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	日頃から、インターネットやテレビ、新聞等を通じて、国際的な観点から経営事情に関する出来事について把握できるように心掛けてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	「ガイダンス」 この科目の目的・目標、授業の進め方・受け方、成績評価などについて、授業計画の詳細とともに説明します。	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 また、ラーニングポータルにアップされている該当	4 時間

		「組織構造のマネジメント(1)」 ①組織構造とは何か、②官僚制組織について学修します。	回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第2回	対面	「組織構造のマネジメント(2)」 ③組織形態、④組織構造の発展について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第3回	対面	「組織文化のマネジメント(1)」 ①組織文化とは何か、②組織文化の機能と逆機能、③組織文化の形成と変革について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第4回	対面	「組織文化のマネジメント(2)」 ③組織文化の形成と変革について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第5回	対面	「経営組織の環境適応(1)」 ①環境適応の必要性、②コンティンジェンシー理論の誕生について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第6回	対面	「経営組織の環境適応(2)」 ③コンティンジェンシー理論の発展、④コンティンジェンシー理論の意義と限界について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第7回	対面	「第1回～第6回の学修内容の再確認」 第1回～第6回までの学修内容を再確認するとともに、実社会に実在する企業の取り組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) 第1回～第6回までの配布資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第8回	対面	「企業戦略のマネジメント(1)」 ①経営戦略とは何か、②ドメインの設定について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第9回	対面	「企業戦略のマネジメント(2)」 ③多角化、④多角化企業の資源配分について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。	4時間

			(事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第10回	対面	「競争優位のマネジメント(1)」 ①競争優位とは何か、②ポジショニング・アプローチについて学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第11回	対面	「競争優位のマネジメント(2)」 ③経営資源アプローチ、④競争優位のタイプについて学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第12回	対面	「イノベーションのマネジメント(1)」 ①イノベーションとは何か、②イノベーションの発生について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第13回	対面	「イノベーションのマネジメント(2)」 ③イノベーションの全体像、④イノベーション・メカニズムの解明に向けて、について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第14回	対面	「第8回～第13回の学修内容の再確認」 第8回～第13回までの学修内容を再確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) 第8回～第13回までの配布資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	(事前学修) すべての回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4時間

科目名	マーケティング論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田 真也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	経営学の基礎的知識を身につけながら、国際的な視点でマーケティングを学修します。		
授業の目的及び概要	マーケティングとは、顧客が欲しているものに関する情報を会社に送り込み、それに合うように開発された製品やサービスを顧客に送り出す双方向の行為をいう。その中でグローバル・マーケティングとは、企業と顧客の間で、このような双方向の行為が世界的規模で展開されることを意味している。本講義では、グローバル・マーケティングが形成されるプロセスを説明するとともに、その実践事例について考察します。		
履修条件・留意点	この授業科目は、専門発展科目です。 国際的な視点でマーケティングを学修したい学生の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・マーケティングの課題と新たな展開について、十分に理解し説明できること。 ・グローバル・マーケティングと通常のマーケティングの差異について、十分に理解し説明できること。 ・グローバル企業の事例を取り上げ、その特質を分析できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストは使用しません。 本講義は、配布資料をもとに講義を行います。	ISBN	.
参考書	①新流通・マーケティング入門，金弘錫・美藤信也・吉岡秀輝・田中敦之，成山堂書店，2017 年.	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	日頃から、インターネットやテレビ、新聞等を通じて、国際的な観点から経営事情に関する出来事について把握できるように心掛けてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	「ガイダンス」 本講義の目的・目標、授業の進め方、成績評価などについて、授業計画をもとに説明します。 また、グローバル・マーケティング論の方	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 また、ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理する	4 時間

		法論や、国際化とグローバル化の違いについて学修します。	など、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第2回	対面	「マーケティングの基礎概念」 マーケティングの定義をはじめ、セオドア・レビットによる概念規定やマーケティング・コンセプトの変遷、価値方程式などについて学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	「グローバル・マーケティングの範囲」 グローバル・マーケティングの類型と戦略をはじめ、ブランド・ネーム、製品デザイン、製品ポジショニング、包装、流通、顧客サービス、部品調達などについて学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	「なぜグローバル・マーケティングなのか」 グローバル・マーケティングの重要性と市場潜在力の意味、『フォーチュン』のグローバル企業 500 社の含意、市場規模の決定要因などについて学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	「経営志向の概念」 経営志向の意味をはじめ、H. V. パールミュッターの所説、本国志向、現地志向、地域志向、世界志向について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	「グローバル化の推進力(1)」 グローバル化の推進力について、テクノロジーや地域経済協定、市場のニーズと欲求、世界経済の趨勢などの観点から学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	「グローバル化の推進力(2)」 グローバル化の推進力について、梶子(レバレッジ)作用(経験の移転、規模の経済、資源利用、グローバル戦略)を中心に学修します。	(事前学修) 第1回～第6回までの配布資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	「グローバル化の抑制力について」 グローバル化の抑制力について、経営的近視眼と組織文化、国家管理と障壁、「タイタニック」・シンドロームなどの観点から学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	「海外進出する上での考慮事項」 国際ビジネスの決定基準や決定事項、生産拠点の移転、政治的リスクなどの観点から学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修)	4 時間

			配布資料の自筆（赤字）部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第10回	対面	「進出先市場の選択基準について」 市場選択の基準について、市場潜在力、市場アクセス、集荷コストと時間、潜在的競争、サービス要件、商品の適合性などの観点から学修します。	（事前学修） ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） 配布資料の自筆（赤字）部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	「海外進出の諸形態について」 直接投資と国際ライセンス契約、合併事業、100%出資現地子会社、本国製造商品と現地製造商品の違いなどについて学修します。	（事前学修） ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） 配布資料の自筆（赤字）部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	「日本企業の比較優位性」 比較優位の概念をはじめ、国際分業による貿易利益の変化、リカードの比較生産費説について学修します。	（事前学修） ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） 配布資料の自筆（赤字）部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	「グローバル・マーケティングとロジスティクス」 調達の意義と重要性をはじめ、オーバーフローの危機可能性、物流の定義・機能について学修します。	（事前学修） ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） 配布資料の自筆（赤字）部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第14回	対面	「グローバル・サプライチェーン・マネジメントについて」 サプライチェーン・マネジメント（SCM）について、SCMの起源や経営問題について国際的な視点から学修します。	（事前学修） 第8回～第13回までの配布資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） 配布資料の自筆（赤字）部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	（事前学修） すべての回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 （事後学修） 配布資料の自筆（赤字）部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	貿易実務	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高砂 謙二	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	貿易取引における全体像の理解		
授業の目的及び概要	この授業は、貿易取引の基礎について理解させることを目的としています。そのために、国内取引とは異なる諸規則や商慣習を前提とした、国際商取引に関する契約や規則、商慣習等の知識も修得します。具体的には、貿易取引の各段階を説明し、一連の貿易取引（信用状ベース取引、信用状なし取引、送金ベース取引等）の流れを把握したのち、貿易実務に必要な知識について解説します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 貿易取引の全体構造を説明できる。 ・ 貿易取引に必要な諸規則や商慣習を説明できる。 ・ 信用状取引の有用性を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては、授業中に解説及び講評を行うこととする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	①よくわかる貿易実務入門（改訂 4 版），片山 立志，日本能率協会マネジメントセンター，2022 年	ISBN	①9784800590169
参考書	なし	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	授業用にノートをも 1 冊準備し、毎回持参して、必要に応じてメモを取るようして下さい。また、近年の事例を取り上げるため、平日頃から新聞・ニュース等で関連の情報収集に努めて下さい。また、事前に教科書で事前学修することが、復習については教科書、講義資料、ノートで授業外の学修を行うことが望まれます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	講義の概要と今後の授業の進め方について説明を行う。	【予習】事前学修として、この科目のシラバスを読み込むとともに、貿易実務 <貿易商務論>を受講す	4 時間

			るにあたってのポイントについて確認しておいて下さい。 【復習】事後学修として、授業での説明部分について、ノートを読み返し、あらためてポイントになるところは何かを考えながら復習して下さい。	
第2回	対面	貿易取引と貿易取引の取引形態について解説します。 ①貿易取引 ②貿易取引の取引形態	【予習】事前学修として、教科書（10-15 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	貿易取引の流れ（1）について解説します。 ①貿易取引の流れ ②オファー	【予習】事前学修として、教科書（16-24 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	貿易取引の流れ（2）について解説します。 ①契約・信用状発行・輸出業務・荷為替手形 ②代金の支払いから貨物の引き渡しまで	【予習】事前学修として、教科書（26-35 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	信用状と信用状統一規則について解説します。 ①信用状と代金決済 ②信用状統一規則	【予習】事前学修として、教科書（36-39 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	信用状の種類と信用状発行依頼について解説します。 ①信用状の種類 ②信用状発行依頼	【予習】事前学修として、教科書（74-75 頁、86-91 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	輸入取引の代金決済について解説します。 ①荷為替手形の決済 ②代金決済方法	【予習】事前学修として、教科書（102-103 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	荷物引取保証と為替予約について解説します。 ①荷物引取保証 ②為替予約	【予習】事前学修として、教科書（114-117 頁、104-105 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	取引条件とインコタームズの概要について解説します。 ①取引条件 ②インコタームズの概要	【予習】事前学修として、教科書（44-51 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第10回	対面	インコタームズの解説（1）について解説します。 ①インコタームズの解説（1）	【予習】事前学修として、教科書（44-55 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	インコタームズの解説（2）と輸出入貨物の価格について解説します。 ①インコタームズの解説（2） ②輸出入貨物の価格	【予習】事前学修として、教科書（56-61 頁）を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	輸送形態と海上コンテナ輸送を解説します。	【予習】事前学修として、教科書（62-71 頁）を読み事前に予習して下さい。	4 時間

		①輸送形態 ②海上コンテナ輸送	【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	
第13回	対面	輸出実務の流れと貿易書類(1)を解説します。 ①輸出実務の流れ ②貿易書類	【予習】事前学修として、教科書(140-141頁、146-147頁)を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第14回	対面	輸出実務の流れと貿易書類②について解説する ①貿易書類	【予習】事前学修として、教科書(152-155頁、184-185頁、188-193頁)を読み事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】事前学修として、教科書・ノートで事前に予習して下さい。 【復習】事後学修として、授業で説明した重要ポイントを中心に教科書、ノートを読み返し、復習して下さい。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体	復習 4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2 時間

		的かつバックキャストिंगによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。		
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレイキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理(第3章) ○BYOD(PC使用)を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた(重要なところを積極的にメモする・整理する)ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法(1)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法(2)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(1~5クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(6~10クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第8回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(6~10	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

		クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(1～5クラス対象)		
第9回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題:本を読んでみよう(第5章から一部活用) ○まずは本を読んでもみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	池上 寛	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明	復習 4 年間で視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1 年間、さらには春学期の現実的な目標を立	2 時間

		する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックカastingによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレイキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理（第3章） ○BYOD（PC使用）を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた（重要なところを積極的にメモする・整理する）ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法（1）（第2章） ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる：①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法（2）（第2章） ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる：①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス（第4章）+資料の書き方（「卒業研究ガイド」の活用）（1～5クラス対象） ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ（6～10クラス対象）	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

第8回	対面	図書館ガイダンス（第4章）+資料の書き方（「卒業研究ガイド」の活用）（6～10クラス対象） ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ（1～5クラス対象）	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	対面	本を使って、コメント（100字程度）のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 （第3章4：ノートの取り方の発展形）	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント（100字程度）のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 （第3章4：ノートの取り方の発展形）	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント（100字程度）のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 （第3章4：ノートの取り方の発展形）	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント（300字程度）のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について答えてください」に回答できるようになる。 （第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」）	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント（300字程度）のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について答えてください」に回答できるようになる。 （第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」）	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題：本を読んでみよう（第5章から一部活用） ○まずは本を読んでみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	董 夢		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る			
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第 4 版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875	
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	リフレクションペーパー		
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックカastingによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	復習 4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2時間
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレイキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理（第3章） ○BYOD（PC使用）を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた（重要なところを積極的にメモする・整理する）ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法（1）（第2章） ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる：①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法（2）（第2章） ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる：①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス（第4章）＋資料の書き方（「卒業研究ガイド」の活用）（1～5クラス対象） ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

		国際共修のワークショップ(6～10クラス対象)		
第8回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(6～10クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(1～5クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	対面	本を使って、コメント(1000字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント(1000字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント(1000字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント(3000字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント(3000字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したこと、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題:本を読んでみよう(第5章から一部活用) ○まずは本を読んでみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	木村 彩音	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体	復習 4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2 時間

		的かつバックキャストिंगによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。		
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレイキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理(第3章) ○BYOD(PC使用)を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた(重要なところを積極的にメモする・整理する)ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法(1)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法(2)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(1~5クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(6~10クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第8回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(6~10	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

		クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(1～5クラス対象)		
第9回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題:本を読んでみよう(第5章から一部活用) ○まずは本を読んでもみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田 真也		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る			
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875	
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	リフレクションペーパー		
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体	復習 4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2 時間

		的かつバックキャストिंगによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。		
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレイキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理(第3章) ○BYOD(PC使用)を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた(重要なところを積極的にメモする・整理する)ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法(1)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法(2)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(1~5クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(6~10クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第8回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(6~10	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

		クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(1～5クラス対象)		
第9回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題:本を読んでみよう(第5章から一部活用) ○まずは本を読んでみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高砂 謙二	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックカastingによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	復習 4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2時間
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレイキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理（第3章） ○BYOD（PC使用）を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた（重要なところを積極的にメモする・整理する）ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法（1）（第2章） ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる：①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法（2）（第2章） ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる：①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス（第4章）+資料の書き方（「卒業研究ガイド」の活用）（1～5クラス対象） ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

		国際共修のワークショップ(6～10クラス対象)		
第8回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(6～10クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(1～5クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したこと、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題:本を読んでみよう(第5章から一部活用) ○まずは本を読んでみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定	復習 4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定し	2 時間

		授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体的かつバックカastingによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。	た上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレイキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理（第3章） ○BYOD（PC使用）を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた（重要なところを積極的にメモする・整理する）ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法（1）（第2章） ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる：①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法（2）（第2章） ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる：①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス（第4章）+資料の書き方（「卒業研究ガイド」の活用）（1～5クラス対象） ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ（6～10クラ	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

		ス対象)		
第8回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(6~10クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(1~5クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題:本を読んでみよう(第5章から一部活用) ○まずは本を読んでみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	玉水 玲央	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体	復習 4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2 時間

		的かつバックキャストिंगによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。		
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレイキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理(第3章) ○BYOD(PC使用)を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた(重要なところを積極的にメモする・整理する)ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法(1)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法(2)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(1~5クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(6~10クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第8回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(6~10クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

		クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(1～5クラス対象)		
第9回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題:本を読んでみよう(第5章から一部活用) ○まずは本を読んでもみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	尹 恵彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体	復習 4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2 時間

		的かつバックキャストिंगによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。		
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレーキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理(第3章) ○BYOD(PC使用)を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた(重要なところを積極的にメモする・整理する)ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法(1)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法(2)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(1~5クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(6~10クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第8回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(6~10	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

		クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(1～5クラス対象)		
第9回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題:本を読んでみよう(第5章から一部活用) ○まずは本を読んでもみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	陸 麗君		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る			
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	課題等に取り組み、それについて教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。			
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875	
参考書	参考文献は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	リフレクションペーパー		
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと学修目標の設定 授業の概要と今後の進め方について説明する。スチューデントアシスタントによる春学期の目標の経験談などを通じて、具体	復習 4年間を視野に入れて、各年次の目標を想定した上で、1年間、さらには春学期の現実的な目標を立てる。	2 時間

		的かつバックキャストिंगによる目標の設定の仕方を学ぶ。 1学期間に何をどれほど学ばなければならないのかを確認し、1週間のタイムスケジュールを作成する。		
第2回	対面	大学で学ぶための基礎づくり 国際学部における留学・体験科目と2年次以降のコース選択について説明を行う。 大学の成績評価やシラバスの読み方について解説する。 アイスブレイキングの実施により、クラス内での良好な人間関係を構築し、協働力を高める。	復習 保護者とも相談しながら、2年次以降のコース選択をどうするのか検討しておくこと。 復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	2時間
第3回	対面	イントロダクションと学修目標の設定、大学で学ぶための基礎づくり 第1,2回目の内容を総合的に確認しフィードバックを行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第4回	対面	ノート整理(第3章) ○BYOD(PC使用)を前提に、ノートブックの書き方ではなく、Noteの取り方・まとめかた(重要なところを積極的にメモする・整理する)ができるようになる。 ○それぞれ重要だと思ったところを確認するなど、グループワークを実施する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	6時間
第5回	対面	生成AIの活用法(1)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第6回	対面	生成AIの活用法(2)(第2章) ○生成AIの種類と目的、性質を理解する。 ○日常学習を想定して、生成AIを使ってみる:①情報収集、②長文の要約、③情報整理、④文章の推敲支援、⑤文章作成、⑥翻訳・外国語構成支援の機能を使うことができる。 ○グループワークで、生成AIで文章を作成し、その良いところおよび課題について議論する。	予習 課題文献を事前に読む。 復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第7回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(1~5クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(6~10クラス対象)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第8回	対面	図書館ガイダンス(第4章)+資料の書き方(「卒業研究ガイド」の活用)(6~10	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間

		クラス対象) ○大学図書館で図書を検索し、借りることができる。 ○卒業研究ガイドを通じて、参考文献の書き方を修得する。 ○図書館および本学ネットワークで利用できるデータが分かる。 国際共修のワークショップ(1～5クラス対象)		
第9回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第10回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	本を使って、コメント(100字程度)のまとめ方① ○「授業から学んだことはなんですか」に回答できるようになる。 (第3章4:ノートの取り方の発展形)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第12回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	コメント(300字程度)のまとめ方② ○「授業で学んだことを踏まえて、○○○について教えてください」に回答できるようになる。 (第1章4「問いを立てる」+第6章4「アウトラインを作る」)	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第14回	対面	春学期のまとめ 春学期学修したことのまとめ、夏休み・秋学期に向けて説明を行った上で、期末試験の注意点について指導を行う。	復習 基礎演習で学んだ内容について授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第15回	オンデマンド	夏休みの課題:本を読んでみよう(第5章から一部活用) ○まずは本を読んでみる。	復習 「本から学んだことは何ですか」100字コメントの提出。	4時間

科目名	基礎演習 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伍 躍		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	大学での学修の基礎を形成し日本で留学生活に慣れよう。			
授業の目的及び概要	この授業は、次年度の4月から、大学の一年生としての学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。演習を通して、日本語能力を磨き、特に読解能力の向上を目指して、日本社会および出身国・地域の社会が抱える諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力の養成も図ります。			
履修条件・留意点	この演習は、科目等履修生を対象とするものです。 国際学部で科目等履修生を対象とする特別講義が実施される場合、その出席も成績に加味します。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	当該演習では、以下の目標の達成を目指します。 ① 自律性を求めるという大学教育の特徴を理解することができること。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけることができること。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知ることができること。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定しない。		ISBN	なし
参考書	指定しない。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		70	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	1 年生としての勉学生生活をスムーズに適応させるための科目ですので、授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組み、よい成績で修得するようにしてください。			

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと秋学期の目標設定	復習 秋学期の目標のワークシートを完成させる。 予習 資料（2026 年度大学パンフレット）の指定ページを予習する（語彙調べ）。	4 時間
第2回	対面	①目標のワークシートの講評	復習 目標ワークシートの修正（必要に応じて）	4 時間

		◎国際学部 of 教育特徴・教育内容・進路について説明	予習 資料（2026 年度大学履修の手引き）の指定ページを予習する（語彙調べ）。	
第3回	対面	大学の授業・単位・成績評価を確認し、目標達成計画の重要性について説明する	復習 各自、目標達成の計画を検証して修正する（対象：すでに作成した人）か作成する（対象：未作成の人） 予習 新聞を読む①（教員が提示する資料）	4 時間
第4回	対面	新聞を読む①の確認（音読・語彙説明・議論） 大学生としての時間管理・時間管理シートの作成	復習 新聞を読む①についての説明内容を整理する 予習 新聞を読む②（教員が提示する資料）	4 時間
第5回	対面	新聞を読む②の確認（音読・語彙説明・議論） 大学生としての金銭管理	復習 新聞を読む②についての説明内容を整理する 予習 新聞を読む③（教員が提示する資料）	4 時間
第6回	対面	新聞を読む③の確認（音読・語彙説明・議論） 大学生としての健康管理	復習 新聞を読む③についての説明内容を整理する 予習 新聞を読む④（教員が提示する資料）	4 時間
第7回	対面	新聞を読む④の確認（音読・語彙説明・議論） 大学生としての安全管理	復習 新聞を読む④についての説明内容を整理する 予習 新聞を読む⑤（教員が提示する資料）	4 時間
第8回	対面	新聞を読む⑤の確認（音読・語彙説明・議論） ノートテイキングの要点に関する資料を説明し、予習のポイントを指示する	復習 新聞を読む⑤についての説明内容を整理する 予習 ノートテイキングの要点に関する資料を読んで確認する（語彙調べ）	4 時間
第9回	対面	動画資料：「講義ノートのとり方」「ノートテイキングの必要文房具」 ノートテイキング実践：教員のミニ講義を聞いてノートを取ってみよう。	復習と予習：ノートテイキング実践のノートを整理し、「私がこのようにノートを取りました」ということについての説明を準備する。	4 時間
第10回	対面	クラス発表会①：私のノート	復習 クラス発表会の講評と意見交換をもとに、ノートを修正する。 学生研究発表大会の見学を準備する。	4 時間
第11回	オンデマンド	学生研究発表大会の見学（2026 年度学生研究発表大会の実施予定に応じて授業計画を調整する可能性がある）	復習 学生研究発表大会の見学感想文をまとめる	4 時間
第12回	対面	クラス発表会②：学生研究発表大会の感想	復習 クラス発表会の講評と意見交換をもとに、見学感想文を修正する。	4 時間
第13回	対面	協働して目標を達成しよう：グループ作業（与えられたテーマについての調査・まとめ） 実施方法についての教員説明・チームビルディング	復習と予習 グループ作業の内容および各自の役割を確認して、下調べをする。	4 時間
第14回	対面	期末試験試験の実施方法・復習の重要性と大学の成績評価について	復習 授業後に、期末試験についての配布資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第15回	対面	秋学期の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認だを行う。	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。 ＊上記の授業計画は演習の進捗状況により微調整する可能性があります。	4 時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	池上 寛	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	大学（だいがく）での学修（がくしゅう）の基礎（きそ）を形成（けいせい）し日本（にほん）での留学生活（りゅうがくせいいかつ）に慣（な）れよう。		
授業の目的及び概要	この授業（じゅぎょう）は、次年度（じねんど）の4月（がつ）から、大学（だいがく）の一年生（いちねんせい）としての学修（がくしゅう）に必要な（ひつよう）な学修態度（がくしゅうたいど）や技能（ぎのう）等（など）を身（み）につけることを目的（もくてき）とします。演習（えんしゅう）を通（とお）して、日本語能力（にほんごのうりょく）を磨（みが）き、特（とく）に読解（どっかい）能力（のうりょく）の向上（こうじょう）を目指（めざ）して、日本（にほん）社会（しゃかい）および出身国（しゅっしんこく）・地域（ちいき）の社会（しゃかい）が抱（かか）える諸課題（しよかだい）への興味（きょうみ）を喚起（かんき）し、大学（だいがく）での学修（がくしゅう）の動機（どうき）づけ等（など）を行（おこない）います。また、大学（だいがく）における良好（りょうこう）な人間関係（にんげんかんけい）を構築（こうちく）し、他者（たしゃ）を理解（りかい）してコミュニケーションを図（はか）る能力（のうりょく）の向上（こうじょう）、グループワークを通（つう）じた協働（きょうどう）力（りょく）の養成（ようせい）も図（はか）ります。		
履修条件・留意点	・この演習は、科目等履修生を対象とするものです。 ・国際学部で科目等履修生を対象とする特別講義が実施される場合、その出席も成績に加味します。 ・授業計画は、演習の進捗状況によって内容の変更や追加なども行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	当該演習では、以下の目標の達成を目指します。 ① 自律性を求めるという大学教育の特徴を理解することができること。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけることができること。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知ることができること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	なし
参考書	大学生 学びのハンドブック [6 訂版], 世界思想社編集部 編, 世界思想社, 2024 年	ISBN	9784790717911
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	70	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	

この科目の受講にあたって	来年4月に1年生としての勉学生生活をスムーズに適應させるための科目ですので、授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組み、よい成績で修得するようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションと自己紹介、大学で使う言葉について	復習 大学で良く使われる語句について復習する。	4時間
第2回	対面	・大学での授業について ・国際学部学び ・学生生活の目標レポートの作成	予習 資料（2026年度大学パンフレット）の指定ページについて、わからない語彙を調べておく。 復習 目標ワークシートの修正（必要に応じて）	4時間
第3回	対面	・校内のシステムについて学ぶ ・学生証と在留カードについて	予習 在留カードがどういうものを調べておく。 復習 実際にラーニングポータル、ユニバーサルパスポート、学修ポートフォリオにアクセスし、その使い方を復習する。	4時間
第4回	対面	・日本の法律・ルール ・新聞を読む①（音読・語彙説明・議論）	予習 事前配布の新聞を読み、わからない語句の確認を行う。 復習 読んだ新聞の説明内容を整理する。	4時間
第5回	対面	・日本語習得の重要性 ・キャンパスツアー	予習 今の日本語学修状況についてのアンケートに回答する。 復習 今後の日本語学修計画を考えてアンケート作成、校内施設の再確認をする。	4時間
第6回	対面	・新聞を読む②（音読・語彙説明） ・「こども天声人語」書き写し① ・情報のトリセツ①	予習 事前配布の新聞を読み、わからない語句の確認を行う。 復習 読んだ新聞の説明内容整理と情報の取り扱いについて復習する。	4時間
第7回	対面	・ノートテイクについて ・「こども天声人語」書き写し② ・情報のトリセツ②	予習 事前配布する「情報のトリセツ」②について、語句などを調べておく。 復習 自分で最適なノートテイク方法を考えておく、情報の取り扱いについて復習する。	4時間
第8回	対面	・学生研究発表大会について ・新聞を読む③（音読・語彙説明）	予習 事前配布の新聞を読み、わからない語句の確認を行う。 復習 読んだ新聞の説明内容を整理する。	4時間
第9回	オンデマンド	学生研究発表大会の見学	予習 学生研究発表大会で見学するセッション、あるいは発表決めておく。 復習 学生研究発表大会の見学感想文をまとめる。	4時間
第10回	対面	・学生研究発表大会振（ふ）返（かえ）り ・コメントシートについて ・「こども天声人語」書き写し③	予習 次回講義の際に感想を聞くので、発言内容を考えておく。 復習 学生研究発表大会での意見交換を振り返り、ノートを作成する。コメントシートの書き方について復習する。	4時間
第11回	対面	・学生力診断を測る ・新聞を読む④（音読・語彙説明）	予習 事前配布の新聞を読み、わからない語句の確認を行う。 復習 読んだ新聞の説明内容を整理する。	4時間
第12回	対面	・各国の年末年始 ・情報のトリセツ④ ・「こども天声人語」書き写し④	予習 自分たちの出身国における年末年始の過ごし方についてまとめておく。 復習 情報の取り扱いについて復習する。	4時間
第13回	対面	・グループワーク&発表「私たちの目標2027」	予習 グループ作業の内容および各自の役割を確認して、準備する。 復習 各グループの発表を聞いて、もう一度自分の目標を考える。	4時間
第14回	対面	・期末試験と復習 ・大学の成績評価	予習 ユニバーサルパスポートで掲示されている試験時間割と試験方法に関するファイルをダウンロードし、それらのファイルを見ておくこと。 復習 授業後に、期末試験や成績評価についての配布資料を読んで復習しておくこと。	4時間

2026/05/01

第15回	対面	まとめと春休みに向けて	予習 秋学期を振り返るので、その準備をしておくこと。 復習 授業のまとめについて振り返り、春学期の目標を改めて考える。	4時間

科目名	基礎演習 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	董 夢		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。			
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第 4 版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875	
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	リフレクションペーパー		
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 夏休みの振り返りと学習タイムスケジュールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習Bは、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4時間
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう/SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Iの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4時間

2026/05/01

		習、新学期のスケジュールの確認。レポートの講評。		

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	池上 寛	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 夏休みの振り返りと学習タイムスケジュール	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間

		ールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習Ⅱは、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。		
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう／SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Ⅰの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認。レポートの講評。	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 夏休みの振り返りと学習タイムスケジュールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間

		がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。		
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう／SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Ⅰの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認。レポートの講評。	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木村 彩音	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 夏休みの振り返りと学習タイムスケジュールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間

		がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。		
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう／SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Ⅰの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認。レポートの講評。	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福田 真也	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 夏休みの振り返りと学習タイムスケジュールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間

		がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。		
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう/SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Ⅰの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認。レポートの講評。	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4時間

科目名	基礎演習 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高砂 謙二		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位	
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。			
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。			
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第 4 版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875	
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	リフレクションペーパー		
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 夏休みの振り返りと学習タイムスケジュールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習Bは、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう/SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4 時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4 時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4 時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4 時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4 時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4 時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4 時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Iの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4 時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4 時間

2026/05/01

		習、新学期のスケジュールの確認。レポートの講評。		

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	三戸 康世	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、	4 時間

		夏休みの振り返りと学習タイムスケジュールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習Ⅱは、学生研究発表大会がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。	要点ノートを作成する。	
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう／SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Ⅰの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認。レポー	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4時間

2026/05/01

		トの講評。		

科目名	基礎演習 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	玉水 玲央		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。			
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。			
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875	
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	リフレクションペーパー		
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 夏休みの振り返りと学習タイムスケジュールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間

		がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。		
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう/SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Ⅰの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認。レポートの講評。	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	尹 恵彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 夏休みの振り返りと学習タイムスケジュールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間

		がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。		
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう／SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Ⅰの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認。レポートの講評。	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4時間

科目名	基礎演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	陸 麗君	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界への関心を持つとともに大学での学びについて知る。		
授業の目的及び概要	この授業は、大学での学修に必要な学修態度や技能等を身につけることを目的とします。授業を通して、自ら学び、行動する主体性と学修技法を身につけさせるとともに、グローバル社会の諸課題への興味を喚起し、大学での学修の動機づけ等を行います。また、大学における良好な人間関係を構築し、他者を理解してコミュニケーションを図る能力の向上、グループワークを通じた協働力とリーダーシップの育成、将来に向けたキャリア意識の形成も図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指します。 ① 高校とは異なる大学という場（自律性）を理解している。 ② 積極的で能動的な学修態度と大学で学修を行うための基礎的な技能を身につけている。 ③ 異なる価値観や文化的背景をもつ他者と協働する大切さを知っている。 ④ 「世界を知る」ことに対する意欲と異文化に対する「気づき」を持っている。 ⑤ 国際キャリアにおける幅の広いキャリア像を持っている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	取り組んだ課題について教員がコメントする等のフィードバックを実施します。作成した課題等は学修ポートフォリオに蓄積し、学修の振り返りに役立てます。		
アクティブ・ラーニング の取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	佐藤望他『アカデミック・スキルズ』（第4版）慶応義塾大学出版（2026 年）	ISBN	9784766430875
参考書	参考書は基礎演習のなかで適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	20	
	その他の内容	リフレクションペーパー	
この科目の受講にあたって	授業での取組に積極的に参加して、課せられた課題に取り組んでください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 夏休みの振り返りと学習タイムスケジュールの作成（学生研究発表大会に向けて） 秋学期の基礎演習 B は、学生研究発表大会	復習 授業中に配布される課題文献を事前に読み、要点ノートを作成する。	4 時間

		がテーマとなる。研究発表の目的（世界への関心と国際共修）とスケジュールについて説明する。		
第2回	対面	研究発表とは（第7章） 前年度の第1位および第2位の発表を紹介し、プレゼンテーションのイメージを持ってもらう／SAさんに発表してもらう等	復習 課題文献の要約を完成させ、提出する。	4時間
第3回	対面	問いを立てる 調査・研究のための問いの立て方に関する説明。研究発表のグループ分け（各クラス4グループ程度）、役割分担の説明。研究発表のトピックを練る。	復習 授業で配布された課題文献を読み、要点ノートを作成する。	4時間
第4回	対面	調べる・議論する① 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	調べる・議論する② 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第6回	対面	調べる・議論する③ 図書館やデータベースを用い、トピックに関する情報を収集する。集めた情報から論点を整理し、主張を作る。発表資料の作成を開始。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第7回	対面	発表する 研究発表の中間報告（教員・SAのもとでグループごとに発表、フィードバックを得る）。	復習 発表資料を完成させ、提出する。	4時間
第8回	対面	クラス内発表会	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第9回	オンデマンド	1年生学年研究発表大会	復習 学生研究発表大会での学びについてミニレポートを提出する。	4時間
第10回	対面	学生研究発表大会の振り返り 専門的に読み解く 課題文献の精読、作成した要点ノートの加筆修正、要約の作成（800字程度）。	復習 授業コメントを作成し、提出する。	4時間
第11回	対面	批判的に読む① クリティカル・リーディングに関する説明、課題文献を題材とする解説。	復習 レポートの下書きを完成させ、提出する。	4時間
第12回	対面	批判的に読む② 課題文献の精読、クリティカル・リーディングの実践。	復習 レポートを完成させ、提出する。	4時間
第13回	対面	レポートの書き方① テーマ型レポートの形式や構成要素の確認。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	レポートの書き方② ペアワークによる相互批評 専門演習Ⅰの概要とクラス選択の方法に関する説明。	復習 授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第15回	対面	1年間の振り返り 秋学期振り返りシートの記入、春休みの学習、新学期のスケジュールの確認。レポートの講評。	復習 授業のまとめについて振り返りを行う。	4時間

科目名	専門演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	青柳 達也	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第3回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第4回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第5回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第6回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4時間
第7回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表10分、質疑5分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4時間
第8回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4時間
第9回	対面	精読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第10回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第11回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第12回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（10分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第13回	対面	レポート作成に向けて（１）	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読	4時間

		教員がレポートの書き方を見本を提示しながら説明する。	から導き出した問いや議論点について整理しておく。	
第14回	対面	レポート作成に向けて（2） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高砂 謙二	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	① 1 からの消費行動，松井剛・西川英彦編，中央経済社，2020 年	ISBN	①978-4502333415
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第3回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第4回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第5回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第6回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4時間
第7回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表10分、質疑5分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4時間
第8回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4時間
第9回	対面	精読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第10回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第11回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第12回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間

		入門書の担当章の発表資料を作り発表（10分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。		
第13回	対面	レポート作成に向けて（1） 教員がレポートの書き方を見本を提示しながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理しておく。	4時間
第14回	対面	レポート作成に向けて（2） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4時間

科目名	専門演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田 真也	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第3回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第4回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第5回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第6回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4時間
第7回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表10分、質疑5分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4時間
第8回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4時間
第9回	対面	精読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第10回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第11回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第12回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（10分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第13回	対面	レポート作成に向けて（１）	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読	4時間

		教員がレポートの書き方を見本を提示しながら説明する。	から導き出した問いや議論点について整理しておく。	
第14回	対面	レポート作成に向けて（2） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習 I A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	今井 健一		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る			
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げ、課題発見能力を涵養する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第3回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第4回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第5回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第6回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4時間
第7回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表10分、質疑5分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4時間
第8回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4時間
第9回	対面	精読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第10回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第11回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第12回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（10分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第13回	対面	レポート作成に向けて（１）	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読	4時間

		教員がレポートの書き方を見本を提示しながら説明する。	から導き出した問いや議論点について整理しておく。	
第14回	対面	レポート作成に向けて（2） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	木村 彩音	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第3回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第4回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第5回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第6回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4時間
第7回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表10分、質疑5分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4時間
第8回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4時間
第9回	対面	精読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第10回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第11回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第12回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（10分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第13回	対面	レポート作成に向けて（１）	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読	4時間

		教員がレポートの書き方を見本を提示しながら説明する。	から導き出した問いや議論点について整理しておく。	
第14回	対面	レポート作成に向けて（2） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	玉水 玲央	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①戦争とは何か——国際政治学の挑戦，多湖淳，中公新書，2020 年	ISBN	①978-4121025746
参考書	①国際関係論，多湖淳，勁草書房，2024 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第3回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第4回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第5回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第6回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4時間
第7回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表10分、質疑5分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4時間
第8回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4時間
第9回	対面	精読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第10回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第11回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第12回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（10分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第13回	対面	レポート作成に向けて（１）	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読	4時間

		教員がレポートの書き方を見本を提示しながら説明する。	から導き出した問いや議論点について整理しておく。	
第14回	対面	レポート作成に向けて（2） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	陸 麗君	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をとおして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①移民と日本社会, 永吉希久子, 中公新書, 2020 年	ISBN	①978-4121025807
参考書	①移民が導く日本の未来, 毛受敏浩, 明石書店, 2020 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	輪読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第3回	対面	輪読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第4回	対面	輪読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第5回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（１） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第6回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（２） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4時間
第7回	対面	クラスでの実践（１） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表10分、質疑5分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4時間
第8回	対面	クラスでの実践（２） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4時間
第9回	対面	精読とは（１） 入門書の１章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第10回	対面	精読とは（２） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第11回	対面	精読とは（３） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第12回	対面	クラスでの実践（３）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（10分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第13回	対面	レポート作成に向けて（１）	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読	4時間

		教員がレポートの書き方を見本を提示しながら説明する。	から導き出した問いや議論点について整理しておく。	
第14回	対面	レポート作成に向けて（2） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習 I A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	三戸 康世		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る			
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げ、課題発見能力を涵養する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
この科目の受講にあたって	その他の内容			
	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	輪読とは（1） 入門書の1章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第3回	対面	輪読とは（2） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第4回	対面	輪読とは（3） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第5回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（1） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第6回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（2） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4時間
第7回	対面	クラスでの実践（1） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表10分、質疑5分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4時間
第8回	対面	クラスでの実践（2） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4時間
第9回	対面	精読とは（1） 入門書の1章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第10回	対面	精読とは（2） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第11回	対面	精読とは（3） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第12回	対面	クラスでの実践（3）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（1	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間

		0分)する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する(10分)。		
第13回	対面	レポート作成に向けて(1) 教員がレポートの書き方を見本を提示しながら説明する。	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点について整理しておく。	4時間
第14回	対面	レポート作成に向けて(2) レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4時間

科目名	専門演習 I A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	姜 若冰	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	この授業は、グローバル社会の諸課題に関する調査・検討を行い、その過程を通じて主体的に行動する態度およびアカデミックスキルを身につけ、協働力とリーダーシップ、創造的思考力の向上を図ることを目的とする。そのため、1 年次に修得した基本的な調査、発表、討論、文章表現等の能力とグローバル社会の諸課題への関心を一層高めながら、個人やグループ等で様々な課題に取り組む。 授業では、教員が履修生とのコミュニケーションを十分に図りながら、社会に対する視野を広げ、課題発見能力を涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業での取組をととして、以下の到達目標の達成を目指す。 ① 積極的な学修姿勢を身につけ、基本的なアカデミックスキルを活用できる。 ② 国際理解・多文化共生志向を深める。 ③ 互いの価値観の相違を尊重したうえで、教員からのガイドを受けて、与えられた課題を協力して完成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては事前にラーニングポータルに提出してもらい、教員・学生から授業のなかでフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ジェンダー視点で学ぶ 女性史, 澤田季江, 機関紙出版, 2021 年	ISBN	①978-4-88900-260-7
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 教員および学生の自己紹介、アイスブレイキング。 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	授業後に、授業で配布した資料を読んで復習しておくこと。	4時間
第2回	対面	輪読とは（1） 入門書の1章を教員が指定し輪読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、輪読のやり方を身に付ける。また、精読との違いについても学ぶ。次週から始まる輪読の実践に向けてグループ分けを行う。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第3回	対面	輪読とは（2） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第4回	対面	輪読とは（3） グループで教員が入門書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第5回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（1） 入門書の該当章の要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を学ぶ。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第6回	対面	要約・発表資料（レジュメ）の作成（2） ひとりひとりが作成した発表資料をピア・レビューする。	ピア・レビューを基に担当章の発表資料の見直しを行い、仕上げる。	4時間
第7回	対面	クラスでの実践（1） 入門書の担当章の発表資料を作り発表する（発表10分、質疑5分）。聞き手は発表のわかりやすさ、改善点を意識しながら発表の内容をノートにまとめ、内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	クラスメイトが提出したレジュメを事前に確認し、疑問点を整理しておく。課題に取り組み、次回授業で報告する。	4時間
第8回	対面	クラスでの実践（2） 前週の発表と議論を基に講評を行い、各グループの発表内容の振り返りを行う。また発表を聞く態度や質問の仕方等、発表方法についても振り返り、改善点をまとめる。	発表資料の修正を行う。また発表の仕方を復習し、練習を行うことで身につける。	4時間
第9回	対面	精読とは（1） 入門書の1章を教員が指定し輪読との違いを説明した上で精読を行う。担当教員が適宜内容を解説しながら、精読のやり方を身に付ける。	教員が教科書の指定した部分を読み、わからない言葉などについては調べておく。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	4時間
第10回	対面	精読とは（2） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第11回	対面	精読とは（3） グループで教員が入門書の指定した部分を精読する。そして課題に取り組み、次回授業で報告を行う。	教員が教科書の指定した部分を読む。そして要約を行う。	4時間
第12回	対面	クラスでの実践（3）・問いや議論点の設定 入門書の担当章の発表資料を作り発表（10分）する。内容に基づく議論点を示しクラスメイトと議論する（10分）。	要約および発表資料（レジュメ）の作成方法を復習し、作成する。	4時間
第13回	対面	レポート作成に向けて（1）	レポートの書き方を復習し、これまで実践した精読	4時間

		教員がレポートの書き方を見本を提示しながら説明する。	から導き出した問いや議論点について整理しておく。	
第14回	対面	レポート作成に向けて（2） レポートの書き方について復習を行い、これまで実践した精読から導き出した問いや議論点をまとめレポート執筆を行う。	レポートの書き方について復習を行い、レポート執筆を始める。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員の指示に従いこれまでの授業の振り返りを行う。授業後に、授業で配布した資料を読んで復習する。	4 時間

科目名	専門演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	青柳 達也	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習 I A」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・ 基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・ グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・ 他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をととして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第 2 回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆ま	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

		での全体の流れを説明)		
第3回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する(担当教員の承認を受けた後に決定)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第4回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める。	4 時間
第5回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第6回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第7回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明(引用や参考文献の示し方、剽窃行為) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第8回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(1) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第9回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(2) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第10回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(3) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第11回	対面	グループ毎の研究発表(クラス内)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第12回	対面	2年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第13回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第14回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	1年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高砂 謙二	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習 I A」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・ 基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・ グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・ 他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をととして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③ 文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。		
テキスト	① 1 からの消費行動，松井剛・西川英彦編，中央経済社，2020 年	ISBN	①978-4502333415
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第2回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第3回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する（担当教員の承認を受けた後に決定）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第4回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める。	4 時間
第5回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第6回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第7回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明（引用や参考文献の示し方、剽窃行為） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第8回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（1） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第9回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（2） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第10回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成（3） ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第11回	対面	グループ毎の研究発表（クラス内）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第12回	対面	2年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第13回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第14回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	1年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習 I B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	今井 健一		配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る			
授業の目的及び概要	「専門演習 I A」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・ 基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・ グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・ 他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③ 文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。		ISBN	なし
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第 2 回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆ま	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

		での全体の流れを説明)		
第3回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する(担当教員の承認を受けた後に決定)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第4回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める。	4 時間
第5回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第6回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第7回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明(引用や参考文献の示し方、剽窃行為) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第8回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(1) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第9回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(2) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第10回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(3) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第11回	対面	グループ毎の研究発表(クラス内)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第12回	対面	2年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第13回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第14回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	1年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福田 真也	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習 I A」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・ 基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・ グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・ 他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をととして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③ 文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第 2 回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆ま	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

		での全体の流れを説明)		
第3回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する(担当教員の承認を受けた後に決定)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第4回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める。	4 時間
第5回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第6回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第7回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明(引用や参考文献の示し方、剽窃行為) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第8回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(1) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第9回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(2) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第10回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(3) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第11回	対面	グループ毎の研究発表(クラス内)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第12回	対面	2年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第13回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第14回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	1年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	陸 麗君	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習 I A」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・ 基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・ グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・ 他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①移民と日本社会，永吉希久子，中公新書，2020 年	ISBN	①978-4121025807
参考書	必要な資料を適宜配布します。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第 2 回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

第3回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する(担当教員の承認を受けた後に決定)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第4回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める。	4 時間
第5回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第6回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第7回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明(引用や参考文献の示し方、剽窃行為) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第8回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(1) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第9回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(2) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第10回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(3) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第11回	対面	グループ毎の研究発表(クラス内)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第12回	対面	2年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第13回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第14回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	1年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	玉水 玲央	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習 I A」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・ 基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・ グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・ 他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をととして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①戦争とは何か——国際政治学の挑戦，多湖淳，中公新書，2020 年	ISBN	①978-4121025746
参考書	①国際関係論，多湖淳，勁草書房，2024 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第 2 回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆ま	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

		での全体の流れを説明)		
第3回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する(担当教員の承認を受けた後に決定)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第4回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める。	4 時間
第5回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第6回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第7回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明(引用や参考文献の示し方、剽窃行為) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第8回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(1) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第9回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(2) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第10回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(3) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第11回	対面	グループ毎の研究発表(クラス内)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第12回	対面	2年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第13回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第14回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	1年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	三戸 康世	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習 I A」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・ 基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・ グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・ 他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をととして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタントや米国 CCE 認定グローバルキャリア開発ファシリテーターの資格を有しており、これまでに海外の法律事務所で翻訳・通訳や国内の民間企業でキャリア教育コーディネーター等の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を	4 時間

		進め方、評価方法などを説明)	次の演習までに纏める。	
第2回	対面	「研究」の全体像を知る(担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆までの全体の流れを説明)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第3回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する(担当教員の承認を受けた後に決定)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第4回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める。	4 時間
第5回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第6回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第7回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明(引用や参考文献の示し方、剽窃行為) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第8回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(1) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第9回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(2) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第10回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(3) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第11回	対面	グループ毎の研究発表(クラス内)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第12回	対面	2年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第13回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第14回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	1年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木村 彩音	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習 I A」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・ 基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・ グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・ 他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③ 文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第 2 回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆ま	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

		での全体の流れを説明)		
第3回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する(担当教員の承認を受けた後に決定)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第4回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める。	4 時間
第5回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第6回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第7回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明(引用や参考文献の示し方、剽窃行為) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第8回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(1) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第9回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(2) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第10回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(3) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4 時間
第11回	対面	グループ毎の研究発表(クラス内)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第12回	対面	2年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4 時間
第13回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4 時間
第14回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	1年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4 時間

科目名	専門演習 I B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	姜 若冰	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル社会の諸課題を多角的な視点から知る		
授業の目的及び概要	「専門演習 I A」に引き続き本演習においても、以下の各項目の獲得および向上を目指す。 ・ 基礎的な調査・発表・討論・文章作成に関する能力 ・ グローバル社会における諸課題に対する興味関心 ・ 他者と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	演習における様々な取組をとおして、以下の目標の達成を目指してほしい。 ① 積極的な学修姿勢を身につけると同時に、基本的なアカデミックスキルを体得する。 ② 国際理解・多文化共生とは何かを理解し、実践できる。 ③文化や価値観の相違を尊重しつつ、演習内での課題を他者と協力して完遂できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	輪読や発表については演習内においてフィードバックをおこなう。 その他、レポートなどの提出課題についてはラーニングポータルなどを利用して適宜フィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ジェンダー視点で学ぶ 女性史, 澤田季江, 機関紙出版, 2021 年	ISBN	①978-4-88900-260-7
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	国際学部 2 年次の学びは「広く知る」がテーマであり、世界に対する興味・関心を高める 1 年次から一歩進んで、世界に対する自身の知識の幅を広げてほしい。そのためにも、学生は「広く知る」ことを意識し、演習内でのテーマ設定を行ってほしい。自身で自身の知識の幅を広げていく積極的姿勢が重要である。なお毎回の出席が単位取得の大前提である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	オリエンテーション（演習の目的や目標、進め方、評価方法などを説明）	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間
第 2 回	対面	「研究」の全体像を知る（担当教員が自身の研究を例として、着想から調査、執筆ま	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4 時間

		での全体の流れを説明)		
第3回	対面	グループ毎に研究のテーマと問いを議論・選定する(担当教員の承認を受けた後に決定)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4時間
第4回	対面	・教員による資料の検索方法についての説明 ・その後、グループ毎に資料の検索と収集を試みる ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集したものを読み進める。	4時間
第5回	対面	・グループ毎に収集した文献について話し合い、研究の問いやテーマを適宜見直す ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4時間
第6回	対面	・グループ毎に収集した文献について更なる話し合いを行い、問いへの答えを模索する ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4時間
第7回	対面	・教員よりプレゼンテーション用のスライド作成に際する諸注意説明(引用や参考文献の示し方、剽窃行為) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4時間
第8回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(1) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4時間
第9回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(2) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4時間
第10回	対面	・グループ毎にスライド資料の作成(3) ・グループ毎に進捗状況を教員に報告し、助言を受ける	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。 収集した文献を読み進める。	4時間
第11回	対面	グループ毎の研究発表(クラス内)	復習として配布した資料を読み直し、質問や意見を次の演習までに纏める。	4時間
第12回	対面	2年生研究発表大会への参加	大会で得た自分の学びについてレポートを作成し、提出する。	4時間
第13回	対面	研究大会の振り返りと来年度の演習選定	配布資料の読み直し	4時間
第14回	対面	レポート課題についての説明	授業で配布した資料を読み復習する。	4時間
第15回	オンデマンド	1年間の学びについて振り返りを行う	授業で配布した資料を読み直し、レポートの準備	4時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 雪斌	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際政治学の理論と現実を学ぶ		
授業の目的及び概要	本演習は国際政治学の観点からさまざまな国際問題を分析し、国際社会の過去、現在と未来について学ぶ。演習の中心的な分析対象はアジア太平洋地域の国際関係だが、それ以外の地域や新領域の国際問題（サイバーセキュリティなど）についても扱う。 国際政治学、とりわけ東アジアの国際関係は私たちの生活に深く関連している。グローバリゼーションが深化している今日では、公的機関や企業の活動だけでなく、我々個人の安全と安心も国際情勢の変動に影響されている。日々起こっている時事問題を知ることが極めて重要だが、情報を手に入れるだけでは国際政治を理解できるわけではない。本演習では、受講者は国際政治学の専門書や論文集を講読し、ディスカッションを重ねることで国際政治に関連する知識を学ぶのと同時に国際政治学の分析手法を習得する。 受講者の理解度と要望に合わせて、内容を調整する可能性がある。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際政治の過去、現在と未来に関する基本的な知識を身につける ・国際政治学の基本的な分析手法を理解し、習得する ・国際社会におけるさまざまな課題の存在を認識し、自分の意見を持つ ・積極的な学修姿勢を身に付け、基本的なアカデミックスキルを応用できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設ける ・Microsoft Teams を活用して受講者と情報共有や個別指導を行う ・必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介する		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本国際政治学会学会誌『国際政治』各号 ・受講者が発表で使用する論文を選択し、クラスメイトと情報共有する ・『国際政治』各号の論文は国際政治学会ホームページからダウンロードできるため、製本されたものを購入する必要がない ・新たな文献を追加する場合は受講者と相談して決定する	ISBN	0454-2215
参考書	中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013）	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・ 普段積極的に国際政治に関連する新聞記事、書籍や論文を読むこと ・ 国際政治学Ⅰ・Ⅱ、国際関係論、対外政策論、政治地理学など関連科目の履修をお勧めします（必須ではありません）。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の概要、目的、教材について説明する。	授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習を行う	4時間
第2回	対面	自己紹介、班分け、発表内容の確認	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表の準備を行う	4時間
第3回	対面	国際政治の理論や分析手法について担当者が説明を行い、クラス全体でディスカッションを行う	・ 授業の内容への復習を行う ・ 発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表の準備を行う	4時間
第4回	対面	国際政治の現状、課題について担当者が説明を行い、クラス全体でディスカッションを行う	・ 授業の内容への復習を行う ・ 発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第5回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第6回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第7回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第8回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第9回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第10回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第11回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第12回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第13回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第14回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の内容への復習を行う ・ 論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括、質疑応答	・ 授業の内容への復習を行う ・ レポートの執筆	4時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伍 躍	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル・ヒストリー(global history)の観点から政治・経済・社会を学修する。		
授業の目的及び概要	これまでの演習・講義・海外体験などの科目で学修した政治・経済・社会に関する知識や理論を、グローバル・ヒストリーの観点から、批判的・検証的な分析・考察をする総合的学修を行うことを目的とする。具体的には以下の2点である。 ①基本資料などの輪読などを通して、3年次学生としての文章解読力・理解力・課題発見力・プレゼン力を磨く。 ②グローバル・ヒストリーの観点から政治・経済・社会に関するテーマを調査・分析を行う。そのうえ、教員や履修生間でディスカッションを行うことで、調査・分析の内容についての理解を深め、学修内容を定着する。		
履修条件・留意点	「やる気」のみ。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①この授業は、「専門演習Ⅰ」に引き続き、秋学期の学生研究発表大会の出場・次年度の卒業研究の完成を目指して、各自の研究テーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。 ②資料の解読・テーマの発見と構想・分析や論証の仕方・資料の扱い方等の基本的なアカデミック・スキルを向上させたうえ、口頭発表にとどまらず、自らの学修成果や思考内容を論理的な文章にまとめる。 ③グループワークを通して、社会人基礎力としてのコミュニケーション能力・協働力とリーダーシップ等のさらなる向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①レポートなど：添削して学生にフィードバックをする。 ②発表・プレゼンテーション：授業中にて講評することをもって学生にフィードバックをする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用。	ISBN	なし
参考書	①大阪大学歴史教育研究会『市民のための世界史』、大阪大学出版会、2018 ②水島司『グローバル・ヒストリー入門』、山川出版社、2010 ③妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』、中央大学出版部、2018	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	読む・考える・まとめる・発表することを求める。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	シラバスを読んで、本演習のねらい・目標・授業方法を確認する。(2時間)	2時間
第2回	対面	アカデミック・スキルの再確認:資料調査・精読について	①指定したテーマに関する資料(図書)を調査する。(2時間) ②精読や読書ノートのポイントを再確認する。(1時間) ③輪読の準備を行う。(2時間)	5時間
第3回	対面	指定図書の輪読(個人・1)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第4回	対面	指定図書の輪読(個人・2)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第5回	対面	指定図書の輪読(個人・3)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第6回	対面	指定図書の輪読(個人・4)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第7回	対面	指定図書の輪読(個人・5)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②グループ輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第8回	対面	グループ輪読のポイントを説明し、グループを結成しスケジュールを決める。	①グループ輪読のポイントを復習する。(2時間) ②グループ輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第9回	対面	指定図書の輪読(グループ・1)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②グループ輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第10回	対面	指定図書の輪読(グループ・2)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②グループ輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第11回	対面	指定図書の輪読(グループ・3)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②グループ輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第12回	対面	指定図書の輪読(グループ・4)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②グループ輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第13回	対面	指定図書の輪読(グループ・5)	①輪読した図書を使って復習をする(2時間) ②グループ輪読の準備を行う。(2時間)	4時間
第14回	対面	指定図書の輪読(グループ・6)	輪読した図書を使って復習をする(2時間) 期末レポートの準備を行う。(3時間)	5時間
第15回	オンデマンド	まとめ	期末レポートの作成を行う。(5時間) *以上の授業計画は輪読の進捗状況などを勘案しながら、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。	5時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本文化および比較文化について学修する。		
授業の目的及び概要	現代はグローバル社会が進んでおり、国境を越えたやり取りが年々増えています。これから日本の職場で活動する人にとっては、日本文化の特徴をより深く理解し、かつ外国人に対して英語で説明することは非常に重要な課題です。この専門演習では、日本文化の特徴について考えます。現在の文化の現象もちろん、近代以前の時代の文化も視野に入れ、より深く考えます。また、国際共修の観点から、他国（または自国）の文化との比較を行います。この演習は主に英語で行われます。教材は、日本文化に関する文献からの文章を精読し、英語でのペアワーク、グループワーク、学生発表等を実施します。この専門演習の学修と実践を通じて、現代の職場に求められている強い「異文化理解力」も築くことを望んでいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の前半では、日本文化・比較文化に関する教材に基づいて個々の履修生が説明を行う。授業の後半では、グループに分かれ、特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげる。 グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間前後に個別にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Japanese Popular Culture in English: Discussions and Critical Thinking, Robert Sheridan et al., 南雲堂, 2024.（通年使用。）	ISBN	9784523179641
参考書	①”The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture”, Roger J. Davis and Osamu Ikeno, Tuttle Publishing 2002 ② “Japan: History and Culture from Classical to Cool”, Nancy J. Stalker, University of California Press, 2018	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	グループワークを中心に授業を進めるので、積極的に授業に参加する学生を歓迎する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	調査方法 資料収集や調査の方法について検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	テーマの検討（1） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	テーマの検討（2） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	テーマの検討（3） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	グループ調査（1） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	グループ調査（2） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	グループ調査（3） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	グループ調査（4） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	グループ調査（5） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	発表・ディスカッション（1） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	発表・ディスカッション（2） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	発表・ディスカッション（3） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間

2026/05/01

			時間程度)。	
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと(2時間程度)。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること(2時間程度)。	4時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金子 治平	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア太平洋地域の経済を中心とする文献を読みこなすようになるとともに、卒業研究課題を決定する		
授業の目的及び概要	専門演習ⅡA・B では、経済事象に関する資料や文献を読み解く能力、表や図から経済事象を理解する能力、データを表や図でわかりやすく表示する能力、データを通して経済事象を考察する能力を身につけることを目的とします。 具体的には、 ・知らない用語を調べながら文献をていねいに読むことによって、経済を中心とする社会事象の理解を深めること ・本や論文を読むことによって、興味を持った事象について深く学び、課題を発見することを通じて、卒業研究のテーマと課題を決定することを行います。 また、必要に応じて、 ・データを表や図でわかりやすく表すことができるようにパソコンの使い方を学ぶこと ・既存のアンケート調査データから、表や図を作成することができることを学ぶこと ・アンケート調査の方法を学ぶこと も目的とします。 とくにデータの扱いやアンケート調査について学びたい学生には、授業時間外に学習を行いますので申し出てください。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の目的に対応して、専門演習ⅡA・B を通した主な目標は、 （１）関心のある経済事象に関する文献を読むことができるようになること であり、必要に応じて （２）関心のある経済事象に関連する既存の統計データやアンケート調査データを使用して、適切な表やグラフを作成し、経済事象を考察することができるようになること （３）関心のある経済事象に関連するアンケート調査を、みずから実施できるようになることも目標とします。 また、 （４）（１）～（３）を通して、卒業研究のテーマを設定し研究を進めることができるようになること です。 とくに専門演習ⅡA では、（１）が主な目標です。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間外に、グループあるいは個別にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定ですが、必要に応じて授業内で指示させていただきます。	ISBN	なし
参考書	必要があれば、授業中に紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・授業には必ず出席してください。 ・やむをえず欠席する場合には、直前でもいいので事前に連絡してください。 ・出席しなかった場合には、次回までに補習を行いますので出席してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の概要を説明します。	授業資料を読んで復習してください。	4 時間
第2回	対面	輪読の発表と、それを元にしたディスカッション（1）	・輪読する文献を繰り返し読んで、メモを取るなど、文献の理解を深めてください。 ・授業内でわからなかった言葉を復習して、定義などをノートに書いてください。	4 時間
第3回	対面	輪読の発表と、それを元にしたディスカッション（2）	・輪読する文献を繰り返し読んで、メモを取るなど、文献の理解を深めてください。 ・授業内でわからなかった言葉を復習して、定義などをノートに書いてください。	4 時間
第4回	対面	輪読の発表と、それを元にしたディスカッション（3）	・輪読する文献を繰り返し読んで、メモを取るなど、文献の理解を深めてください。 ・授業内でわからなかった言葉を復習して、定義などをノートに書いてください。	4 時間
第5回	対面	輪読の発表と、それを元にしたディスカッション（4）	・輪読する文献を繰り返し読んで、メモを取るなど、文献の理解を深めてください。 ・授業内でわからなかった言葉を復習して、定義などをノートに書いてください。	4 時間
第6回	対面	輪読の発表と、それを元にしたディスカッション（5）	・輪読する文献を繰り返し読んで、メモを取るなど、文献の理解を深めてください。 ・授業内でわからなかった言葉を復習して、定義などをノートに書いてください。	4 時間
第7回	対面	輪読の発表と、それを元にしたディスカッション（6）	・輪読する文献を繰り返し読んで、メモを取るなど、文献の理解を深めてください。 ・授業内でわからなかった言葉を復習して、定義などをノートに書いてください。	4 時間
第8回	オンデマンド	卒業研究の課題設定のための文献の探し方・読み方	・講義内容のメモを読み返して理解を深めてください。 ・授業内でわからなかった言葉を復習して、定義などをノートに書いてください。	4 時間
第9回	対面	輪読の発表と、それを元にしたディスカッション（7）	・輪読する文献を繰り返し読んで、メモを取るなど、文献の理解を深めてください。 ・授業内でわからなかった言葉を復習して、定義などをノートに書いてください。	4 時間
第10回	対面	輪読の発表と、それを元にしたディスカッション（8）	・輪読する文献を繰り返し読んで、メモを取るなど、文献の理解を深めてください。 ・授業内でわからなかった言葉を復習して、定義などをノートに書いてください。	4 時間
第11回	対面	卒業研究課題の検討（1）	・新聞、書籍、論文などを読んで、卒業研究課題を何にするかを事前に検討しておいてください。	4 時間
第12回	対面	卒業研究課題の検討（2）	・新聞、書籍、論文などを読んで、卒業研究課題を何にするかを事前に検討しておいてください。	4 時間
第13回	対面	卒業研究課題の検討（3）	・新聞、書籍、論文などを読んで、卒業研究課題を何にするかを事前に検討しておいてください。	4 時間
第14回	対面	卒業研究課題の検討（4）	・新聞、書籍、論文などを読んで、卒業研究課題を何	4 時間

2026/05/01

			にするかを事前に検討しておいてください。	
第15回	対面	総括 授業全体の総括を行います。	卒業研究課題の概要をまとめてください。	4時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	比較と問いから読み解く現代韓国社会・文化		
授業の目的及び概要	本演習では、現代の韓国社会・文化を主な事例として取り上げ、日常の中で「当たり前」と思っている行動や価値観が、どのような文化的・社会的背景によって形づくられているのかを考察する。韓国社会の具体的な事例を通して、文化を比較・相対化する視点を身につけ、「地域研究の方法」を学ぶことを目的とする。 授業では、『現代韓国を知るための 61 章』（明石書店、2024 年）をテキストとして、政治・経済・社会・文化など多様なテーマについて文献を読み、議論を行う。また、自分自身の生活経験や育ってきた国・地域との比較を通して、相互理解の姿勢を養う。 本演習は講義中心ではなく、読む・書く・話すという能動的な学習を重視する。文献読解、小レポート、発表やディスカッションを通して問いを立て、根拠にもとづいて考察し、他者に伝える力を育成する。		
履修条件・留意点	毎回の授業に積極的に参加してください。本演習では、受講生の主体的な学びを重視し、それぞれのテーマに関わる資料を選び、資料を読み、自分の言葉で説明する練習を行います。最初は苦手を感じる場合でも、「練習する」という意識を持って参加することで、徐々に慣れていくことを想定しています。 また、グループワーク、プレゼンテーション、発表、ディスカッションなども行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本演習の履修を通じて、受講生は以下の能力を身につけることを目標とする。 1. 現代韓国社会・文化に関する基礎的な知識を身につけ、具体的な事例をもとに文化や社会現象を説明できる。 2. 自分の日常や育ってきた国・地域の文化と比較しながら、文化を相対化し、問いを立てて考察できる。 3. 文献を適切に読み解き、根拠にもとづいて自分の考えを文章や発表としてまとめ、他者に伝えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループ調査・発表では、教員によるコメントや改善点のアドバイスをを行うだけでなく、グループメンバー同士の相互評価やピアレビューを行います。 個人の調査・発表については、教員が個別にコメントや改善点を提示します。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	石坂浩一・福島みのり『現代韓国を知るための 61 章【第 3 版】』明石書店、2024 年	ISBN	4750357057
参考書	①『リサーチ・クエスションとは何か？』、佐藤郁哉、筑摩書房、2024 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	

	その他の内容	相互評価、ピアレビュー
この科目の受講にあたって	本演習では、資料を能動的に読み取り、その内容を自分の言葉で説明し、考えを言語化する練習を行います。現代韓国社会・文化に関する知識を深めるだけでなく、自分が育った地域や国についても調べ、比較することを大切にします。 また、「文化」とは何か、文化がどのような歴史的・社会的背景のもとで形成されてきたのかを考察することで、異なる文化に対する理解を深めていきます。発表やディスカッションは練習の場と位置づけていますので、積極的に参加しながら学びを深めてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション「これも文化？」自己紹介 授業の目的・進め方・評価方法の説明 テキスト（現代韓国を知るための61章）の紹介 グルーピング：各グループでテーマ（章）選択	【事前学修】 テキストをざっと眺める 『現代韓国を知るための61章』の目次と、気になる章を2～3章拾い読みする。 →「なぜ気になったか」をメモしておく。 身近な「これも文化？」を考える 日常の中で - 当たり前だと思っている行動 - 不思議だと思った経験を1つ挙げ、「なぜそう感じたか」を簡単にメモする。（※ メモは箇条書きでOK） 【事後学修】 振り返り 授業で印象に残った「文化」に関する話題 自分の「当たり前」と違うと感じた点 自分のテーマの種をつくる 日本や自分の育った地域と比べて気になった点を箇条書きで整理する。	2時間
第2回	対面	【講義・活動】自分を育てる【講義・活動】問いの立て方（1） 【ディスカッション】生成AIは“調べる力”を助けるか、奪うか？ 【グループ調査・発表準備】発表順番を決める、問いを立てる	【事前学修】 テキストの中から、グループで扱う予定の章を確認し、内容をざっと読む。 読みながら、「なぜこの章が気になったのか」「どの点が気になったのか」を簡単にメモする。 生成AIの使用経験（使用場面・便利だと感じた点・不安に感じた点）について振り返る。 【事後学修】 授業で扱った「問いを立てること」について振り返り、自分なりに問いを1つ書き出す。 グループで扱う章について、今後深めてみたい視点や疑問点を整理する。 授業でのディスカッションを踏まえ、生成AIの適切な使い方について自分の考えを簡単にまとめる。	4時間
第3回	対面	【グループで要約・発表1】テキストの中から、各グループで関心のある章について発表する。 発表を聞く側は、事前に該当箇所を読み、気になる内容をメモしてくる。 発表後、学生同士のディスカッション・相互評価、教員による講評・補足説明を行う。	【事前学修】 1. 各グループの発表担当章について、該当箇所を読み、内容を把握する。 2. 発表を聞く側は、気になった点や疑問点を簡単にメモする。 3. 発表担当グループは、章の要点や背景を整理し、発表内容を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、新たに得られた気づきや理解を整理する。 2. グループ内で相互評価を行い、発表や資料の改善点を確認する。 3. 教員からの講評を踏まえ、次回以降の発表や調査に向けた課題を明確にする。	4時間

第4回	対面	【グループで要約・発表2】テキストの中から、各グループで関心のある章について発表する 発表を聞く側は、事前に該当箇所を読み、気になる内容をメモしてくる 発表後、学生同士のディスカッション・相互評価、教員による講評・補足説明を行う	【事前学修】 1. 各グループの発表担当章について、該当箇所を読み、内容を把握する。 2. 発表を聞く側は、気になった点や疑問点を簡単にメモする。 3. 発表担当グループは、章の要点や背景を整理し、発表内容を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、新たに得られた気づきや理解を整理する。 2. グループ内で相互評価を行い、発表や資料の改善点を確認する。 3. 教員からの講評を踏まえ、次回以降の発表や調査に向けた課題を明確にする。	4 時間
第5回	対面	【グループで要約・発表3】テキストの中から、各グループで関心のある章について発表する 発表を聞く側は、事前に該当箇所を読み、気になる内容をメモしてくる 発表後、学生同士のディスカッション・相互評価、教員による講評・補足説明を行う	【事前学修】 1. 各グループの発表担当章について、該当箇所を読み、内容を把握する。 2. 発表を聞く側は、気になった点や疑問点を簡単にメモする。 3. 発表担当グループは、章の要点や背景を整理し、発表内容を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、新たに得られた気づきや理解を整理する。 2. グループ内で相互評価を行い、発表や資料の改善点を確認する。 3. 教員からの講評を踏まえ、次回以降の発表や調査に向けた課題を明確にする。	4 時間
第6回	対面	【グループで要約・発表4】テキストの中から、各グループで関心のある章について発表する 発表を聞く側は、事前に該当箇所を読み、気になる内容をメモしてくる 発表後、学生同士のディスカッション・相互評価、教員による講評・補足説明を行う	【事前学修】 1. 各グループの発表担当章について、該当箇所を読み、内容を把握する。 2. 発表を聞く側は、気になった点や疑問点を簡単にメモする。 3. 発表担当グループは、章の要点や背景を整理し、発表内容を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、新たに得られた気づきや理解を整理する。 2. グループ内で相互評価を行い、発表や資料の改善点を確認する。 3. 教員からの講評を踏まえ、次回以降の発表や調査に向けた課題を明確にする。	4 時間
第7回	対面	【個人調査・発表に向けて】各自が関心のあるテーマを選ぶ。 発表の順番を決める。 【講義・活動】 問いの立て方（2） 調べ方 まとめ方	【事前学修】 1. テキストの中から、個人発表で扱いたい関心のある章を選び、該当箇所を読む。 2. なぜそのテーマに関心を持ったのか、どの点を深めたいのかを簡単に整理する。 3. これまでのグループ発表を振り返り、自分が「もっと知りたい」と感じた視点を確認する。 【事後学修】 1. 授業で扱った「問いの立て方」「調べ方」「まとめ方」を踏まえ、個人発表に向けた問いを1つ設定する。 2. 発表で扱う内容の構成（何を説明し、何を比較・考察するか）を簡単に整理する。 3. 次回以降の個人発表に向けて、必要な資料や調査項目を洗い出す。	4 時間

第8回	対面	【個人調査・発表1】各自が関心のあるテーマの章を選び、内容を整理して個人発表を行う。 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問・コメントを行う。 発表後、ディスカッションを通して理解を深め、教員が講評・補足説明を行う。	【事前学修】 1. 発表担当者は、発表予定の章や関連資料を読み、内容の要点と背景を整理する。 2. 発表担当者は、自身の問いにもとづき、発表の構成や説明の流れをまとめる。 3. 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問やコメントを準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の考察や問いを見直す。 3. 必要に応じて、発表内容を修正・発展させ、最終レポート等に活かす。	4 時間
第9回	対面	【個人調査・発表2】各自が関心のあるテーマの章を選び、内容を整理して個人発表を行う。 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問・コメントを行う。 発表後、ディスカッションを通して理解を深め、教員が講評・補足説明を行う。	【事前学修】 1. 発表担当者は、発表予定の章や関連資料を読み、内容の要点と背景を整理する。 2. 発表担当者は、自身の問いにもとづき、発表の構成や説明の流れをまとめる。 3. 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問やコメントを準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の考察や問いを見直す。 3. 必要に応じて、発表内容を修正・発展させ、最終レポート等に活かす。	4 時間
第10回	対面	【個人調査・発表3】各自が関心のあるテーマの章を選び、内容を整理して個人発表を行う。 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問・コメントを行う。 発表後、ディスカッションを通して理解を深め、教員が講評・補足説明を行う。	【事前学修】 1. 発表担当者は、発表予定の章や関連資料を読み、内容の要点と背景を整理する。 2. 発表担当者は、自身の問いにもとづき、発表の構成や説明の流れをまとめる。 3. 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問やコメントを準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の考察や問いを見直す。 3. 必要に応じて、発表内容を修正・発展させ、最終レポート等に活かす。	4 時間
第11回	対面	【個人調査・発表4】各自が関心のあるテーマの章を選び、内容を整理して個人発表を行う。 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問・コメントを行う。 発表後、ディスカッションを通して理解を深め、教員が講評・補足説明を行う。	【事前学修】 1. 発表担当者は、発表予定の章や関連資料を読み、内容の要点と背景を整理する。 2. 発表担当者は、自身の問いにもとづき、発表の構成や説明の流れをまとめる。 3. 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問やコメントを準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の考察や問いを見直す。 3. 必要に応じて、発表内容を修正・発展させ、最終レポート等に活かす。	4 時間
第12回	対面	【個人調査・発表5】各自が関心のあるテ	【事前学修】	4 時間

		ーマの章を選び、内容を整理して個人発表を行う。 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問・コメントを行う。 発表後、ディスカッションを通して理解を深め、教員が講評・補足説明を行う。	1. 発表担当者は、発表予定の章や関連資料を読み、内容の要点と背景を整理する。 2. 発表担当者は、自身の問いにもとづき、発表の構成や説明の流れをまとめる。 3. 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問やコメントを準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の考察や問いを見直す。 3. 必要に応じて、発表内容を修正・発展させ、最終レポート等に活かす。	
第13回	対面	【個人調査・発表6】各自が関心のあるテーマの章を選び、内容を整理して個人発表を行う。 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問・コメントを行う。 発表後、ディスカッションを通して理解を深め、教員が講評・補足説明を行う。	【事前学修】 1. 発表担当者は、発表予定の章や関連資料を読み、内容の要点と背景を整理する。 2. 発表担当者は、自身の問いにもとづき、発表の構成や説明の流れをまとめる。 3. 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問やコメントを準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の考察や問いを見直す。 3. 必要に応じて、発表内容を修正・発展させ、最終レポート等に活かす。	4 時間
第14回	対面	【個人調査・発表7】各自が関心のあるテーマの章を選び、内容を整理して個人発表を行う。 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問・コメントを行う。 発表後、ディスカッションを通して理解を深め、教員が講評・補足説明を行う。	【事前学修】 1. 発表担当者は、発表予定の章や関連資料を読み、内容の要点と背景を整理する。 2. 発表担当者は、自身の問いにもとづき、発表の構成や説明の流れをまとめる。 3. 発表を聞く側は、指定された章や資料を事前に読み、質問やコメントを準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の考察や問いを見直す。 3. 必要に応じて、発表内容を修正・発展させ、最終レポート等に活かす。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ：問いから考察へ春学期の振り返り 問いの立て方、資料の読み方、比較・考察の方法の整理 個人発表で扱ったテーマをもとにしたレポート課題の説明 生成 AI の活用に関する留意点の確認	【事前学修】 1. これまでの個人発表の内容や配布資料を振り返り、自身の問いと主張を整理する。 2. レポートで扱うテーマと構成（問い・背景・考察の方向性）を簡単にまとめる。 【事後学修】 1. オンデマンド講義を視聴し、専門演習 II で学んだ内容を振り返る。 2. 個人発表で扱ったテーマをもとに、レポート課題を作成・提出する。	6 時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	異文化理解・国際関係学・国際文化学並びに国際社会学に関する知識や理論からグローバリゼーションと文化について考察する		
授業の目的及び概要	この授業では、異文化理解・国際関係学・国際文化学をてがかりに、移民・アイデンティティ・格差等の分析方法並びに知識を修得すると同時に、社会学の手法を用いて、調査・研究に取り組む。また、各自のテーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づきテーマを設定し、発表やディスカッションを通じたアウトプット力・論理的思考力を強化する。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につける。		
履修条件・留意点	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。「演習科目」は、1 年次に「基礎演習 A」、「基礎演習 B」、2 年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3 年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4 年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行い、最終的に卒業論文を執筆します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論をグローバリゼーションと文化に対して応用し、分析・考察を行うことができる。 自身の研究テーマの先行研究を整理し、説明することができる。 他者の研究テーマと発表について、自身の意見を伝える共に他者の研究テーマについて議論することができる。 自身の研究テーマについて、3000 字の調査レポートを執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループでの調査については、その方法論と調査方法について、適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックをおこなう。また発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①書名：'The Sociology Book: Big Ideas Simply Explained'、著者：Sarah Tomley and Mitchell Hobs、出版社：DK、出版年：2015 ②書名：『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』、著者：岸政彦ほか、出版社：有斐閣、出版年：2016 ③書名：『リキッド化する世界の文化論』、著者：ジグムント・バウマン、訳伊藤茂、出版社：青土社、出版年：2014	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	30
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際関係学、国際文化学、世界の文化的な事象に感心のある学生さんの履修を歓迎します。授業では専門書を読みながら、国際関係や世界の見方、文化について考えていきます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション： 授業の目的・意義・方法・評価について 世界/国際関係/国際文化について考える ① ・指定された章の解説 ・ディスカッション	指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間2時間） TOEIC, SPI 学修（2時間）	4時間
第2回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える ② ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC, SPI 学修（2時間）	4時間
第3回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える ③ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC, SPI 学修（2時間）	4時間
第4回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える ④ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC, SPI 学修をおこなう。（2時間）	4時間
第5回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える ⑤ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC, SPI 学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第6回	対面	質的・量的調査とは①： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC, SPI 学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第7回	対面	質的・量的調査とは②： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC, SPI 学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第8回	対面	社会調査及び自身の研究①： 社会調査及び自身の研究発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC, SPI 学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間

第9回	対面	社会調査及び自身の研究②： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、社会調査及び発表に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第10回	対面	社会調査及び自身の研究③： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 報告に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第11回	対面	社会調査及び自身の研究④： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 報告に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第12回	対面	グローバリゼーションと文化に関する考察①	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。(所要時間 2 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第13回	対面	グローバリゼーションと文化に関する考察②	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。(所要時間 2 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第14回	対面	グローバリゼーションと文化に関する考察③	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。(所要時間 2 時間) TOEIC, SPI 学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第15回	オンデマンド	グローバリゼーションと文化に関する考察④ 春学期総括	3000 字の卒業レポート（未完成でもよい）を提出する。	4 時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中西 亮太	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語そのものを研究対象として扱う言語学を概観し、言語現象をさまざまな分野・観点から分析する。		
授業の目的及び概要	この授業では、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表に至るまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択する。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題の発見能力や解決能力等を身につけさせることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した言語や文化に関する知識を具体的な言語現状に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 卒業研究に向けては学生一人ひとりが興味や関心に応じて設定したテーマについて調査・研究を進め、内容をレポートや発表としてまとめる力を養う。また、グループディスカッション等のグループでの取り組みを通して、主体性や協働性、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	卒業研究については、理論や分析・考察方法に対して適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。また、発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する形でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業で講読および参照する論文等の文献情報については適宜配布および共有します。	ISBN	授業で講読および参照する論文等の文献情報については適宜配布および共有します。
参考書	The Study of Language、George Yule、Cambridge University Press、2020 年	ISBN	9781108730709
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	卒業研究報告レポート 30%	
この科目の受講にあたって	世界中の様々な言語そのものや言語にまつわる現象に関心がある学生を歓迎します。授業では論文や専門書などの精読を通して、研究対象としての言語の捉え方や研究方法などについて考えていきます。学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分ならではの「答え」を探していくことを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方などの概要を説明する。	事前にシラバスを読み、特に授業のテーマや到達目標を理解しておく。演習後は配布する資料を概観し、自分の関心があるテーマについて考えておく。	4時間
第2回	対面	言語そのものを対象とする研究について①	事前学習として、配布する資料を熟読しておく。演習後は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4時間
第3回	対面	言語そのものを対象とする研究について②	事前学習として、配布する資料を熟読しておく。演習後は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4時間
第4回	対面	言語そのものを対象とする研究について③	事前学習として、配布する資料を熟読しておく。演習後は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4時間
第5回	対面	担当文献の発表① 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4時間
第6回	対面	担当文献の発表② 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4時間
第7回	対面	担当文献の発表③ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4時間
第8回	対面	担当文献の発表④ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4時間
第9回	対面	担当文献の発表⑤ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4時間
第10回	対面	担当文献の発表⑥ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4時間
第11回	対面	担当文献の発表⑦ 言語を対象とした研究の分野・手法に関する文献の精読・発表を履修生が行い、全体で共有・検討を行う。	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は発表に備えて事前に他の履修生と協働して内容をまとめておく。事後学修として、課題文献および発表担当者の発表の振り返りを行う。	4時間
第12回	対面	先行研究の探し方・まとめ方①	事前学習として、先行研究を探し読み込んでおく。事後学修として、読み込んだ先行研究を考察を踏まえてまとめておく。	4時間
第13回	対面	卒業研究に向けたテーマ選択・考察 担当教員による言語学に関する概説を踏まえて、履修生自身が卒業研究に向けたテーマを設定する。	事前学習として、第13回までに授業で扱った言語に関する分野・手法を復習しておく。 事後学修として、履修生自身が興味・関心を持ったテーマを設定し、適切な分野・手法の視点から分析・考察する。	4時間
第14回	対面	先行研究の探し方・まとめ方②	事前学習として、先行研究を探し読み込んでおく。事後学修として、読み込んだ先行研究を考察を踏まえてまとめておく。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括(どのような言語現象が存在し、どのような分野・手法での分析・考察が可能か)を行う。	第15回までに扱った研究分野・手法全体を振り返り、具体的な言語現象と合わせて考察を進めておく。 事後学修として、履修生独自の分析・考察をまとめ、3000字程度のレポートとして提出する。	4時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	陸 麗君	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化時代における在留外国人と地域社会の多文化共生を考える		
授業の目的及び概要	本演習では、社会学および国際社会学の視点から、移民問題、都市問題、地域社会が抱える諸課題を取り上げる。グローバル化の進展により、人々の国境を越えた移動は日常的な現象となり、移民と受け入れ社会（ホスト社会）との関係性は、現代社会を理解するうえで重要な研究対象となっている。とくに近年、日本における在留外国人の居住や起業が、地域社会や都市の構造、人々の日常生活に及ぼす影響に注目が集まっている。 本演習では、こうした問題について理論と具体的事例の両面から理解を深めるとともに、各自の関心に基づいた研究テーマを設定し、卒業研究を見据えた研究計画の立案や調査方法、資料収集の基礎を段階的に学修する。前期は関連分野の文献を輪読し、文献の読み方やレジュメ作成、プレゼンテーションの基礎的技能を身につける。その上で卒業研究課題の検討を行う。		
履修条件・留意点	・本演習では、主体性やチームワーク、リーダーシップが求められる。 ・自ら行動する積極性や協働性を持ち、議論に主体的に参加する姿勢が必要である。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・これまでに学修した異文化理解・多文化共生・国際社会学に関する知識や理論を、グローバル化と地域社会の問題に応用し、社会現象を分析・考察する力を身につける。 ・各自の研究テーマを設定し、資料の収集・分析、研究成果の発表に至るまでの一連の研究プロセスを学ぶことで、基本的なアカデミックスキルを身につける。 ・自らの関心に基づいて卒業研究のテーマを決定し、社会学的な知識や方法を用いた調査・分析を行い、調査レポートを執筆できるようになる。 ・都市・地域や多文化共生に関する課題について理解を深め、問題解決に向けて社会に働きかける姿勢を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業中または授業終了後に、質疑応答の時間を設ける。 ・発表・プレゼンテーションについては、授業中に講評を行うことで学生へのフィードバックとする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用	ISBN	なし
参考書	① 移民と日本社会, 永吉希久子著, 中央公論新社, 2020 年 ② 多文化共生の実験室—大阪から考える, 高谷幸編著, 青弓社, 2022 年 ③ 「移民時代」の多文化共生論, 松尾知明著, 明石書店, 2020 年 そのほか、必要に応じて授業中に指示する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	

	その他 (%)	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	授業計画は、輪読の進捗状況等を踏まえ、オンデマンド授業の実施時期を含めて適宜微調整を行う場合がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の概要、目的、課題文献について説明する。	授業内で指示された輪読の文献（課題文献）を読み、関心のあるテーマを見つけておく。	4 時間
第2回	対面	自己紹介、グループ分け、各自の発表内容と発表順番を決める。 社会学・国際社会学の視点からの研究に向けて①	授業の概要と課題文献を確認し、予習、復習を行う。 課題文献を読み、発表とディスカッションの準備を行う。	4 時間
第3回	対面	社会学・国際社会学の視点からの研究に向けて②	予習として指定した課題文献を読む。演習後は配付レジュメを復習する。 課題文献を読み、発表とディスカッションの準備を行う。	4 時間
第4回	対面	社会学・国際社会学の視点からの研究に向けて③	予習として指定した課題文献を読む。演習後は配付レジュメを復習する。 発表担当者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめ、ディスカッションの準備をしておく。	4 時間
第5回	対面	輪読の論文についての発表とそれに基づくディスカッション①	予習として指定した課題文献を読む。 発表担当者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめ、ディスカッションの準備をしておく。 復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第6回	対面	輪読の論文についての発表とそれに基づくディスカッション②	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめ、ディスカッションの準備をしておく。 復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第7回	対面	輪読の論文についての発表とそれに基づくディスカッション③	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめ、ディスカッションの準備をしておく。 復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第8回	対面	輪読の論文についての発表とそれに基づくディスカッション④	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめ、ディスカッションの準備をしておく。 復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第9回	対面	輪読の論文についての発表とそれに基づくディスカッション⑤	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめ、ディスカッションの準備をしておく。 復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。	4 時間
第10回	対面	輪読の論文についての発表とそれに基づくディスカッション⑥	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめ、ディスカッションの準備をしておく。 復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。 自身の研究と課題を検討しておく。	4 時間

第11回	対面	輪読の論文についての発表とそれに基づくディスカッション⑦	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめ、ディスカッションの準備をしておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。 自身の研究と課題を検討しておく。	4時間
第12回	対面	輪読の論文についての発表とそれに基づくディスカッション⑧	授業内で指示する課題文献を読み、発表担当者は授業内での発表に備え、他の学生は質問や分からないところをまとめ、ディスカッションの準備をしておく。復習として、課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。 自身の研究と課題を検討しておく。	4時間
第13回	対面	卒業研究課題の検討①	授業内で指示する課題文献を読む。 課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。 自身の研究と課題を検討しておく。	4時間
第14回	対面	卒業研究課題の検討②	授業内で指示する課題文献を読む。 課題文献および発表者の報告資料の振り返りを行う。 自身の研究と課題を検討しておく。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体のまとめ、質疑応答	これまでの課題文献および報告資料の振り返りを行う。 自身の研究と課題を引き続き検討しておく。 課題レポートを提出する。	4時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	青柳 達也	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英米文化研究：ポピュラーカルチャーの歴史と表象の分析		
授業の目的及び概要	本授業では、英米のポピュラーカルチャーをテーマに、映画・ファッション・音楽・演劇・アートなど多様な領域を横断的に学び、1970 年代から現代にいたる社会・歴史的背景と文化現象との相互関係を理解することを目指す。履修生は各自の関心に基づきテーマを選択し、資料調査、分析、発表に至るまでの一連のプロセスを経験する。また、グループワークやディスカッションを通して、コミュニケーション能力、協働力、リーダーシップ、課題発見能力など、研究活動に必要な基礎的スキルを育成する。 本授業の目的は、英米ポピュラーカルチャーを多角的に理解し、その歴史的・社会的文脈に基づいて批判的に読み解く力を養うことである。文化理論や表象分析の視点をを用いながら、ポピュラーカルチャーがどのように形成され発展してきたのかを考察し、英米文化を理解するうえで不可欠なカルチュラル・リテラシーの基盤を築く。また、資料の精読・分析、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどの学習活動を通じて、文化と社会の相互作用を探究し、現代社会の動向を読み解く視点を育成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・英米のポピュラーカルチャーに関する基礎的知識を理解し、主要な文化現象とその背景を説明できる。 ・映画・音楽・ファッション・演劇・アートなど、多様な文化資料を歴史的・社会的文脈と関連づけて分析できる。 ・カルチュラル・リテラシーを高め、文化現象を批判的かつ多角的に捉える視点を身につける。 ・リサーチに基づく考察を行い、口頭および文書で自分の意見を論理的にまとめて発表できる。 ・グループワークやディスカッションを通じて協働的に学び、他者の意見を尊重しながら議論を深めることができる。 ・英米文化を題材に、文化と社会の相互作用を理解し、現代社会を広い視野から読み解く力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	理論的内容や分析・考察方法に対して、適切なコメントやアドバイスを提示し、理解の深化を促すフィードバックを行う。 発表やレポートに対しては、内容に応じた講評を行うとともに、改善点や次回に向けた具体的なアドバイスを提示する。 必要に応じて、個別相談や授業内での短いコメントを通じて、学修状況を把握しながら継続的に支援する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定テキストは使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。	ISBN	なし
参考書	指定テキストは使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	研究報告レポート
この科目の受講にあたって	何事にも興味をもち、自分の視点で作品や出来事を考え、積極的に発言しながら学びを深めていきましょう。皆さんの発見や意見が、演習をより豊かな時間してくれます。ともに楽しく探究していきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション：英米ポピュラーカルチャーとは何か 授業の進め方、テーマ設定、評価方法を確認し、ポピュラーカルチャー研究の基本的視点を紹介する。	事前学習は、シラバスを読み、特に授業のテーマや到達目標を理解しておく。事後学習は配布する資料を概観し、自分の関心があるテーマについて考えておく。	4時間
第2回	対面	1970年代：社会変動とカウンターカルチャーの展開政治・経済状況、パンク、映画・アートの潮流など、70年代文化の特徴を整理する。	事前学習は、配布する資料を熟読しておく。 事後学習は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4時間
第3回	対面	1980年代：消費文化、メディア革命とポップアイコンの登場 MTV 世代の誕生、映画産業の変化、ファッションの商業化などを分析する。	事前学習は、配布する資料を熟読しておく。 事後学習は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4時間
第4回	対面	1990年代：多文化主義・グローバリゼーションと文化の多様化カルチャーの分岐、インディ文化、社会的課題の可視化（ジェンダー・人種）を扱う。	事前学習は、配布する資料を熟読しておく。 事後学習は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4時間
第5回	対面	2000年代：デジタル化と新たな文化表象インターネット普及、映画・音楽の流通変化、ストリート文化の再編などを検討する。	事前学習は、配布する資料を熟読しておく。 事後学習は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4時間
第6回	対面	2010年代：SNS時代の文化生産と社会運動の可視化 SNS 文化、ミーム、ブラックライブズマターなどの社会運動と文化の関係を考える。	事前学習は、配布する資料を熟読しておく。 事後学習は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4時間
第7回	対面	調査テーマの決定・グループ編成・リサーチ方法の確認年代別やジャンル別（映画・音楽・アート等）などで、発表テーマを設定する。	事前学習は、配布する資料を熟読しておく。 事後学習は、扱った内容を自分なりにまとめる事後学修に取り組む。	4時間
第8回	対面	資料収集・分析ワークショップ①各グループで調査方針を確認し、資料を持ち寄って議論する。	事前学習は、テーマに関連する資料を各自で数点収集し、要点を簡潔に整理しておく。 事後学習は、授業での議論をふまえ、資料の追加調査や分析メモの整理を行い、次回に備える。	4時間
第9回	対面	資料収集・分析ワークショップ②得られた情報を整理し、分析の視点（社会背景・文化的意味）を深める。	事前学習は、テーマに関連する資料を各自で数点収集し、要点を簡潔に整理しておく。 事後学習は、授業での議論をふまえ、資料の追加調査や分析メモの整理を行い、次回に備える。	4時間
第10回	対面	中間共有会①（各グループ）調査の途中経過を口頭で共有し、教員・他グループからフィードバックを受ける。	事前学習は、これまでの調査内容を整理し、共有するポイント（仮説・資料・課題）をまとめておく。 事後学習、受けたフィードバックをもとに、追加調査や分析の修正を行い、発表内容を具体化する。	4時間
第11回	対面	中間共有会②（続き）分析の方向性や構成の改善点を確認する。	事前学習は、これまでの調査内容を整理し、共有するポイント（仮説・資料・課題）をまとめておく。 事後学習、受けたフィードバックをもとに、追加調査や分析の修正を行い、発表内容を具体化する。	4時間

第12回	対面	最終発表準備ワークショップ：構成・スライド作成①論点整理、発表構成、リハーサル、教員からの個別アドバイス。	事前学習は、発表内容の論点を整理し、必要な資料やデータをそろえておく。 事後学習は、教員・グループ内でのアドバイスをふまえて構成を修正し、スライドや発表原稿を仕上げていく。	4時間
第13回	対面	最終発表準備ワークショップ：構成・スライド作成②論点整理、発表構成、リハーサル、教員からの個別アドバイス。	事前学習は、発表内容の論点を整理し、必要な資料やデータをそろえておく。 事後学習は、教員・グループ内でのアドバイスをふまえて構成を修正し、スライドや発表原稿を仕上げていく。	4時間
第14回	対面	最終発表会グループによる発表（前半）。 質疑応答と講評。	事前学習は、発表内容・スライド・発表原稿を最終確認し、グループ内で簡単なリハーサルを行っておく。 事後学習は、質疑応答や講評の内容を整理し、必要に応じて分析の修正や追加調査を行う。	4時間
第15回	対面	総括・振り返り授業を通して得られた視点を整理し、現代社会の理解にどう生かすか考える。 専門演習 IIB に向けての目標や課題を検討する。	事前学習は、これまでの授業ノートや発表内容を見直し、印象に残った学びや気づきを整理しておく。 事後学習は、授業での振り返りをふまえ、得た視点をどのように今後の学習や日常に生かせるかを簡単にまとめる。	4時間

科目名	専門演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	池上 寛	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きている諸問題を考える		
授業の目的及び概要	この演習では、受講生それぞれが世界で起きている諸問題を考え、そして学修を通じて 2 年間にわたる研究を進めたいと思います。受講生には積極的な参加とともに、発言をしてもらいます。 4 月は皆さんにどのような卒業研究を考えているかを発表し、現時点での卒業研究についての考えを明らかにしてもらいます。それを踏まえて、5 月からは関連する書籍や論文を輪読し、専門書（専門の論文）を読むスキルを身に付けてもらいます。また、輪読に際しては、受講生からのリクエストにも応えます。輪読では、事前に報告者を決めて、担当する章（論文）についてまとめて報告し、発表スキルを学びます。 その報告に基づいて、受講生全員でその内容について疑問点を出し、議論をすることでそのスキルの向上を目指します。また、春学期はゼミの前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事を配布し、それについて担当者を決めて翌週発表してもらいます。そして教員から解説をします。 夏休みには最低 1 冊の本を読んでもらい、秋学期には報告してもらいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	世界で起きている諸問題に関する基本的な文献を読み、議論を通じて、卒業研究のテーマの絞り込みを行います。また、ゼミを通じて、世界に対する興味を持ってもらい、自分が何に興味を持っているかを知ってもらう機会としてもらいます。そのために、事前に指定された文献を読み、担当者はレジュメを準備してください。ゼミでは積極的な参加を通じて発言、議論をすることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内、あるいは授業時間外に、フィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	参加学生の卒業研究で執筆を考えている内容を踏まえて、必要な文献を指示する。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 授業には必ず出席し、無断欠席がないようにしてください ・ 何らかの事情で欠席する場合にはできるだけ事前に連絡してください。		

- ・ゼミでは積極的に、恥ずかしがらずに発言をしてください。
- ・わからないことがあれば、ゼミ以外の時間でも聞いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクションおよびガイダンス 担当者および受講者による自己紹介、演習の進め方などについて話をする 世界で起きた出来事に関する新聞記事の配布、発表者などについても決める	どのような卒業研究に取り組みたいかを考え、発表の準備をする 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み必要なことを調べておく	4 時間
第2回	対面	取り組みたい卒業研究についての発表（1） 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	（発表した学生）卒業研究のために読むべき論文、書籍を調べておく （まだ発表していない学生）どのような卒業研究に取り組みたいかを考え、発表の準備をする 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第3回	対面	取り組みたい卒業研究についての発表（2） 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	（発表した学生）卒業研究のために読むべき論文、書籍を調べておく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと 配布された論文を読み、担当者はレジュメの準備をしておくこと	4 時間
第4回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第5回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第6回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第7回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第8回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間

第9回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第10回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第11回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第12回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第13回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第14回	対面	世界で起きている諸問題に関する書籍・論文の輪読 前週に世界で起きた出来事に関する新聞記事の内容発表・解説・議論	担当者は文献を読んでレジュメの準備をし、それ以外の学生は文献を読み、疑問点などを調べおく 配布された新聞記事に関して担当者はレジュメを準備し、担当者以外はその記事を読み、疑問点などを調べておく また発表された内容について復習を行うこと	4 時間
第15回	オンデマンド	春学期の演習を振り返るとともに、夏休みの課題、秋学期の演習について指示を行う。	夏休みに卒業研究で取り上げる内容に関して最低 1 冊の本を読んでまとめ、秋学期に発表に備える 夏休み期間中に取り上げる卒業研究のテーマに関する文献調査を実施すること	4 時間

科目名	専門演習ⅡB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	国際政治学の理論と現実を学ぶ			
授業の目的及び概要	本演習は国際政治学の観点からさまざまな国際問題を分析し、国際社会の過去、現在と未来について学ぶ。演習の中心的な分析対象はアジア太平洋地域の国際関係だが、それ以外の地域や新領域の国際問題（サイバーセキュリティなど）についても扱う。 国際政治学、とりわけ東アジアの国際関係は私たちの生活に深く関連している。グローバリゼーションが深化している今日では、公的機関や企業の活動だけでなく、我々個人の安全と安心も国際情勢の変動に影響されている。日々起こっている時事問題を知ることが極めて重要だが、情報を手に入れるだけでは国際政治を理解できるわけではない。本演習では、受講者は国際政治学の専門書や論文集を講読し、ディスカッションを重ねることで国際政治に関連する知識を学ぶのと同時に国際政治学の分析手法を習得する。 受講者の理解度と要望に合わせて、内容を調整する可能性がある。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	・ 国際政治の過去、現在と未来に関する基本的な知識を身につける ・ 国際政治学の基本的な分析手法を理解し、習得する ・ 国際社会におけるさまざまな課題の存在を認識し、自分の意見を持つ ・ 積極的な学修姿勢を身に付け、基本的なアカデミックスキルを応用できる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	・ 授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設ける ・ Microsoft Teams を活用して受講者と情報共有や個別指導を行う ・ 必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介する			
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	日本国際政治学会学会誌『国際政治』各号 ・ 受講者が発表で使用する論文を選択し、クラスメイトと情報共有する ・ 新たな文献を追加する場合は受講者と相談して決定する	ISBN	0454-2215	
参考書	中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013）	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	40		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	0		
	その他の内容	0		
この科目の受講にあたって	・ 普段積極的に国際政治に関連する新聞記事、書籍や論文を読むこと ・ 国際政治学Ⅰ・Ⅱ、国際関係論、対外政策論、政治地理学など関連科目の履修をお勧めします			

す（必須ではありません）。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の概要、目的、教材について説明する。	授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、 予習を行う	4時間
第2回	対面	自己紹介、班分け、発表内容の確認	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、 予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う	4時間
第3回	対面	国際政治の理論や分析手法について担当者が説明を行い、クラス全体でディスカッションを行う	・授業の内容への復習を行う ・発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う	4時間
第4回	対面	国際政治の現状、課題について担当者が説明を行い、クラス全体でディスカッションを行う	・授業の内容への復習を行う ・発表の日程を確定し、自らの興味関心に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第5回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第6回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第7回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第8回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第9回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第10回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第11回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第12回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第13回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第14回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の内容への復習を行う ・論文の内容を読み、発表とディスカッションの準備を行う	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括	・授業の内容への復習を行う ・レポートの執筆	4時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伍 躍	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル・ヒストリー(global history)の観点から政治・経済・社会を学修する。		
授業の目的及び概要	これまでの演習・講義・海外体験などの科目で学修した政治・経済・社会に関する知識や理論を、グローバル・ヒストリーの観点から、批判的・検証的な分析・考察をする総合的学修を行うことを目的とする。具体的には以下の2点である。 ①基本資料などの輪読などを通して、3年次学生としての文章解読力・理解力・課題発見力・プレゼン力を磨く。 ②グローバル・ヒストリーの観点から政治・経済・社会に関するテーマを調査・分析を行う。そのうえ、教員や履修生間でディスカッションを行うことで、調査・分析の内容についての理解を深め、学修内容を定着する。		
履修条件・留意点	「やる気」のみ。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①この授業は、「専門演習Ⅰ」に引き続き、秋学期の学生研究発表大会の出場・次年度の卒業研究の完成を目指して、各自の研究テーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。 ②資料の解読・テーマの発見と構想・分析や論証の仕方・資料の扱い方等の基本的なアカデミック・スキルを向上させたうえ、口頭発表にとどまらず、自らの学修成果や思考内容を論理的な文章にまとめる。 ③グループワークを通して、社会人基礎力としてのコミュニケーション能力・協働力とリーダーシップ等のさらなる向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①レポートなど：添削して学生にフィードバックをする。 ②発表・プレゼンテーション：授業中にて講評することをもって学生にフィードバックをする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用。	ISBN	なし
参考書	①大阪大学歴史教育研究会『市民のための世界史』、大阪大学出版会、2018 ②水島司『グローバル・ヒストリー入門』、山川出版社、2010 ③妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』、中央大学出版部、2018	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	読む・考える・まとめる・発表することを求める。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	シラバスを読んで、本演習のねらい・目標・授業方法を確認する。(3時間)	3時間
第2回	対面	グループ研究のポイントを説明する。	①グループの結成について自由に意見交換をする。(2時間) ②グループ研究のテーマについて意見交換をする。(2時間)	4時間
第3回	対面	グループ研究のテーマ・スケジュールを決定する。	グループ研究の準備を行う(4時間)	4時間
第4回	対面	グループ・プレゼンテーション(1)	グループ研究の準備を行う(4時間)	4時間
第5回	対面	グループ・プレゼンテーション(2)	グループ研究の準備を行う(4時間)	4時間
第6回	対面	グループ・プレゼンテーション(3)	グループ研究の準備を行う(4時間)	4時間
第7回	対面	グループ・プレゼンテーション(4)	グループ研究の準備を行う(4時間)	4時間
第8回	対面	グループ・プレゼンテーション(5) 学生研究発表大会の出場者を決める。	①グループ・プレゼンテーションの総括を行う。(2時間) ②学生研究発表大会の出場者へのアドバイスについて意見交換をする。(3時間)	5時間
第9回	対面	学生研究発表大会への参加	①出場資料、とりわけ配布したレジメを発表の概要を把握する(2時間) ②発表内容を復習して、感想文を書く。(2時間)	4時間
第10回	対面	卒業研究に向けての準備作業について *卒業研究の仮テーマについての報告準備・資料調査の方法	各自、卒業研究の仮テーマ・内容について考えて説明の準備を行う。(4時間)	4時間
第11回	対面	卒業研究の仮テーマについての報告(1)	学期末レポート作成に向けての準備(4時間)	4時間
第12回	対面	卒業研究の仮テーマについての報告(2)	学期末レポート作成に向けての準備(4時間)	4時間
第13回	対面	卒業研究の仮テーマについての報告(3)・講評	学期末提出物・卒業研究中間レポートの作成の準備(4時間)	4時間
第14回	対面	学期末提出物・卒業研究中間レポート作成の進捗状況報告	学期末提出物・卒業研究中間レポート作成に向けての準備(4時間)	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	学期末・卒業研究中間レポートの最終確認・提出(6時間) *以上の授業計画は輪読の進捗状況などを勘案しながら、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。	6時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本文化および比較文化について学修する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「専門演習ⅡA」に引き続き、各自が取り組むテーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。現代はグローバル社会が進んでおり、国境を越えたやり取りが年々増えています。これから日本の職場で活動する人にとっては、日本文化の特徴をより深く理解し、かつ外国人に対して英語で説明することは非常に重要な課題です。この専門演習では、日本文化の特徴について考えます。現在の文化の現象もちろん、近代以前の時代の文化も視野に入れ、より深く考えます。また、国際共修の観点から、他国（または自国）の文化との比較を行います。この演習は主に英語で行われます。教材は、日本文化に関する文献からの文章を精読し、英語でのペアワーク、グループワーク、学生発表等を実施します。この専門演習の学修と実践を通じて、現代の職場に求められている強い「異文化理解力」も築くことを望んでいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の前半では、日本文化・比較文化に関する教材に基づいて個々の履修生が説明を行う。授業の後半では、グループに分かれ、特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげる。 グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間前後に個別にフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Japanese Popular Culture in English: Discussions and Critical Thinking, Robert Sheridan et al., 南雲堂, 2024. (通年使用。)	ISBN	9784523179641
参考書	①”The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture”, Roger J. Davis and Osamu Ikeno, Tuttle Publishing 2002 ② “Japan: History and Culture from Classical to Cool”, Nancy J. Stalker, University of California Press, 2018	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講に	グループワークを中心に授業を進めるので、積極的に授業に参加する学生を歓迎する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	調査方法 資料収集や調査の方法について検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	テーマの検討（1） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	テーマの検討（2） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	テーマの検討（3） 教材の講読、履修生による発表を行い、調査テーマの検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	グループ調査（1） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	グループ調査（2） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	グループ調査（3） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	グループ調査（4） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	グループ調査（5） グループに分かれ、各テーマについて調査し、発表に向けての取組を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	発表・ディスカッション（1） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	発表・ディスカッション（2） グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間

第14回	対面	発表・ディスカッション (3) グループで調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと (2 時間程度)。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること (2 時間程度)。	4 時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと (2 時間程度)。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること (2 時間程度)。	4 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	金子 治平	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	アジア太平洋地域の経済を中心とする文献を読みこなすようになるとともに、卒業研究に関連する文献を深く読み、検討する		
授業の目的及び概要	専門演習ⅡA・B では、経済事象に関する資料や文献を読み解く能力、表や図から経済事象を理解する能力、データを表や図でわかりやすく表示する能力、データを通して経済事象を考察する能力を身につけることを目的とします。 具体的には、 ・知らない用語を調べながら文献をていねいに読むことによって、経済を中心とする社会事象の理解を深めること ・本や論文を読むことによって、興味を持った事象について深く学び、課題を発見することを通じて、卒業研究のテーマと課題を決定することを行います。 また、必要に応じて、 ・データを表や図でわかりやすく表すことができるようにパソコンの使い方を学ぶこと ・既存のアンケート調査データから、表や図を作成することができることを学ぶこと ・アンケート調査の方法を学ぶこと も目的とします。 とくにデータの扱いやアンケート調査について学びたい学生には、授業時間外に学習を行いますので申し出てください。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の目的に対応して、専門演習ⅡA・B を通した主な目標は、 （１）関心のある経済事象に関する文献を読むことができるようになること であり、必要に応じて （２）関心のある経済事象に関連する既存の統計データやアンケート調査データを使用して、適切な表やグラフを作成し、経済事象を考察することができるようになること （３）関心のある経済事象に関連するアンケート調査を、みずから実施できるようになることも目標とします。 また、 （４）（１）～（３）を通して、卒業研究のテーマを設定し研究を進めることができるようになること です。 とくに専門演習ⅡB では、（１）と（４）が主な目標です。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間外に、グループあるいは個別にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定ですが、必要に応じて授業内で指示させていただきます。	ISBN	なし
参考書	必要があれば、授業中に紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・授業には必ず出席してください。 ・やむをえず欠席する場合には、直前でもいいので事前に連絡してください。 ・出席しなかった場合には、次回までに補習を行いますので出席してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 春学期の専門演習ⅡAを振り返るとともに、夏休み中の進捗状況について報告してもらいます。	事前学習として、夏休み中に、卒業研究に関連して行ったことをまとめておいてください。	4時間
第2回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（1）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第3回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（2）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第4回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（3）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第5回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（4）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第6回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（5）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第7回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（6）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第8回	オンデマンド	卒業研究の進め方のコツ	オンデマンドで配信された内容をよく復習してください。	4時間
第9回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（7）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第10回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（8）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第11回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（9）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第12回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（10）	事前学習として、読んだ本や論文の要約を行うなど、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4時間
第13回	対面	卒業研究中間レポート執筆のための発表と検討（1）	事前・事後学習として、これまでの各自の卒業研究の進捗状況をふまえて、卒業研究中間レポートを執筆してください。	4時間
第14回	対面	卒業研究中間レポート執筆のための発表と検討（2）	事前・事後学習として、これまでの各自の卒業研究の進捗状況をふまえて、卒業研究中間レポートを執筆してください。	4時間
第15回	対面	卒業研究中間レポート執筆のための発表と検討（3）	事前・事後学習として、これまでの各自の卒業研究の進捗状況をふまえて、卒業研究中間レポートを執筆してください。	4時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	青柳 達也	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英米文化研究：ポピュラーカルチャーの理論的探究と研究実践		
授業の目的及び概要	本授業では、「専門演習ⅡA」で身につけたカルチュラル・リテラシーと基礎的な探究スキルをふまえ、学生が主体となって特定のテーマを深く研究する。履修者は各自の問題関心に基づき研究テーマを設定し、先行研究の整理、資料調査、分析、考察、そして研究成果の発表に至るまでの一連のプロセスを実践的に学ぶ。また、グループワークやゼミ形式のディスカッションを通して、協働力・コミュニケーション能力・リーダーシップ・課題発見能力など、研究を進めるうえで必要なスキルを総合的に養う。 本授業の目的は、専門演習ⅡAで培った知識と視点を基盤として、各自が明確な研究テーマを設定し、資料の精読と分析、先行研究の検討、ディスカッションやプレゼンテーションといった多様な学習活動を通じて、文化と社会の相互作用を学術的に探究する能力を深化させることである。特に、英米のポピュラーカルチャーを手がかりに現代社会の動向を批判的に読み解き、多文化共生の観点から世界を広く捉える視点を発展させるとともに、研究成果を論理的かつ説得的に表現する力の向上を目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	自ら関心のあるテーマを設定し、研究目的や問いを明確に説明できる。 先行研究や関連資料を適切に収集・整理し、研究の背景を理解したうえで分析に活かせる。 文化研究における基本的な方法（歴史的分析、テキスト分析、文化理論の応用など）を選択し、適切に用いることができる。 資料に基づいて論理的に考察を組み立て、自分の意見を根拠にもとづいて表現できる。 研究内容を口頭およびスライド等でわかりやすく発表し、質疑に応じながら議論を深めることができる。 仲間と協働しながら研究を進め、他者の視点を取り入れて自身の研究を改善できる。 専門演習ⅡAで身につけた研究スキルを基盤として、継続的・発展的な研究に取り組む。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	理論的内容や分析・考察方法に対して、適切なコメントやアドバイスを提示し、理解の深化を促すフィードバックを行う。 発表やレポートに対しては、内容に応じた講評を行うとともに、改善点や次回に向けた具体的なアドバイスを提示する。 必要に応じて、個別相談や授業内での短いコメントを通じて、学修状況を把握しながら継続的に支援する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定テキストは使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。	ISBN	なし
参考書	指定テキストは使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	30
	その他の内容	研究報告レポート
この科目の受講にあたって	自分で問いを立て、資料を調べ、考察を深める力を養います。積極的に調べ、意見を共有し、仲間と協働しながら学ぶ姿勢が大切です。興味や疑問を素直に持ち寄り、研究のプロセスを楽しむ気持ちで臨んでください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス・授業の目的、進め方、最終成果物のイメージを共有。 ・研究とは何か、研究プロジェクトをどう構成するかを説明。	【事前学習】授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。【事後学習】授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4時間
第2回	対面	研究テーマの選定・各自の興味からテーマ案を出し、ブラッシュアップ。 ・研究の問い（Research Question）の立て方を学ぶ。	【事前学習】授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。【事後学習】授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4時間
第3回	対面	先行研究の探し方・読み方入門・先行研究の役割、探し方、まとめ方。 ・簡単な文献レビューの練習。	【事前学習】授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4時間
第4回	対面	研究計画書作成ワークショップ①：目的・背景整理・研究背景、目的、問いを明確にする。 ・教員が内容・方向性についてフィードバック。	【事前学習】授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4時間
第5回	対面	研究計画書作成ワークショップ②：方法・資料設計・方法論（テキスト分析、歴史的な分析、文化研究の手法など）の選択。 ・集めるべき資料・データを明確化。	【事前学習】授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4時間

			を考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	
第6回	対面	研究計画発表会（計画の中間共有）・研究計画を口頭発表。 ・質疑応答と改善点の共有。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】 授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4 時間
第7回	対面	資料収集①（授業内リサーチ）・研究に向けた資料収集をする。 ・各自で資料を探しながら、教員が個別対応。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】 授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4 時間
第8回	対面	資料収集②（分析の方向性確認）・収集した資料を整理し、仮の構造を作る。 ・分析の軸を決めるためのグループディスカッション。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】 授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4 時間
第9回	対面	分析ワークショップ①：資料を読み解き、論点を形にする。 ・課題共有と個別アドバイス。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】 授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4 時間
第10回	対面	分析ワークショップ②：章立て・構成を考える・発表（または論文）構成を決める練習。 ・論理の流れをチェック。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】 授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4 時間
第11回	対面	中間発表会①・研究の途中経過を発表。 ・問い、方法、資料の妥当性を確認。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】	4 時間

			授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	
第12回	対面	中間発表会②・続きの発表と相互フィードバック。 ・課題を明確化。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】 授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4時間
第13回	対面	最終発表準備：リハーサルと個別指導・スライド、原稿、分析の最終整理。 ・教員の個別コメント。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】 授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4時間
第14回	対面	最終発表会・各自の研究成果を発表。 ・質疑応答・講評。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】 授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4時間
第15回	対面	総括：・1年間の研究プロセスを振り返る。	【事前学習】 授業テーマや自身の研究テーマに関連する資料を読み、基礎的な情報や疑問点を整理しておく。 前回の授業内容を振り返り、次の授業で議論したい視点や確認したい点を準備する。 【事後学習】 授業中の議論やフィードバックをふまえ、必要な資料の追加調査やノート整理を行う。 得られた知見を自分の研究テーマにどう生かせるかを考え、次回に向けた課題や論点を明確にする。	4時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論からグローバリゼーションと文化について考察する		
授業の目的及び概要	この授業は、「専門演習ⅡA」に引き続き、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択し発表やディスカッションを通じたアウトプット力・論理的思考力を強化する。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につける。		
履修条件・留意点	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。「演習科目」は、1 年次に「基礎演習 A」、「基礎演習 B」、2 年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3 年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4 年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行い、最終的に卒業論文を執筆します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論をグローバリゼーションと文化に対して応用し、分析・考察を行うことができる。 自身の研究テーマの先行研究と自身のテーマとの関連を説明することができる。 他者の研究テーマと発表について議論すると共に、自分の意見を伝えつつ、課題や評価点について伝えることができる。 自身の研究テーマについて、8000 字の調査レポートを執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループでの調査については、その方法論と調査方法について、適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックをおこなう。また発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①書名：'The Sociology Book: Big Ideas Simply Explained'、著者：Sarah Tomley and Mitchell Hobs、出版社：DK、出版年：2015 ②書名：『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』、著者：岸政彦ほか、出版社：有斐閣、出版年：2016 ③書名：『リキッド化する世界の文化論』、著者：ジグムント・バウマン、訳伊藤茂、出版社：青土社、出版年：2014	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際関係学、国際文化学、国際社会学から、世界の文化的な事象の捉え方について学びます。そして自身のテーマについて、問の立て方の妥当性、研究方法の妥当性、論の展開について研究指導します。授業では専門書を読みながら、国際関係や世界の見方、文化について考えていきます。洋書の読解を通じてグローバル社会を理解することにも挑戦します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション： 授業の目的・意義・方法・評価について 世界/国際関係/国際文化について考える ⑥ ・指定された章の解説 ・ディスカッション	指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間2時間） TOEIC、SPIの学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第2回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える ⑦ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC、SPIの学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第3回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える ⑧ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC、SPIの学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第4回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える ⑨ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC、SPIの学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第5回	対面	世界/国際関係/国際文化について考える ⑩ ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC、SPIの学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第6回	対面	質的・量的調査とは③： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、社会調査に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC、SPIの学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第7回	対面	質的・量的調査とは④： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、社会調査に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC、SPIの学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第8回	対面	社会調査の実践③： 自身のテーマによる社会調査実践	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、社会調査に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） TOEIC、SPIの学修をおこなう。（所要時間2時間）	4時間

第9回	対面	社会調査の実践④： 自身のテーマによる社会調査実践	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、社会調査に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第10回	対面	社会調査の報告⑤： 自身のテーマによる社会調査報告	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 報告に向けた準備をおこなう。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第11回	対面	社会調査の報告⑥： 自身のテーマによる社会調査報告	報告に向けた準備をおこなう。(所要時間 2 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第12回	対面	グローバル化と文化に関するテーマと論の展開①： ・論文の構成 ・根拠の提示 に関する講義	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、自身のテーマ設定が妥当かどうか、論の展開について調査研究する。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第13回	対面	グローバル化と文化に関するテーマと論の展開②： ・論文の構成 ・根拠の提示 に関する講義 ・TOEIC、SPI の学修	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 1 時間) 指定された章を熟読し、自身のテーマ設定が妥当かどうか、論の展開について調査研究する。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第14回	対面	グローバル化と文化に関する自身の研究発表①： ・先行研究 ・論文の展開 の発表 ・TOEIC、SPI の学修	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。(所要時間 2 時間) 自身の研究発表に向けた準備をする。(所要時間 1 時間) TOEIC、SPI の学修をおこなう。(所要時間 2 時間)	4 時間
第15回	オンデマンド	グローバル化と文化に関する総括	5000 字のレポートを提出する。(所要時間 4 時間)	4 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	陸 麗君	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル化時代における在留外国人と地域社会の多文化共生を考える		
授業の目的及び概要	本演習では、社会学および国際社会学の視点から、移民問題、都市問題、地域社会が抱える諸課題を取り上げる。グローバル化の進展により、人々の国境を越えた移動は日常的な現象となり、移民と受け入れ社会（ホスト社会）との関係性は、現代社会を理解するうえで重要な研究対象となっている。とくに近年、日本における在留外国人の居住や起業が、地域社会や都市の構造、人々の日常生活に及ぼす影響に注目が集まっている。 本演習では、こうした問題について理論と具体的事例の両面から理解を深めるとともに、各自の関心に基づいた研究テーマを設定し、卒業研究を見据えた研究計画の立案や調査方法、資料収集の基礎を段階的に学修する。前期は関連分野の文献を輪読し、文献の読み方やレジュメ作成、プレゼンテーションの基礎的技能を身につける。その上で各自の課題に取り組み、卒業研究中間レポートの完成を目指す。		
履修条件・留意点	・本演習では、主体性やチームワーク、リーダーシップが求められる。 ・自ら行動する積極性や協働性を持ち、議論に主体的に参加する姿勢が必要である。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・これまでに学修した異文化理解・多文化共生・国際社会学に関する知識や理論を、グローバル化と地域社会の問題に応用し、社会現象を分析・考察する力を身につける。 ・各自の研究テーマを設定し、資料の収集・分析、研究成果の発表に至るまでの一連の研究プロセスを学ぶことで、基本的なアカデミックスキルを身につける。 ・自らの関心に基づいて卒業研究のテーマを決定し、社会学的な知識や方法を用いた調査・分析を行い、調査レポートを執筆できるようになる。 ・都市・地域や多文化共生に関する課題について理解を深め、問題解決に向けて社会に働きかける姿勢を養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業中または授業終了後に、質疑応答の時間を設ける。 ・発表・プレゼンテーションについては、授業中に講評を行うことで学生へのフィードバックとする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	なし
参考書	① 移民と日本社会、永吉希久子著、中央公論新社、2020 年 ② 多文化共生の実験室大阪から考える、高谷幸編著、青弓社、2022 年 ③ 「移民時代」の多文化共生論、松尾知明著、明石書店、2020 年 そのほか、必要に応じて授業中に適宜指示する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	授業計画は、履修生の進捗状況等を踏まえ、オンデマンド授業の実施時期を含めて適宜微調整を行う場合がある。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 卒論研究に向けて、授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	事前学習として、夏休み中に卒業研究に関連して取り組んだ内容を整理しておく。	4時間
第2回	対面	進捗状況の発表、必要に応じてテーマの再検討を行う①	研究テーマに関するワークシートに記入し、事前に提出する。また授業で学んだポイントから見直しをし、シートを再提出する。	4時間
第3回	対面	卒業研究の進捗状況の発表、必要に応じてテーマの再検討②	研究テーマに関するワークシートに記入し、事前に提出する。授業後、授業で学んだポイントから見直しをし、シートを再提出する。	4時間
第4回	対面	各自のテーマに基づき資料収集と分析を行い、その結果について報告する① 教員や履修生間でディスカッションする。	調査・分析の内容をシートにまとめて事前に提出する。授業後は、シートに加筆・修正を行い内容を整理する。 議論の結果を踏まえ、資料収集と分析を継続して行う。	4時間
第5回	対面	各自のテーマに基づき資料収集と分析を行い、その結果について報告する② 教員や履修生間でディスカッションする。	調査・分析の内容をシートにまとめて事前に提出する。授業後は、シートに加筆・修正を行い内容を整理する。 議論の結果を踏まえ、資料収集と分析を継続して行う。	4時間
第6回	対面	各自のテーマに基づき資料収集と分析を行い、その結果について報告する③ 教員や履修生間でディスカッションする。	調査・分析の内容をシートにまとめて事前に提出する。授業後は、シートに加筆・修正を行い内容を整理する。 議論の結果を踏まえ、資料収集と分析を継続して行う。	4時間
第7回	対面	各自のテーマに基づき資料収集と分析を行い、その結果について報告する④ 教員や履修生間でディスカッションする。	調査・分析の内容をシートにまとめて事前に提出する。授業後は、シートに加筆・修正を行い内容を整理する。 議論の結果を踏まえ、資料収集と分析を継続して行う。	4時間
第8回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成の指導①	関連文献を整理し、自身で調査・収集した資料を検討・分析のうえ、レポートにまとめて事前に提出する。 授業後は、授業での指摘を踏まえて、自身の研究内容を修正する。	4時間
第9回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成の指導②	関連文献を整理し、自身で調査・収集した資料を検討・分析のうえ、レポートにまとめて事前に提出する。 授業後は、授業での指摘を踏まえて、自身の研究内容を修正する。	4時間
第10回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成の指導③	関連文献を整理し、自身で調査・収集した資料を検討・分析のうえ、レポートにまとめて事前に提出する。 授業後は、授業での指摘を踏まえて、自身の研究内容を修正する。	4時間
第11回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成の指導④	関連文献を整理し、自身で調査・収集した資料を検討・分析のうえ、レポートにまとめて事前に提出する。	4時間

			授業後は、授業での指摘を踏まえて、自身の研究内容を修正する。	
第12回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成の指導⑤	関連文献を整理し、自身で調査・収集した資料を検討・分析のうえ、レポートにまとめて事前に提出する。 授業後は、授業での指摘を踏まえて、自身の研究内容を修正する。	4時間
第13回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成の指導⑥	関連文献を整理し、自身で調査・収集した資料を検討・分析のうえ、レポートにまとめて事前に提出する。 授業後は、授業での指摘を踏まえて、自身の研究内容を修正する。	4時間
第14回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成の指導⑦	関連文献を整理し、自身で調査・収集した資料を検討・分析のうえ、レポートにまとめて事前に提出する。 授業後は、授業での指摘を踏まえて、自身の研究内容を修正する。	4時間
第15回	オンデマンド	全体のまとめ。	これまでの各自の卒業研究の進捗状況をもとに、卒業研究中間レポートを完成させる。	4時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中西 亮太	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語そのものを研究対象として扱う言語学を概観し、言語現象をさまざまな分野・観点から分析する。		
授業の目的及び概要	この授業では、「専門演習ⅡA」に引き続き、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表に至るまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づきテーマを選択する。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働能力とリーダーシップ、課題発見能力等を身につけさせることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した言語や文化に関する知識を具体的な言語現状に対して応用し、分析・考察を行うことで理解を深める。 卒業研究に向けては学生一人ひとりが興味や関心に応じて設定したテーマについて調査・研究を進め、内容をレポートや発表としてまとめる力を養う。また、グループディスカッション等のグループでの取り組みを通して、主体性や協働性、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	卒業研究については、理論や分析・考察方法に対して適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。また、発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する形でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。適宜論文等の文献資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	卒業研究報告レポート 30%	
この科目の受講にあたって	世界中の様々な言語そのものや言語にまつわる現象に関心がある学生を歓迎します。授業では論文や専門書などの精読を通して、研究対象としての言語の捉え方や研究方法などについて考えていきます。学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分ならではの「答え」を探していくことを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方などの概要を説	事前学修として、ラーニングポータルに言語学に関する課題論文を掲載するので、事前に読み概要を把	4 時間

		明する。	握しておく。 事後学修として、概要をレポートとしてまとめ、ラーニングポータルに提出する。	
第2回	対面	テーマの検討① 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	事前に個々の興味・関心に基づいたテーマを掘り下げ、設定しているテーマに具体性を持たせておく。 授業でのディスカッション内容を個々のテーマの検討に反映させ、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第3回	対面	テーマの検討② 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第4回	対面	テーマの検討③ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第5回	対面	テーマの検討④ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第6回	対面	テーマの検討⑤ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第7回	対面	テーマの検討⑥ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第8回	対面	テーマの検討⑦ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第9回	対面	テーマの検討⑧ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第10回	対面	テーマの検討⑨ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第11回	対面	テーマの検討⑩ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第12回	対面	テーマの検討⑪ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第13回	対面	個々の研究の振り返り 担当教員による研究の方向性や手法・分析のポイント等に関する概説を踏まえて、自身の研究を再検討する。	事前学習として、第13回までに授業で検討したテーマを踏まえて、自身の研究の要点をまとめておく。 事後学修として、担当教員による概説や第13回までに授業で実施したディスカッションを踏まえて、自身の軌道修正を行う。	4 時間
第14回	対面	テーマの検討⑫ 履修生による発表やディスカッションを通して、個々の調査・分析・考察のテーマを検討する。	発表担当者は発表する内容をまとめたレジュメを事前に作成・提出しておく。 授業後は、授業でのディスカッションやコメント等を踏まえて、自身の研究の軌道修正を行う。	4 時間
第15回	オンデ	授業全体の総括を行う。	自身で設定したテーマについて、背景、先行研究、課	6 時間

2026/05/01

	マンド		題、分析・考察、今後の研究の計画を 6000 字程度でまとめる。	

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	比較と問いから読み解く現代韓国社会・文化		
授業の目的及び概要	本演習では、現代の韓国社会・文化を主な事例として取り上げ、日常の中で「当たり前」と思っている行動や価値観が、どのような文化的・社会的背景によって形づくられているのかを考察する。韓国社会の具体的な事例を通して、文化を比較・相対化する視点を身につけ、「地域研究の方法」を学ぶことを目的とする。 演習では、政治・経済・社会・文化など、受講者の関心テーマに関するテキスト（論文など）を選び、読み、議論を行う。また、自分自身の生活経験や育ってきた国・地域との比較を通して、相互理解の姿勢を養う。 本演習は講義中心ではなく、読む・書く・話すという能動的な学習を重視する。文献読解、レポート、発表やディスカッションを通して問いを立て、根拠にもとづいて考察し、他者に伝える力を育成する。		
履修条件・留意点	毎回の授業に積極的に参加してください。本演習では、受講生の主体的な学びを重視し、それぞれのテーマに関わる資料を選び、資料を読み、自分の言葉で説明する練習を行います。最初は苦手を感じる場合でも、「練習する」という意識を持って参加することで、徐々に慣れていくことを想定しています。 また、グループワーク、プレゼンテーション、発表、ディスカッションなども行います。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本演習の履修を通じて、受講生は以下の能力を身につけることを目標とする。 1. 現代韓国社会・文化に関する基礎的な知識を身につけ、具体的な事例をもとに文化や社会現象を説明できる。 2. 自分の日常や育ってきた国・地域の文化と比較しながら、文化を相対化し、問いを立てて考察できる。 3. 文献を適切に読み解き、根拠にもとづいて自分の考えを文章や発表としてまとめ、他者に伝えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員によるコメントや改善点のアドバイスを行うだけでなく、グループメンバー同士のピアレビュー、ディスカッションを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない	ISBN	—
参考書	①『留学生のためのディスカッショントレーニング』, 香月裕介・下岡邦子・福原香織, 凡人社, 2024 年 ②『留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション』 仁科浩美, くろしお出版, 2020 年 ③『基礎からわかる 論文の書き方』, 小熊英二, 講談社, 2022 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	10
	その他の内容	相互評価、ピアレビュー
この科目の受講にあたって	本演習では、資料を能動的に読み取り、その内容を自分の言葉で説明し、考えを言語化する練習を行います。現代韓国社会・文化に関する知識を深めるだけでなく、自分が育った地域や国についても調べ、比較することを大切にします。 また、「文化」とは何か、文化がどのような歴史的・社会的背景のもとで形成されてきたのかを考察することで、異なる文化に対する理解を深めていきます。発表やディスカッションは練習の場と位置づけていますので、積極的に参加しながら学びを深めてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：地域研究とは何か地域研究とは何か：専門演習 II における位置づけ 授業の目的・進め方・評価方法の説明 専門演習 II で扱う論文・資料の探し方（論文を自ら探してみよう） 自分を育てる：自身の現状把握と秋学期の学修目標の設定	【事前学修】 「地域研究」という言葉から連想するイメージや関心について簡単に整理する 自分がこれまでに関心を持ってきた社会・文化・地域に関するテーマを振り返る 専門演習 II で取り組んでみたいテーマや関心分野をいくつか挙げてみる 【事後学修】授業で学んだ「地域研究」の考え方や専門演習 II の目的を振り返る 授業内で扱った論文・資料の探し方を参考にしながら、関心テーマに関連する論文・資料を1点探し、概要を簡単にまとめる 秋学期の学修目標について、授業内容を踏まえて整理する	2 時間
第2回	対面	【講義・活動】地域文化（韓国）を読む：事例分析とディスカッション（1） 日本や自分の育ってきた地域・国との比較を意識しながら、事例を分析し、ディスカッションを行う。	【事前学修】 関心のある韓国の地域文化に関する論文・資料を1点選び、内容を把握する。その資料が扱っている事例について、「何がどのように文化として説明されているか」を簡単に整理する。授業で共有したいポイントや疑問点をメモする。 【事後学修】 授業での事例分析やディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。他の受講生の発表や意見を踏まえ、自分の関心テーマや視点を見直す。次回以降の調査・発表に向けて、追加で調べるべき点を確認する。	4 時間
第3回	対面	【講義・活動】地域文化（韓国）を読む：事例分析とディスカッション（2） 日本や自分の育ってきた地域・国との比較を意識しながら、事例を分析し、ディスカッションを行う。	【事前学修】 1. 関心のある韓国の地域文化に関する論文・資料を1点選び、内容を把握する。 2. その資料が扱っている事例について、「何がどのように文化として説明されているか」を簡単に整理する。 3. 授業で共有したいポイントや疑問点をメモする。 【事後学修】 1. 授業での事例分析やディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 他の受講生の発表や意見を踏まえ、自分の関心テーマや視点を見直す。 3. 次回以降の調査・発表に向けて、追加で調べるべき点を確認する。	4 時間
第4回	対面	【論文を「読む」から「使う」へ：個人研究の準備】資料の選び方・読み方・問いの立て方を通して、地域研究の方法を具体的	【事前学修】 1. 関心のある韓国の地域文化に関する論文・資料を1点選び、内容を把握する。	4 時間

		に学ぶ。論文を深く読む：構成・問い・主張の整理論文をどう研究に活かすか（先行研究の考え方） 個人テーマにもとづく研究計画づくり（問い・資料・方法） 意見交換・教員によるコメント	2. その資料が扱っている事例について、「何がどのように文化として説明されているか」を簡単に整理する。 3. 授業で共有したいポイントや疑問点をメモする。 【事後学修】 1. 授業での事例分析やディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 他の受講生の発表や意見を踏まえ、自分の関心テーマや視点を見直す。 3. 次回以降の調査・発表に向けて、追加で調べるべき点を確認する。	
第5回	対面	【発表構成・叩き台作成】発表の目的と構成の考え方（問い・背景・事例・考察）発表時間を意識した内容の取捨選択 スライド・配布資料の作成方法（情報量・引用・見せ方） 発表構成案（叩き台）の共有と意見交換 教員によるコメント・改善点の提示	【事前学修】 1. 自身の研究計画にもとづき、発表で伝えたい内容の構成案を考える。 2. 発表時間を想定し、どの情報を盛り込むかを整理する。 3. 参考になりそうな発表資料やスライドの構成を確認する。 【事後学修】 1. 授業内での意見交換や教員からのコメントを踏まえ、発表構成を修正する。 2. 関連する先行研究や資料を探す。 3. 次回以降の発表に向けて、準備状況と課題を整理する。	4 時間
第6回	対面	【個人調査・発表（導入）：資料探索と研究の方向づけ】各自の研究テーマ・問いの確認（短時間共有） 個人研究に向けた資料探索・読解（論文・資料の読み込み） 使用資料の要点整理と調査の進捗共有 教員・クラスメートによる質問・コメント、意見交換	【事前学修】 1. 個人研究として扱いたいテーマや関心分野を整理する。 2. 関心テーマに関連する論文・資料を探し、候補を1～2点選ぶ。 3. 選んだ資料について、内容の概要や気になった点を簡単にメモする。 【事後学修】 1. 授業内で行った資料探索や意見交換を振り返り、研究テーマや問いを見直す。 2. 使用する資料の要点を整理し、今後の調査の方向性をまとめる。 3. 次回以降の個人研究に向けて、追加で調べるべき点を確認する。	4 時間
第7回	対面	【個人調査・発表準備：要点整理と発表構成】個人研究テーマ・問いの再確認 使用資料（論文・資料）の要点整理 研究発表大会を想定した発表構成の検討 ペアまたは小グループでの内容共有・意見交換 教員によるコメントおよび今後の進め方の確認	【事前学修】 1. 個人研究で使用する論文・資料を読み、内容の要点を整理する。 2. 研究テーマと問いに対して、資料がどのように関係しているかを確認する。 3. 発表で伝えたいポイント（背景・事例・考察）を簡単に箇条書きでまとめる。 【事後学修】 1. 授業内での意見交換や教員からのコメントを踏まえ、発表構成を見直す。 2. 研究発表大会に向けて、不足している資料や調査内容を整理する。 3. 次回以降の個人発表に向けて、発表資料の作成を進める。	4 時間
第8回	対面	【個人発表】数名ずつの個人発表をローテーションで行う。発表後は、学生同士のディスカッションおよび教員による講評を通して、研究内容を深める。発表や議論で	【事前学修】 ○発表担当者 1. 自身の研究テーマにもとづき、使用する論文・資料を読み、要点を整理する。	4 時間

		は、日本や他地域との比較の視点を取り入れ、文化や社会の特徴を相対化して考察する。	2. 発表で伝えたい内容（問い・背景・事例・考察）を簡潔にまとめる。 3. 発表時間を想定し、説明の流れを確認する。 ○発表を聞く側 1. 当日の発表者が指定した章や資料を事前に読み、内容を把握する。 2. 質問やコメント（理解できた点・比較できそうな点）を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の問いや考察を見直す。 3. 必要に応じて、資料の読み直しや追加調査を行い、研究内容を発展させる。	
第9回	対面	【個人発表】数名ずつの個人発表をローテーションで行う。発表後は、学生同士のディスカッションおよび教員による講評を通して、研究内容を深める。発表や議論では、日本や他地域との比較の視点を取り入れ、文化や社会の特徴を相対化して考察する。	【事前学修】 ○発表担当者 1. 自身の研究テーマにもとづき、使用する論文・資料を読み、要点を整理する。 2. 発表で伝えたい内容（問い・背景・事例・考察）を簡潔にまとめる。 3. 発表時間を想定し、説明の流れを確認する。 ○発表を聞く側 1. 当日の発表者が指定した章や資料を事前に読み、内容を把握する。 2. 質問やコメント（理解できた点・比較できそうな点）を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の問いや考察を見直す。 3. 必要に応じて、資料の読み直しや追加調査を行い、研究内容を発展させる。	4 時間
第10回	対面	【個人発表】数名ずつの個人発表をローテーションで行う。発表後は、学生同士のディスカッションおよび教員による講評を通して、研究内容を深める。発表や議論では、日本や他地域との比較の視点を取り入れ、文化や社会の特徴を相対化して考察する。	【事前学修】 ○発表担当者 1. 自身の研究テーマにもとづき、使用する論文・資料を読み、要点を整理する。 2. 発表で伝えたい内容（問い・背景・事例・考察）を簡潔にまとめる。 3. 発表時間を想定し、説明の流れを確認する。 ○発表を聞く側 1. 当日の発表者が指定した章や資料を事前に読み、内容を把握する。 2. 質問やコメント（理解できた点・比較できそうな点）を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の問いや考察を見直す。 3. 必要に応じて、資料の読み直しや追加調査を行い、研究内容を発展させる。	4 時間
第11回	対面	【個人発表】数名ずつの個人発表をローテーションで行う。発表後は、学生同士のディスカッションおよび教員による講評を通して、研究内容を深める。発表や議論では、日本や他地域との比較の視点を取り入	【事前学修】 ○発表担当者 1. 自身の研究テーマにもとづき、使用する論文・資料を読み、要点を整理する。 2. 発表で伝えたい内容（問い・背景・事例・考察）	4 時間

		れ、文化や社会の特徴を相対化して考察する。	を簡潔にまとめる。 3. 発表時間を想定し、説明の流れを確認する。 ○発表を聞く側 1. 当日の発表者が指定した章や資料を事前に読み、内容を把握する。 2. 質問やコメント（理解できた点・比較できそうな点）を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の問いや考察を見直す。 3. 必要に応じて、資料の読み直しや追加調査を行い、研究内容を発展させる。	
第12回	対面	【個人発表】数名ずつの個人発表をローテーションで行う。発表後は、学生同士のディスカッションおよび教員による講評を通して、研究内容を深める。発表や議論では、日本や他地域との比較の視点を取り入れ、文化や社会の特徴を相対化して考察する。	【事前学修】 ○発表担当者 1. 自身の研究テーマにもとづき、使用する論文・資料を読み、要点を整理する。 2. 発表で伝えたい内容（問い・背景・事例・考察）を簡潔にまとめる。 3. 発表時間を想定し、説明の流れを確認する。 ○発表を聞く側 1. 当日の発表者が指定した章や資料を事前に読み、内容を把握する。 2. 質問やコメント（理解できた点・比較できそうな点）を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の問いや考察を見直す。 3. 必要に応じて、資料の読み直しや追加調査を行い、研究内容を発展させる。	4 時間
第13回	対面	【個人発表】数名ずつの個人発表をローテーションで行う。発表後は、学生同士のディスカッションおよび教員による講評を通して、研究内容を深める。発表や議論では、日本や他地域との比較の視点を取り入れ、文化や社会の特徴を相対化して考察する。	【事前学修】 ○発表担当者 1. 自身の研究テーマにもとづき、使用する論文・資料を読み、要点を整理する。 2. 発表で伝えたい内容（問い・背景・事例・考察）を簡潔にまとめる。 3. 発表時間を想定し、説明の流れを確認する。 ○発表を聞く側 1. 当日の発表者が指定した章や資料を事前に読み、内容を把握する。 2. 質問やコメント（理解できた点・比較できそうな点）を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の問いや考察を見直す。 3. 必要に応じて、資料の読み直しや追加調査を行い、研究内容を発展させる。	4 時間
第14回	対面	【個人発表】数名ずつの個人発表をローテーションで行う。発表後は、学生同士のディスカッションおよび教員による講評を通して、研究内容を深める。発表や議論では、日本や他地域との比較の視点を取り入れ、文化や社会の特徴を相対化して考察する。	【事前学修】 ○発表担当者 1. 自身の研究テーマにもとづき、使用する論文・資料を読み、要点を整理する。 2. 発表で伝えたい内容（問い・背景・事例・考察）を簡潔にまとめる。	4 時間

		る。	3. 発表時間を想定し、説明の流れを確認する。 ○発表を聞く側 1. 当日の発表者が指定した章や資料を事前に読み、内容を把握する。 2. 質問やコメント（理解できた点・比較できそうな点）を準備する。 【事後学修】 1. 発表およびディスカッションを振り返り、理解が深まった点や新たに生じた疑問を整理する。 2. 教員および学生からのコメントを踏まえ、自身の問いや考察を見直す。 3. 必要に応じて、資料の読み直しや追加調査を行い、研究内容を発展させる。	
第15回	オンデマンド	まとめ：研究として何ができるようになったか秋学期の振り返り：現代韓国社会・文化を事例に、比較・相対化の視点から問いを立て、調べ、伝えるという一連の地域研究のプロセスを振り返る。 個人発表を通して得た学びの整理問いの立て方・資料の使い方・発表の方法の確認 今後の研究・学修につなげるための視点の共有最終レポート課題について（提出方法・評価の観点）	【事前学修】 1. これまでの個人発表や配布資料を振り返り、自身の研究テーマと問いを整理する。 2. 研究発表大会や授業内発表で得たコメントを確認し、活かせるような点を整理する。 【事後学修】 1. オンデマンド講義を視聴し、専門演習 II で学んだ内容を振り返る。 2. 個人発表で扱ったテーマをもとに、レポート課題を作成・提出する。	6 時間

科目名	専門演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	池上 寛	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界で起きている諸問題を考える		
授業の目的及び概要	秋学期では、まず夏休みの課題について報告してもらいます。その後、読んできた本に対して書評を書いてもらうため、書評の書き方を指導し、提出してもらいます。また、卒業研究に必要なデータの調べ方、資料の探し方および中間報告の書き方について講義します。 受講生は卒業研究で取り上げるテーマについての絞りこみをし、第 10 回以降の演習で最低 1 度はゼミで報告をしてもらいます。受講生は報告に対して、コメントや質問を行い、議論を深めます。報告を通じて、自分が卒業論文で取り上げることについての課題や現状を知るとともに、卒業論文をまとめるために今後何を調べたらよいかを知る機会とします。 秋学期終了時には卒業研究についての中間報告として 5000 字程度のものを提出してもらい、4 年生の卒業研究につなげます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	夏休みの課題についての発表と書評を書き、卒業研究をさらに進める 卒業研究に関する資料の調査を引き続き進めて報告を行う 秋学期終了時には 5000 字程度の中間報告を執筆する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内、授業外で必要に応じてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	読むべき論文については教員が準備して配布する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	卒業研究の中間報告の提出	
この科目の受講にあたって	・ 授業には必ず出席し、無断欠席がないようにしてください ・ 何らかの事情で欠席する場合にはできるだけ事前に連絡してください。 ・ ゼミでは積極的に、恥ずかしがらずに発言をしてください。 ・ わからないことがあれば、ゼミ以外の時間でも聞いてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション	事前学習として、夏休み中に読んだ文献、卒業研究の	4 時間

		夏休みの振返り 夏休みに読んだ文献について報告順番の決定	ために取り組んだことをまとめておくこと。 事後学習として、さらなる文献調査を実施すること	
第2回	対面	夏休み課題として指示した卒業研究に関する書籍と今後についての発表（1）	事前学習として、第3回の文献を読んで出席すること。報告者はレジュメを準備すること。 事後学習として、関連するテキストや新聞・雑誌記事を読んでおくこと。	4時間
第3回	対面	夏休み課題として指示した卒業研究に関する書籍と今後についての発表（2）	事前学習として、報告者はレジュメを準備すること。 事後学習として、関連するテキストや新聞・雑誌記事を読んでおくこと。	4時間
第4回	対面	夏休み課題として指示した卒業研究に関する書籍と今後についての発表（3）	事前学習として、報告者はレジュメを準備すること。 事後学習として、関連するテキストや新聞・雑誌記事を読んでおくこと。	4時間
第5回	対面	書評の書き方（講義）	論文および参考文献の書き方について（講義）	4時間
第6回	対面	卒業研究執筆に必要なデータや文献の探し方（1）	事前学修：卒業研究を執筆するために、どのようなデータや論文が必要であるかを調べておくこと 事後学修：使う予定のデータの作成、さらなる調査をすること	4時間
第7回	対面	卒業研究執筆に必要なデータや文献の探し方（2）	事前学修：卒業研究を執筆するために、どのようなデータや論文が必要であるかを調べておくこと 事後学修：使う予定のデータの作成、さらなる調査をすること	4時間
第8回	対面	中間報告の書き方	報告者はレジュメを作成し、どのような研究を考えているのかを発表準備をしてください。 報告者以外の受講生は、報告されるテーマについて予めネット記事や新聞記事を集めて読んでおいてください。	4時間
第9回	オンデマンド	研究発表大会への参加	事前学修：研究発表大会でどのような発表があるのか、調べておくこと 事後学修：研究発表大会の感想文の提出と卒業研究でどのように活かしていくかを考える	4時間
第10回	対面	卒業研究で取り上げるテーマ・内容についての報告と検討（2）	報告者はレジュメを作成し、どのような研究を考えているのかを発表準備をしてください。 報告者以外の受講生は、報告されるテーマについて予めネット記事や新聞記事を集めて読んでおいてください。	4時間
第11回	対面	卒業研究で取り上げるテーマ・内容についての報告と検討（3）	報告者はレジュメを作成し、どのような研究を考えているのかを発表準備をしてください。 報告者以外の受講生は、報告されるテーマについて予めネット記事や新聞記事を集めて読んでおいてください。	4時間
第12回	対面	卒業研究で取り上げるテーマ・内容についての報告と検討（4）	報告者はレジュメを作成し、どのような研究を考えているのかを発表準備をしてください。 報告者以外の受講生は、報告されるテーマについて予めネット記事や新聞記事を集めて読んでおいてください。	4時間
第13回	対面	卒業研究で取り上げるテーマ・内容についての報告と検討（5）	報告者はレジュメを作成し、どのような研究を考えているのかを発表準備をしてください。 報告者以外の受講生は、報告されるテーマについて予めネット記事や新聞記事を集めて読んでおいてください。	4時間
第14回	対面	中間報告の進捗状況発表	事前学修：中間報告の進捗状況について準備をする 事後学修：中間報告の提出準備をする	4時間
第15回	対面	1年間のまとめと春休み期間中に行うべきこと、4年演習について指示および連絡	1年間を振り返り、来年度の卒業研究を進めるにあたって必要なことを考え、その準備をしてください。	4時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	島本 奈央	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	さまざまなグローバル課題（民族紛争、人種やジェンダーに基づく差別、難民・国内避難民、気候変動や海洋プラスチック問題など）を国際法の視点から考える。		
授業の目的及び概要	この授業は、各自が取り組むテーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。特にテーマの構想、分析の仕方、資料の扱い方等の基本的な調査・分析のスキルを向上させるとともに、口頭発表にとどまらず、成果を論理的な文章にまとめる取組も行う。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働力とリーダーシップ、課題発見能力等のさらなる向上を目指す。		
履修条件・留意点	この授業では、受講生の間での活発なディスカッションを行います。受講に際し特別な配慮が必要な場合には、事前に担当教員まで相談してください。 本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）に起因して合理的配慮を要する場合は、本学障がい学生支援（ https://www.keiho-u.ac.jp/life/support/barrierfree.html ）を参照し、ご相談ください。		
DP との関係	本科目と学位授与の方針（DP）との関係については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義科目等で学修した法・政治に関する知識や理論を地球的課題（難民、人権、環境、国際犯罪、武力紛争等）に対し、さらなる分析・考察を行うことで深く理解する。 調査・分析した内容を資料として取りまとめ、教員や履修生間でディスカッションを行うことで、その内容についての自分なりの観点を持つ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては発表の 1 週間前にラーニングポータルに提出してもらい、教員が確認・添削を行いフィードバックする。そのほか提出された課題についてもラーニングポータルを通じて、また授業のなかでフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要な文献は演習内で指示する。	ISBN	特になし
参考書	①国際人権法の考え方、川島聡・菅原絵美・山崎公土、法律文化社、2021 年 ②ビジュアルテキスト国際法〔第 4 版〕加藤 信行、植木 俊哉（編集代表）2025 年③民族とネイション：ナショナリズムという難問（岩波新書 新赤版 1156）、塩川伸明、2008 年④だれが戦争の後片付けをするのか ―戦争後の法と正義（ちくま新書 1863）、越智萌、2025 年 ⑤国際条約集、植木俊哉・中谷和弘（編集代表）、有斐閣、2025 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		

	その他の内容
この科目の受講にあたって	学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、参加型の講義にしたいと思っているので、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してほしい。 国際社会の法や政治に関して、関心のある「自分のテーマ」を見つけよう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	ラーニングポータルに国際法に関する記事を掲載するので事前に読み、概要を把握すること（必要時間120分）。また授業後には、事件に関する論点をまとめ、ラーニングポータルを通じて提出すること（必要時間120分）。	4時間
第2回	対面	テーマの検討（1） 教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の調査・分析のテーマを検討する。	研究テーマに関するワークシートに記入しラーニングポータルに提出する。また授業で学んだポイントから見直しをしシートを再提出する。	4時間
第3回	対面	テーマの検討（2） 教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の調査・分析のテーマを検討する。	研究テーマに関するワークシートに記入しラーニングポータルに提出する。また授業で学んだポイントから見直しをしシートを再提出する。	4時間
第4回	対面	調査・分析（1） さまざまなグローバル課題に関する調査・分析を行う。	調査・分析の内容をシートにまとめラーニングポータルに提出する。授業後は、シートを加筆修正し再提出する。	4時間
第5回	対面	調査・分析（2） さまざまなグローバル課題に関する調査・分析を行う。	調査・分析の内容をシートにまとめラーニングポータルに提出する。授業後は、シートを加筆修正し再提出する。	4時間
第6回	対面	調査・分析（3） さまざまなグローバル課題に関する調査・分析を行う。	調査・分析の内容をシートにまとめラーニングポータルに提出する。授業後は、シートを加筆修正し再提出する。	4時間
第7回	対面	調査・分析（4） さまざまなグローバル課題に関する調査・分析を行う。	調査・分析の内容をシートにまとめラーニングポータルに提出する。授業後は、シートを加筆修正し再提出する。	4時間
第8回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成指導（1） 調査・分析した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行った内容を資料として取りまとめ、レポート作成に向けた指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第9回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成指導（2） 調査・分析した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行った内容を資料として取りまとめ、レポート作成に向けた指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第10回	対面	発表・報告資料の取りまとめとレポート作成指導（3） 調査・分析した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行った内容を資料として取りまとめ、レポート作成に向けた指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第11回	対面	レポート発表（1） 各自が作成したレポートと資料を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、完成度の高いレポート作成指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第12回	対面	レポート発表（2）	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間

		各自が作成したレポートと資料を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、完成度の高いレポート作成指導を行う。	タルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	
第13回	対面	レポート発表(3) 各自が作成したレポートと資料を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、完成度の高いレポート作成指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第14回	対面	レポート発表(4) 各自が作成したレポートと資料を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、完成度の高いレポート作成指導を行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	ラーニングポータルを通じた事前学修・事後学修を行う。詳しくは授業のなかで指示する。	4時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多 善	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論からグローバリゼーションと文化について考察する		
授業の目的及び概要	この授業では、「専門演習ⅡB」に引き続き、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、自身の調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づき研究を進め、発表やディスカッションを通じたアウトプット力・論理的思考力を強化する。また、グループワークを通して、コミュニケーション能力、協働性とリーダーシップ、課題発見能力等を身につける。		
履修条件・留意点	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。「演習科目」は、1 年次に「基礎演習 A」、「基礎演習 B」、2 年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3 年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4 年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行い、最終的に卒業論文を執筆します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	3 年間で学修した異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論をグローバリゼーションと文化に対して応用し、分析・考察を行うことができる。 自身の研究テーマに関して、根拠を用いて発表することができる。 他者の研究テーマと発表について、自身の考え方を伝え議論することができる。 自身の発表に向けて内容をまとめあげ、8000 字の卒業論文を執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループでの調査については、その方法論と調査方法について、適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックをおこなう。また発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①書名：'The Sociology Book: Big Ideas Simply Explained'、著者：Sarah Tomley and Mitchell Hobs、出版社：DK、出版年：2015 ②書名：『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』、著者：岸政彦ほか、出版社：有斐閣、出版年：2016 ③書名：『リキッド化する世界の文化論』、著者：ジグムント・バウマン、訳伊藤茂、出版社：青土社、出版年：2014	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	国際関係学、国際文化学、世界の文化的な事象を考察し、自身のテーマから研究を進め卒論完成を目指します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション： 授業の目的・意義・方法・評価について 世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章の解説 ・ディスカッション	指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間2時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要2時間）	4時間
第2回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2時間）	4時間
第3回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第4回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2時間）	4時間
第5回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第6回	対面	質的・量的調査の確認： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第7回	対面	質的・量的調査の確認： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第8回	対面	社会調査及び自身の研究①： 社会調査及び自身の研究発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間）	4時間

			各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	
第 9 回	対面	社会調査及び自身の研究②： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。 （所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、社会調査及び発表に向けた準備をおこなう。 （所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 10 回	対面	社会調査及び自身の研究③： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。 （所要時間 1 時間） 報告に向けた準備をおこなう。 （所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 11 回	対面	社会調査及び自身の研究④： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。 （所要時間 1 時間） 報告に向けた準備をおこなう。 （所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 12 回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。 （所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 13 回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。 （所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 14 回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。 （所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 15 回	オンデマンド	グローバリゼーションと文化に関する省察 春学期総括	8000 字のレポートを提出する。	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伍 躍	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル・ヒストリー(global history)の観点から政治・経済・社会を学修する。		
授業の目的及び概要	専門演習Ⅱの A と B の内容に基づいて、歴史の視点から現代社会の諸課題を学び、分析・考察を通して各自が取り組む課題研究を発展させることを目的とする。テーマに関連する文献調査を調査し、それに基づき考察することで、課題研究を深めていく。課題研究の成果は、授業において報告（個人かグループ）を行い、教員による指導のもと履修生間で討論を行う。		
履修条件・留意点	「やる気」のみ。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現代社会の諸課題を観察して、歴史の視点で理解し自らの見解をまとめることができる。 ②特定のテーマに関する調査・研究を行い、国際社会の多様性、異なる価値観や文化的背景をもつ他者との協働に資する有為な論点や処方を獲得することができる。 ③プレゼン力・協働力のさらなる向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①提出物（コメントペーパーやレポート）は次回以降の授業で返却し、演習内で他の学生を交えて意見交換を行う。 ②ラーニング・ポータルのディスカッション機能を含む ICT 手段を活用する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用。	ISBN	なし
参考書	吉澤誠一郎編『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い』、ミネルヴァ書房、2021	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	大学における学修生活 4 年間の集大成と記念としての卒業論文の執筆に励んでいただきたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション	復習：配布資料をもとに、本学期のスケジュールを確認し、自らの履修計画を考える（2 時間程度） 予習：配布資料をもとに、資料調査・収集のポイントを事前に確認する（2 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	図書資料・先行研究についての収集や調査入手の方法	復習：配布資料をもとに、資料調査・収集のポイントを再確認する（2 時間程度）	4 時間

		「卒業研究ガイド」の説明	予習：配布資料をもとに、研究課題の選定／調整を行う（2時間程度）	
第3回	対面	①現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	①現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	①現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	①現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	①現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	①現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	①現代アジアの諸課題に関する調査テーマの検討をする。 ②上記①のテーマについて、教員が先行研究調査と資料収集の指導を行う。 ③履修者が上記①のテーマについての発表を行い、教員と履修生がディスカッションをする。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	グループ研究1：要点説明	復習：教員が説明したグループ研究の要点を確認すること（2時間程度）。 予習：興味関心をもとに研究テーマの案を考える（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	グループ研究2：研究テーマの決定	復習＋予習：グループ単位で資料を調査し、発表の準備をすること（4時間程度）。	4時間

2026/05/01

第12回	対面	グループ研究3：発表	復習＋予習：グループ単位で資料を調査し、発表の準備をすること（4時間程度）。	4時間
第13回	対面	グループ研究4：発表	復習＋予習：グループ単位で資料を調査し、発表の準備をすること（4時間程度）。	4時間
第14回	対面	グループ研究5：発表	復習＋予習：グループ単位で資料を調査し、発表の準備をすること（4時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括 期末レポートの作成を行う ＊以上の授業計画は卒業研究の進捗状況に応じて、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。	復習＋予習：卒業論文の一部としてのレポートを執筆すること（4時間程度）。	4時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	浅見 緑	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界とのつながりに目を向け、その背景にある社会状況や考え方を理解する。		
授業の目的及び概要	この科目は、国際コミュニケーションコースに所属する学生のための演習です。 「専門演習ⅡＢ」に引き続き、演習での学修を通じて、異文化に対する理解と多文化共生を育み、世界各国・地域の文化、歴史、および現代の社会事情に精通した能力を身につけることを目標にしています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）文化、ことば、文学をきっかけに、世界とのつながりに目を向け、その背景にある社会状況や考え方を理解する。 （２）４年次までに講義科目で得た知識や理論、留学・体験などの経験を結びつけ、学生研究発表大会および卒業論文へとつながる自身のテーマを深める。 （３）演習での活動を通して、コミュニケーション能力やリーダーシップ等の社会人基礎力の向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時または次回以降の授業時に、振り返り、コメント、添削などのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	必要に応じて授業時に指示します。	ISBN	なし
参考書	授業時に必要に応じて紹介します。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	基本資料の収集・輪読、調査・分析、ゼミ生どうしの活発な意見交換・協働作業、プレゼンテーション、レポートの作成などを通して、異なる視点から物事を見ることができ、お互いの価値観が揺さぶられるような演習になればと思っています。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション	3年次の卒業研究中間レポートの到達点を確認し、卒業論文作成に向けて、春学期の計画をたてる。	4 時間
第2回	対面	卒業論文作成に向けて（１）	卒業論文の作成に必要な事項を確認する。	4 時間
第3回	対面	卒業論文の作成に向けて（２）	卒業論文の作成に必要な事項を確認する。	4 時間
第4回	対面	卒業論文の作成に向けて（３）	卒業論文の作成に必要な事項を確認する。	4 時間

第5回	対面	卒業論文の中間報告 (1)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第6回	対面	卒業論文の中間報告 (2)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第7回	対面	卒業論文の中間報告 (3)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第8回	対面	卒業論文の中間報告 (4)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第9回	対面	卒業論文の中間報告 (5)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第10回	対面	卒業論文の中間報告 (6)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第11回	対面	卒業論文の中間報告 (7)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第12回	対面	卒業論文の中間報告 (8)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第13回	対面	卒業論文の中間報告 (9)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第14回	対面	卒業論文の中間報告 (10)	自分のテーマに関する参考文献を精読し、卒業論文の作成をすすめる。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	春学期の到達点を確認し、秋学期に向けて、夏季休暇中の計画をたてる。	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本文化および比較文化について学修する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「専門演習ⅡB」に引き続き、各自が取り組むテーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。現代はグローバル社会が進んでおり、国境を越えたやり取りが年々増えています。これから日本の職場で活動する人にとっては、日本文化の特徴をより深く理解し、かつ外国人に対して英語で説明することは非常に重要な課題です。この専門演習では、日本文化の特徴について考えます。現在の文化の現象もちろん、近代以前の時代の文化も視野に入れ、より深く考えます。また、国際共修の観点から、他国（または自国）の文化との比較を行います。この演習は主に英語で行われます。教材は、日本文化に関する文献からの文章を精読し、英語でのペアワーク、グループワーク、学生発表等を実施します。この専門演習の学修と実践を通じて、現代の職場に求められている強い「異文化理解力」も築くことを望んでいます。		
履修条件・留意点	英語での発表・討議を行うため、積極的な参加が求められます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の前半では、日本文化・比較文化に関する教材に基づいて個々の履修生が説明を行う。授業の後半では、グループに分かれ、特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげる。グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。英語で説明・発表できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間前後に個別にフィードバックする。発表後に口頭でコメントを行う。レポートにはコメントを付して返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Japanese Popular Culture in English: Discussions and Critical Thinking, Robert Sheridan et al., 南雲堂, 2024.（昨年度より継続使用。通年使用。）	ISBN	9784523179641
参考書	なし。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	4 年間の集大成である卒業論文の執筆に励んでいただきたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	発表方法 調査した内容をまとめあげ、発表する方法を検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	日本文化、比較文化に関する発表を行い、調査テーマの検討を行い、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート作成の指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート作成の指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート作成の指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	個々に調査した内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、課題研究のレポート作成の指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	課題研究を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学修内容の定着と問題点の再検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	課題研究を発表し、教員と履修生がディスカッションを行い、学修内容の定着と問題点の再検討を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデ	授業全体の総括を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間

2026/05/01

	マンド		度)。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること (2 時間程度)。	

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金子 治平	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業研究を行い、各国の経済発展の要因・現状・課題に関する卒業研究論文を執筆する		
授業の目的及び概要	専門演習ⅢA・B では、専門演習ⅡA・B で各自が決定した卒業研究の課題についての研究を進め、卒業研究論文を執筆することを目的とします。 とくにデータの扱いやアンケート調査について学びたい学生には、授業時間外に学習を行いますので申し出てください。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	自ら卒業研究のテーマに関係する文献を収集し、批判的に読解することができる 自ら卒業研究のテーマに関係するデータを収集し、分析することができる 卒業研究論文を執筆することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間外に、グループあるいは個別にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定ですが、必要に応じて授業内で指示させていただきます。	ISBN	なし
参考書	必要があれば、授業中に紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 授業には必ず出席してください。 ・ やむをえず欠席する場合には、直前でもいいので事前に連絡してください。 ・ 出席しなかった場合には、次回までに補習を行いますので出席してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 秋学期の専門演習ⅡB を振り返るとともに、これからの研究の進め方について説明します。	事前学習として、春休み中に、卒業研究に関連して行ったことをまとめておいてください。	4 時間
第2回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（1）	事前学習として、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第3回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（2）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間

			さい。	
第4回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（3）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第5回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（4）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第6回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（5）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第7回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（6）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第8回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（7）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第9回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（8）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第10回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（9）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第11回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（10）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第12回	対面	卒業研究の進捗状況の発表と検討（11）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめておいてください。	4 時間
第13回	対面	夏休みに向けての卒業研究の進め方の検討（1）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめて、夏休み中に何をすべきかをまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	夏休みに向けての卒業研究の進め方の検討（2）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめて、夏休み中に何をすべきかをまとめておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	卒業研究の執筆方法についての説明	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗状況についてまとめて、夏休み中に何をすべきかをまとめておいてください。	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	張 雪斌	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際政治学の理論と現実を学ぶ		
授業の目的及び概要	本演習は国際政治学の観点からさまざまな国際問題を分析し、国際社会の過去、現在と未来について学ぶ。演習の中心的な分析対象はアジア太平洋地域の国際関係だが、それ以外の地域や新領域の国際問題（サイバーセキュリティなど）についても扱う。 国際政治学、とりわけ東アジアの国際関係は私たちの生活に深く関連している。グローバル化が深化している今日では、公的機関や企業の活動だけでなく、我々個人の安全と安心も国際情勢の変動に影響されている。日々起きている時事問題を知ることが極めて重要だが、情報を手に入れるだけでは国際政治を理解できるわけではない。本演習では、受講者は国際政治学の専門書や論文集を講読し、ディスカッションを重ねることで国際政治に関連する知識を学ぶのと同時に国際政治学の分析手法を習得する。 受講者の理解度と要望に合わせて、内容を調整する可能性がある。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 国際政治の過去、現在と未来に関する基本的な知識を身につけること ・ 国際政治学の基本的な分析手法を理解し、習得すること ・ 国際社会におけるさまざまな課題の存在を認識し、批判的に分析できること ・ 積極的な学修姿勢を身に付け、専門的なアカデミックスキルを応用できること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設ける ・ Microsoft Teams を活用して受講者と情報共有や個別指導を行う ・ 必要場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介する		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本国際政治学会学会誌『国際政治』各号（購入する必要はありません） ・ 受講者が発表で使用する論文を選択し、クラスメイトと情報を共有する ・ 新たな文献を追加する場合は受講者と相談して決定する ＊『国際政治』刊行後 2 年以降の号の論文については以下のウェブサイト自由にダウンロードし、読むことができます。刊行 2 年以内の論文に関しては直接担当者に相談してください。 https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kokusaiseiji/-char/ja	ISBN	0454-2215 (International Standard Serial Number)
参考書	国際政治学, 中西寛、石田淳、田所昌幸、有斐閣、2013 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	40
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・ 普段積極的に国際政治に関連する新聞記事、書籍や論文を読むこと	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の概要、目的、教材について説明する。	授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習を行う	2 時間
第2回	対面	班分け、発表内容の確認、卒業研究進捗確認	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第3回	対面	卒業研究、卒業論文の進め方について	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第4回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第5回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第6回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第7回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第8回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・ 論文の内容を読み、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間

第9回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第10回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第11回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第12回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第13回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第14回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、卒業研究の内容に合わせて発表論文を決定する ・論文の内容を読み、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第15回	オンデマンド	授業のまとめ、質疑応答	・授業の復習を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間

科目名	専門演習ⅢA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中西 亮太	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語そのものを研究対象として扱う言語学の観点から、言語にまつわる諸問題を研究する。		
授業の目的及び概要	今までに履修した講義科目等で学修した言語学に関する知識や理論を言語にまつわる諸問題に応用することで学術的な研究を進め、専門演習Ⅱから研究を進めてきたテーマに基づいて履修者それぞれの卒業研究の完成を目指す。授業ではその成果を適宜報告し、ディスカッション等を通じてより質の高い卒業論文の執筆へとつなげる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	専門演習Ⅱから続けてきた研究を進め、より発展的な卒業研究な行うことを目的とする。これまでの学修で培ったさまざまな知識や理論を実践的に応用し、学生一人ひとりの課題に応じた分析や考察を行う力とそれを一つの成果としてまとめる力を養う。また、授業中のグループでの取り組みを通して、主体性や協働性、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	卒業研究については、理論や分析・考察方法に対して適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。また、発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する形でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	適宜論文等の文献資料を配布する。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	卒業研究報告レポート 40％	
この科目の受講にあたって	授業でのさまざまなテーマのディスカッションや意見交換を通して、世界中の様々な言語そのものや言語にまつわる現象に対して熱心に取り組むことを期待します。学生一人ひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分ならではの「答え」を探していくことを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション（授業の目的や目標、進め方などの概要を説明する）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第2回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々人の調査・研究の検討（1）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第3回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々人の調査・研究の検討（2）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間

第4回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々人の調査・研究の検討 (3)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など)	4 時間
第5回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々人の調査・研究の検討 (4)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など)	4 時間
第6回	対面	卒業研究中間発表について	卒業研究中間発表に向けた準備 (論点整理やレジュメ作成など)	4 時間
第7回	対面	全体でのディスカッションを通じた個々人の調査・研究の検討 (5)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など)	4 時間
第8回	対面	卒業研究中間発表 (1)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第9回	対面	卒業研究中間発表 (2)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第10回	対面	卒業研究中間発表 (3)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第11回	対面	卒業研究中間発表 (4)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第12回	対面	卒業研究中間発表 (4)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第13回	対面	卒業研究中間発表 (5)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第14回	対面	卒業研究中間発表 (6)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第15回	オンデマンド	卒業研究中間発表と授業全体の総括	授業での取り組みと総括を通して卒業研究を再整理し、卒業論文の執筆を進める (約 8000 字)。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	菅原 絵美	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	人に関わるさまざまなグローバル課題（人種やジェンダーに基づく差別、現代奴隷や児童労働、難民、子ども兵士、気候変動や海洋プラスチック問題など）を国際法の視点から考える。		
授業の目的及び概要	講義科目等で学修した法・政治に関する知識や理論をグローバル課題（人権、環境、国際犯罪、腐敗防止、武力紛争等）の解決に向けた国際的な法政策に対して応用し、さらなる分析・考察を行うことで総合的学修を行う。授業の前半では、「専門演習ⅢA」で学修した内容に基づき、個々の履修生がテーマに関連した調査・分析を行う。授業の後半では、調査・分析した内容を発表し、教員や履修生間でディスカッションを行うことで、その内容についての理解を深め、課題研究を完成させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業では、「専門演習ⅢA」に引き続き、専門テーマに基づく課題研究に取り組む。各自、課題研究の成果を中間発表し、授業での討論を通して、検討しなければならない具体的な課題を明確にする。また、調査、分析、発表といった一連のプロセスを行う能力と筋道を立てて考える力等をさらに向上させる。学士課程における学修の締めくくりとして、教員の指導のもとで研究成果を完成させる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表資料・レジュメについては発表の 1 週間前にラーニングポータルに提出してもらい、教員が確認・添削を行いフィードバックする。さらに卒業研究については、授業での最終発表後、クラスメイトおよび教員からフィードバックを行う。卒業論文・レポートについても適宜フィードバックを行い指導する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし	ISBN	なし
参考書	①新グローバル公共政策（改定第 2 版）， 庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆（編）， 晃洋書房， 2021 年 ②国際人権法の考え方， 川島聡・菅原絵美・山崎公土， 法律文化社， 2021 年 ③国際条約集， 植木俊哉・中谷和弘（編集代表）， 有斐閣， 2024 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	60	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	学生ひとりひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分なりの「答え」を探していくような、参加型の講義にしたいと思っているので、授業のなかで感じた疑問や興味は積極的に発言してほしい。		

卒業研究を完成させ、卒業論文または卒業レポートにまとめよう。そして、学生研究発表大会、さらに顕彰論文への応募とつなげていこう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	卒業研究の進捗に関するワークシートに記入しラーニングポータルに提出する。また授業で学んだポイントから見直しシートを再提出する。	4時間
第2回	対面	卒業論文の作成にあたって（1） 卒業研究ガイドを基に、卒業研究を完成させる際の実質面（国際法・政治の理論からの検証、先行研究の追加など）について確認する。	関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第3回	対面	卒業論文の作成にあたって（2） 卒業研究ガイドを基に、卒業研究を完成させる際の形式面（参考文献、脚注など）について確認する。	関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第4回	対面	卒業研究の最終発表（1） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第5回	対面	卒業研究の最終発表（2） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第6回	対面	卒業研究の最終発表（3） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第7回	対面	卒業研究の最終発表（4） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第8回	対面	卒業研究の最終発表（5） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第9回	対面	卒業研究の最終発表（6） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第10回	対面	卒業研究の最終発表（7） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第11回	対面	卒業研究の最終発表（8） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第12回	対面	卒業研究の最終発表（9） 個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	発表者の発表資料および関連文献をラーニングポータルに掲載するので予習を行う。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第13回	対面	卒業論文の見直し指導（1）	各自卒業論文の執筆を続ける。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第14回	対面	卒業論文の見直し指導（2）	各自卒業論文の執筆を続ける。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 授業全体の総括を行う。	卒業研究をまとめた論文をラーニングポータルを通じて提出する。授業後は、授業での指摘を受けて、自身の研究の修正を行う。	4時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伍 躍	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	グローバル・ヒストリー(global history)の観点から政治・経済・社会を学修する。		
授業の目的及び概要	専門演習ⅢA の内容に基づいて、歴史の視点から現代社会の諸課題を引き続き学び、分析・考察を通して各自が取り組む課題研究を発展させることを目的とする。テーマに関連する文献調査を調査し、それに基づき考察することで、課題研究を深めていく。課題研究の成果は、授業において報告（個人かグループ）を行い、教員による指導のもと履修生間で討論を行う。		
履修条件・留意点	「やる気」のみ。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現代社会の諸課題を観察して、歴史の視点で理解し自らの見解をまとめることができる。 ②特定のテーマに関する調査・研究を行い、国際社会の多様性、異なる価値観や文化的背景をもつ他者との協働に資する有為な論点や処方を獲得することができる。 ③プレゼン力・協働力のさらなる向上を目指す。 ④卒業論文を提出することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①提出物（コメントペーパーやレポート）は次回以降の授業で返却し、演習内で他の学生を交えて意見交換を行う。 ②ラーニング・ポータルのディスカッション機能を含む ICT手段を活用する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用。	ISBN	なし
参考書	吉澤誠一郎編『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い』、ミネルヴァ書房、2021	ISBN	9784623092178
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	大学における学修生活 4 年間の集大成と記念としての卒業論文の執筆に励んでいただきたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション ①授業計画説明 ②卒業論文の進捗状況の確認 ③個人面談	復習：配布資料をもとに、本学部のスケジュールを確認し、自らの履修計画を考える（2 時間程度） 予習：配布資料をもとに、資料調査・収集のポイントを事前に確認する（2 時間程度）	4 時間
第 2 回	対面	学位論文の構成と仕上げの方法	復習：配布資料をもとに、資料調査・収集のポイント	4 時間

		「卒業研究ガイド」の再確認	を再確認する（2時間程度） 予習：配布資料をもとに、研究課題の選定／調整を行う（2時間程度）	
第3回	対面	卒業研究として現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	卒業研究として現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	卒業研究として現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	卒業研究として現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	卒業研究として現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	卒業研究として現代社会の諸課題に関する調査テーマの検討・発表をし、教員と履修生がディスカッションを行う。	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	学生研究発表大会への参加	①出場資料、とりわけ配布したレジュメを発表の概要を把握する（2時間） ②発表内容を復習して、感想文を書く。（2時間）	4時間
第10回	対面	卒業研究の仕上げに向けて	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	卒業研究の最終発表1	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	卒業研究の最終発表2	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	卒業研究の最終発表3	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	卒業研究の最終発表4	復習：教員が指定した資料を使って事後学修すること（2時間程度）。 予習：教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデマンド	振り返り・まとめ ＊以上の授業計画は卒業研究の進捗状況に応じて、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。	復習＋予習：卒業論文を執筆すること（6時間以上）	6時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	浅見 緑	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界とのつながりに目を向け、その背景にある社会状況や考え方を理解する。		
授業の目的及び概要	この科目は、国際コミュニケーションコースに所属する学生のための演習です。 「専門演習ⅢA」に引き続き、演習での学修を通じて、異文化に対する理解と多文化共生を育み、世界各国・地域の文化、歴史、および現代の社会事情に精通した能力を身につけることを目標にしています。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）文化、ことば、文学などを通して、世界とのつながりに目を向け、その背景にある社会状況や考え方を理解する。 （２）これまで講義科目で得た知識や理論、留学・体験などの経験を結びつけ、学生研究発表大会の参加を目指し、卒業論文を完成させる。 （３）演習での活動を通して、コミュニケーション能力やリーダーシップ等の社会人基礎力の向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業時または次回以降の授業時に、振り返り、コメント、添削などのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しませんが、必要に応じて授業時に指示します。	ISBN	なし
参考書	必要に応じて、授業時に紹介します。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	基本資料の収集・輪読、調査・分析、ゼミ生どうしの活発な意見交換・協働作業、プレゼンテーション、レポートの作成などを通して、異なる視点から物事を見ることができ、お互いの価値観が揺さぶられるような演習になればと思っています。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション	夏季休暇中の計画とその進捗について確認する。	4 時間
第2回	対面	卒業論文完成に向けて（１）	卒業論文の完成に向けて、必要な事項を確認する。	4 時間
第3回	対面	卒業論文完成に向けて（２）	卒業論文の完成に向けて、必要な事項を確認する。	4 時間
第4回	対面	卒業論文完成に向けて（３）	卒業論文の完成に向けて、必要な事項を確認する。	4 時間

第5回	対面	卒業論文の最終報告（1）	各自指摘された事項を踏まえ、卒業論文の完成に向けて取り組む。	4 時間
第6回	対面	卒業論文の最終報告（2）	各自各自指摘された事項を踏まえ、卒業論文の完成に向けて取り組む。	4 時間
第7回	対面	卒業論文の最終報告（3）	各自指摘された事項を踏まえ、卒業論文の完成に向けて取り組む。	4 時間
第8回	対面	卒業論文の最終報告（4）	各自指摘された事項を踏まえ、卒業論文の完成に向けて取り組む。	4 時間
第9回	対面	卒業論文の最終報告（5）	各自指摘された事項を踏まえ、卒業論文の完成に向けて取り組む。	4 時間
第10回	対面	卒業論文の最終報告（6）	各自指摘された事項を踏まえ、卒業論文の完成に向けて取り組む。	4 時間
第11回	対面	卒業論文の最終報告（7）	各自指摘された事項を踏まえ、卒業論文の完成に向けて取り組む。	4 時間
第12回	対面	卒業論文の最終報告（8）	各自指摘された事項を踏まえ、卒業論文の完成に向けて取り組む。	4 時間
第13回	対面	卒業論文提出前の最終点検（1）	各自完成させた卒業論文の最終推敲を行う。	4 時間
第14回	対面	卒業論文提出前の最終点検（2）	各自完成させた卒業論文の最終推敲を行う。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	各自提出までのスケジュールを確認し、卒業論文の最終稿を完成させる。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論からグローバリゼーションと文化について考察する		
授業の目的及び概要	この授業では、「専門演習ⅢA」に引き続き、専門分野における特定のテーマに関する知識を学修し、自身の調査・研究に取り組むことによって、テーマの設定、資料調査、分析、そして研究成果の発表にいたるまでの、一連のプロセスを学ぶことを目的とする。履修生は、各自の問題関心に基づき研究を進め、発表やディスカッションを通じたアウトプット力・論理的思考力を強化する。4 年間の学修の集大成として、12000 字の卒業論文を執筆する。		
履修条件・留意点	講義科目等で学修した知識や理論をグローバル社会の諸課題に対して応用し、分析・考察を行うことで総合的学修を行う科目として「演習科目」があります。学生は自らの興味・関心に応じて特定のテーマに関する調査・研究を行い、その過程を通して主体的に行動する態度・志向性を身につけ、創造的思考力の向上を図ります。演習においては、体験型学修やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体性やチームワーク、リーダーシップ、行動力等の「国際協働力」を身につけます。「演習科目」は、1 年次に「基礎演習 A」、「基礎演習 B」、2 年次に「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」、3 年次に「専門演習ⅡA」、「専門演習ⅡB」、4 年次に「専門演習ⅢA」、「専門演習ⅢB」を配当し、グローバル人材に求められる能力を向上させることを重視しつつ、履修指導やキャリア指導も行い、最終的に卒業論文を執筆します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	異文化理解・国際関係学・国際文化学に関する知識や理論をグローバリゼーションと文化に対して応用し、分析・考察を行うことができる。 自身の研究テーマに関して、根拠を用いて発表することができる。 他者の研究テーマと発表について、自身の考え方を伝え議論することができる。 自身の発表に向けて内容をまとめあげ、12000 字の卒業論文を執筆する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	グループでの調査については、その方法論と調査方法について、適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックをおこなう。また発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	使用しない。
参考書	①書名：'The Sociology Book: Big Ideas Simply Explained'、著者：Sarah Tomley and Mitchell Hobs、出版社：DK、出版年：2015 ②書名：『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』、著者：岸政彦ほか、出版社：有斐閣、出版年：2016 ③書名：『リキッド化する世界の文化論』、著者：ジグムント・バウマン、訳伊藤茂、出版社：青土社、出版年：2014	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際関係学、国際文化学、世界の文化的な事象を考察し、自身のテーマから研究を進め卒業論文の完成を目指します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション： 授業の目的・意義・方法・評価について 世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間2時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2時間）	4時間
第2回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2時間）	4時間
第3回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2時間）	4時間
第4回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（2時間）	4時間
第5回	対面	世界/国際関係/国際文化の省察 ・指定された章のグループ発表 ・指定された章の解説 ・ディスカッション ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第6回	対面	質的・量的調査の確認： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・個人発表	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第7回	対面	質的・量的調査の確認： ・調査の目的と意義 ・仮設の提示 ・調査方法の妥当性 ・分析方法 について理解する。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、自身の研究及び発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。（所要時間2時間）	4時間
第8回	対面	社会調査及び自身の研究①： 社会調査及び自身の研究発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。（所要時間1時間） 指定された章を熟読し、発表に向けた準備をおこなう。（所要時間1時間）	4時間

			各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	
第 9 回	対面	社会調査及び自身の研究②： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。 （所要時間 1 時間） 指定された章を熟読し、社会調査及び発表に向けた準備をおこなう。 （所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 10 回	対面	社会調査及び自身の研究③： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。 （所要時間 1 時間） 報告に向けた準備をおこなう。 （所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 11 回	対面	社会調査及び自身の研究④： 社会調査及び自身の発表をおこなう。	前回授業の学びの要点に関する事後学修をおこなう。 （所要時間 1 時間） 報告に向けた準備をおこなう。 （所要時間 1 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 12 回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察 個人発表	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。 （所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 13 回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察 個人発表	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。 （所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 14 回	対面	グローバリゼーションと文化に関する省察 個人発表	前回授業を復習し、自身の研究と課題を明らかにする。 （所要時間 2 時間） 各自の研究調査（資料調査・論文執筆）をおこなう。 （所要時間 2 時間）	4 時間
第 15 回	オンデマンド	2 年間の総括と卒論の講評	卒論を提出する。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	国際政治学の理論と現実を学ぶ		
授業の目的及び概要	本演習は国際政治学の観点からさまざまな国際問題を分析し、国際社会の過去、現在と未来について学ぶ。演習の中心的な分析対象はアジア太平洋地域の国際関係だが、それ以外の地域や新領域の国際問題（サイバーセキュリティなど）についても扱う。 国際政治学、とりわけ東アジアの国際関係は私たちの生活に深く関連している。グローバリゼーションが深化している今日では、公的機関や企業の活動だけでなく、我々個人の安全と安心も国際情勢の変動に影響されている。日々起こっている時事問題を知ることが極めて重要だが、情報を手に入れるだけでは国際政治を理解できるわけではない。本演習では、受講者は国際政治学の専門書や論文集を講読し、ディスカッションを重ねることで国際政治に関連する知識を学ぶのと同時に国際政治学の分析手法を習得する。 受講者の理解度と要望に合わせて、内容を調整する可能性がある。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 国際政治の過去、現在と未来に関する基本的な知識を身につけること ・ 国際政治学の基本的な分析手法を理解し、習得すること ・ 国際社会におけるさまざまな課題の存在を認識し、批判的に分析できること ・ 積極的な学修姿勢を身に付け、専門的なアカデミックスキルを応用できること ・ 4 年間の集大成である卒業論文を完成させること		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 授業中や授業終了後に質疑応答の時間を設ける ・ Microsoft Teams を活用して受講者と情報共有や個別指導を行う ・ 必要な場合は補足資料を配布（あるいはラーニングポータルで公開）し、参考資料、文献を紹介する		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本国際政治学会学会誌『国際政治』各号（購入する必要はありません） ・ 受講者が発表で使用する論文を選択し、クラスメイトと情報を共有する ・ 新たな文献を追加する場合は受講者と相談して決定する ＊『国際政治』刊行後 2 年以降の号の論文については以下のウェブサイト自由にダウンロードし、読むことができます。刊行 2 年以内の論文に関しては直接担当者に相談してください。 https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kokusaiseiji/-char/ja	ISBN	0454-2215 (International Standard Serial Number)
参考書	国際政治学, 中西寛、石田淳、田所昌幸、有斐閣、2013 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・ 普段積極的に国際政治に関連する新聞記事、書籍や論文を読むこと	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 授業の概要、目的、教材について説明する。	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	2 時間
第2回	対面	班分け、発表内容の確認、卒業研究進捗確認	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第3回	対面	卒業研究、卒業論文の進め方について	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第4回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第5回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第6回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第7回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第8回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第9回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第10回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・ 卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第11回	対面	受講者発表・ディスカッション	・ 授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・ 発表の日程を確定し、発表の準備を行う	4 時間

			・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	
第12回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第13回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第14回	対面	受講者発表・ディスカッション	・授業の概要とテキスト『国際政治』の内容を確認し、予習、復習を行う ・発表の日程を確定し、発表の準備を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間
第15回	オンデマンド	授業のまとめ、質疑応答	・授業の復習を行う ・卒業研究の進捗を確認し、卒業研究を進める	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	金子 治平	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	卒業研究を行い、各国の経済発展の要因・現状・課題に関する卒業研究論文を執筆する		
授業の目的及び概要	専門演習ⅢA・B では、専門演習ⅡA・B で各自が決定した卒業研究の課題についての研究を進め、卒業研究論文を執筆することを目的とします。 とくにデータの扱いやアンケート調査について学びたい学生には、授業時間外に学習を行いますので申し出てください。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	自ら卒業研究のテーマに関係する文献を収集し、批判的に読解することができる 自ら卒業研究のテーマに関係するデータを収集し、分析することができる 卒業研究論文を執筆することができる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間外に、グループあるいは個別にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定ですが、必要に応じて授業内で指示させていただきます。	ISBN	なし
参考書	必要があれば、授業中に紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	30	
	その他の内容	卒業研究論文	
この科目の受講にあたって	・ 授業には必ず出席してください。 ・ やむをえず欠席する場合には、直前でもいいので事前に連絡してください。 ・ 出席しなかった場合には、次回までに補習を行いますので出席してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション 専門演習ⅢA を踏まえて、これからの研究の進め方について説明します。	夏休み中の卒業研究の進捗状況をまとめておいてください。	4 時間
第2回	対面	卒業研究論文の執筆についての留意点	講義内容（特に、卒業研究論文の形式的な側面に関する説明）をよく復習して、しっかりと理解し、実践できるようにしてください。	4 時間
第3回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（1）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況について	4 時間

			てまとめておいてください。	
第4回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（2）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第5回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（3）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第6回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（4）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第7回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（5）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第8回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（6）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第9回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（7）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第10回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（8）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第11回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（9）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第12回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（10）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第13回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（11）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第14回	対面	卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況の発表と検討（12）	事前学習として、各自の卒業研究を進展させて、各自の卒業研究の進捗・卒業研究論文の執筆状況についてまとめておいてください。	4 時間
第15回	オンデマンド	まとめ	事前学習として、各自の卒業研究を振り返ってください。	4 時間

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	ミルズ・ジョナサン	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	日本文化および比較文化について学修する。		
授業の目的及び概要	この授業は、「専門演習ⅢA」に引き続き、各自が取り組むテーマを絞り込んでいくとともに考察を深めていくことを目的とする。現代はグローバル社会が進んでおり、国境を越えたやり取りが年々増えています。これから日本の職場で活動する人にとっては、日本文化の特徴をより深く理解し、かつ外国人に対して英語で説明することは非常に重要な課題です。この専門演習では、日本文化の特徴について考えます。現在の文化の現象もちろん、近代以前の時代の文化も視野に入れ、より深く考えます。また、国際共修の観点から、他国（または自国）の文化との比較を行います。この演習は主に英語で行われます。教材は、日本文化に関する文献からの文章を精読し、英語でのペアワーク、グループワーク、学生発表等を実施します。この専門演習の学修と実践を通じて、現代の職場に求められている強い「異文化理解力」も築くことを望んでいます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業の前半では、日本文化・比較文化に関する教材に基づいて個々の履修生が説明を行う。授業の後半では、グループに分かれ、特定のテーマに関する調査を行い、発表に向けて内容をまとめあげる。グループディスカッション等のグループでの取組を通して、主体性やチームワーク、リーダーシップ等を身につける。英語で説明・発表できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内および授業時間前後に個別にフィードバックする。発表後に口頭でコメントを行う。レポートにはコメントを付して返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Japanese Popular Culture in English: Discussions and Critical Thinking, Robert Sheridan et al., 南雲堂, 2024.（通年使用。）	ISBN	9784523179641
参考書	なし。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	4 年間の集大成である卒業論文の執筆に励んでいただきたい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	授業の目的や目標、進め方など授業の概要を説明する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第2回	対面	教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の課題研究に関連する調査・分析のテーマを検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第3回	対面	教員や履修生間でのディスカッションにより、個々の課題研究に関連する調査・分析のテーマを検討する。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	日本文化、比較文化に関する課題研究に関連する調査・分析を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	これまでの研究成果の取りまとめと研究手法、レポート作成について指導を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	個々の課題研究の内容を発表し、教員と履修生がディスカッションを行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること（2時間程度）。	4時間
第15回	オンデ	授業全体の総括を行う。	教員が指定した文献資料を事前に読むこと（2時間程度）。	4時間

2026/05/01

	マンド		度)。 教員が指定した課題に取り組み事後学修すること (2 時間程度)。	

科目名	専門演習ⅢB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中西 亮太	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	言語そのものを研究対象として扱う言語学の観点から、言語にまつわる諸問題を研究する。		
授業の目的及び概要	今までに履修した講義科目等で学修した言語学に関する知識や理論を言語にまつわる諸問題に応用することで学術的な研究を進め、専門演習ⅢA に引き続き、専門演習Ⅱから研究を進めてきたテーマに基づいて履修者それぞれの卒業研究の完成を目指す。授業ではその成果を適宜報告し、ディスカッション等を通じてより質の高い卒業論文の執筆へとつなげる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	専門演習ⅢA に引き続き、専門演習Ⅱから続けてきた研究を進め、より発展的な卒業研究な行うことを目的とする。ディスカッション等を通じて得られた知見をもとに、発表で指摘された課題等について再検討を行ったうえで適宜修正を行い、4 年間の学修成果としての卒業論文を完成させる。また、授業中のグループでの取り組みを通して、主体性や協働性、リーダーシップ等を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	卒業研究については、理論や分析・考察方法に対して適切なコメントやアドバイスをし、フィードバックを行う。また、発表・レポートについてはコメントや改善点を提示する形でフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	適宜論文等の文献資料を配布する。	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	卒業研究報告レポート 40%	
この科目の受講にあたって	授業でのさまざまなテーマのディスカッションや意見交換を通して、世界中の様々な言語そのものや言語にまつわる現象に対して熱心に取り組むことを期待します。学生一人ひとりが「問い」を持ち、授業を通じて自分ならではの「答え」を探していくことを期待します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	イントロダクション（授業の目的や目標、進め方などの概要を説明する）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第 2 回	対面	卒業研究最終発表と卒業論文の完成に向けて	発表および執筆の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など）	4 時間
第 3 回	対面	卒業研究最終発表（1）	発表の準備（資料調査、論点や研究の整理、レジュメ	4 時間

			作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	
第4回	対面	卒業研究最終発表 (2)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第5回	対面	卒業研究最終発表 (3)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第6回	対面	卒業研究最終発表 (4)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第7回	対面	卒業研究最終発表 (5)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第8回	対面	卒業研究最終発表 (6)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第9回	対面	卒業研究最終発表 (7)	発表の準備 (資料調査、論点や研究の整理、レジュメ作成など) 授業後は、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業研究の修正と推敲を行う。	4 時間
第10回	対面	卒業論文の編集 (1)	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第11回	対面	卒業論文の編集 (1)	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第12回	対面	卒業論文の編集 (1)	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第13回	対面	卒業論文の編集 (1)	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第14回	対面	卒業論文の編集 (1)	卒業研究を進め、授業中に受けた質問や指摘、コメントを踏まえて卒業論文の修正と推敲を行う。	4 時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括	授業での取り組みと総括を通して卒業研究を完成させる。	4 時間

科目名	卒業論文		開講年度	2026 年度春学期
担当者	演習ⅢA・B 担当教員		配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	4 単位
グレード	G4		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	卒業論文の作成			
授業の目的及び概要	「専門演習ⅢA・B」での報告と教員の指導をもとに、卒業論文を完成させます。詳細について、年度初めに発行する『卒業研究ガイド』を必ず参照してください。 3年次に選んだ自身の所属ゼミの専攻分野の中からテーマを選び、情報利活用力、文献理解力、検証・考察力、文章作成力、そして自分の集中力と忍耐力のすべてを使って完成させます。4年間にわたる国際学を中心とする大学の学びの集大成というべきものです。 卒業論文の執筆を通して、国際学の専門知識を深め、社会で活躍するために必要な現代社会の諸課題の解決に向けて取り組む力を身につけます。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	自身が設定したテーマに関して、これまでにどのようなことが議論されてきたのかを整理し、残された課題や自身の意見を述べるができるようになること。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	論文の添削・指導を行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み				
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	—		ISBN	—
参考書	—		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	100		
	その他の内容	卒業論文		
この科目の受講にあたって	12,000 字以上の卒業論文を執筆し、社会で活躍することができる力を身につけてください。合格作品は図書館で永久保存し、学内での閲覧に供します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	—	—	6 時間
第2回	対面	—	—	6 時間
第3回	対面	—	—	6 時間
第4回	対面	—	—	6 時間
第5回	対面	—	—	6 時間

2026/05/01

第6回	対面	—	—	6 時間
第7回	対面	—	—	6 時間
第8回	対面	—	—	6 時間
第9回	対面	—	—	6 時間
第10回	対面	—	—	6 時間
第11回	対面	—	—	6 時間
第12回	対面	—	—	6 時間
第13回	対面	—	—	6 時間
第14回	対面	—	—	6 時間
第15回	オンデマンド	—	—	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクト A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	陸 麗君		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回（授業 5 回分）程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点	事前・事後学習と現地体験、見学、交流活動において、主体性やチームワーク、リーダーシップが求められる。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	なし
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		20	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		30	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクトA		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高砂 謙二		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力の向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	なし。
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		30	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくこと			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクトA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回（授業 5 回分）程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。		
履修条件・留意点	事前・事後学習と現地体験、見学、交流活動において、主体性やチームワーク、リーダーシップが求められる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	なし
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート 課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクト A		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力の向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		60	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める事前学習：翌 日の活動を確認し、獲得目標を立てる事後学修：一日 の活動をまとめる	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクト A		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木村 彩音		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		60	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意(危機管理オリエン テーション(1)、ビザ情報含む)、個人/チ ーム別プレゼンテーションの担当決めお よび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(1) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション、プログラムの到達目標・ 意義、ボランティア・文化活動および交流 イベントでのプレゼンテーション案など のディスカッション	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(2) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション、プログラムの到達目標・ 意義、ボランティア・文化活動および交流 イベントでのプレゼンテーション案など のディスカッション	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、 調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(3) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション(1人5分)、プログラムの 到達目標・意義、ボランティア・文化活 動および現地での交流でのプレゼンテ ーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と 渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第5回	対面	ボランティア・文化紹介活動の企画、日本 文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第6回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シ ートの作成と提出、危機管理オリエンテ ーション(2)	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第7回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域 の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準 備(1) 1) オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディ スカッション、危機管理オリエンテーシ ョン(3) 2) 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3) 研修中の活動に関わる準備(1) 4) チームビルディング 5) 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第8回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第9回	対面	フィールドワーク(1) 派遣国の社会、政治、経済に関するフィ ールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第10回	対面	フィールドワーク(2) フィールドワーク(日系企業、NGOの訪問・ インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第11回	対面	ボランティア・文化交流活動(1) 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設(孤児院)やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第12回	対面	ボランティア・文化交流活動(2) 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設(孤児院)やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第13回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回のFId. Pで学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第14回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6時間
第15回	対面	学修成果発表 フィールド・プロジェクトIを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、レポート作成に向けた準備	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6時間

科目名	フィールド・プロジェクト A		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	池上 寛		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	台湾に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	このフィールド・プロジェクトでは台湾について学び、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地フィールドワークなどの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	事前学習や現地でのグループによるフィールドワークについての発表、あるいは帰国後の個人発表などを通じて、学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N. A.	
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	40		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	10		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	現地活動		
この科目の受講にあたって	このフィールド・プロジェクトはアジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うものである。このフィールド・プロジェクトでは台湾を取り上げ、台湾の文化・社会・経済などを知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学ぶ。また、輔仁大学との学生交流を通じて、国際的な感覚も養う機会とする。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式		学修時間
第1回	対面	事前学習(1) オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介を行うとともに、輔仁大学について学ぶ。また、前回実施したフィールド・プロジェクト(台湾)を振り返る。 渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション(1)、ビザ情報含む)について説明する。	事前学修:台湾について調べるとともに、自己紹介の準備をする 事後学修:台湾について、図書やインターネットを通じて知識を深める
第2回	対面	事前学修(2) 輔仁大学の学生と一緒にを行うフィールドワークのグループ分けについて発表し、オンラインで輔仁大学とつないで交流を行い、今後の活動について説明する。 また、成績評価、グループ発表(事前事後)、個人発表、最終レポートについて説明する。	事前学修:台湾について、基本的な情報を図書やインターネットを通じて調べ、理解を深める。 事後学修:渡航してから行うフィールドワークについて、グループ内で調査内容や行き先について議論し、決定する。
第3回	対面	事前学修(3) 動画撮影のコツ(その1)	事前学修:現地でどのような動画を撮影するかを考えておく。 事後学修:講義で学修した動画撮影・編集の復習をしておく。
第4回	対面	事前学修(4) 動画撮影のコツ(その2)	事前学修:現地でどのような動画を撮影するかを考えておく。 事後学修:講義で学修した動画撮影・編集の復習をしておく。
第5回	対面	事前学修(5) 訪問機関および簡単な中国語についての講義	事前学修:現地訪問先について調べるとともに、訪問した際の質問を考える。 事後学修:学修した中国語の復習、渡航準備を進める
第6回	対面	事前学修(6) フィールドワークについての事前報告:各グループ5分程度の発表を行う。 出発前のプログラムの最終確認、電子入境申請、渡航についての注意事項について講義する。	事前学修:グループで行うフィールドワークについての発表準備をすること。 事後学修:教職員からのコメントを踏まえて、グループ内でフィールドワークの調整を行うこと。渡航の最終確認をすること。
第7回	対面	現地活動(1)移動、顔合わせ	事前学修:輔仁大学の学生とフィールドワークについての議論 事後学修:フィールドワークの成果発表の準備
第8回	対面	現地活動(2)	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第9回	対面	現地活動(3)	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第10回	対面	現地活動(4)	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第11回	対面	現地活動(5) 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第12回	対面	現地活動(6) 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第13回	対面	現地活動(7) 劉・輔仁大学副教授の特別講義 グループによるフィールドワークの成果発表	事前学修:成果発表の準備をする 事後学修:一日の活動をまとめ、帰国準備をする
第14回	対面	事後学修(1) 輔仁大学とオンライン接続して、活動の振り返り	動画発表の準備を行うとともに、個人発表の準備

2026/05/01

		動画発表		
第15回	対面	事後学修（2） 個人成果発表	個人発表の準備を行うとともに、個人最終レポートの準備	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトA		開講年度	2026 年度春学期
担当者	徐 潤雅		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間～約 3 週間（プログラムにより異なる）の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点	授業への積極的な参加度および取組みは、事前・現地・事後の学修(活動・体験)を含めて評価する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修・生活・交流・ボランティア活動等への参加を通じて、 ・異なる人々と円滑にコミュニケーションを行うことができる。 ・国際理解や国際性について説明することができる。 ・チームワークやリーダーシップを意識して協働することができる。 ・大学での学修に対する意欲を高めることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中、または現地学修の総括後に、各見学地において学んだ内容について、学習者との対話を重視したディスカッションを行い、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地活動	
この科目の受講にあたって	本フィールド・プロジェクトは、韓国を対象とした地域研究を通して、「社会的文脈に根ざした学修」として、国際的な視野と感覚を身につけることを目的とするプログラムです。事前学修では、現地学修に向けた心構えを考えるためのブレインストーミングを行うとともに、韓国の言語・文化・社会について、多角的な視点から学んでいきます。こうした学びを踏まえて現地プログラムに参加することで、教室で得た知識と実体験が結びつき、国際的な文脈の中で物事を捉える力が養われます。自身の興味・関心を起点としながら視野を広げ、異なる価値観や文化を相対化して理解する姿勢を身につけ、将来的には卒業研究や国際的な進路選択へとつなげていくことを目指します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、危機管理オリエンテーション（1）	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第2回	対面	講義とディスカッション：渡航先となる国・地域理解（1）	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第3回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第4回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（1）	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第5回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第6回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（3） 目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第7回	対面	現地学修（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第8回	対面	現地学修（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第9回	対面	現地学修（3） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第10回	対面	現地学修（4） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第11回	対面	文化体験（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第12回	対面	文化体験（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第13回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（1）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第14回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（2）	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6時間
第15回	対面	学修成果発表 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのレポート発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトA		開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田 真也		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		60	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意(危機管理オリエン テーション(1)、ビザ情報含む)、個人/チ ーム別プレゼンテーションの担当決めお よび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(1) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション、プログラムの到達目標・ 意義、ボランティア・文化活動および交流 イベントでのプレゼンテーション案など のディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第3回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、 調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(2) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション(1人5分)、プログラムの 到達目標・意義、ボランティア・文化活 動および現地での交流でのプレゼンテー ション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と 渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第5回	対面	語学授業(英語+研修国・地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、 ボランティア・文化紹介活動の企画、日本 文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第6回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シー トの作成と提出、危機管理オリエンテーシ ョン(2)	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第7回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域 の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準 備(1) 1) オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディ スカッション、危機管理オリエンテーシ ョン(3) 2) 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3) 研修中の活動に関わる準備(1) 4) チームビルディング 5) 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第8回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第9回	対面	フィールドワーク(1) 派遣国の社会、政治、経済に関するフィー ルドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第10回	対面	フィールドワーク(2) フィールドワーク(日系企業、NGOの訪問・ インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第11回	対面	ボランティア・文化交流活動(1) 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア・文化交流	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

		活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成		
第12回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第13回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第14回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第15回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクト A		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福田 真也		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回（授業 5 回分）程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし。		ISBN	なし。
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		40	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第5回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第6回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第7回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間

科目名	フィールド・プロジェクトA		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	尹 恵彦		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間～約 3 週間（プログラムにより異なる）の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点	授業への積極的な参加度および取組みは、事前・現地・事後の学修(活動・体験)を含めて評価する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修・生活・交流・ボランティア活動等への参加を通じて、 ・異なる人々と円滑にコミュニケーションを行うことができる。 ・国際理解や国際性について説明することができる。 ・チームワークやリーダーシップを意識して協働することができる。 ・大学での学修に対する意欲を高めることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中、または現地学修の総括後に、各見学地において学んだ内容について、学習者との対話を重視したディスカッションを行い、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地活動	
この科目の受講にあたって	本フィールド・プロジェクトは、韓国を対象とした地域研究を通して、「社会的文脈に根ざした学修」として、国際的な視野と感覚を身につけることを目的とするプログラムです。事前学修では、現地学修に向けた心構えを考えるためのブレインストーミングを行うとともに、韓国の言語・文化・社会について、多角的な視点から学んでいきます。こうした学びを踏まえて現地プログラムに参加することで、教室で得た知識と実体験が結びつき、国際的な文脈の中で物事を捉える力が養われます。自身の興味・関心を起点としながら視野を広げ、異なる価値観や文化を相対化して理解する姿勢を身につけ、将来的には卒業研究や国際的な進路選択へとつなげていくことを目指します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、危機管理オリエンテーション（1）	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：渡航先となる国・地域理解（1）	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4 時間
第3回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第4回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（1）	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4 時間
第5回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第6回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（3） 目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第7回	対面	現地学修（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4 時間
第8回	対面	現地学修（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第9回	対面	現地学修（3） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第10回	対面	現地学修（4） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第11回	対面	文化体験（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第12回	対面	文化体験（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第13回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（1）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第14回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（2）	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第15回	対面	学修成果発表 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのレポート発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクト A		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	調整中（国際学部）		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N. A.	
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	30		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	現地での研修評価		
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意、個人／チーム別プ レゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	危機管理オリエンテーション① (1)海外医療事情について (2)危機管理ハンドブックの説明 (3)緊急時の連絡方法など	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第3回	対面	危機管理オリエンテーション② (1)具体的なケースを想定しての危機管理 対応 (2)出発前のプログラムの最終確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (1) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (2) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする 事後学修：課題プレゼンテーションの内容を整理し、 自国と渡航先の国の違いをよく理解しておく。また、 現地語で挨拶程度の簡単な会話ができるように準備 しておく。	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (1) 日本語教育の歴史／日本語の教科書を知 る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (2) 直接法による教え方／やさしい日本語を 知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第8回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (3) 教案とレリアの作成の仕方／日本語学 習者の日本語の特徴を知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第9回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (4) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての企画案などの ディスカッション、グループ分け、担当者 決め	事前学習：実施可能で意義のある活動内容について 個人でアイデアを考え、簡単な企画メモを作成する。 参考資料を調べ、活動の目的・対象・方法を整理する。 事後学修：グループ活動の企画内容や自身の担当に 必要な情報や資料を調べ、整理する。	4 時間
第10回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (1) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第11回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (2) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第12回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (3) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間

		ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)についての準備および練習		
第13回	対面	現地活動 研修先での活動(模擬授業、フィールドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)の実践	事前学習: 担当する役割を確認し、必要な資料や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。 事後学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌の作成	4 時間
第14回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前・事後学習: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成	6 時間
第15回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成 事後学修: 活動日誌、レポートの完成と提出	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクト A		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	調整中（国際学部）		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地での研修評価	
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意、個人／チーム別プ レゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	危機管理オリエンテーション① (1)海外医療事情について (2)危機管理ハトブックの説明 (3)緊急時の連絡方法など	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第3回	対面	危機管理オリエンテーション② (1)具体的なケースを想定しての危機管理 対応 (2)出発前のプログラムの最終確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (1) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (2) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする 事後学修：課題プレゼンテーションの内容を整理し、 自国と渡航先の国の違いをよく理解しておく。また、 現地語で挨拶程度の簡単な会話ができるように準備 しておく。	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (1) 日本語教育の歴史／日本語の教科書を知 る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (2) 直接法による教え方／やさしい日本語を 知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第8回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (3) 教案とレリアの作成の仕方／日本語学 習者の日本語の特徴を知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第9回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (4) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての企画案などの ディスカッション、グループ分け、担当者 決め	事前学習：実施可能で意義のある活動内容について 個人でアイデアを考え、簡単な企画メモを作成する。 参考資料を調べ、活動の目的・対象・方法を整理する。 事後学修：グループ活動の企画内容や自身の担当に 必要な情報や資料を調べ、整理する。	4 時間
第10回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (1) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第11回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (2) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第12回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (3) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間

		ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)についての準備および練習		
第13回	対面	現地活動 研修先での活動(模擬授業、フィールドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)の実践	事前学習: 担当する役割を確認し、必要な資料や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。 事後学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌の作成	4 時間
第14回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前・事後学習: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成	6 時間
第15回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成 事後学修: 活動日誌、レポートの完成と提出	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度春学期
担当者	陸 麗君		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回（授業 5 回分）程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点	事前・事後学習と現地体験、見学、交流活動において、主体性やチームワーク、リーダーシップが求められる。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	なし
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		20	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		30	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力の向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		60	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める事前学習：翌 日の活動を確認し、獲得目標を立てる事後学修：一日 の活動をまとめる	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木村 彩音	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。		
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	60	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意(危機管理オリエン テーション(1)、ビザ情報含む)、個人/チ ーム別プレゼンテーションの担当決めお よび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(1) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション、プログラムの到達目標・ 意義、ボランティア・文化活動および交流 イベントでのプレゼンテーション案など のディスカッション	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(2) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション、プログラムの到達目標・ 意義、ボランティア・文化活動および交流 イベントでのプレゼンテーション案など のディスカッション	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、 調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(3) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション(1人5分)、プログラムの 到達目標・意義、ボランティア・文化活 動および現地での交流でのプレゼンテ ーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と 渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第5回	対面	ボランティア・文化紹介活動の企画、日本 文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第6回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シ ートの作成と提出、危機管理オリエンテ ーション(2)	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第7回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域 の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準 備(1) 1) オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディ スカッション、危機管理オリエンテーシ ョン(3) 2) 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3) 研修中の活動に関わる準備(1) 4) チームビルディング 5) 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第8回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第9回	対面	フィールドワーク(1) 派遣国の社会、政治、経済に関するフィ ールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第10回	対面	フィールドワーク(2) フィールドワーク(日系企業、NGOの訪問・ インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第11回	対面	ボランティア・文化交流活動(1) 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設(孤児院)やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第12回	対面	ボランティア・文化交流活動(2) 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設(孤児院)やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第13回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回のFId. Pで学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第14回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6時間
第15回	対面	学修成果発表 フィールド・プロジェクトIを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、レポート作成に向けた準備	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田 真也		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		60	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意(危機管理オリエン テーション(1)、ビザ情報含む)、個人/チ ーム別プレゼンテーションの担当決めお よび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(1) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション、プログラムの到達目標・ 意義、ボランティア・文化活動および交流 イベントでのプレゼンテーション案など のディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第3回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、 調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(2) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション(1人5分)、プログラムの 到達目標・意義、ボランティア・文化活 動および現地での交流でのプレゼンテー ション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と 渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第5回	対面	語学授業(英語+研修国・地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、 ボランティア・文化紹介活動の企画、日本 文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第6回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シー トの作成と提出、危機管理オリエンテーシ ョン(2)	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第7回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域 の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準 備(1) 1) オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディ スカッション、危機管理オリエンテーシ ョン(3) 2) 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3) 研修中の活動に関わる準備(1) 4) チームビルディング 5) 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第8回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第9回	対面	フィールドワーク(1) 派遣国の社会、政治、経済に関するフィー ルドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第10回	対面	フィールドワーク(2) フィールドワーク(日系企業、NGOの訪問・ インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第11回	対面	ボランティア・文化交流活動(1) 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア・文化交流	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

		活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成		
第12回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第13回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第14回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第15回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高砂 謙二		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力の向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	なし。
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		30	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくこと			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度春学期
担当者	徐 潤雅		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間～約 3 週間（プログラムにより異なる）の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点	授業への積極的な参加度および取組みは、事前・現地・事後の学修(活動・体験)を含めて評価する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修・生活・交流・ボランティア活動等への参加を通じて、 ・異なる人々と円滑にコミュニケーションを行うことができる。 ・国際理解や国際性について説明することができる。 ・チームワークやリーダーシップを意識して協働することができる。 ・大学での学修に対する意欲を高めることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中、または現地学修の総括後に、各見学地において学んだ内容について、学習者との対話を重視したディスカッションを行い、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地活動	
この科目の受講にあたって	本フィールド・プロジェクトは、韓国を対象とした地域研究を通して、「社会的文脈に根ざした学修」として、国際的な視野と感覚を身につけることを目的とするプログラムです。事前学修では、現地学修に向けた心構えを考えるためのブレインストーミングを行うとともに、韓国の言語・文化・社会について、多角的な視点から学んでいきます。こうした学びを踏まえて現地プログラムに参加することで、教室で得た知識と実体験が結びつき、国際的な文脈の中で物事を捉える力が養われます。自身の興味・関心を起点としながら視野を広げ、異なる価値観や文化を相対化して理解する姿勢を身につけ、将来的には卒業研究や国際的な進路選択へとつなげていくことを目指します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、危機管理オリエンテーション（1）	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第2回	対面	講義とディスカッション：渡航先となる国・地域理解（1）	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第3回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第4回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（1）	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第5回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第6回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（3） 目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第7回	対面	現地学修（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第8回	対面	現地学修（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第9回	対面	現地学修（3） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第10回	対面	現地学修（4） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第11回	対面	文化体験（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第12回	対面	文化体験（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第13回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（1）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第14回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（2）	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6時間
第15回	対面	学修成果発表 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのレポート発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	池上 寛		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	台湾に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	このフィールド・プロジェクトでは台湾について学び、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地フィールドワークなどの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	事前学習や現地でのグループによるフィールドワークについての発表、あるいは帰国後の個人発表などを通じて、学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N. A.	
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	40		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	10		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	現地活動		
この科目の受講にあたって	このフィールド・プロジェクトはアジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うものである。このフィールド・プロジェクトでは台湾を取り上げ、台湾の文化・社会・経済などを知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学ぶ。また、輔仁大学との学生交流を通じて、国際的な感覚も養う機会とする。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	事前学習(1) オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介を行うとともに、輔仁大学について学ぶ。また、前回実施したフィールド・プロジェクト(台湾)を振り返る。 渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション(1)、ビザ情報含む)について説明する。	事前学修:台湾について調べるとともに、自己紹介の準備をする 事後学修:台湾について、図書やインターネットを通じて知識を深める	4時間
第2回	対面	事前学修(2) 輔仁大学の学生と一緒にを行うフィールドワークのグループ分けについて発表し、オンラインで輔仁大学とつないで交流を行い、今後の活動について説明する。 また、成績評価、グループ発表(事前事後)、個人発表、最終レポートについて説明する。	事前学修:台湾について、基本的な情報を図書やインターネットを通じて調べ、理解を深める。 事後学修:渡航してから行うフィールドワークについて、グループ内で調査内容や行き先について議論し、決定する。	4時間
第3回	対面	事前学修(3) 動画撮影のコツ(その1)	事前学修:現地でどのような動画を撮影するかを考えておく。 事後学修:講義で学修した動画撮影・編集の復習をしておく。	4時間
第4回	対面	事前学修(4) 動画撮影のコツ(その2)	事前学修:現地でどのような動画を撮影するかを考えておく。 事後学修:講義で学修した動画撮影・編集の復習をしておく。	4時間
第5回	対面	事前学修(5) 訪問機関および簡単な中国語についての講義	事前学修:現地訪問先について調べるとともに、訪問した際の質問を考える。 事後学修:学修した中国語の復習、渡航準備を進める	4時間
第6回	対面	事前学修(6) フィールドワークについての事前報告:各グループ5分程度の発表を行う。 出発前のプログラムの最終確認、電子入境申請、渡航についての注意事項について講義する。	事前学修:グループで行うフィールドワークについての発表準備をすること。 事後学修:教職員からのコメントを踏まえて、グループ内でフィールドワークの調整を行うこと。渡航の最終確認をすること。	4時間
第7回	対面	現地活動(1)移動、顔合わせ	事前学修:輔仁大学の学生とフィールドワークについての議論 事後学修:フィールドワークの成果発表の準備	4時間
第8回	対面	現地活動(2)	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる	4時間
第9回	対面	現地活動(3)	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる	4時間
第10回	対面	現地活動(4)	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる	4時間
第11回	対面	現地活動(5) 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる	4時間
第12回	対面	現地活動(6) 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる	4時間
第13回	対面	現地活動(7) 劉・輔仁大学副教授の特別講義 グループによるフィールドワークの成果発表	事前学修:成果発表の準備をする 事後学修:一日の活動をまとめ、帰国準備をする	4時間
第14回	対面	事後学修(1) 輔仁大学とオンライン接続して、活動の振り返り	動画発表の準備を行うとともに、個人発表の準備	6時間

2026/05/01

		動画発表		
第15回	対面	事後学修（2） 個人成果発表	個人発表の準備を行うとともに、個人最終レポートの準備	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度春学期
担当者	徐 潤雅		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回（授業 5 回分）程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点	事前・事後学習と現地体験、見学、交流活動において、主体性やチームワーク、リーダーシップが求められる。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	なし
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		20	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		30	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福田 真也		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回（授業 5 回分）程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし。		ISBN	なし。
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		40	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	調整中（国際学部）		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N. A.	
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	30		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	現地での研修評価		
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意、個人／チーム別プ レゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	危機管理オリエンテーション① (1)海外医療事情について (2)危機管理ハンドブックの説明 (3)緊急時の連絡方法など	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第3回	対面	危機管理オリエンテーション② (1)具体的なケースを想定しての危機管理 対応 (2)出発前のプログラムの最終確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (1) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (2) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする 事後学修：課題プレゼンテーションの内容を整理し、 自国と渡航先の国の違いをよく理解しておく。また、 現地語で挨拶程度の簡単な会話ができるように準備 しておく。	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (1) 日本語教育の歴史／日本語の教科書を知 る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (2) 直接法による教え方／やさしい日本語を 知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第8回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (3) 教案とレリアの作成の仕方／日本語学 習者の日本語の特徴を知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第9回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (4) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての企画案などの ディスカッション、グループ分け、担当者 決め	事前学習：実施可能で意義のある活動内容について 個人でアイデアを考え、簡単な企画メモを作成する。 参考資料を調べ、活動の目的・対象・方法を整理する。 事後学修：グループ活動の企画内容や自身の担当に 必要な情報や資料を調べ、整理する。	4 時間
第10回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (1) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第11回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (2) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第12回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (3) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間

		ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)についての準備および練習		
第13回	対面	現地活動 研修先での活動(模擬授業、フィールドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)の実践	事前学習: 担当する役割を確認し、必要な資料や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。 事後学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌の作成	4 時間
第14回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前・事後学習: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成	6 時間
第15回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成 事後学修: 活動日誌、レポートの完成と提出	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	調整中（国際学部）		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N. A.	
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	30		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	現地での研修評価		
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意、個人／チーム別プ レゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	危機管理オリエンテーション① (1)海外医療事情について (2)危機管理ハンドブックの説明 (3)緊急時の連絡方法など	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深 める。	4 時間
第3回	対面	危機管理オリエンテーション② (1)具体的なケースを想定しての危機管理 対応 (2)出発前のプログラムの最終確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深 める。	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (1) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (2) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする 事後学修：課題プレゼンテーションの内容を整理し、 自国と渡航先の国の違いをよく理解しておく。また、 現地語で挨拶程度の簡単な会話ができるように準備 しておく。	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (1) 日本語教育の歴史／日本語の教科書を知 る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (2) 直接法による教え方／やさしい日本語を 知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第8回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (3) 教案とレリアの作成の仕方／日本語学 習者の日本語の特徴を知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第9回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (4) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての企画案などの ディスカッション、グループ分け、担当者 決め	事前学習：実施可能で意義のある活動内容について 個人でアイデアを考え、簡単な企画メモを作成する。 参考資料を調べ、活動の目的・対象・方法を整理する。 事後学修：グループ活動の企画内容や自身の担当に 必要な情報や資料を調べ、整理する。	4 時間
第10回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (1) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第11回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (2) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第12回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (3) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間

		ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)についての準備および練習		
第13回	対面	現地活動 研修先での活動(模擬授業、フィールドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)の実践	事前学習: 担当する役割を確認し、必要な資料や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。 事後学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌の作成	4 時間
第14回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前・事後学習: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成	6 時間
第15回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成 事後学修: 活動日誌、レポートの完成と提出	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトB		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	尹 恵彦		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間～約 3 週間（プログラムにより異なる）の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点	授業への積極的な参加度および取組みは、事前・現地・事後の学修(活動・体験)を含めて評価する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修・生活・交流・ボランティア活動等への参加を通じて、 ・異なる人々と円滑にコミュニケーションを行うことができる。 ・国際理解や国際性について説明することができる。 ・チームワークやリーダーシップを意識して協働することができる。 ・大学での学修に対する意欲を高めることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中、または現地学修の総括後に、各見学地において学んだ内容について、学習者との対話を重視したディスカッションを行い、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地活動	
この科目の受講にあたって	本フィールド・プロジェクトは、韓国を対象とした地域研究を通して、「社会的文脈に根ざした学修」として、国際的な視野と感覚を身につけることを目的とするプログラムです。事前学修では、現地学修に向けた心構えを考えるためのブレインストーミングを行うとともに、韓国の言語・文化・社会について、多角的な視点から学んでいきます。こうした学びを踏まえて現地プログラムに参加することで、教室で得た知識と実体験が結びつき、国際的な文脈の中で物事を捉える力が養われます。自身の興味・関心を起点としながら視野を広げ、異なる価値観や文化を相対化して理解する姿勢を身につけ、将来的には卒業研究や国際的な進路選択へとつなげていくことを目指します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、危機管理オリエンテーション（1）	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第2回	対面	講義とディスカッション：渡航先となる国・地域理解（1）	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第3回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第4回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（1）	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第5回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第6回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（3） 目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第7回	対面	現地学修（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第8回	対面	現地学修（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第9回	対面	現地学修（3） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第10回	対面	現地学修（4） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第11回	対面	文化体験（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第12回	対面	文化体験（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第13回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（1）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第14回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（2）	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6時間
第15回	対面	学修成果発表 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのレポート発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木村 彩音		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		60	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意(危機管理オリエン テーション(1)、ビザ情報含む)、個人/チ ーム別プレゼンテーションの担当決めお よび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(1) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション、プログラムの到達目標・ 意義、ボランティア・文化活動および交流 イベントでのプレゼンテーション案など のディスカッション	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(2) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション、プログラムの到達目標・ 意義、ボランティア・文化活動および交流 イベントでのプレゼンテーション案など のディスカッション	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、 調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(3) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション(1人5分)、プログラムの 到達目標・意義、ボランティア・文化活 動および現地での交流でのプレゼンテ ーション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と 渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第5回	対面	ボランティア・文化紹介活動の企画、日本 文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第6回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シ ートの作成と提出、危機管理オリエンテ ーション(2)	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第7回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域 の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準 備(1) 1) オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディ スカッション、危機管理オリエンテーシ ョン(3) 2) 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3) 研修中の活動に関わる準備(1) 4) チームビルディング 5) 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第8回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第9回	対面	フィールドワーク(1) 派遣国の社会、政治、経済に関するフィ ールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第10回	対面	フィールドワーク(2) フィールドワーク(日系企業、NGOの訪問・ インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

第11回	対面	ボランティア・文化交流活動(1) 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設(孤児院)やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第12回	対面	ボランティア・文化交流活動(2) 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設(孤児院)やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第13回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回のFId. Pで学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第14回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6時間
第15回	対面	学修成果発表 フィールド・プロジェクトIを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、レポート作成に向けた準備	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度春学期
担当者	徐 潤雅		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間～約 3 週間（プログラムにより異なる）の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点	授業への積極的な参加度および取り組みは、事前・現地・事後の学修(活動・体験)を含めて評価する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修・生活・交流・ボランティア活動等への参加を通じて、 ・異なる人々と円滑にコミュニケーションを行うことができる。 ・国際理解や国際性について説明することができる。 ・チームワークやリーダーシップを意識して協働することができる。 ・大学での学修に対する意欲を高めることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中、または現地学修の総括後に、各見学地において学んだ内容について、学習者との対話を重視したディスカッションを行い、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地活動	
この科目の受講にあたって	本フィールド・プロジェクトは、韓国を対象とした地域研究を通して、「社会的文脈に根ざした学修」として、国際的な視野と感覚を身につけることを目的とするプログラムです。事前学修では、現地学修に向けた心構えを考えるためのブレインストーミングを行うとともに、韓国の言語・文化・社会について、多角的な視点から学んでいきます。こうした学びを踏まえて現地プログラムに参加することで、教室で得た知識と実体験が結びつき、国際的な文脈の中で物事を捉える力が養われます。自身の興味・関心を起点としながら視野を広げ、異なる価値観や文化を相対化して理解する姿勢を身につけ、将来的には卒業研究や国際的な進路選択へとつなげていくことを目指します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、危機管理オリエンテーション（1）	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第2回	対面	講義とディスカッション：渡航先となる国・地域理解（1）	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第3回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第4回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（1）	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第5回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第6回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（3） 目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第7回	対面	現地学修（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第8回	対面	現地学修（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第9回	対面	現地学修（3） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第10回	対面	現地学修（4） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第11回	対面	文化体験（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第12回	対面	文化体験（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第13回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（1）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第14回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（2）	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6時間
第15回	対面	学修成果発表 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのレポート発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度春学期
担当者	陸 麗君		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回（授業 5 回分）程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点	事前・事後学習と現地体験、見学、交流活動において、主体性やチームワーク、リーダーシップが求められる。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	なし
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		20	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		30	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力の向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		60	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める事前学習：翌 日の活動を確認し、獲得目標を立てる事後学修：一日 の活動をまとめる	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高砂 謙二		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力の向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	なし。
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		30	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくこと			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第5回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第6回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第7回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田 真也		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る。			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		10	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		60	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意(危機管理オリエン テーション(1)、ビザ情報含む)、個人/チ ーム別プレゼンテーションの担当決めお よび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(1) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション、プログラムの到達目標・ 意義、ボランティア・文化活動および交流 イベントでのプレゼンテーション案など のディスカッション	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第3回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、 調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解(2) 渡航先の社会・政治・経済課題の個人プレ ゼンテーション(1人5分)、プログラムの 到達目標・意義、ボランティア・文化活 動および現地での交流でのプレゼンテー ション案などのディスカッション	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と 渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深め る	4 時間
第5回	対面	語学授業(英語+研修国・地域の言語基礎) 英語/現地言語講座、プログラムのなかで、 ボランティア・文化紹介活動の企画、日本 文化紹介の準備	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第6回	対面	目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シ ートの作成と提出、危機管理オリエンテー ション(2)	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が 渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第7回	対面	オリエンテーション、英語と研修国・地域 の言語基礎授業、研修中の活動に関わる準 備(1) 1) オリエンテーション 計画書、目標シートに基づいた準備とディ スカッション、危機管理オリエンテーシ ョン(3) 2) 英語と研修国・地域の言語基礎授業 3) 研修中の活動に関わる準備(1) 4) チームビルディング 5) 目標設定の確認、ディスカッション	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話 ができるように準備しておく。	4 時間
第8回	対面	イントロダクション オリエンテーション、歓迎会、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第9回	対面	フィールドワーク(1) 派遣国の社会、政治、経済に関するフィ ールドワーク、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第10回	対面	フィールドワーク(2) フィールドワーク(日系企業、NGOの訪問・ インタビュー、社会文化施設見学など)、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第11回	対面	ボランティア・文化交流活動(1) 学校訪問と交流など 社会的弱者支援のボランティア・文化交流	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間

		活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成		
第12回	対面	ボランティア・文化交流活動（2） 学校訪問と交流など、社会的弱者支援のボランティア・文化交流活動：学校、児童養護施設（孤児院）やまたは老人福祉施設など、総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第13回	対面	成果発表と交流 プレゼンテーション：(1) 大学紹介、(2) 日本・大阪紹介、(3) 今回の Fld. P で学んだことなど、 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4 時間
第14回	対面	課題発表準備 活動日誌の整理と提出、現地研修からの学びと課題についてのディスカッション、学修成果発表に向けてのプレゼンテーションの作成	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6 時間
第15回	対面	学修成果発表と TOEIC®IP 受験 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	池上 寛		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	台湾に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	このフィールド・プロジェクトでは台湾について学び、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地フィールドワークなどの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	事前学習や現地でのグループによるフィールドワークについての発表、あるいは帰国後の個人発表などを通じて、学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N. A.	
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	40		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	10		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	20		
	その他の内容	現地活動		
この科目の受講にあたって	このフィールド・プロジェクトはアジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うものである。このフィールド・プロジェクトでは台湾を取り上げ、台湾の文化・社会・経済などを知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学ぶ。また、輔仁大学との学生交流を通じて、国際的な感覚も養う機会とする。			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式		学修時間
第1回	対面	事前学習(1) オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介を行うとともに、輔仁大学について学ぶ。また、前回実施したフィールド・プロジェクト(台湾)を振り返る。 渡航に当たっての注意(危機管理オリエンテーション(1)、ビザ情報含む)について説明する。	事前学修:台湾について調べるとともに、自己紹介の準備をする 事後学修:台湾について、図書やインターネットを通じて知識を深める
第2回	対面	事前学修(2) 輔仁大学の学生と一緒にを行うフィールドワークのグループ分けについて発表し、オンラインで輔仁大学とつないで交流を行い、今後の活動について説明する。 また、成績評価、グループ発表(事前事後)、個人発表、最終レポートについて説明する。	事前学修:台湾について、基本的な情報を図書やインターネットを通じて調べ、理解を深める。 事後学修:渡航してから行うフィールドワークについて、グループ内で調査内容や行き先について議論し、決定する。
第3回	対面	事前学修(3) 動画撮影のコツ(その1)	事前学修:現地でどのような動画を撮影するかを考えておく。 事後学修:講義で学修した動画撮影・編集の復習をしておく。
第4回	対面	事前学修(4) 動画撮影のコツ(その2)	事前学修:現地でどのような動画を撮影するかを考えておく。 事後学修:講義で学修した動画撮影・編集の復習をしておく。
第5回	対面	事前学修(5) 訪問機関および簡単な中国語についての講義	事前学修:現地訪問先について調べるとともに、訪問した際の質問を考える。 事後学修:学修した中国語の復習、渡航準備を進める
第6回	対面	事前学修(6) フィールドワークについての事前報告:各グループ5分程度の発表を行う。 出発前のプログラムの最終確認、電子入境申請、渡航についての注意事項について講義する。	事前学修:グループで行うフィールドワークについての発表準備をすること。 事後学修:教職員からのコメントを踏まえて、グループ内でフィールドワークの調整を行うこと。渡航の最終確認をすること。
第7回	対面	現地活動(1)移動、顔合わせ	事前学修:輔仁大学の学生とフィールドワークについての議論 事後学修:フィールドワークの成果発表の準備
第8回	対面	現地活動(2)	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第9回	対面	現地活動(3)	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第10回	対面	現地活動(4)	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第11回	対面	現地活動(5) 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第12回	対面	現地活動(6) 輔仁大学生とともに、フィールドワークを実施する。	事前学修:翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修:一日の活動をまとめる
第13回	対面	現地活動(7) 劉・輔仁大学副教授の特別講義 グループによるフィールドワークの成果発表	事前学修:成果発表の準備をする 事後学修:一日の活動をまとめ、帰国準備をする
第14回	対面	事後学修(1) 輔仁大学とオンライン接続して、活動の振り返り	動画発表の準備を行うとともに、個人発表の準備

2026/05/01

		動画発表		
第15回	対面	事後学修（2） 個人成果発表	個人発表の準備を行うとともに、個人最終レポートの準備	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度春学期
担当者	徐 潤雅		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回（授業 5 回分）程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点	事前・事後学習と現地体験、見学、交流活動において、主体性やチームワーク、リーダーシップが求められる。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	なし
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30	
	成果発表（口頭・実技）		20	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		30	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福田 真也		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 5 回（授業 5 回分）程度の体験・研修から構成される。集中的な事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。 なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修と現地体験、学修、見学、交流活動などを通じて、1) 日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 日本語をはじめとする言語運用能力とコミュニケーション能力を向上させる、3) 国際理解と国際性の涵養、4) 大学での専門学修への動機を形成し深めることを目標とする。（この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし。		ISBN	なし。
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		40	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	本科目は留学生が日本への理解を深めることを主たる目的とするフィールド・プロジェクトである。事前学修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会を学びながら、日本とアジア太平洋地域、世界との関係、さらには自分の出身国との関係についてさまざまな視点から学んでいく。自身の興味・関心を大切にし、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていくことが大切である。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	尹 恵彦		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間～約 3 週間（プログラムにより異なる）の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点	授業への積極的な参加度および取組みは、事前・現地・事後の学修(活動・体験)を含めて評価する。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修・生活・交流・ボランティア活動等への参加を通じて、 ・異なる人々と円滑にコミュニケーションを行うことができる。 ・国際理解や国際性について説明することができる。 ・チームワークやリーダーシップを意識して協働することができる。 ・大学での学修に対する意欲を高めることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業中、または現地学修の総括後に、各見学地において学んだ内容について、学習者との対話を重視したディスカッションを行い、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	N. A.
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		30	
	その他の内容		現地活動	
この科目の受講にあたって	本フィールド・プロジェクトは、韓国を対象とした地域研究を通して、「社会的文脈に根ざした学修」として、国際的な視野と感覚を身につけることを目的とするプログラムです。事前学修では、現地学修に向けた心構えを考えるためのブレインストーミングを行うとともに、韓国の言語・文化・社会について、多角的な視点から学んでいきます。こうした学びを踏まえて現地プログラムに参加することで、教室で得た知識と実体験が結びつき、国際的な文脈の中で物事を捉える力が養われます。自身の興味・関心を起点としながら視野を広げ、異なる価値観や文化を相対化して理解する姿勢を身につけ、将来的には卒業研究や国際的な進路選択へとつなげていくことを目指します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、危機管理オリエンテーション（1）	事前学修：分担になっている渡航先の社会について調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第2回	対面	講義とディスカッション：渡航先となる国・地域理解（1）	事前学修：TOEIC IP に向けた学修 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深める	4時間
第3回	対面	TOEIC®IP 受験	事前学修：分担になっている渡航先の社会について、調べプレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第4回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（1）	事前学修：現地プログラムを準備するために、自国と渡航先国の文化の差異を調べる 事後学修：渡航先国について、図書と読み知識を深める	4時間
第5回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第6回	対面	渡航先国の言語・文化・社会について学ぶ（3） 目標シートの作成 出発前のプログラムの最終確認、目標シートの作成と提出、危機管理オリエンテーション（2）	事前学習：渡航に向けた準備として、グローバル化が渡航先国にもたらす現象について調べる。 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第7回	対面	現地学修（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：現地プログラムでの発表の最終準備 事後学修：現地語の復習をし、挨拶程度の簡単な会話ができるように準備しておく。	4時間
第8回	対面	現地学修（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第9回	対面	現地学修（3） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第10回	対面	現地学修（4） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第11回	対面	文化体験（1） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第12回	対面	文化体験（2） 総括ミーティング実施、各自活動日誌作成	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第13回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（1）	事前学習：翌日の活動を確認し、獲得目標を立てる 事後学修：一日の活動をまとめる	4時間
第14回	対面	成果発表に向けたレポート作成について（2）	事前・事後学習：報告会に向けた準備	6時間
第15回	対面	学修成果発表 フィールド・プロジェクト I を通じての学修成果についてのレポート発表、TOEIC®IP 受験	事後学修：現地での活動とそこでの体験の省察をレポートにまとめる	6時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	調整中（国際学部）		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N. A.	
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	30		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	現地での研修評価		
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意、個人／チーム別プ レゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	危機管理オリエンテーション① (1)海外医療事情について (2)危機管理ハンドブックの説明 (3)緊急時の連絡方法など	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深 める。	4 時間
第3回	対面	危機管理オリエンテーション② (1)具体的なケースを想定しての危機管理 対応 (2)出発前のプログラムの最終確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深 める。	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (1) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (2) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする 事後学修：課題プレゼンテーションの内容を整理し、 自国と渡航先の国の違いをよく理解しておく。また、 現地語で挨拶程度の簡単な会話ができるように準備 しておく。	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (1) 日本語教育の歴史／日本語の教科書を知 る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (2) 直接法による教え方／やさしい日本語を 知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第8回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (3) 教案とレリアの作成の仕方／日本語学 習者の日本語の特徴を知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第9回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (4) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての企画案などの ディスカッション、グループ分け、担当者 決め	事前学習：実施可能で意義のある活動内容について 個人でアイデアを考え、簡単な企画メモを作成する。 参考資料を調べ、活動の目的・対象・方法を整理する。 事後学修：グループ活動の企画内容や自身の担当に 必要な情報や資料を調べ、整理する。	4 時間
第10回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (1) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第11回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (2) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第12回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (3) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間

		ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)についての準備および練習		
第13回	対面	現地活動 研修先での活動(模擬授業、フィールドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)の実践	事前学習: 担当する役割を確認し、必要な資料や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。 事後学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌の作成	4 時間
第14回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前・事後学習: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成	6 時間
第15回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成 事後学修: 活動日誌、レポートの完成と提出	6 時間

科目名	フィールド・プロジェクトC		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	調整中（国際学部）		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	世界に対する関心を高め、「気づき」を得る			
授業の目的及び概要	この授業は、国内における事前・事後学修と海外における約 1 週間の体験・研修から構成される。国内での集中的な学修と海外の研修先における、学修、交流活動、現地調査、ボランティア活動などの種々の学修及び体験を通して、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成あるいは向上を図る。学修目標の達成度、プロジェクトレポートの内容、学修成果発表の結果などをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	学修、生活、交流、ボランティア活動等、学生たちの主体的な活動への参加を促し、異なる人々とのコミュニケーションや協働を通じて、1) 言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、2) 国際理解と国際性の涵養、3) チームワーク、リーダーシップ、協働について学ぶこと、4) 大学での学修への動機を形成あるいは深めることを目標とする。 （この科目の位置づけ、学位授与方針との関係等については、履修要項「国際学部教育課程の編成の考え方」及び「コース制と履修モデル」を参照。）			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地での見学の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディバート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	N. A.	
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	30		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	現地での研修評価		
この科目の受講にあたって	アジア太平洋地域におけるひとつの国・地域をテーマとした地域研究を行うフィールド・プロジェクトです。事前学修のなかで、テーマである国・地域の文化・社会・経済を知りながら、日本や世界との関係、さらにはアジア太平洋における政治・経済・ビジネス上の重要性など、さまざまな視点から学んでいきます。そうすると、現地プログラムのなかで、その国・地域のさまざまな「顔」が見えてきます。自身の興味・関心を大切に、そして興味・関心を広げながら、卒業研究につなげていきましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明と理解、自己紹介、 渡航に当たっての注意、個人／チーム別プ レゼンテーションの担当決めおよび説明	事前学修：分担になっている渡航先の社会について 調べ、プレゼンの準備をする 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る	4 時間
第2回	対面	危機管理オリエンテーション① (1)海外医療事情について (2)危機管理ハトブックの説明 (3)緊急時の連絡方法など	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深 める。	4 時間
第3回	対面	危機管理オリエンテーション② (1)具体的なケースを想定しての危機管理 対応 (2)出発前のプログラムの最終確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先の国について、図書を読み知識を深 める。	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (1) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする。 事後学修：渡航先国について、図書を読み知識を深め る。	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：研修先となる 国・地域理解 (2) 渡航先の社会・政治・経済・文化・言語等 の課題プレゼンテーション、プログラムの 到達目標の設定と確認	事前学修：渡航先の国について調べ、分担になってい るプレゼンの準備をする 事後学修：課題プレゼンテーションの内容を整理し、 自国と渡航先の国の違いをよく理解しておく。また、 現地語で挨拶程度の簡単な会話ができるように準備 しておく。	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (1) 日本語教育の歴史／日本語の教科書を知 る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第7回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (2) 直接法による教え方／やさしい日本語を 知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第8回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (3) 教案とレリアの作成の仕方／日本語学 習者の日本語の特徴を知る	事前学修：各回の講義テーマに関する基礎的な資料 を読み、重要な用語や疑問点を整理しておく。 事後学修：内容を振り返り、研修先での活動にどのよ うに活用できるかを考える。	4 時間
第9回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 理解 (4) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての企画案などの ディスカッション、グループ分け、担当者 決め	事前学習：実施可能で意義のある活動内容について 個人でアイデアを考え、簡単な企画メモを作成する。 参考資料を調べ、活動の目的・対象・方法を整理する。 事後学修：グループ活動の企画内容や自身の担当に 必要な情報や資料を調べ、整理する。	4 時間
第10回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (1) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第11回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (2) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、 交流イベント等）についての準備および練 習	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間
第12回	対面	講義とディスカッション：研修先での活動 準備 (3) 研修先での活動内容（模擬授業、フィール	事前・事後学習：担当する役割を確認し、必要な資料 や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。	4 時間

		ドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)についての準備および練習		
第13回	対面	現地活動 研修先での活動(模擬授業、フィールドワーク、ボランティア活動、文化紹介、交流イベント等)の実践	事前学習: 担当する役割を確認し、必要な資料や説明内容、進行方法を整理して準備を行う。 事後学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌の作成	4 時間
第14回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前・事後学習: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成	6 時間
第15回	対面	学修成果発表と総括ミーティング フィールド・プロジェクトを通じての学修成果についてのプレゼンテーションの発表、ディスカッション、活動日誌作成	事前学修: 学修成果発表に向けた準備、活動日誌、レポートの作成 事後学修: 活動日誌、レポートの完成と提出	6 時間

科目名	留学事前演習		開講年度	2026 年度春学期
担当者	中西 亮太		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	留学先の文化や社会背景を理解し、現地での円滑なコミュニケーションに必要な英語運用能力を身につける。			
授業の目的及び概要	この科目では、1 セメスター留学に対応する科目として、留学に必要な基本的な知識、技能を身に付けます。 授業では、現地の文化や社会背景のリサーチやプレゼンテーションを行い、渡航先への理解を深めていきます。英語 4 技能の総合的な向上を目指しますが、現地でコミュニケーションをとるために必要最低限な英語力を身に付けるために、アウトプット強化に力点を置いた授業が展開されます。加えて、アカデミックイングリッシュにも触れることで留学先の授業を理解するための素地を培います。 また、留学体験が将来のキャリアにどのように寄与するのかを考え、議論し、これら 2 つを有機的に結び付けていくための意識付けを行います。			
履修条件・留意点	2026 年度英語圏 1 セメスター留学（夏渡航）参加予定の方は必ず履修してください。 授業への参加度が著しく低い場合は単位が認められない場合があります。 7 月 TOEIC を受験しなかった場合、単位が認められない場合があります。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	この科目の目標は以下の通り設定しています。 1. 留学先の文化や社会背景などについて、基本的な知識を身に付ける 2. 基本的な語彙や表現を用いて、自分の考えを相手に伝えることができる 3. 留学とキャリアを結び付けて考えることができる			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業で質問への回答や説明をします。 小テストは、採点した上で返却します。 授業内で継続的に行なわれるアクティビティやクイズ、ディスカッションを行うなかで教員から講評を受けます。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料は適宜授業内で指示します。		ISBN	なし
参考書	なし		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		40	
	成果発表（口頭・実技）		20	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	英語力や専門学修、これからのキャリアなど、留学は皆さんの成長に大いに貢献してくれるでしょう。しかし、留学でどれだけ成長できるかは皆さん次第です。限られた期間での留学を実りあるものにするためには、しっかりとした準備が必要です。この授業では、現地にいち早く適応するための素地を培います。また、即興的な発話力の向上も期待できます。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	英語圏 1 セメスター留学の全体概要について、チームビルディング（中西）	【予習】 シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】 シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	2 時間
第2回	対面	英語で学ぶ英語圏の社会・文化①（本多）	【予習】 留学先の社会・文化について調べ、まとめておく（渡航先別にペア、またはグループで） 【復習】 講義内容における重要箇所をまとめ、復習をする 講義内容に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第3回	対面	英語で学ぶ英語圏の社会・文化②（本多）	【予習】 第4回授業で学修した内容を基に、留学先の社会・文化についてまとめ、発表できるようにしておく（渡航先別にペア、またはグループで） 【復習】 講義内容における重要箇所をまとめ、復習をする 講義内容に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第4回	対面	英語重要語彙・表現の学修及びスピーキング・ライティング演習①（ミルズ）	【予習】 Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第5回	対面	英語重要語彙・表現の学修及びスピーキング・ライティング演習②（ミルズ）	【予習】 Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第6回	対面	留学経験を踏まえたキャリア目標設定（三戸）	【予習】（2 時間） 留学を踏まえた自身のキャリア目標について考え、まとめておく。 【復習】（2 時間） 講義内容を基に、自身のキャリア目標を設定し、目標達成に向けた行動計画を作成する。	4 時間
第7回	対面	アカデミック分野の英語教材を用いたスピーキング・ライティング演習①（ミルズ）	【予習】 Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第8回	対面	アカデミック分野の英語教材を用いたスピーキング・ライティング演習②（ウェザビ）	【予習】 Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第9回	対面	渡航先についての学修および期末発表準備（中西）	【予習】 渡航先の言語・文化・生活様式等の情報を調べておく。	4 時間

			【復習】 講義で扱った情報をまとめ、期末発表に向けて準備を進める。	
第10回	対面	キャリア目標達成に向けたディスカッション（三戸）	【予習】 留学を踏まえた自身のキャリア目標および行動計画を確認しておく。 【復習】 講義内容及びディスカッションを基に、自身の行動計画を修正する。	4 時間
第11回	対面	効果的なプレゼンテーションに向けたスピーキング演習①（ウエザビ）	【予習】 Learning Portal に掲載されている課題リーディングを読み、内容をまとめておく 【復習】 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第12回	対面	効果的なプレゼンテーションに向けたスピーキング演習②（ウエザビ）	【予習】 Learning Portal に掲載されている重要語彙・表現を覚える 【復習】 授業で扱った語彙、表現に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4 時間
第13回	対面	期末発表会（中西）	【予習】 これまでの授業内容を基に、「渡航先について調べて分かったこと」、「留学先で何を学び何を身に付けたいのか」、「留学体験をキャリアにどのように結びつけることができるのか」に関する発表準備をする 【復習】 質疑応答やフィードバックを振り返り、期末発表全体を見直しておく。	4 時間
第14回	対面	期末発表会および学修内容の総括（中西）	【予習】 これまでの授業内容を基に、「渡航先について調べて分かったこと」、「留学先で何を学び何を身に付けたいのか」、「留学体験をキャリアにどのように結びつけることができるのか」に関する発表準備をする 【復習】 質疑応答やフィードバックを振り返り、期末発表全体を見直しておく。	4 時間
第15回	オンデマンド	渡航先についての学修およびレポート作成演習（中西）	【予習】 渡航先の言語・文化・生活様式等の情報をまとめておく。 【復習】 講義で扱った情報をまとめ、レポート作成を進める。	6 時間

科目名	留学事前演習		開講年度	2026 年度春学期
担当者	尹 恵彦		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G2		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	現地での円滑なコミュニケーションに必要な韓国語の運用能力を身につけ、留学先の文化や社会背景を理解する。			
授業の目的及び概要	この科目は、留学に対応する科目として、留学に必要な基本的な知識や技能を身につけることを目的としています。 授業では、まず、留学先の言語の仕組みについて学び、その言語が文化や社会（経済・政治）とどのように関わっているのかを考えます。次に、留学先の言語・文化・社会（政治や経済）についてリサーチや討論を行い、渡航先への理解を深めます。 これらを通して、韓国語の言語能力や言語運用能力、コミュニケーション能力を高めます。さらに、留学経験が将来のキャリアにどのように寄与しているのかについて考察し、議論します。そして、これらの学びを有機的に結び付けることを目指します。			
履修条件・留意点	①2026 年度韓国圏に留学参加予定（春渡航）の方は必ず履修してください。 ②授業への参加度が著しく低い場合は、成績評価に影響することがあります。 ③7 月 TOPIK を受験しなかった場合、単位が認められない場合があります。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	1. 留学先の言語の仕組みを理解し、簡単なフレーズを話すことができる。 2. 留学先の言語・文化・社会（政治・経済）について基本的な知識を理解し、説明することができる。 3. 留学経験と将来のキャリアとの関係を考え、自分なりの将来像を構想することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業の前後、授業内で行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	必要な資料は適宜授業内で指示します。		ISBN	なし
参考書	なし		ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		60	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		なし	
この科目の受講にあたって	（１）語学力や専門的な学修、そして今後のキャリアにおいて、留学は皆さんの成長や将来を大いに後押ししてくれるでしょう。しかし、留学がどれだけ皆さんの将来につながるかは、皆さん自身にかかっています。限られた期間の留学を実りあるものにするためには、しっかりとした準備が必要です。本授業では、現地での生活にいち早く適応するための基礎を培います。さらに、現地での言語・文化・社会について、クリティカルな視点を養うことも目指します。 （２）評価方法は、以下ようになります。毎回、授業に参加するようにしてください。 ①授業への参加度（出席・授業態度）：40％ （15 回分の出席および授業態度について各回で評価し、その合計を 40％とする。）			

②小テストまたはレポート：60%

(各担当教員が小テスト(単語テスト)やミニレポートなどの課題を実施し、各教員の担当 5 回分を 20%として評価する。これを 3 名分合計して 60%とする。)

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション、TOPIKの申し込み 韓国語留学の全体概要について(尹)	【予習】(1時間) シラバスとガイダンス資料を事前に読んでおいてください。 【復習】(1時間) シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認してください。	2時間
第2回	対面	韓国語①(尹) ・ハングルの仕組み(初声、中声、終声) ・ワンポイント会話	【予習】(2時間) ハングルについて学修する 【復習】(2時間) 講義内容における重要箇所をまとめ、復習をする 講義内容に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4時間
第3回	対面	韓国語②(尹) ・単語テスト(初声、中声) ・発音の変化 ・ワンポイント会話	【予習】(2時間) ハングルについて学修する、留学先でよく使うフレーズを調べる 【復習】(2時間) 講義内容における重要箇所をまとめ、復習をする 講義内容に関する小テストに回答し、間違えた箇所を復習する	4時間
第4回	対面	韓国語③(尹)・読み書きに挑戦 ・ワンポイント会話 小テスト	【予習】(3時間) ハングルについて学修する、留学先でよく使うフレーズを調べる 【復習】(1時間) これまでの学修スタイルを振り返りながら、今後の学修計画を立てる	4時間
第5回	対面	韓国語④(尹) ・ライティング活動を通して、簡単な挨拶表現を身につける。 ・ワンポイント会話 小テスト	【予習】(1時間) 前回の講義を復習する 【復習】(3時間) 講義内容を基に、自身のキャリアに留学をどのように結び付けることができるかについてレポートを作成する	4時間
第6回	対面	韓国語で学ぶ韓国の社会・文化①(徐) ・関心分野の把握 ・韓国の社会・文化に関する韓国語の文献や映像資料を用いた知識習得およびディスカッション ・文献に出てくる重要語彙・表現の学修、スピーキング演習 ・次回のquizについて	【予習】(2時間) 関心分野について話せるように調べたり、考えたりしておくこと。プリントを整理するファイルを用意すること 【復習】(2時間) 授業で扱った語彙、表現を復習し、次回のquizを準備すること	4時間
第7回	対面	韓国語で学ぶ韓国の社会・文化②(徐) ・前回の授業で学んだ語彙や表現に関するquiz ・韓国の社会・文化に関する韓国語の文献や映像資料を用いた知識習得およびディスカッション ・文献に出てくる重要語彙・表現の学修、スピーキング演習	【予習】(2時間) 課題資料を事前に確認し、分からないところを調べたり、授業で質問できるように準備しておくこと 【復習】(2時間) 授業で扱った語彙、表現を復習し、次回のquizを準備すること	4時間
第8回	対面	韓国語で学ぶ韓国の社会・文化③(徐) ・前回の授業で学んだ語彙や表現に関するquiz ・韓国の社会・文化に関する韓国語の文献	【予習】(2時間) 課題資料を事前に確認し、分からないところを調べたり、授業で質問できるように準備しておくこと 【復習】(2時間)	4時間

		や映像資料を用いた知識習得およびディスカッション ・文献に出てくる重要語彙・表現の学修、スピーキング演習	授業で扱った語彙、表現を復習し、次回の quiz を準備すること	
第9回	対面	韓国語で学ぶ韓国の社会・文化④（徐） ・前回の授業で学んだ語彙や表現に関する quiz ・韓国の社会・文化に関する韓国語の文献や映像資料を用いた知識習得およびディスカッション ・文献に出てくる重要語彙・表現の学修、スピーキング演習	【予習】（2 時間） 課題資料を事前に確認し、分からないところを調べたり、授業で質問できるように準備しておくこと 【復習】（2 時間） 授業で扱った語彙、表現を復習し、次回の quiz を準備すること	4 時間
第10回	対面	韓国語で学ぶ韓国の社会・文化⑤（徐） ・前回の授業で学んだ語彙や表現に関する quiz ・韓国の社会・文化に関する韓国語の文献や映像資料を用いた知識習得およびディスカッション ・文献に出てくる重要語彙・表現の学修、スピーキング演習 ・まとめ	【予習】（2 時間） 課題資料を事前に確認し、分からないところを調べたり、授業で質問できるように準備しておくこと 【復習】（2 時間） これまで学んだ授業内容や語彙、表現を復習すること	4 時間
第11回	対面	留学経験を踏まえたキャリア目標の設定について（福田）	【予習】（2 時間） 留学を踏まえた自身のキャリア目標について考え、整理する。 【復習】（2 時間） 講義内容をもとに、留学経験が自身のキャリア形成にどのような影響を及ぼす可能性があるのかについて考える	4 時間
第12回	対面	留学経験をキャリアに結びつける道筋について（福田）	【予習】（2 時間） 留学経験が自身のキャリアにどのように結びつくのかについて整理する。 【復習】（2 時間） 講義内容をもとに、自身のキャリア目標を設定し、目標達成に向けた行動計画を考える	4 時間
第13回	対面	韓国の政治・経済①（福田）	【予習】（2 時間） 韓国の政治・経済分野の関心のある話題を調べ、整理しておく。 【復習】（2 時間） 講義内容について重要箇所を整理し、復習する	4 時間
第14回	対面	韓国の政治・経済②（福田）	【予習】（2 時間） 第13回の授業で学修した内容をもとに、韓国の政治・経済分野の関心のある話題について整理し、発表できるように準備しておく 【復習】（2 時間） 講義内容について重要箇所を整理し、復習する。	4 時間
第15回	オンデマンド	学修内容の総括（福田）	【予習】（2 時間） これまでの授業内容をもとに、「留学先で何を学び、何を身に付けたいのか」「留学経験を自身のキャリアにどのように活かしていきたいのか」について整理しておく 【復習】（2 時間） すべての講義内容をもとに、留学先での目標を明確にし、渡航準備に備える	4 時間

科目名	国内フィールドワーク A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	共に現代日本社会を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 6 回程度（授業 6 回分）の現地研修から構成される。一般学生と留学生が共に事前・事後学修を行い、現地研修、グループワークなどを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、グループワークと学修成果発表、そしてレポートなどをもとに担当教員が成績評価を行う。なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。		
履修条件・留意点	・留学生が本科目を履修する場合は、日本語能力試験（JLPT）N2 以上の取得を履修条件とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事前・事後学修、と現地研修、グループワークなどを通じて、1) 現代日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 多様なバックグラウンドを持つ仲間と協力し、協働する力を身に着ける、3) 仲間と共に社会の問題や課題を発見し、対策を模索する力を身に着ける、4) 国際理解と国際性の涵養を目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。 グループ発表や成果物の作成にあたって、準備過程を共にした学生同士による相互フィードバックの機会を設ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし、授業中適宜教材を配布します。	ISBN	指定なし、授業中適宜教材を配布します。
参考書	指定なし、授業中適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は一般学生と留学生が共にフィールドワークに参加し、グループワークなどで協力、協働を行う授業である。事前・事後学修、現地研修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会についてを学ぶだけでなく、共に学ぶ仲間・他者の考えや意見にも耳を傾け、協力、協働して課題に取り込む努力が求められる。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	国内フィールドワーク A		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	徐 潤雅		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	共に現代日本社会を学ぶ			
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 6 回程度（授業 6 回分）の現地研修から構成される。一般学生と留学生が共に事前・事後学修を行い、現地研修、グループワークなどを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、グループワークと学修成果発表、そしてレポートなどをもとに担当教員が成績評価を行う。			
履修条件・留意点	各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	事前・事後学修、現地研修、グループワークなどを通じて、学生が以下のことをできるようになることを目標とする。 1) 現代日本の政治・経済・文化・社会について、多角的に理解し、説明できる。 2) 多様なバックグラウンドを持つ仲間と協力し、協働して課題に取り組むことができる。 3) 仲間とともに社会の問題や課題を発見し、その解決策を考察・提案できる。 4) 国際的な視点から物事を捉え、自らの考えを述べることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	・ 授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ・ ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。 ・ グループ発表や成果物の作成にあたって、準備過程を共にした学生同士による相互フィードバックの機会を設ける。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	在日コリアン青年連合（KEY）編著『在日コリアンの歴史を歩く：未来世代のためのガイドブック』彩流社、2017 年	ISBN	9784779123382	
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	40		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	・ 本科目は、一般学生と留学生が共にフィールドワークに参加し、グループワーク等を通じて協力・協働する授業です。事前・事後学修および現地研修への参加状況、授業内での取組みや提出物が成績評価に反映されますので、継続的に参加してください。 ・ 関西の中の韓国・朝鮮に関連する場所や歴史、多文化共生について学ぶとともに、共に学ぶ仲間や他者の考えにも耳を傾け、協力・協働しながら課題に取り組む姿勢が求められます。自			

	分と異なる考え方や文化を尊重しつつ、自らの意見も積極的に発信してください。 ・フィールドワークでは、訪問先の方々や地域への配慮を忘れず、見聞きした内容を記録してください。 ・授業への積極的な参加度・取組み（30％）には、小レポート等の提出物の評価が含まれます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション：授業の目的とフィールドプロジェクトの進め方 ・授業の全体像、評価方法、国際共修クラスとしての学び方 ・関西における韓国／朝鮮の交流と在日コリアンの存在について概観する。	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習を行う。 事後学修：テキストや配布物、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	2時間
第2回	対面	日韓交流の歴史と関西 ・日本と朝鮮半島の歴史的関係を概観し、関連資料やテキストを読み解く。 ・フィールドワークで見る視点の基礎を身につける。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物やテキスト、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4時間
第3回	対面	在日コリアンの歴史①：形成と定住 ・在日コリアンの形成過程や歴史的背景の講義と資料の紹介 ・大阪・神戸・京都の事例を中心に理解を深める。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物やテキスト、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4時間
第4回	対面	在日コリアンの歴史②：生活・文化・アイデンティティ（ゲストスピーカー） ・在日コリアンの生活文化、言語、アイデンティティの多様性について考える。 ・映像・資料を用いて具体的事例を確認する。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物やテキスト、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4時間
第5回	対面	多文化共生とは何か ・多文化共生の考え方や日本社会における現状と課題について学ぶ。 ・関西の地域事例をもとにディスカッションを行う。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4時間
第6回	対面	フィールドワーク準備：テーマ選定と調査方法、訪問先理解と事前調査 ・グループ分けをし、グループごとに関心テーマを決める。 ・観察・記録・インタビューの基本的な方法を学ぶ。 ・これまでの学修内容を踏まえて、各訪問先について事前調査を行い、質問項目や観察の視点を整理する。 ・フィールドワーク時のマナーや注意点を確認する。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4時間
第7回	対面	現地体験・研修①	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4時間
第8回	対面	現地体験・研修②	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4時間
第9回	対面	現地体験・研修③	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4時間

第10回	対面	現地体験・研修④	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4時間
第11回	対面	現地体験・研修⑤	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4時間
第12回	対面	現地体験・研修⑥	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4時間
第13回	対面	事後学修①：まとめと振り返り（フィールドワークの整理と考察） フィールドノートや記録を整理し、グループごとに考察を深める。発表の準備をする。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布資料、テキスト、参考資料およびフィールドノートを用いて、グループで発表の準備を行う。	5時間
第14回	対面	事後学修②：成果発表 グループごとに調査結果や考察を発表し、相互にフィードバックを行う。	事前学修：教員の指示に基づき、グループ発表の準備を行う。 事後学修：発表内容を振り返り、自己評価を行う。	4時間
第15回	対面	事後学修③：総括とレポート作成 授業全体を振り返り、多文化共生についての理解を整理・深化させる。最終レポート作成に向けて論点を整理し、構成案を作成する。	事前学修：これまでのグループ活動を振り返り、①他者から学んだこと、②自分の考えが変化した点を整理してくる。 事後学修：授業全体を踏まえ、フィールドワークでの学びと多文化共生の視点を関連づけてレポートを作成する。その際、レポートの構成（問題提起―分析―考察―結論）を明確にする。	5時間

科目名	国内フィールドワークB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	共に現代日本社会を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 6 回程度（授業 6 回分）の現地研修から構成される。一般学生と留学生が共に事前・事後学修を行い、現地研修、グループワークなどを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、グループワークと学修成果発表、そしてレポートなどをもとに担当教員が成績評価を行う。なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。		
履修条件・留意点	・留学生が本科目を履修する場合は、日本語能力試験（JLPT）N2 以上の取得を履修条件とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事前・事後学修、と現地研修、グループワークなどを通じて、1) 現代日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 多様なバックグラウンドを持つ仲間と協力し、協働する力を身に着ける、3) 仲間と共に社会の問題や課題を発見し、対策を模索する力を身に着ける、4) 国際理解と国際性の涵養を目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。 グループ発表や成果物の作成にあたって、準備過程を共にした学生同士による相互フィードバックの機会を設ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし、授業中適宜教材を配布します。	ISBN	指定なし、授業中適宜教材を配布します。
参考書	指定なし、授業中適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は一般学生と留学生が共にフィールドワークに参加し、グループワークなどで協力、協働を行う授業である。事前・事後学修、現地研修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会についてを学ぶだけでなく、共に学ぶ仲間・他者の考えや意見にも耳を傾け、協力、協働して課題に取り込む努力が求められる。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	国内フィールドワークB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	共に現代日本社会を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 6 回程度（授業 6 回分）の現地研修から構成される。一般学生と留学生が共に事前・事後学修を行い、現地研修、グループワークなどを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、グループワークと学修成果発表、そしてレポートなどをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点	各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事前・事後学修、現地研修、グループワークなどを通じて、学生が以下のことをできるようになることを目標とする。 1) 現代日本の政治・経済・文化・社会について、多角的に理解し、説明できる。 2) 多様なバックグラウンドを持つ仲間と協力し、協働して課題に取り組むことができる。 3) 仲間とともに社会の問題や課題を発見し、その解決策を考察・提案できる。 4) 国際的な視点から物事を捉え、自らの考えを述べるができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ・ ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。 ・ グループ発表や成果物の作成にあたって、準備過程を共にした学生同士による相互フィードバックの機会を設ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	在日コリアン青年連合（KEY）編著『在日コリアンの歴史を歩く：未来世代のためのガイドブック』彩流社、2017 年	ISBN	9784779123382
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 本科目は、一般学生と留学生が共にフィールドワークに参加し、グループワーク等を通じて協力・協働する授業です。事前・事後学修および現地研修への参加状況、授業内での取組みや提出物が成績評価に反映されますので、継続的に参加してください。 ・ 関西の中の韓国・朝鮮に関連する場所や歴史、多文化共生について学ぶとともに、共に学ぶ仲間や他者の考えにも耳を傾け、協力・協働しながら課題に取り組む姿勢が求められます。自		

	分と異なる考え方や文化を尊重しつつ、自らの意見も積極的に発信してください。 ・フィールドワークでは、訪問先の方々や地域への配慮を忘れず、見聞きした内容を記録してください。 ・授業への積極的な参加度・取組み（30％）には、小レポート等の提出物の評価が含まれます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション：授業の目的とフィールドプロジェクトの進め方 ・授業の全体像、評価方法、国際共修クラスとしての学び方 ・関西における韓国／朝鮮の交流と在日コリアンの存在について概観する。	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習を行う。 事後学修：テキストや配布物、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	2 時間
第2回	対面	日韓交流の歴史と関西 ・日本と朝鮮半島の歴史的関係を概観し、関連資料やテキストを読み解く。 ・フィールドワークで見る視点の基礎を身につける。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物やテキスト、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第3回	対面	在日コリアンの歴史①：形成と定住 ・在日コリアンの形成過程や歴史的背景の講義と資料の紹介 ・大阪・神戸・京都の事例を中心に理解を深める。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物やテキスト、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第4回	対面	在日コリアンの歴史②：生活・文化・アイデンティティ（ゲストスピーカー） ・在日コリアンの生活文化、言語、アイデンティティの多様性について考える。 ・映像・資料を用いて具体的事例を確認する。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物やテキスト、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第5回	対面	多文化共生とは何か ・多文化共生の考え方や日本社会における現状と課題について学ぶ。 ・関西の地域事例をもとにディスカッションを行う。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第6回	対面	フィールドワーク準備：テーマ選定と調査方法、訪問先理解と事前調査 ・グループ分けをし、グループごとに関心テーマを決める。 ・観察・記録・インタビューの基本的な方法を学ぶ。 ・これまでの学修内容を踏まえて、各訪問先について事前調査を行い、質問項目や観察の視点を整理する。 ・フィールドワーク時のマナーや注意点を確認する。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第7回	対面	現地体験・研修①	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修②	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修③	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4 時間

第10回	対面	現地体験・研修④	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4時間
第11回	対面	現地体験・研修⑤	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4時間
第12回	対面	現地体験・研修⑥	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4時間
第13回	対面	事後学修①：まとめと振り返り（フィールドワークの整理と考察） フィールドノートや記録を整理し、グループごとに考察を深める。発表の準備をする。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布資料、テキスト、参考資料およびフィールドノートを用いて、グループで発表の準備を行う。	5時間
第14回	対面	事後学修②：成果発表 グループごとに調査結果や考察を発表し、相互にフィードバックを行う。	事前学修：教員の指示に基づき、グループ発表の準備を行う。 事後学修：発表内容を振り返り、自己評価を行う。	4時間
第15回	対面	事後学修③：総括とレポート作成 授業全体を振り返り、多文化共生についての理解を整理・深化させる。最終レポート作成に向けて論点を整理し、構成案を作成する。	事前学修：これまでのグループ活動を振り返り、①他者から学んだこと、②自分の考えが変化した点を整理してくる。 事後学修：授業全体を踏まえ、フィールドワークでの学びと多文化共生の視点を関連づけてレポートを作成する。その際、レポートの構成（問題提起―分析―考察―結論）を明確にする。	5時間

科目名	国内フィールドワークC	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	張 雪斌	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	共に現代日本社会を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 6 回程度（授業 6 回分）の現地研修から構成される。一般学生と留学生が共に事前・事後学修を行い、現地研修、グループワークなどを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、グループワークと学修成果発表、そしてレポートなどをもとに担当教員が成績評価を行う。なお、各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。		
履修条件・留意点	・留学生が本科目を履修する場合は、日本語能力試験（JLPT）N2 以上の取得を履修条件とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事前・事後学修、と現地研修、グループワークなどを通じて、1) 現代日本の政治、経済、文化、社会への理解を深める、2) 多様なバックグラウンドを持つ仲間と協力し、協働する力を身に着ける、3) 仲間と共に社会の問題や課題を発見し、対策を模索する力を身に着ける、4) 国際理解と国際性の涵養を目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。 グループ発表や成果物の作成にあたって、準備過程を共にした学生同士による相互フィードバックの機会を設ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定なし、授業中適宜教材を配布します。	ISBN	指定なし、授業中適宜教材を配布します。
参考書	指定なし、授業中適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	本科目は一般学生と留学生が共にフィールドワークに参加し、グループワークなどで協力、協働を行う授業である。事前・事後学修、現地研修のなかで、日本の政治、経済、文化、社会についてを学ぶだけでなく、共に学ぶ仲間・他者の考えや意見にも耳を傾け、協力、協働して課題に取り込む努力が求められる。		

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第1回	対面	オリエンテーション プログラムの概要説明、自己紹介、個人/ チーム別プレゼンテーションの担当決め および説明	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習 を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第2回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第3回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第4回	対面	講義とディスカッション：日本の政治、経 済、社会、文化に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第5回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第6回	対面	講義とディスカッション：現地体験・研修 の内容に関する事前学習	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第7回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第10回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第13回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表の準備を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第14回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間
第15回	対面	現地体験・研修で学んだ知識をまとめ、グ ループ発表を行う	事前学修：配布物や教員の指示を基に予習を行う 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を 復習し、参考資料を使って知識を深める	4 時間

科目名	国内フィールドワークC	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	共に現代日本社会を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業は、事前・事後学修と 6 回程度（授業 6 回分）の現地研修から構成される。一般学生と留学生が共に事前・事後学修を行い、現地研修、グループワークなどを通して日本社会への理解を深め、異文化理解、コミュニケーション能力、協働力を養うことを目的とする。また、学修と体験の過程を通じて、国際感覚の涵養と学修動機の形成、向上を図る。学修目標の達成度、グループワークと学修成果発表、そしてレポートなどをもとに担当教員が成績評価を行う。		
履修条件・留意点	各プログラム（クラス）の学修内容、日程や成績評価に必要な提出物が異なるため、本科目を履修する際は必ず各プログラム（クラス）の紹介を確認すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事前・事後学修、現地研修、グループワークなどを通じて、学生が以下のことをできるようになることを目標とする。 1) 現代日本の政治・経済・文化・社会について、多角的に理解し、説明できる。 2) 多様なバックグラウンドを持つ仲間と協力し、協働して課題に取り組むことができる。 3) 仲間とともに社会の問題や課題を発見し、その解決策を考察・提案できる。 4) 国際的な視点から物事を捉え、自らの考えを述べるができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・ 授業での発表、あるいは、現地体験・研修の総括後には、各見学地において学んだことを学生とディスカッションすると同時に、教員から適宜ポイントを伝える。 ・ ミニレポート、感想文などの提出物に対し、教員が講評を行う。 ・ グループ発表や成果物の作成にあたって、準備過程を共にした学生同士による相互フィードバックの機会を設ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	在日コリアン青年連合（KEY）編著『在日コリアンの歴史を歩く：未来世代のためのガイドブック』彩流社、2017 年	ISBN	9784779123382
参考書	参加するプログラムのなかで指示する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・ 本科目は、一般学生と留学生が共にフィールドワークに参加し、グループワーク等を通じて協力・協働する授業です。事前・事後学修および現地研修への参加状況、授業内での取組みや提出物が成績評価に反映されますので、継続的に参加してください。 ・ 関西の中の韓国・朝鮮に関連する場所や歴史、多文化共生について学ぶとともに、共に学ぶ仲間や他者の考えにも耳を傾け、協力・協働しながら課題に取り組む姿勢が求められます。自		

	分と異なる考え方や文化を尊重しつつ、自らの意見も積極的に発信してください。 ・フィールドワークでは、訪問先の方々や地域への配慮を忘れず、見聞きした内容を記録してください。 ・授業への積極的な参加度・取組み（30％）には、小レポート等の提出物の評価が含まれます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション：授業の目的とフィールドプロジェクトの進め方 ・授業の全体像、評価方法、国際共修クラスとしての学び方 ・関西における韓国／朝鮮の交流と在日コリアンの存在について概観する。	事前学修：ガイダンスでの配布物などを中心に予習を行う。 事後学修：テキストや配布物、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	2 時間
第2回	対面	日韓交流の歴史と関西 ・日本と朝鮮半島の歴史的関係を概観し、関連資料やテキストを読み解く。 ・フィールドワークで見る視点の基礎を身につける。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物やテキスト、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第3回	対面	在日コリアンの歴史①：形成と定住 ・在日コリアンの形成過程や歴史的背景の講義と資料の紹介 ・大阪・神戸・京都の事例を中心に理解を深める。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物やテキスト、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第4回	対面	在日コリアンの歴史②：生活・文化・アイデンティティ（ゲストスピーカー） ・在日コリアンの生活文化、言語、アイデンティティの多様性について考える。 ・映像・資料を用いて具体的事例を確認する。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物やテキスト、自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第5回	対面	多文化共生とは何か ・多文化共生の考え方や日本社会における現状と課題について学ぶ。 ・関西の地域事例をもとにディスカッションを行う。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第6回	対面	フィールドワーク準備：テーマ選定と調査方法、訪問先理解と事前調査 ・グループ分けをし、グループごとに関心テーマを決める。 ・観察・記録・インタビューの基本的な方法を学ぶ。 ・これまでの学修内容を踏まえて、各訪問先について事前調査を行い、質問項目や観察の視点を整理する。 ・フィールドワーク時のマナーや注意点を確認する。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布物や自分のメモを用いて授業内容を復習し、参考資料を使って知識を深める。	4 時間
第7回	対面	現地体験・研修①	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4 時間
第8回	対面	現地体験・研修②	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4 時間
第9回	対面	現地体験・研修③	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4 時間

第10回	対面	現地体験・研修④	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4 時間
第11回	対面	現地体験・研修⑤	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4 時間
第12回	対面	現地体験・研修⑥	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基にフィールドワークの準備を行う。 事後学修：フィールドノートを作成する。参考資料を使って知識を深める。グループで内容を共有する。	4 時間
第13回	対面	事後学修①：まとめと振り返り（フィールドワークの整理と考察） フィールドノートや記録を整理し、グループごとに考察を深める。発表の準備をする。	事前学修：配布物やテキスト、教員の指示を基に予習を行う。 事後学修：配布資料、テキスト、参考資料およびフィールドノートを用いて、グループで発表の準備を行う。	5 時間
第14回	対面	事後学修②：成果発表 グループごとに調査結果や考察を発表し、相互にフィードバックを行う。	事前学修：教員の指示に基づき、グループ発表の準備を行う。 事後学修：発表内容を振り返り、自己評価を行う。	4 時間
第15回	対面	事後学修③：総括とレポート作成 授業全体を振り返り、多文化共生についての理解を整理・深化させる。最終レポート作成に向けて論点を整理し、構成案を作成する。	事前学修：これまでのグループ活動を振り返り、①他者から学んだこと、②自分の考えが変化した点を整理してくる。 事後学修：授業全体を踏まえ、フィールドワークでの学びと多文化共生の視点を関連づけてレポートを作成する。その際、レポートの構成（問題提起―分析―考察―結論）を明確にする。	5 時間

科目名	国際キャリア開発 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	董 夢	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	自己理解と大学生活・学修への適応		
授業の目的及び概要	本科目は、国際キャリア開発 B とともに、留学生が大学生活に円滑に適応し、自身の学びと将来を主体的に考えるための基盤を形成することを目的とする。自己理解を深めるとともに、大学で求められる学修スキルやジェネリックスキスを身につけ、日本社会や「働くこと」への基礎的理解を育む。また、在留資格や大学のルール、学内外の支援資源について理解し、困りごとが生じた際に適切に相談・行動できる力を養う。1 年次の学びと経験を振り返り、2 年次以降の学修・活動につながる目標設定を行うことで、キャリア形成の基盤づくりを目指す。あわせて、「話す（やり取り）」「話す（発表）」の基礎を養い、自分の考えを伝え、必要なときに相談できるコミュニケーション力の土台を形成する。		
履修条件・留意点	講義とワークを組み合わせる。毎回、ペアまたはグループでのやり取りやミニ発表を行うため、積極的な参加を求める。 社会での当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の強み・関心・価値観・学修経験を整理し、自己理解レポート（またはポートフォリオ）として言語化できる。 ・大学で求められる学修スキル（情報収集／要約／引用・参照／レポート作法等）を理解し、基礎的な課題を期限内に遂行できる。 ・ジェネリックスキル（協働・発信・論理・問題解決等）について自己評価を行い、改善目標と行動計画を立てることができる。 ・在留資格・就労制限・大学生活のルールを理解し、自分の状況に即して説明し、適切に判断できる。 ・相談先（教務・国際センター・キャリア・学習支援等）を把握し、困りごとが生じた際に必要な支援資源を選択し、相談行動を取ることができる。 ・1 年次の学びと生活を踏まえ、2 年次以降の学修・経験（授業・活動・留学等）について短期および中期の目標を設定できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田学, 日本能率協会マネジメントセンター	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本授業では、卒業後の進路を見据えつつ、将来のキャリアデザインに主体的かつ前向きに取り組む姿勢・価値観を育むことを期待するとともに、JLPT の取得を含めて日本語能力を積極的に磨く努力も求めます。本科目は、社会人として必要な基礎的素養を身につける場であり、社会で求められる基本的なルールやマナーを尊重しながら、積極的な参加を心がけてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ・授業の全体像や評価方法を説明し、到達目標を理解する。 ・学期中の学習テーマを示し、受講生同士の簡単な自己紹介を行う。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第2回	対面	キャリア形成の考え方 ・過去・現在・未来の時間軸を通した自己理解と現時点のキャリア意識の確認	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第3回	対面	自己理解①「過去の自分」 自己概念、自分の過去をさかのぼる、ライフラインチャートから主観的な自分を探る	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第4回	対面	自己理解②「現在の自分」 自己概念を修正する、客観的な自分を表現する	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第5回	対面	自己理解③「異文化環境における現在の自分」 ・自身の留学動機や日本との関わりについて振り返る ・多様な背景を持つ受講生同士とのグループワークを通じて、自らの立ち位置を再認識する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第6回	対面	大学生活と学びの基礎理解：求められる日本語力と学修の特徴 ・国際学部のカース制及び専門学修について ・就職・進学に必要とされる日本語レベル（JLPT 目安）について理解する	【復習】これまでの授業の内容を復習し、中間課題の準備をする。(4 時間)	6 時間
第7回	対面	中間課題（レポート）の作成	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第8回	対面	職業世界を眺める① （日本の雇用環境、在留資格について等）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第9回	対面	職業世界を眺める② （日本における外国人材採用動向、採用文化について）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第10回	対面	希望進路実現のためにすべきこと （「働く・就職すること」について考える）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の	4 時間

			授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	
第 1 1 回	対面	未来の自分① ・キャリアビジョンを考える ・キャリアデザインに必要な在留資格の基礎知識	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第 1 2 回	対面	未来の自分② ・キャリア・ビジョンを描く	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第 1 3 回	対面	まとめ・総括	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第 1 4 回	オンデマンド	オンデマンド授業 春学期授業のふりかえり（これまでの学び・気づきをふりかえる）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間
第 1 5 回	対面	期末課題（レポート）の作成	総復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間

科目名	国際キャリア開発 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	尹 恵彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	自己理解と大学生活・学修への適応		
授業の目的及び概要	本科目は、国際キャリア開発 B とともに、留学生が大学生活に円滑に適応し、自身の学びと将来を主体的に考えるための基盤を形成することを目的とする。自己理解を深めるとともに、大学で求められる学修スキルやジェネリックスキスを身につけ、日本社会や「働くこと」への基礎的理解を育む。また、在留資格や大学のルール、学内外の支援資源について理解し、困りごとが生じた際に適切に相談・行動できる力を養う。1 年次の学びと経験を振り返り、2 年次以降の学修・活動につながる目標設定を行うことで、キャリア形成の基盤づくりを目指す。あわせて、「話す（やり取り）」「話す（発表）」の基礎を養い、自分の考えを伝え、必要なときに相談できるコミュニケーション力の土台を形成する。		
履修条件・留意点	講義とワークを組み合わせる実施する。毎回、ペアまたはグループでのやり取りやミニ発表を行うため、積極的な参加を求める。 社会での当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の強み・関心・価値観・学修経験を整理し、自己理解レポート（またはポートフォリオ）として言語化できる。 ・大学で求められる学修スキル（情報収集／要約／引用・参照／レポート作法等）を理解し、基礎的な課題を期限内に遂行できる。 ・ジェネリックスキル（協働・発信・論理・問題解決等）について自己評価を行い、改善目標と行動計画を立てることができる。 ・在留資格・就労制限・大学生活のルールを理解し、自分の状況に即して説明し、適切に判断できる。 ・相談先（教務・国際センター・キャリア・学習支援等）を把握し、困りごとが生じた際に必要な支援資源を選択し、相談行動を取ることができる。 ・1 年次の学びと生活を踏まえ、2 年次以降の学修・経験（授業・活動・留学等）について短期および中期の目標を設定できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田学, 日本能率協会マネジメントセンター	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	
	その他の内容	期末課題	

この科目の受講にあたって	本授業では、卒業後の進路を見据えつつ、将来のキャリアデザインに主体的かつ前向きに取り組む姿勢・価値観を育むことを期待するとともに、JLPT の取得を含めて日本語能力を積極的に磨く努力も求めます。本科目は、社会人として必要な基礎的素養を身につける場であり、社会で求められる基本的なルールやマナーを尊重しながら、積極的な参加を心がけてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ・授業の全体像や評価方法を説明し、到達目標を理解する。 ・学期中の学習テーマを示し、受講生同士の簡単な自己紹介を行う。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第2回	対面	キャリア形成の考え方 ・過去・現在・未来の時間軸を通じた自己理解と現時点のキャリア意識の確認	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第3回	対面	自己理解①「過去の自分」 自己概念、自分の過去をさかのぼる、ライフラインチャートから主観的な自分を探る	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第4回	対面	自己理解②「現在の自分」 自己概念を修正する、客観的な自分を表現する	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第5回	対面	自己理解③「異文化環境における現在の自分」 ・自身の留学動機や日本との関わりについて振り返る ・多様な背景を持つ受講生同士とのグループワークを通じて、自らの立ち位置を再認識する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第6回	対面	大学生活と学びの基礎理解：求められる日本語力と学修の特徴 ・国際学部のカース制及び専門学修について ・就職・進学に必要とされる日本語レベル(JLPT 目安) について理解する	【復習】これまでの授業の内容を復習し、中間課題の準備をする。(4 時間)	6 時間
第7回	対面	中間課題（レポート）の作成	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第8回	対面	職業世界を眺める① (日本の雇用環境、在留資格について等)	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第9回	対面	職業世界を眺める② (日本における外国人材採用動向、採用文化について)	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第10回	対面	希望進路実現のためにすべきこと (「働く・就職すること」について考える)	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第11回	対面	未来の自分① ・キャリアビジョンを考える ・キャリアデザインに必要な在留資格の	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の	4 時間

		基礎知識	授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	
第 1 2 回	対面	未来の自分② ・キャリア・ビジョンを描く	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第 1 3 回	対面	まとめ・総括	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2 時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2 時間)	4 時間
第 1 4 回	オンデマンド	オンデマンド授業 春学期授業のふりかえり（これまでの学び・気づきをふりかえる）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間
第 1 5 回	対面	期末課題（レポート）の作成	総復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4 時間)	4 時間

科目名	国際キャリア開発 A		開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田 真也		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計			
授業の目的及び概要	国際キャリア開発 A は、国際キャリア開発 B とともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。さらに、国際学部生の卒業後の進路を見据え、グローバル人材に求められる能力と態度について理解することを目標とする。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、グローバル化における自らのキャリアデザインをイメージするため、①異文化理解と多文化共生を踏まえたワークスタイルの理解、②海外勤務の特性の理解、③日本国内におけるグローバルキャリアの理解、等の課題にも取り組む。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	国際キャリア開発 A の学修到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適性と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年		ISBN	978-4-296-13004-7
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、キャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。			

	キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4 時間
第2回	オンデマンド	【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第3回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就 BOOK「8 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第4回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就 BOOK「8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章・9 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第5回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己 PR を作成する。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第7回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6 時間
第8回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就 BOOK「1 章・2 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4 時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就 BOOK「11 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「11 章」、パワーポイント資料を読み直し、新規卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第10回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第11回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められる SPI 試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI 試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI 試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャ	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間

		リア)		
第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。(学部コンテンツ×キャリア)	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き「将来の進路と今後の大学生活」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	国際キャリア開発 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	董 夢	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	自己理解と大学生活・学修への適応		
授業の目的及び概要	本科目は、国際キャリア開発 A に続く科目であり、留学生が大学生活に円滑に適応し、自身の学びと将来を主体的に考えるための基盤を形成することを目的とする。自己理解を深めるとともに、大学で求められる学修スキルやジェネリックスキルの身につけ、日本社会や「働くこと」への基礎的理解を育む。また、在留資格や大学のルール、学内外の支援資源について理解し、困りごとが生じた際に適切に相談・行動できる力を養う。1 年次の学びと経験を振り返り、2 年次以降の学修・活動につながる目標設定を行うことで、キャリア形成の基盤づくりを目指す。あわせて、「話す（やり取り）」「話す（発表）」の基礎を養い、自分の考えを伝え、必要なときに相談できるコミュニケーション力の土台を形成する。		
履修条件・留意点	講義とワークを組み合わせる。毎回、ペアまたはグループでのやり取りやミニ発表を行うため、積極的な参加を求める。 社会での当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の強み・関心・価値観・学修経験を整理し、自己理解レポート（またはポートフォリオ）として言語化できる。 ・大学で求められる学修スキル（情報収集／要約／引用・参照／レポート作法等）を理解し、基礎的な課題を期限内に遂行できる。 ・ジェネリックスキルの（協働・発信・論理・問題解決等）について自己評価を行い、改善目標と行動計画を立てることができる。 ・在留資格・就労制限・大学生活のルールを理解し、自分の状況に即して説明し、適切に判断できる。 ・相談先（教務・国際センター・キャリア・学習支援等）を把握し、困りごとが生じた際に必要な支援資源を選択し、相談行動を取ることができる。 ・1 年次の学びと生活を踏まえ、2 年次以降の学修・経験（授業・活動・留学等）について短期および中期の目標を設定できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック、久保田学、日本能率協会マネジメントセンター その他、授業内容に応じてプリントを配布する。	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ・授業の全体像や評価方法を説明し、到達目標を理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第2回	対面	大学で求められる学修スキル① 要約・引用・レポート作成（文章作成講座の視聴）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第3回	対面	大学で求められる学修スキル② 要約・引用・レポート作成（文章作成講座の活用）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第4回	対面	キャリア形成力を高める① （ソーシャル・スキル：人間関係とコミュニケーション）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第5回	対面	キャリア形成力を高める② （ソーシャル・スキル：協働とチームビルディング）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第6回	対面	まとめ 学修スキル・ソーシャル・スキルの整理	【復習】これまでの授業の内容を復習し、中間課題の準備をする。(4時間)	6時間
第7回	対面	中間課題	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第8回	対面	業界研究基礎①	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第9回	対面	業界研究基礎②日本企業の採用文化と留学生の進路	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第10回	対面	業界研究実践①	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第11回	対面	業界研究実践②多様な視点で日本の企業の多様性を知る	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間

第12回	対面	先輩とのパネルディスカッション～日本就職・進学を実現した先輩との座談会～	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第13回	対面	「働く」ことを考える仕事の意味・働く目的の多様性 ・働く目的の多様性を理解する ・進路実現に必要な能力・準備を理解する	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド授業 秋学期授業のふりかえり（これまでの学び・気づきをふりかえる）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4時間)	4時間
第15回	対面	期末課題	総復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4時間)	4時間

科目名	国際キャリア開発 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	尹 恵彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	自己理解と大学生活・学修への適応		
授業の目的及び概要	本科目は、国際キャリア開発 A に続く科目であり、留学生が大学生活に円滑に適応し、自身の学びと将来を主体的に考えるための基盤を形成することを目的とする。自己理解を深めるとともに、大学で求められる学修スキルやジェネリックスキスを身につけ、日本社会や「働くこと」への基礎的理解を育む。また、在留資格や大学のルール、学内外の支援資源について理解し、困りごとが生じた際に適切に相談・行動できる力を養う。1 年次の学びと経験を振り返り、2 年次以降の学修・活動につながる目標設定を行うことで、キャリア形成の基盤づくりを目指す。あわせて、「話す（やり取り）」「話す（発表）」の基礎を養い、自分の考えを伝え、必要なときに相談できるコミュニケーション力の土台を形成する。		
履修条件・留意点	講義とワークを組み合わせる。毎回、ペアまたはグループでのやり取りやミニ発表を行うため、積極的な参加を求める。 社会での当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・自分の強み・関心・価値観・学修経験を整理し、自己理解レポート（またはポートフォリオ）として言語化できる。 ・大学で求められる学修スキル（情報収集／要約／引用・参照／レポート作法等）を理解し、基礎的な課題を期限内に遂行できる。 ・ジェネリックスキル（協働・発信・論理・問題解決等）について自己評価を行い、改善目標と行動計画を立てることができる。 ・在留資格・就労制限・大学生活のルールを理解し、自分の状況に即して説明し、適切に判断できる。 ・相談先（教務・国際センター・キャリア・学習支援等）を把握し、困りごとが生じた際に必要な支援資源を選択し、相談行動を取ることができる。 ・1 年次の学びと生活を踏まえ、2 年次以降の学修・経験（授業・活動・留学等）について短期および中期の目標を設定できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田学, 日本能率協会マネジメントセンター その他、授業内容に応じてプリントを配布する。	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ・授業の全体像や評価方法を説明し、到達目標を理解する。	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第2回	対面	大学で求められる学修スキル① 要約・引用・レポート作成（文章作成講座の視聴）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第3回	対面	大学で求められる学修スキル② 要約・引用・レポート作成（文章作成講座の活用）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第4回	対面	キャリア形成力を高める① （ソーシャル・スキル：人間関係とコミュニケーション）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第5回	対面	キャリア形成力を高める② （ソーシャル・スキル：協働とチームビルディング）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第6回	対面	まとめ 学修スキル・ソーシャル・スキルの整理	【復習】これまでの授業の内容を復習し、中間課題の準備をする。(4時間)	6時間
第7回	対面	中間課題	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第8回	対面	業界研究基礎①	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第9回	対面	業界研究基礎②日本企業の採用文化と留学生の進路	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第10回	対面	業界研究実践①	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第11回	対面	業界研究実践②多様な視点で日本の企業の多様性を知る	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第12回	対面	先輩とのパネルディスカッション～日本就職・進学を実現した先輩との座談会～	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間

第13回	対面	「働く」ことを考える仕事の意味・働く目的の多様性 ・働く目的の多様性を理解する ・進路実現に必要な能力・準備を理解する	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(2時間) 予習：テキストや参考文献に事前に目を通し、次週の授業で扱う内容の概要や要点を把握する(2時間)	4時間
第14回	オンデマンド	オンデマンド授業 秋学期授業のふりかえり（これまでの学び・気づきをふりかえる）	復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4時間)	4時間
第15回	対面	期末課題	総復習：授業内で使用したテキストや配布資料、ノートを見直し、理解が不十分な箇所を確認する(4時間)	4時間

科目名	国際キャリア開発 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	福田 真也		配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計			
授業の目的及び概要	国際キャリア開発 B は、国際キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。さらに、国際学部生の卒業後の進路を見据え、グローバル人材に求められる能力と態度について理解することを目指す。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考え、その養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク・課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。さらに、グローバル化における自らのキャリアデザインをイメージするため、①異文化理解と多文化共生を踏まえたワークスタイルの理解、②海外勤務の特性の理解、③日本国内におけるグローバルキャリアの理解、等の課題にも取り組む。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	国際キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について、関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて、関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	グループワーク			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年		ISBN	978-4-296-13004-7
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		期末課題	
この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、グローバルな観点とともに、キャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。			

	キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断＋企業動向を知る	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「10章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4時間
第2回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4時間
第3回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える ②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホルランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就BOOK「10章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4時間
第6回	オンデマンド	【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第7回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第6回までの内容を復習する。	6時間
第8回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し「職種・業種」について再度確認する。	4時間
第9回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業） グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4時間
第10回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業） 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4時間
第11回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き「企業が求める人材像」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた2年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4時間

第13回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き「目指す進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【予習】学就BOOK「7章・8章・9章」を事前に読んでおく。 【復習】学就BOOK「7章・8章・9章」、講演資料を読み直し、成長する学生生活について復習する。	4時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学修内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第14回までの内容を復習する。	4時間

科目名	国際キャリアデザイン A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	董 夢	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	他者との協働や社会を意識した学修を通じて、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、多様な進路選択に向けた探索と自己理解の再構築を行う。		
授業の目的及び概要	本科目は、国際キャリアデザイン B とともに、多様な進路選択の探索を見据え、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、将来の進路決定に向けた準備を進めることを目的とする。業界・企業・職業に関する基礎理解を踏まえ、課題解決型学修（PBL）を通じて、情報収集・分析・発信の力を養う。 授業は、留学生のみのクラスと、留学生と日本人学生が共に学ぶ混合クラスで構成され、混合クラスでは協働学修を通じて多様な視点に触れる学修を行う。一方、留学生のみのクラスでは、事例研究やグループワークを通じて、同様の到達目標の達成を目指す。 本授業では、「話す（やり取り）」「話す（発表）」を発展段階として位置づけ、比較・提案・合意形成を行う協働的コミュニケーション力を育成する。		
履修条件・留意点	グループワークおよび発表を中心に授業を行う。混合クラスでは文化的背景の違いを尊重し、対話を通じて合意形成を図る姿勢を求める。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自国・日本・国際社会における働き方／就業観／キャリア形成の特徴を比較し、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化して説明できる。 ②国際共修または協働学修において、役割分担・合意形成・対立調整の基本手順を用いて、文化的背景の違いに配慮しながらチームで成果物（提案・発表等）を作成できる。 ③グローバルまたはローカルな企業の課題を題材に、情報を収集・整理し、根拠に基づいた課題分析と解決案を提示できる。 ④企業・仕事の疑似体験を通じて、仕事内容、求められる能力、職場文化を整理し、学びとキャリアの接続を振り返ることができる。 ⑤自身の人的ネットワーク（学内外）を可視化し、必要な支援や資源を見立て、次に広げる関係づくりの行動計画を立てることができる。 ⑥3 年次に向けて、進路仮説（複数案）と準備項目（語学、経験、情報収集等）を整理できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック，久保田学，日本能率協会マネジメントセンター ・留学生と大学生のためのエピソードとクラスから描く私のキャリアプラン，凡人社 ・チームワーキング：ケースとデータで学ぶ「最強チーム」のつくり方，中原淳・田中聡著，日本能率協会マネジメントセンター ・業界地図，マイナビ（WEB 版）	ISBN	

	・キャリアデザインツール MATCH Plus (マイナビ)	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【オリエンテーション】 授業の目的・成績評価・授業概要の紹介 1年次のキャリア系科目の復習・自己分析の振り返り	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	【自己理解】 過去・現在・未来の時間軸を通した自己理解とキャリア意識の確認	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	【多様な働き方・職業観①】 働き方・就業観の比較（自国・日本・国際） ／国際共修による視点の違いの理解	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【多様な働き方・職業観②】 外部講師（マイナビ）によるインターンシップの参加意義の講話 インターンシップの意義と就職活動との関係／企業・業界理解の基礎	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【多様な働き方・職業観③】 業界・企業研究の基礎について学ぶ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6時間
第7回	対面	【企業研究】 連携企業より企業紹介・課題提起	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ編成／課題テーマ設定／課題分析に必要な業界・企業研究の知識の学習	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第9回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動（課題分析・資料作成）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第10回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動：発表資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第11回	対面	【企業課題分析の実践】 発表準備・役割分担	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	【企業課題分析の実践】 成果発表・企業評価・フィードバック	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間

第13回	対面	【オンデマンド】 企業課題の整理と学びの言語化	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	オンデマンド	卒業生によるキャリア講話（インタビュー 動画）・質疑応答／PBL 授業での学びと実 社会の接続	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について総括 し、夏休みに取り組むことを確認する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動 計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリアデザイン A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	董 夢	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	他者との協働や社会を意識した学修を通じて、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、多様な進路選択に向けた探索と自己理解の再構築を行う。		
授業の目的及び概要	本科目は、国際キャリアデザイン B とともに、多様な進路選択の探索を見据え、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、将来の進路決定に向けた準備を進めることを目的とする。業界・企業・職業に関する基礎理解を踏まえ、課題解決型学修（PBL）を通じて、情報収集・分析・発信の力を養う。 授業は、留学生のみのクラスと、留学生と日本人学生が共に学ぶ混合クラスで構成され、混合クラスでは協働学修を通じて多様な視点に触れる学修を行う。一方、留学生のみのクラスでは、事例研究やグループワークを通じて、同様の到達目標の達成を目指す。 本授業では、「話す（やり取り）」「話す（発表）」を発展段階として位置づけ、比較・提案・合意形成を行う協働的コミュニケーション力を育成する。		
履修条件・留意点	グループワークおよび発表を中心に授業を行う。混合クラスでは文化的背景の違いを尊重し、対話を通じて合意形成を図る姿勢を求める。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自国・日本・国際社会における働き方／就業観／キャリア形成の特徴を比較し、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化して説明できる。 ②国際共修または協働学修において、役割分担・合意形成・対立調整の基本手順を用いて、文化的背景の違いに配慮しながらチームで成果物（提案・発表等）を作成できる。 ③グローバルまたはローカルな企業の課題を題材に、情報を収集・整理し、根拠に基づいた課題分析と解決案を提示できる。 ④企業・仕事の疑似体験を通じて、仕事内容、求められる能力、職場文化を整理し、学びとキャリアの接続を振り返ることができる。 ⑤自身の人的ネットワーク（学内外）を可視化し、必要な支援や資源を見立て、次に広げる関係づくりの行動計画を立てることができる。 ⑥3 年次に向けて、進路仮説（複数案）と準備項目（語学、経験、情報収集等）を整理できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック，久保田学，日本能率協会マネジメントセンター ・留学生と大学生のためのエピソードとクラスから描く私のキャリアプラン，凡人社 ・チームワーキング：ケースとデータで学ぶ「最強チーム」のつくり方，中原淳・田中聡著，日本能率協会マネジメントセンター ・業界地図，マイナビ（WEB 版）	ISBN	

	・キャリアデザインツール MATCH Plus (マイナビ)	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【オリエンテーション】 授業の目的・成績評価・授業概要の紹介 1年次のキャリア系科目の復習・自己分析の振り返り	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	【自己理解】 過去・現在・未来の時間軸を通した自己理解とキャリア意識の確認	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	【多様な働き方・職業観①】 働き方・就業観の比較（自国・日本・国際） ／国際共修による視点の違いの理解	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【多様な働き方・職業観②】 外部講師（マイナビ）によるインターンシップの参加意義の講話 インターンシップの意義と就職活動との関係／企業・業界理解の基礎	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【多様な働き方・職業観③】 業界・企業研究の基礎について学ぶ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6時間
第7回	対面	【企業研究】 連携企業より企業紹介・課題提起	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ編成／課題テーマ設定／課題分析に必要な業界・企業研究の知識の学習	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第9回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動（課題分析・資料作成）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第10回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動：発表資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第11回	対面	【企業課題分析の実践】 発表準備・役割分担	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	【企業課題分析の実践】 成果発表・企業評価・フィードバック	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間

第13回	対面	【オンデマンド】 企業課題の整理と学びの言語化	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	オンデマンド	卒業生によるキャリア講話（インタビュー 動画）・質疑応答／PBL 授業での学びと実 社会の接続	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について総括 し、夏休みに取り組むことを確認する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動 計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリアデザイン A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	尹 恵彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	他者との協働や社会を意識した学修を通じて、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、多様な進路選択に向けた探索と自己理解の再構築を行う。		
授業の目的及び概要	本科目は、多様な進路選択の探索を見据え、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、将来の進路決定に向けた準備を進めることを目的とする。 業界・企業・職業に関する基礎理解を踏まえ、事例研究およびグループワークを通じて、情報収集・分析・発信の力を養う。 授業は、留学生のみのクラスと、留学生と日本人学生が共に学ぶ混合クラスで構成され、混合クラスでは協働学修を通じて多様な視点に触れる学修を行う。一方、留学生のみのクラスでは、事例研究やグループワークを通じて、同様の到達目標の達成を目指す。 本授業では、「話す（やり取り）」「話す（発表）」を発展段階として位置づけ、比較・提案・合意形成を行う協働的コミュニケーション力を育成する。		
履修条件・留意点	グループワークおよび発表を中心に授業を行う。混合クラスでは文化的背景の違いを尊重し、対話を通じて合意形成を図る姿勢を求める。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 自国・日本・国際社会における働き方／就業観／キャリア形成の特徴を比較し、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化して説明できる。 ② 協働学修（留学生クラス）において、役割分担・合意形成・対立調整の基本手順を用いて、文化的背景の違いに配慮しながらチームで成果物（提案・発表等）を作成できる。 ③ グローバルまたはローカルな企業の課題を題材に、情報を収集・整理し、根拠に基づいた課題分析と解決案を提示できる。 ④ 企業・仕事の疑似体験を通じて、仕事内容、求められる能力、職場文化を整理し、学びとキャリアの接続を振り返ることができる。 ⑤ 自身の人的ネットワーク（学内外）を可視化し、必要な支援や資源を見立て、次に広げる関係づくりの行動計画を立てることができる。 ⑥ 3 年次に向けて、進路仮説（複数案）と準備項目（語学、経験、情報収集等）を整理できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田学, 日本能率協会マネジメントセンター ・留学生と大学生のためのエピソードとクラスから描く私のキャリアプラン, 凡人社 ・チームワーキング : ケースとデータで学ぶ「最強チーム」のつくり方, 中原淳・田中聡著, 日本能率協会マネジメントセンター ・業界地図, マイナビ (WEB 版) ・キャリアデザインツール MATCH Plus (マイナビ)	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 授業の目的・成績評価・授業概要の紹介 1年次のキャリア系科目の復習・自己分析の振り返り	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	【多様な働き方・職業観①】 働き方・就業観の比較（自国・日本・国際） ／国際共修による視点の違いの理解	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	【多様な働き方・職業観②】外部講師（マイナビ）によるインターンシップの参加意義の講話 インターンシップの意義と就職活動との関係／企業・業界理解の基礎	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【多様な働き方・職業観③】外部講師（マイナビ）によるインターンシップの参加意義の講話 インターンシップの意義と就職活動との関係／企業・業界理解の基礎	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【多様な働き方・職業観④】 業界・企業研究の基礎について学ぶ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6時間
第7回	対面	中間（総括）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	グループ編成／課題テーマ設定	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第9回	対面	グループ活動：課題分析・資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第10回	対面	グループ活動：発表資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第11回	対面	発表準備・役割分担	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	成果発表・教員評価・フィードバック	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	【オンデマンド】 企業課題の整理と学びの言語化	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第14回	オンデ	卒業生によるキャリア講話・質疑応答	【予習】配布資料を事前に読んでおく。	4時間

2026/05/01

	マンド		【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4時間

科目名	国際キャリアデザイン B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	董 夢	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	他者との協働や社会を意識した学修を通じて、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、多様な進路選択に向けた探索と自己理解の再構築を行う。		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期の国際キャリアデザイン A に続き、多様な進路選択の探索を見据え、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、将来の進路決定に向けた準備を進めることを目的とする。 業界・企業・職業に関する基礎理解を踏まえ、課題解決型学修（PBL）を通じて、情報収集・分析・発信の力を養う。 授業は、留学生のみのクラスと、留学生と日本人学生が共に学ぶ混合クラスで構成され、混合クラスでは協働学修を通じて多様な視点に触れる学修を行う。一方、留学生のみのクラスでは、事例研究やグループワークを通じて、同様の到達目標の達成を目指す。 なお、本授業では、「話す（やり取り）」「話す（発表）」を発展段階として位置づけ、比較・提案・合意形成を行う協働的コミュニケーション力を育成する。		
履修条件・留意点	グループワークおよび発表を中心に授業を行う。混合クラスでは文化的背景の違いを尊重し、対話を通じて合意形成を図る姿勢を求める。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自国・日本・国際社会における働き方／就業観／キャリア形成の特徴を比較し、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化して説明できる。 ②国際共修または協働学修において、役割分担・合意形成・対立調整の基本手順を用いて、文化的背景の違いに配慮しながらチームで成果物（提案・発表等）を作成できる。 ③グローバルまたはローカルな企業の課題を題材に、情報を収集・整理し、根拠に基づいた課題分析と解決案を提示できる。 ④企業・仕事の疑似体験を通じて、仕事内容、求められる能力、職場文化を整理し、学びとキャリアの接続を振り返ることができる。 ⑤自身の人的ネットワーク（学内外）を可視化し、必要な支援や資源を見立て、次に広げる関係づくりの行動計画を立てることができる。 ⑥3 年次に向けて、進路仮説（複数案）と準備項目（語学、経験、情報収集等）を整理できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック，久保田学，日本能率協会マネジメントセンター ・留学生と大学生のためのエピソードとクラスから描く私のキャリアプラン，凡人社 ・チームワーキング：ケースとデータで学ぶ「最強チーム」のつくり方，中原淳・田中聡著，日本能率協会マネジメントセンター	ISBN	0

	・業界地図、マイナビ（WEB 版） ・キャリアデザインツール MATCH Plus（マイナビ）		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【オリエンテーション】 春学期の振り返りと秋学期の学修目標設定／成績評価	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	グループ活動における自身のコミュニケーションと役割、国際共修学修効果の振り返り	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【業界・企業研究の応用】 市場動向と将来性の読み取り	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	オンデマンド	【職業理解】 職種別キャリアパスと働き方	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【企業研究】 連携企業の事業内容紹介・課題提示	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第6回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ編成／課題テーマ設定	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動：課題分析・資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第9回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動：発表資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【企業課題分析の実践】 発表準備・役割分担	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【企業課題分析の実践】 成果発表・企業評価・フィードバック	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【企業課題分析の実践】 成果発表後の振り返り／企業比較分析	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【企業課題分析の総まとめ】 キャリア観の再整理と進路選択準備	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、	4 時間

2026/05/01

			習得した知識を確認する。	
第14回	オンデマンド	【オンデマンド】 企業課題の整理と学びの言語化	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、3年次の就職活動に備える。	4時間

科目名	国際キャリアデザイン B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	董 夢	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	他者との協働や社会を意識した学修を通じて、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、多様な進路選択に向けた探索と自己理解の再構築を行う。		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期の国際キャリアデザイン A に続き、多様な進路選択の探索を見据え、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、将来の進路決定に向けた準備を進めることを目的とする。 業界・企業・職業に関する基礎理解を踏まえ、課題解決型学修（PBL）を通じて、情報収集・分析・発信の力を養う。 授業は、留学生のみのクラスと、留学生と日本人学生が共に学ぶ混合クラスで構成され、混合クラスでは協働学修を通じて多様な視点に触れる学修を行う。一方、留学生のみのクラスでは、事例研究やグループワークを通じて、同様の到達目標の達成を目指す。 なお、本授業では、「話す（やり取り）」「話す（発表）」を発展段階として位置づけ、比較・提案・合意形成を行う協働的コミュニケーション力を育成する。		
履修条件・留意点	グループワークおよび発表を中心に授業を行う。混合クラスでは文化的背景の違いを尊重し、対話を通じて合意形成を図る姿勢を求める。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自国・日本・国際社会における働き方／就業観／キャリア形成の特徴を比較し、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化して説明できる。 ②国際共修または協働学修において、役割分担・合意形成・対立調整の基本手順を用いて、文化的背景の違いに配慮しながらチームで成果物（提案・発表等）を作成できる。 ③グローバルまたはローカルな企業の課題を題材に、情報を収集・整理し、根拠に基づいた課題分析と解決案を提示できる。 ④企業・仕事の疑似体験を通じて、仕事内容、求められる能力、職場文化を整理し、学びとキャリアの接続を振り返ることができる。 ⑤自身の人的ネットワーク（学内外）を可視化し、必要な支援や資源を見立て、次に広げる関係づくりの行動計画を立てることができる。 ⑥3 年次に向けて、進路仮説（複数案）と準備項目（語学、経験、情報収集等）を整理できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック，久保田学，日本能率協会マネジメントセンター ・留学生と大学生のためのエピソードとクラスから描く私のキャリアプラン，凡人社 ・チームワーキング：ケースとデータで学ぶ「最強チーム」のつくり方，中原淳・田中聡著，日本能率協会マネジメントセンター	ISBN	0

	・業界地図、マイナビ（WEB 版） ・キャリアデザインツール MATCH Plus（マイナビ）		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【オリエンテーション】 春学期の振り返りと秋学期の学修目標設定／成績評価	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	グループ活動における自身のコミュニケーションと役割、国際共修学修効果の振り返り	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【業界・企業研究の応用】 市場動向と将来性の読み取り	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	オンデマンド	【職業理解】 職種別キャリアパスと働き方	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【企業研究】 連携企業の事業内容紹介・課題提示	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第6回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ編成／課題テーマ設定	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動：課題分析・資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第9回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動：発表資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【企業課題分析の実践】 発表準備・役割分担	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【企業課題分析の実践】 成果発表・企業評価・フィードバック	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【企業課題分析の実践】 成果発表後の振り返り／企業比較分析	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【企業課題分析の総まとめ】 キャリア観の再整理と進路選択準備	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、	4 時間

2026/05/01

			習得した知識を確認する。	
第14回	オンデマンド	【オンデマンド】 企業課題の整理と学びの言語化	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、3年次の就職活動に備える。	4時間

科目名	国際キャリアデザイン B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	尹 恵彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	他者との協働や社会を意識した学修を通じて、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、多様な進路選択に向けた探索と自己理解の再構築を行う。		
授業の目的及び概要	本科目は、多様な進路選択の探索を見据え、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化し、将来の進路決定に向けた準備を進めることを目的とする。 業界・企業・職業に関する基礎理解を踏まえ、事例研究およびグループワークを通じて、情報収集・分析・発信の力を養う。 授業は、留学生のみのクラスと、留学生と日本人学生が共に学ぶ混合クラスで構成され、混合クラスでは協働学修を通じて多様な視点に触れる学修を行う。一方、留学生のみのクラスでは、事例研究やグループワークを通じて、同様の到達目標の達成を目指す。 本授業では、「話す（やり取り）」「話す（発表）」を発展段階として位置づけ、比較・提案・合意形成を行う協働的コミュニケーション力を育成する。		
履修条件・留意点	グループワークおよび発表を中心に授業を行う。混合クラスでは文化的背景の違いを尊重し、対話を通じて合意形成を図る姿勢を求める。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 自国・日本・国際社会における働き方／就業観／キャリア形成の特徴を比較し、自身の価値観・働き方・キャリア観を相対化して説明できる。 ② 協働学修（留学生クラス）において、役割分担・合意形成・対立調整の基本手順を用いて、文化的背景の違いに配慮しながらチームで成果物（提案・発表等）を作成できる。 ③ グローバルまたはローカルな企業の課題を題材に、情報を収集・整理し、根拠に基づいた課題分析と解決案を提示できる。 ④ 企業・仕事の疑似体験を通じて、仕事内容、求められる能力、職場文化を整理し、学びとキャリアの接続を振り返ることができる。 ⑤ 自身の人的ネットワーク（学内外）を可視化し、必要な支援や資源を見立て、次に広げる関係づくりの行動計画を立てることができる。 ⑥ 3 年次に向けて、進路仮説（複数案）と準備項目（語学、経験、情報収集等）を整理できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田学, 日本能率協会マネジメントセンター ・留学生と大学生のためのエピソードとクラスから描く私のキャリアプラン, 凡人社 ・チームワーキング : ケースとデータで学ぶ「最強チーム」のつくり方, 中原淳・田中聡著, 日本能率協会マネジメントセンター ・業界地図, マイナビ (WEB 版) ・キャリアデザインツール MATCH Plus (マイナビ)	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。	

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション／前期の振り返りと後期の学修目標設定／成績評価	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	グループ活動における自身のコミュニケーションと役割、国際共修学修効果の振り返り	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	【業界・企業研究の応用】 市場動向と将来性の読み取り	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【職業理解】 職種別キャリアパスと働き方	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	対面	中間（総まとめ）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6時間
第7回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ編成／課題テーマ設定	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動：課題分析・資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第9回	対面	【企業課題分析の実践】 グループ活動：発表資料作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第10回	対面	【企業課題分析の実践】 発表準備・役割分担	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第11回	対面	【企業課題分析の実践】 成果発表・企業評価・フィードバック	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	【企業課題分析の実践】 成果発表後の振り返り／企業比較分析	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	【企業課題分析の総まとめ】 キャリア観の再整理と進路選択準備	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第14回	オンデマンド	【オンデマンド】 企業課題の整理と学びの言語化	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返り	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、3年次の就職活動	4時間

2026/05/01

		返りを行い、総括する。	に備える。	

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中川 正秋	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		う推敲する。		
第9回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法 SPI の受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石井 里奈	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいけば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		う推敲する。		
第9回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法 SPI の受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中川 正秋	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいけば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		う推敲する。		
第9回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法 SPI の受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石井 里奈	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	

	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【職業理解】企業研究入門 業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第7回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		う推敲する。		
第9回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を1社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。(経法 SPI の受験)	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	董 夢	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	進路理解と進路選択に向けた準備と実践		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力の養成を目的とする。演習科目の特性を活かし、グループワークおよび双方向型の実践的活動を中心に授業を進める。 本授業では、自己理解と職業理解の深化を図りながら、業界研究・企業研究を通じて社会・産業への理解を深め、自らの強みと職業を結びつける視点を養う。 また、自己を客観的に捉え、論理的に表現する力の育成を重視し、応募書類作成、面接演習、グループディスカッション等の実践を通じて、志望動機形成力および職業人としての基礎力を養成する。 なお、本授業は、「話す（やり取り）」「話す（発表）」の完成段階として位置づけ、面接・討議・プレゼンテーション場面において、自身を戦略的に発信する力を育成する。		
履修条件・留意点	・グループワークおよび発表を中心に授業を行う。 ・社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目は、将来の進路を迷っている留学生を対象とし、就職・進学・帰国・継続学修等の多様な選択肢を理解し、自身の状況に即した進路形成に向けた基礎的準備を行うことを目的とする。 ①自己理解（強み・関心・制約条件等）を整理し、現実的な進路の方向性を言語化できる。 ②業界・職業・進路情報を収集し、情報の信頼性を踏まえて選択肢を比較・検討できる。 ③インターンシップ等の経験を通じて、自身の関心・適性・職業理解を深めるキャリア探索を実践できる。 ④就労および就職活動に必要な日本語（敬語・書類表現・面接応答等）について到達目標を設定し、学習計画に基づいた実践ができる。 ⑤自身の不安や課題を言語化し、必要な支援資源（学内外）を活用できる。 ⑥進路形成に向けた行動計画を立案し、小さな行動（情報収集・相談・体験等）を継続できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の提出物（コメントシートや課題等）は、翌週の授業で回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田学, 日本能率協会マネジメントセンター ・留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール, 日本能率協会マネジメントセンター ・外国人留学生のための就職活動テキスト 第 2 版, インプレス発行	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、各種課題への積極的な取り組みおよび期限内の課題提出が不可欠である。 また、本授業はグループワークおよび発表を中心として進めるため、授業への継続的かつ責任ある参加を求める。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 3年次キャリア演習の位置づけ／授業の目的・成績評価	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	【自己分析①】 過去・現在・未来の時間軸を通した自己理解とキャリア意識の確認	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	自己理解② これまでの経験・学びの棚卸し	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【自己分析③】 日本語力・学業・在留資格・制約条件（時間・経済・制度）の整理	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	対面	進路の全体像理解： ・進路の全体マップ（日本就職／母国／第三国／進学／その他） ・卒業生インタビュー動画視聴（事例から学ぶ進路の意思決定プロセス）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	進路別比較 ・各進路のメリット・デメリットおよび準備条件の整理 ・卒業生インタビュー動画視聴（事例から考える日本で働くことの意味と課題）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第7回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	【外部講師による講演】 キャリア形成におけるインターンシップの意義（マイナビまたは外国人雇用サービスセンター）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6時間
第9回	対面	雇用形態の違い 正社員・契約・アルバイト／インターンシップの位置付け	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第10回	オンデマンド	仕事理解① 業界と職種の違い	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第11回	オンデマンド	【オンデマンド】 キャリア探索としてのインターンシップの理解と活用（キャリアセンター主催行事への参加）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	比較ワーク	【予習】配布資料を事前に読んでおく。	4時間

		自分に合いそうな進路の整理と言語化	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	
第13回	対面	自分の将来像をイメージする（実践）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	自分の将来像をイメージする（発表）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	期末課題	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシート作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 A	開講年度	2026 年度春学期
担当者	董 夢	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	進路理解と進路選択に向けた準備と実践		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力の養成を目的とする。演習科目の特性を活かし、グループワークおよび双方向型の実践的活動を中心に授業を進める。 本授業では、自己理解と職業理解の深化を図りながら、業界研究・企業研究を通じて社会・産業への理解を深め、自らの強みと職業を結びつける視点を養う。 また、自己を客観的に捉え、論理的に表現する力の育成を重視し、応募書類作成、面接演習、グループディスカッション等の実践を通じて、志望動機形成力および職業人としての基礎力を養成する。 なお、本授業は、「話す（やり取り）」「話す（発表）」の完成段階として位置づけ、面接・討議・プレゼンテーション場面において、自身を戦略的に発信する力を育成する。		
履修条件・留意点	・グループワークおよび発表を中心に授業を行う。 ・社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目は、日本での就職を目指す留学生を対象とし、自己理解と職業理解を統合しながら、就職活動を実践的に進めることを目的とする。 ①自己理解（強み・価値観・経験）と職業理解（業界・職種）を統合し、志望動機を論理的に構築できる。 ②業界研究・企業研究を通じて情報の信頼性を吟味し、志望先に応じた応募書類を作成・改善できる。 ③面接およびグループディスカッションにおいて、自身の経験と強みを論理的かつ戦略的に発信できる。 ④就職活動の進行に応じた行動計画を立案し、進捗を自己管理・修正できる。 ⑤選考経験や面接練習を振り返り、自己課題を特定し改善行動を実践できる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内の提出物（コメントシートや課題等）は、翌週の授業で回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書	・改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田学, 日本能率協会マネジメントセンター ・留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール, 日本能率協会マネジメントセンター ・外国人留学生のための就職活動テキスト 第 2 版, インプレス発行	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、各種課題への積極的な取り組みおよび期限内の課題提出が不可欠である。 また、本授業はグループワークおよび発表を中心として進めるため、授業への継続的かつ責任ある参加を求める。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション 授業の目的、成績評価、日本の就職活動スケジュールと自身の行動計画作成	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	【自己分析①】 過去・現在・未来の時間軸を通した自己理解とキャリア意識の確認	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	【自己分析②】 経験の棚卸し、自己PRのエピソードの整理、言語化する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【自己分析③】 強みと企業ニーズの接続・自身のポジショニングマップの作成	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	対面	【エントリーシートの作成①】 自己PRの作成・文章の書き方とポイント	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	【エントリーシートの作成に向けて②】 自己PRの相互添削・改善	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第7回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	【外部講師による講演】 業界動向と日本企業の雇用／就職活動とインターンシップの位置づけ	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6時間
第9回	対面	【業界研究】 志望業界の比較	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第10回	オンデマンド	【業界研究】 求人票の見方とチェックポイント	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第11回	オンデマンド	【オンデマンド】 キャリア探索としてのインターンシップの理解と活用（キャリアセンター主催行事への参加）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	【企業研究①】 志望企業の研究実践	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	【企業研究②】 志望企業の成果発表	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、	4時間

			習得した知識を確認する。	
第14回	対面	【エントリーシートの作成に向けて③】 志望動機の書き方	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	期末課題	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4時間

科目名	国際キャリア演習 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石井 里奈		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。			
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的に且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	30		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	40		
	その他の内容	期末課題		
この科目の受講に	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課			

あたって	題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集团内で採用	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		評価につながる自己表現ができるようにする。		
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中川 正秋		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。			
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	30		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	40		
	その他の内容	期末課題		
この科目の受講に	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課			

あたって	題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集团内で採用	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		評価につながる自己表現ができるようにする。		
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中川 正秋	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的に且つ効果的に述べるができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、長年にわたり、各国の航空会社にて、営業課長や営業部長、執行役員等の役職を歴任し、エアライン・ビジネスに広く携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講に	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課		

あたって	題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間
第7回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6時間
第8回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4時間

		評価につながる自己表現ができるようにする。		
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石井 里奈		配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	・希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。			
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的に且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。			
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、キャリアコンサルタント有資格者であり、専門学校での学生就職指導や民間企業での人事採用等の業務に携わってきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己分析や業界・企業研究に関する実践的な教育を行う。			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。		ISBN	—
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		15	
	成果発表（口頭・実技）		0	
	中間試験		30	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		40	
	その他の内容		期末課題	
この科目の受講に	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課			

あたって	題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集团内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門 企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集团内で採用	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		評価につながる自己表現ができるようにする。		
第9回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】実践トレーニング 集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気慣れとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	国際キャリア演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	董 夢	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	進路理解と進路選択に向けた準備と実践		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、国際キャリア演習 A に続き、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力の養成を目的とする。演習科目の特性を活かし、グループワークおよび双方向型の実践的活動を中心に授業を進める。 本授業では、自己理解と職業理解の深化を図りながら、業界研究・企業研究を通じて社会・産業への理解を深め、自らの強みと職業を結びつける視点を養う。 また、自己を客観的に捉え、論理的に表現する力の育成を重視し、応募書類作成、面接演習、グループディスカッション等の実践を通じて、志望動機形成力および職業人としての基礎力を養成する。 なお、本授業は、「話す（やり取り）」「話す（発表）」の完成段階として位置づけ、面接・討議・プレゼンテーション場面において、自身を戦略的に発信する力を育成する。		
履修条件・留意点	グループワークおよび発表を中心に授業を行う。混合クラスでは文化的背景の違いを尊重し、対話を通じて合意形成を図る姿勢を求める。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目は、国際キャリア演習の A に続き、将来の進路を迷っている留学生を対象とし、就職・進学・帰国・継続学修等の多様な選択肢を理解し、自身の状況に即した進路形成に向けた基礎的準備を行うことを目的とする。 ①自己理解（強み・関心・制約条件等）を整理し、現実的な進路の方向性を言語化できる。 ②業界・職業・進路情報を収集し、情報の信頼性を踏まえて選択肢を比較・検討できる。 ③インターンシップ等の経験を通じて、自身の関心・適性・職業理解を深めるキャリア探索を実践できる。 ④就労および就職活動に必要な日本語（敬語・書類表現・面接応答等）について到達目標を設定し、学習計画に基づいた実践ができる。 ⑤自身の不安や課題を言語化し、必要な支援資源（学内外）を活用できる。 ⑥進路形成に向けた行動計画を立案し、小さな行動（情報収集・相談・体験等）を継続できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書	・留学生のための就職内定ワークブック（日本能率協会マネジメントセンター発行） ・業界地図（マイナビ発行）（WEB 版） ・留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール（日本能率協会マネジメントセンター発行） ・外国人留学生のための就職活動テキスト 第 2 版（インプレス発行）	ISBN	0

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事事前事後学修（予習・復習等）	事事前事後の学修時間
第1回	対面	【オリエンテーション】 春学期の振り返り・進路整理の再確認	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	2時間
第2回	対面	将来像シート（春学期の課題）の確認／仮 の進路（第一候補）に向けて具体的な行動 計画	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第3回	対面	仮の進路に必要な条件を整理（日本語・学 業・資格・経験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第4回	対面	仮の進路に向けて ・日本で就職する場合のプロセス・スケジ ュール	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第5回	対面	求人票の見方と仕事の種類／正社員・契 約・業種別の違い	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第6回	対面	就職に必要な日本語・コミュニケーション 力	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第7回	オンデ マンド	【オンデマンド】 企業説明会・面接会の参加または見学（キ ャリアセンター主催行事への参加）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第8回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第9回	対面	応募書類作成の基礎 ・応募書類の例文理解・企業に求められる ことを知る	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	6時間
第10回	対面	応募書類作成の実践	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第11回	対面	企業・仕事理解 ・具体的なケースを通して日本企業で働 くことを理解する	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第12回	対面	面接の基礎	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第13回	対面	面接の実践	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第14回	対面	これまでの振り返り	【予習】配布資料を事前に読んでおく。	4時間

2026/05/01

		・就職活動の体験をやってみて分かったこと	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	
第15回	対面	期末課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4時間

科目名	国際キャリア演習 B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	董 夢	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	進路理解と進路選択に向けた準備と実践		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習 B では、国際キャリア演習 A に続き、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力の養成を目的とする。演習科目の特性を活かし、グループワークおよび双方向型の実践的活動を中心に授業を進める。 本授業では、自己理解と職業理解の深化を図りながら、業界研究・企業研究を通じて社会・産業への理解を深め、自らの強みと職業を結びつける視点を養う。 また、自己を客観的に捉え、論理的に表現する力の育成を重視し、応募書類作成、面接演習、グループディスカッション等の実践を通じて、志望動機形成力および職業人としての基礎力を養成する。 なお、本授業は、「話す（やり取り）」「話す（発表）」の完成段階として位置づけ、面接・討議・プレゼンテーション場面において、自身を戦略的に発信する力を育成する。		
履修条件・留意点	グループワークおよび発表を中心に授業を行う。混合クラスでは文化的背景の違いを尊重し、対話を通じて合意形成を図る姿勢を求める。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目は、日本での就職を目指す留学生を対象とし、自己理解と職業理解を統合しながら、就職活動を実践的に進めることを目的とする。 ①自己理解（強み・価値観・経験）と職業理解（業界・職種）を統合し、志望動機を論理的に構築できる。 ②業界研究・企業研究を通じて情報の信頼性を吟味し、志望先に応じた応募書類を作成・改善できる。 ③面接およびグループディスカッションにおいて、自身の経験と強みを論理的かつ戦略的に発信できる。 ④就職活動の進行に応じた行動計画を立案し、進捗を自己管理・修正できる。 ⑤選考経験や演習結果を振り返り、自己課題を特定し改善行動を実践できる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業における人事・営業職の経験を経て、国家資格「キャリアコンサルタント」および「2 級キャリアコンサルティング技能士」を取得し、行政機関での外国人雇用関連業務や企業向け研修・コンサルティングに従事してきた。加えて、外国人留学生のキャリア発達および支援に関する教育研究にも取り組んでいる。本科目では、これらの実務経験および研究知見を踏まえた教育を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書	・留学生のための就職内定ワークブック（日本能率協会マネジメントセンター発行） ・業界地図（マイナビ発行）（WEB 版） ・留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール（日本能率協会マネジメントセンター発行） ・外国人留学生のための就職活動テキスト 第 2 版	ISBN	0

	(インプレス発行)	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	40
	その他の内容	期末課題
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【オリエンテーション】 春学期の振り返りとインターンシップや就職活動の進捗状況の共有	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	対面	【面接対策①】 面接のマナーと第一印象	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【面接対策②】 頻出質問・逆質問・ケース対応	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【面接対策③】 模擬面接（実践）・フィードバック	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	グループディスカッション面接の基礎	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	グループディスカッション面接の実践	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	【面接トレーニングの総まとめ】 プレゼン・面接での表現力向上	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第8回	オンデマンド	【オンデマンド】 企業説明会・面接会の参加または見学（キャリアセンターのイベントへの参加も含む）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第9回	対面	中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第10回	対面	内定後のキャリア設計	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【日本企業で働くことのリアル】 卒業生によるキャリア講話・質疑応答	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第12回	対面	4年次に向けた就職活動戦略と行動計画策定	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	今後の行動計画発表・相互フィードバック	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、	4 時間

2026/05/01

			習得した知識を確認する。	
第14回	対面	振り返りと総括	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4時間
第15回	対面	期末課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1年間の授業を振り返り、今後の就職活動に 備える。	4時間

科目名	国際キャリア演習C	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩田 伽耶	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	国際キャリア演習Cでは、日本での就職をめざす留学生を対象に、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「日本特有の就活事情と方法論についての理解」「自己分析」「業界・企業研究」「志望動機作成」「面接対策」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を進め、自己理解・企業理解により、納得のいく就職活動と進路実現を果たすことを目的とする。自己を客観的に捉え、論理的に日本語で表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深め、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき文章化できる。 ②自身の強みを応募企業でどのように活かしたいのか、具体的に且つ効果的に言語化できる。 ③内定獲得に向けて必要な計画力を身に付け、自律的に行動することができる。 ④日本特有の就活ルールに関する知識を身に付け、行動につなげることができる。 ⑤業界・企業研究を幅広く効果的に行うことで（業界理解と産業としてのつながり、特色理解）、留学生一人ひとりの個性を発揮した企業への内定獲得を実現できる力を身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末課題	
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、グループワークへの積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動に必要な汎用的基礎力を着実に身に付け、日本での希望進路実現をめざすことができる。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、日本特有の就活ルール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、希望進路の実現をめざしてスケジュールを理解する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第2回	オンデマンド	■オンデマンド■【自己理解】「自己」を理解し具体的目標を設定する（自分の興味・関心・強みの認識） 進路決定した先輩学生のインタビュー動画をを通して、進路選択に必要な素養と準備を理解し、目標設定と具体的計画を作成する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第3回	対面	【職業理解】 業界理解・企業研究① 業界・企業研究についての情報収集の重要性・方法論（企業の探し方と求人票の見方など）について理解する。講義を通して、自身の目標を明確化する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第4回	対面	【職業理解】 業界理解・企業研究② グループワークを通して目標を明確化し、具体的計画へと落とし込む。実際の行動力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第5回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自己診断ツール等を活用しながら、自身の経験の棚卸を行う。読み手＝企業担当者を意識し、伝わる日本語での言語化を行う（自己 PR・ガクチカ）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第6回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成② 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自己診断ツール等を活用しながら、自身の経験の棚卸を行う。読み手＝企業担当者を意識し、伝わる日本語での言語化を行う（自己 PR・ガクチカ）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第7回	対面	中間課題 ※授業内で中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第8回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成③ 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う（志望動機）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第9回	対面	【自己理解】 エントリーシートの作成④ 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う（志望動機）。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第10回	対面	【就業力】面接実践トレーニング① 面接で必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第11回	対面	【就業力】面接実践トレーニング② ※集団面接編	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、	4 時間

		面接に必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）を学び、選考突破に向けた実践力を養う。	習得した知識を確認する。	
第12回	対面	【就業力】面接実践トレーニング③ ※集団面接編 面接に必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）を学び、簡潔な自己表現など、選考突破に向けた実践力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第13回	対面	【就業力】面接実践トレーニング④ ※個人面接編 面接に必要な日本特有の基礎的マナー（言葉遣い、服装、所作等）を学び、選考突破に向けた実践力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第14回	対面	【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第15回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動に向けて、具体的計画案の作成、実際の行動計画へとつなげる。 ※授業内で期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題を実施するので、第14回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	海外インターンシップ		開講年度	2026 年度春学期
担当者	前鶴 政和		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	アメリカ、韓国、東南アジアでの就業体験を通じて異文化理解を深め、グローバルマインドを養う。			
授業の目的及び概要	海外インターンシップは、授業のない夏季休暇期間（８・９月）において、アメリカ、韓国、東南アジアにある企業等にて就業体験をするプログラムである。海外での実習を通じて将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成するとともに、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観について理解を深める。海外の企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内での事前ガイダンス受講を必須とする。 授業の目的は、海外の企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を目指すことである。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	海外の企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学修と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、異文化社会における就業体験により、海外でのワークスタイル、海外勤務の職務特性、現地スタッフとの協働について理解を深め、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観を培う。また、外国語コミュニケーション能力の向上、国際的視野の涵養、海外で活躍できるグローバル人材への準備、そして、最終的には日本国内外での広いフィールドで活躍することができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	企業担当者によって、口頭や実習中に作成する日誌へのコメントで行われる。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし		ISBN	指定テキストはありません。
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0	
	成果発表（口頭・実技）		50	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		0	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）			
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	海外現地での円滑なコミュニケーションには、一定レベルの外国語コミュニケーション能力が必要。そのため、派遣先の国に応じて研修前か研修後の TOEIC®（IP も可）あるいは TOPIK の受験を強く推奨する。 この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、海外インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、海外インターンシップは国内でのインターンシップと同様に、社会人としてのマナーが厳しく問われる。さらに、派遣先地域・国の治安状況は比較的安定しているものの、日本国内とは異なることを肝に銘じておくこと。そのため、プログラム全般において、緊張感を持って			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション・ガイダンス 授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法など、授業の概要を説明する。併せて、インターンシップの意義と目的について概要を説明する。	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。(30分程度) 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。(30分程度)	1時間
第2回	対面	事前研修①（ビジネスマナー講座） ゲスト講師による講義とグループワークを通じて、ビジネス社会で求められる素養、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを養い、社会人にとって必要な素養・能力等を理解する。	【予習】事前学修として、社会人として求められる素養、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルについて確認しておく。(30分程度) 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。(30分程度)	1時間
第3回	対面	事前研修②（現地事情理解講座） ゲスト講師による講義を通じて渡航先の政治・経済事情、文化、歴史に関する理解を深める。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。(30分程度) 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。(30分程度)	1時間
第4回	対面	事前研修③（危機管理講座） 海外の治安状況を踏まえ、危機管理に対する基本事項を理解する。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。(30分程度) 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。(30分程度)	1時間
第5回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習①（1日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第6回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習②（2日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第7回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習③（3日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第8回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習④（4日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第9回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑤（5日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習	1時間

		を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	
第10回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑥(6日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第11回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑦(7日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第12回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑧(8日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第13回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑨(9日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30分程度)	1時間
第14回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑩(10日目) 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。(30分程度)	1時間
第15回	対面	レポート作成・提出 企業実習の総括を行うことで、海外インターンシップの成果と課題を認識する。	【予習】事前学習として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。(30分程度) 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。(30分程度)	1時間

科目名	国際学基礎 A	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	本多 善	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	英語コミュニケーションコースの学びにむけた国際学		
授業の目的及び概要	この科目は、英語コミュニケーションコースの学びの目的である、「英語を中心としたコミュニケーション能力」、「世界の諸地域における社会並びに文化の違い」、「異文化理解と多様性の志向」に必要な基本的知識の修得を目的とする国際学基礎 A の再履修科目です。そのためこの授業では、コースの学びの中心となる、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の基本的な基礎を修得し、3 つの領域から世界をみる方法を学修します。そして英語コミュニケーションが捉える「国際学」の視点の理解を深めることを目的とします。		
履修条件・留意点	国際学の基礎的知識を修得する「国際学基礎 A（必修科目）」の再履修科目です。「国際学基礎 B」と共に 1 年次に全員が履修します。「国際学基礎 A」は、国際通用性のある英語能力を中心としたコミュニケーション能力を修得するとともに、社会や文化の知識を用いて、グローバル・イシュー及び各国・地域の諸課題を把握し、課題解決に向けて取り組む力を身につけるために、外国語発展分野、コミュニケーション分野、社会・文化分野、観光・ホスピタリティ分野の科目を中心に学修する英語コミュニケーションコースの基礎形成に資する科目です。各回で予習に向けたアンケートへの回答、各回の学修定着を図る確認テストが授業外課題として出されますので必ず提出しましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「国際学基礎 A」および「国際学基礎 B」は、国際学部での多分野からなる複合的な学びを貫く「国際学」の視点（理論）を身につけることを目標とする。 「国際学基礎 A」では、 ・①英語からみる世界、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の違いを理解し、それら 3 つの領域の基礎となる知識を習得することができる。 ・①英語からみる世界、②コミュニケーション、③社会/文化の 3 つの領域の学びを修得することで、世界をみる「見方」と世界を知る「方法」を身につけることができる。 ・国際学基礎 A の 3 つの領域と基本的知識を用いて、2 年進級時に自らの関心や希望進路に沿って、適切にコースを選択することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	予習の確認および予習で示した問題関心のリマインドをおこなうために授業内確認テストをおこないフィードバックを各回で実施する。 ラーニングポータルでのテスト機能を用いて実施される各回授業外確認テストの結果を受けて、授業内でフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①鳥飼 玖美子『国際共通語としての英語』講談社現代新書、2011 年 ②高城 玲『大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い』丸善出版、2017 年 ③樽本英樹『よくわかる国際社会学[第 2 版]』ミネルヴァ書房、2016 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目を修得するコツは、①毎回の動画視聴、②次回の授業に向けたアンケートの回答、③確認テストの提出の3点です。特に確認テストは各回授業の復習内容となっているので視聴し学修すれば必ず高得点を獲得することができます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	イントロダクション 担当者：本多善 ・英語コミュニケーションコースの「国際学」とは 「国際社会」における英語とコミュニケーションの役割、社会/文化からみる多様性の理解を、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化の3領域から考える。 ・国際学部における英語の重要性、3つの専門領域、3領域の修得によって得られる「世界を知る力」、授業全体のガイダンスを説明する。	① 第1回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第2回	オンデマンド	英語からみる世界① 担当者：ジョナサン・ミルズ ・〈国際語〉としての英語：「3つの同心円」モデルからその具体的事例を紹介し、グローバル社会における英語の役割を理解する。	① 第2回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第3回	オンデマンド	英語からみる世界② 担当者：ジョナサン・ミルズ ・英語圏における英語の事情：英語の歴史、語彙と発音の特徴、現代の英語圏におけるバリエーション等を理解する。	① 第3回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第4回	オンデマンド	英語からみる世界③ 担当者：ジョナサン・ミルズ ・英語圏以外の英語の事情：英語が他の言語と共存するインドやフィリピン等の英語の事情、日本における英語の使い方と必要性について考える。	① 第4回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第5回	オンデマンド	英語からみる世界④ 担当者：ジョナサン・ミルズ ・総括。第2～4回の内容を振り返り、理解を深める。	第5回授業 英語からみる世界④（第2回～第4回）の復習並びに確認テストの回答（4時間）	4時間
第6回	オンデマンド	コミュニケーションからみる世界① 担当者：赤城永里子 言語の獲得と言語を用いたコミュニケーションに必要な能力を理解する ・どのように言語（母語）を獲得しているのか 変形成文法理論と認知言語学（言語獲得の一理論） 言語相対性仮説（言語と思考が繋がっていることを理解する） ・コミュニケーションに関わる能力 言語能力・言語	① 第6回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次回の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間

		文法能力、社会言語能力、談話能力、ストラテジー能力		
第7回	オンデマンド	コミュニケーションからみる世界② 担当者：赤城永里子 言語・文化間の相違性と普遍性 1 ・言語の形式上の違い（日、英、+留学生の言語） ・言語の表現上の違い（日、英、+留学生の言語） 言語行動・非言語行動の違い ・コミュニケーションスタイルの違い（日・英+留学生の文化）	① 第7回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第8回	オンデマンド	コミュニケーションからみる世界③ 担当者：赤城永里子 言語・文化間の相違性と普遍性 3 ・ボライトネス（コミュニケーションにおける対人配慮） 言語・文化・アイデンティティ（言語と文化、言語とアイデンティティのつながりを知る） ・文化的自己とアイデンティティ ・言語とアイデンティティ コミュニケーション調整理論とコードスイッチング（異言語状況でいかにコミュニケーションを調整するか、言語選択をしているかを理解する）	① 第8回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第9回	オンデマンド	コミュニケーションからみる世界④ 担当者：赤城永里子 ・総括。第6～9回の内容を振り返り、理解を深める。	第9回授業 コミュニケーションからみる世界④（第6～9回）の復習並びに確認テストの回答（4時間）	4時間
第10回	オンデマンド	社会/文化からみる世界① 担当者：本多善 世界の民族・文化・宗教の基本を理解する ・民族とは何か（エスニシティを理解する） ・文化とは何か（人の営みを理解する） ・宗教とは何か（世界の宗教とその分布を理解する）	① 第10回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第11回	オンデマンド	社会/文化からみる世界② 担当者：本多善 価値観・倫理観の違いから世界を理解する ・個人主義 VS 集団主義 ・性善説 VS 性悪説 ・モノクロニック VS ポリクロニック	① 第11回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第12回	オンデマンド	社会/文化からみる世界③ 担当者：本多善 グローカリゼーションから世界を考える ・グローバル・シティの機能から世界を読む（ニューヨーク・ロンドン・東京） ・グローバルとローカルの出会い（マクドナルド） フィールドから世界を知る ・英語コミュニケーションコースと海外体験 ・フィールドワークの目的と方法	① 第12回授業の復習並びに確認テストの回答（2時間） ② ラーニングポータルに提示する教材を読んで次の授業内課題を予習しアンケートに回答（2時間）	4時間
第13回	オンデマンド	社会/文化からみる世界④ 担当者：本多善	第13回授業 社会/文化からみる世界④（第10回～第12回）の復習並びに確認テストの回答（4時間）	4時間

		世界の民族・文化・宗教の基本を理解する、価値観・倫理観の違いから世界を理解する、グローカリゼーションから世界を考えるフィールドから世界を知る、の総括		
第14回	オンデマンド	3 領域から見た世界の理解 担当者：本多善 SDGs 「10. 人や国の不平等をなくすために：国内における多文化共生の課題」をテーマに英語・コミュニケーション、社会/文化の教員による授業とグループワーク	第14回授業 3 領域から見た世界の理解 の復習並び確認テストの回答（4 時間）	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでのふりかえり 担当者：本多善 「国際社会」における英語とコミュニケーションの役割を理解し、文化的差異に基づく多文化社会の理解を、①英語、②コミュニケーション、③社会/文化領域からふりかえる。英語コミュニケーションにおける、専門を修得する上での基礎となる知識のまとめをおこなう。	第15回授業 これまでのふりかえり の復習並びに確認テストの回答（4 時間）	4 時間

科目名	国際学基礎B		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	菅原 絵美		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G1		授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	法・政治、経済、経営からアジア太平洋のグローバル化を考える			
授業の目的及び概要	国際学のなかでもアジア太平洋地域のさまざまな課題を法・政治、経済、経営から考察する。具体的には、国際社会とは何か、国家、企業、個人等はどう判断・行動するかを読み解く方法（法・政治、経済、経営の理論）と基礎知識を学ぶ。その後、アジア太平洋地域の課題を、読み解く方法と基礎知識を組み合わせながら考察する。以上を通じて、アジア太平洋コースにおいて学ぶ「国際学」の視点を理解する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	「国際学基礎 A」および「国際学基礎 B」は、国際学部での多分野からなる複合的な学びを貫く「国際学」の視点（理論）を身につけることを目的としています。 ① 国際法、国際政治、国際経済、国際経営の基礎となる理論・知識を修得する。 ② アジア太平洋におけるいくつかの動向を国際政治および経済・経営の基礎知識や理論を用いて理解すること（読み解くこと）ができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の授業の振り返り（確認テストの解説及び講評を含む）			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち高砂准教授は、金融機関において営業店や外国部、審査部、経営企画等で 16 年間勤務し、銀行業務全般や国際業務（外国為替リーディング業務、外為与信審査業務、国際経営・貿易相談業務、輸出入貿易書類点検業務）、法務・市場調査・広報等の実務経験を積んできた。本科目では、国際的なマーケットの実態や外国為替相場の特性などについて、こうした実務経験を活かして解説するなど、実践的な教育を行う。			
テキスト	指定なし（事前に各回のレジュメを LP にアップ）	ISBN	N. A.	
参考書	授業のなかで適宜紹介する。	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	10		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	50		
	その他（％）	0		
	その他の内容			
この科目の受講にあたって	授業では、アジア太平洋での具体的な出来事や問題を取り上げながら、「国際社会（グローバル社会）とは何か」「グローバル化とは何か」を考えていきます。 2 年進級時にコースを選択するので、国際学基礎 A・B の視点・内容の違いを理解したうえでコース選択を行いましょう。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第1回	オンデマンド	イントロダクション（菅原絵美） 政治・経済・経営からの「国際学」とは国際社会と世界（国際社会における国、企業、個人）の動きを政治・経済・ビジネスから把握する。 アジア太平洋地域を考える：秩序形成と課題（安全保障、経済（貿易・投資）、人権保障など）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第2回	オンデマンド	国際社会の特徴と構造（菅原絵美） 政府がない「社会」のしくみ（分権的構造と規範による秩序維持）国際社会誕生の歴史（ウェストファリア体制まで）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第3回	オンデマンド	国際社会における国際法の役割①（菅原絵美） 社会における法の機能（規範的機能）：国家等の行為の規制 アジア太平洋地域における国際法の役割	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第4回	オンデマンド	国際社会における国際法の役割②（菅原絵美） 社会における法の機能（社会的機能）：国際社会の秩序維持 アジア太平洋地域における国際法の役割	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第5回	オンデマンド	国際社会の変容（国際政治の視点から）（張雪斌） ウェストファリア体制以降の国際政治史（現実） 国際政治学として変容の「何」を掴むのか（理論）	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第6回	オンデマンド	国際社会の見方（国際政治の理論）（張雪斌） リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムから世界がどう見えてくるのか。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第7回	オンデマンド	アジア太平洋地域のダイナミズム（国際政治の実践）（張雪斌） 冷戦後のアジア太平洋地域における多国間協力と大国間競争	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第8回	オンデマンド	国内総生産（GDP）と国民可処分所得（金子治平） GDPと国民可処分所得の違い、GDPと1人あたりGDPの違いを理解し、豊さを表す指標として適当なものはどれかを検討する。 また、世界諸国のGDPや1人あたりGDPを地図上で確認して、アジア太平洋地域をはじめとする先進諸国、開発途上国、後期開発途上国の格差を理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第9回	オンデマンド	経済と人口（金子治平） 人口転換理論、人口急増による貧困・飢餓問題、人口ボーナス期や人口オオナス期などを理解する。なぜサブサハラ諸国などで貧困が多いのか。また、アジア太平洋地域の将来の人口はどのように変化すると予測されているのかを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第10回	オンデマンド	食料とエネルギーの世界貿易（金子治平） 穀物、石油、および天然ガスの貿易によって、世界はどのように結びついているのかを理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間

		なぜウクライナ紛争でアフリカ諸国の飢餓の深刻化が懸念されているのか。		
第11回	オンデマンド	企業の経営とは（高砂謙二） 経営とは何か、経営の枠組み、組織における人間への対応を理解する。国際的な経営をする場合に必要なことについて理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第12回	オンデマンド	日本企業の海外展開（高砂謙二） アメリカ・日本における経営学の展開、経営学の特徴（「実践性」「学際性」、学ぶ意義「経営学の内容は身近な現象を扱う」を理解し、日本企業の海外展開の事例から理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第13回	オンデマンド	企業の社会的責任・SDGs マネジメント（高砂謙二） 企業の社会的責任等の考え方をふまえ、SDGs マネジメント（社会課題解決と経済合理性の同時実現。リスクと同時に未来の市場を創造・獲得するための機会）について理解する。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第14回	オンデマンド	アジア太平洋地域の特徴と、そこでの動きを政治、経済、ビジネスから考え、解説する（菅原絵美） 授業のまとめ	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。 事後学修としてラーニングポータルのテストを受ける。	4時間
第15回	オンデマンド	授業のふりかえり（菅原絵美） これまでの授業の振り返りを、確認テストの解説を含めて行う。	事前学修としてラーニングポータルにアップしたレジュメを読んで予習を行う。	4時間

科目名	Global Issues I		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中西 亮太		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	グローバル化が進む国際社会の諸問題を英語で理解・議論し、共存社会について考える。			
授業の目的及び概要	この授業では、グローバル化が進む社会の諸問題について、テキストやメディア情報を英語で講読することを目的としています。国連が設定し世界中が注目している持続可能な開発目標である SDGs（Sustainable Development Goals）を基軸として世界の諸課題を理解し議論することで、英語の4技能を向上させます。また、国際社会の一員としての問題意識を持ちながら諸問題を学ぶことによって、国際理解力、異文化理解力、国際感覚を養います。英語による運用能力の向上に加え、これからの共存社会を考え生き抜くための基本的な知識や背景、問題意識を身に付けることで、さまざまな問題において発展的に議論し活動できるようになり、海外におけるコミュニケーション能力が向上します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	グローバル化の進展に伴う世界情勢の変化、課題、解決策を英語で理解し、議論し、自分の考えを発信することができる。グローバルな視野を持ち、世界が抱える課題について多様な視点を学修することで、幅広い視野を持ちながら英語で世界の事象について話すことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業で行う活動や課題、および中間・最終発表について講評します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	※クラスによって使用するテキストが異なりますので、必ず第1回授業で確認してください。 ①Facing Challenges: Making SDGs Our Own, Peter J. Collins・小林めぐみ、金星堂、2025 年 ②SDGs×Discussion、吉原令子・林千代・糸井江美・岩本典子・Audrey Morrell、金星堂、2022 年	ISBN	①9784764742239 ②9784764741508	
参考書	なし	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	30		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	授業内（学期末）レポート：30％		
この科目の受講にあたって	グローバル化とは一体、何でしょうか。私たちの社会にどのような影響をもたらしているのでしょうか。国境を越えて地球規模で発生している諸問題について、情報を収集し、知識を獲得し、自分の考えをまとめることで、共存社会の中で自分はどういう行動をとればいいのかを考えていきましょう。十分に予習・復習をして授業に臨み、英語での読解、議論が自分のものになるように、積極的な取り組みを期待します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション（授業の進め方や目標、扱うトピック、成績評価の確認） ※クラスによって授業計画が異なる場合がありますので、必ず第1回授業で確認してください。	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"の語彙・読解予習	4時間
第2回	対面	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"の読解演習	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習・復習	4時間
第3回	対面	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"におけるディスカッション内容の復習 Unit 2: "The Great Outdoors"の語彙・読解予習	4時間
第4回	対面	Unit 2: "The Great Outdoors"の読解演習	Unit 2: "The Great Outdoors"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4時間
第5回	対面	Unit 2: "The Great Outdoors"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 2: "The Great Outdoors"におけるディスカッション内容の復習 中間発表に向けた予習・準備	4時間
第6回	対面	中間発表の実施および講評	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"の語彙・読解予習	4時間
第7回	対面	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"の読解演習	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4時間
第8回	対面	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"におけるディスカッション内容の復習 Unit 4: "Too Hot to Handle?"の語彙・読解予習	4時間
第9回	対面	Unit 4: "Too Hot to Handle?"の読解演習	Unit 4: "Too Hot to Handle?"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4時間
第10回	対面	Unit 4: "Too Hot to Handle?"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 4: "Too Hot to Handle?"におけるディスカッション内容の復習 Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"の語彙・読解予習	4時間
第11回	対面	Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"の読解演習	Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4時間
第12回	対面	Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"におけるディスカッション内容の復習 Unit 6: "The Sky's the Limit!"の語彙・読解予習	4時間
第13回	対面	Unit 6: "The Sky's the Limit!"の読解演習およびミニレポート作成	Unit 6: "The Sky's the Limit!"の復習 最終発表に向けた予習・準備	4時間
第14回	対面	最終発表の実施	Unit 7: "Passing with Flying Colors"の語彙・読解予習	4時間
第15回	オンデマンド	最終発表の講評 Unit 7: "Passing with Flying Colors"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 7 "Passing with Flying Colors"におけるディスカッション内容の復習 Unit 1～Unit 7で扱ったトピックの総復習	4時間

科目名	Global Issues I		開講年度	2026 年度秋学期
担当者	国兼 慶		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	グローバル化が進む国際社会の諸問題を英語で理解・議論し、共存社会について考える。			
授業の目的及び概要	この授業では、グローバル化が進む社会の諸問題について、テキストやメディア情報を英語で講読することを目的としています。国連が設定し世界中が注目している持続可能な開発目標である SDGs（Sustainable Development Goals）を基軸として世界の諸課題を理解し議論することで、英語の4技能を向上させます。また、国際社会の一員としての問題意識を持ちながら諸問題を学ぶことによって、国際理解力、異文化理解力、国際感覚を養います。英語による運用能力の向上に加え、これからの共存社会を考え生き抜くための基本的な知識や背景、問題意識を身に付けることで、さまざまな問題において発展的に議論し活動できるようになり、海外におけるコミュニケーション能力が向上します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	グローバル化の進展に伴う世界情勢の変化、課題、解決策を英語で理解し、議論し、自分の考えを発信することができる。グローバルな視野を持ち、世界が抱える課題について多様な視点を学修することで、幅広い視野を持ちながら英語で世界の事象について話すことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業で行う活動や課題、および中間・最終発表について講評します。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	※クラスによって使用するテキストが異なりますので、必ず第1回授業で確認してください。 ①Facing Challenges: Making SDGs Our Own, Peter J. Collins・小林めぐみ、金星堂、2025 年 ②SDGs×Discussion、吉原令子・林千代・糸井江美・岩本典子・Audrey Morrell、金星堂、2022 年	ISBN	①9784764742239 ②9784764741508	
参考書	なし	ISBN	0	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20		
	成果発表（口頭・実技）	30		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	30		
	その他の内容	授業内（学期末）レポート：30％		
この科目の受講にあたって	グローバル化とは一体、何でしょうか。私たちの社会にどのような影響をもたらしているのでしょうか。国境を越えて地球規模で発生している諸問題について、情報を収集し、知識を獲得し、自分の考えをまとめることで、共存社会の中で自分はどういう行動をとればいいのかを考えていきましょう。十分に予習・復習をして授業に臨み、英語での読解、議論が自分のものになるように、積極的な取り組みを期待します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション（授業の進め方や目標、扱うトピック、成績評価の確認） ※クラスによって授業計画が異なる場合がありますので、必ず第1回授業で確認してください。	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"の語彙・読解予習	4 時間
第2回	対面	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"の読解演習	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習・復習	4 時間
第3回	対面	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 1: "Just What the Doctor Ordered"におけるディスカッション内容の復習 Unit 2: "The Great Outdoors"の語彙・読解予習	4 時間
第4回	対面	Unit 2: "The Great Outdoors"の読解演習	Unit 2: "The Great Outdoors"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第5回	対面	Unit 2: "The Great Outdoors"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 2: "The Great Outdoors"におけるディスカッション内容の復習 中間発表に向けた予習・準備	4 時間
第6回	対面	中間発表の実施および講評	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"の語彙・読解予習	4 時間
第7回	対面	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"の読解演習	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第8回	対面	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 3: "Putting Out the Welcome Mat"におけるディスカッション内容の復習 Unit 4: "Too Hot to Handle?"の語彙・読解予習	4 時間
第9回	対面	Unit 4: "Too Hot to Handle?"の読解演習	Unit 4: "Too Hot to Handle?"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第10回	対面	Unit 4: "Too Hot to Handle?"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 4: "Too Hot to Handle?"におけるディスカッション内容の復習 Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"の語彙・読解予習	4 時間
第11回	対面	Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"の読解演習	Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第12回	対面	Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 5: "Keeping the Concrete Jungles Green"におけるディスカッション内容の復習 Unit 6: "The Sky's the Limit!"の語彙・読解予習	4 時間
第13回	対面	Unit 6: "The Sky's the Limit!"の読解演習およびミニレポート作成	Unit 6: "The Sky's the Limit!"の復習 最終発表に向けた予習・準備	4 時間
第14回	対面	最終発表の実施	Unit 7: "Passing with Flying Colors"の語彙・読解予習	4 時間
第15回	オンデマンド	最終発表の講評 Unit 7: "Passing with Flying Colors"の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 7 "Passing with Flying Colors"におけるディスカッション内容の復習 Unit 1～Unit 7 で扱ったトピックの総復習	4 時間

科目名	Global Issues II		開講年度	2026 年度春学期
担当者	木村 彩音		配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	2 単位
グレード	G3		授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	グローバル化が進む国際社会の諸問題を英語で理解・議論し、共存社会について考える。			
授業の目的及び概要	この授業では、グローバル化が進む社会の諸問題について、テキストやメディア情報を英語で講読することを目的としています。国連が設定し世界中が注目している持続可能な開発目標である SDGs（Sustainable Development Goals）を基軸として世界の諸課題を理解し議論することで、英語の4技能を向上させます。また、国際社会の一員としての問題意識を持ちながら諸問題を学ぶことによって、国際理解力、異文化理解力、国際感覚を養います。英語による運用能力の向上に加え、これからの共存社会を考え生き抜くための基本的な知識や背景、問題意識を身に付けることで、さまざまな問題において発展的に議論し活動できるようになり、海外におけるコミュニケーション能力が向上します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	グローバル化の進展に伴う世界情勢の変化、課題、解決策を英語で理解し、議論し、自分の考えを発信することができる。グローバルな視野を持ち、世界が抱える課題について多様な視点を学修することで、幅広い視野を持ちながら英語で世界の事象について話すことができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	授業で行う活動や課題、および中間・最終発表について講評します。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	CLIL 英語で学ぶ SDGs の基礎、笹島茂・高木由香里・工藤泰三・佐藤真久・Larry Joe・Curtis M. Revis Seubert、三修社、2022 年		ISBN	9784384335125
参考書			ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20	
	成果発表（口頭・実技）		30	
	中間試験		0	
	【定期試験】レポート試験		30	
	【定期試験】筆記試験（対面）		0	
	その他（％）		0	
	その他の内容		0	
この科目の受講にあたって	グローバル化とは一体、何でしょうか。私たちの社会にどのような影響をもたらしているのでしょうか。国境を越えて地球規模で発生している諸問題について、情報を収集し、知識を獲得し、自分の考えをまとめることで、共存社会の中で自分はどのような行動をとればいいのかを考えていきましょう。十分に予習・復習をして授業に臨み、英語での読解、議論が自分のものになるように、積極的な取り組みを期待します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション（授業の進め方や目	Unit 8: "Build sustainable cities and communit	4 時間

		標、扱うトピックの確認)	ies 災害に強くなる”の語彙・読解予習	
第2回	対面	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる”の読解演習	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる”の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習・復習	4 時間
第3回	対面	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる”の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 8: "Build sustainable cities and communities 災害に強くなる”におけるディスカッション内容の復習 Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する”の語彙・読解予習	4 時間
第4回	対面	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する”の読解演習	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する”の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第5回	対面	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する”の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 9: "Secure electricity resources 電力を確保する”におけるディスカッション内容の復習 中間発表に向けた予習・準備	4 時間
第6回	対面	中間発表の実施および講評	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る”の語彙・読解予習	4 時間
第7回	対面	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る”の読解演習	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る”の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第8回	対面	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る”の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 10: "Promote good health and well-being 健康な生活を送る”におけるディスカッション内容の復習 Unit 11: "Live in an ageing society 高齢化社会を生きる”の語彙・読解予習	4 時間
第9回	対面	Unit 11: "Live in an ageing society 高齢化社会を生きる”の読解演習	Unit 11: "Live in an ageing society 高齢化社会を生きる”の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第10回	対面	Unit 11: "Live in an ageing society 高齢化社会を生きる”の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 11: "Live in an ageing society 高齢化社会を生きる”におけるディスカッション内容の復習 Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする”の語彙・読解予習	4 時間
第11回	対面	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする”の読解演習	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする”の復習および当該トピックにおけるディスカッションに向けての予習	4 時間
第12回	対面	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする”の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 12: "Promote our decent work 豊かな働き方をする”におけるディスカッション内容の復習 Unit 13: "Live well during climate change 気候に優しい生活をする”の語彙・読解予習	4 時間
第13回	対面	Unit 13: "Live well during climate change 気候に優しい生活をする”の読解演習およびディスカッション	Unit 13: "Live well during climate change 気候に優しい生活をする”の復習 最終発表に向けた予習・準備	4 時間
第14回	対面	最終発表の実施	Unit 14: "End child labour 児童労働をやめる”の語彙・読解予習	4 時間
第15回	オンデマンド	最終発表の講評 Unit 14: "End child labour 児童労働をやめる”の読解演習および当該トピックにおけるディスカッション	Unit 14: "End child labour 児童労働をやめる”におけるディスカッション内容の復習 Unit 8～Unit 14 で扱ったトピックの総復習	4 時間

科目名	韓国社会論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	徐 潤雅	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	韓国の社会・文化への理解を深め、国際交流の素養を培う。		
授業の目的及び概要	この授業では、韓国現代史における社会や文化の変遷について幅広く学ぶ。具体的には、韓国における反共主義、経済発展の過程、ジェンダーやセクシュアリティの問題、市民運動の歴史、美術史などのテーマを取り上げ、それぞれの社会現象や文化的産物の特徴、人々の経験を韓国現代史の文脈と関連付けながら考察する。 また、マクロな視点の講義内容を補い、韓国現代史を生きた人々のミクロな生き様を感じてもらうために、関連する小説・映画・ドラマ・漫画・書籍・ドキュメンタリーなどを紹介する。各授業では、O/X クイズ、学生自身の経験や視点を述べる討論（グループワーク）、コメントペーパーの作成などを必要に応じて取り入れる。		
履修条件・留意点	毎回の授業に、積極的に参加してください。 授業では、ワークシート、グループワーク、クイズ、コメントシートの作成、発表やディスカッションなどを行います。これらの活動への参加や提出物をもとに、授業への参加度を評価します。授業内のクイズも成績に反映されます。 学生証を通して出席が記録されていても、授業中の活動（ワークシート、グループワーク、クイズ、コメントシート等）への参加や提出が確認できない場合は、「授業への参加度・取り組み」として評価することができません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 韓国現代史における社会や文化の変遷を理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 韓国と自国／母国の社会や文化を比較し、批判的に考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	皆さんが提出したコメントペーパーやワークシートへのコメント、授業前後の質問対応を通じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。	ISBN	—
参考書	授業中に適宜紹介する。	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	●対面授業を 14 回実施します（第 15 回の授業はオンデマンドで実施します）。 【成績評価の方法・基準の詳細】 ● 「授業への積極的な参加度・取り組み（50%）」は、授業での参加態度、コメントペーパーやワークシートの作成・提出をもとに評価します。毎回 50 点満点で採点し、その平均点（15 回分）を成績に反映します。 （※ 一度欠席すると、その回の点数は 0 点となりますのでご注意ください。やむを得ない事情		

	で欠席する場合は、事前にご連絡ください。） ●「授業期間中の小テスト、レポート課題等（20%）」には、授業内で行う Quiz などが含まれます。詳細は授業で説明します。 ●「定期試験：レポート（30%）」は、授業中に紹介した作品から作品を選び（作品リストを配布）、レポート（感想文）を作成するものです。レポートの作成方法については、授業中に案内します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	オリエンテーション ・【活動：自己紹介】 ・授業概要の説明と目的意識のすり合わせ ・成績評価の方法と注意事項の説明、学習方法の説明 ・【活動：アンケート】私が気になる韓国社会と文化 ・Q&A	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習。ファイリング。	2 時間
第2回	対面	「自由」は誰のためのものだったのか？：反共主義から太陽政策まで、分断国家・韓国の選択 1	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第3回	対面	「自由」は誰のためのものだったのか？：反共主義から太陽政策まで、分断国家・韓国の選択 2	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第4回	対面	開発独裁と財閥は、韓国社会に何をもたらしたのか：経済発展の光と影 1	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第5回	対面	開発独裁と財閥は、韓国社会に何をもたらしたのか：経済発展の光と影 2	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第6回	対面	韓国の市民運動はどのように形成されてきたのか：4・19 からロウソクデモまで 1	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第7回	対面	韓国の市民運動はどのように形成されてきたのか：4・19 からロウソクデモまで 2	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第8回	対面	ジェンダーの視点から見ると、韓国社会はどう見えるのか：「女性」として生きる経験	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第9回	対面	ジェンダーの視点から見ると、韓国社会はどう見えるのか：「男性」として生きる経験	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間

			理してみる。	
第10回	対面	ジェンダーの視点から見ると、韓国社会はどう見えるのか：「LGBTQ+」として生きる経験	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第11回	対面	韓国近代美術は、どのような社会の変化の中で生まれたのか：植民地期までを手がかりに	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第12回	対面	解放後の混乱と分断は、美術にどのように表れたのか：解放後から1960年代まで	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第13回	対面	1970年代以降、韓国美術はどのように社会と向き合ってきたのか：モノクローム・アートからフェミニズム・アートまで	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第14回	対面	日本社会は、朝鮮・韓国とどのように向き合ってきたのか：交流・支配・共生の歴史をたどる	【予習】授業資料欄にアップロードされた資料に目を通し、分からない点を確認しておく。 【復習】配布資料やノートを使って復習する。分からなかった点が解消されたか確認し、自分の言葉で整理してみる。	4 時間
第15回	オンデマンド	講義のまとめ、レポートの作成方法 ※動画の内容に対する理解度チェックを行います。	これまでの配布資料やノートを使って復習する。関心のあるテーマに関連する作品を読んだり視聴したりする。レポートの作成に取り掛かる。	6 時間

科目名	比較経済論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	池上 寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	韓国およびマレーシアの歴史、社会、政治、経済を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業では、2026 年夏休み期間中に実施予定のフィールド・プロジェクト対象国である韓国とマレーシアを取り上げ、両国の歴史、政治、経済、社会について総合的な学習を行います。講義では受講生によるグループワークや発表なども積極的に取り組む予定です。なお、現時点では韓国とマレーシアについてそれぞれ 6 回取り上げる予定ですが、対象国が追加された場合には、取り上げる回数を調整します。		
履修条件・留意点	この授業は 2026 年夏休みのフィールド・プロジェクト対象国に焦点を当てますが、このプロジェクトに参加予定の学生だけではなく、すでにフィールド・プロジェクトに参加した学生、また韓国とマレーシアに興味がある学生も受講できます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	フィールド・プロジェクト対象国である韓国とマレーシアに対する興味を持つことで、両国に対する基礎知識の習得することができます。また、異文化や多文化共生社会への理解、地域研究を知ることができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内での教員と学生によるディスカッション、およびコメントシートの提出によって、フィードバックを行います。なお、コメントシートに書かれている内容については、原則次回授業でフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）で 20 年以上に渡って業務に従事しており、在台北海外派遣員、産業研究グループ長代理、開発研究センター経済統合研究グループ長代理などを歴任している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	韓国、マレーシアに関する書籍は多く出版されている。必要に応じて適宜紹介するが、韓国とマレーシアに関してそれぞれ 2 冊ずつ挙げる。 （韓国） 現代韓国を知るための 60 章【第 2 版】、石坂浩一・福島みのり編、明石書店、2014 年 韓国学ハンマダン、緒方義広・古橋綾、岩波書店、2022 年 （マレーシア） マレーシアに学ぶ経済発展戦略：「中所得国の罠」を克服するヒント、熊谷聡・中村正志、作品社、2023 年 マレーシアを知るための 58 章、鳥居高編、明石書店、2023 年 ジェットロ・アジア経済研究所編刊『アジア動向年報』（各年版）は以下のサイトに創刊（1970 年）以来の全文が公開されている。韓国およびマレーシアの部分をダウンロードしてチェックしてもらいたい。 https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Doko.html	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	40
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（％）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	地域研究の第一歩は対象とする国・地域への興味が必要です。国際学部では 2025 年夏休みに韓国とマレーシアにフィールド・プロジェクトを行う予定です。フィールド・プロジェクトに行く前に対象国について知っておくことは必要なことです。意欲をもって出席してください。 この科目では、積極的な授業態度と学期末のレポートで成績を出します。 学期末のレポートは、授業を通じて韓国またはマレーシアの政治、経済、社会、文化のいずれかに興味を持ったこと、フィールド・プロジェクトで調べたいこと（わかったこと）などを 4000 字程度書いて提出してもらいます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス、授業の進め方について	【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第2回	対面	フィールドワークとは何か	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第3回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（1）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第4回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（2）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第5回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（3）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第6回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（4）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第7回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（5）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第8回	対面	韓国の歴史・政治・経済・社会（5）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4 時間
第9回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会（1）	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。	4 時間

			【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	
第10回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会(2)	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4時間
第11回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会(3)	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4時間
第12回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会(4)	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4時間
第13回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会(5)	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4時間
第14回	対面	マレーシアの歴史・政治・経済・社会(6)	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4時間
第15回	オンデマンド	本講義のまとめ	【予習】事前にシラバスの内容を確認し、授業の概要を把握すること。疑問があれば、講義の際に質問すること。 【復習】授業終了後、配布資料やノートを使って復習を実施すること。	4時間

科目名	経営戦略論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田 真也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	実在する企業活動の事例を取り上げながら、組織の環境適応と経営戦略について学修します。 経営学領域の専門科目にステップアップするための内容を学修します。		
授業の目的及び概要	企業は常に変化する事業環境に対して適切に対応していくことができれば維持・存続することができません。 本講義では、経営戦略の基礎的な概念や理論を学修し、環境・戦略・組織・管理を総合的にとらえながら経営戦略について学修します。 それによって、企業行動の理解とその改善に役立てることを目的とします。		
履修条件・留意点	この授業科目は、専門発展科目です。 国際的な視点で経営戦略について学修したい学生の履修を推奨します。 また、ご自身で予め経営管理論や経営組織論などの基礎知識を習得することをおすすめします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 経営戦略に関する基礎的な概念と理論を用いて専門的に説明できる。 ・ 企業の多様な戦略行動の是非を判断し、改善の提案ができる。 ・ 戦略行動と環境動向・組織構造・経営管理との関係を分析できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業冒頭で前回の授業の振り返りを行います。 コメントシートや理解度テスト等については、適宜、授業内で解説しフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストは使用しません。 本講義は、配布資料をもとに講義を行います。	ISBN	.
参考書	①経営学入門キーコンセプト、井原久光編著、ミネルヴァ書房、2013 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	60	
	その他（％）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	経営戦略は、企業行動を説明する上で最も重要な要因です。経営者が策定する経営戦略によって企業生存の成否が決まると言っても過言ではないためです。 経営戦略は、環境変化（外部要因）と自社の組織能力（内部要因）の双方をどのように認知し、解釈・判断するかという能力が求められます。 そのため、組織の外部要因と内部要因への十分な理解・洞察力が必要になります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	「ガイダンス」 本講義の目的・目標、授業の進め方、成績	（事前学修） 本講義のシラバスを読み込み、受講するにあたって	4 時間

		評価などについて、授業計画をもとに説明します。 「経営学の位置づけ」「経営学と経済学の違い」「企業活動の循環」について学修します。	のポイントについて確認しておいて下さい。 また、ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第2回	対面	「株式会社の仕組み」「所有と経営の分離」「ステークホルダー」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第3回	対面	「経営戦略とは」「経営管理論と経営戦略論」「経営理念と企業目標」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第4回	対面	「ビジョンとミッション」「企業戦略と事業戦略」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第5回	対面	「ドメインの定義」「PPM」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第6回	対面	「産業組織論とポーター理論」「ファイブ・フォース分析」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第7回	対面	「第1回～第6回の学修内容の再確認」 第1回～第6回までの学修内容を再確認するとともに、実社会に実在する企業の取り組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) 第1回～第6回までの配布資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第8回	対面	「基本戦略」「バリュー・チェーン」「VRIO」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第9回	対面	「市場地位別の競争戦略」「製品・市場マトリクス」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

			料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	
第10回	対面	「SWOT分析」「経験曲線」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第11回	対面	「規模の経済」「範囲の経済」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第12回	対面	「ネットワーク外部性」「3つの経済性」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第13回	対面	「M&Aとアライアンス」について学修します。	(事前学修) ラーニングポータルにアップされている該当回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第14回	対面	「第8回～第13回の学修内容の再確認」 第8回～第13回までの学修内容を再確認するとともに、実社会に実在する企業の取組み事例等を取り上げながら、これまで学修してきた理論について復習します。	(事前学修) 第8回～第13回までの配布資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間
第15回	オンデマンド	「全体のまとめ」 これまでの学修内容について振り返るとともに、改めて重要なポイントについて確認します。	(事前学修) すべての回の資料を一読し、関心事項や質問事項を整理するなど、予習して下さい。 (事後学修) 配布資料の自筆(赤字)部分を中心に、改めてポイントになる点について復習して下さい。	4 時間

科目名	経営情報論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	呉原 志賢	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	企業経営における情報システムの役割とその活用方法を学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業は、情報の基本的概念から始まり、情報技術や情報システムの発展の歴史とこれからの展望、実際の企業経営で用いられている事例（経営情報システムの設計・開発、経営情報システムの管理、情報セキュリティとシステム監査、プロセス革新と企業戦略等）等を学ぶ。情報システムの企業経営における位置づけや、情報技術とコンピュータがどのように企業経営に生かされ、その安定化と企業競争力の強化・発展に役立っているかを理解することを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	授業では以下の到達目標を掲げる。 ① 経営情報に関する基本的な知識を備えている。 ② 企業における ICT（情報通信技術）活用の基本的な考え方を理解している。 ③ 企業において情報システムをどのように活用すれば有効かを考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業において課したレポート等について解説する。		
アクティブ・ラーニング の取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	現代経営情報論, 遠山 暁, 村田 潔, 古賀 広志, 有斐閣, 2021	ISBN	978-4641221789
参考書	－	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	－	
この科目の受講にあたって	大学での学修では、授業への参加だけでなく、関心をもった事柄について自ら情報を集めて思考を深める主体性が重要です。受講者の皆さんが本科目の履修を通じて、本科目で学んだ内容をテキスト以外の企業活動の事例の考察に応用したり、より専門的な内容について読書を行うなど、主体的な学修へ足を踏み出してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	オンデマンド	講義に関するガイダンスと企業経営における情報システムについて説明する。	授業で配布した企業経営における情報システムに関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第2回	オンデマンド	情報社会とネットワーク革命を中心に、経営情報の基礎を学ぶ。	授業で配布した経営情報の基礎に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間

第3回	オンデマンド	経営資源としての情報がどのように位置付けられ、組織の中でどのように活用されるかを考える。	授業で配布した経営資源としての情報に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第4回	オンデマンド	経営組織と情報処理に関して、組織における意思決定と情報の関係について考える。	授業で配布した経営組織と情報処理に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第5回	オンデマンド	経営戦略のなかで情報がどのように活用されるかを考える。	授業で配布した経営戦略における情報活用に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第6回	オンデマンド	意思決定支援や戦略策定、ビジネスプロセスを再構築する上で、情報システムがどのように用いられたか、その変遷をたどる。	授業で配布したビジネスプロセスの再構築に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第7回	オンデマンド	汎用コンピュータやパーソナルコンピュータの歴史等を振り返る。	授業で配布したコンピュータの歴史に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第8回	オンデマンド	データベースの発展と今後期待される技術を紹介する。	授業で配布したデータベースに関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第9回	オンデマンド	ネットワーク技術とそれをめぐる新たな展開を追う。	授業で配布したネットワーク技術に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第10回	オンデマンド	経営情報システムの設計・開発についての基本的な考え方を学ぶ。	授業で配布した経営情報システムの設計・開発に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第11回	オンデマンド	スパイラルモデル等、現代の情報システム開発の方法論を説明する。	授業で配布した現代の情報システム開発の方法論に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第12回	オンデマンド	情報化推進の組織体制や情報化投資の評価について考える。	授業で配布した情報化推進の組織体制に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第13回	オンデマンド	企業経営における情報セキュリティの運用とシステム監査の方法について学ぶ。	授業で配布した情報セキュリティに関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第14回	オンデマンド	現代の企業の競争環境とプロセスの戦略的重要性、ビジネスのパラダイムシフトについて考える。	授業で配布したビジネスのパラダイムシフトに関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間
第15回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	授業で配布した授業全体の総括に関するレジュメを読み予習・復習しておくこと	4 時間

科目名	流通システム論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	二替 大輔	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	流通の存在意義について理解し、企業の流通戦略を理論的に検討する。		
授業の目的及び概要	本講義では、流通の存在根拠を理解し、企業の流通戦略を理論的に検討することを目的とします。具体的には、流通の構造、流通の登場人物間の関係および流通の経済理論を用いた分析手法について学習していきます。講義では、流通に関する基本的な事項、卸売業、小売業の構造、流通現象を経済学的に考えるための基礎知識を解説します。そして、流通に関わる卸売業者や小売業者の戦略、および流通現象の経済学的評価方法について検討していきます。また、講義内容の理解を深めるために問題演習を実施します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	流通の存在根拠を理解し、説明することができる。 生産者、卸売業者、小売業者の関係性について理解し、説明することができる。 現実に見られる流通に関わる企業の行動について、理論的に説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	問題演習については、採点した上で返却します 期末試験については、UNIVERSAL PASSPORT で解答・解説を公開します。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	はじめての流通 新版, 崔容熏・原頼利・東伸一, 有斐閣, 2022 年	ISBN	9784641151031
参考書	①1 からの流通論（第 2 版）, 石原武政・竹村正明・細井謙一（編著）, 2018 年 ②現代商業学 新版, 高嶋克義, 2012 年	ISBN	0
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	70	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	新聞等で流通に関する記事について関心を持ってください。講義内容の理解が進みます。 また、この講義を学ぶことで、様々な流通に関わる現象を理論的に考えられるようになります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	流通とはなにか：流通の定義と流通を学ぶ必要性について理解する。	【予習】：テキスト第 0 章を読んで商業の基本的な内容について予習すること 【復習】：授業で配布した資料とテキスト第 0 章を読み直し授業内容の復習をすること	4 時間

第2回	対面	流通の役割:流通の登場人物と存在意義について理解する。	【予習】:テキスト第1章を読んで流通の基礎について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第1章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第3回	対面	小売業の役割:小売業の社会的役割について理解する。	【予習】:テキスト第2章を読んで小売業の特徴について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第2章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第4回	対面	商品を買う場の形(1):様々な小売店舗の形態について理解する。	【予習】:テキスト第3章第1節から第3節を読んで小売店舗の形態について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第3章第1節から第3節を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第5回	対面	商品を買う場の形(2):代表的な小売店舗の形態及び小売店舗形態発展論について理解する。	【予習】:テキスト第3章第4節を読んで代表的な小売店舗の形態及び小売店舗形態発展論について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第3章第4節を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第6回	対面	プライベート・ブランド(PB)の展開:小売業者のPBの開発の目的とその条件について理解する。	【予習】:テキスト第4章を読んでPBの仕組みについて予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第4章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第7回	対面	卸売業の役割:卸売業者の役割について理解する。	【予習】:テキスト第5章を読んで卸売業者の役割について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第5章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第8回	対面	マーケティング・チャネルの役割:流通における生産者(メーカー)の行動について理解する。	【予習】:テキスト第6章を読んでマーケティング・チャネルについて予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第6章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第9回	対面	情報技術の発達と流通:流通における情報技術の影響について理解する。	【予習】:テキスト第7章を読んで流通と情報技術の関係について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第7章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第10回	対面	物流の役割:流通過程における商品の流れ(物流)の流通過程に与える影響を理解する。	【予習】:テキスト第8章を読んで物流管理について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第8章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第11回	対面	グローバル流通:流通における国際化の問題について理解する。	【予習】:テキスト第9章を読んで流通における国際化について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第9章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第12回	対面	サービス財の流通:無形の商品(サービス財)に流通について理解する。	【予習】:テキスト第10章を読んでサービス財について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第10章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第13回	対面	産業財の流通:企業や組織向けに販売される商品(産業財)の流通について理解する。	【予習】:テキスト第11章を読んで産業財について予習すること 【復習】:授業で配布した資料とテキスト第11章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第14回	対面	流通政策とまちづくり:流通の社会的役割と流通政策について理解する。	【予習】:テキスト第12章を読んで流通の社会的役割と流通政策について予習すること 【復習】:テキスト第12章を読み直し授業内容の復習をすること	4時間
第15回	オンデマンド	講義内容のまとめ:講義全体のまとめを行う。	【予習】:テキスト第1章~第12章および配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておくこと 【復習】:授業で配布した資料を使って、後半の内容	4時間

2026/05/01

		を復習すること	

科目名	インターンシップ I		開講年度	2026 年度春学期
担当者	前鶴 政和		配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html		単位数	1 単位
グレード	G2		授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目			
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。			
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（8・9月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、1 週間（実働5日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。			
履修条件・留意点				
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html			
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	企業担当者によって、実習中に作成する日誌へのコメントや口頭で行われる。			
アクティブ・ラーニング の取組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。	
参考書		ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	—		
	成果発表（口頭・実技）	50		
	中間試験	—		
	【定期試験】レポート試験	—		
	【定期試験】筆記試験（対面）	—		
	その他（％）	—		
	その他の内容	—		
この科目の受講にあたって	<重要>この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	1 時間

第2回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての素養・マナー・コミュニケーションスキルについて確認しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第3回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第4回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第5回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第6回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第7回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第8回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間

科目名	インターンシップⅡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	前鶴 政和	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	国際学部専門教育科目		
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。		
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（8・9月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、1 週間（実働5日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（DP）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	企業担当者によって、実習中に作成する日誌へのコメントや口頭で行われる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	—	
	成果発表（口頭・実技）	50	
	中間試験	—	
	【定期試験】レポート試験	—	
	【定期試験】筆記試験（対面）	—	
	その他（％）	—	
	その他の内容	—	
この科目の受講にあたって	<重要>この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	1 時間

第2回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての素養・マナー・コミュニケーションスキルについて確認しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第3回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第4回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第5回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第6回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第7回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に付け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第8回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間